兵庫県文化財調査報告　第171冊

神戸市西区

神出窯跡群

— 神出浄水場拡張工事に伴う埋蔵文化財調査報告書 —

平成10年３月

兵庫県教育委員会

神戸市西区

神出窯跡群

— 神出浄水場拡張工事に伴う埋蔵文化財調査報告書 —

例　　言

1．本書は、神戸市西区神出町南字垣内・大西に所在する神出窯跡群の発掘調査報告書である。

2．発掘調査は、神出浄水場拡張事業に先立つもので、兵庫県企業庁の委託を受け、兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所が平成５～７年度に確認調査、平成６年度に全面調査を実施した。なお、全面調査については、（株）安西工業に作業委託を行った。

3．整理作業は、平成７～９年度に兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所が同事務所および魚住分館にて実施した。なお、遺物写真については㈱衣川に委託した。

4．遺構図に示した方位は磁北を指している。

5．標高は東京湾平均海水準を基準とした。

6．本書の執筆は久保弘幸、池田征弘、岡本一秀が行い、編集は池田が行った。

7．本書にかかる遺物・図面・写真は兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所魚住分館（明石市魚住町清水）に保管する。

8．発掘調査および報告書作成にあたり、以下の方々の御援助・御指導・御教示を頂いた。記して深く感謝の意を表するものである。
神出地区土地改良組合、池本　正明、井上　智代、荻野　繁春、小野木　学、神崎　勝、
後藤　健一、佐藤　公保、鈴木　久男、丹治　康明、菱田　哲郎、藤原　学、真野　修、
前田　義明、丸山　潔、森田　稔、吉村　正親

凡　　例

1．遺構については、掘立柱建物跡をＳＢ、溝をＳＤ、柱穴をＰと略称している。
2．窯体平面図、断面図中において、還元層を白抜き（層位名のない部分）、黄化層を薄いトーン、赤化層を濃いトーンで表現している.
3．遺物の実測図については須恵器の断面を黒塗り、土師器、瓦、石製品の断面を白抜きにし、陶磁器の断面にトーンをかけている。

本文目次

第１章　調査の経緯

第１節　調査に至る経緯……（久保弘幸）……1

第２節　確認調査の方法と経過……（池田征弘）……1

第３節　全面調査の方法と経過……（岡本一秀）……2

第４節　整理作業の方法と経過……（池田）……3

第２章　遺跡の位置と環境

第１節　地理的環境……（岡本）……5

第２節　歴史的環境……（岡本）……5

第３節　神出窯跡群の分布……（池田）……9

第３章　遺構

第１節　遺構の概要……（岡本）……15

第２節　遺構各説

（１）１号窯……（池田）……15

（２）２号窯……（岡本）……16

（３）３号窯……（池田）……17

（４）４号窯……（池田）……18

（５）５号窯……（池田）……18

（６）６号窯……（岡本）……19

（７）７号窯……（岡本）……20

（８）８号窯……（池田）……21

（９）ＳＢ０１……（久保）……22

(10) ロクロピット……（久保）……22

(11) ＳＤ０１……（久保）……22

(12) 灰原……（池田）……23

第４章　遺物について

第１節　須恵器……（池田）……24

第２節　その他の土器……（池田）……40

第３節　瓦……（池田）……41

第５章　まとめ

第１節　遺物に関するまとめ……（池田）……55

第２節　遺構に関するまとめ……（池田）……64

遺物一覧表……（池田・岡本）……71

挿図目次

第１図　遺跡の位置 …… 1
第２図　周辺遺跡分布図 …… 6
第３図　関連する窯跡位置図 …… 10
第４図　窯跡分布図 …… 13
第５図　須恵器器形分類図 …… 26
第６図　窯体出土遺物グラフ１ …… 31
第７図　窯体出土遺物グラフ２ …… 32
第８図　灰原出土遺物グラフ１ …… 33
第９図　灰原出土遺物グラフ２ …… 34
第10図　灰原出土遺物グラフ３ …… 35
第11図　軒丸瓦型式一覧 …… 42
第12図　軒平瓦型式一覧 …… 43
第13図　土器編年図１ …… 56
第14図　土器編年図２ …… 57
第15図　土器編年図３ …… 58
第16図　軒瓦編年図 …… 60
第17図　土器構成グラフ …… 63
第18図　遺構変遷図 …… 65
第19図　窯体変遷図 …… 67

表 目 次

第１表　調査一覧 …… 2
第２表　周辺遺跡地名表 …… 7
第３表　窯跡一覧表 …… 12
第４表　窯体一覧表 …… 21
第５表　器種別出土数量一覧表１ …… 36
第６表　器種別出土数量一覧表２ …… 37
第７表　鉢口縁部形態別出土数量一覧表１ …… 38
第８表　鉢口縁部形態別出土数量一覧表２ …… 39
第９表　瓦出土数量一覧表１ …… 53
第10表　瓦出土数量一覧表２ …… 54
第11表　出土軒瓦同笵関係一覧 …… 61

図版目次

図版１　調査区配置図
図版２　遺構配置図
図版３　灰原地区割図
図版４　調査後地形測量図
図版５　１・７号窯地形測量図
図版６　１号窯第４床面平面図
図版７　１号窯第２床面遺物出土状況図
図版８　１号窯第２床面平面図
図版９　１号窯断面図
図版10　１号窯杭跡位置図
図版11　２・６号窯地形測量図
図版12　２号窯遺物出土状況図
図版13　２号窯平面図・縦断面図
図版14　２号窯横断面図
図版15　２号窯杭跡位置図
図版16　３号窯地形測量図
図版17　３号窯遺物出土状況図
図版18　３号窯平面図
図版19　３号窯断面図
図版20　３号窯杭跡位置図
図版21　４号窯地形測量図
図版22　４号窯平面図・断面図
図版23　４号窯杭跡位置図
図版24　５号窯地形測量図
図版25　５号窯平面図・縦断面図
図版26　５号窯横断面図
図版27　５号窯杭跡位置図
図版28　６号窯構築材出土状況図
図版29　６号窯床面遺物出土状況図・断面図
図版30　７号窯遺物出土状況図・横断面図
図版31　７号窯平面図・縦断面図
図版32　７号窯瓦敷出土状況図
図版33　８号窯平面図・断面図
図版34　ＳＢ０１平面図・断面図
図版35　ロクロピット平面図・断面図
図版36　ＳＤ０１・ＳＤ０１北側土器群平面図・断面図
図版37　サブトレンチ１・２断面図
図版38　サブトレンチ３・９断面図
図版39　サブトレンチ５～８・10～13断面図
図版40　苅屋谷池支群地形測量図・窯体平面図
図版41　１号窯出土須恵器（１）
図版42　１号窯出土須恵器（２）
図版43　１号窯出土須恵器（３）
図版44　１号窯出土須恵器（４）
図版45　１号窯出土須恵器（５）
図版46　１号窯出土須恵器（６）、２号窯出土須恵器（１）
図版47　２号窯出土須恵器（２）
図版48　３号窯出土須恵器（１）
図版49　３号窯出土須恵器（２）
図版50　３号窯出土須恵器（３）、４号窯出土須恵器
図版51　５号窯出土須恵器（１）
図版52　５号窯出土須恵器（２）
図版53　５号窯出土須恵器（３）
図版54　６号窯出土須恵器・土師器
図版55　７号窯出土須恵器（１）
図版56　７号窯出土須恵器（２）
図版57　ＳＤ０１出土須恵器・土師器（１）
図版58　ＳＤ０１出土須恵器・土師器（２）
図版59　ＳＤ０１出土須恵器・土師器（３）
図版60　灰原Ａ・Ｂ出土須恵器鉢・碗・小皿
図版61　灰原Ｃ出土須恵器鉢・碗・小皿
図版62　灰原Ｅ出土須恵器鉢・碗・小皿、灰原Ｄ出土須恵器鉢・碗・小皿（１）
図版63　灰原Ｄ出土須恵器鉢・碗・小皿（２）
図版64　灰原Ｄ出土須恵器鉢・碗・小皿（３）
図版65　灰原Ｄ出土須恵器鉢・碗・小皿（４）
図版66　灰原Ｄ出土須恵器鉢・碗・小皿（４）
図版67　灰原Ｆ出土須恵器鉢・碗・小皿
図版68　灰原Ｇ・Ｉ出土須恵器鉢・碗・小皿
図版69　灰原Ｈ出土須恵器鉢・碗・小皿、灰原Ｊ出土須恵器鉢・碗・小皿（１）
図版70　灰原Ｊ出土須恵器鉢・碗・小皿（２）
図版71　灰原Ｋ出土須恵器鉢・碗・小皿
図版72　灰原Ｍ・Ｌ出土須恵器鉢・碗・小皿
図版73　灰原Ｎ出土須恵器鉢・碗・小皿（１）
図版74　灰原Ｎ出土須恵器鉢・碗・小皿（２）灰原Ｏ出土須恵器鉢・碗・小皿
図版75　灰原Ｐ出土須恵器鉢・碗・小皿灰原Ｑ出土須恵器鉢・碗・小皿（１）
図版76　灰原Ｑ出土須恵器鉢・碗・小皿（２）
図版77　灰原Ｑ出土須恵器鉢・碗・小皿（３）
図版78　灰原Ａ～Ｆ出土須恵器甕
図版79　灰原Ｇ～Ｉ出土須恵器甕
図版80　灰原Ｊ出土須恵器甕、灰原Ｋ出土須恵器甕（１）

図版81　灰原Ｋ出土須恵器甕（２）
　　灰原Ｍ・Ｎ出土須恵器甕
図版82　灰原Ｏ出土須恵器甕
　　灰原Ｐ出土須恵器甕（１）
図版83　灰原Ｐ出土須恵器甕（２）
図版84　灰原Ｐ出土須恵器甕（３）
　　灰原Ｑ出土須恵器甕（１）
図版85　灰原Ｑ出土須恵器甕（２）
図版86　灰原Ｑ出土須恵器甕（３）
図版87　灰原Ｑ出土須恵器甕（４）
　　灰原Ｓ出土須恵器甕
図版88　灰原出土須恵器壺（１）
図版89　灰原出土須恵器壺（２）
図版90　灰原出土須恵器経筒
図版91　灰原出土須恵器その他
図版92　灰原出土土師器・陶磁器・石製品
図版93　須恵器底部拓本（１）
図版94　須恵器底部拓本（２）
図版95　須恵器甕タタキ拓本
図版96　軒丸瓦（１）
図版97　軒丸瓦（２）
図版98　軒丸瓦（３）
図版99　軒丸瓦（４）
図版100 軒丸瓦（５）
図版101 軒丸瓦（６）
図版102 軒丸瓦（７）
図版103 軒平瓦（１）
図版104 軒平瓦（２）
図版105 軒平瓦（３）
図版106 軒平瓦（４）
図版107 軒平瓦（５）
図版108 軒平瓦（６）
図版109 丸瓦（１）
図版110 丸瓦（２）
図版111 丸瓦（３）
図版112 丸瓦（４）
図版113 丸瓦（５）
図版114 丸瓦（６）
図版115 丸瓦（７）
図版116 丸瓦（８）
図版117 丸瓦（９）
図版118 丸瓦（10）
図版119 丸瓦（11）
図版120 丸瓦（12）
図版121 丸瓦（13）
図版122 丸瓦（14）
図版123 丸瓦（15）
図版124 丸瓦（16）
図版125 丸瓦（17）
図版126 平瓦（１）
図版127 平瓦（２）
図版128 平瓦（３）
図版129 平瓦（４）
図版130 平瓦（５）
図版131 平瓦（６）
図版132 平瓦（７）
図版133 平瓦（８）
図版134 平瓦（９）
図版135 平瓦（10）
図版136 平瓦（11）
図版137 平瓦（12）
図版138 平瓦（13）
図版139 平瓦（14）
図版140 平瓦（15）
図版141 平瓦（16）、鬼瓦
図版142 道具瓦（１）
図版143 道具瓦（２）
図版144 苅屋谷池小支群採集須恵器（１）
図版145 苅屋谷池小支群採集須恵器（２）

写真図版目次

写真図版１　１．遠景（南から、航空写真）
　　２．全景（南から、航空写真）
写真図版２　　全景（航空写真）
写真図版３　１．調査前の状況（西から）
　　２．調査前の状況（南から）
　　３．灰原検出状況（北から）
写真図版４　１．灰原検出状況（南から）
　　２．灰原検出状況（南から）
　　３．１・７号窯全景（東から）
写真図版５　１．１号窯第４床面全景（東から）

2．１号窯第２床面埋土断面（東から）
3．１号窯第２床面遺物出土状況（東から）
写真図版６　1．１号窯第２床面遺物出土状況（東から）
2．１号窯第２床面全景（東から）
3．１号窯断面（東から）
写真図版７　1．１号窯杭跡検出状況（東から）
2．１号窯北側溝検出状況（東から）
3．１号窯北側溝遺物、焼土塊出土状況（東から）
写真図版８　1．２号窯埋土断面（東から）
2．２号窯床面遺物出土状況（東から）
3．２号窯全景（東から）
写真図版９　1．２号窯全景（東から）
2．２号窯断面（東から）
3．２号窯杭跡検出状況（東から）
写真図版10　1．３号窯床面遺物出土状況（東から）
2．２号窯全景（東から）
3．２号窯全景（東から）
写真図版11　1．３号窯北側盛土内須恵器出土状況（北から）
2．３号窯断面（東から）
3．３号窯杭跡検出状況（東から）
写真図版12　1．４号窯検出状況（南から）
2．４号窯埋土断面（東から）
3．４号窯全景（南から）
写真図版13　1．４号窯窯体全景（南から）
2．４号窯断面（南から）
3．４号窯杭跡検出状況（南から）
写真図版14　1．５号窯埋土断面（西から）
2．５号窯全景（西から）
3．５号窯煙道部（東から）
写真図版15　1．５号窯全景（西から）
2．５号窯断面（西から）
3．５号窯北側盛土須恵器出土状況（西から）
写真図版16　1．６号窯埋土断面（南から）
2．６号窯窯体内遺物出土状況（１）（東から）
3．６号窯窯体内遺物出土状況（２）（東から）
写真図版17　1．６号窯窯体内遺物出土状況（３）（東から）
2．６号窯窯体内遺物出土状況（４）（東から）
3．６号窯断面（東から）
写真図版18　1．７号窯床面遺物出土状況（東から）
2．７号窯全景（東から）
3．７号窯断面（１）（東から）
写真図版19　1．７号窯断面（２）（東から）
2．７号窯瓦敷（東から）
3．７号窯瓦敷瓦出土状況（西から）
写真図版20　1．８号窯全景（南から）
2．サブトレンチ10・11灰原断面（南から）
3．サブトレンチ３灰原断面（南東から）
写真図版21　1．ＳＢ０１全景（西から）
2．ＳＢ０１全景（南から）
3．Ｐ13～15（南から）
4．Ｐ13（南から）
5．Ｐ13断面（南から）
写真図版22　1．Ｐ14（南から）
2．Ｐ14断面（南から）
3．Ｐ15（南から）
4．Ｐ15断面（南から）
5．Ｐ20（南から）
6．Ｐ20断面（南から）
写真図版23　1．ＳＤ０１全景（西から）
2．ＳＤ０１東端土器出土状況（東から）
3．ＳＤ０１北側土器群（南から）
写真図版24　1．出土の土器
2．出土の瓦
写真図版25　１号窯出土須恵器（１）
写真図版26　１号窯出土須恵器（２）
写真図版27　１号窯出土須恵器（３）
写真図版28　１号窯出土須恵器（４）
写真図版29　２号窯出土須恵器
写真図版30　３号窯出土須恵器（１）
写真図版31　３号窯出土須恵器（２）
４号窯出土須恵器
写真図版32　５号窯出土須恵器（１）
写真図版33　５号窯出土須恵器（２）
写真図版34　５号窯出土須恵器（３）
写真図版35　６号窯出土須恵器・土師器
７号窯出土須恵器（１）

写真図版36　７号窯出土須恵器（２）
写真図版37　ＳＤ０１北側土器群出土須恵器
写真図版38　ＳＤ０１出土須恵器・土師器
写真図版39　灰原出土須恵器鉢
写真図版40　灰原出土須恵器小鉢
　　灰原出土須恵器碗（１）
写真図版41　灰原出土須恵器碗（２）
　　灰原出土須恵器小皿
写真図版42　灰原出土須恵器甕（１）
写真図版43　灰原出土須恵器甕（２）
　　灰原出土須恵器壺（１）
写真図版44　灰原出土須恵器壺（２）
写真図版45　灰原出土須恵器壺（３）
　　灰原出土須恵器経筒（１）
写真図版46　灰原出土須恵器経筒（２）
写真図版47　灰原出土須恵器その他
写真図版48　灰原出土土師器・陶磁器
　　苅屋谷池小支群採集須恵器
写真図版49　軒丸瓦（１）
写真図版50　軒丸瓦（２）
写真図版51　軒丸瓦（３）
写真図版52　軒丸瓦（４）
写真図版53　軒丸瓦（５）
写真図版54　軒丸瓦（６）
写真図版55　軒丸瓦（７）
写真図版56　軒平瓦（１）
写真図版57　軒平瓦（２）
写真図版58　軒平瓦（３）
写真図版59　軒平瓦（４）
写真図版60　軒平瓦（５）
写真図版61　軒平瓦（６）
写真図版62　軒平瓦（７）
写真図版63　軒平瓦（８）
写真図版64　丸瓦（１）
写真図版65　丸瓦（２）
写真図版66　丸瓦（３）
写真図版67　丸瓦（４）
写真図版68　平瓦（１）
写真図版69　平瓦（２）
写真図版70　平瓦（３）
写真図版71　平瓦（４）
写真図版72　平瓦（５）
写真図版73　平瓦（６）
写真図版74　平瓦（７）
写真図版75　平瓦（８）
写真図版76　鬼瓦、道具瓦

第１章　調査の経緯

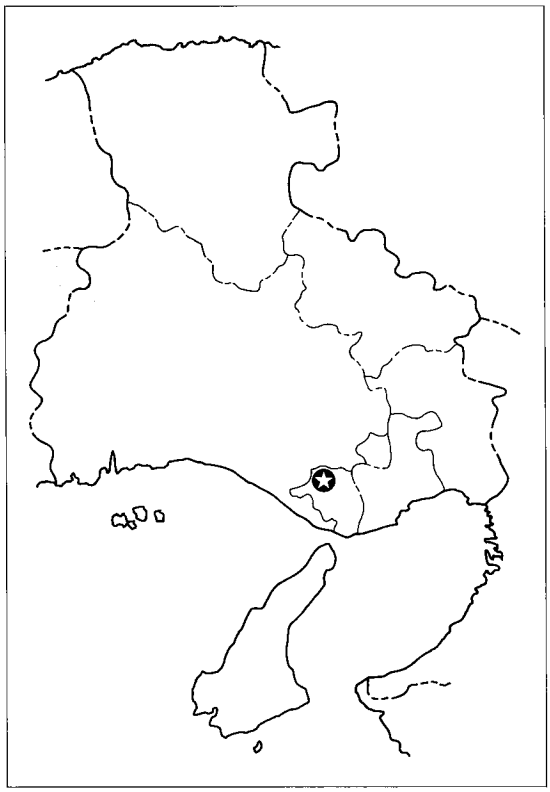
第１節　調査にいたる経緯

兵庫県企業庁東播磨建設事務所神出浄水場は、兵庫県水道用水供給事業の一環として、加古川水系の呑吐ダム、大川瀬、川代ダムから都市用水の配分を受け、浄水のうえ神戸市、明石市、三木市、稲美町、播磨町に給水を行っている。

平成４年の夏は西日本全域で日照りが続き、多くの地域が渇水に見舞われた。兵庫県内でも水源に乏しい淡路島でも、給水制限などが行われた。

そこで兵庫県企業庁東播磨建設事務所では神出浄水場の南の隣接地に施設を拡張し、淡路島への給水することを計画した。

それを受けて兵庫県教育委員会では平成５年度に詳細分布調査、平成６・７年度に確認調査、平成６年度に全面調査を実施した。



第１図　遺跡の位置

第２節　分布調査・確認調査の方法と経過

（１）平成５年度詳細分布調査（遺跡調査番号９３０２０４）

事業対象地の大半は畑となっており、南端は山林であった。このうち山林部分は踏査するにとどめ、畑部分にトレンチを設定し、掘削をおこなった。踏査によっては畑の法面に窯体を１基確認し（周知の窯跡）、山林部分については急峻な地形であり、遺物及び炭・焼土なども確認されなかった。トレンチ調査の結果は２トレンチ２ブッロクで窯体、２トレンチ３ブロックで遺物を包含する谷状地形、５・６トレンチで灰原を検出した。その結果、窯体２基と窯体の所在する可能性の高い箇所が１地点明らかとなった。

遺跡調査番号	調査の種別	調査期間	調査担当者	調査面積
９３０２０４	詳細分布調査	平成６年３月22日 ～３月23日	甲斐昭光・長濱誠司・井本有二	５７６㎡
９４０２８６	確認調査	平成６年11月１日 ～11月28日	西口和彦・久保弘幸	６６㎡ (磁気探査1258㎡)
９５０００７	確認調査	平成７年４月19日	池田征弘	３４㎡
９４０２５５	全面調査	平成６年10月３日 ７年～３月24日	久保弘幸・池田征弘・岡本一秀	３５１７㎡

第１表　調査一覧

（２）平成６年度確認調査（遺跡調査番号９４０２８６）

平成５年度詳細分布調査の結果、全面調査を行うこととなったが、調査開始後、灰原が調査区外の南側に延びていくことが明らかとなったため、前回トレンチ調査を行わなかった山林部分においてトレンチを設定し、掘削を行うとともに、山道と排水路部分の崖面において断面精査をおこなった。さらに今回はプロトン磁力計とフレックスゲートによる磁気探査も合わせて実施した。トレンチ調査では２トレンチで遺物包含層、５トレンチでピット状土坑と遺物包含層、断面精査では灰原の続きを確認した。磁気探査では窯の存在を示すような顕著な反応は見られなかった。その結果、谷に沿って灰原が広がり、谷の南側の尾根上の平坦地についても遺跡が広がる可能性が高いことを確認した。

（３）平成７年度確認調査（遺跡調査番号９５０００７）

全面調査範囲の北側に残っていた工場跡地を対象としてトレンチ調査をおこなった。トレンチでは遺構・遺物などは確認できず、遺構面はすでに削平されたものと考えられ、全面調査は行わなかった。

第３節　全面調査（遺跡調査番号９４０２５５）の方法と経過

平成５年度の詳細分布調査および平成６年度確認調査の結果をもとに平成６年10月３日～平成７年３月24日まで総面積3517㎡の全面調査を実施した。

調査地は南から北へと伸びる開析谷が、近世以降の耕作地造成のために、厚いところで１ｍ以上にわたって埋め立てられ、著しく地形が改変されている。このため、本来の谷地形とそこに堆積した灰原の状況を確認するために東西方向に確認トレンチ（サブトレ１～

3、9）を掘削した。この結果を受けて、機械により耕土及び盛土層を除去し、人力により窯本体および、灰原などの検出を行った。

窯体は窯体内の堆積状況、床面の遺物出土状況、床面の状況などの記録をとりながら調査を進めた。その後、床面、壁面に縦断、横断の断ち割りを行うとともに、灰原の掘削に伴って盛土部分を掘削し、窯体の構築状況を断面で確認した。

灰原は谷中央部にサブトレンチ（サブトレ５～８、10～13）を掘削し、灰原の堆積状況の確認を行った。そして，窯本体の中軸線やサブトレンチを基準としてＡ～Ｓの19の区画に分割し、更にそれぞれの区を一辺２ｍを基本としたグリッドに細分した。灰原より出土した遺物は上記のサブトレンチの層位と区画によって取り上げをおこなった。

調査の途中の平成７年１月17日の未明に阪神大震災が発生した。調査地は、震源より離れていたため、一部の遺物コンテナーが転倒した以外は、被害は比較的軽微であった。困惑を覚えながらも19日に調査を再開した。しかしながら、周辺の交通事情の悪化、現場作業員が救援作業に向かって人手が集まらないなど、諸般の事情で調査にも少なからぬ影響を及ぼした。２月頃になると幾分落ち着きを取り戻し、調査は続行された。

各窯や谷の西側の平坦部の工房跡が完全に検出できた段階で足場の上から全景写真とヘリコプターによる空中写真の撮影を行った。

全景写真の撮影後、灰原の掘削を行うとともに、各窯の断ち割りを行った。灰原完掘後、地形測量をおこなって、現地での調査を完了した。

なお、調査にあたっては以下の方々の協力を得た。

現場補助員　牛谷　好信　　将積　伸一郎
現場事務員　船上　優子　　西馬　佐紀
室内作業員　内藤　須美子　　藤田　由美　　木村　陽子　　先山　美穂

第４節　整理作業の方法と経過

出土品の整理作業は兵庫県企業庁の依頼を受けて平成６～９年度に兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所で実施した。

（1）平成７年度整理作業

魚住分館で出土遺物1982箱について遺物洗浄（平成６年度調査時に洗浄した約300箱を除く）とネーミング作業を行った。

整理担当職員　整理普及班　藤田　淳
　　復興調査班　池田　征弘
整理技術嘱託員　西原　美知代　　伊藤　ミネ子　　長谷川　陽子
　　川上　啓子　　衣笠　雅美　　家光　和子
　　江口　初美　　大竹　薫

（2）平成８年度整理作業

出土した遺物をその出土位置からＡ．遺構床面出土、Ｂ．遺構埋土出土、Ｃ．灰原出土、Ｄ．サブトレンチ・包含層など出土にわけ、Ａ～Ｃについては接合をおこなった後、分類（器種・鉢の口縁形態）し、計数を行った。ただし、Ｃは数量的に多いため、十分な接合作業をおこなうことができなっかた。計数作業ののちピックアップをおこない、実測をおこなった。

土器の計数方法は以下のような「口縁部計測法」を採用した。①半径５㎜おきに描いた同心円を15°ずつ放射状に24分割する。②土器の口縁部を口径にあった円周上において、口縁の残存度数を数える。③度数を器種別に集計する。合計を24で除すれば固体数が算出されるが、集計表では度数のみを示す。

瓦については、丸瓦・平瓦・道具瓦は「四隅カウント法」をおこない、軒瓦については参考までに破片数を数えた。

Ｄについては特殊な器形のもののみをピックアップし、実測を行った。

瓦については拓本を採取し、遺物の実測を行ったもののうち一部は復元を行い、写真の撮影をおこなった。なお、写真撮影は㈱衣川に委託した。

整理担当職員	整理普及班	藤田　淳	加古　千恵子	
	調査第３班	池田　征弘	岡本　一秀	
整理技術嘱託員		西原　美知代	伊藤　ミネ子	長谷川　陽子
		川上　啓子	衣笠　雅美	家光　和子
		江口　初美		
		酒井　喜美子	岡田　依理子	本窪田　英子
		香川　ふじ子	萩原　聡美	中西　睦子
		鈴木　まき子	横山　キクエ	臼井　昌代
		小野　潤子	宮野　正子	中村　正子
		清水　いずみ	尾鷲　都美子	奥田　保子
		奥野　政子		
		横山　麻子	和田　寿佐子	田中　葉

（3）平成９年度整理作業

前年度より引き続き実測、復元、写真撮影をおこなうとともに、トレース、レイアウトをおこなった。なお、写真撮影は㈱衣川に委託した。

整理担当職員	整理普及班	菱田　淳子		
	復興調査班	久保　弘幸	調査第３班　池田　征弘	岡本　一秀
整理技術嘱託員		酒井　喜美子	宮田　麻子	中筋　貴美子
		本窪田　英子	石野　照代	中田　明美
		宮澤　昭代	横山　キクエ	中西　睦子
		萩原　聡美	尾鷲　都美子	奥野　政子
		馬縅　薫	綾小路　公子	秋枝　泉

第２章　遺跡をとりまく環境(1)

第１節　地理的環境

神出窯跡群は、明石市の市街地から北へ約12kmの所に広がる窯跡群である。この辺りは印南野台地と呼ばれ、雄岡山（標高241.3m）及び雌岡山（249.5m）という２つの独立丘を要として南西方向へ緩やかに傾斜しながら播磨灘まで広がる扇状地である。その範囲は東西約20km、南北約15kmにも及ぶ。神出窯跡群の各支群は、雌岡山の南西麓の台地を開析した小谷に分布している。今回調査した垣内支群は、印南野台地の南縁に位置し、明石川の支流により開析された谷の西側斜面を主に築かれている。

印南野台地の表面を流れる河川は伏流水となり荒れ川が多い。さらに年間の降水量も少ない。このため台地の周辺部では古代より夥しい数の溜め池が築造され、日本でも有数の溜め池地帯となっている。印南野台地で本格的な灌漑事業が行われ、開墾が始まるのは17世紀に入ってからである。

文献によれば神出一帯は、奈良時代には住吉神社の杣山として掌握されており、豊かな森林であった事が窺える。また、窯業に適した粘土層も採取できる。このように神出の地は燃料や粘土など窯業地として必要な条件は揃っていた。

第２節　歴史的環境

明石市の西八木海岸で昭和６（1931）年に直良信夫によって前期旧石器時代のものといわれる化石人骨（明石原人）とそれに伴うとみられる石器が発見された。しかし、肝心の化石人骨は戦災で焼失してしまい、旧石器時代の人骨であったかどうかは謎のままとなっている。昭和60年に国立歴史民俗博物館によって行われた調査では、６～８万年前と推定される加工された木片が出土した。平成９（1997）年に明石市教育委員会が行った藤江川添遺跡の調査では、メノウ製のハンドアックスに類似した石器が発見された。これは明石に旧人段階の人類がいた可能性を示唆するものである。

神出周辺に人類の痕跡が確認されるようになるのは、後期旧石器時代になってからである。神出町の拍子ケ池や新方遺跡（46）では石核が、明石川流域の金棒池（５）、拍子ケ池、大皿池、笹ケ池（11）、青池（10）、岩岡町の印籠池（１）、伊川流域の池上、上脇（52）でやや小型化したナイフ形石器が採集されている。さらに、終末期の小型の有舌尖頭器が青谷池（６）、金棒池で採集されている。

縄文時代早期の遺跡は確認されていないが、金棒池で石鏃が採取されており、早期のものである可能性がある。神出周辺では、前中期の遺跡は確認されていない。前期の遺跡としては山田川流域の大歳山遺跡（13）が知られている。中期になると福田川河口の日向遺跡、舞子浜遺跡、明石市出ノ上遺跡が現れる。後期になると前出の日向、出ノ上両遺跡の他に、明石川支流でも伊川流域の南別府遺跡（15）、長坂遺跡（16）、明石川上流域の元住吉山遺跡（14）、下流域の片山遺跡（18）などが現れる。晩期には日向遺跡が継続するほか、

第２図　周辺遺跡分布図

番号	遺跡名	番号	遺跡名	番号	遺跡名
1	印籠池遺跡	26	繁田遺跡	51	岡遺跡
2	木屋池遺跡	27	西神ＮＴNo38・39遺跡	52	上脇遺跡
3	白蛇池遺跡	28	吉田遺跡	53	表山遺跡
4	大池遺跡	29	常本遺跡	54	鳥羽遺跡
5	金棒池遺跡	30	頭高山遺跡	55	松陰新田遺跡
6	青谷遺跡	31	西神ＮＴNo50遺跡	56	金棒池古墳
7	上喰池遺跡	32	吉田南遺跡	57	寺谷群集墳
8	池上口ノ池遺跡	33	玉津田中遺跡	58	池谷群集墳
9	出合遺跡	34	鍋谷池遺跡	59	堅田遺跡
10	青池遺跡	35	上池遺跡	60	印路群集墳
11	笹池遺跡	36	栃木遺跡	61	〃
12	大皿池遺跡	37	菅野遺跡	62	王塚古墳
13	大歳山遺跡	38	居住・小山遺跡	63	潤和遺跡
14	元住吉山遺跡	39	居住遺跡	64	白水瓢塚
15	南別府遺跡	40	二ツ屋遺跡	65	天王山古墳群
16	長坂遺跡	41	小山遺跡	66	芝崎遺跡
17	印路遺跡	42	今津遺跡	67	カゲユ１号墳
18	片山・唐熊遺跡	43	森友遺跡	68	雌岡山群集墳
19	大畑遺跡	44	持子遺跡	69	押部遺跡
20	野々池遺跡	45	高津橋岡遺跡	70	藤原橋窯跡群
21	栄弥生墳墓	46	新方遺跡	71	高丘窯跡群
22	住吉神社遺跡	47	天王山遺跡	72	繁田窯跡群
23	養田遺跡	48	北別府遺跡	73	林崎三本松窯跡群
24	養田中ノ池遺跡	49	池上北遺跡	74	神出窯跡群
25	西神ＮＴNo７遺跡	50	如意寺遺跡		

第２表　周辺遺跡地名表

大歳山遺跡や明石川中流域の西戸田、大畑遺跡（19）などがある。

弥生時代の前期の遺跡には吉田遺跡（28）、新方遺跡、玉津田中遺跡（33）、片山遺跡、居住遺跡（39）、常本遺跡（29）、大歳山遺跡などがある。こうした遺跡は概ね明石川や櫨谷川、伊川の中流域よりも下流側に展開している。中期になると遺跡の数は増加する。磨製石剣などを出土する青谷遺跡や頭高山遺跡（30）など、標高117mの丘陵の稜線上に位置するいわゆる高地性集落と呼ばれる集落群が現れる。頭高山遺跡は標高115～90mの間に竪穴住居16棟、土器棺墓2基が発見された。明石川上流の押部谷と支流の櫨谷川の中間に位置する西神第50号遺跡（31）は、標高108～100mの丘陵の頂部と尾根の両側の斜面から40数棟の竪穴住居が発見されている。表山遺跡では10棟の竪穴住居や環濠が検出されている。環濠の橋状遺構の上からは小型彷製鏡が発見された。この鏡は近畿に持ち込まれた鏡のなかでも古い時期のものである。後期になると高地性集落は姿を消し、集落は低地へと進出する。明石川下流域の代表的な低地性集落としては前出の玉津田中遺跡や新方遺跡の他に吉田遺跡、吉田南遺跡（32）、池上北遺跡（49）が挙げられる。玉津田中遺跡、新方遺跡は前期から引き続いて中核的な集落となっている。また、元住吉山遺跡、養田遺跡（23）、繁田遺跡（26）といった明石川の上流側にも遺跡が見られるようになる。

古墳時代になると、明石川水系でも古墳が築造されるようになってくる。最古の古墳は天王山4号・5号墳（65）である。天王山4号墳は長辺約19m、短辺約16mの長方形を呈し、墳丘の高さは現高2.7mの規模である。主体部には2基の割竹形木棺が収められていた。王塚（62）は全長70mの陪塚3基をもつ中期の前方後円墳である。白水瓢塚古墳（64）は、明石川水系で最古の前方後円墳である。前方部の幅は16m、高さ2.5m，後円部径31m、高さ4.5mの規模で竪穴式石室が主体部であったと考えられている。竪田1号墳は東西14m、南北18m、高さ2.4mの方墳で、墳丘の長軸に並行して3つの主体部を持つ前期の方墳である。養田中ノ池古墳は一辺10mの方墳である。2基以上の割竹形木棺と土器棺1基をもつ前期の古墳である。後期になると神出周辺でも古墳が築造されるようになる。雌岡山群集墳、金棒池古墳（56）、神出群集墳、新内古墳、拍子ケ池群集墳は円墳を主体とする小規模な群集墳である。これらの中で金棒池1号墳（56）は全長31mの後期の小型の前方後円墳で、明石川流域では最後の前方後円墳である。

神出丘陵では白鳳期から奈良・平安時代の遺跡は、現在のところ確認されていない。11世紀後半になり東播系須恵器の生産地として窯跡や工房跡が確認されるまでは空白の時期となっている。しかし、明石川流域でのこの時代の遺跡としては、太寺廃寺、吉田南遺跡がある。太寺廃寺は白鳳時代に創建されたとみられる寺院跡である。ここからは白鳳から平安時代にかけての瓦が多数出土している。吉田南遺跡からは、奈良時代前期から平安時代にかけての掘立柱建物群が見つかっている。これらの建物に伴う遺物は、木簡、墨書土器、陶硯など一般の集落から余り出土しないものであり、明石郡衙や駅屋と推定されている。

平安から鎌倉時代にかけての遺跡には、芝崎遺跡（66）、居住・小山遺跡（38）、二ツ屋遺跡（40）、居住遺跡（39）、出合遺跡（9）、新方遺跡、玉津田中遺跡がある。ニツ屋遺跡は掘立柱建物群が数棟と礎石建物、池、井戸等が調査されているが、礎石建物は若干の

瓦と共に検出され、部分的に瓦を使用した建物であった可能性が高く、仏堂ではないかと考えられている。玉津田中遺跡では掘立柱建物・池跡とそれらを取り囲む堀が調査され、神出窯跡群産とみられる瓦や土器が多数出土している。

明石川流域付近での窯業遺跡に関して見てみると、古墳時代の窯業地としては、出合遺跡で初期須恵器と窯跡が見つかっている。西区の藤原橋窯跡群（70）は6世紀後半に操業していた窯跡である。西神ニュータウン90地点窯跡と西区押部谷町和田の七曲がり窯跡、明石市魚住町の鴨谷池窯跡も同じぐらいの時期に操業されていたと考えられる。7世紀頃の窯跡としては大久保町高丘古窯跡群（71）がある。現在約20基ほどが確認されているが、住宅団地の土取り、道路建設により大半が姿を消し、住宅団地内の5基が保存されている。高丘3号窯からは四天王寺に搬入されたと見られる鴟尾が出土している。

11世紀中頃より神出窯跡群は生産を開始し、13世紀中頃まで続いた。西神ニュータウン内で見つかった西神No.90地点窯跡、繁田窯跡も神出窯跡群と対応する時期の窯であるが、神出窯跡群の窯が数基単位で操業されていたのに対して、西神ニュータウン周辺の窯は単独で操業されている点が対称的な特徴である。神出窯跡群より北へ約8㎞のところには三木窯跡群が所在する。この窯跡群は奈良時代後期から平安時代の始めにかけて窯業が行われていたが、平安時代中期の窯跡は見つかっていない。平安時代後期になり神出窯跡群と同じように瓦陶兼業の窯跡として知られる。明石市林崎三本松窯跡（73）は12世紀に操業されていた窯跡で主に瓦を中心に生産していた。魚住窯跡群の中尾川支群は12世紀後半～13世紀に、赤根川支群は13世紀中頃～15世紀前半に操業されていた瓦陶兼業窯である。窯業に関してみると古代から散発的に生産が行われているが、一旦途絶えてしまう。そして平安時代後期に突如として瓦陶兼業の窯業が盛んになり、また姿を消してしまうのである。

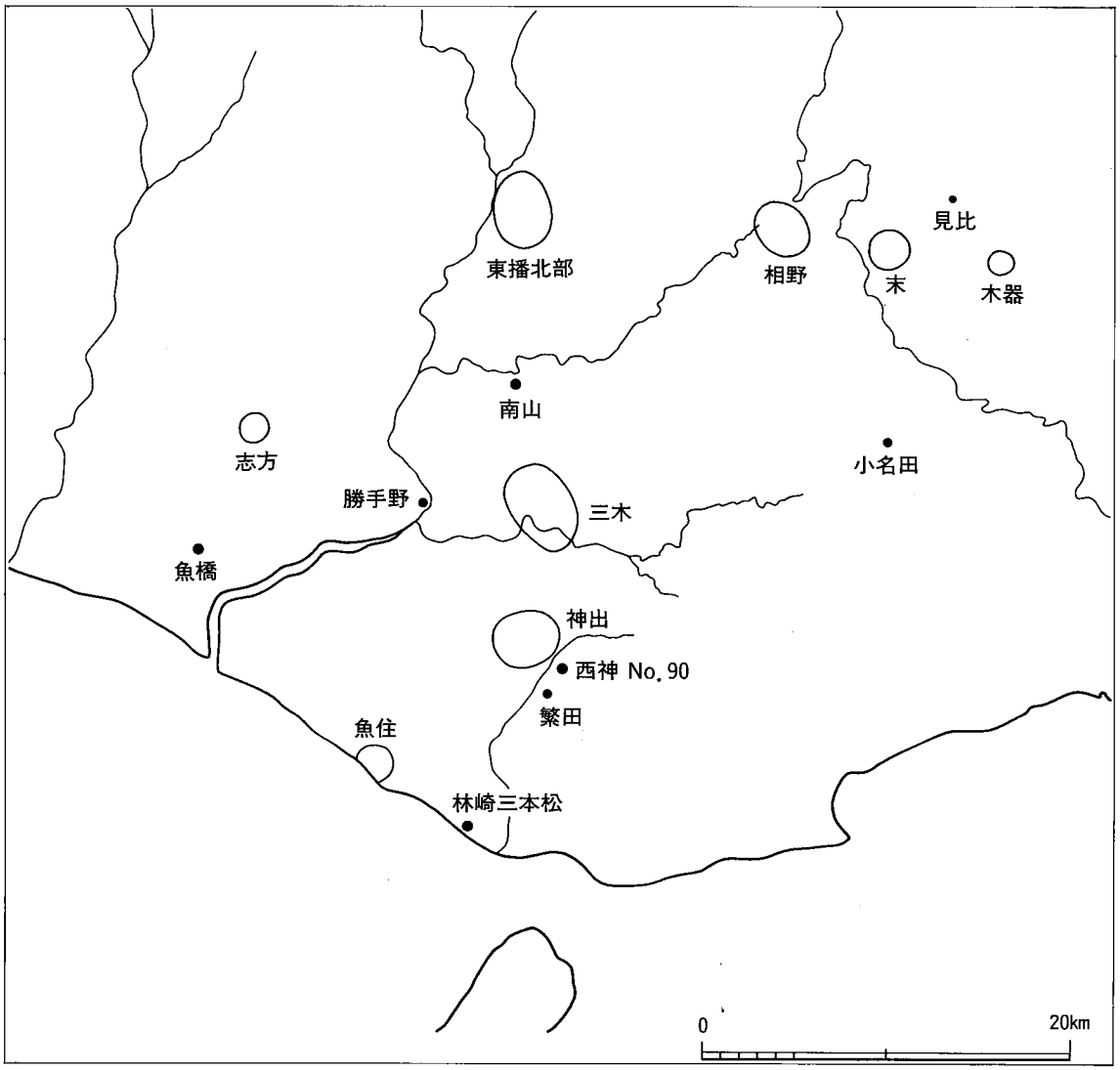
第3節　神出窯跡群の分布[2]

神出窯跡群は印南野台地の東西1.5㎞、南北1㎞の範囲に広く分布する。現在、約100基の窯跡の存在が確認され、そのうち、約50基の窯跡が調査されている。これらの窯跡の分布は以下のとおり大きく4つに区分され、それぞれが、各小支群に分かれる。A．北西より切れ込む開析谷とその支谷に沿って位置する老ノ口支群。B．西より切れ込む開析谷とその支谷に沿って位置する田井支群。C．南より切れ込む開析谷とその支谷に沿って位置する南支群。D．雌岡山の麓の斜面に位置する雌岡山支群。このうち、発掘調査が行われたものを中心に各小支群について述べる。時期については森田稔氏が示したもの記す[3]。

A．老ノ口支群　老ノ口、万堡池、宮ノ裏などの小支群がある。

老ノ口小支群（1）　西側へ切れ込む支谷の北斜面に位置する。昭和58年度と昭和59年度に神戸市教育委員会によって調査され、6基の窯体と3基分の灰原が調査されている。Ⅱ－1・Ⅱ－2期の須恵器が出土している。

宮ノ裏小支群（2）　南側へ切れ込む支谷の再奥部に位置する。昭和56年度に神戸市教育委員会によって調査され、4基の窯体（煙管窯1基を含む）とその灰原が調査されている。Ⅱ－1・Ⅱ－2期の須恵器が出土している。



第３図　関連する窯跡位置図

万堡池小支群（３）　谷の北斜面に位置する。昭和62年度に神戸市教育委員会によって調査され、１基の窯体（調査は検出のみ）とその灰原が調査されている。Ⅰ－１～Ⅱ－１期の須恵器が出土している。

Ｂ．田井支群　堂の前、田井裏、釜ノ口、池の下などの小支群がある。

堂の前小支群（４）　谷の北斜面に位置する。昭和57年度に神戸市教育委員会によって調査され、８基の窯体（煙管窯１基を含む）が検出された。Ⅰ－１・Ⅰ－２期の須恵器が出土している。

田井裏小支群（５）　北側に複雑に切れ込む支谷の斜面に位置する。昭和57年度に神戸市教育委員会によって調査され、１基の窯体とその他、１基分の灰原が検出された。Ⅰ－２期の須恵器が出土している。

釜ノ口小支群（６）　主谷の南斜面に位置する。昭和56年度に神戸市教育委員会によって調査され、７基の窯体が検出された。Ⅰ－１期とⅡ－１・Ⅱ－２期の須恵器が出土している。また、平成７年度に兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所が調査をおこない、窯背後の平坦地でロクロピットをもつ掘立柱建物跡など工房跡と考えられる遺構群を検出している。

池の下小支群（7）　主谷の南斜面に位置する。昭和57年度に神戸市教育委員会によって調査され、2基の窯体が検出されている。Ⅱ－2期の須恵器が出土している。

（第8支群）（9）　支谷の南斜面に位置する。昭和62年度に神戸市教育委員会によって調査され、1基の窯体が検出されている。

C．南支群　垣内、苅屋谷池などの小支群がある。

垣内小支群（10）　北側へ切れ込む支谷に位置する。かつて、南1号窯として紹介されていた窯である。平成6年度に兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所が全面調査をおこない、8基の窯体と灰原・工房跡などを検出した。詳細は本書によられたい。さらに、ひとつ東側の支谷でも灰原の存在が確認されている。

苅屋谷池小支群（11）（図版40・144・145）　主谷の西斜面に位置する。平成6年度の垣内小支群調査中に久保・岡本が窯体1基とその灰原を発見した。その後、平成8年に神出東地区の了解をえて、池田・岡本で測量をおこなった。遺跡の現状は溜め池であり、通常は水面下に没している。　窯体は主谷から小さく北側へ切れこんだ谷状地形の西斜面に位置する。窯体は焼成部の一部が露出した状態である。露出している部分が一部なので規模は不明である。砂礫層の上に直接築かれており、南側では盛土部分の白色のシルト質極細砂がわずかに残存している。床面は4枚確認でき、壁面も厚く貼り替えがなされている。灰原は窯体の周囲（灰原A）、谷状地形の体面の斜面の上下（灰原B、C）の3ヶ所にまとまってみられる。特に灰原Bでは碗が集中してみられる。

遺物は須恵器鉢、碗が多く、須恵器小皿、甕、瓦がごく少数みられる。碗は器高の低いものが多く、体部下半から底部にかけてケズリをほどこすものもみられる。Ⅲ－1期に相当するものとおもわれる。

D．雌岡山支群　茶山、大池北、拍子ケ池などの小支群がある。

茶山小支群（12）　雌岡山の南斜面に位置する。昭和52年度に神戸市教育委員会によって調査され、1基の窯体（煙管状窯）が検出された。Ⅰ－2期の須恵器が出土している。

大池北小支群（13）　雌岡山の南斜面に位置する。昭和63年度に妙見山麓遺跡調査会によって調査され、3基の窯体と2基分の灰原が検出された。Ⅲ－1期の須恵器が出土している。

拍子ケ池小支群（14）　雌岡山の南斜面に位置する。発掘調査はおこなわれていないが、池の北岸に大量の遺物が散布している。建久5年（1194）に重源によって建立された浄土寺の瓦が表採されている。

その他、平成元年度に土師器を焼成したと考えられる窯状遺構1基（20）が検出されている。

地図番号	支群名	小支群名	神戸市遺跡地図支群名	文　　献
1		老ノ口	第４支群	『昭和58年度神戸市埋蔵文化財年報』(1986) 『昭和59年度神戸市埋蔵文化財年報』(1987)
2	老ノ口	宮ノ裏	第１支群	『昭和56年度神戸市埋蔵文化財年報』(1983)
3		万堡池	第17支群	『昭和62年度神戸市埋蔵文化財年報』(1990)
4	田井	堂ノ前	第３支群	『昭和57年度神戸市埋蔵文化財年報』(1985)
5		田井裏	第５支群	『昭和57年度神戸市埋蔵文化財年報』(1985)
6		釜ノ口	第２支群	『昭和56年度神戸市埋蔵文化財年報』(1983)
7		池の下	第７支群	『昭和57年度神戸市埋蔵文化財年報』(1985)
8			第６支群	
9			第８支群	『昭和62年度神戸市埋蔵文化財年報』(1990)
１０	南	垣内	第19支群	本書
１１		苅屋谷池		本書
１２	雌岡山	茶山	第12支群	『神戸市立博物館だより』No.16 (1986)
１３		大池北	第13支群	妙見山麓遺跡調査会『神出遺跡現地説明会資料』(1988)
１４		拍子ケ池	第14支群	真野修「雌岡山周辺の古窯址」『神戸古代史』１－３ (1974)
１５			第９支群	
１６			第10支群	
１７			第11支群	
１８			第15支群	
１９			第16支群	
２０				『平成元年度神戸市埋蔵文化財年報』(1992)
２１		金棒池		

第３表　窯跡一覧表

第4図 窯跡分布図

第３章　遺構

第１節　遺構の概要

検出された遺構は、窖窯６基（１～５、７号窯)、煙管状窯１基（６号窯)、構造不明の焼成遺構１基（８号窯）の計８基の窯体とそれに付随する灰原、工房跡と考えられる掘立柱建物（ＳＢ０１）１棟、ロクロピット（Ｐ１３～１５）と考えられる柱穴４基、工房の南側に東西に伸びる溝（ＳＤ０１）１条などである。これらの遺構は、調査地の南側から北側へと切れ込む開折谷を中心として展開している。窯跡は谷の斜面の傾斜を利用して築かれている。そのうち６基（１～４、６、７号窯）が西側斜面に、２基（５、８号窯）が東斜面に位置している。灰原は谷の底を埋めつくすように広がっている。谷の西側の平坦面には掘立柱建物（ＳＢ０１）が位置している。そして、そのＳＢ０１の中からはロクロピット（Ｐ１３～１５）が検出されている。掘立柱建物の南側には１段低い部分をつなぐスロープ状の通路が検出されている。スロープと１号窯の間には直径約６ｍの浅い落ち込みがある。この落ち込みから東側の谷へ向かって溝（ＳＤ０１）が延びている。以下、各遺構について記述していく。

第２節　遺構各説

（１）１号窯

１号窯は大きく第１、第２床面と第３、第４床面の上下２つにわかれる。第３床面の燃焼部と焼成部下半は第２床面の燃焼部と焼成部下半を大きく埋めてつくり、焼成部上半は第２床面に直接床面を貼り重ねている。

第３、第４床面は煙道部と焼成部・燃焼部の大半を欠損している。窯体の残存長は8.42ｍである。ほとんど床面のみしか残存しておらず、還元しないで黄化している。窯体床面の最大幅は1.13ｍを測る。床面傾斜角は欠損部分が大きいためやや不正確であるが、第３床面で19°、第４床面で16.5°と推定される。床面に遺物は残っていなかった。

第１、第２床面は煙道部と焼成部の一部を欠損している。窯体の残存長は11.38ｍで、本小支群中最も大きいものである。窯体の残存レベルは良好なところで80㎝の程度である。床面の幅は燃焼部で1.94ｍと最も広く、焼成部下半で1.7ｍ前後で、焼成部上半では1.1ｍ前後と狭まる。焚口は幅0.88ｍとすぼまっている。

床面傾斜角は今回調査した中では最も急傾斜で焼成部下方は20°、焼成部上方は18°を計る。第２床面は第１床面の燃焼部と焼成部上半のみを貼り替えたものである。さらに第２床面の最終操業時には燃焼部の壁面は幅1.08ｍと大きくすぼめられている。

窯体は地山の砂礫層・黄色シルト質極細砂層を深いところで50㎝ほど掘り込むのみで、壁面の背後のほとんどは盛土がなされている。ほとんど地上式といってよい構造である。盛土はシルト質極細砂層（13・15層）と砂礫層（14層）を交互に積み重ねて盛り上げてある。

床および壁はスサ入り粘土を10～15cmほど貼り付け、焼成により表面が青く還元し、内部が黄化している。

窯体の床面・壁面の粘土層を取り払うと、床面下に杭痕が確認できる。杭痕は窯体の中軸線に沿って６本、南壁に沿って12本、北壁に沿って17本確認した。杭痕の直径はいずれも５cm程度で、深いもので床面下20cmの深さまで打ち込まれている。側壁の杭間の距離は20～30cm程度の間隔で比較的密に打たれている。中軸線の杭間の距離は0.8～２m程度の間隔で側壁と比べると間隔が広い。

第２床面の最終操業時の焚口では、シルト質極細砂と炭のラミナ状堆積（10、９層）の後、シルト質極細砂を盛り上げ、焼成部側が焼土化している。

第２床面直上には鉢を主とした遺物が残存していた。特に、鉢の口縁部を欠いた固体を床面の上に伏せたものが目につく。これらは焼き台と考えられるもので、列状に並べたと仮定すると、焼成部の下半のみで焼き台の列が10列程度設けられたと推定される。

１号窯の北側には排水溝がある。幅1.9m、長さ４mで、断面の形状はＶ字である。埋土はほとんどが炭で、床面にはかなり大きな焼土塊と須恵器、瓦などが残存していた。須恵器などの遺物のなかには１号窯盛土のシルト質極細砂層にめりこんだものもみられる。南側についてはサブトレンチ９を設定したため確認することはできなかった。

（２）２号窯

焚口から焼成部の煙道部近くまでは良好な状態で残存していたが、煙道部は近世以降の水田造成の時に造られた水路により攪乱を受けて残っていない。窯体は第１床面と第２床面が確認できた。第２床面の焼成部は第１床面の焼成部を貼り重ね、第２床面の燃焼部の下半は第１床面の下半を貼りなおしたものである。燃焼部は形態は特異で、わずかに軸線が谷の入口の方へと振っている。

第２面の窯体の規模は、残存長が7.50mで、残存レベルは良好なところで70cmの程度である。壁面は床面よりほぼ垂直に立ち上がる形状で、天井部の高さは焼成部あたりで70cmほどと推測される。床面の幅は焼成部で1.2～1.45m、燃焼部で1.00～1.30mである。焼成部中位で最も広くなり、焚口と煙道部にむかって狭まっている。床面の傾斜角は燃焼部で４°、焼成部で16°を測る。

窯体は礫混じりの地山と３号窯の灰原（横断面Ｂ－14層）を深さ10cm程掘り込んでいるのみで、地上式といえるものである。窯壁のすぐ裏側には黄褐色のシルト質土（横断面Ａ－７層、横断面Ｂ－５層）を積んでから、炭・焼土・遺物を多く含んだ土や礫混じりの土などで盛土されている。

床および壁は、スサ入りの粘土を、第１床面で３～８cm、第２床面で８～12cm程度貼り付けて仕上げている。

第１面の床面の粘土層を剝がすと左右の窯壁に沿って杭痕が確認された。杭の直径は３～９cmのものが多く、焚口付近で見つかったのものは10、13cmとやや太いものである。深さは深いもので床面下に12.5cm程度打ち込まれている。確認できた杭はおおむね壁に沿うものであるが、列に並んでいるというほどでもない。杭の間隔も北壁で10～250cm、南壁

で20～210cmとランダムである。

第２床面の最終操業時の焚口部は、焼土と炭、焼土と須恵器まじりの極細砂（縦断面３～５層）で覆われ、燃焼部側は赤化している。

窯体の燃焼部と焼成部の境では約５cm程度の段差が確認できた。この段差は、当初から存在するものではなく、第２面の床面が貼り重ねられた時に付けられたものである。

窯の床面に残っていた須恵器は碗が大半を占める。窯体中央の段差を境として遺物の残り方が異なっていた。段差よりも焼成部側の遺物は北側の床面に固まって残っているが、燃焼部側では窯体の中央に固まって残っていた。南壁側を通路として製品を取り出し、北壁側に不良品を寄せたものと思われる。

窯体築造当初は焼成部側の盛土の両側に溝が掘られていた。しかしながら、最終操業時には、灰原層や盛土層の流入により、最終操業時にはほとんど埋まっていたと思われる。

（３）３号窯

３号窯は煙道部と焼成部の一部を欠損している。床面は４面認められる。第２床面は第１床面の焚口部から焼成部の下位にかけての部分の粘土床一度を剝がしてから貼りなおしたものである。第３床面は全体的に貼りなおし、第４床面は焼成部のみ貼りなおしている。

窯体の残存長は7.22mである。窯体の残存レベルは良好なところで40cm程度である。床面の幅は焼成部最下部で1.64mと最も広くなると思われる。焼成部のその他の部分は南側壁を欠損しているためわからない。燃焼部は幅1.3～1.4m程度である。焚口は幅0.75mとすぼまっている。

焼成部の床面傾斜角は第１床面で12°、第３床面で13°、第４床面で13°を測る。燃焼部の床面傾斜角は第２床面で11°であるが、第３床面で厚く床が貼り重ねられ９°と緩くなる。

床および壁はスサ入り粘土を10cm程度貼り付けられている。第３床面の燃焼部のみは最大18cm程度と厚く粘土が貼り付けられている。第１、２床面は焼成により表面が還元し、内部が黄化しているが、第３、４床面では黄化層が認められない。

窯体は地山の黄色シルト質極細砂層を20cmほどわずかに掘り込むのみで、壁面の背後のほとんどは盛土がなされている。ほとんど地上式といってよい構造である。盛土は第１床面時の壁面背後に黄色細砂（横断面Ｂ－７、８層）を積み上げ、その直上に鉢などを集中的に埋め込み、その上を褐色細砂がおおっている。焚口から燃焼部にかけての部分は第２床面に張り替えた時に盛土部分もほぼ完全に盛りなおされたようである。

窯体の床面・壁面の粘土層を取り払うと、床面下に杭痕が確認できた。杭痕は焼成部上位の南壁沿って４本、北壁に沿って10本、やや中軸に近いところで１本確認した。杭痕の直径はいずれも５cm程度で、深いもので床面下20cmの深さまで打ち込まれている。側壁の杭間の距離は20cm前後の間隔で比較的密に打たれている。

第４床面の最終操業時の焚口では、焼土（縦断面３層）20cmほど盛り上げている。

第３床面を貼り重ねたときに燃焼部と焼成部の間に６cm程度の段を付けている。さらに

第４床面を貼り重ねたときにも同様に６㎝程度の段を付けている。

第４床面直上には鉢を主とした遺物が残存していた。特に、鉢の底部のみを床面の上に伏せたものが目につく。これらは焼き台と考えられるもので、列状に並べたと仮定すると、焼成部の残存部分のみで焼き台の列が10列程度設けられたと推定される。

（４）４号窯

４号窯は煙道部と焼成部のほとんどを欠損している。床面の重複は認められない。

窯体の残存長は3.30ｍで、窯体の残存レベルは良好なところで10㎝程度である。床面の幅は残存状況が良くないためやや不明瞭であるが、燃焼部で1.1ｍ前後である。

床面の傾斜角度は、焼成部のわずかな残存部分からみると10°程度であるが、残存状況が良くないのでよくわからない。燃焼部の傾斜角度も10°程度である。

床および壁はスサ入り粘土を燃焼部で６㎝程度、焼成部で13㎝程度貼り付け、焼成により表面が青色に還元し、内部が黄化している。

窯体は地山をほとんど掘り込まず、壁面の背後は盛土がなされていたようで、地上式の構造をとっていた。盛土は西壁の背後に黄色極細砂（断面１層）がわずかに残存するのみである。

窯体の床面・壁面の粘土層を取り払うと、床面下に杭痕が確認できた。杭痕は燃焼部の中軸線に沿って２本、西壁に沿って２本、東壁に沿って２本確認した。杭痕の直径はいずれも５㎝程度で、床面下10㎝の深さまで打ち込まれている。

燃焼部と焼成部の間に６㎝の段を付けている。この段は２・３号窯と異なり、当初より設けられていたようである。

床面直上に遺物はほとんど残存していなかったが、燃焼部中央に長さ50㎝、幅60㎝程度の窯壁の塊が置かれていた。

４号窯には溝と土坑が付属している。溝は窯の前方に延びる溝（前溝）、西をめぐる溝（西溝）、東側に延びる溝（東溝）がある。前溝は燃焼部の中の浅い溝からはじまり、焚口のところで深くなり、ほぼまっすぐ南東へ約13ｍ程度のびている。西溝は前溝の途中から西側へ４号窯を巡るように弧状にのびている。東溝は西溝と同じ所で前溝から分岐して北方へ約6.8ｍのびている。深さは10～15㎝程度である。これらの溝は４号窯の灰原で埋まっていた。

土坑は焚口の西側に２基（西前土坑）、東側に１基（東前土坑）検出された。西前土坑は直径0.8ｍ、深さ７㎝のほぼ円形の土坑とそれを切る直径1.1ｍ、深さ26㎝のほぼ円形の土坑である。東前土坑は直径1.7ｍ、深さ27㎝の不整円形の土坑である。いずれも深さは浅いもので、埋土は炭を多量にふくんでいる。

（５）５号窯

南の側壁のごく一部を欠損するのみで、焚口から煙道部まで完存している。

床面は３面確認できる。第２床面はほぼ全面を貼り重ねたもので、煙道部付近は張り替えられている。焚口部では、さらに小さな修復が認められる。第３床面は燃焼部のみを貼

り重ねたものである。

窯体の全長は8.20mで、煙道外の土坑まで含めると9.58mである。窯体の残存レベルは残りのよいところで73cm程度で、天井部まで高さは焼成部中位で80cm程度と推定される。

床面の幅は焼成部の中位で1.44mと最も広く、焚口部と煙道部に向かって狭くなっている。焚口は幅0.80mとすぼまっている。なお、燃焼部は2号窯と同様に谷の低いほうに向かってわずかに曲がっている。

煙道部は長さ30cm、幅50～44cm、残存高20cmで、ほとんど傾斜をもたずに外側に開口している。その外側には長径1.88m、短径1.38mのおむすび形の円形土坑を掘っている。

床面傾斜角は第1・2床面で15°、第3床面では13°を測る。

床および壁はスサ入り粘土を10～16cmほど貼り付け、焼成により表面が還元し、内部が黄化している。

窯体は完全に地山もしくは灰原層の上に築かれる地上式の構造をとっている。盛土は他の窯とは異なり、壁面背後に黄色細砂を一度に厚く積み上げているところが多いようである。また窯中軸線より約2mはなれた北側盛土中あるいは盛土裾と考えられるところで、鉢を伏せて2・3個重ねたものが8つ、1列に並べられていた。

窯体の床面・壁面の粘土層を取り払うと、床面下に杭痕が確認できた。検出位置はややランダムに、窯体の中軸線に沿って1本、南壁に沿って12本、北壁に沿って11本、その他3本を確認した。杭痕の直径は8～4cmと不統一である。深いもので床面下22cmの深さまで打ち込まれている。さらに、煙道部付近ではわずかであるが横木も検出されている。

第3床面の最終操業時には、床面はきれいにかたずけられたらしく、遺物はほとんど残存していなかった。また、その埋土は天井がそのまま窯体内に落ち込んだ状態であった。

（6）6号窯

2号窯の南西隣に位置する。窯の形態は、平面形がほぼ円形を呈した燃焼部の上に焼成部が造られている直焔式の煙管状窯である。焚口、燃焼部、焼成部より構成されている。窯体は礫の多く混じった地山を60cm程掘り込んで構築されている。焼成部上方は削平されていたが、その他は良好な状態で残っていた。窯壁は全体的に余り焼けておらず赤色酸化層と黄化還元層だけで、焚口部分を除いて馬蹄状に検出された。一度修復した痕跡があり、やや小さめに造り直されている。

窯体の規模は、焼成部の直径約60cm、燃焼部の床面径約40cm、残存高60cm程度を測る。

燃焼部と焚口の境の左側の窯壁には平瓦が凸面を内側にして、右側の窯壁には丸瓦が凸面を内側にして埋め込まれていた。これは窯壁を補強するためではないかと考えられる。燃焼部及び焼成部の壁は垂直に立ち上がっている。燃焼部の左右両側の壁には、あまり焼けの良くない平瓦が凸面を内側にして埋め込まれており、奥壁には丸瓦が凸面を内側にして縦に埋め込まれている。

焼成部は残存状況がよくないため、不明瞭な点が多いが、焼成部の上方は漏斗状に上が開く形状を呈しているようである。燃焼部と焼成部の間仕切りとなる構築物は確認できなかったが、窯体内部から多くの瓦片が出土していることから、これらを組み合わせて間仕

切りとしたものと考えられる。

焚口は幅は30cm程度で、高さは50cmはあったと考えられる。焚口部には生焼けの平瓦が２枚落ち込んでおり、これらが焚口の天井のアーチ部分を構成していたと考えられる。

焼成部の底の部分では土師質の小皿などが検出された。ＳＤ０１東端部での土師器の出土状況とあわせて考えてみると、これらがこの窯で焼かれた製品である可能性が高い。また、焚口部の手前の左側に完形の壺が伏せた状態で据えられていた。これは窯を放棄する時に据え置かれたもので、窯廃絶にかかわる祭祀的行為である可能性も考えられる。

このような煙管状窯の報告例は、神出窯跡群では茶山１号窯（12前紀前半[4]）、宮の裏４号窯（12世紀末～13世紀初[5]）、時期は不明であるが神出町東の中ノ池の北側で確認された窯状遺構が見られる[6]。その他、魚住窯跡群38号窯（12世紀初[7]）、40号窯[8]、小野市勝手野の勝手野古墳群の８号墳の墳丘を利用して造られた勝手野４号窯[9]などがあり、播磨では須恵器を焼成する窖窯と一緒に検出されることが多い。これに対して、須恵器の窯から離れている例としては、三田市木器の木器４号窯[10]がある。現在のところは、須恵器の窖窯と共存する例が圧倒的に多いが、煙管状窯単独で操業している例が今後増える可能性も否めない。

（７）７号窯

近世以降の水田造成の時に焼成部の上半を削平され、焚口から焼成部の下半までが残存していた。床面は３面確認することができた。第２床面は第１床面の燃焼部のみ貼り替えたもので、第３床面は第２床面に全面的に貼り重ねたものである。

最終床面である第３床面で窯体の規模を見てみると、窯体の残存長は5.10ｍを測る。窯体床面の幅は焼成部で最大幅1.60ｍを測る。燃焼部では第２床面で幅1.20ｍであったものが、第３床面で1.02ｍとすぼめられている。窯壁の残存高は残りのよいところで60cmを測る。第２床面の床を窯壁や焼土の混じった粘質土で嵩上げして傾斜が緩くなるように造り直され、床面の傾斜角は、燃焼部の第２床面で10°前後であったものが、第３床面で８°を測る。焼成部の傾斜角は16°を測る。

床および壁はスサ入り粘土を10cm程度貼り付け、工人の指の痕が確認できる。焼成により表面が還元し、内部が黄化し、燃焼部には著しく自然釉が付着していた。

窯体は地山の黄色シルト質極細砂層もしくは砂礫層を最大50cmほど掘り込み、壁面の背後のほとんどは盛土がなされている。ほとんど地上式といってよい構造である。盛土は第１床面時の壁面背後に黄色極細砂（横断面Ａ－３層）、その上に砂礫（横断面Ａ－２層）を積み上げている。その上に黄色シルト質極細砂（横断面Ａ－１層）が堆積しているが、当初の盛土かどうかはわからない。

第２床面の燃焼部から焼成部の下位にかけての床面下には平瓦と丸瓦が並べられていた。瓦敷の範囲は長さ2.6ｍ、最大幅1.4ｍを測る。瓦は窯の軸線に沿うように並べられていた。瓦の並べ方は、燃焼部側と焼成部側で異なっていた。燃焼部側では平瓦の列と丸瓦の列が交互に並んでおり、平瓦は凹面を上に、丸瓦は凸面を上にしている。焼成部側は主に丸瓦と小型の平瓦を凸部を上にして並べているが、僅かに軒丸瓦の瓦当面や平瓦、鉢の底部が混じっていて焼成部よりは、少し雑然と並べられている。また、焚口から燃焼部に

窯体名	形式	残存長	最大幅	傾斜角度	床面数	段	杭	備　考
1号窯	窖窯	11.38	1.94	18～20	4		○	数値は第2床面のもの
2号窯	窖窯	7.50	1.45	16	2	○	○	
3号窯	窖窯	7.22	1.64	12～13	4	○	○	
4号窯	窖窯	3.30	(1.1)	(10)	1	○	○	
5号窯	窖窯	8.20	1.44	13～15	3		○	北側盛土に須恵器鉢列
6号窯	煙管状窯	1.40	0.40	——	2			
7号窯	窖窯	5.10	1.60	16	3			床面下に瓦敷

第4表　窯体一覧表

かけての盛土部分も、この時にほぼ完全に盛りなおされたようである。

第3床面の最終操業時の床面には、焼台として使用されたと考えられる鉢の底部が多く残存していた。ただし、小さな破片が多く、どのぐらいの製品を並べて焼いていたのかは推定できなかった。

この窯が他の窯と比べて特異な点として、焚口部分から焼成部にかけての床面の下に平瓦と丸瓦が窯の軸に沿って敷きつめられていることである。このようなものは他の東播系の窯では確認されておらず、これと似たような例としては、東海地方の中世窯で認められる。[11] 東海地方の中世窯には床面の下に暗渠状の溝を設け、その中に失敗した山茶碗などの製品を並べていたり、窯体の床面の下全面にわたって山茶碗を伏せて並べ、その隙間には木の枝を埋めている例がいくつかみられる。これらは窯内の除湿、排水するための設備と考えられている。このなかで、床面下に瓦を敷いたと考えられる例としては、愛知県の八事裏山1号窯（H－G－85号窯）がある。[12] この窯では、7号窯の様に瓦が整然と並べられてはいないが、同じく窯体内の湿度の調節を目的としたものとかんがえられている。

（8）8号窯

灰原Pの上につくられた焼成遺構である。上面がかなり削平されていて、その構造は不明瞭である。遺構は灰原層とその上に堆積した黄色細砂層を掘り込んで築かれている。残存部分の平面形は長さ1.33m、幅1.54mの不整楕円形である。床面は平坦で、長さ1.12m、幅1.48mの不整楕円形である。その山側の半分は壁が上方に立ち上がるようで、奥壁で20cm

立ち上がっている。床面は厚さ２㎝程度と薄く粘土を貼りつけたのみである。しっかりと焼けないで、黄化した状態である。床面の周囲は赤化している。床面直上には、炭を多く含んだ土が薄く堆積し、遺物はほとんど含まれていなかった。土器を焼成した窯とは考えがたく、炭窯などの可能性が考えられる。同様な例としては三木市久留美窯跡群毛谷支群の４号窯などがある[13]。

（９）ＳＢ０１

ＳＢ０１は掘立柱建物跡で、窯跡群が分布する谷に臨む西側の台地上に立地している。概ね東西に長軸をもつ、２間（4.6ｍ）×３間（7.0ｍ）の総柱の建物跡である。建物中央の東西（長軸方向）柱間の距離が（2.6ｍ）と、他の東西柱間（2.0～2.4ｍ）より大きい点に特徴が見いだされる。建物跡の南側は、地山面が１段低くなっていたが、建物跡中央付近の正面では、幅1.0ｍ、延長1.4ｍの通路状の斜面が認められた。

(10) ロクロピット

ＳＢ０１の中央の柱間に６基（Ｐ14、15、17、20～22）、北東の区画に２基（Ｐ13、18）の柱穴が検出された。これらのうち４基（Ｐ17、18、20～22）はごく浅いものであったが、他の４基（Ｐ13～15）は、柱根部の周辺を、拳大の礫数個～十数個で固定する構造をもち、ＳＢ０１の主柱穴とは大きく構造を異にしている。柱穴内に埋設された礫は、柱を強固に固定する効果を有するものと考えられた。これは、梁・桁を介して他の柱と相互に固定しあうという、建物跡を構成する柱と異なり、単独で機能しなければならない柱を意図した結果と推定された。従って、遺跡の機能をあわせて勘案するならば、これら４基の柱穴は、ロクロピットと解釈するのが穏当と言えよう。当該柱穴が、柱間の最も広い建物跡中央部――換言するならば、最も広い作業空間――に位置することも、上述の推定を妨げない。

(11) ＳＤ０１

ＳＤ０１は、掘立柱建物跡の南東側に位置する。幅約35～70㎝、延長約12ｍにわたって検出され、ゆるやかに蛇行しつつ、東端は６号窯の南側で、窯跡群が立地する谷に向かって開いている。ＳＢ０１の南側に位置する浅い落ち込みに溜まった水を排水するためにつくられたものと思われる。

ＳＤ０１の東半部では、酸化焼成された土師器の椀を中心に、多数の遺物が集積された状況で検出された。椀の多くは、口縁部を上にして重ねられた状態で検出されており、一括性の高い埋没状況と考えてよい。

ＳＤ０１の西半北側では、溝に沿って須恵器片口鉢の集積（ＳＤ０１北側土器群）が検出された。集積はほぼ直線的におこなわれており、鉢８単位からなる。各単位では、鉢２・３個体が口縁部を下にして重ねられており、明瞭な意図を持った人為的集積であることが明らかである。溝に平行する集積であることから、溝に伴うなんらかの機能をもつ施設に鉢を転用した可能性と、出荷等にともなう集積が何らかの理由で遺棄された可能性の両者が勘案されよう。

(12) 灰原

灰原は谷を埋めつくす形で広がっている。その範囲は全長約70m、最大幅14m、灰原層の最も厚いところで深さ約1.4mもある。複数基の窯が長期間にわたって操業したため、その形成過程は複雑である。以下にサブトレでの観察や遺物の出土状況をもとに、各地区ごとの状況を述べる。

灰原A・Bは4号窯の周囲に広がる。上層の1－A層は4号窯の灰原と考えられ、A・B地区の全域にひろがっている。下層の1－B層は3号窯の灰原と考えられ、谷の深い部分（A11、A16、B4、B7）にのみ広がっている。

灰原C～Fは3号窯の周囲に広がる。5－A層は4号窯の灰原と考えられ、灰原Cを中心にして広がっている。5－C、D、F層は3号窯の灰原と考えられる。

灰原G・Iは5号窯の周囲に広がる。7－C層、8－I・J層は2号窯の灰原と考えられるが、灰原G・I側ではほとんど見られない。7－K・8－K層は5号窯の灰原と考えられる。

灰原H・Jは2号窯の周囲に広がる。7－C層、8－I・J層は2号窯の灰原と考えられる。下層の7－K・8－K層は5号窯の灰原と考えられる。

灰原K・Mは1・7号窯の対面に広がる。灰原Kでは谷側（K1・4・7）の上層であるQ・T層が2号窯・5号窯・7号窯の灰原と考えられ、。谷側の下層であるU層と山側（K2・3・5・6・8・9）は1号窯第1・2床面の灰原と考えられる。灰原Mは層位的に取り上げることができなかったためよくわからないが、1号窯第3・4床面・7号窯の灰原が多くを占めているものと思われる。

灰原L・N・Oは1・7号窯の周囲に広がる。灰原LやN・Oの上層であるQ・S・T層は2号窯・5号窯・7号窯の灰原と考えられる。灰原N・Oの下層であるU・V層は1号窯の灰原であると考えられる。

灰原P・Qは1号窯の南側に広がる。灰原P1～3・Q1～3の12－Y層はほぼ1号窯第3・4床面と考えられ、あるいは7号窯の灰原も含んでいる可能性がある。灰原P4～8・Qの12－Z層は1号窯第1・2床面の灰原と考えられる。その他の部分は両方の灰原を含んでいると考えられる。

灰原R・Sは谷の最下部に広がる。灰原Rはほぼ1号窯第1・2床面の灰原と考えられ、灰原Sは1号窯第3・4床面の灰原が含まれているものと思われる。

第４章　遺物について

第１節　須恵器

（１）須恵器の分類

①　鉢

鉢は径30㎝弱のものが一般的で、そのほかにやや径30㎝以上のやや大形のものがある。体部内外面に比較的粗い回転ナデを施し、口縁端部のみに回転ナデを施す。最後に粘土紐の積み上げによって生じた内面の凹凸をなくすために、底部および体部内面にななめ上・横方向の仕上げナデを施す。体部内面の最終調整に回転ナデを施すものは極めて少数である。底部はすべて糸切りであるが、小粘土塊の付着や繊維痕がみられるものが多い。底部周縁をヘラ削りやナデを施しているものもある。また少数ではあるが、口径がやや大きく、輪高台をもつものがある。口部については片口のものがほとんどである。その他、両口のものは１固体（230）のみで、魚住窯跡群で出土している三口のものは確認することができなかった。

主として口縁部の形態により分類する。

鉢Ａ　　体部内面と口縁端面がほぼ直角をなすものである。
　鉢Ａ１　　端部が突出しないもの。
　鉢Ａ２　　端部が外側に突出するもの。
　鉢Ａ３　　端部が内側に突出するもの。
　鉢Ａ４　　端部が内外両方に突出するもの。
鉢Ｂ　　口縁端面が外側に傾斜するものである。
　鉢Ｂ１　　端部が肥厚しないもの。
　鉢Ｂ２　　端部が肥厚するもの。
　鉢Ｂ３　　端部が内側に屈折するもの。
　鉢Ｂ４　　端部が段をなして外側に張り出すもの。
鉢Ｃ　　口縁端部に円みをもつもの。
鉢Ｄ　　体部が強く内湾するもの。魚住窯跡群水口分類の鉢Ｄ類に類似する。

②　小鉢

径20㎝程度の小形の鉢である。調整等も鉢とほぼ同じであるが、体部内面の調整は回転ナデをほどこしている。分類は鉢に準ずる。小鉢はＡ類のものがほとんどで、それ以外のものは極めてまれである。

③　碗

調整は内外面とも回転ナデをほどこす。底部は糸切りで、鉢と同様の小粘土塊の付着や板目痕がみられる。明瞭な平高台は認められず、輪高台をもつものがごく少数ある。また、

少数ではあるが片口をもつもの（片口碗）もある。

碗A　底部円盤の上に粘土紐を積み上げるもの。ただし、見込みがそれほど明瞭には凹まない。
　碗A１　体部が比較的丸く内湾するもの。
　碗A２　体部が直線的にひらくもの。
碗B　底部円盤の横から粘土紐を積み上げるもの。
片口碗　指頭で上から押すようにして片口を付けるもの。普通の碗に比べてサイズがやや大きい。

④　小皿

口径10cm弱の小型の皿である。調整は内外面とも回転ナデをほどこす。底部は糸切りで、鉢と同様な小粘土塊の付着するものもある。

小皿A　器高が高く、体部がやや内湾しながら開くもの。
小皿B　器高が低く、体部がやや内湾するか、直線的に開くもの。
小皿C　器高が低く、体部がやや外反しながら開くもの。

⑤　甕

整理期間の都合により、灰原出土遺物については十分な接合が行うことができなかったため、全形を復元することができなかった。そのため、主として口縁部と体部上半について述べることとする。

体部の外面はタタキをほどこし、内面はナデにより当て具の痕跡を比較的丁寧に消している。外面のタタキはすべて平行タタキである。口縁部は回転ナデをほどこしている。底部は丸底で、砂、粘土塊、木葉痕（826）が付着したものがある。

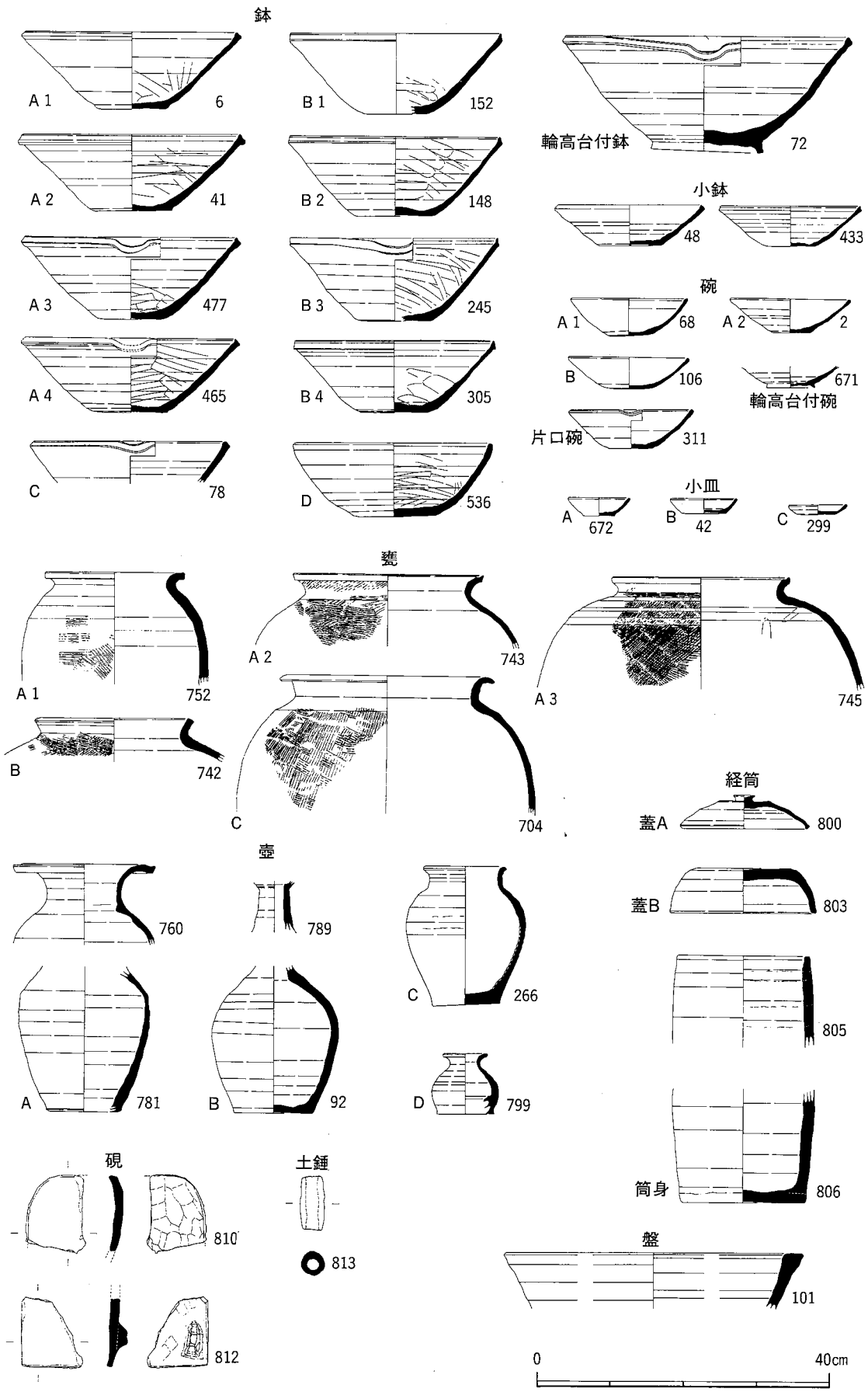
主として口縁部の形態により分類する。

甕A　口縁端部内面に凹みを持つもの。
　甕A１　端部が方形になるもの。
　甕A２　端部が上方あるいは上外方へ拡張するもの。
　甕A３　端部や端面にまるみをもつもの。
甕B　口縁端部内面に凹みを持たず、端部が方形になるもの。端部が上方に向く場合が多い。
甕C　端部の先端がまるいもの、先端に向かって細くなるものが多い。

⑥　壺

壺は４種類に分類する。

壺A　口縁部が大きく開く広口壺である。底部は糸切りである。口縁端部は内面に凹みをもつものが多い。端部がまるいものもある。肩部に突帯をもつものはない。壺Aは堂の前支群



第５図　須恵器器形分類図

出土の肩部に一条突帯をもつ壺に後続する形態のものとおもわれる。

壺B　頸部の細長く延びる形態のものである。口縁部分は出土していないが、L字状の受け口となるようである。

壺C　口縁が短く外反して広がる短頸壺である。短く上方に立ち上がる頸部をもつものともたないものがある。口縁端部は尖り気味になっている。調整は内外面とも回転ナデをほどこし、底部は糸切りである。

壺D　小型の短頸壺である。短く外反して広がる口縁をもち、端部はまるい。体部はやや下ぶくれとなっている。調整は内外面とも回転ナデをほどこし、底部は糸切りである。出土したのは799の1固体のみである。

⑦　経筒

筒身と蓋が出土している。

筒身　804～808はやや胴張り気味の円筒形の体部をもつものである。口縁部は上方に直立し、先端に向かって薄くなっている。口縁部外面には縦方向のナデをほどこし、口縁部には回転ナデをほどこしている。内面は粗い回転ナデをほどこして粘土紐の接合痕を消している。底部に木葉痕を残している。

809は804～808より体部がふくらむもので、口縁部の固体は出土していない。体部外面に平行タタキをほどこし、内面は斜め方向にナデが施されている。底部に木葉痕を残していることから、経筒の可能性が高いと考える。

蓋A　小鉢を浅くして、裏返したような形態で、つまみが付いている。調整は内外面とも回転ナデがほどこされている。今のところ、消費地（経塚）でのこのように東播系須恵器のつまみの付く蓋の出土例はみられない。つまみの付かないものであれば滝ノ奥経塚出土例が類似する。

蓋B　浅い鉢を裏返したような形態で、天井部に木葉痕を残している。内外面ともに粗い回転ナデをほどこし、内面見込みには不整方向のナデがほどこされている。

須恵器製の経筒が出土しているのは県下で13ケ所で、底部に木葉痕をもつものは伽耶院経塚・二塚古墳経塚・福地経塚で出土している[14]。このうち二塚古墳経塚出土陶製外筒が形態・調整からみて極めて類似し、本窯の製品である可能性が高い[15]。

⑧　硯

出土した硯はすべて風字硯である。硯頭部が2固体と硯尻部が1固体出土している。裏面、側面、脚部はケズリで成形・調整され、表面（硯面）は丁寧にナデがほどこされている。

⑨　土錘

出土した土錘はすべて管状土錘で、3固体出土している。胴部がふくらむもの(814・815)

とふくらまないもの（813）がある。外面はナデで調整されている。

⑩　盤

口縁部は拡張しながら開き、端面が水平になるものである。２固体出土している。口径は小破片のためさだかではないが、40cm以上と考えられる。類例は玉津田中遺跡（須恵器盤１）[16]、神出東遺跡[17]などで出土している。これらの類例から考えると脚が付く可能性が高い。

（２）須恵器の出土状況

第１章第４節で述べたように、出土した遺物はサブトレンチ・包含層出土のものを除いて「口縁部計測法」により計数作業を行った。遺物の取り上げはおおむね２ｍのグリッドで層位別におこなったが、個別のグリットでは個体数が少ないものがかなり多くあるので、基本的には大区画（Ａ～Ｓ）でのデータを提示し、状況に応じて分割したデータを提示する。なお、土師器も数量に含めてある。

全体では鉢が60％、碗が35％、小皿が２％、甕が２％、土師器が１％を占めている。

窯体床面では比較的良好なデータが得られたが、窯体埋土や灰原などでは、鉢の口縁部形態の比率が示すようにかなりの混入した状態が認められるようである。以下に各遺構、灰原での状況を示す。

①　１号窯

第２床面の床面では鉢が73％、碗が19％、甕が８％出土している。第２床面の最終操業時には鉢を主体に生産が行われた可能性が高い。鉢はＡ類が96％を占め、Ａ類のみを生産していたようである。第２床面の埋土では碗が58％と多くを占め、鉢もＢ類が49％を占めている。第３床面以前の状況を示しているものと思われる。

②　２号窯

碗が床面で95％、埋土で87％とほとんどを占め、最終操業時には碗のみを生産したものと考えられる。鉢はＢ類が埋土で86％を占めている。

③　３号窯

床面では鉢が78％、碗が22％出土している。最終操業時には鉢を主体に生産が行われた可能性が高い。鉢はＢ類が床面で93％を占めている。

④　４号窯

床面からは碗が少量出土しているのみで、ほとんど遺物は出土していない。埋土で鉢が13％、碗が87％、４号窯に付属する溝・土坑（４号窯関連遺構）で鉢が37％、碗が62％出土している。碗を主体とした生産が行われた可能性が高い。鉢はＢ類が床面で93％を占めている。鉢はＢ類が埋土で94％、関連遺構で95％を占めている。

⑤　5号窯

床面からは鉢が少量出土しているのみで、ほとんど遺物は出土していない。埋土で鉢が57％、碗が43％出土している。鉢はＢ類が埋土で90％を占めている。北側盛土の鉢列では99.4％がＢ類で、特にＢ３類が51％と高い比率を占めている。

⑥　7号窯

床面で鉢が３％、碗が92％、小皿が５％、埋土で鉢が９％、碗が84％、小皿が５％出土している。最終操業時にはくほぼ碗のみを生産したものと考えられる。床面では鉢Ｂ類のみが出土しているがごく少量である。鉢は埋土でＢ類が98％を占めている。

⑦　灰原Ａ・Ｂ

上層の１－Ａ層では鉢Ｂ類が98％を占め、１－Ｂ層では鉢Ａ類が10～20％代とやや多い。１－Ａ層が４号窯、１－Ｂ層が３号窯の灰原と考えられる。鉢は１－Ａ層がで50％代、１－Ｂ層で70％を占めている。

⑧　灰原Ｃ・Ｅ

灰原Ｃ　５－Ａ層や灰原Ｃ５　５－Ａ層では鉢Ｂ類が90％以上を占め、４号窯の灰原と考えられる。その他はほとんどが３号窯の灰原と考えられ、特にＡ類が50％を超えるものは、３号窯のなかでも古い時期のものである。鉢は60％以上を占めている。

⑨　灰原Ｄ・Ｆ

灰原Ｄ　５－Ａ層や灰原Ｆ　６－Ｃ層では鉢Ｂ類が90％以上を占め、４号窯の灰原と考えられる。その他は灰原Ｃ・Ｅと同様に、ほとんどが３号窯の灰原と考えられ、特にＡ類が50％を超えるものは、３号窯のなかでも古い時期のものである。上層の４号窯の灰原では鉢は60％以上を占めているものが多いが、下層の３号窯の灰原部分では鉢が60％以下のものが多い。

⑩　灰原Ｇ・Ｉ

灰原Ｉ　８－Ｋ層を除き鉢Ｂ類が80％以上を占めている。灰原Ｇ　８－Ｉ層が２号窯の灰原、その他が５号窯の灰原と考えられる。５号窯の灰原部分では鉢が60％前後である可能性が高い。

⑪　灰原Ｈ・Ｊ

上層の灰原Ｈ　７－Ｃ層や灰原Ｊ　８－Ｉ・Ｊ層はＢ類が80％以上を占め、下層になるにしたがってＡ類が40～50％前後まで増える。上層は２号窯の灰原で、下層は５号窯の灰原と３号窯の灰原が混在している可能性が高い。鉢が70％前後を占めている。

⑫　灰原Ｋ・Ｍ

灰原Ｋでは斜面の谷側（Ｋ１・４・７）と山側（Ｋ２・３・５・６・８・９）では様相を大きく異なり、谷側の上層（８－Ｑ・Ｔ層）では、鉢Ｂ類が80％前後を占めているが、谷側の下層（８－Ｕ層）と山側では鉢Ａ類が70～80％程度を占めている。前者は２号窯・７号窯の灰原、後者は３号窯あるいは１号窯の灰原と考えられる。灰原Ｍは鉢Ｂ類が80％前後を占めている。

⑬　灰原Ｌ・Ｎ・Ｏ

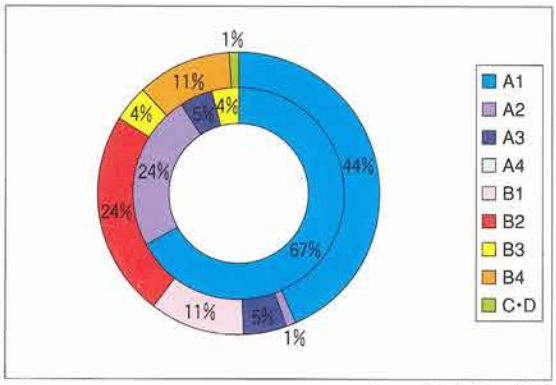
灰原Ｌは鉢Ｂ類が90％以上を占めている。灰原Ｎでは上層の10・11－Ｑ、11－Ｓ層で鉢Ｂ類が90％以上、11－Ｔ層で80％以上を占めている。下層の11－Ｕ・Ｖ層ではＡ類が40～60％を占めている。７号窯の盛土層である11－Ｗ層や１号窯の盛土層である11－Ｘ層では鉢Ａ類が90％前後を占めている。灰原Ｏでは上層の11－Ｓ層で鉢Ｂ類が90％程度、下層の11－Ｕ層で鉢Ｂ類が50％程度を占めている。１号窯の盛土層である11－Ｘ層では鉢Ａ類が60％程度を占めている。

⑭　灰原Ｐ・Ｑ

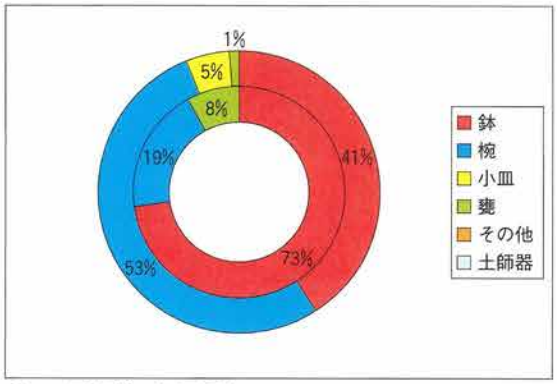
北側のＰ１～３区、Ｑ１～４区の上層である12－Ｙ層では鉢Ｂ類が90％以上、Ｐ１～３区の下層である12－Ｚ層、南側のＰ４～８区、Ｑ５～８区の上層である12－Ｙ層では鉢Ｂ類40％程度、Ｑ１～４区、Ｐ４～８区、Ｑ５～８区の下層である12－Ｚ層では鉢Ａ類が60％以上を占めている。北側の上層は１号窯第３・４床面、７号窯、北側の下層、南側は１号窯の灰原である可能性が高い。鉢が70％前後を占め、甕が20～30％を占めている点が特徴的である。

⑭　灰原Ｒ・Ｓ

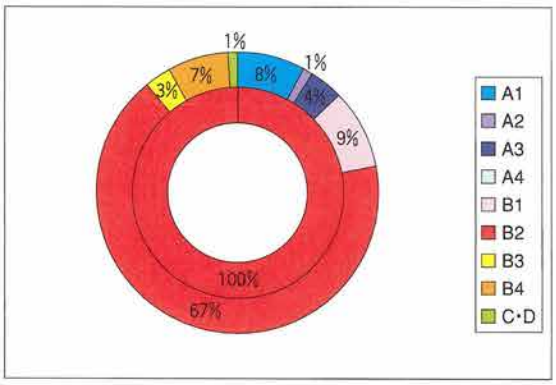
灰原Ｒは出土量が少ないものの鉢Ａ類が90％以上を占めている。灰原Ｓは鉢Ｂ類が60％前後を占めている。いずれも１号窯の灰原であると考えられる。



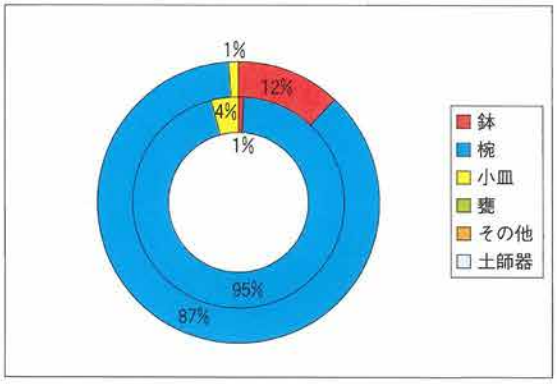
内：1号窯第2床面



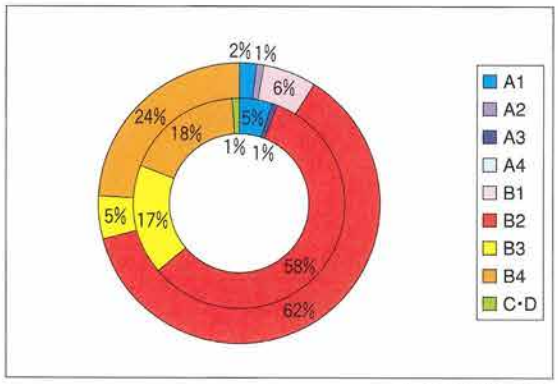
外：1号窯第2床面埋土



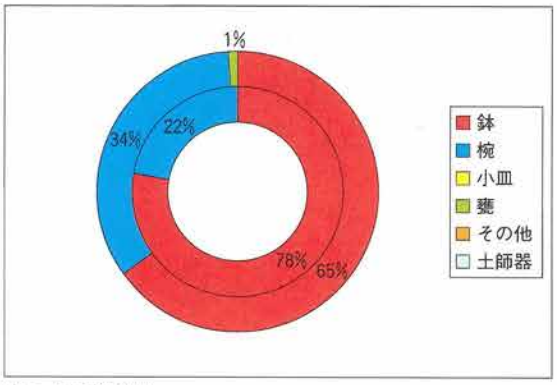
内：2号窯床面



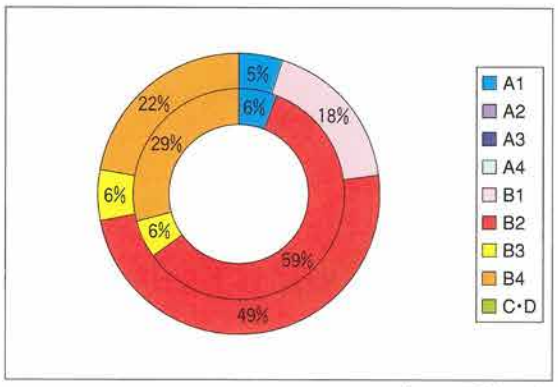
外：2号窯埋土



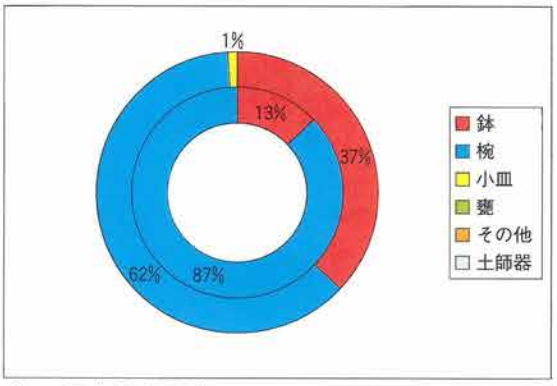
内：3号窯床面



外：3号窯埋土

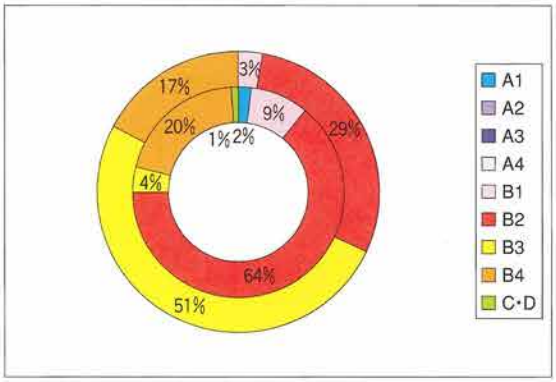


内：4号窯埋土

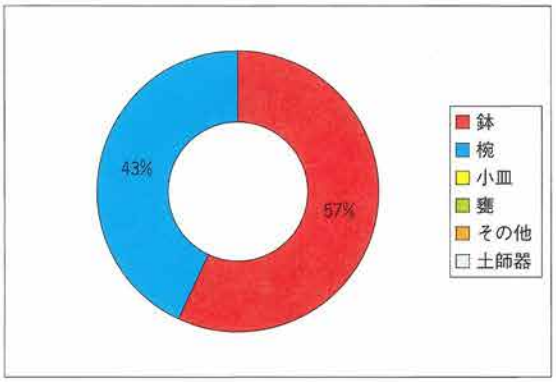


外：4号窯関連遺構

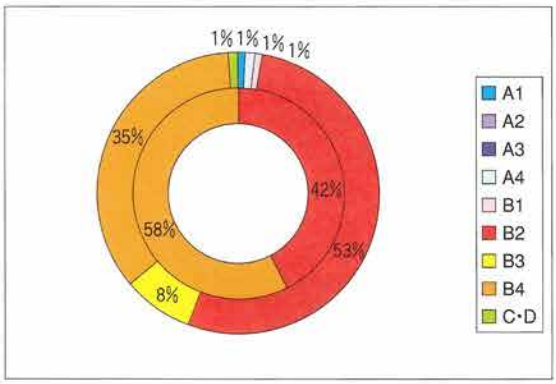
第６図　窯出土遺物グラフ１



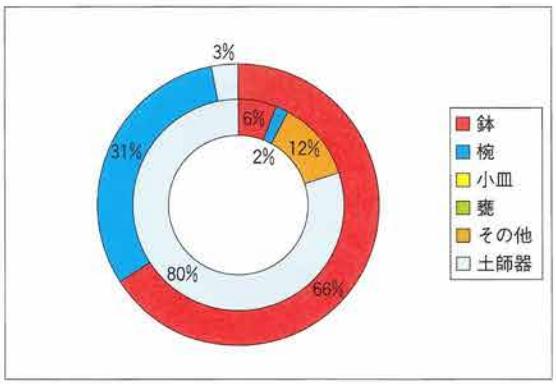
内：5号窯埋土　外：5号窯北側盛土



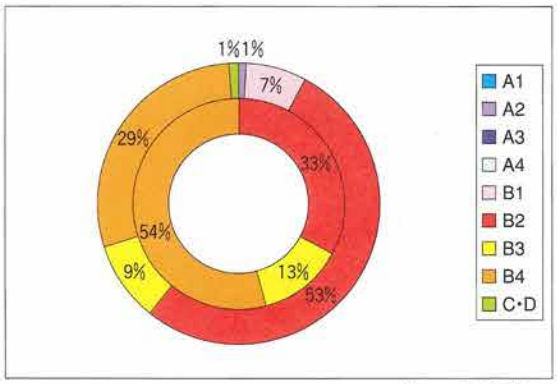
5号窯埋土



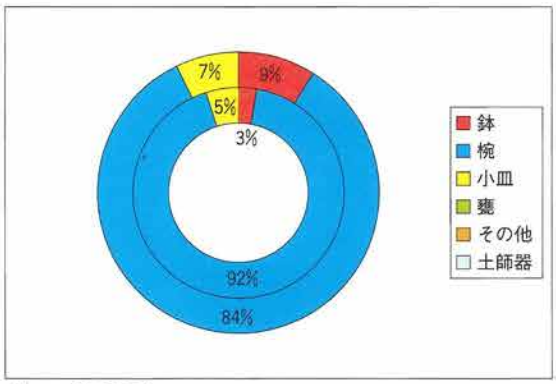
内：6号窯床面



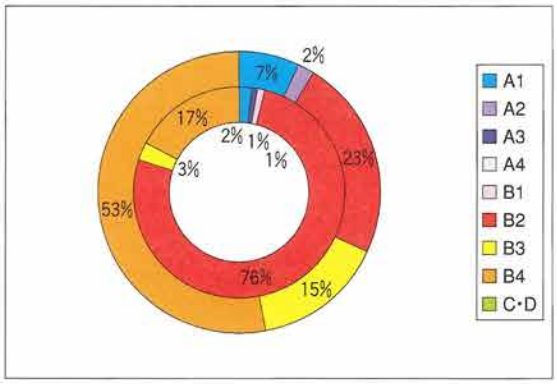
外：6号窯埋土



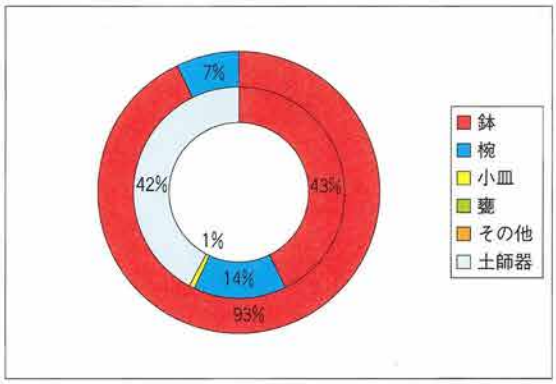
内：7号窯床面



外：7号窯埋土

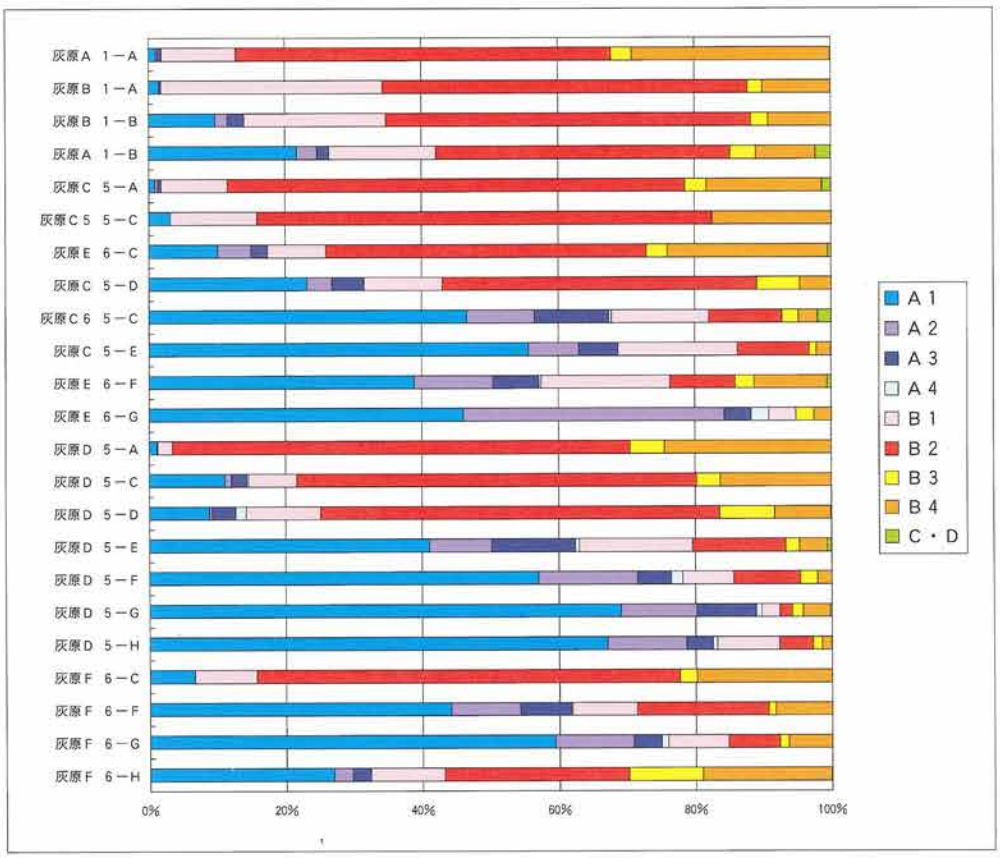


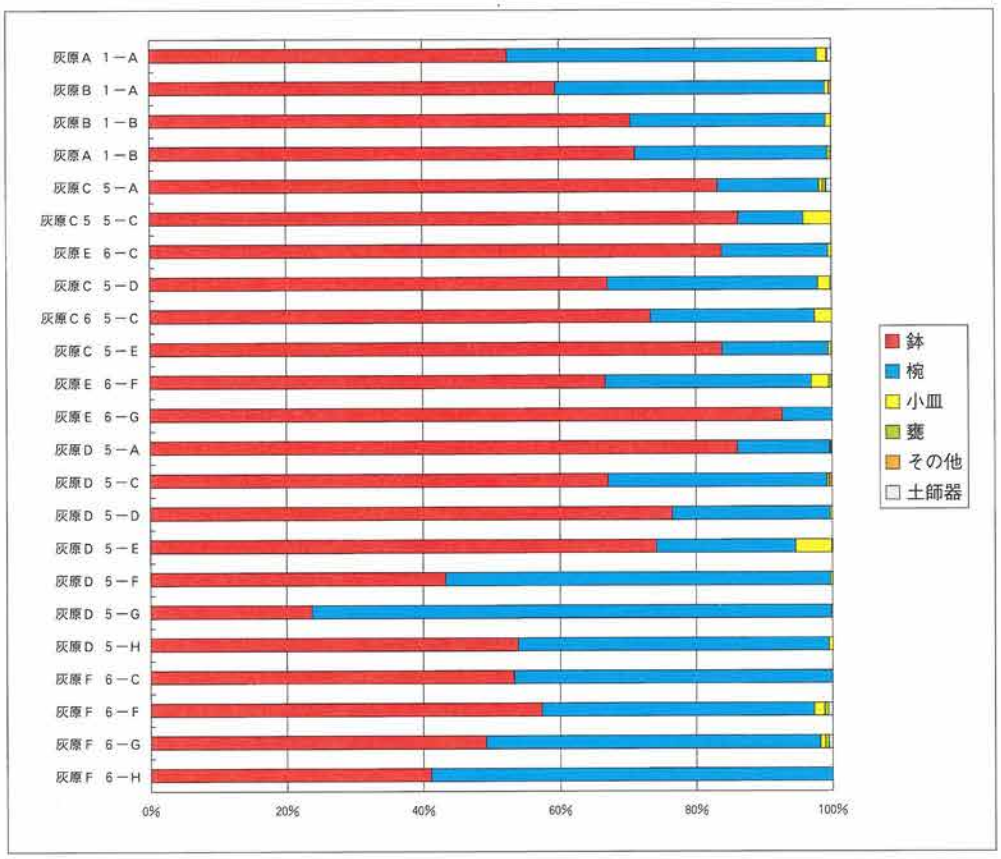
内：SD01



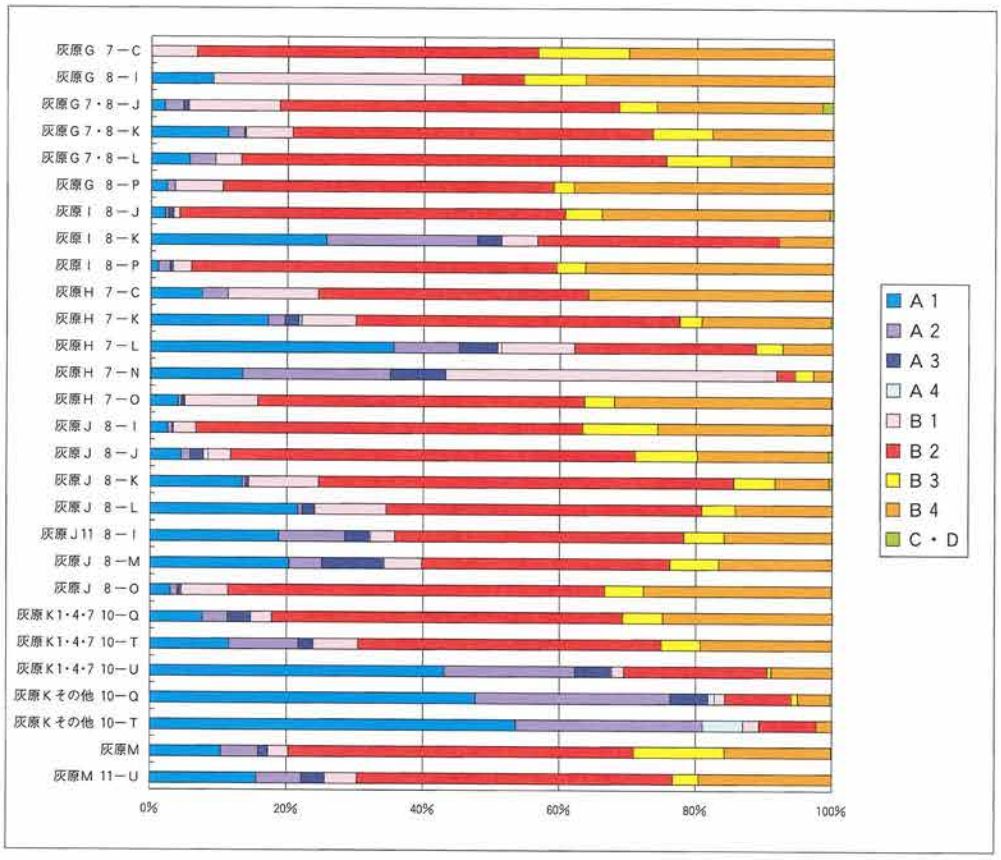
外：SD01北側土器群

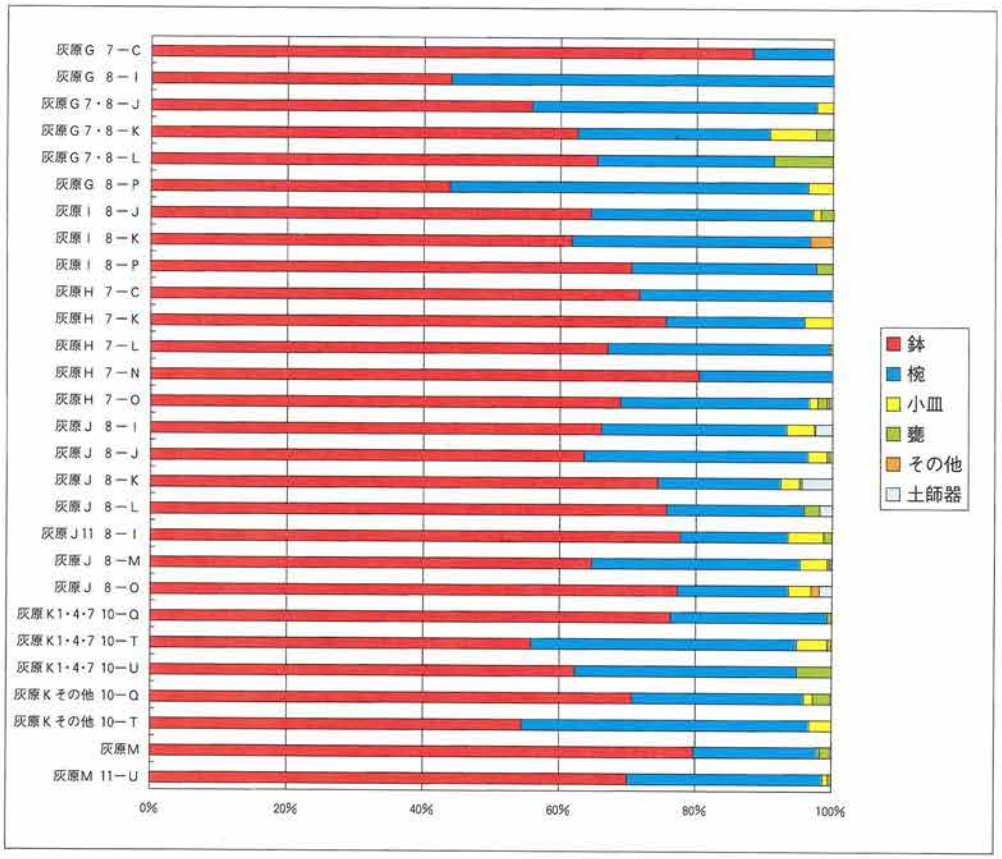
第７図　窯出土遺物グラフ２



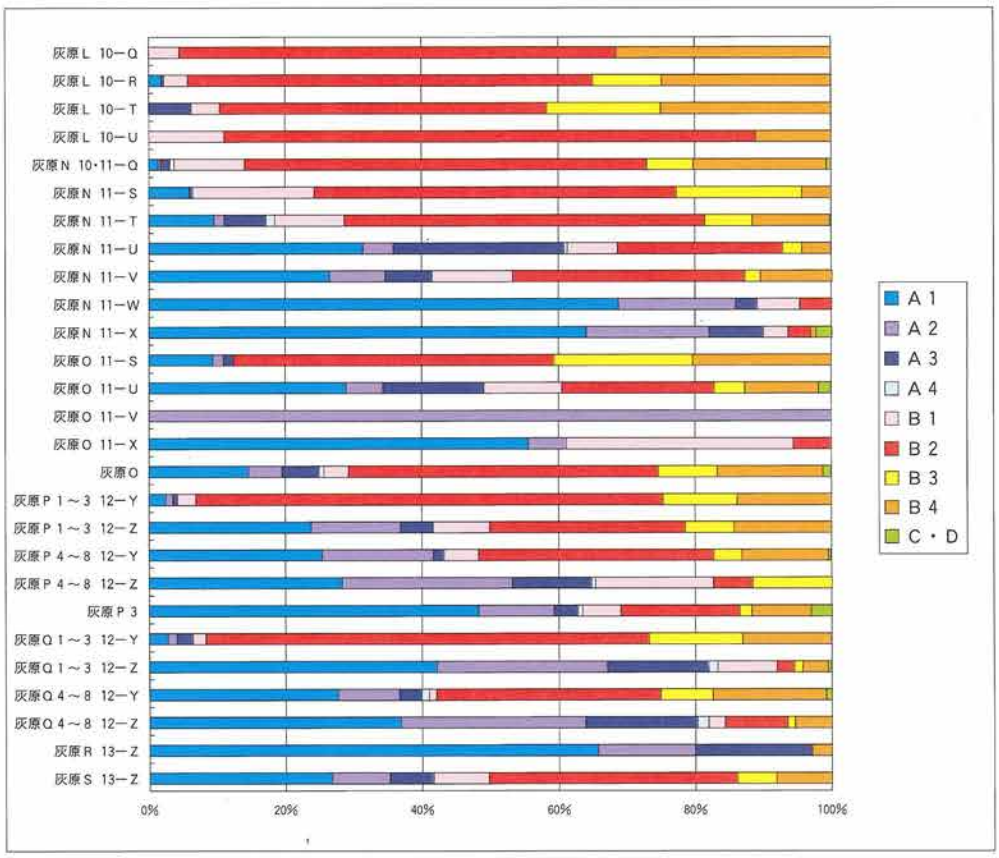


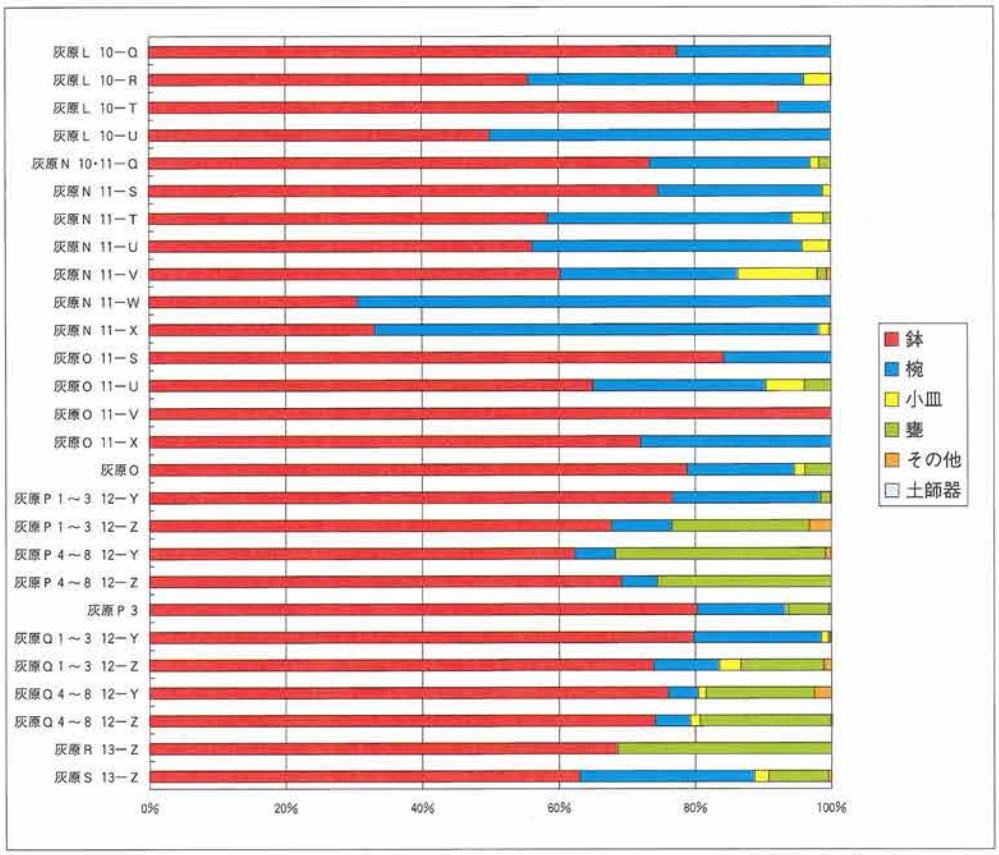
第8図　灰原出土遺物グラフ1





第９図　灰原出土遺物グラフ２





第10図　灰原出土遺物グラフ３

出土位置	須美器						土師器		
	鉢	椀	小皿	甕	壺	その他	椀	小皿	その他
1号窯第2床面床面	124	32		13					
1号窯第2床面埋土	1294	1641	169	18					
1号窯赤焼け	108	168	9	8					
1号窯床内	21	5		6					
1号窯窯第4床面埋土	1								
1号窯第4床面床内	25	34							
1号窯北側溝床面	119	204							
1号窯北側溝埋土	388	1605	139						
2号窯床面	9	1026	44						
2号窯埋土	137	1018	13						
2号窯床内	39	14							
3号窯床面	169	47							
3号窯埋土	289	153						4	
4号窯床面		7							
4号窯埋土	17	119							
4号窯床内		1							
4号窯関連	369	618	11			2			
5号窯床面	7								
5号窯埋土	866	662	3	2			1		
5号窯床内	68	31							
5号窯北盛	500	69	3	6					
6号窯床面	12	4			24		9	155	
6号窯埋土	157	74					4	2	
6号窯床内	2	8							
7号窯床面	15	400	22						
7号窯埋土	145	1351	113						
7号窯床内	104	78	32	1					
7号窯瓦敷	44	4	18						
8号窯埋土	37	19							
ＳＤ０１	378	118	5				340	27	
ＳＤ０１北側土器群	253	19							
ＳＢ，pit	30	20							
落ち込み	280	138		1					
灰原Ａ　１－Ａ	1160	1004	32	2			13		
灰原Ａ　１－Ｂ	401	159		3					
灰原Ｂ　１－Ａ	329	219	3		2				
灰原Ｂ　１－Ｂ	443	180	5						
灰原Ｃ　５－Ａ	1380	247	9	8	1			12	
灰原Ｃ５　５－Ｃ	63	7	3						
灰原Ｃ６　５－Ｃ	496	163	17						
灰原Ｃ　５－Ｄ	384	177	10		1				
灰原Ｃ　５－Ｅ	570	106	3						
灰原Ｅ　６－Ｃ	328	61	2						
灰原Ｅ　６－Ｆ	655	298	25	4					
灰原Ｅ　６－Ｇ	76	6							
灰原Ｅ	16	4							
灰原Ｄ　５－Ａ	796	125		1		1	1		
灰原Ｄ　５－Ｃ	522	250		3	3				
灰原Ｄ　５－Ｄ	521	158	2						
灰原Ｄ　５－Ｅ	1517	417	109	2					
灰原Ｄ　５－Ｆ	602	784		5					
灰原Ｄ　５－Ｇ	379	1216	2						
灰原Ｄ　５－Ｈ（３号窯盛土）	1360	1151	14						
灰原Ｆ　６－Ｃ	121	106							
灰原Ｆ　６－Ｆ	685	478	18	7			7		
灰原Ｆ　６－Ｇ	1051	1046	15	12				11	
灰原Ｆ　６－Ｈ（３号窯盛土）	37	53							

第５表　器種別出土数量一覧表１

出土位置	須美器						土師器		
	鉢	椀	小皿	甕	壺	その他	椀	小皿	その他
灰原G　7－C	30	4							
灰原G　8－I	11	14							
灰原G7・8－J	255	191	11						
灰原G7・8－K	468	211	51	19					
灰原G7・8－L	53	21		7					
灰原G7　8－P(5号窯盛土)	171	205	14						
灰原I　8－J	671	339	12	19					
灰原I　8－K	113	64			6				
灰原I　8－P(5号窯盛土)	923	355		31					
灰原H　7－C	53	21							
灰原H　7－K	739	200	40						
灰原H　7－L	177	86		1					
灰原H　7－N	37	9							
灰原H　7－O(2号窯盛土)	616	248	11	12	4		3		
灰原J　8－I	1470	605	90	4			39	15	
灰原J11　8－I	505	103	34	8					
灰原J　8－J	1622	839	72	11			4	5	
灰原J　8－K	215	52	8	1			13		
灰原J　8－L	162	43		5			4		
灰原J　8－M	824	390	51	5			3		
灰原J　8－O(2号窯盛土)	699	147	30		11		3	14	
灰原K1・4・7　10－Q	1090	329		9					
灰原K1・4・7　10－T	456	319	37	5					
灰原K1・4・7　10－U	167	87		14					
灰原Kその他　10－Q	3036	1084	57	110	8				
灰原Kその他　10－T	84	65	5						
灰原M　11－U	441	181	5	3					
灰原M	2211	508	8	42	6				
灰原MO	545	56	19	25	3				
灰原L　10－Q	89	26							
灰原L　10－R	762	556	54				2		
灰原L　10－T	48	4							
灰原L　10－U	9	9							
灰原N　10・11－Q	292	94	5	7					
灰原N　11－S	185	60	3						
灰原N　11－T	460	283	36	9					
灰原N　11－U	920	651	64	5					
灰原N　11－V	306	133	59	7	3				
灰原N　11－W(7号窯盛土)	64	146							
灰原N　11－X(1号窯盛土)	518	1022	22		5				
灰原O　11－S	64	12							
灰原O　11－U	332	130	29	20					
灰原O　11－V	4								
灰原O　11－X(1号窯盛土)	18	7							
灰原O	830	166	16	41					
灰原P1～3　12－Y	1319	371	3	24	3				
灰原P1～3　12－Z	84	11		25	4				
灰原P4～8　12－Y	558	53		277	7				
灰原P4～8　12－Z	173	13		64					
灰原P3	1337	217	6	99	5				
灰原Q1～3　12－Y	3277	767	43	11	5				3
灰原Q1～3　12－Z	1844	241	78	304	28				
灰原Q4～8　12－Y	458	26	7	96	12	3			
灰原Q4～8　12－Z	371	26	7	96	1				
灰原R　13－Z	35			16					
灰原S　13－Z	544	222	18	75	4				
合計	52644	30124	1855	1609	146	6	446	245	3

第6表　器種別出土数量一覧表2

出土位置	口縁部の分類									合計
	A 1	A 2	A 3	A 4	B 1	B 2	B 3	B 4	C・D	
1号窯第2床面床面	83	30	6				5			124
1号窯第2床面埋土	566	16	64		123	307	58	144	16	1294
1号窯赤焼け	67	6	3		18	7	1		6	108
1号窯床内	4	7	4			6				21
1号窯第4床面埋土						1				1
1号窯第4床面床内	3				1	2	8	9	2	25
1号窯北側溝床面	55	13	32			18	1			119
1号窯北側溝埋土	152	17	46		99	45	12	17		388
2号窯床面						9				9
2号窯埋土	11	1	6		13	90	4	10	2	137
2号窯床内	8	1			13	12		5		39
3号窯床面	8		1			99	28	31	2	169
3号窯埋土	7	2	1		16	179	14	70		289
4号窯床面										
4号窯埋土	1					10	1	5		17
4号窯床内										
4号窯関連	20	1			68	178	23	79		369
5号窯床面						7				7
5号窯埋土	13		3		76	563	34	171	6	866
5号窯床内	7				7	34	5	15		68
5号窯北盛	1	1			14	147	249	87	1	500
6号窯床面						5		7		12
6号窯埋土	1			1	1	84	12	57	1	157
6号窯床内					2					2
7号窯床面						5	2	8		15
7号窯埋土		1			10	78	13	42	1	145
7号窯床内	17	1	4		5	45	8	24		104
7号窯瓦敷						38	4	2		44
8号窯埋土	10	6	2		1	9	1	8		37
SD01	9		2		5	286	12	64		378
SD01北側土器群	17	6				59	37	134		253
SB, pit						20	3	7		30
落ち込み	30	8	2	2	16	126	26	70		280
灰原A　1－A	12	2	8		127	638	35	338		1160
灰原A　1－B	87	12	7		63	173	15	35	9	401
灰原B　1－A	5		1		107	176	7	33		329
灰原B　1－B	43	8	11		92	237	11	41		443
灰原C　5－A	12	6	7		134	926	43	233	19	1380
灰原C5　5－C	2				8	42		11		63
灰原C6　5－C	231	49	54	2	71	53	12	14	10	496
灰原C　5－D	89	14	18		44	177	24	18		384
灰原C　5－E	317	42	33		100	60	6	12		570
灰原E　6－C	33	16	8		28	154	10	77	2	328
灰原E　6－F	255	75	44	2	124	63	18	70	4	655
灰原E　6－G	35	29	3	2	3		2	2		76
灰原E	9	4	3							16
灰原D　5－A	9		1		17	534	40	195		796
灰原D　5－C	58	5	12	1	37	306	18	85		522
灰原D　5－D	46	2	18	8	57	305	42	43		521
灰原D　5－E	624	138	185	9	252	208	30	62	9	1517
灰原D　5－F	343	87	30	10	45	59	15	13		602
灰原D　5－G	262	42	33	3	10	7	6	15	1	379
灰原D　5－H(3号窯盛土)	913	158	52	9	124	67	18	19		1360
灰原F　6－C	8				11	75	3	24		121
灰原F　6－F	303	69	51	1	65	132	7	57		685
灰原F　6－G	624	121	43	10	93	79	14	67		1051
灰原F　6－H(3号窯盛土)	10	1	1		4	10	4	7		37

第7表　鉢口縁部形態別出土数量一覧表1

出土位置	口縁部の分類									合計
	A 1	A 2	A 3	A 4	B 1	B 2	B 3	B 4	C・D	
灰原G　7－C					2	15	4	9		30
灰原G　8－I	1				4	1	1	4		11
灰原G 7・8－J	5	7	2		34	127	14	62	4	255
灰原G 7・8－K	53	11		1	32	247	41	83		468
灰原G 7・8－L	3	2			2	33	5	8		53
灰原G 7　8－P（5号窯盛土）	4	2			12	83	5	65		171
灰原I　8－J	14	3	5		6	379	36	224	4	671
灰原I　8－K	29	25	4		6	40		9		113
灰原I　8－P（5号窯盛土）	10	16	4		25	494	39	335		923
灰原H　7－C	4	2			7	21		19		53
灰原H　7－K	127	18	15	3	59	351	24	140	2	739
灰原H　7－L	63	17	10	1	19	47	7	13		177
灰原H　7－N	5	8	3		18	1	1	1		37
灰原H　7－O（2号窯盛土）	25	3	2	1	66	295	27	196	1	616
灰原J　8－I	37	10	2		49	834	161	375	2	1470
灰原J11　8－I	95	49	18	1	18	214	30	80		505
灰原J　8－J	73	22	31	11	54	962	148	311	10	1622
灰原J　8－K	29	1	1		22	131	13	17	1	215
灰原J　8－L	35	1	3		17	75	8	23		162
灰原J　8－M	167	40	75		46	300	59	137		824
灰原J　8－O（2号窯盛土）	21	7	1	3	48	386	40	193		699
灰原K 1・4・7　10－Q	84	40	37		33	561	64	271		1090
灰原K 1・4・7　10－T	53	46	10		30	203	26	88		456
灰原K 1・4・7　10－U	72	32	9		3	35	1	15		167
灰原Kその他　10－Q	1447	869	168	28	48	295	28	145	8	3036
灰原Kその他　10－T	45	23		5	2	7		2		84
灰原M 11－U	69	29	15		21	204	17	86		441
灰原M	230	121	31	1	65	1120	295	346	2	2211
灰原MO	146	55	29		37	201	45	32		545
灰原L　10－Q					4	57		28		89
灰原L　10－R	14		3		27	452	77	189		762
灰原L　10－T			3		2	23	8	12		48
灰原L　10－U					1	7		1		9
灰原N　10・11－Q	4	1	4	2	30	172	20	57	2	292
灰原N　11－S	11		1		33	98	34	8		185
灰原N　11－T	44	7	28	6	47	243	32	52	1	460
灰原N　11－U	289	41	230	4	68	223	26	39		920
灰原N　11－V	81	25	21		36	104	7	32		306
灰原N　11－W（7号窯盛土）	44	11	2		4	3				64
灰原N　11－X（1号窯盛土）	332	93	41		19	17		4	12	518
灰原O　11－S	6	1	1			30	13	13		64
灰原O　11－U	96	18	49		38	74	15	36	6	332
灰原O　11－V		4								4
灰原O　11－X（1号窯盛土）	10	1			6	1				18
灰原O	121	41	45	6	30	376	72	129	10	830
灰原P 1～3　12－Y	33	13	9		36	902	144	182		1319
灰原P 1～3　12－Z	20	11	4		7	24	6	12		84
灰原P 4～8　12－Y	142	91	9		28	192	23	71	2	558
灰原P 4～8　12－Z	49	43	20	1	30	10	20			173
灰原P 3	646	147	47	9	75	232	24	116	41	1337
灰原Q 1～3　12－Y	90	44	77		62	2128	448	426	2	3277
灰原Q 1～3　12－Z	779	459	273	25	161	47	22	68	10	1844
灰原Q 4～8　12－Y	127	41	15	5	5	150	35	76	4	458
灰原Q 4～8　12－Z	137	100	61	6	9	34	4	20		371
灰原R　13－Z	23	5	6					1		35
灰原S　13－Z	146	46	34	1	44	198	31	44		544
合計	11610	3699	2257	180	3691	20409	3141	7442	215	52644

第8表　鉢口縁部形態別出土数量一覧表2

第２節　その他の土器

（１）土師器

土師器は碗、小皿、托、鍋、釜、盤などが出土している。碗、小皿はほぼ須恵器と同形態であるので、焼成状態が軟質で、器表の色調が橙色に近いものを土師器と分類した。これらのものは口縁部固体数で１％に満たないものである。碗、小皿などは６号窯やＳＤ０１での出土状況から、６号窯で生産されたものと考えられる。

①　碗（343～354）

底部円盤の横から粘土ひもを積み上げ、体部はおおむね直線的にひらくものである。須恵器の碗Ｂとほぼ同じである。調整は内外面とも回転ナデをほどこす。底部は糸切りである。６号窯のすぐ脇のＳＤ０１の東端で、積み重ねた状態で出土している。

②　小皿（258～263、355、356、827～837）

形態が須恵器の小皿とほぼ同じものである。口縁部がやや内湾して立ち上がるものと、体部のナデが強くやや外反気味になったものがある。調整は内外面とも回転ナデをほどこす。底部は糸切りである。６号窯の床面などで出土している。

③　托（832～836）

体部は底部から直に立ち上がり、口縁部が大きく外反するものである。調整は内外面とも回転ナデをほどこし、底部は糸切りである。いずれも、底部は焼成前に穿孔が施されている。

④　鍋（838～841）

839・840は土師器甕の器高を低くした形態である。内外面の調整は磨滅のためわからない。838は外面にタタキをほどこす鍋で、窯とは直接関係のない混入品とおもわれる。841は三足付き鍋もしくは羽釜の脚部である。

⑤　釜（837）

羽釜の鍔付近の破片である。内面はハケ調整がなされている。

⑥　盤（842、843）

平底でやや内湾しながら立ち上がる形態のものである。内外面ともにやや粗いナデがほどこされ、部分的に粘土紐の継ぎ目を残している。軟質でやや瓦質にちかい焼成である。

（２）陶磁器

出土したのは包含層より出土した青磁１点（844）のみである。青磁は森田・横田分類の龍泉窯系青磁Ⅰ－２類である。

第3節　瓦

出土した瓦には軒丸瓦、軒平瓦、丸瓦、平瓦、鬼瓦、道具瓦などがある。これらの瓦の共通する特徴は、須恵器と同様に窖窯で焼成されたため、一部をのぞいて、焼成は硬質である。軒丸瓦、鬼瓦については全て、軒平瓦についてはＮＨ５類の３点を除いて全て、丸瓦、平瓦、、道具瓦については良好な固体を中心に報告する。

（1）軒丸瓦

軒丸瓦はＮＭと略称し、瓦当文様によって分類する。ＮＭ１～９類が蓮華文、ＮＭ10類が剣巴文、ＮＭ11類が唐草文、ＮＭ12～20類が巴文である。丸瓦部については後述する丸瓦の分類によって記述する。

ＮＭ１類（847～849）

複弁八葉蓮華文軒丸瓦である。径は15.5cm程度である。突出した中房に１＋６の蓮子をもち、中房の周囲には雄蘂帯をめぐらせている。瓦当側縁部は板状工具によるナデをほどこし、瓦当裏面はナデをほどこしている。中房の周囲と蓮子がつぶれてしまったものが多い。同文品は池ノ下小支群[18]、林崎三本松窯跡群[19]、尊勝寺[20]で出土している。

ＮＭ２類（850）

二次的焼成を受け、融着が激しいため、文様は不明瞭であるが、複弁八葉蓮華文軒丸瓦であると思われる。凹んだ中房に１＋６の蓮子をもち、中房の周囲には雄蘂帯をめぐらせている。同文品は宮ノ裏小支群、池ノ下小支群、尊勝寺で出土している。

ＮＭ３類（851）

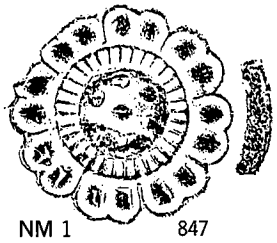
複弁八葉蓮華文軒丸瓦である。径は14.4cm程度である。子葉は凹ませて表現し、花弁の端は周縁に接している。凹んだ中房に１＋８の蓮子をもっている。周縁は高い。瓦当側縁部は板状工具によるナデをほどこし、瓦当裏面はナデをほどこしている。同笵品は万堡池小支群、尊勝寺で出土している。

ＮＭ４類（852）

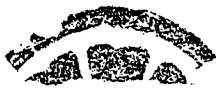
複弁八葉蓮華文軒丸瓦である。径は14cm程度である。子葉は凸線で表現し、花弁の端は周縁に接している。凹んだ中房に１＋８の蓮子をもっている。周縁は幅広く、低い。瓦当側縁部、瓦当裏面はナデをほどこしている。同笵品は林崎三本松窯跡群で出土している。

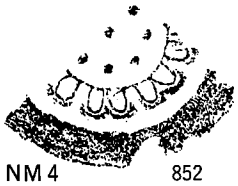
ＮＭ５類（853）

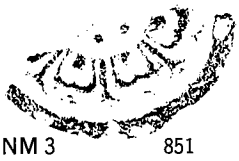
複弁八葉蓮華文軒丸瓦である。同文品から考えると、やや突出した中房に１＋８の蓮子をもっていると考えられる。蓮弁は平坦に表現され、子葉はもたない。丸瓦部にかけて縦方向に粗いナデがほどこされている。同文品は林崎三本松窯跡群、魚橋窯跡群[21]、尊勝寺で


NM 1 847

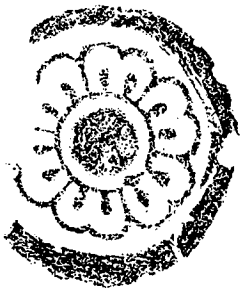
NM 2 850

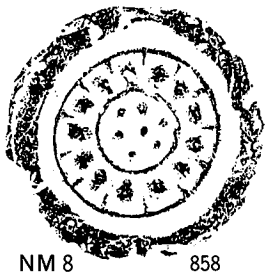

NM 5 853


NM 4 852

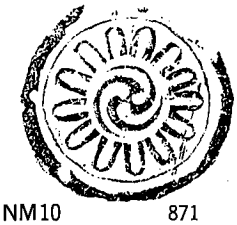

NM 3 851

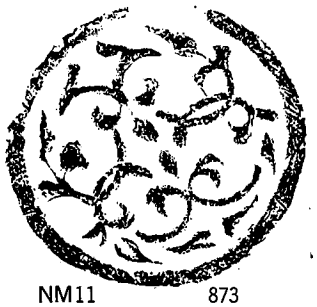
NM 6 854

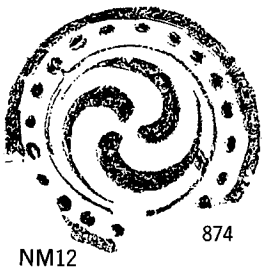

NM 7 855


NM 8 858

NM 9 869


NM10 871


NM11 873


NM12 874

NM13 878

NM14 882

NM15 883

NM16 885

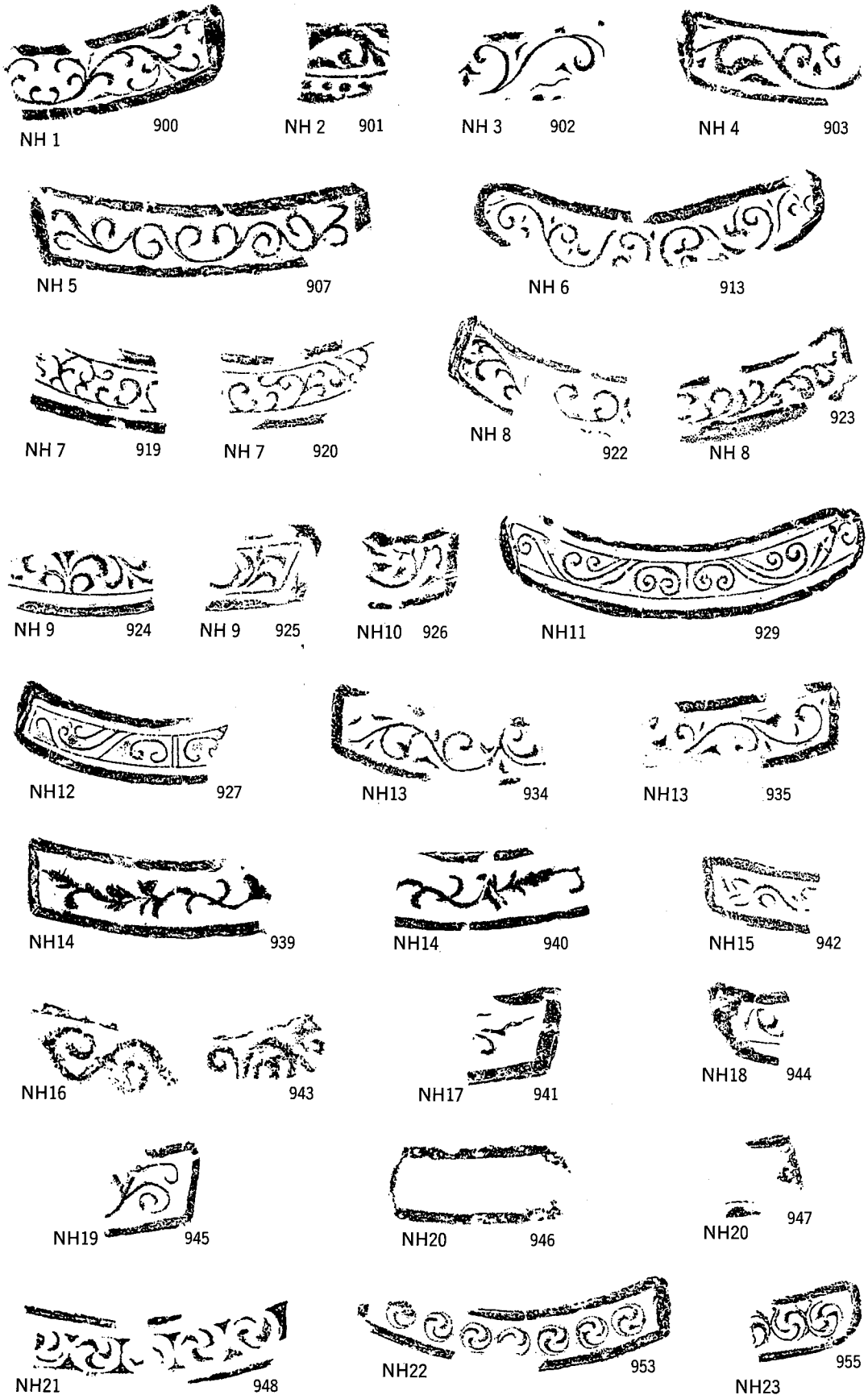
NM17 888

NM18 892

NM19 893

NM20 897

第11図　軒丸瓦型式一覧



第12図　軒平瓦型式一覧

出土している。

ＮＭ６類（854）

複弁六葉蓮華文軒丸瓦である。同文品から考えると、凸線で表現された中房に１＋６の蓮子をもっていると考えられる。蓮弁の外側に圏線をもっている。瓦当側縁部はケズリをほどこし、瓦当裏面はナデをほどこしている。同文品は林崎三本松窯跡群、魚橋窯跡群、尊勝寺で出土している。

ＮＭ７類（855～857）

複弁六葉蓮華文軒丸瓦である。蓮弁・子葉は凸線で表現されている。凸線で囲まれた中房は蓮子をもたず、球状に盛り上がる。瓦当側縁部、瓦当裏面はナデがほどこされ、丸瓦部にかけて縦方向に粗いナデがほどこされている。丸瓦部はⅠ類が使用されている。ＮＨ１類の軒平瓦とセットになると考えられる。同文品は釜ノ口小支群、林崎三本松窯跡群、魚橋窯跡群、鳥羽離宮、尊勝寺などで出土している。

ＮＭ８類（858～868）

単弁十三葉蓮華文軒丸瓦である。文様部は楕円形である。凸線で囲まれた中房に１＋６の蓮子をもっている。瓦当裏面はナデがほどこされている。858は瓦当裏面の中央部にナデをほどこしたのち、瓦当裏面の側縁部側と瓦当側縁部にケズリをほどこしている。859・860は瓦当裏面、瓦当側縁部にナデをほどこし、瓦当側縁部は面をもたないでまるくなっている。丸瓦部は円筒を２分割したⅡ類が使用されている。凹面、凸面ともに回転ナデののち、縦方向の粗いナデがほどこされている。同笵品は池ノ下小支群、尊勝寺で出土している。

ＮＭ９類（869）

蓮華文軒丸瓦である。蓮弁はＶ字状のものとアーモンド状のものが交互に４つずつならんでいるとかんがえられる。圏線でかこまれた中房に蓮子を１つもっている。蓮弁の回りには圏線がめぐる。瓦当側縁部、瓦当裏面にはナデがほどこされている。

ＮＭ10類（870～872）

剣巴文軒丸瓦である。中心に巴文を配し、剣頭文がその回りを取り巻く。剣頭文は凸線で表現され、13個ある。ただし、先端がまるく表現されていることから、蓮華文の可能性もある。巴文は右巻きの三巴で、巴頭部の先端がひっつくものである。瓦当裏面はナデをほどこし、瓦当側縁部はナデをほどこすものと、ケズリをほどこすものがある。丸瓦部はⅠ類が使用されている。同笵品は、神出・南下遺跡[22]、玉津田中遺跡[23]で出土している。本遺跡出土品に笵キズが明瞭に認められることから、玉津田中遺跡、本遺跡の順番で作られたことがわかる。

ＮＭ11類（873）

唐草文軒丸瓦である。４本の唐草が左右対象に絡まりあう文様である。瓦当裏面はナデをほどこし、瓦当側縁部はケズリをほどこしたのち、ナデをほどこしている。丸瓦部はⅠ類が使用されている。唐草の文様からＮＨ14類とセットになると考えられる。文様部の周囲に圏線をめぐらす同文異笵品は、池ノ下小支群、釜ノ口小支群で出土している。

ＮＭ12類（874～877）

三巴文軒丸瓦である。右巻きの巴で、巴頭部の先端がやや尖るものである。巴文と珠文帯の間に圏線がめぐる。珠文は20個ある。瓦当裏面はナデをほどこし、瓦当側縁部はケズリをほどすものと、ナデをほどこすものがある。丸瓦部はⅠ類が使用されている。

ＮＭ13類（878～881）

三巴文軒丸瓦である。右巻きの巴で、巴頭部の先端が尖るものである。巴文と珠文帯の間に圏線をもたない。珠文は、やや大ぶりで、18個程度と考えられる。瓦当裏面、瓦当側縁部、ナデをほどこしている。丸瓦部はⅠ類が使用されている。

ＮＭ14類（882）

三巴文軒丸瓦である。割れた笵を使用しているため、文様は不鮮明であるが、右巻きの巴文と考えられる。巴文と珠文帯の間に段をつけて、珠文帯の部分を高くしている。瓦当裏面、瓦当側縁部にはナデをほどこし、側縁部に面をもたせず、まるくなっている。

ＮＭ15類（883、884）

三巴文軒丸瓦である。右巻きの巴で、巴頭部の先端が尖り、中心でつながるものである。巴尾がとなりの巴にひっついている。珠文帯をもたない。瓦当裏面、瓦当側縁部にはナデをほどこしている。丸瓦部はⅡ類が使用され、凹面は比較的ていねいにナデがほどこされている。

ＮＭ16類（885、886）

三巴文軒丸瓦である。右巻きの巴で、巴頭部の先端がやや尖るものである。珠文帯をもたない。瓦当裏面、瓦当側縁部にはナデをほどこしている。丸瓦部はⅠ類が使用されている。

ＮＭ17類（887～891）

三巴文軒丸瓦である。右巻きの巴で、巴頭部の先端が尖り、巴尾がとなりの巴にひっついている。珠文帯をもたない。瓦当裏面はナデをほどこし、瓦当側縁部はケズリをほどこすものと、ナデをほどこすものがある。丸瓦部はⅡ類が使用され、凹面は横方向のナデののち、縦方向のナデがほどこされている。

ＮＭ18類（892）

三巴文軒丸瓦である。右巻きの巴で、巴頭部の先端がやや尖り、巴尾が周縁にひっついている。珠文帯をもたない。瓦当裏面はナデをほどこしている。丸瓦部はⅡ類が使用されているようである。焼成は軟質である。同笵品は神出・南下遺跡で出土している。

ＮＭ19類（893～896）

三巴文軒丸瓦である。右巻きの巴文で、巴は凸線状に表現されている。巴文の周囲には圏線がめぐり、巴尾が圏線にひっついている。珠文帯をもたない。瓦当裏面、瓦当側縁部はナデをほどこしている。丸瓦部はⅠ類が使用されているようである。893、895、896の焼成は軟質である。同笵品は宮ノ裏小支群で出土している。

ＮＭ20類（897・898）

三巴文軒丸瓦である。左巻きの巴文で、巴文の周囲には圏線がめぐり、巴頭部の先端はほとんど尖らない。巴尾がとなりの巴に接続している。珠文帯をもたない。瓦当裏面はナデをほどこし、、瓦当側縁部はケズリののち、ナデをほどこしている。

（２）軒平瓦

軒平瓦はＮＨと略称し、瓦当文様によって分類する。ＮＨ１～12類が均整唐草文、ＮＨ13・14類が唐草文、ＮＨ15・16類が偏行唐草文、ＮＨ17・18類が唐草文、ＮＨ19類が宝相華文、ＮＭ20～23類が連巴文である。軒平瓦の瓦当部の製作技法は、いずれも包み込み技法である。平瓦部については後述する平瓦の分類によって記述する。

ＮＨ１類（899・900）

均整唐草文軒平瓦である。文様はＣ字上向の中心飾りに、２転する唐草をもつものである。文様の右端は1.2cmほど切断されている。瓦当裏面、顎部にはナデをほどしている。平瓦部はⅠ類が使用されている。ＮＭ７類とセットになり、同文品は宮ノ裏小支群（同文異笵）、林崎三本松窯跡群（同文異笵）、魚橋窯跡群、鳥羽離宮跡、尊勝寺跡などで出土している。

ＮＨ２類（901）

均整唐草文軒平瓦で、文様はＣ字上向の中心飾りに、２転する唐草をもつものと考えられる。唐草文の下には界線をもち、その下に珠文帯がつく。唐草文の上には珠文帯がつかず、周縁をもたない。同文品は老ノ口小支群、雪の御所伝承地、笹山遺跡（竜野市[24]）、法性寺跡[25]で出土している。

ＮＨ３類（902）

均整唐草文軒平瓦である。文様はＣ字上向の中心飾りに、２転する唐草をもつものと考えられる。中心飾りの真ん中には三葉形の枝葉がついている。文様の右端が切断されてい

る可能性がつよい。瓦当裏面と顎面はナデがほどこされている。平瓦部は表面が磨滅しているためよくわからないが、Ⅰ類とかんがえられる。同文品は老ノ口小支群、尊勝寺跡で出土している。

ＮＨ４類（903）

均整唐草文軒平瓦である。文様はＣ字上向の中心飾りに、２転する唐草をもつものと考えられる。中心飾りの真ん中には水滴形の枝葉がついている。文様の左端が切断されている。瓦当裏面と顎面はナデがほどこされている。平瓦部はⅠ類が使用され、凹面は部分的に縦方向のナデをほどこしている。同笵品は玉津田中遺跡で出土している。

ＮＨ５類（904～912）

均整唐草文軒平瓦である。文様はＣ字上向の中心飾りに、３転する唐草をもつものである。瓦当裏面はナデ、顎面はナデかケズリののちナデがほどこされている。平瓦部はⅠ類が使用されている。904、909、910の焼成は軟質である。今回出土した軒平瓦のなかで最も多いもので、12点出土している（図版掲載品以外の出土位置は灰原 A11　１－２層、灰原Ｈ４　７－10層、灰原Ｋ７　10－11層）。同笵品は老ノ口小支群、笵キズからみると老ノ口出土品のほうが後でつくられたものと考えられる。

ＮＨ６類（913～917）

均整唐草文軒平瓦である。文様はＣ字背向の中心飾りに、２転する唐草をもつものである。中心飾りの真ん中の上下には水滴形の枝葉がついている。文様の両端が切断されている。瓦当裏面、顎面にはナデがほどこされている。平瓦部はⅡ類が使用されている。同笵品は宮ノ裏小支群、林崎三本松窯跡群、尊勝寺跡で出土している。尊勝寺跡では文様の切断のないものも出土している。

ＮＨ７類（918～921）

均整唐草文軒平瓦である。文様はＣ字背向の中心飾りに、枝葉を多くもちながら２転する唐草をもつものである。唐草文の上下に界線がついている。本来は唐草文の周囲に界線がめぐっていたのかもしれない。瓦当裏面、顎面にはナデがほどこされている。同笵品は神出・東遺跡[26]、神出・南下遺跡、尊勝寺跡で出土している。

ＮＨ８類（922・923）

均整唐草文軒平瓦である。文様はＣ字背向の中心飾りに、２転する唐草をもつものである。２転目の唐草は枝葉を多くもちながら、横に長く延びている。文様の左端が切断されている。瓦当裏面、顎面にはナデがほどこされている。平瓦部はⅠ類が使用されている。48は全長が15㎝と短く、棟用の道具瓦などの可能性が考えられる。

ＮＨ９類（924・925）

均整唐草文軒平瓦である。中央下部から噴水状に開く中心飾りに、２転する唐草をもつものである。唐草文の周囲に界線がめぐっている。瓦当裏面、顎面にはナデがほどこされている。同笵品は万堡池小支群で出土している。

ＮＨ10類（926）

均整唐草文軒平瓦である。文様は∽字状の唐草が左右対称形に配されている。顎面にはナデがほどこされている。同笵品は宮ノ裏小支群、同文品は神大病院構内遺跡[27]で出土している。

ＮＨ11類（929～933）

均整唐草文軒平瓦である。文様は並列するＣ字下向の蕨手文の間から、棒状に始まって左右に開き、２転する唐草をもつものである。唐草文の上下に界線をもっている。931は２転目の蕨手部分を切断されている。瓦当裏面はナデ、顎面にはケズリののちナデがほどこされている。平瓦部はⅡ類が使用されている。931の焼成は軟質である。同笵品は神出・南下遺跡、林崎三本松窯跡群で出土している。右端の切断状況から929、林崎三本松窯跡群、931の順番でつくられたことがわかる。

ＮＨ12類（927・928）

均整唐草文軒平瓦である。ＮＨ11類の文様がやや矮小化したものである。中心の棒状の部分は２本の直線となり、界線間を結んでいる。瓦当裏面、顎面にはナデがほどこされている。同笵品は神出・南下遺跡で出土している。

ＮＨ13類（934～938）

唐草文軒平瓦である。文様は中央上部から非対称的に開き、２転する唐草をもつものである。瓦当裏面、顎面にはナデがほどこされている。平瓦部はⅡ類が使用されている。936・938の焼成は軟質である。同笵品は万堡池小支群、神出・追ノ谷遺跡[28]で出土している。

ＮＨ14類（939～940）

唐草文軒平瓦である。文様は中央付近から反転せずに波状に開き、枝葉は立体的に表現されている。瓦当裏面はナデ、顎面にはケズリののちナデがほどこされている。940の焼成は軟質である。同笵品は釜ノ口小支群で出土している。

ＮＨ15類（942）

偏行唐草文軒平瓦である。文様は波状の唐草に退化した蕨手状の枝葉がつくものと思われる。瓦当裏面はナデ、顎面にはケズリがほどこされている。同笵品は林崎三本松窯跡群で出土している。

ＮＨ16類（943）

唐草文軒平瓦である。表面の融着が激しいため文様がはっきりしない。中心飾りをもたず、唐草が左に２転以上、右に３点転以上するものとおもわれる。平瓦部はⅠ類が使用されている。

ＮＨ17類（941）

唐草文軒平瓦である。文様の右端しか残存しておらず、文様構成は不明である。瓦当裏面はナデ、顎面にはケズリがほどこされている。

ＮＨ18類（944）

唐草文軒平瓦である。文様の左端しか残存しておらず、文様構成は不明である。唐草文の下に界線をもっている。瓦当裏面はナデ、顎面にはケズリがほどこされている。

ＮＨ19類（945）

唐草文軒平瓦である。文様の右端しか残存しておらず、文様構成は不明である。瓦当裏面はナデ、顎面にはケズリがほどこされている。

ＮＨ20類（946・947）

宝相華文軒平瓦である。文様は中央付近の上下と左端に半截宝相華文をもつものみで、非常にさみしい文様構成である。左右両端に周縁をもたない。瓦当裏面はナデ、顎面にはケズリののちナデがほどこされている。平瓦部はⅠ類が使用されている。

ＮＨ21類（948～952）

連巴文軒平瓦である。文様は三巴が６つ横に並ぶものである。巴は右から３つ目が左巻きである以外は右巻きで、巴頭部が中央で接続している。巴の間の空間は三角形に陽刻されている。文様の左端は切断されている。瓦当裏面はナデ、顎面にはケズリもしくはケズリののちナデがほどこされている。平瓦部は凹面にやや丁寧なナデがほどこされているため、はっきりしないが、Ⅱ類である可能性が高い。同文品は宮ノ裏小支群、魚橋窯跡群で出土している。

ＮＨ22類（953・954）

連巴文軒平瓦である。文様は三巴が７つ横に並ぶものである。巴は右巻きで、巴尾が隣のともえに接続している。瓦当裏面はナデ、顎面にはケズリののちナデがほどこされている。平瓦部はⅠ類が使用されている。同笵品は林崎三本松窯跡群で出土している。

ＮＨ23類（955）

連巴文軒平瓦である。文様は三巴が密に横に並ぶものである。巴は左巻きである。瓦当裏面はナデ、顎面にはケズリののちナデがほどこされている。

（3）丸瓦

製作技法によって大きく3つに分類する。

Ⅰ類（956～992）

筒部凹面に布目を残すものである。布目とともに糸切り痕を残すものも多く認められる。筒部凸面は平行タタキの後、回転ナデをほどこしている。玉縁部凸面はケズリによって成形をおこなった後に、回転ナデをほどこしている。端面、側面にはケズリをほどこしている。筒部および丸瓦部の凹面側端縁には比較的大きく面取りをおこない、側縁に面取りをおこなうものも多くみられる。大きさによってⅠa～c類の3種類に分けることができる。Ⅰa類（964～974）は全長35.0～41.3cmで6号窯、7号窯から出土している。Ⅰb類（956～963）は全長31.4～32.8cmで1号窯から出土している。Ⅰc類（975～992）は全長23.4～25.2cmで7号窯から出土している。

Ⅱ類（994～996）

粘土紐を巻き上げて成形したものである。須恵器などと同様の技法で作られている。筒部凸面は回転ナデののち、縦方向に板ナデをほどこしている。筒部凹面は994では丁寧に縦方向のナデがほどこされている。995・996では回転ナデののち、部分的に縦方向のナデがほどこされ、粘土紐の接合痕をのこしている。玉縁部は両面とも回転ナデがほどこされ、端部は面をもっていない。側面と筒部端面にはケズリがほどこされ、994の玉縁部の側縁を除いては面取りはほどこされていない。

Ⅲ類（993）

幅27cm程度に復元される大型の丸瓦である。厚さも3.5cmと分厚い。筒部先端の破片が1点のみ出土している。凸面は縦方向のナデがほどこされ、凹面は横方向のナデのち、縦方向のナデが丁寧にほどこされている。筒部端面と側面はケズリののち、ナデがほどこされ、内側の側縁は面取りがほどこされている。全体的に調整が丁寧で、平瓦Ⅲ類とセットになると考えられる。

（4）平瓦

製作技法によって大きく3つに分類する。

Ⅰ類（997～1016、1020～1028）

凹面に布目を残すものである。布目とともに糸切り痕を残すものも認められる。凸面はタタキか、タタキののち縦方向の粗いナデをほどこしている。ただし、凸面のタタキは無文のものが多いようで、ナデとの判別を明瞭に確認することはできなかった。端面、側面にはケズリをほどこし、側縁、端縁に面取りをほどこすものがある。大きさによってⅠa～c類の3種類に分けることができる。Ⅰa類（1003～1007）は全長37.3～38.3cmで、7号窯から出土している。Ⅰb類（997～1002、1008～1016）は全長32.4～35.9cmで、1号窯、

6号窯、7号窯、落ち込みなどから出土している。Ⅰc類（975～992）は全長27.0cmで落ち込みから出土している。ただし、この固体は軒瓦の平瓦部であるため特殊な類型であるかもしれない。

凹面にほどこされたタタキは、無文のものがかなり多く含まれると思われるが、明瞭に確認することはできない。有文のものは、一辺1.5cm前後の斜格子のもの（1020～1024、1026）、一辺2.0cm前後の斜格子のもの（1025）、×印のもの（1005～1007、1012、1013、1027）、円に放射状文様のもの（1028）などがある。丸瓦に使われているような平行タタキは認められなかった。円に放射状文様のもの（1028）は、魚住窯跡群の甕にほどこされたスタンプ文のなかに類似するものが認められる。

Ⅱ類（1018、1019）

粘土紐を巻き上げて成形したものである。須恵器などと同様の技法で作られている。凸面は縦方向のナデをほどこし、凹面は横方向のナデがほどこされている。特に凹面では粘土紐の接合痕を残している。端部の一方（製作時の上側）は回転ナデがほどこされ、まるみをもっている。もう一方の端面と側面はケズリがほどこされ、1018では凹面側の側縁に面取りがほどこされている。

Ⅲ類（1017）

長43.6cmの大型の平瓦である。厚さも3.5cmと分厚い。完形品が1点のみ出土している。凹面・凸面ともに縦方向のナデが丁寧にほどこされている。一方の端面と側面はケズリがほどこされ、もう一方の端面はケズリののち、ナデがほどこされている。側縁、端縁の面取りはおこなわれていない。丸瓦Ⅲ類とセットになると考えられる。

（5）鬼瓦（1029～1031）

出土した鬼瓦は2種類ある。Ⅰ類（1029）は左脚部のみが出土している。残存部分には文様がなく、周縁部には縁帯がめぐっている。側面、下面はケズリがほどこされ、背面は粗いナデがほどこされている。Ⅱ類（1030、1031）は左右両脚部のみが出土している。脚部には髭が表現され、周縁部には珠文帯がめぐっている。側面、下面はケズリののちナデがほどこされ、背面はナデがほどこされている。Ⅱ類は玉津田中遺跡鬼瓦1類と同笵である。[29]

（6）道具瓦（1032、1033）

用途不明の塼状の瓦である。両端部付近中央に穿孔がなされている。反りがない以外は平瓦と同様で、片面に布目を残し、もう片面は縦方向のナデがほどこされている。端面、側面はケズリがほどこされている。

（7）瓦の出土状況

土器と同様に、瓦についても計数作業を行った。遺構出土のものと灰原出土のものを対

象とし、サブトレンチと包含層出土のものは計数していない。軒瓦については破片数、平・丸瓦・道具瓦については隅数、鬼瓦は計数していない。ここでは、丸瓦・平瓦を中心に報告する。

出土瓦の数量は、軒丸瓦が破片数にして52点、、軒平瓦が破片数にして60点、、丸瓦が隅数にして434（固体数108.5点）、平瓦が隅数にして632（固体数158点）、道具瓦が隅数にして13（固体数3.25点）である。丸瓦と平瓦の比率は、丸瓦が35％、平瓦が65％で、丸瓦が１とすると平瓦が1.85である。丸瓦、平瓦の分類別の比率は、Ⅰ類が63％、Ⅱ類が37％である。

遺構から出土したものに関しては、７号窯瓦敷で丸・平瓦の総数の18％とまとまって出土したもののほか、１号窯第２床面および北側溝、６号窯、落ち込みなどで少量出土している。

灰原出土瓦については灰原出土の比率で示すこととする。

灰原Ａ・Ｂ地区で出土した瓦は３％前後と少量で、Ⅰ類の瓦がほとんどである。１－Ｂ層出土のものは、３号窯のなかでも終わり頃のものか、４号窯でつくられたものと考えられる。

灰原Ｃ・Ｅ地区で出土した瓦は11％前後で、Ⅰ類の瓦が主体をしめている。上層（５－Ａ・Ｃ・Ｄ）のものは４号窯、下層（５－Ｅ・Ｆ・Ｇ・Ｈ）のものは３号窯でつくられたものと思われる。

灰原Ｄ・Ｆ地区で出土した瓦は30％程度と最も多く、特にⅡ類の瓦の総数の59％と過半を占め、５－Ｅ・Ｆ層以下や３号窯の盛土である５－Ｈ層での出土が多い。Ⅱ類の瓦については、３号窯でも初期につくられたものが多いと考えられる。。

灰原Ｇ・Ｉ地区で出土した瓦は３％程度と少なく、Ⅰ類の瓦が主体を占めている。

灰原Ｈ・Ｊ地区で出土した瓦は20％程度と多い。Ⅰ類の瓦が多く、Ⅰ類の瓦の総数の29％を占めている。特に８－Ｉ・Ｊ層など上層からの出土が多く２号窯もしくは７号窯でつくられたものである可能性が高い。

灰原Ｋ・Ｍ地区で出土した瓦は11％と多い。Ⅱ類の瓦がＫ２・３・５・６・８・９区で比較的多く出土している。１号窯でつくられたものと思われる。

灰原Ｌ・Ｎ・Ｏ地区では、Ｌ・Ｏ地区ではほとんど瓦が出土せず、Ｎ地区では１号窯盛土の11－Ｘ層ではⅡ類の瓦が多く出土し、それ以外ではⅠ類の瓦が主体を占めている。

灰原Ｐ・Ｑ地区で出土した瓦は10％と多い。Ⅱ類の瓦は12－Ｙ層での出土が多い。

灰原Ｒ・Ｓ地区ではほとんど瓦は出土していない。

出土位置	瓦								
	軒丸瓦	軒平瓦	丸瓦			平瓦			その他
			Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	
1号窯第2床面床面			6				1		
1号窯第2床面埋土			11			18			
1号窯赤焼け			1			3			
1号窯床内	1								
1号窯第3床面埋土									
1号窯第3床面床内									
1号窯北側溝床面			12			1			
1号窯北側溝埋土			1			6			
2号窯床面									
2号窯埋土						1		4	
2号窯床内									
3号窯床面			1						
3号窯埋土				1		2	1		
4号窯床面									
4号窯埋土									
4号窯床内									
4号窯関連			1			2			
5号窯床面									
5号窯埋土			1			2			
5号窯床内									
5号窯北盛									
6号窯床面									
6号窯埋土	1					3			
6号窯床内		2	10			37			4
7号窯床面									
7号窯埋土						2			
7号窯床内	1		4			5			
7号窯瓦敷	3	1	125			57			
8号窯埋土									
ＳＤ０１				1		5	1		
ＳＤ０１北側土器群	1								
ＳＢ，pit						1			
落ち込み			4			13	1		2
灰原Ａ　１－Ａ	1	1		1		7			
灰原Ａ　１－Ｂ			4			2			
灰原Ｂ　１－Ａ		1							
灰原Ｂ　１－Ｂ			3			4			
灰原Ｃ　５－Ａ		1	1			8	2		
灰原Ｃ５　５－Ｃ		1	3			4			
灰原Ｃ６　５－Ｃ	2		4			12			
灰原Ｃ　５－Ｄ			2	1		2	1		
灰原Ｃ　５－Ｅ			5	2		6	2		
灰原Ｅ　６－Ｃ		2	1	3		10			
灰原Ｅ　６－Ｆ			3			8			
灰原Ｅ　６－Ｇ									
灰原Ｅ									
灰原Ｄ　５－Ａ	1					1			
灰原Ｄ　５－Ｃ			1	3		8	9		
灰原Ｄ　５－Ｄ			2	1		8			
灰原Ｄ　５－Ｅ		1	9	13		11	39		
灰原Ｄ　５－Ｆ	2		2	10		4	7		
灰原Ｄ　５－Ｇ				4			4		
灰原Ｄ　５－Ｈ（３号窯盛土）			1	16		3	19		
灰原Ｆ　６－Ｃ			1	1					
灰原Ｆ　６－Ｆ	1	2	4	3		2	5		
灰原Ｆ　６－Ｇ			1	8	1	4	12		
灰原Ｆ　６－Ｈ（３号窯盛土）				1		1	1		

第９表　瓦出土数量一覧表１

出土位置	瓦								
	軒丸瓦	軒平瓦	丸瓦			平瓦			その他
			Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	
灰原Ｇ　７－Ｃ						1			
灰原Ｇ　８－Ｉ									
灰原Ｇ７・８－Ｊ			1			3			
灰原Ｇ７・８－Ｋ	1		2			7			
灰原Ｇ７・８－Ｌ						2			
灰原Ｇ７　８－Ｐ（５号窯盛土）			1			3			
灰原Ｉ　８－Ｊ			1						
灰原Ｉ　８－Ｋ							2		
灰原Ｉ　８－Ｐ（５号窯盛土）			1						
灰原Ｈ　７－Ｃ	1		1	1		5			
灰原Ｈ　７－Ｋ		3	5			7			
灰原Ｈ　７－Ｌ						6	2		
灰原Ｈ　７－Ｎ									
灰原Ｈ　７－Ｏ（２号窯盛土）			1			8	1		
灰原Ｊ　８－Ｉ		2	6	1		22			4
灰原Ｊ11　８－Ｉ		1				2			
灰原Ｊ　８－Ｊ	1	3	2	2		25	4		
灰原Ｊ　８－Ｋ			1			3	1		
灰原Ｊ　８－Ｌ			3	1			1		
灰原Ｊ　８－Ｍ	2	1	3	1		12	3		
灰原Ｊ　８－Ｏ（２号窯盛土）			2			19	1		
灰原Ｋ１・４・７　10－Ｑ			1			7			
灰原Ｋ１・４・７　10－Ｔ			1	1		3	1		
灰原Ｋ１・４・７　10－Ｕ			1	1		1			
灰原Ｋその他　10－Ｑ	2		9	10		7	11		
灰原Ｋその他　10－Ｔ									
灰原Ｍ　11－Ｕ			4	1		3			
灰原Ｍ			3	3		11	2		
灰原ＭＯ			1			3			
灰原Ｌ　10－Ｑ						2			
灰原Ｌ　10－Ｒ			4			3			2
灰原Ｌ　10－Ｔ									
灰原Ｌ　10－Ｕ									1
灰原Ｎ　10・11－Ｑ			2			3			
灰原Ｎ　11－Ｓ		1	1			2			
灰原Ｎ　11－Ｔ	1		4	1		5			
灰原Ｎ　11－Ｕ			12			4	3		
灰原Ｎ　11－Ｖ			4			2			
灰原Ｎ　11－Ｗ（７号窯盛土）				1					
灰原Ｎ　11－Ｘ（１号窯盛土）		1	2	2			10		
灰原Ｏ　11－Ｓ									
灰原Ｏ　11－Ｕ									
灰原Ｏ　11－Ｖ									
灰原Ｏ　11－Ｘ（１号窯盛土）									
灰原Ｏ									
灰原Ｐ１～３　12－Ｙ	1		4			3	3		
灰原Ｐ１～３　12－Ｚ			1						
灰原Ｐ４～８　12－Ｙ			1	1		2	2		
灰原Ｐ４～８　12－Ｚ									
灰原Ｐ３	2	2	6	9		5	2		
灰原Ｑ１～３　12－Ｙ			2	1		4	3		
灰原Ｑ１～３　12－Ｚ	1	1	1	3			3		
灰原Ｑ４～８　12－Ｙ			3			3	1		
灰原Ｑ４～８　12－Ｚ	1		2	1		3			
灰原Ｒ　13－Ｚ									
灰原Ｓ　13－Ｚ									
合計	27	27	323	110	1	467	161	4	13

第10表　瓦出土数量一覧表２

第5章　まとめ

第1節　遺物に関するまとめ

（1）土器について

窯体出土の資料を中心に須恵器を主とした土器の変化について考えてみたい。窯体出土の資料が少ない甕、壺などは灰原出土のもので補ってある。

土器の時期は大きくⅠ期、Ⅱ期に分け、Ⅱ期をさらにⅡ－1期、Ⅱ－2期に分ける。

Ⅰ期は鉢A類を生産している時期である。基準となる資料は1号窯第2床面床面の資料である。ただし、操業開始時のものについては1号窯盛土あるいは灰原出土のものから抽出してある。森田氏のⅠ－2期に相当するものと思われる。

Ⅱ期は鉢B類を生産している時期である。Ⅱ－1期は碗A類を生産している時期である。基準となる資料は3号窯床面、5号窯北側盛土の資料である。碗を基準とすれば森田氏のⅠ－2期に含まれるものと思われる。[30]

Ⅱ－2期は碗B類を生産している時期である。基準となる資料は2号窯床面、4号窯埋土、7号窯床面の資料である。2号窯の灰原が7号窯に被ることから、7号窯床面より2号窯床面が新しい。森田氏のⅡ型式に相当するものと思われる。

以下に器形ごとの変化について記述する。

鉢はⅠ期とⅡ期とでは、A類からB類へ明瞭に変化すると考えられる。Ⅰ期の鉢（A類）の形態は体部から口縁部にかけて直線的に開いている。ほとんどが無高台であるが、灰原出土のもののなかには平高台をもつものが少量認められる。口縁端部は4つ（A1～A4）に細別を行ったが、特に有意性は認められなかった。Ⅱ期の鉢（B類）の形態は体部下半にまるみをもち、口縁部が外反するものが現れる。口縁端部はⅡ期を通じてB2が主体を占め、あまり明瞭ではないがⅡ－1期にB1・B3類、Ⅱ－2期にB4がやや多くみられるようである。

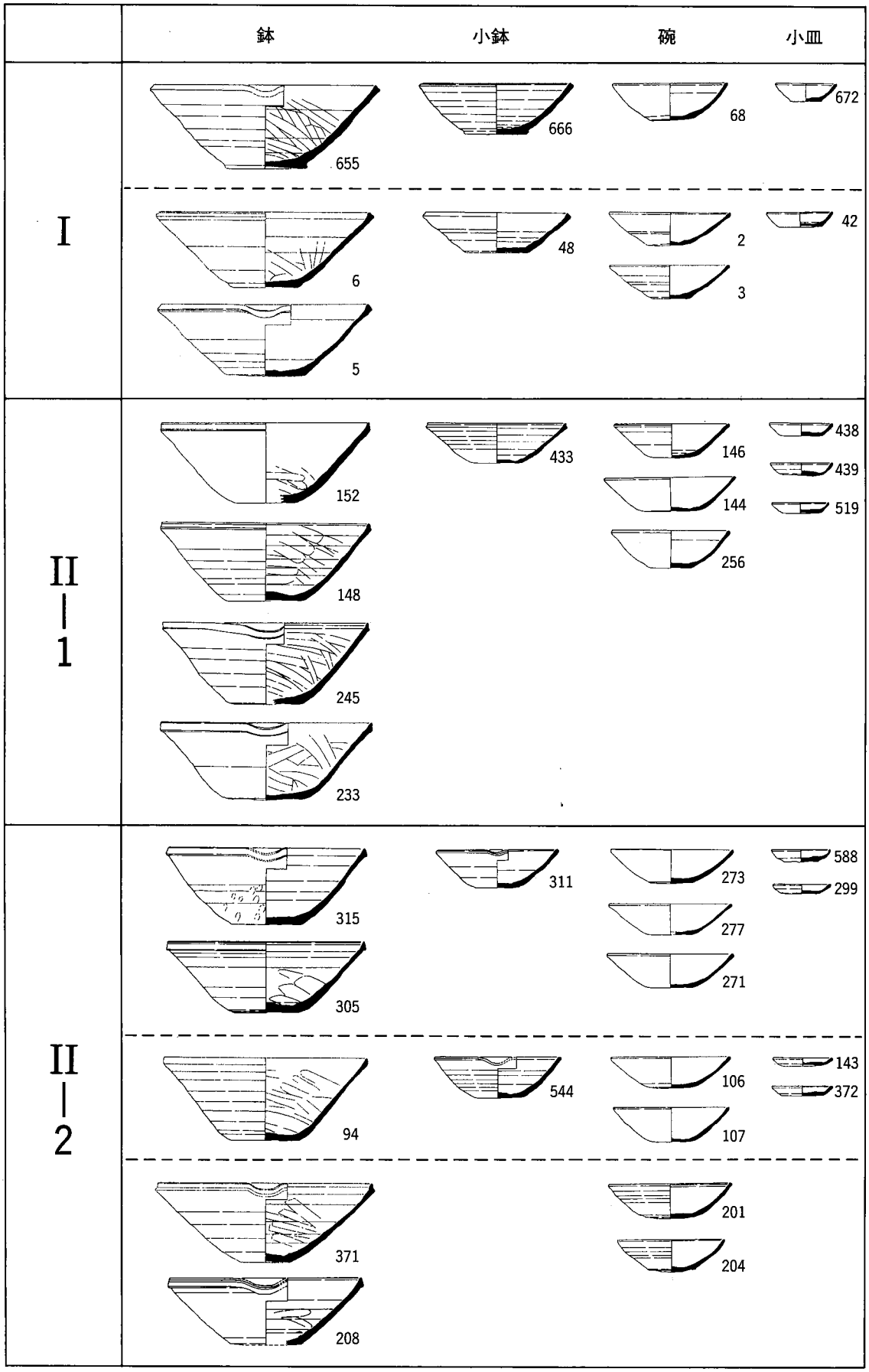
小鉢は鉢と同様にⅠ期はA類で、Ⅱ－1期にはB類が現れるが、A類も残っている可能性が高い。Ⅱ－2期には小鉢はなくなり、それに替わって片口碗が現れる。

碗はⅠ期には1号窯北側溝や灰原からA1類が出土していることから、当初はA1類が生産され、A2類にかわるものと思われる。引き続きⅡ－1期にもA2類が生産され、Ⅱ－2期にはB類が現れる。

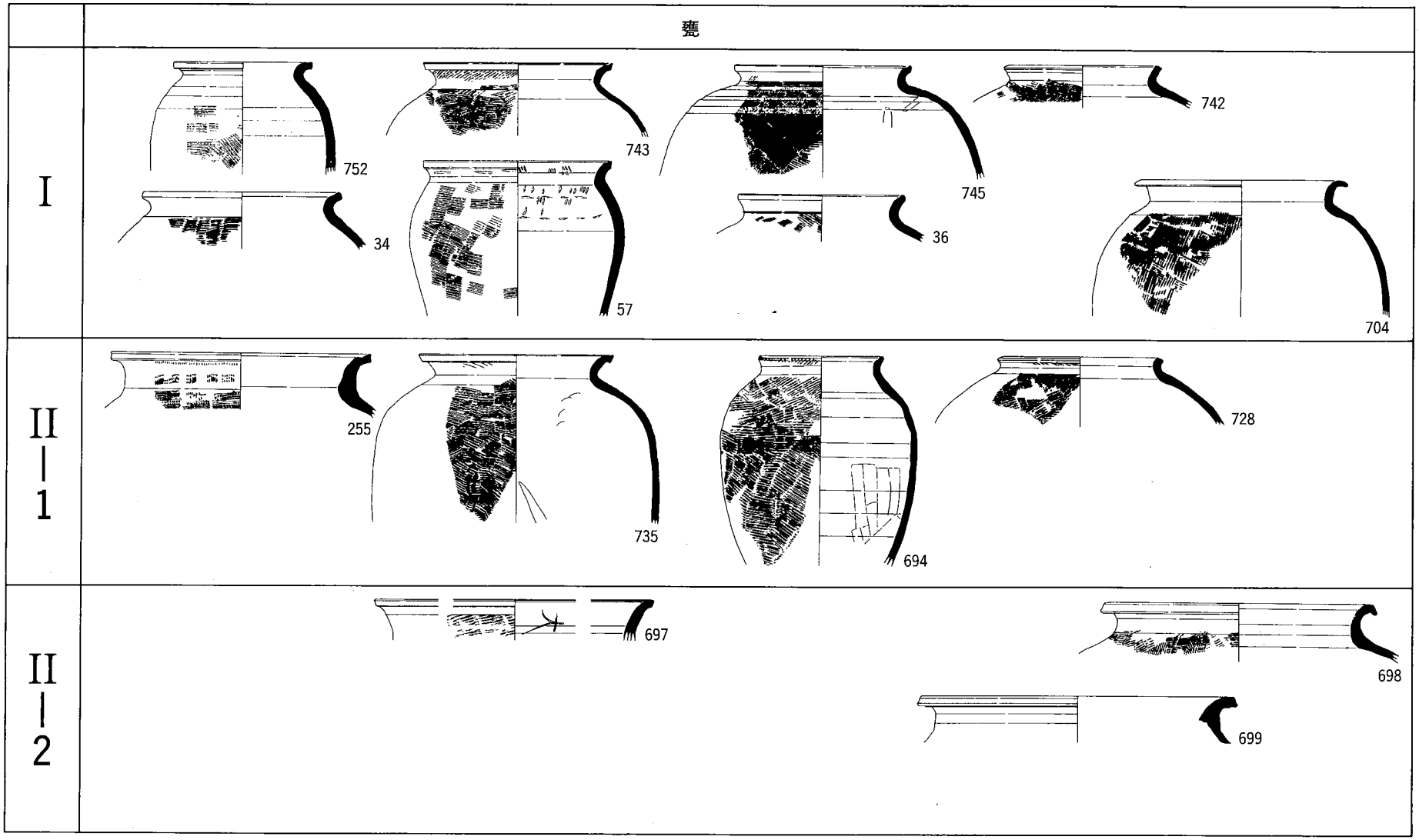
小皿はⅠ期には灰原からA類が出土していることから、当初はA類が生産され、B類にかわるものと思われる。引き続きⅡ－1期にもB類が生産され、Ⅱ－2期にはC類が現れる。

甕はⅠ期より各形式のものが出そろっており、Ⅱ－2期の資料も少ないこともあり、時期による変化はわからない。

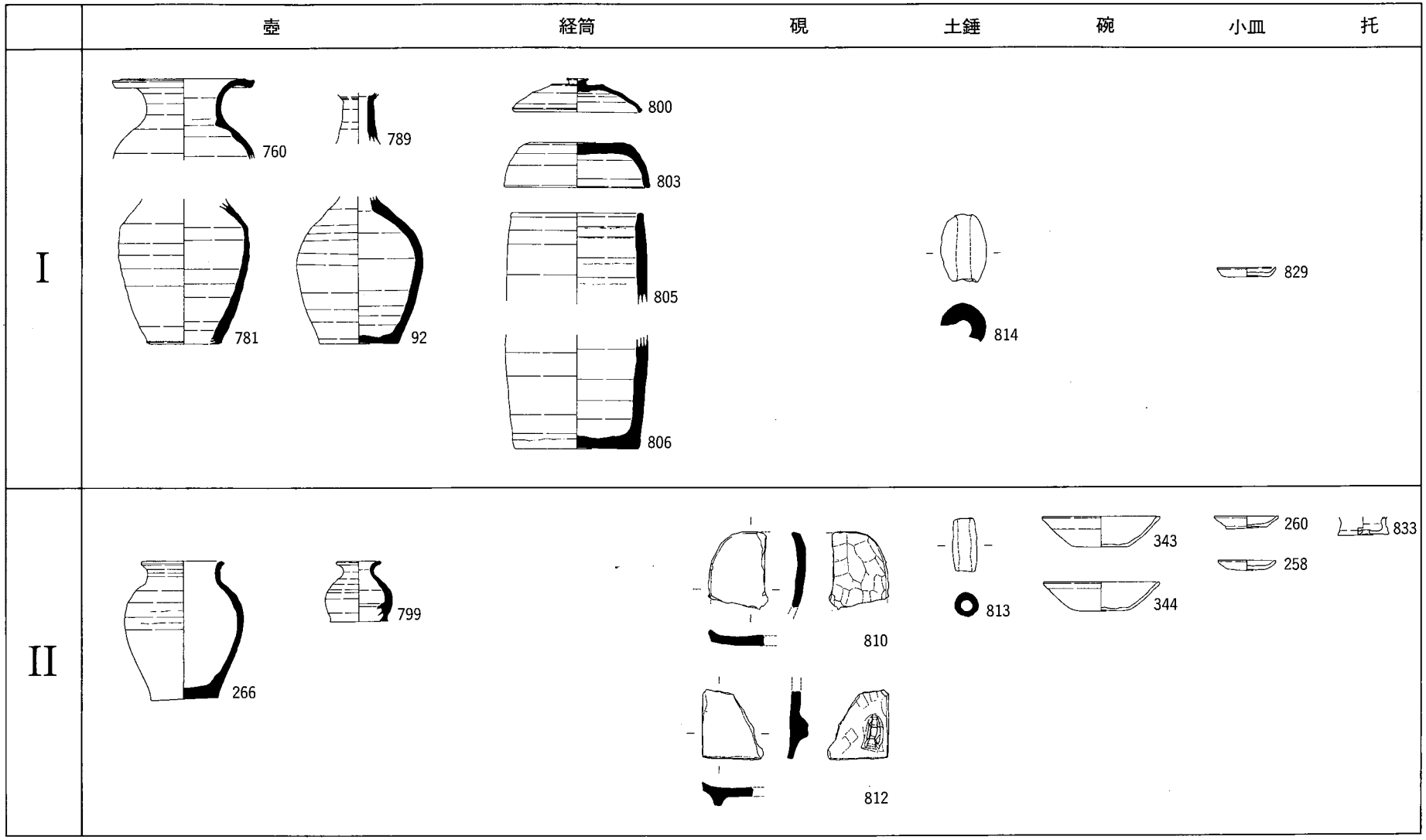
その他、壺はA・B類Ⅰ期のみ、C・D類はⅡ期のみで生産され、経筒はⅠ期のみで生産されているものと思われる。


鉢
小鉢
碗
小皿
I
655
666
68
672
6
48
2
42
3
5
II
1
152
433
146
438
439
144
519
148
256
245
233
II
2
315
311
273
588
299
277
305
271
94
544
106
143
372
107
371
201
204
208

第13図　土器編年図１


甕
I
752
743
745
742
34
57
36
704
II
1
255
735
694
728
II
2
697
698
699

第14図　土器編年図２


壺
経筒
硯
土錘
碗
小皿
托
I
760
789
781
92
800
803
805
806
814
829
II
266
799
810
812
813
343
344
260
258
833

第15図　土器編年図 3

（2）瓦について

軒瓦は窯体などの遺構から出土したものはそれほど多くなく、ほとんどが灰原から出土したものである。また、出土数量も１型式につき１、２点のものが多い。そのため、出土した層位や位置から、その瓦の位置づけを行うことは困難である。そこで、他の生産地や消費地との同笵関係を手がかりとして、その位置づけを考えてみたい。

消費地では京都の尊勝寺、鳥羽離宮、三条西殿などや、神戸市西区の玉津田中遺跡から数はそれほど多くはないが同笵品が出土しており、その供給先を知ることができる。さらに、巴文や蓮華文でも同笵を認定しにくい文様のものが同定できれば、さらにその供給地は増えると思われる。

ＮＨ８類、ＮＨ６類、ＮＨ11類は康和４年（1102）造営の尊勝寺で出土しているが、その出土品はその後の改修時のものを多く含んでいるものと考えられている。垣内小支群出土のＮＨ６類は尊勝寺の229A 型式の笵の左右と上を切断したものであり、ＮＨ11類は尊勝寺の261型式の左右を切断したものである。このように、垣内出土例はいずれも後出的なもので、康和４年建立時より下るものと考えたい。ＮＨ22類は保延２年（1136）造営の鳥羽離宮勝光明院で出土し、同笵ではないがＮＭ11類とＮＨ14類のセットが同年に建立された法金剛院で出土している。これらのことから、瓦の生産が始められたのは1102年以後1136年前後までの間と考えられる。

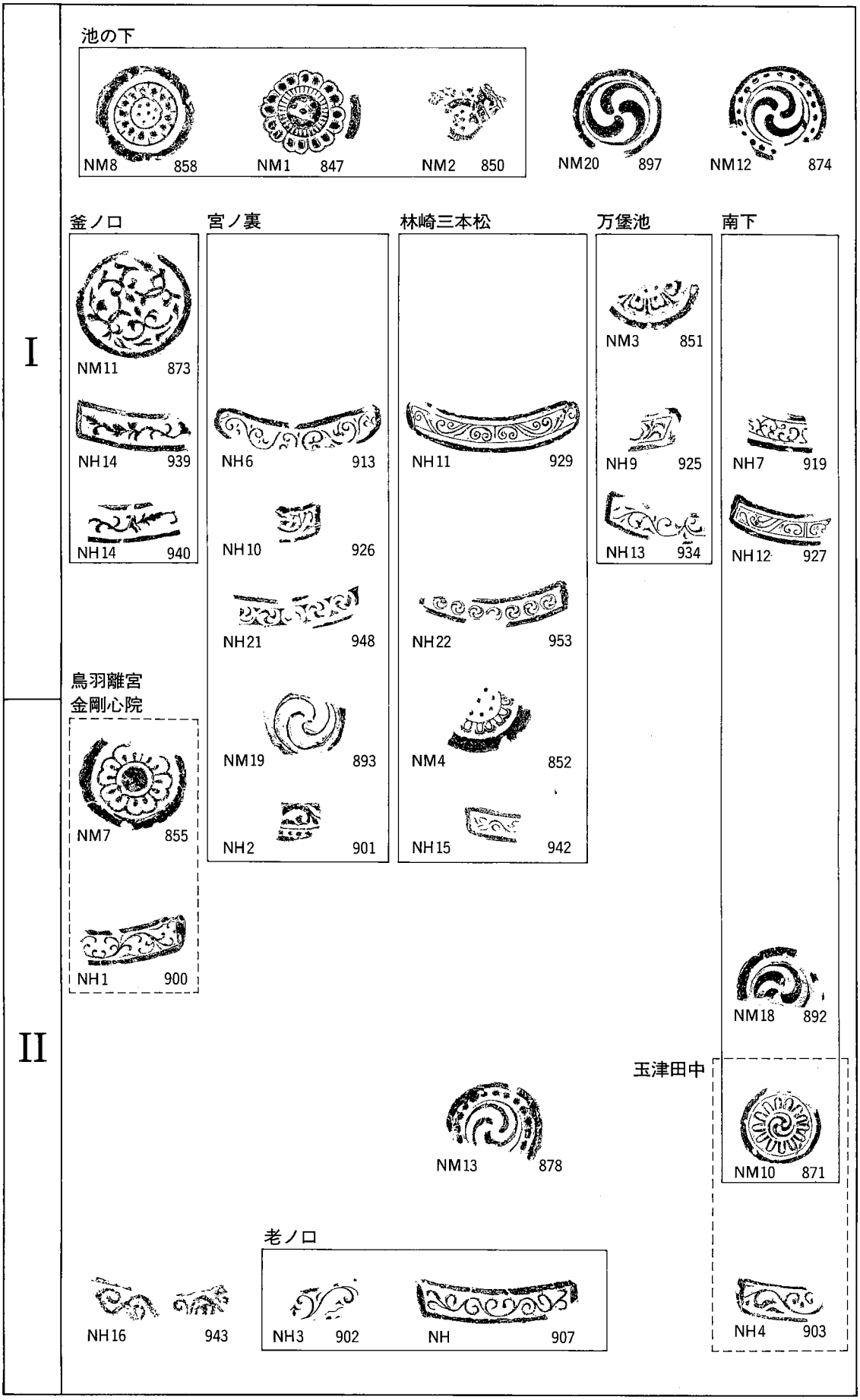
その後の年代の手がかりとなるものを挙げると、ＮＭ７類とＮＨ１類のセットは久寿２年（1155）建立の鳥羽離宮金剛心院で採用されたものであることから、1155年以降のものと考えられる。ＮＨ２類は同文品が治承３年（1179）に建立された法性寺一橋西辺堂推定地や福原に設けられた平氏の邸宅である雪の御所伝承地などで表採されている。1170年代のものである可能性が高い。ＮＭ10類とＮＨ４類のセットは玉津田中遺跡で同笵品が出土している。同遺跡の出土瓦は法住寺殿や承安３年（1173）建立の最勝光院[31]と共通するものが多くみられる。

このように見てくると大きく12世紀前半、後半の２時期（Ⅰ・Ⅱ期）に分かれるものと思われる。

生産地内での関係を見てみると、垣内小支群出土品と神出窯跡群内の他の小支群（池の下、釜ノ口、宮ノ裏、万堡池）との間には、多数の同笵関係が認められた。比較的瓦の多く出土した小支群のなかで堂ノ前、田井裏小支群を除く、全ての小支群と同笵関係が認められるということである。その他では堂ノ前、田井裏小支群と池の下小支群の間で認められるのみである。

神出以外の窯では林崎三本松窯跡群との同笵関係が認められる。林崎三本松窯跡群は明石市街の西郊の海岸に面して位置する窯跡で、明石市教育委員会により平成８年度から調査がおこなわれ、多数の窯跡が検出された。出土した遺物はほぼ瓦のみで、瓦専業窯と言えるものである。なお、林崎三本松窯跡群は三木窯跡群とも同笵関係があり、魚橋窯跡群とも同笵関係がある可能性が高い。

このように林崎三本松窯跡群を中心とした放射状の同笵関係が認められ、さらに神出窯跡群内でも垣内小支群を中心とした放射状の同笵関係が認められる。


I
II
池の下
NM8 858
NM1 847
NM2 850
NM20 897
NM12 874
釜ノ口
NM11 873
NH14 939
NH14 940
宮ノ裏
NH6 913
NH10 926
NH21 948
NM19 893
NH2 901
林崎三本松
NH11 929
NH22 953
NM4 852
NH15 942
万堡池
NM3 851
NH9 925
NH13 934
南下
NH7 919
NH12 927
NM18 892
鳥羽離宮
金剛心院
NM7 855
NH1 900
玉津田中
NM13 878
NM10 871
NH4 903
老ノ口
NH3 902
NH 907
NH16 943

第16図　軒瓦編年図

型式名	生産地	消費地	文献
ＮＭ３	神出・万堡池		①
ＮＭ４	林崎三本松		
ＮＭ８	神出・池ノ下	尊勝寺43、三条西殿20、烏丸線 X-5-5	②、③、④、⑤
ＮＭ10	神出・南下	玉津田中遺跡蓮華文９類	⑥、⑦
ＮＭ18	神出・南下		⑥
ＮＭ19	神出・老ノ口		⑧
ＮＨ４		玉津田中遺跡唐草文５－ｂ類	⑦
ＮＨ５	神出・老ノ口		⑧
ＮＨ６	神出・宮ノ裏、林崎三本松	尊勝寺229、三条西殿96　烏丸線No.34-92	⑨、③、④、⑩
ＮＨ７	神出・南下		⑥
ＮＨ９	神出・万堡池		①
ＮＨ10	神出・宮ノ裏		⑨
ＮＨ11	神出・南下、林崎三本松	尊勝寺261 、三条西殿87	⑥、③、④
ＮＨ12	神出・南下	六角堂	⑥、⑪
ＮＨ13	神出・万堡池、神出・追ノ谷		①、⑫
ＮＨ14	神出・釜ノ口		⑬
ＮＨ15	林崎三本松		
ＮＨ22	林崎三本松	鳥羽43次-9	⑭

第11表　出土軒瓦同笵関係一覧

（文献は注32に掲載）

（3）遺物の構成

今回出土した遺物については口縁度数による個体数計測をおこなった。その結果、須恵器が92％、土師器が１％、瓦が７％を占め、須恵器は鉢が61％、碗が35％、小皿が２％、甕が２％を占めている。この値は12世紀代全般の平均的な値である。そのなかでの時期による差は、灰原中における混入が多いことや、１回の窯詰めによる差が大きいと考えられることから、読み取ることができなかった。ただ、Ⅰ期（あるいはⅡ－１期まで）において甕が30％を占める地区・層位があるなど、甕の比率が高いものと思われる。

東播系須恵器の生産窯で出土遺物の計数作業を行っているのは、今回の調査によるもの以外に魚住窯跡群[33]、繁田窯跡群[34]で行われている（魚住窯跡郡は口縁部残存度1/2以上を１個体として計数している）。

魚住窯跡群は神出窯跡群と並ぶ東播系須恵器の生産窯である。12世紀前半の窖窯である魚住29号窯では鉢が78％、碗が10％、小皿が２％、甕が10％を占めている。12世紀前半の煙管窯である魚住38号窯では鉢が14％、碗が26％、小皿が57％、甕が３％を占めている。12世紀後半の窖窯である魚住22・30号窯では鉢が60％、碗が３％、甕が37％を占めている。神出窯跡群と比べて、窖窯においては碗の比率が低く、甕の比率が高い。ただし、Ⅰ期の神出窯跡群ではやや甕の比率が高いので魚住29号窯の比率に近くなる可能性が高い。魚住38号窯のように、碗などの小型の供膳具が煙管窯で分業して生産されている可能性があるが、出土量としてはそれほど多くないので、全体として碗などの小型の供膳具の比率はやはり低いものと考えたい。

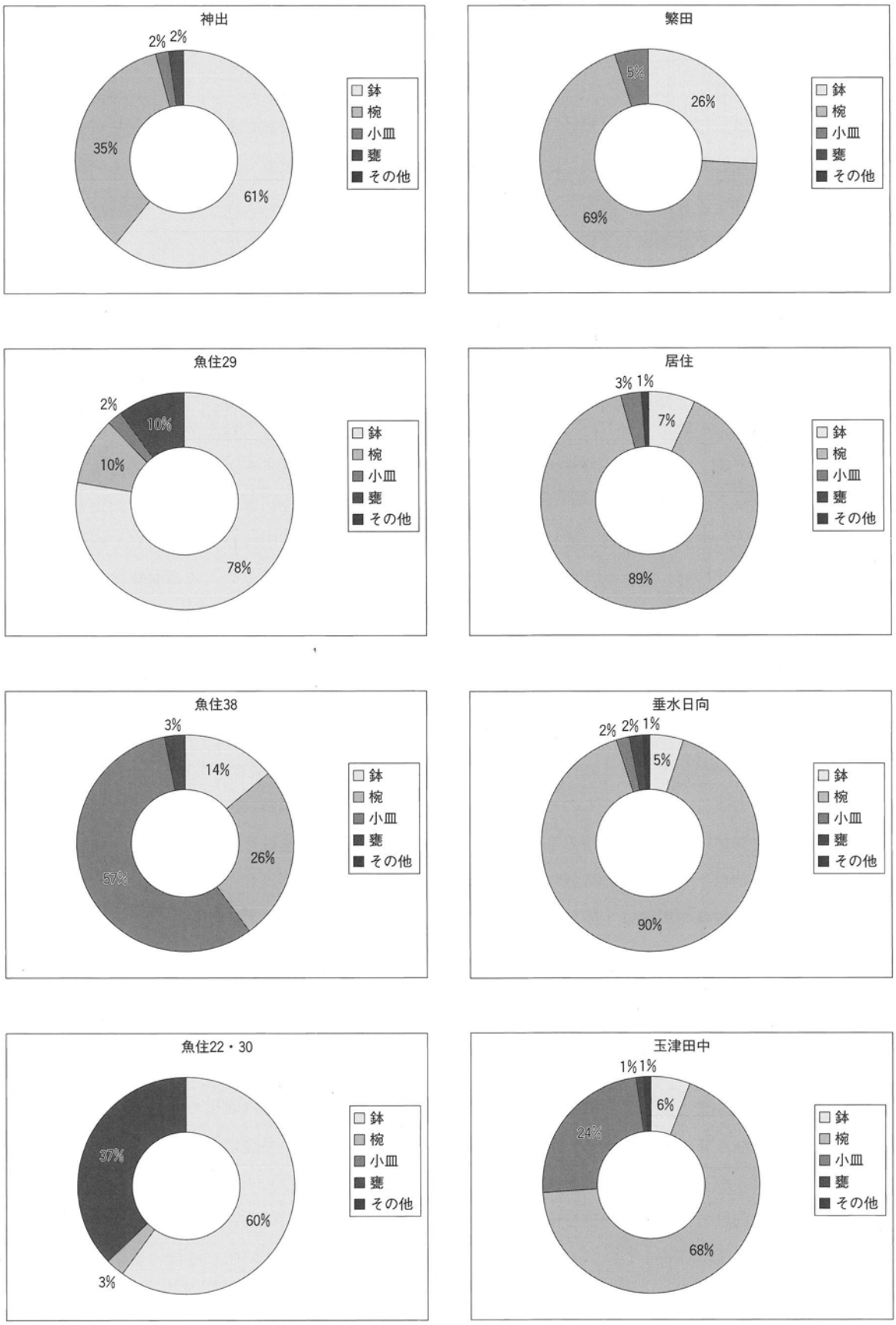
繁田窯跡群は明石川を挟んで神出窯跡群と対面する丘陵に位置し、神出窯跡群の衛星窯と評価されている12世紀前半の窯跡である。出土須恵器の構成比は鉢が26％、碗が69％、小皿が５％を占めている。神出窯跡群と比べて、碗の比率が高く、鉢の比率が低い。

居住遺跡[35]、垂水日向遺跡[36]（口縁部破片数を計数している）、玉津田中遺跡[37]、はいずれも神出窯跡群が位置する旧明石郡内の12世紀代の集落遺跡である。居住遺跡では鉢が７％、碗が89％、小皿が３％、垂水日向遺跡では鉢が５％、碗が90％、小皿が２％、甕が２％を占めている。玉津田中遺跡では小皿が24％と多く、鉢が６％、碗が68％、甕が１％を占めている。このように在地では鉢が６％前後と少なく、碗が90～68％と高い比率を占めている。このような比率は計数作業は行われていないが、碗の比率が90％程度と推定される神戸市北区の小名田窯跡で見ることができるものと思われる[38]。

このように、小名田窯跡群を完全な在地向け生産窯と考え、繁田窯跡群、神出窯跡群、魚住窯跡群の順に対外向け生産窯としての性格が強まっている状況がうかがえる。

瓦については、神出窯跡群では７％とやや高く、魚住窯跡群、繁田窯跡群では１％程度と低い値を示している。この他、林崎三本松窯跡群では計数作業についてはまだ行われていないが、その生産品の99％以上が瓦であることは間違いない。

林崎三本松窯跡群を瓦専業窯として、その他の窯跡（瓦陶兼業窯）とは大きな差があり、瓦陶兼業窯中でも、神出窯跡群と魚住窯跡群、繁田窯跡群との間にも若干の差が認められるものと思われる。



第17図　土器構成グラフ

第２節　遺構に関するまとめ

（１）遺跡の変遷

遺跡は12世紀代（あるいは13世紀の初頭を含む）の80年間前後の時期存続していたと考えられる。遺物の時期に応じて３期に分ける。なお、灰原部分については層位の混乱した部分が多く認められるため時期が特定しにくい。よって、変遷図の灰原の範囲は出土遺物の状況から類推した概念的なものである。

Ⅰ期

鉢Ａ類を多くふくむⅠ期の遺物が出土しているのは、窯体では１号窯第１・２床面や１号窯北側溝など、灰原では灰原Ｃ～Ｆ、灰原Ｋ、灰原Ｍ～Ｓなどである。１号窯第１・２床面はⅠ期に築かれたことは明らかであり、灰原Ｍ～Ｓの鉢Ａ類を多くふくむ層がその灰原と考えられる。３号窯床面の遺物はⅡ－１期のものであるが、３号窯の盛土層を含む灰原Ｍ～ＳなどではⅠ期の遺物が多く出土していることから、３号窯もⅠ期に操業を開始したものと思われる。灰原ＫのⅠ期の灰原層は灰原Ｃ～Ｆと灰原Ｍ～Ｓの間にやや離れて位置している。耕作地造成のための掘削や５号窯の築造などにより、その関係はよくわからないが１号窯第１・２床面の灰原である可能性が高い。

Ⅱ－１期

３号窯は最終床面でⅡ－１期の遺物が出土していることから、Ⅰ期より引き続いて操業していたと考えられる。５号窯は北側盛土中からⅡ－１期の遺物が出土していることから、この頃に構築されたものと考えられる。１号窯第３・４床面は床面から遺物がほとんど出土していないが、Ⅰ期の１号窯第２床面の燃焼部と焼成部の下半を埋めて作られていることから、Ⅱ－１期の可能性が高いものと思われる。。

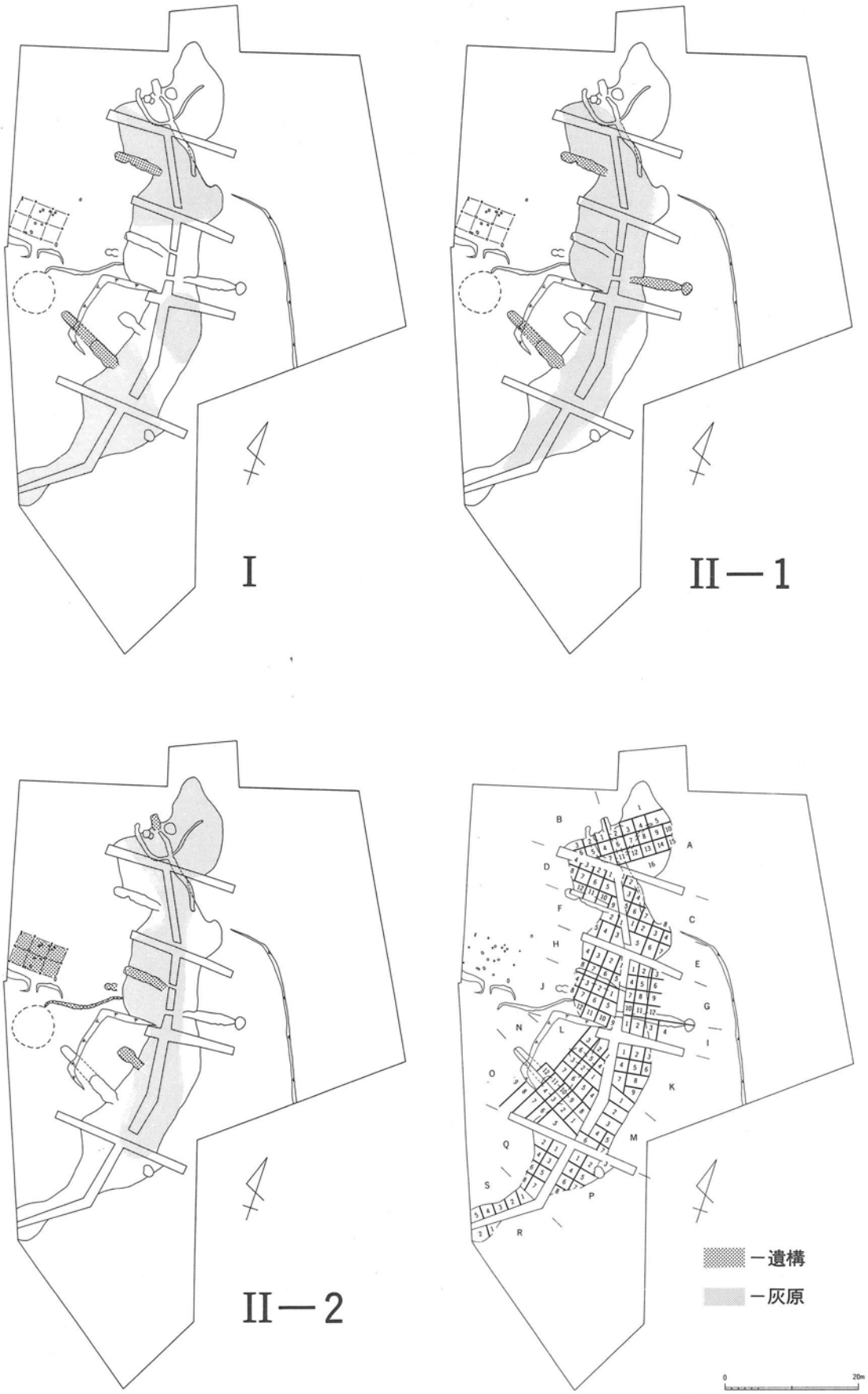
３号窯の灰原はⅠ期と同様に灰原Ｃ～Ｆ、５号窯の灰原は灰原Ｇ～Ｌ、１号窯第３・４床面は灰原Ｍ～Ｑを中心とした範囲に広がるものと思われるが、その境界付近は不明瞭である。

Ⅱ－２期

２号窯、６号窯、７号窯では最終床面で、４号窯では窯体内埋土や溝などの関連する遺構からⅡ－２期の遺物が出土している。２号窯の灰原が７号窯に被ることから、２号窯のほうが７号窯より後まで操業していたと考えられる。

灰原では灰原Ａ～Ｄを中心とした部分は４号窯の灰原と考えられる。２号窯の灰原は周囲の灰原Ｇ～Ｊから７号窯に被るかたちで灰原Ｋ、Ｌ区にまで広がっているようである。７号窯の灰原は周囲の灰原Ｋ～Ｎ区に広がっているようである。

ＳＤ０１埋土やＳＤ０１北側土器群からもⅡ－２期の遺物が出土しており、ＳＢ０１を含む工房と考えられる遺構群はこの時期に属するものと考えられる。



第18図　遺構変遷図

（2）窯の構造

今回の調査では窖窯6基、煙管状窯1基を検出した。窯体の残存状況は5号窯が天井部を除いてほぼ完存であるなど、全体的に比較的良好であった。ここではそのうち窖窯について検討する。

全長は1号窯が10m以上と大きい以外は、完存している5号窯は8.2mで、その他の窯もおそらく10mを超えないものと考えられる。床面の最大幅も1号窯が1.94mと大きい以外は、1.45～1.64mと1.5m前後にあるようである。全長は10m弱、最大幅は1.5m前後というのが標準的な規模と考えられる。1号窯がやや大きいのは比較的甕を多く焼成していることによるものであろう。

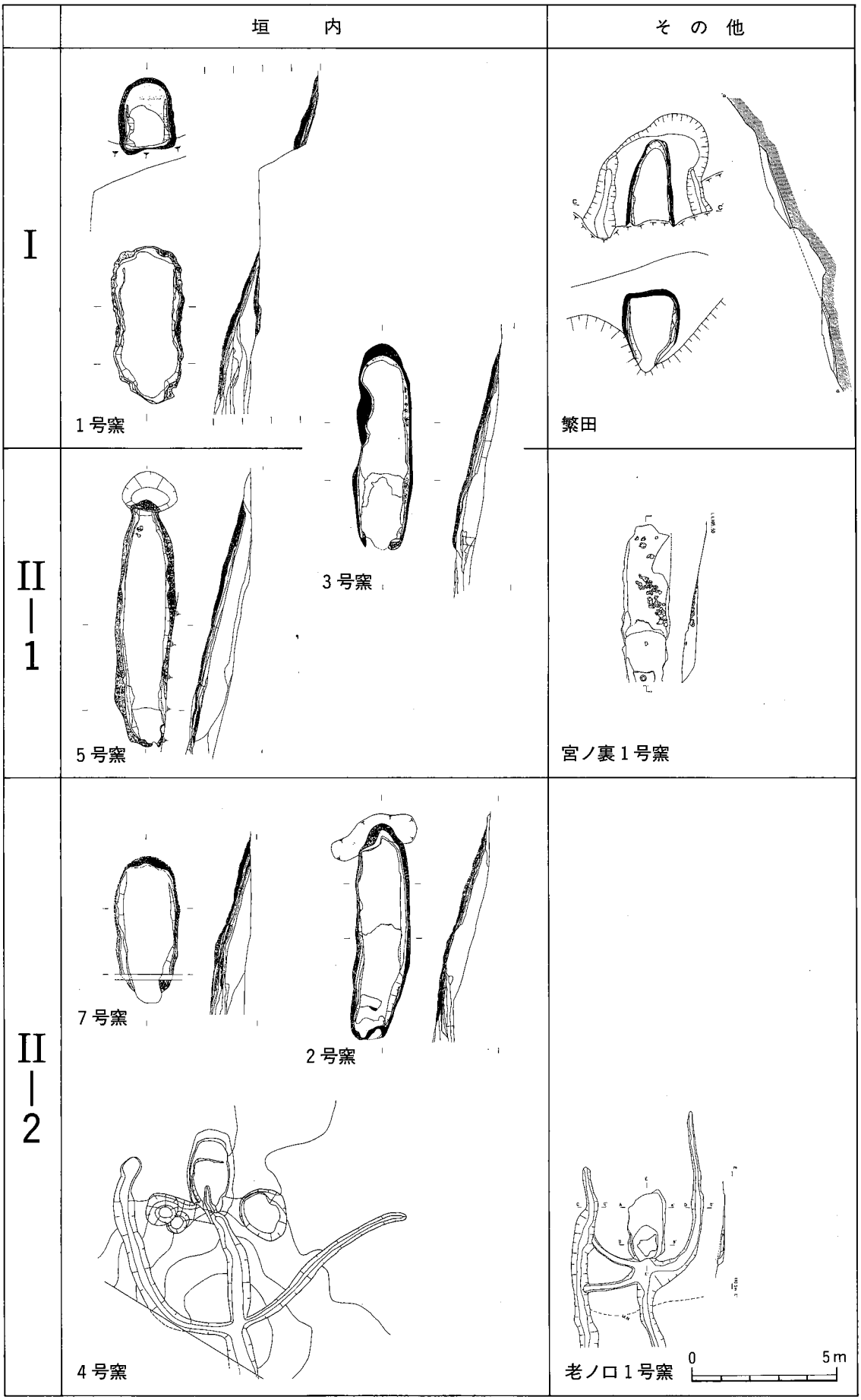
床面傾斜角度は1号窯が18～20度とやや急で、その他は12～16度と10度台のものが多い。神戸市教育委員会調査のものが11世紀末頃の釜ノ口5号窯が20度程度であるのを除いて、10度未満のものが多いのに比べて[39]、神出窯跡群のなかではやや角度が急である。床面傾斜角度は12世紀前半までは20度前後のものが残るが、12世紀後半になると20度未満になるようである。

平面形は原則として焚口を燃焼部に対してすぼめ、焼成部下位で最大幅をもつものが多いようである。燃焼部は7号窯などのように壁面を貼りたすことにより、幅を狭めているものがある。特に、焚口をすぼめた形態は、神出窯跡群より時期の古い緑ケ丘窯跡群[40]、志方窯跡群[41]、相野窯跡群[42]などの窯の焚口がハの字形に広がっているものが多く、すぼまっているものがみられないのに比べて非常に特異である。

2～4号窯では燃焼部と焼成部との間に段が認められる。段は4号窯では築窯当初から設けられていたようであるが、2号窯、3号窯では築窯当初から存在したものではなく、焼成部の床面を貼り重ねた時に設けられたものである。このような段についてはこれまでに宮ノ裏1号窯や魚住33号窯などで認められ、湖西窯の昇煙壁との類似性が指摘されている[43]。しかしながら、このような段が築窯当初から設けられたものでないことから考えれば、焼台などの融着や床面のひび割れなどにより焼成部床面の補修がなされるが、燃焼部については容量の確保のため補修をおこなわなかったためこのような段が付いたものと推定したい。

窯体はほぼ地上式といえるもので、地山を少し掘り下げる（1号窯で最大50cm）か、あるいは全く掘り下げないで、土を盛り上げて構築している。杭を打ち込んだ痕跡が確認されていることから、支柱を設けて側面の盛土および窯壁の構築をおこない、天井も中軸線上に設けられた支柱で支えて架けられたと考えられる。このように、杭を支柱にして盛土で窯体を構築することは魚住窯跡群[44]、三木窯跡群[45]でも確認されており、東播系須恵器窯には共通するようである。東播系須恵器出現以前の平安時代の播磨の窯体は、地山の掘り込みが少ないことから地上式あるいはそれに近い窯体が想定されている。ただし、盛土部分と杭については確認されていないことから、若干の構造差があるものと思われる。

付属の設備としては1、2、4、7号窯のように溝が設けられる場合がある。1、2、7号窯では断面がV字で深く、4号窯では断面がU字で浅いものである。ただし、2号窯や7号窯では最終操業時には機能していなかった可能性が高い。



第19図　窯体変遷図

註

（1）主として下記の文献を参考とした。
新修神戸市史編集委員会『新修神戸市史』歴史編Ⅰ自然考古（1987）
兵庫県史編集専門委員会『兵庫県史』考古資料編（1990）

（2）主として森田稔「東播系中世須恵器生産の成立と展開」『神戸市立博物館研究紀要』第3号（1986）を参考とした。

（3）窯の時期については主として森田稔「神出古窯址群の発掘成果」『神戸の歴史』第19号（1988）を参考とした。

（4）中村善則「神出古窯址群茶山1号窯」『神戸市立博物館だより』No.16（1986）

（5）丹治康明「神出古窯址群」『昭和56年度神戸市埋蔵文化財年報』（1983）

（6）谷正俊ほか「神出遺跡」『平成元年度神戸市埋蔵文化財年報』（1992）

（7）大村敬通・水口富夫『魚住古窯跡群』（1983）

（8）寺島孝一・鋤柄俊夫・植山茂『魚住古窯跡群発掘調査報告書』（1985）

（9）兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所『平成7年度年報』（1996）

（10）三田市教育委員会『高平土地改良区ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財調査の記録 '81～'89』（1990）

（11）余号昭彦ほか『刀池古窯跡群』（1995）

（12）名古屋考古学会裏山1号窯調査団「八事裏山1号窯第2次調査報告」『古代人』41（1983）

（13）毛谷古窯跡群埋蔵文化財調査会『久留美毛谷』（1990）

（14）兵庫県立歴史博物館『兵庫の経塚』（1992）

（15）森内秀造「(75) 二塚古墳経塚」『加古川市史』第4巻（1996）

（16）中川渉ほか『玉津田中遺跡』第4分冊（1995）

（17）須藤宏「神出東遺跡」『昭和63年度神戸市埋蔵文化財年報』（1994）

（18）神出窯跡群については小支群名のみ記す。

（19）林崎三本松窯跡群については明石市教育委員会井上智代氏のご教示による。

（20）杉山信三・岡田茂弘「尊勝寺跡発掘調査報告」『平城宮跡発掘調査報告Ⅰ』（1961）

（21）今里幾次「播磨魚橋瓦窯跡」『播磨考古学研究』（1980）

（22）丹治康明「神出古窯址群」『昭和57年度神戸市埋蔵文化財年報』（1985）

（23）中川渉ほか『玉津田中遺跡』第4分冊（1995）

（24）龍野市史編纂専門委員会『龍野市史』第4巻（1984）

（25）西田直二郎「藤原忠平の法性寺及道長の五大堂」『京都府史蹟名勝天然記念物調査報告』第9冊（1928）

（26）谷正俊ほか「神出遺跡」『平成元年度神戸市埋蔵文化財年報』（1992）

（27）兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所『神大病院構内遺跡現地説明会資料』（1992）

（28）菅本宏明ほか「神出・追ノ谷遺跡」『昭和60年度神戸市埋蔵文化財年報』（1988）

（29）中川渉ほか『玉津田中遺跡』第4分冊（1995）

（30）森田稔「中世須恵器」『概説中世の土器・陶磁器』（1995）

(31) 大谷高等学校法住寺殿跡遺跡調査会『大谷中・高等学校校内遺跡発掘調査報告書』(1984)

(32) ①丹治康明「万堡池窯址」『昭和62年度神戸市埋蔵文化財年報』(1990)

②丹治康明「神出古窯址群」『昭和57年度神戸市埋蔵文化財年報』(1985)

③杉山信三・岡田茂弘「尊勝寺跡発掘調査報告」『平城宮跡発掘調査報告Ⅰ』(1961)

④下條信行・植山茂・定森秀夫『三条西殿跡』(1983)

⑤京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査会『京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査年報Ⅰ』(1979)

⑥丹治康明「神出古窯址群」『昭和57年度神戸市埋蔵文化財年報』(1985)

⑦中川渉ほか『玉津田中遺跡』第4分冊 (1995)

⑧丹治康明「神出古窯址群」『昭和58年度神戸市埋蔵文化財年報』(1986)

⑨丹治康明「神出古窯址群」『昭和56年度神戸市埋蔵文化財年報』(1983)

⑩京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査会『京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査年報Ⅲ』(1981)

⑪甲元真之『平安京六角堂の発掘調査』 1977年

⑫菅本宏明ほか「神出・追ノ谷遺跡」『昭和60年度神戸市埋蔵文化財年報』(1988)

⑬丹治康明「神出古窯址群」『昭和56年度神戸市埋蔵文化財年報』(1983)

⑭京都市埋蔵文化財調査センター・(財)京都市埋蔵文化財研究所『鳥羽離宮跡調査概要昭和55年度』(1981)

(33) 大村敬通・水口富夫『魚住古窯跡群』(1983)

(34) 丸山潔『繁田古窯址群発掘調査報告書』(1988)

(35) 丸山潔『新方遺跡発掘調査概要・居住遺跡発掘調査概要』(1984)

(36) 谷正俊ほか『神戸市垂水区垂水・日向遺跡第1, 3, 4次調査』(1992)

(37) 中川渉ほか『玉津田中遺跡』第4分冊 (1995)

(38) 久保弘幸ほか『小名田窯跡群』(1997)

(39) 森田稔「東播系中世須恵器生産の成立と展開」『神戸市立博物館研究紀要』第3号 (1986)

(40) 森内秀造『相生市・緑ケ丘窯址群』(1983)

(41) 中村浩ほか『札馬古窯跡群発掘調査報告書』(1983)

(42) 岡崎正雄ほか『相野古窯跡群』(1992)

(43) 森田稔「東播系中世須恵器生産の成立と展開」『神戸市立博物館研究紀要』第3号 (1986)

(44) 大村敬通・水口富夫『魚住古窯跡群』(1983)

(45) 平成4年兵庫県教育委員会調査、久留美窯跡群柳谷支群で検出。

遺物一覧表

報告番号	種別	器形	分類	出土位置	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	備考
1	須恵器	碗	A 2	1号窯第2床面	(15.6)	4.3	(5.5)	7.5Y6/0 灰	
2	須恵器	碗	A 2	1号窯第2床面	16.2	4.7	5.8	2.5GY7/1明オリーブ灰	
3	須恵器	碗	A 2	1号窯第2床面	16.6	4.7	6.4	5Y8/0 灰白	
4	須恵器	鉢	A 1	1号窯第2床面	(29.8)	10.8	(13.2)	2.5Y7/2 灰黄	
5	須恵器	鉢	A 1	1号窯第2床面	28.3	9.9	10.7	N7/0 灰白	
6	須恵器	鉢	A 1	1号窯第2床面	(28.7)	10.4	10.3	N7/0 灰白	
7	須恵器	鉢	A 1	1号窯第2床面	(31.0)	10.5	(10.0)	2.5GY7/1明オリーブ灰	
8	須恵器	鉢	A 1	1号窯第2床面	(30.6)	10.4	——	2.5Y6/2 灰黄	
9	須恵器	鉢	A 2	1号窯第2床面	(30.0)	(10.6)	(10.0)	5Y6/1 灰	
10	須恵器	鉢	A 1	1号窯第2床面	(31.6)	——	——	N7/0 灰白	
11	須恵器	鉢	A 1	1号窯第2床面	(29.8)	——	——	N7/0 灰白	
12	須恵器	鉢	A 1	1号窯第2床面	(31.2)	——	——	5Y7/1 灰白	
13	須恵器	鉢	A 2	1号窯第2床面	(29.5)	——	——	2.5Y8/1 灰白	
14	須恵器	鉢	A 1	1号窯第2床面	(31.0)	——	——	2.5GY6/1オリーブ灰	
15	須恵器	鉢	A 1	1号窯第2床面	(30.8)	——	——	N7/0 灰白	
16	須恵器	鉢	A 2	1号窯第2床面	(35.0)	——	——	N5/0 灰	
17	須恵器	鉢	A 2	1号窯第2床面	(29.5)	——	——	N6/0 灰	
18	須恵器	鉢	A 3	1号窯第2床面	(28.0)	——	——	N5/0 灰	
19	須恵器	鉢	A 1	1号窯第2床面	——	——	——	2.5GY6/1オリーブ灰	
20	須恵器	鉢	A 3	1号窯第2床面	——	——	——	5Y7/2 灰白	
21	須恵器	鉢	A 2	1号窯第2床面	——	——	——	N5/1 灰	
22	須恵器	鉢	A 1	1号窯第2床面	——	——	——	N7/0 灰白	
23	須恵器	鉢	A 1	1号窯第2床面	——	——	——	5Y7/0 灰白	
24	須恵器	鉢	A 2	1号窯第2床面	——	——	——	N6/0 灰	
25	須恵器	鉢	A 3	1号窯第2床面	——	——	——	N6/0 灰	
26	須恵器	鉢	A 3	1号窯第2床面	——	——	——	5Y7/0 灰白	
27	須恵器	鉢	A 2	1号窯第2床面	——	——	——	7.5Y5/1 灰	
28	須恵器	鉢		1号窯第2床面	——	——	10.5	5Y7/1 灰白	
29	須恵器	鉢		1号窯第2床面	——	——	10.8	5YR7/2 明褐灰	
30	須恵器	鉢		1号窯第2床面	——	——	12.2	N7/0 灰白	
31	須恵器	鉢		1号窯第2床面	——	——	11.0	2.5Y8/1 灰白	
32	須恵器	鉢		1号窯第2床面	——	——	10.8	2.5Y7/3 浅黄	
33	須恵器	鉢		1号窯第2床面	——	——	10.0	2.5Y6/2 灰黄	
34	須恵器	甕	A 1	1号窯第2床面	(26.6)	——	——	N5/0 灰	
35	須恵器	甕	A 3	1号窯第2床面	(21.5)	——	——	2.5Y7/1 灰白	
36	須恵器	甕	A 3	1号窯第2床面	(22.6)	——	——	N5/0 灰	
37	須恵器	甕	A 3	1号窯第2床面	(34.2)	——	——	5Y4/1 灰	
38	須恵器	碗	A 2	1号窯焚口赤焼け	15.7	4.8	5.9	N6/0 灰	
39	須恵器	碗	A 2	1号窯焚口赤焼け	(16.4)	5.0	5.5	N6/0 灰	
40	須恵器	碗	A 2	1号窯焚口赤焼け	15.6	4.7	(4.8)	N7/0 灰白	
41	須恵器	鉢	A 2	1号窯焚口赤焼け	(29.6)	10.4	11.0	N6/0 灰	
42	須恵器	小皿	B	1号窯焚口赤焼け	(9.0)	1.8	(6.0)	7.5Y7/1 灰白	
43	須恵器	碗	A 2	1号窯埋土	16.2	4.8	6.2	N6/0 灰	
44	須恵器	碗	A 2	1号窯埋土	15.7	4.8	6.4	N6/0 灰	
45	須恵器	碗	A 2	1号窯埋土	17.6	4.9	6.0	N6/0 灰	
46	須恵器	鉢	A 1	1号窯埋土	27.8	11.5	11.2	N7/0 灰白	
47	須恵器	鉢	A 1	1号窯埋土	31.0	10.0	10.8	7.5Y6/2 灰オリーブ	
48	須恵器	小鉢	A 1	1号窯埋土	19.4	5.5	(8.3)	N5/0 灰	
49	須恵器	小皿	B	1号窯埋土	8.0	1.5	3.9	N6/0 灰	
50	須恵器	小皿	B	1号窯埋土	7.8	(1.7)	3.8	N6/0 灰	

報告番号	種別	器形	分類	出土位置	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	備考
51	須恵器	小皿	B	1号窯埋土	(7.8)	1.6	5.2	N7/0 灰白	
52	須恵器	小皿	B	1号窯埋土	8.3	1.2	5.7	N6/0 灰	
53	須恵器	甕	A 2	1号窯焚口赤焼け	(29.2)	——	——	N3/0 暗灰	
54	須恵器	甕	A 2	1号窯埋土	(23.8)	——	——	10YR5/2 灰黄褐	
55	須恵器	甕	A 1	1号窯埋土	(38.7)	——	——	N4/0 灰	
56	須恵器	甕	A 2	1号窯焚口赤焼け	(24.7)	——	——	N5/0 灰	
57	須恵器	甕	A 2	1号窯焚口赤焼け	(25.5)	——	——	N7/0 灰白	
58	須恵器	甕	B	1号窯焚口赤焼け	(26.1)	——	——	N4/0 灰	
59	須恵器	甕	A 3	1号窯焚口赤焼け	(26.9)	——	——	N7/0 灰白	
60	須恵器	壺		1号窯焚口赤焼け	——	——	(10.0)	N5/0 灰	
61	須恵器	碗	A 2	1号窯北側溝床面	(17.1)	(5.1)	5.8	2.5GY6/1 オリーブ灰	
62	須恵器	碗	A 2	1号窯北側溝床面	(16.7)	4.8	6.7	N7/0 灰白	
63	須恵器	碗	A 2	1号窯北側溝床面	(16.7)	5.5	7.0	N7/0 灰白	
64	須恵器	碗	A 2	1号窯北側溝床面	16.3	4.7	6.3	N7/0 灰白	
65	須恵器	碗	A 2	1号窯北側溝床面	16.2	4.7	6.5	N7/0 灰白	
66	須恵器	碗	A 1	1号窯北側溝床面	16.0	5.9	6.5	N7/0 灰白	
67	須恵器	碗	A 2	1号窯北側溝床面	(16.5)	4.6	6.0	N6/0 灰	
68	須恵器	碗	A 1	1号窯北側溝床面	15.7	5.1	6.2	N7/0 灰白	
69	須恵器	碗	A 1	1号窯北側溝床面	(15.8)	4.9	(7.1)	N7/0 灰白	
70	須恵器	碗	A 1	1号窯北側溝床面	15.6	5.2	6.1	N7/0 灰白	
71	須恵器	碗	A 1	1号窯北側溝床面	(15.2)	5.3	6.3	N6/0 灰	
72	須恵器	鉢	A 3	1号窯北側溝床面	(38.4)	15.6	15.2	N6/0 灰	輪高台付
73	須恵器	鉢	A 3	1号窯北側溝床面	(29.4)	10.7	11.6	7.5Y7/2 灰白	
74	須恵器	鉢	A 3	1号窯北側溝床面	(29.1)	10.0	11.0	N8/0 灰白	
75	須恵器	鉢	A 1	1号窯北側溝床面	(29.0)	10.9	10.1	N7/0 灰白	
76	須恵器	鉢	A 1	1号窯北側溝床面	(28.0)	10.2	10.2	N8/0 灰白	
77	須恵器	鉢	B 4	1号窯北側溝床面	27.0	10.8	10.1	N7/0 灰白	
78	須恵器	鉢	C	1号窯北側溝床面	26.0	——	——	N7/0 灰白	
79	須恵器	鉢	B 1	1号窯北側溝床面	(29.4)	10.9	(9.6)	N7/0 灰白	
80	須恵器	鉢	A 3	1号窯北側溝床面	(30.1)	(10.9)	10.7	N7/0 灰白	
81	須恵器	碗	A 2	1号窯北側溝埋土	16.8	4.9	5.2	N7/0 灰白	
82	須恵器	碗	A 2	1号窯北側溝埋土	16.2	5.5	4.6	N7/0 灰白	
83	須恵器	碗	A 2	1号窯北側溝埋土	15.2	4.6	7.0	N6/0 灰	
84	須恵器	碗		1号窯北側溝埋土	——	——	(2.8)	N6/0 灰	輪高台付
85	須恵器	小皿	B	1号窯北側溝埋土	7.8	1.7	5.0	7.5Y6/1 灰	
86	須恵器	小皿	B	1号窯北側溝埋土	7.9	2.1	3.7	N5/0 灰	
87	須恵器	小皿	B	1号窯北側溝埋土	8.2	2.3	5.7	N4/0 灰	
88	須恵器	小皿	B	1号窯北側溝埋土	8.3	1.9	5.0	N5/0 灰	
89	須恵器	小皿	B	1号窯北側溝埋土	8.3	1.9	5.0	N6/0 灰	
90	須恵器	小皿	B	1号窯北側溝埋土	9.0	1.9	5.2	7.5Y6/1 灰	
91	須恵器	甕	A 3	1号窯北側溝埋土	29.4	——	——	N7/0 灰白	
92	須恵器	壺	B	1号窯北側溝埋土	——	——	10.6	N7/0 灰白	
93	須恵器	壺	B	1号窯北側溝埋土	——	——	10.7	N6/0 灰	
94	須恵器	鉢	B 2	2号窯床面	(28.0)	12.0	9.4	N5/0 灰	
95	須恵器	鉢	B 1	2号窯床面	——	——	——	N4/0 灰	
96	須恵器	鉢	B 2	2号窯床面	——	——	——	N7/0 灰白	
97	須恵器	鉢	B 2	2号窯床面	——	——	——	N4/0 灰	
98	須恵器	鉢		2号窯床面	——	——	——	N5/0 灰	
99	須恵器	鉢		2号窯床面	——	——	9.0	N4/0 灰	
100	須恵器	鉢		2号窯床面	——	——	(9.8)	2.5GY6/0 オリーブ灰	

報告番号	種別	器形	分類	出土位置	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	備考
101	須恵器	盤		2号窯床面	——	——	——	N4/0 灰	
102	須恵器	碗	B	2号窯床面	16.8	4.9	6.3	N5/0 灰	
103	須恵器	碗	B	2号窯床面	(16.8)	4.5	(6.8)	N8/0 灰白	
104	須恵器	碗	B	2号窯床面	(16.5)	4.1	(7.1)	N6/0 灰	
105	須恵器	碗	B	2号窯床面	——	(4.5)	6.4	N5/0 灰	
106	須恵器	碗	B	2号窯床面	(16.1)	4.5	(5.7)	7.5Y5/1 灰	
107	須恵器	碗	B	2号窯床面	(15.8)	4.9	(6.4)	N7/0 灰白	
108	須恵器	碗	B	2号窯床面	(15.8)	4.8	(5.8)	10Y7/1 灰白	
109	須恵器	碗	B	2号窯床面	(15.8)	4.0	(6.9)	N8/0 灰白	
110	須恵器	碗	B	2号窯床面	(15.7)	4.5	6.2	N6/0 灰	
111	須恵器	碗	B	2号窯床面	(15.7)	4.3	5.9	N5/0 灰	
112	須恵器	碗	B	2号窯床面	(15.6)	4.6	(5.8)	7.5Y7/1 灰白	
113	須恵器	碗	B	2号窯床面	15.6	4.2	5.6	N7/0 灰白	
114	須恵器	碗	B	2号窯床面	(15.6)	4.1	6.3	N6/0 灰	
115	須恵器	碗	B	2号窯床面	15.6	4.1	6.0	N6/0 灰	
116	須恵器	碗	B	2号窯床面	(15.6)	3.6	6.8	N6/0 灰	
117	須恵器	碗	B	2号窯床面	15.5	4.3	6.0	N5/0 灰	
118	須恵器	碗	B	2号窯床面	15.5	4.2	5.5	N8/0 灰白	
119	須恵器	碗	B	2号窯床面	15.5	3.6	6.1	N7/0 灰白	
120	須恵器	碗	B	2号窯床面	15.5	3.6	5.9	N5/0 灰	
121	須恵器	碗	B	2号窯床面	(15.4)	4.5	(5.6)	5Y7/2 灰白	
122	須恵器	碗	B	2号窯床面	15.4	4.3	6.1	N3/0 暗灰	
123	須恵器	碗	B	2号窯床面	(15.4)	4.2	6.3	N5/0 灰	
124	須恵器	碗	B	2号窯床面	15.4	4.1	5.1	N6/0 灰	
125	須恵器	碗	B	2号窯床面	15.3	4.7	6.3	N5/0 灰	
126	須恵器	碗	B	2号窯床面	15.3	3.8	6.2	N6/0 灰	
127	須恵器	碗	B	2号窯床面	15.3	3.7	5.6	N5/0 灰	
128	須恵器	碗	B	2号窯床面	(15.2)	4.3	6.2	N6/0 灰	
129	須恵器	碗	B	2号窯床面	15.2	4.1	5.9	N7/0 灰白	
130	須恵器	碗	B	2号窯床面	(15.1)	4.3	6.3	N7/0 灰白	
131	須恵器	碗	B	2号窯床面	15.1	3.7	5.9	N3/0 暗灰	
132	須恵器	碗	B	2号窯床面	(15.0)	4.3	6.0	N7/0 灰白	
133	須恵器	碗	B	2号窯床面	(15.0)	4.3	(5.8)	N7/0 灰白	
134	須恵器	碗	B	2号窯床面	(15.0)	4.1	(6.4)	N5/0 灰	
135	須恵器	碗	B	2号窯床面	(15.0)	4.0	(5.3)	N5/0 灰	
136	須恵器	碗	B	2号窯床面	14.9	4.0	8.1	N6/0 灰	
137	須恵器	碗	B	2号窯床面	14.8	4.0	6.2	N4/0 灰	
138	須恵器	碗	B	2号窯床面	14.8	3.5	8.7	N5/0 灰	
139	須恵器	碗	B	2号窯床面	14.7	5.0	5.4	N5/0 灰	
140	須恵器	碗	B	2号窯床面	(14.7)	4.1	(6.1)	N3/0 暗灰	
141	須恵器	碗	B	2号窯床面	(14.7)	4.0	5.7	N6/0 灰	
142	須恵器	碗	B	2号窯床面	(14.2)	4.2	4.9	N5/0 灰	
143	須恵器	小皿	C	2号窯床面	18.1	1.2	4.9	N5/0 灰	
144	須恵器	碗	A 2	3号窯床面	17.6	4.7	(7.5)	N5/0 灰	
145	須恵器	碗	A 2	3号窯床面	16.7	4.5	(6.4)	5Y5/1 灰	
146	須恵器	碗	A 2	3号窯床面	15.6	4.9	(6.6)	2.5Y7/1 灰白	
147	須恵器	鉢	B 4	3号窯床面	(29.8)	10.0	(9.6)	7.5Y6/1 灰	
148	須恵器	鉢	B 2	3号窯床面	(28.5)	(10.7)	11.0	N6/1 灰	
149	須恵器	鉢	B 2	3号窯床面	(27.4)	10.3	(10.7)	7.5Y5/1 灰	
150	須恵器	鉢	B 2	3号窯床面	29.0	9.6	(9.2)	7.5Y6/1 灰	

報告番号	種別	器形	分類	出土位置	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	備考
151	須恵器	鉢	B 2	3号窯床面	(29.6)	—	—	5Y5/1 灰	
152	須恵器	鉢	B 1	3号窯床面	(28.6)	11.3	(8.2)	5Y7/1 灰白	
153	須恵器	鉢	B 3	3号窯床面	(21.0)	(9.2)	—	7.5Y7/1 灰	
154	須恵器	鉢	B 2	3号窯床面	(20.0)	8.3	—	10Y5/1 灰	
155	須恵器	鉢	A 1	3号窯床面	(20.8)	—	—	7.5Y5/1 灰	
156	須恵器	鉢	B 2	3号窯床面	(29.5)	—	—	N5/0 灰	
157	須恵器	鉢	B 2	3号窯床面	(30.8)	—	—	N5/0 灰	
158	須恵器	鉢	B 4	3号窯床面	(29.5)	—	—	N4/0 灰	
159	須恵器	鉢	B 2	3号窯床面	(30.4)	—	—	10Y5/1 灰	
160	須恵器	鉢	B 2	3号窯床面	(29.3)	—	—	7.5Y5/1 灰	
161	須恵器	鉢	B 2	3号窯床面	(29.2)	—	—	2.5Y6/1 黄灰	
162	須恵器	鉢	B 3	3号窯床面	(27.0)	—	—	N6/0 灰	
163	須恵器	鉢	B 2	3号窯床面	(28.9)	—	—	N5/0 灰	
164	須恵器	鉢	B 2	3号窯床面	(25.8)	—	—	10Y6/1 灰	
165	須恵器	鉢	B 2	3号窯床面	(28.3)	—	—	2.5Y6/1 黄灰	
166	須恵器	鉢	B 2	3号窯床面	(25.2)	—	—	N4/1 灰	
167	須恵器	鉢	B 4	3号窯床面	(26.8)	—	—	7.5Y6/1 灰	
168	須恵器	鉢	B 4	3号窯床面	(23.8)	—	—	N5/0 灰	
169	須恵器	鉢	A 1	3号窯床面	—	—	—	7.5Y6/1 灰	
170	須恵器	鉢	B 4	3号窯床面	—	—	—	N5/0 灰	
171	須恵器	鉢	B 2	3号窯床面	—	—	—	5Y6/1 灰	
172	須恵器	鉢	B 2	3号窯床面	—	—	—	N5/0 灰	
173	須恵器	鉢	B 1	3号窯床面	—	—	—	N6/0 灰	
174	須恵器	鉢	B 2	3号窯床面	—	—	—	N4/0 灰	
175	須恵器	鉢	B 2	3号窯床面	—	—	—	2.5Y8/1 灰白	
176	須恵器	鉢	B 3	3号窯床面	—	—	—	N3/0 暗灰	
177	須恵器	鉢	B 3	3号窯床面	—	—	—	N5/1 灰	
178	須恵器	鉢	B 2	3号窯床面	—	—	—	7.5Y5/1 灰	
179	須恵器	鉢	B 2	3号窯床面	—	—	—	10Y4/1 灰	
180	須恵器	鉢	B 2	3号窯床面	—	—	—	N6/0 灰	
181	須恵器	鉢	B 2	3号窯床面	—	—	—	5Y5/1 灰	
182	須恵器	鉢	B 2	3号窯床面	—	—	—	N5/0 灰	
183	須恵器	鉢	B 2	3号窯床面	—	—	—	7.5Y5/1 灰	
184	須恵器	鉢	B 3	3号窯床面	—	—	—	10Y6/1 灰	
185	須恵器	鉢	B 2	3号窯床面	—	—	—	7.5Y7/1 灰白	
186	須恵器	鉢		3号窯床面	—	—	10.4	N7/0 灰	
187	須恵器	鉢		3号窯床面	—	—	9.4	N4/0 灰	
188	須恵器	鉢		3号窯床面	—	—	(11.4)	2.5GY6/1 オリーブ灰	
189	須恵器	鉢		3号窯床面	—	—	7.9	N7/0 灰白	
190	須恵器	鉢		3号窯床面	—	—	8.9	5Y8/1 灰白	
191	須恵器	鉢		3号窯床面	—	—	(9.6)	N5/0 灰	
192	須恵器	鉢		3号窯床面	—	—	9.5	N6/0 灰	
193	須恵器	鉢		3号窯床面	—	—	(9.5)	7.5Y6/2 灰オリーブ	
194	須恵器	碗	A 2	3号窯埋土	(17.0)	4.6	(5.9)	N5/0 灰	
195	須恵器	碗	A 2	3号窯埋土	15.9	4.7	6.5	2.5Y4/1 黄灰	
196	須恵器	碗	A 2	3号窯埋土	(17.2)	4.4	5.4	N6/0 灰	
197	須恵器	鉢	B 2	3号窯埋土	(29.6)	(10.8)	(10.4)	N7/0 灰	
198	須恵器	鉢	B 2	3号窯埋土	(26.6)	(19.4)	(9.8)	N5/0 灰	
199	須恵器	鉢	B 2	3号窯埋土	(28.0)	(10.4)	(8.3)	7.5Y6/1 灰	
200	須恵器	碗	B	4号窯埋土	(17.9)	(4.2)	(8.6)	N6/0 灰	

報告番号	種別	器形	分類	出土位置	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	備考
201	須恵器	碗	B	4号窯西側溝	(16.8)	4.8	6.8	N8/0 灰白	
202	須恵器	碗	B	4号窯西側溝	16.4	3.3	8.0	N6/0 灰	
203	須恵器	碗	B	4号窯西側溝	(15.2)	4.7	(5.2)	2.5GY7/1 明オリーブ灰	
204	須恵器	碗	B	4号窯西側溝	(14.6)	4.6	(6.6)	N8/0 灰白	
205	須恵器	碗	B	4号窯西側溝	(14.7)	(4.0)	(5.6)	N5/0 灰	
206	須恵器	碗	B	4号窯東側溝	(17.0)	(3.6)	(6.8)	5Y8/1 灰白	
207	須恵器	碗	B	4号窯前溝	(16.7)	(4.6)	(6.6)	N6/0 灰	
208	須恵器	鉢	B 4	4号窯西側溝	(26.4)	9.3	(9.8)	N7/0 灰白	
209	須恵器	鉢	B 4	4号窯前溝	(28.6)	9.3	(9.6)	N7/0 灰白	
210	須恵器	鉢	B 2	4号窯前溝	(28.0)	9.7	(9.8)	N6/0 灰	
211	須恵器	鉢	B 2	5号窯床面	(25.6)	——	——	2.5GY5/1 オリーブ灰	
212	須恵器	鉢	B 2	5号窯床面	——	——	——	N7/0 灰白	
213	須恵器	鉢		5号窯床面	——	——	(7.8)	N7/0 灰白	
214	須恵器	鉢		5号窯床面	——	——	(7.8)	N7/0 灰白	
215	須恵器	鉢		5号窯床面	——	——	(7.2)	N7/0 灰白	
216	須恵器	碗	A 2	5号窯埋土	(16.8)	(4.8)	(7.1)	2.5GY6/1 オリーブ灰	
217	須恵器	碗	A 2	5号窯埋土	(15.2)	(4.4)	(5.2)	2.5GY6/1 オリーブ灰	
218	須恵器	碗	A 2	5号窯埋土	(15.4)	4.1	(4.4)	N6/0 灰	
219	須恵器	碗	A 2	5号窯埋土	15.0	4.4	6.7	2.5GY6/1 オリーブ灰	
220	須恵器	碗	A 2	5号窯埋土	(15.2)	4.3	5.8	5Y6/1 灰	
221	須恵器	碗	A 2	5号窯埋土	15.2	3.8	7.1	N5/0 灰	
222	須恵器	鉢	B 2	5号窯埋土	31.0	11.9	10.1	N6/1 灰	
223	須恵器	鉢	B 2	5号窯埋土	(30.2)	(10.2)	(12.1)	N6/1 灰	
224	須恵器	鉢	B 2	5号窯埋土	29.1	10.3	10.9	2.5GY6/1 オリーブ灰	
225	須恵器	鉢	B 2	5号窯埋土	(29.1)	10.9	8.1	N4/0 灰	
226	須恵器	鉢	B 2	5号窯埋土	(27.0)	(10.4)	(9.7)	N5/0 灰	
227	須恵器	鉢	B 2	5号窯埋土	26.9	10.4	(11.4)	10Y5/1 灰	
228	須恵器	盤		5号窯埋土	——	——	——	2.5GY6/1 オリーブ灰	
229	須恵器	鉢	B 2	5号窯北側盛土	31.8	11.1	10.5	N6/0 灰	
230	須恵器	鉢	B 2	5号窯北側盛土	(29.3)	(10.9)	(8.9)	5Y8/1 灰白	
231	須恵器	鉢	B 2	5号窯北側盛土	28.1	10.7	10.3	7.5Y6/1 灰	
232	須恵器	鉢	B 2	5号窯北側盛土	28.1	9.7	10.1	N7/0 灰白	
233	須恵器	鉢	B 4	5号窯北側盛土	28.0	10.7	10.3	N5/0 灰	
234	須恵器	鉢	B 2	5号窯北側盛土	(28.9)	11.3	10.6	N6/0 灰	
235	須恵器	鉢	B 4	5号窯北側盛土	27.8	10.6	9.9	N6/0 灰	
236	須恵器	鉢	B 2	5号窯北側盛土	31.1	11.3	9.2	N5/0 灰	両口
237	須恵器	鉢	B 2	5号窯北側盛土	(28.9)	10.7	(11.0)	N7/0 灰白	
238	須恵器	鉢	B 2	5号窯北側盛土	28.9	9.9	10.5	5Y8/0 灰白	
239	須恵器	鉢	B 2	5号窯北側盛土	28.8	9.7	10.9	N6/0 灰	
240	須恵器	鉢	B 3	5号窯北側盛土	28.4	10.7	9.8	N7/0 灰白	
241	須恵器	鉢	B 2	5号窯北側盛土	(27.7)	10.3	(9.6)	N7/0 灰白	
242	須恵器	鉢	B 4	5号窯北側盛土	(27.4)	10.3	9.9	N4/0 灰	
243	須恵器	鉢	B 2	5号窯北側盛土	29.3	10.4	10.6	N6/2 灰	
244	須恵器	鉢	B 3	5号窯北側盛土	(28.8)	10.9	10.4	N7/0 灰白	
245	須恵器	鉢	B 2	5号窯北側盛土	28.1	11.3	10.0	N6/0 灰	
246	須恵器	鉢	B 2	5号窯北側盛土	27.9	10.9	8.7	N8/0 灰白	
247	須恵器	鉢	B 3	5号窯北側盛土	28.0	11.2	9.0	7.5Y7/2 灰白	
248	須恵器	鉢	B 2	5号窯北側盛土	28.0	10.2	8.2	N7/0 灰白	
249	須恵器	鉢	B 3	5号窯北側盛土	29.5	10.3	9.7	5GY8/1 灰白	
250	須恵器	鉢	B 1	5号窯北側盛土	(27.4)	(9.6)	(11.2)	2.5GY7/1 明オリーブ灰	

報告番号	種別	器形	分類	出土位置	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	備考
251	須恵器	鉢	B 1	5号窯北側盛土	(31.6)	——	——	N6/0 灰	
252	須恵器	鉢	B 1	5号窯北側盛土	(29.8)	——	——	N4/0 灰	
253	須恵器	鉢	B 2	5号窯北側盛土	(29.4)	10.2	(10.2)	N5/0 灰	
254	須恵器	鉢	B 2	5号窯北側盛土	(29.4)	——	——	N7/0 灰白	
255	須恵器	甕	A 1	5号窯北側盛土	(35.0)	——	——	2.5Y5/4 黄褐	
256	須恵器	碗	A 2	5号窯北側盛土	(16.2)	(5.3)	(6.1)	N5/1 灰	
257	須恵器	小皿	B	5号窯北側盛土	(8.1)	1.6	(5.9)	N6/0 灰	
258	土師器	小皿	C	6号窯床面	7.2	1.2	4.1	7.5YR7/4 にぶい黄	
259	土師器	小皿	C	6号窯床面	8.5	1.2	5.5	7.5YR7/3 にぶい橙	
260	土師器	小皿	C	6号窯床面	8.6	1.8	5.7	5YR7/6 橙色	
261	土師器	小皿	C	6号窯床面	(7.6)	1.4	(5.2)	10YR8/3 浅黄橙	
262	土師器	小皿	C	6号窯床面	7.3	1.1	5.4	7.5YR8/3 浅黄橙	
263	土師器	小皿	C	6号窯床面	8.6	1.3	5.9	7.5YR7/6 橙	
264	須恵器	鉢	B 4	6号窯床面	——	——	——	5Y6/3 オリーブ黄	
265	須恵器	鉢	B 2	6号窯床面	(28.3)	10.4	(9.6)	2.5GY8/1 灰白	
266	須恵器	壺	C	6号窯床面	10.5	18.7	9.1	N6/0 灰	
267	須恵器	鉢	B 4	6号窯埋土	(28.5)	9.4	(10.8)	7.5GY6/1 灰	
268	須恵器	鉢	B 2	6号窯埋土	(28.0)	9.2	(9.3)	N6/0 灰	
269	須恵器	碗	B	6号窯埋土	16.0	4.5	(6.2)	7.5Y6/1 灰	
270	土師器	皿	B	6号窯埋土	(7.6)	1.7	4.5	N7/0 灰白	
271	須恵器	碗	B	7号窯床面	(17.0)	4.7	(6.0)	N6/0 灰	
272	須恵器	碗	B	7号窯床面	(16.8)	4.9	7.6	N7/0 灰白	
273	須恵器	碗	B	7号窯床面	(16.5)	4.3	(5.8)	N6/0 灰	
274	須恵器	碗	B	7号窯床面	(16.5)	4.1	6.5	N5/0 灰	
275	須恵器	碗	B	7号窯床面	(16.3)	4.8	(5.4)	N7/0 灰白	
276	須恵器	碗	B	7号窯床面	(17.0)	3.8	(4.6)	N6/0 灰	
277	須恵器	碗	B	7号窯床面	(16.6)	4.8	(6.3)	10YR7/1 灰白	
278	須恵器	碗	B	7号窯床面	(16.6)	4.6	6.6	N6/0 灰	
279	須恵器	碗	B	7号窯床面	(16.6)	4.2	(6.2)	5Y5/1 灰	
280	須恵器	碗	B	7号窯床面	16.2	4.8	5.8	7.5Y6/1 灰	
281	須恵器	碗	B	7号窯床面	16.2	4.0	7.3	N7/0 灰白	
282	須恵器	碗	B	7号窯床面	(16.7)	4.1	5.8	N6/0 灰	
283	須恵器	碗	B	7号窯床面	(16.7)	4.8	(5.9)	N4/0 灰	
284	須恵器	碗	B	7号窯床面	(16.4)	5.0	(5.2)	N4/0 灰	
285	須恵器	小皿	C	7号窯床面	(8.0)	1.3	(4.6)	N5/0 灰	
286	須恵器	小皿	C	7号窯床面	8.1	1.1	4.6	N5/0 灰	
287	須恵器	鉢	B 4	7号窯床面	(31.2)	——	——	N5/0 灰	
288	須恵器	鉢	B 4	7号窯床面	(28.1)	——	——	N4/0 灰	
289	須恵器	鉢	B 2	7号窯床面	——	——	——	N4/0 灰	
290	須恵器	鉢	B 2	7号窯床面	——	——	——	N6/1 灰	
291	須恵器	鉢	B 4	7号窯床面	——	——	——	N6/0 灰	
292	須恵器	鉢	B 2	7号窯床面	——	——	——	N4/0 灰	
293	須恵器	鉢	B 2	7号窯床面	——	——	——	N6/0 灰	
294	須恵器	鉢	B 4	7号窯床面	——	——	——	N4/0 灰	
295	須恵器	鉢		7号窯床面	——	——	10.1	N5/0 灰	
296	須恵器	鉢		7号窯床面	——	——	11.3	N5/0 灰	
297	須恵器	鉢		7号窯床面	——	——	9.4	7.5Y4/1 灰	
298	須恵器	鉢		7号窯床面	——	——	11.0	N5/0 灰	
299	須恵器	皿	C	7号窯焚口焼土内	7.6	1.4	5.1	N7/0 灰白	
300	須恵器	皿	C	7号窯焚口焼土内	7.8	1.3	4.2	N6/0 灰	

報告番号	種別	器形	分類	出土位置	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	備考
301	須恵器	小皿	C	7号窯焚口焼土内	7.6	1.2	5.0	N4/0 灰	
302	須恵器	碗	B	7号窯焚口焼土内	15.9	3.9	5.3	N7/0 灰白	
303	須恵器	碗	B	7号窯焚口焼土内	16.1	4.3	6.0	N6/0 灰	
304	須恵器	碗	B	7号窯焚口焼土内	(16.2)	4.7	6.1	5Y7/1 灰白	
305	須恵器	鉢	B 4	7号窯焚口焼土内	(26.8)	9.9	9.1	N6/0 灰	
306	須恵器	碗	B	7号窯埋土	16.1	4.3	5.7	N7/0 灰白	
307	須恵器	碗	B	7号窯埋土	(16.8)	4.8	6.2	N6/0 灰	
308	須恵器	碗	B	7号窯埋土	16.0	4.4	5.9	N6/0 灰	
309	須恵器	碗	B	7号窯埋土	16.2	4.1	5.4	N6/0 灰	
310	須恵器	碗	B	7号窯埋土	16.0	4.1	(6.6)	N6/0 灰	
311	須恵器	碗	B	7号窯埋土	16.4	5.4	6.5	N5/0 灰	
312	須恵器	小皿	B	7号窯埋土	8.2	1.7	5.1	N5/0 灰	
313	須恵器	小皿	B	7号窯埋土	(7.2)	1.5	4.2	2.5GY5/1 オリーブ灰	
314	須恵器	小皿	C	7号窯埋土	7.9	1.4	5.0	N6/0 灰	
315	須恵器	鉢	B 2	7号窯埋土	27.1	10.5	9.6	10Y5/11 灰	
316	須恵器	鉢	B 2	7号窯瓦敷	(30.0)	——	——	N5/0 灰	
317	須恵器	鉢	B 2	7号窯瓦敷	(28.4)	10.3	(9.6)	N6/0 灰	
318	須恵器	鉢		7号窯瓦敷	(29.6)	——	——	N8/0 灰白	
319	須恵器	鉢	B 2	7号窯瓦敷	——	——	10.0	N5/0 灰	
320	須恵器	鉢	B 2	7号窯瓦敷	——	——	——	N5/0 灰	
321	須恵器	鉢	B 1	7号窯瓦敷	——	——	——	N5/0 灰	
322	須恵器	鉢	B 2	7号窯瓦敷	——	——	——	N5/0 灰	
323	須恵器	鉢	B 3	7号窯瓦敷	——	——	——	N5/0 灰	
324	須恵器	鉢	B 2	7号窯瓦敷	——	——	——	5Y6/1 灰	
325	須恵器	鉢	B 2	7号窯瓦敷	——	——	——	5Y6/1 灰	
326	須恵器	鉢	B 4	7号窯瓦敷	——	——	——	5Y6/1 灰	
327	須恵器	鉢	B 2	7号窯瓦敷	——	——	——	N5/0 灰	
328	須恵器	皿	B	7号窯瓦敷	8.8	1.6	6.6	N5/0 灰	
329	須恵器	鉢	B 4	SD01北側土器群	29.8	11.4	10.0	N7/0 灰白	
330	須恵器	鉢	B 4	SD01北側土器群	(29.7)	10.9	9.8	N7/2 灰白	
331	須恵器	鉢	B 2	SD01北側土器群	28.9	10.8	9.6	N7/0 灰白	
332	須恵器	鉢	B 4	SD01北側土器群	29.1	10.8	11.3	N6/0 灰	
333	須恵器	鉢	B 2	SD01北側土器群	28.3	11.2	9.2	N7/0 灰白	
334	須恵器	鉢	B 2	SD01北側土器群	(28.2)	10.8	10.1	N7/0 灰白	
335	須恵器	鉢	B 2	SD01北側土器群	27.7	10.1	9.8	N7/0 灰白	
336	須恵器	鉢	B 4	SD01北側土器群	(30.4)	11.0	(10.6)	N7/0 灰白	
337	須恵器	鉢	B 4	SD01北側土器群	(29.3)	10.8	(9.9)	N7/0 灰白	
338	須恵器	鉢	B 4	SD01北側土器群	29.0	11.1	9.9	N7/0 灰白	
339	須恵器	鉢	B 2	SD01北側土器群	28.9	10.8	9.6	N7/0 灰白	
340	須恵器	鉢	B 4	SD01北側土器群	28.5	10.6	9.4	N7/1 灰白	
341	須恵器	鉢	B 2	SD01北側土器群	28.1	11.5	9.3	N7/0 灰白	
342	須恵器	鉢	B 4	SD01北側土器群	(27.9)	10.5	9.0	N7/0 灰白	
343	土師器	碗		SD01	(15.8)	4.2	(5.8)	5YR7/6 橙	
344	土師器	碗		SD01	(15.6)	4.0	(5.5)	5YR7/6 橙	
345	土師器	碗		SD01	(15.3)	4.0	(5.5)	5YR7/3 にぶい橙	
346	土師器	碗		SD01	(14.2)	3.3	(6.2)	7.5YR8/4 浅黄橙	
347	土師器	碗		SD01	(15.5)	4.5	(5.6)	5YR7/6 橙	
348	土師器	碗		SD01	(15.4)	4.1	5.2	5YR7/6 橙	
349	土師器	碗		SD01	(15.0)	(4.1)	5.7	10YR8/3 浅黄橙	
350	土師器	碗		SD01	(14.5)	4.2	5.9	5YR7/6 橙	

報告番号	種別	器形	分類	出土位置	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	備考
351	土師器	碗		ＳＤ０１	(16.0)	3.9	(5.4)	7.5YR7/4 にぶい橙	
352	土師器	碗		ＳＤ０１	(15.8)	4.0	(8.6)	7.5YR8/4 浅黄橙	
353	土師器	碗		ＳＤ０１	(15.3)	4.2	(5.2)	5YR7/6 橙	
354	土師器	碗		ＳＤ０１	(15.0)	(3.5)	(6.4)	10YR8/3 浅黄橙	
355	土師器	小皿		ＳＤ０１	(7.7)	1.5	(3.8)	5YR7/6 橙	
356	土師器	小皿		ＳＤ０１	(7.4)	1.3	(5.0)	5YR7/6 橙	
357	須恵器	小鉢	C	ＳＤ０１	(18.6)	5.6	6.1	5Y6/2 灰オリーブ	
358	須恵器	碗	B	ＳＤ０１	16.2	5.0	6.5	N6/0 灰	
359	須恵器	碗	B	ＳＤ０１	15.6	4.9	5.8	2.5Y7/2 灰黄	
360	須恵器	碗	B	ＳＤ０１	(16.0)	4.9	(6.9)	2.5Y7/3 浅黄	
361	須恵器	鉢	Ｂ１	ＳＤ０１	(30.5)	12.0	(12.0)	N7/0 灰	
362	須恵器	鉢	Ｂ３	ＳＤ０１	(28.8)	11.6	(9.8)	N5/0 灰	
363	須恵器	鉢	Ｂ２	ＳＤ０１	(28.5)	11.2	9.8	5Y6/2 灰オリーブ	
364	須恵器	鉢	Ｂ４	ＳＤ０１	(28.4)	10.5	9.8	N7/0 灰	
365	須恵器	鉢	Ｂ２	ＳＤ０１	(33.2)	(11.6)	(11.8)	5GY7/1 明オリーブ灰	
366	須恵器	鉢	Ｂ２	ＳＤ０１	(26.6)	10.0	(7.6)	N6/0 灰	
367	須恵器	鉢	Ｂ１	ＳＤ０１	(32.4)	——	——	7.5Y7/1 灰白	
368	須恵器	鉢		ＳＤ０１	(29.8)	——	——	5Y7/1 灰白	重ね焼き
369	須恵器	甕	C	ＳＤ０１	——	——	——	N6/0 灰	
370	須恵器	鉢	Ｂ２	Ｐ１２	(29.5)	11.0	(11.0)	5Y8/1 灰白	
371	須恵器	鉢	Ｂ２	灰原Ａ 1-A層	(29.4)	(12.0)	(8.2)	5Y67/1 灰白	
372	須恵器	小皿	C	灰原Ａ 1-A層	(8.1)	(1.3)	(5.7)	7.5Y6/1 灰	
373	須恵器	小皿	C	灰原Ａ16 1-A層	(7.7)	(1.3)	(4.8)	N6/0 灰	
374	須恵器	小皿	C	灰原Ａ16 1-A層	(7.5)	(1.2)	(5.5)	7.5Y6/1 灰	
375	須恵器	碗	B	灰原Ａ16 1-A層	(15.5)	(4.6)	(6.8)	N6/0 灰	
376	須恵器	碗	B	灰原Ｂ7 1-A層	(15.1)	4.4	5.8	N6/0 灰	
377	須恵器	碗	B	灰原Ａ 1-A層	(15.7)	(4.4)	(6.0)	N5/0 灰	
378	須恵器	碗	B	灰原Ａ16 1-A層	(15.7)	(3.7)	(6.1)	7.5Y6/1 灰	
379	須恵器	碗	B	灰原Ａ 1-A層	(16.3)	(4.1)	(7.4)	N7/0 灰白	
380	須恵器	碗	B	灰原Ａ 1-A層	(16.2)	(4.3)	(6.7)	N5/0 灰	
381	須恵器	鉢	Ｂ１	灰原Ａ12 1-B層	(30.0)	(11.8)	(9.3)	10YR7/2 にぶい黄橙	
382	須恵器	鉢	Ａ１	灰原Ａ12 1-B層	(30.5)	(12.6)	(10.1)	7.5Y6/2 灰オリーブ	
383	須恵器	碗	Ａ２	灰原Ｂ4 1-B層	16.7	(4.6)	(5.4)	7.5Y6/1 灰	
384	須恵器	小鉢	Ａ１	灰原Ｂ7 1-B層	(29.8)	(12.6)	(9.8)	N6/0 灰白	
385	須恵器	鉢	Ａ１	灰原Ａ11 1-B層	(20.0)	(6.3)	(7.1)	N6/0 灰	
386	須恵器	碗	B	灰原Ｃ1 5-A層	(15.7)	(4.2)	(6.9)	N7/0 灰白	
387	須恵器	碗	B	灰原Ｃ1 5-A層	(15.7)	(4.0)	(6.4)	N6/0 灰	
388	須恵器	碗	B	灰原Ｃ1 5-A層	(15.6)	(4.1)	(6.2)	N6/0 灰	
389	須恵器	鉢	Ｂ２	灰原Ｃ1 5-A層	(29.7)	(10.6)	(9.5)	N6/0 灰	
390	須恵器	鉢	Ｂ２	灰原Ｃ1 5-A層	(29.4)	9.2	8.9	N6/0 灰	
391	須恵器	鉢	Ｂ２	灰原Ｃ1 5-A層	(29.0)	10.0	9.0	N6/0 灰	
392	須恵器	鉢	Ｂ２	灰原Ｃ1 5-A層	(29.0)	10.6	10.2	N7/0 灰白	
393	須恵器	鉢	Ｂ２	灰原Ｃ1 5-A層	(27.1)	(9.8)	(9.6)	N6/0 灰	
394	須恵器	鉢	Ｂ４	灰原Ｃ3 5-A層	(29.2)	12.2	(8.2)	N6/0 灰	
395	須恵器	鉢	Ａ２	灰原Ｃ1 5-A層	(28.8)	10.7	(10.0)	N6/0 灰	
396	須恵器	小鉢	Ｂ１	灰原Ｃ1 5-A層	(20.2)	(5.5)	(8.5)	5Y6/1 灰	
397	須恵器	小皿	B	灰原Ｃ1 5-A層	(7.7)	1.5	5.2	N7/0 灰白	
398	須恵器	小鉢	Ａ１	灰原Ｃ6 5-C層	(20.2)	(7.6)	——	5Y5/1 灰	
399	須恵器	碗	Ａ２	灰原Ｃ6 5-C層	(16.8)	4.6	5.6	N6/0 灰	
400	須恵器	小皿	B	灰原Ｃ6 5-C層	(7.6)	1.7	5.0	2.5G6/0 オリーブ灰	

報告番号	種別	器形	分類	出土位置	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	備考
401	須恵器	鉢	A 1	灰原C4 5-D層	(29.6)	11.8	(10.4)	N7/0 灰	
402	須恵器	小皿	B	灰原C5 5-D層	(8.1)	1.6	(5.4)	N6/0 灰	
403	須恵器	小皿	B	灰原C1 5-E層	(9.0)	1.9	(5.2)	5Y7/1 灰白	
404	須恵器	碗	A 2	灰原C5 5-E層	(16.4)	4.7	(5.5)	N6/0 灰	
405	須恵器	碗	A 1	灰原E1 6-C層	(15.8)	5.3	6.3	N5/0 灰	
406	須恵器	碗	A 2	灰原E1 6-C層	(15.8)	5.6	(6.6)	N6/0 灰	
407	須恵器	鉢	A 1	灰原E5 6-F層	(31.0)	(11.5)	(12.6)	N8/0 灰白	
408	須恵器	鉢	A 1	灰原E5 6-F層	(30.0)	(10.2)	(8.8)	N5/0 灰	
409	須恵器	鉢	A 3	灰原E2 6-F層	(28.6)	(10.4)	(10.4)	N7/0 灰白	
410	須恵器	小鉢	A 1	灰原E2 6-F層	(20.2)	7.7	(8.6)	N7/0 灰白	
411	須恵器	碗	A 2	灰原E1 6-F層	(16.7)	4.3	(5.6)	7.5Y8/1 灰白	
412	須恵器	碗	A 2	灰原E2 6-F層	(16.4)	4.7	(5.3)	N7/0 灰白	
413	須恵器	小皿	A	灰原E1 6-F層	(8.2)	2.3	4.1	N6/0 灰	
414	須恵器	小皿	B	灰原E5 6-F層	(7.5)	1.5	(5.6)	N7/0 灰白	
415	須恵器	鉢	A 1	灰原D3 5-A層	(30.3)	(10.6)	(9.7)	N5/0 灰	
416	須恵器	碗	B	灰原D3 5-A層	14.7	4.4	6.6	N7/0 灰白	
417	須恵器	小鉢	A 1	灰原D1 5-D層	(19.9)	6.2	6.9	N8/0 灰白	
418	須恵器	碗	A 2	灰原D1 5-D層	(16.1)	4.0	5.3	N6/0 灰	
419	須恵器	碗	A 2	灰原D1 5-D層	(15.5)	4.2	5.8	N6/0 灰	
420	須恵器	鉢	B 4	灰原D5 5-A層	30.0	11.9	9.8	N7/0 灰白	
421	須恵器	鉢	B 3	灰原D5 5-A層	28.6	10.3	9.9	N6/0 灰	
422	須恵器	鉢	B 4	灰原D5 5-A層	29.7	11.9	8.7	N6/0 灰	
423	須恵器	鉢	B 2	灰原D5 5-A層	27.8	10.5	8.5	N6/0 灰	
424	須恵器	鉢	B 2	灰原D5 5-A層	(28.9)	(10.0)	10.3	N7/0 灰白	
425	須恵器	鉢	B 2	灰原D5 5-A層	27.5	11.7	7.4	N6/0 灰	
426	須恵器	小鉢	A 1	灰原D5 5-A層	(17.3)	5.5	(6.0)	N7/0 灰白	
427	須恵器	碗	B	灰原D5 6-C層	(15.8)	4.4	5.7	N6/0 灰	
428	須恵器	碗	B	灰原D5 6-C層	15.4	4.4	5.4	N7/0 灰白	
429	須恵器	碗	B	灰原D5 6-C層	15.6	4.2	5.2	N7/0 灰白	
430	須恵器	碗	B	灰原D5 6-C層	15.7	4.3	6.3	N7/0 灰白	
431	須恵器	鉢	B 1	灰原D5 5-E層	(30.9)	(11.3)	10.6	2.5GY6/1 オリーブ灰	
432	須恵器	鉢	A 1	灰原D5 5-E層	(28.1)	(10.3)	(10.8)	N5/0 灰	
433	須恵器	小鉢	B 3	灰原D5 5-E層	(19.0)	(5.6)	(7.1)	2.5GY7/1 明オリーブ灰	
434	須恵器	碗	A 2	灰原D5 5-E層	(16.7)	(4.8)	(4.8)	N7/0 灰白	
435	須恵器	碗	A 2	灰原D5 5-E層	(16.5)	(4.8)	(6.0)	5Y6/1 灰	
436	須恵器	碗	A 2	灰原D5 5-E層	(16.5)	(4.6)	(5.7)	N7/0 灰白	
437	須恵器	碗	A 2	灰原D5 5-E層	(15.7)	(4.7)	(6.1)	N7/0 灰白	
438	須恵器	小皿	B	灰原D5 5-E層	8.6	1.8	5.8	5RP6/1 紫灰	
439	須恵器	小皿	B	灰原D5 5-E層	8.4	1.9	4.5	N4/0 灰	
440	須恵器	碗	A 2	灰原D5 5-F層	(16.2)	4.4	6.2	N7/0 灰白	
441	須恵器	碗	A 2	灰原D5 5-F層	(16.0)	4.5	5.6	7.5Y7/0 灰白	
442	須恵器	碗	A 2	灰原D1 5-F層	16.1	5.0	5.9	N6/0 灰	
443	須恵器	小鉢	A 1	灰原D5 5-F層	(21.0)	6.9	6.8	N4/0 灰	
444	須恵器	鉢	A 4	灰原D5 5-G層	(30.1)	12.2	(9.6)	N6/0 灰	内面は回転ナデ
445	須恵器	鉢	A 1	灰原D5 5-G層	(32.0)	13.4	11.5	N8/0 灰白	内面は回転ナデ
446	須恵器	碗	A 2	灰原D5 5-G層	(16.6)	5.0	5.2	N7/0 灰白	
447	須恵器	碗	A 2	灰原D5 5-G層	(16.4)	4.8	(6.2)	10Y6/1 灰	
448	須恵器	碗	A 2	灰原D5 5-G層	(16.4)	4.8	(5.7)	N7/0 灰白	
449	須恵器	碗	A 2	灰原D5 5-G層	(16.3)	4.4	5.7	N5/0 灰	
450	須恵器	碗	A 2	灰原D5 5-G層	(16.1)	4.6	4.9	N5/0 灰	

報告番号	種別	器形	分類	出土位置		口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	備考
451	須恵器	碗	A 2	灰原D5	5-G層	(15.7)	5.0	5.9	2.5GY6/1 オリーブ灰	
452	須恵器	小鉢	A 1	灰原D5	5-G層	(21.3)	6.8	(7.3)	N6/0 灰	
453	須恵器	鉢	A 2	灰原D5	5-G層	(29.2)	11.5	——	N7/0 灰白	
454	須恵器	鉢	B 2	灰原D6	5-D層	(30.5)	(11.0)	(9.0)	N6/0 灰	
455	須恵器	鉢	A 1	灰原D6	5-D層	(29.4)	10.8	(9.2)	N6/0 灰	
456	須恵器	鉢	A 2	灰原D6	5-E層	(30.7)	11.6	(9.9)	10YR5/1 褐灰	
457	須恵器	小鉢	B 6	灰原D6	5-E層	(21.6)	7.2	(9.9)	N7/0 灰白	
458	須恵器	碗	A 2	灰原D6	5-E層	(16.4)	4.9	(5.8)	N8/0 灰白	
459	須恵器	小皿	A	灰原D6	5-E層	(8.3)	2.3	4.4	7.5Y6/1 灰	
460	須恵器	小皿	C	灰原D6	5-E層	(7.8)	1.1	(5.3)	7.5YR8/1 灰白	
461	須恵器	碗	A 2	灰原D6	5-H層	16.3	5.4	6.4	N7/0 灰白	
462	須恵器	碗	A 2	灰原D6	5-H層	(15.7)	(5.2)	(4.7)	N6/0 灰	
463	須恵器	碗	B	灰原D6	5-H層	(15.7)	(4.5)	6.9	2.5GY6/1 オリーブ灰	
464	須恵器	碗	A 2	灰原D6	5-H層	(16.7)	(5.5)	6.6	7.5Y6/1 灰	
465	須恵器	鉢	A 2	灰原D6	5-F層	28.6	10.1	10.2	10BG7/1 明青灰	
466	須恵器	鉢	A 1	灰原D6	5-F層	(21.0)	7.0	7.4	N7/0 灰白	
467	須恵器	碗	A 2	灰原D6	5-F層	(16.1)	4.7	6.0	N6/0 灰	
468	須恵器	碗	A 2	灰原D6	5-F層	(16.2)	4.2	5.3	N5/0 灰	
469	須恵器	鉢	A 1	灰原D6	5-H層	(30.0)	11.7	11.0	N6/0 灰	
470	須恵器	鉢	A 1	灰原D6	5-H層	(30.1)	11.2	10.5	N7/0 灰白	
471	須恵器	鉢	A 1	灰原D6	5-H層	(29.6)	10.8	8.7	N7/0 灰白	
472	須恵器	小鉢	A 2	灰原D6	5-H層	(20.7)	6.8	(7.2)	N7/0 灰	
473	須恵器	碗	A 2	灰原D6	5-H層	16.1	4.7	6.4	N7/0 灰白	
474	須恵器	碗	A 2	灰原D6	5-H層	(15.7)	4.6	5.2	N7/0 灰白	
475	須恵器	小皿	B	灰原D6	5-H層	(8.9)	2.1	5.3	N7/0 灰白	
476	須恵器	鉢	A 1	灰原D12	5-H層	(30.3)	12.3	10.4	N7/0 灰白	
477	須恵器	鉢	A 3	灰原D	5-H層	(28.8)	11.2	9.0	7.5Y6/1 灰	
478	須恵器	鉢	A 1	灰原D12	5-H層	29.8	10.3	9.4	N7/0 灰白	
479	須恵器	碗	A 2	灰原D7	5-H層	16.9	4.3	6.1	N7/0 灰白	
480	須恵器	碗	A 2	灰原D7	5-H層	16.1	4.3	7.1	N6/0 灰	
481	須恵器	鉢	A 1	灰原D	5-H層	30.1	(10.1)	9.7	N7/0 灰白	
482	須恵器	小鉢	A 1	灰原D11	5-H層	(21.2)	7.1	(7.5)	N6/0 灰	
483	須恵器	碗	A 2	灰原D7	5-H層	(16.0)	4.6	(5.9)	N7/0 灰白	
484	須恵器	鉢	A 1	灰原D10	5-G層	29.9	11.1	10.1	N7/0 灰白	
485	須恵器	鉢	A 1	灰原D	5-G層	29.7	11.2	10.5	7.5GY8/1 明緑灰	
486	須恵器	碗	A 2	灰原D10	5-G層	(16.0)	4.7	(6.8)	N8/0 灰白	
487	須恵器	碗	A 2	灰原D10	5-G層	(15.8)	4.8	(6.4)	N7/0 灰白	
488	須恵器	碗	A 2	灰原D10	5-G層	(15.8)	4.5	5.2	N7/0 灰白	
489	須恵器	鉢	A 1	灰原D10	5-G層	(20.2)	7.1	(7.0)	N8/0 灰白	
490	須恵器	鉢	A 1	灰原D10	5-G層	(20.7)	7.1	9.6	N7/0 灰白	
491	須恵器	碗	B	灰原F6	6-H層	(15.4)	4.3	(7.1)	N5/1 灰	
492	須恵器	碗	A 2	灰原F6	6-H層	(16.7)	4.7	(6.9)	N6/0 灰	
493	須恵器	鉢	A 1	灰原F3	6-F層	(30.0)	(10.3)	(9.4)	N7/0 灰	
495	須恵器	鉢	A 1	灰原F3	6-F層	(29.9)	(11.1)	(9.8)	N6/0 灰	
495	須恵器	碗	A 2	灰原F3	6-F層	(18.0)	(5.2)	(8.3)	N7/0 灰白	
496	須恵器	碗	A 2	灰原F2	6-F層	(17.2)	5.5	(7.6)	5Y5/0 灰白	片口付
497	須恵器	皿	B	灰原F4	6-F層	8.1	1.7	5.7	N6/0 灰	
498	須恵器	鉢	B 4	灰原F4	6-G層	(30.5)	11.2	11.1	7.5Y7/1 灰	
499	須恵器	鉢	A 1	灰原F3	6-G層	(28.7)	10.8	8.3	10Y7/1 灰白	
500	須恵器	鉢	A 1	灰原F3	6-G層	(28.9)	11.3	(11.3)	N6/0 灰	

報告番号	種別	器形	分類	出土位置		口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調		備考
501	須恵器	小鉢	B 2	灰原F4	6-G層	(20.2)	6.7	(9.3)	N6/0	灰	
502	須恵器	碗	A 2	灰原F4	6-G層	(16.8)	5.0	(5.6)	N7/0	灰白	
503	須恵器	碗	A 2	灰原F6	6-G層	(15.0)	4.5	(6.8)	10YR5/6	黄褐色	
504	須恵器	小皿	B	灰原F3	6-G層	(17.6)	1.8	4.2	N6/0	灰	
505	須恵器	碗	A 2	灰原F4	6-G層	(16.4)	4.8	(4.8)	N7/0	灰白	
506	須恵器	碗	A 2	灰原F4	6-G層	(15.7)	(5.0)	(5.4)	N5/0	灰	
507	須恵器	鉢	B 4	灰原I2	8-J層	(28.6)	9.3	(9.8)	5PB5/1	青灰	
508	須恵器	鉢	B 2	灰原I3	8-J層	(28.6)	9.3	(9.8)	5PB5/1	青灰	
509	須恵器	碗	A 2	灰原I1	8-J層	(15.7)	5.2	6.6	N8/0	灰白	
510	須恵器	碗	B	灰原I1	8-J層	14.7	4.6	5.2	N8/0	灰白	
511	須恵器	小皿	B	灰原I1	8-J層	14.7	4.6	5.2	N8/0	灰白	
512	須恵器	鉢	B 4	灰原G12	8-J層	(27.8)	(9.0)	(9.1)	N6/0	灰	
513	須恵器	小皿	C	灰原G5	7-J層	7.4	1.4	4.2	7.5Y2/1	黒	
514	須恵器	碗	A 2	灰原G12	8-J層	(16.2)	4.6	6.2	7.5Y2/1	黒	
515	須恵器	碗	A 2	灰原G12	8-J層	(15.4)	5.0	5.6	N7/0	灰白	
516	須恵器	鉢	B 4	灰原I3	8-P層	(31.6)	10.7	(13.5)	N6/0	灰	
517	須恵器	鉢	B 2	灰原I2	8-P層	(27.9)	10.3	(9.7)	N6/0	灰	
518	須恵器	碗	A 2	灰原I3	8-P層	16.2	5.0	5.1	N7/0	灰白	
519	須恵器	小皿	B	灰原G9	8-P層	(7.8)	(1.5)	5.3	N6/0	灰	
520	須恵器	小皿	B	灰原G12	8-K層	7.8	1.8	4.7	N5/0	灰	
521	須恵器	小皿	C	灰原G10	8-K層	8.0	1.3	5.3	5P6/1	紫灰	
522	須恵器	鉢	B 2	灰原H2	7-O層	30.3	11.2	9.1	N6/0	灰	
523	須恵器	鉢	B 2	灰原H1	7-O層	(28.0)	(9.7)	(9.5)	N7/0	灰白	
524	須恵器	碗	A 2	灰原H5	7-O層	(15.5)	(4.7)	(5.6)	2.5Y8/2	灰白	
525	須恵器	小皿	B	灰原H	7-O層	(7.7)	(1.8)	5.4	10Y6/1	灰	
526	須恵器	鉢	A 1	灰原H	7-K層	(29.4)	(11.9)	10.0	7.5Y7/1	灰白	
527	須恵器	鉢	B 2	灰原H	7-K層	(25.6)	(10.5)	8.2	5PB6/1	青灰	
528	須恵器	碗	A 2	灰原H1	7-K層	(15.2)	(4.7)	(6.1)	N6/0	灰	
529	須恵器	皿	C	灰原H	7-K層	(8.2)	(1.6)	(6.2)	10Y6/1	灰	
530	須恵器	鉢	A 1	灰原H2	7-L層	(30.0)	(10.1)	(9.6)	5Y6/1	灰	
531	須恵器	碗	A 2	灰原H2	7-L層	(16.2)	(4.7)	(6.8)	N6/0	灰	
532	須恵器	鉢	B 2	灰原J6	8-O層	(29.6)	10.7	(9.6)	N6/0	灰	
533	須恵器	鉢	B 2	灰原J6	8-O層	(28.8)	9.3	(11.3)	7.5Y5/1	灰	
534	須恵器	碗	B	灰原J6	8-O層	(16.7)	4.2	(8.2)	N5/0	灰	
535	須恵器	鉢	B 4	灰原J3	8-I層	(26.4)	10.8	9.3	N7/0	灰白	
536	須恵器	鉢	D	灰原J3	8-I層	26.2	10.1	11.3	N6/0	灰	
537	須恵器	碗	B	灰原J3	8-I層	(15.7)	4.3	6.2	5Y7/0	灰白	
538	須恵器	小皿	B	灰原J3	8-I層	8.2	1.9	5.5	N5/0	灰	
539	須恵器	鉢	A 1	灰原J11	8-I層	(33.4)	(11.2)	(10.8)	2.5Y8/1	灰白	輪高台付
540	須恵器	鉢	B 2	灰原J10	8-I層	(27.7)	9.9	10.1	N7/0	灰白	
541	須恵器	鉢	B 3	灰原J10	8-I層	(20.0)	(9.7)	(10.6)	N6/0	灰	
542	須恵器	鉢	B 2	灰原J10	8-I層	(27.4)	10.0	10.0	N7/0	灰	
543	須恵器	鉢	B 2	灰原J11	8-I層	(29.1)	11.5	10.6	N7/0	灰	
544	須恵器	碗	B	灰原J10	8-I層	(17.0)	5.7	6.4	5B4/0	暗青灰	片口付
545	須恵器	碗	A 2	灰原J10	8-I層	(16.2)	5.0	(5.2)	N7/0	灰白	
546	須恵器	小皿	B	灰原J10	8-I層	8.3	1.5	6.3	2.5Y7/2	灰黄	
547	須恵器	小皿	B	灰原J11	8-I層	8.1	1.8	6.0	N7/0	灰白	
548	須恵器	鉢	B 2	灰原J5	8-J層	(29.1)	11.5	10.6	N7/0	灰白	
549	須恵器	鉢	B 2	灰原J5	8-J層	(28.1)	11.8	(10.6)	10Y7/1	灰白	
550	須恵器	碗	B	灰原J5	8-J層	(16.4)	4.6	(6.3)	N7/0	灰白	

報告番号	種別	器形	分類	出土位置	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	備考
551	須恵器	碗	A 2	灰原J5 8-J層	(14.5)	4.3	(6.0)	7.5YR7/4 にぶい褐	
552	須恵器	小皿	B	灰原J5 8-J層	(7.9)	1.7	4.4	N7/0 灰	
553	須恵器	小鉢	A 1	灰原J2 8-K層	(18.6)	6.0	9.7	2.5Y7/1 灰白	
554	須恵器	小皿	C	灰原J1 8-K層	(7.8)	1.3	(5.3)	N7/0 灰	
555	須恵器	碗	B	灰原J6 8-L層	(16.4)	4.5	(6.4)	N6/0 灰	
556	須恵器	碗	B	灰原J5 8-L層	(15.2)	4.5	(5.4)	2.5Y7/3 浅黄	
557	須恵器	鉢	B 2	灰原K7 10-Q層	(26.3)	10.4	(9.3)	N7/0 灰白	
558	須恵器	鉢	A 1	灰原K7 10-Q層	(29.2)	(9.9)	12.1	2.5Y7/1 灰白	
559	須恵器	碗	B	灰原K7 10-Q層	(16.8)	5.2	(6.2)	7.5Y6/1 灰	
560	須恵器	鉢	A 2	灰原K3 10-Q層	(29.6)	11.2	(8.7)	N7/0 灰白	
561	須恵器	小鉢	A 1	灰原K3 10-Q層	(22.7)	8.5	(9.5)	10Y7/1 灰白	
562	須恵器	碗	A	灰原K9 10-Q層	——	——	(6.4)	2.5Y5/1 黄灰	輪高台付
563	須恵器	碗	A 2	灰原K5 10-Q層	17.0	5.5	5.0	5PB7/1 明青灰	
564	須恵器	碗	A 2	灰原K5 10-Q層	16.5	5.5	5.2	2.5Y7/4 浅黄	
565	須恵器	小皿	A	灰原K5 10-Q層	8.4	2.1	3.1	5Y8/2 灰白	
566	須恵器	小皿	A	灰原K5 10-Q層	(7.5)	2.5	4.0	5Y7/1 灰白	
567	須恵器	小皿	B	灰原K5 10-Q層	8.2	2.0	5.4	N7/0 灰白	
568	須恵器	鉢	A 2	灰原K2 10-T層	(28.5)	10.2	(10.6)	N6/0 灰白	
569	須恵器	鉢	A 1	灰原K2 10-T層	(27.9)	11.1	10.8	N4/1 灰	
570	須恵器	小皿	A	灰原K7 10-T層	(8.7)	2.5	3.9	N5/0 灰	
571	須恵器	碗	A 2	灰原K2 10-T層	(16.6)	5.5	(6.3)	5PB5/1 青灰	
572	須恵器	碗	A 2	灰原K7 10-T層	16.0	5.2	5.3	5PB5/1 青灰	
573	須恵器	碗	A 2	灰原K7 10-T層	15.3	4.5	5.8	5B6/1 青灰	
574	須恵器	鉢	A 1	灰原K1 10-U層	(31.0)	10.6	(9.9)	5Y7/1 灰白	
575	須恵器	鉢	A 1	灰原K6 10-U層	(28.7)	10.3	(9.8)	N7/0 灰白	
576	須恵器	碗	A 2	灰原K 10-U層	(15.8)	(4.7)	(6.0)	N6/0 灰	
577	須恵器	碗	A 2	灰原K7 10-U層	15.4	4.8	5.5	5PB6/1 青灰	
578	須恵器	鉢	B 3	灰原M	28.1	10.5	9.9	N5/0 灰	
579	須恵器	鉢	B 4	灰原M	28.4	10.2	10.5	N7/0 灰白	
580	須恵器	鉢	B 4	灰原M1 11-U層	28.8	10.2	(10.9)	N5/0 灰	
581	須恵器	鉢	B 2	灰原M1 11-U層	(28.8)	10.9	(12.3)	N6/0 灰	
582	須恵器	碗	A 1	灰原M1 11-U層	(15.7)	5.2	5.6	N6/0 灰	
583	須恵器	碗	A 2	灰原M1 11-U層	(15.8)	3.9	6.9	5B5/1 青灰	
584	須恵器	鉢	B 4	灰原L 10-R層	(26.7)	(10.5)	(9.8)	N5/0 灰	
585	須恵器	鉢	B 2	灰原L4 10-R層	(28.9)	(10.2)	(9.9)	N6/0 灰	
586	須恵器	碗	B	灰原L4 10-R層	(16.5)	(4.6)	6.6	N5/0 灰	
587	須恵器	碗	B	灰原L4 10-R層	(16.2)	(4.7)	(6.2)	N6/0 灰	
588	須恵器	皿	C	灰原L4 10-R層	8.1	1.4	6.1	N6/0 灰	
589	須恵器	皿	C	灰原L4 10-R層	8.1	1.8	4.9	N6/0 灰	
590	須恵器	鉢	B 2	灰原L2 10-R層	(28.6)	(10.7)	(9.0)	5Y7/4 浅黄	
591	須恵器	鉢	B 4	灰原L2 10-R層	(26.1)	(10.7)	(9.2)	N6/0 灰	
592	須恵器	碗	B	灰原L2 10-R層	(16.0)	(4.3)	(6.8)	N6/0 灰	
593	須恵器	碗	B	灰原N9 11-S層	(15.8)	(4.7)	(5.6)	N6/0 灰	
594	須恵器	碗	B	灰原N9 11-S層	(15.8)	4.2	6.6	N6/0 灰	
595	須恵器	碗	B	灰原N2 11-S層	(14.7)	(4.5)	(6.7)	N7/0 灰白	
596	須恵器	碗	B	灰原N2 11-S層	(15.2)	(4.7)	(6.2)	N8/0 灰白	
597	須恵器	小皿	C	灰原N2 11-S層	(7.9)	(1.5)	5.0	N7/0 灰白	
598	須恵器	鉢	B 2	灰原N8 11-S層	(28.0)	(10.0)	(7.4)	N6/0 灰	
599	須恵器	鉢	B 2	灰原N9 11-T層	(30.7)	10.2	(10.4)	N3/0 暗灰	
600	須恵器	小皿	B	灰原N9 11-T層	(7.8)	1.6	4.6	N5/1 灰	

報告番号	種別	器形	分類	出土位置	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	備考
601	須恵器	碗	B	灰原H2 10-T層	(16.2)	(5.3)	(6.5)	N6/0 灰	
602	須恵器	碗	B	灰原N9 10-T層	(16.2)	(4.6)	(5.4)	N6/0 灰	
603	須恵器	鉢	B 3	灰原N5 11-U層	(33.4)	(9.5)	(12.4)	N7/0 灰白	
604	須恵器	鉢	A 1	灰原N5 11-V層	(30.8)	9.9	(10.8)	10Y6/1 灰	
605	須恵器	鉢	B 1	灰原N5 11-U層	(28.2)	(9.8)	(9.4)	N6/0 灰	
606	須恵器	碗	B	灰原N5 11-U層	17.3	4.6	7.2	5Y8/1 灰白	
607	須恵器	碗	B	灰原N5 11-U層	16.5	4.7	6.1	2.5Y7/1 灰白	
608	須恵器	碗	B	灰原N9 11-U層	16.2	(4.4)	(6.0)	N6/0 灰	
609	須恵器	皿	B	灰原N9 11-U層	9.0	2.2	4.2	5PB6/1 青灰	
610	須恵器	皿	B	灰原N9 11-U層	8.3	2.2	5.4	5PB7/1 明青灰	
611	須恵器	皿	B	灰原N4 11-V層	(8.8)	(1.6)	(5.5)	N7/0 灰白	
612	須恵器	皿	B	灰原N1 11-V層	7.8	1.4	6.0	N7/0 灰白	
613	須恵器	鉢	C	灰原N6 11-X層	(32.0)	10.4	(12.5)	N8/0 灰白	
614	須恵器	鉢	A 1	灰原N6 11-X層	(28.7)	(10.5)	9.3	N6/0 灰	
615	須恵器	小鉢	A 2	灰原N6 11-X層	(20.8)	6.4	6.3	N5/0 灰	
616	須恵器	碗	A 2	灰原N6 11-X層	17.4	4.7	5.8	5PB6/1 青灰	
617	須恵器	碗	A 2	灰原N6 11-X層	17.0	5.3	5.9	N7/0 灰白	
618	須恵器	碗	A 2	灰原N6 11-X層	16.2	4.9	(6.2)	N7/0 灰白	
619	須恵器	碗	A 2	灰原N6 11-X層	15.8	5.0	5.0	5PB6/1 青灰	
620	須恵器	鉢	A 1	灰原N10 11-X層	(32.0)	10.4	(12.5)	N8/0 灰白	
621	須恵器	碗	A 2	灰原N10 11-X層	(15.8)	5.1	5.4	N7/0 灰白	
622	須恵器	鉢	B 3	灰原O	(27.4)	(9.6)	(9.3)	N6/0 灰	
623	須恵器	鉢	A 2	灰原O5 11-U層	(28.6)	11.3	11.1	N7/0 灰白	
624	須恵器	鉢	A 2	灰原O2 11-U層	(28.0)	11.7	(12.2)	N5/0 灰	
625	須恵器	小鉢	A 1	灰原O4 11-U層	(21.2)	6.5	(10.0)	5Y8/1 灰白	
626	須恵器	小皿	C	灰原O4 11-U層	8.2	1.5	4.8	N6/0 灰	
627	須恵器	小皿	B	灰原O4 11-U層	(8.4)	2.1	5.8	N6/0 灰	
628	須恵器	碗	A 2	灰原O3 11-X層	16.5	4.7	6.0	2.5Y6/2 黄灰	
629	須恵器	鉢	B 2	灰原P1 12-Y層	(27.5)	(10.7)	(8.1)	N6/0 灰	
630	須恵器	碗	B	灰原P1 12-Y層	(17.5)	(5.3)	(8.1)	N6/0 灰	片口付
631	須恵器	碗	B	灰原P1 12-Y層	(17.4)	(5.1)	(7.0)	N6/0 灰	片口付
632	須恵器	鉢	A 1	灰原P5 12-Z層	(31.6)	10.4	(11.9)	7.5Y6/1 灰	
633	須恵器	鉢	A 3	灰原P1 12-Z層	(29.4)	(11.4)	(10.5)	N7/0 灰白	
634	須恵器	小鉢	A 1	灰原P1 12-Z層	(15.4)	(5.5)	6.4	N6/0 灰	
635	須恵器	碗	A 2	灰原P1 12-Z層	(15.7)	(4.5)	(6.3)	2.5GY7/1 明オリーブ灰	
636	須恵器	鉢	B 2	灰原Q1 12-Y層	(28.6)	9.8	(10.9)	5B6/1 青灰	
637	須恵器	鉢	B 2	灰原Q1 12-Y層	(28.3)	(11.6)	11.6	7.5Y6/1 灰	
638	須恵器	鉢	B 2	灰原Q1 12-Y層	(23.2)	10.8	10.3	5PB6/1 青灰	
639	須恵器	鉢	B 2	灰原Q1 12-Y層	(27.8)	(10.4)	10.8	N6/0 灰	
640	須恵器	鉢	B 2	灰原Q1 12-Y層	(27.6)	(11.2)	8.8	N6/0 灰	
641	須恵器	鉢	A 1	灰原Q1 12-Y層	(26.9)	10.1	10.6	N6/0 灰	
642	須恵器	鉢	B 2	灰原Q3 12-Y層	26.8	10.1	10.6	10GY7/1	
643	須恵器	鉢	C	灰原Q4 12-Y層	(25.6)	(8.6)	(9.3)	N6/1 灰	
644	須恵器	鉢	B 1	灰原Q1 12-Y層	(26.8)	9.5	9.0	N4/0 灰	
645	須恵器	鉢	B 3	灰原Q3 12-Y層	(29.0)	(8.5)	(10.6)	2.5Y6/1 オリーブ灰	
646	須恵器	碗	B	灰原Q3 12-Y層	(18.2)	5.1	(8.8)	N6/0 灰	片口付
647	須恵器	碗	B	灰原Q3 12-Y層	(16.4)	9.3	7.2	5Y8/1 灰白	
648	須恵器	碗	B	灰原Q1 12-Y層	(16.0)	4.4	6.0	5PB5/1 青灰	
649	須恵器	碗	B	灰原Q1 12-Y層	(15.8)	5.3	5.5	N7/1 灰白	
650	須恵器	碗	B	灰原Q3 12-Y層	(13.8)	4.9	7.2	N7/0 灰白	

報告番号	種別	器形	分類	出土位置		口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調		備考
651	須恵器	小皿	C	灰原Q2	12-Y層	(3.9)	(1.4)	(5.8)	N7/0	灰白	
652	須恵器	小皿	C	灰原Q1	12-Y層	7.5	1.2	4.8	N5/0	灰	
653	須恵器	鉢	A 1	灰原Q5	12-Z層	(31.0)	(11.4)	(13.2)	7.5Y7/1	灰白	
654	須恵器	鉢	A 1	灰原Q2	12-Z層	(31.0)	10.5	11.0	2.5Y7/2	灰黄	
655	須恵器	鉢	A 1	灰原Q2	12-Z層	30.4	11.8	11.4	N4/0	灰	
656	須恵器	鉢	A 1	灰原Q2	12-Z層	(30.4)	(11.7)	11.5	2.5GY6/1	オリーブ灰	
657	須恵器	鉢	B 1	灰原Q2	12-Z層	(29.4)	12.5	10.6	10YR7/4	にぶい橙	
658	須恵器	鉢	A 1	灰原Q1	12-Z層	(29.3)	12.8	(9.9)	N6/0	灰	
659	須恵器	鉢	B 1	灰原Q3	12-Z層	(29.1)	10.3	10.0	5G7/1	明緑灰	
660	須恵器	鉢	B 3	灰原Q2	12-Z層	(26.8)	(9.2)	(9.7)	N4/0	灰	
661	須恵器	小鉢	A 1	灰原Q2	12-Z層	(21.9)	10.3	10.0	N4/0	灰	
662	須恵器	小鉢	A 1	灰原Q4	12-Z層	21.0	8.0	8.6	2.5Y5/1	黄灰	
663	須恵器	小鉢	A 2	灰原Q3	12-Z層	(20.6)	7.4	8.5	5Y7/1	灰白	
664	須恵器	小鉢	A 1	灰原Q2	12-Z層	(19.0)	7.3	(7.3)	2.5Y7/2	灰黄	
665	須恵器	小鉢	A 2	灰原Q1	12-Z層	(20.3)	7.7	8.2	N6/0	灰	
666	須恵器	小鉢	A 1	灰原Q3	12-Z層	(20.3)	7.2	9.0	2.5GY6/1	オリーブ灰	
667	須恵器	碗	A 1	灰原Q1	12-Z層	(16.5)	6.1	5.5	5Y7/1	灰白	
668	須恵器	碗	A 2	灰原Q3	12-Z層	(16.2)	5.0	4.5	5G7/1	明緑灰	
669	須恵器	碗	A 2	灰原Q2	12-Z層	(16.0)	5.0	6.0	N4/0	灰	
670	須恵器	碗	A 2	灰原Q2	12-Z層	(16.0)	(4.9)	(5.2)	N6/0	灰	
671	須恵器	碗	A	灰原Q2	12-Z層	——	——	(6.7)	10Y6/3	にぶい黄橙	輪高台付
672	須恵器	小皿	A	灰原Q2	12-Z層	(8.2)	(1.6)	(4.4)	7.5Y8/1	灰白	
673	須恵器	小皿	A	灰原Q1	12-Z層	(8.1)	2.4	4.3	N4/1	灰	
674	須恵器	小皿	B	灰原Q3	12-Z層	7.6	2.1	4.4	10BG6/1	青灰	
675	須恵器	小皿	B	灰原Q1	12-Z層	7.6	1.4	3.7	N6/0	灰	
676	須恵器	小皿	B	灰原Q2	12-Z層	8.9	1.9	5.0	5Y3/1	オリーブ黒	
677	須恵器	甕	C	灰原A5	1-B層	(29.0)	——	——	5Y7/1	灰白	
678	須恵器	甕	C	灰原C3	5-A層	(27.0)	——	——	2.5Y5/1	灰黄	
679	須恵器	甕	B 3	灰原E2	6-F層	(28.8)	——	——	N5/0	灰	
680	須恵器	甕	C	灰原D5	6-C層	——	——	——	5B6/1	青灰	
681	須恵器	甕	B 1	灰原D6	5-F層	(19.6)	——	——	5Y6/5	灰オリーブ	
682	須恵器	甕	B 2	灰原D4	5-E層	(27.9)	——	——	5B6/1	青灰	
683	須恵器	甕	B 3	灰原F3	6-F層	(27.0)	——	——	10YR4/1	褐	
684	須恵器	甕	B 2	灰原F4	6-G層	——	——	——	N4/0	灰	
685	須恵器	甕	B 2	灰原F3	6-G層	(27.8)	——	——	N5/0	灰	
686	須恵器	甕	C	灰原F	6-G層	(23.6)	——	——	N5/0	灰	
687	須恵器	甕	B 3	灰原F3	6-G層	(20.1)	——	——	N6/0	灰	
688	須恵器	甕	B 2	灰原F4	6-G層	(25.9)	——	——	N6/0	灰	
689	須恵器	甕	B 2	灰原G7	8-K層	(26.6)	——	——	N7/0	灰白	
690	須恵器	甕	B 3	灰原G7	8-K層	(17.7)	——	——	N7/0	灰白	
691	須恵器	甕	B 1	灰原G10	8-K層	(25.0)	——	——	N6/0	灰	
692	須恵器	甕	C	灰原G10	8-K層	(24.6)	——	——	N8/0	灰白	
693	須恵器	甕	B 1	灰原G10	8-L層	(22.4)	——	——	2.5GY7/1	明オリーブ灰	
694	須恵器	甕	B 3	灰原I4	8-P層	(16.9)	——	——	N3/0	暗灰	
695	須恵器	甕	B 2	灰原I2	8-P層	(30.6)	——	——	3/5Y	オリーブ黒	
696	須恵器	甕	C	灰原H4	7-K層	——	——	——	7.5GY6/1	緑灰	
697	須恵器	甕	B 2	灰原H2	7-O層	——	——	——	N6/0	灰	刻字あり
698	須恵器	甕	C	灰原H1	7-O層	(35.6)	——	——	N6/0	灰	
699	須恵器	甕	A	灰原H2	7-O層	(42.7)	——	——	10Y6/1	灰	
700	須恵器	甕	A 3	灰原J3	8-J層	(23.0)	——	——	2.5Y7/1	灰白	

報告番号	種別	器形	分類	出土位置	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	備考
701	須恵器	甕	A 1	灰原J 11　8-I層	——	——	——	5PB4/1　暗青灰	
702	須恵器	甕	A 1	灰原J 3　8-J層	(40.0)	——	——	N6/0　灰	
703	須恵器	甕	A 2	灰原K 2　10-Q層	(28.0)	——	——	N6/0　灰	
704	須恵器	甕	C	灰原K 5　10-Q層	(26.9)	——	——	N7/0　灰白	
705	須恵器	甕	A 2	灰原K 6　10-Q層	(22.4)	——	——	2.5GY7/1 明オリーブ灰	
706	須恵器	甕	A 1	灰原K 8　10-Q層	(34.1)	——	——	N6/0　灰	
707	須恵器	甕	A 1	灰原K 8　10-Q層	(36.2)	——	——	10BG6/1　青灰	
708	須恵器	甕	A 2	灰原K 5　10-Q層	(19.2)	——	——	10BG6/1　青灰	
709	須恵器	甕	A 1	灰原K・M	(20.0)	——	——	5BG6/1　青灰	
710	須恵器	甕	A 3	灰原M	(20.5)	——	——	5BG5/1　青灰	
711	須恵器	甕	A 3	灰原N 1　11-S層	(17.4)	——	——	N5/0　灰	
712	須恵器	甕	C	灰原N 4　11-S層	——	——	——	N7/0　灰白	
713	須恵器	甕	B	灰原N 4　11-S層	(37.4)	——	——	N6/0　灰	
714	須恵器	甕	A 1	灰原N 8　11-T層	(20.3)	——	——	N4/0　灰	
715	須恵器	甕	A 1	灰原N 8　11-U層	(32.0)	——	——	N4/0　灰	
716	須恵器	甕	A 1	灰原N 8　11-V層	(31.9)	——	——	N3/0　灰	
717	須恵器	甕	A 3	灰原N 6　11-X層	(25.3)	——	——	2.5Y5/1　黄灰	
718	須恵器	甕	A 2	灰原N 6　11-X層	(27.7)	——	——	7.5Y7/1　灰白	
719	須恵器	甕	C	灰原O 4　11-U層	——	——	——	N5/0　灰	
720	須恵器	甕	C	灰原O 4　11-U層	(40.0)	——	——	N6/0　灰	
721	須恵器	甕	A 1	灰原O 4　11-U層	(22.6)	——	——	N4/1　灰	
722	須恵器	甕	B	灰原O	(19.7)	——	——	2.5Y6/3　にぶい黄	
723	須恵器	甕	A 2	灰原P 5　12-Y層	(35.4)	——	——	N4/0　灰	
724	須恵器	甕	A 2	灰原P 5　12-Y層	(34.9)	——	——	N6/0　灰	
725	須恵器	甕	A 2	灰原P 5　12-Y層	(27.7)	——	——	10YR7/4　にぶい黄橙	
726	須恵器	甕	A 2	灰原P 5　12-Y層	(28.1)	——	——	7.5Y6/1　灰	
727	須恵器	甕	A 3	灰原P 5　12-Y層	(23.5)	——	——	5Y5/1　灰	
728	須恵器	甕	B	灰原P 5　12-Y層	(21.1)	——	——	10Y4/1　灰	
729	須恵器	甕	A 3	灰原P 7　12-Y層	(21.6)	——	——	5Y6/2　灰オリーブ	
730	須恵器	甕	A 3	灰原P 5　12-Y層	(21.7)	——	——	10YR7/4　にぶい黄橙	
731	須恵器	甕	A 3	灰原P 1　12-Z層	(21.6)	——	——	5Y6/1　灰	
732	須恵器	甕	A 1	灰原P 5　12-Z層	(25.9)	——	——	2.5Y6/2　灰黄	
733	須恵器	甕	A 2	灰原P 5　12-Z層	(28.2)	——	——	7.5Y5/1　灰	
734	須恵器	甕	A 3	灰原P 5　12-Z層	(24.9)	——	——	7.5Y6/1　灰	
735	須恵器	甕	A 2	灰原P 5　12-Z層	(26.6)	——	——	7.5Y6/1　灰	
736	須恵器	甕	A 1	灰原P 5　12-Z層	(29.2)	——	——	2.5GY7/1 明オリーブ灰	
737	須恵器	甕	A 1	灰原P 6　12-Z層	(28.9)	——	——	2.5Y6/1　黄灰	
738	須恵器	甕	A 2	灰原Q 4　12-Y層	——	——	——	N6/0　灰	
739	須恵器	甕	B	灰原Q 5　12-Y層	(23.8)	——	——	N7/0　灰白	
740	須恵器	甕	B	灰原Q 5　12-Y層	(23.7)	——	——	5Y5/1　灰	
741	須恵器	甕	B	灰原Q 7　12-Y層	(21.4)	——	——	N4/0　灰	
742	須恵器	甕	B	灰原Q 1　12-Z層	(20.4)	——	——	N7/0　灰白	
743	須恵器	甕	A 2	灰原Q 1　12-Z層	(25.7)	——	——	5Y6/1　灰	
744	須恵器	甕	B	灰原Q 1　12-Z層	(24.1)	——	——	N6/1　灰	
745	須恵器	甕	A 3	灰原Q 2　12-Z層	(24.0)	——	——	10YR4/1　褐灰	
746	須恵器	甕	A 2	灰原Q 2　12-Z層	(20.6)	——	——	N5/0　灰	
747	須恵器	甕	A 1	灰原Q 2　12-Z層	(21.0)	——	——	5B6/1　青灰	
748	須恵器	甕	A 1	灰原Q 3　12-Z層	(40.0)	——	——	5B6/1　青灰	
749	須恵器	甕	A 2	灰原Q 3　12-Z層	(28.9)	——	——	5Y5/2　灰オリーブ	
750	須恵器	甕	A 2	灰原Q 3　12-Z層	24.9	——	——	N7/0　灰白	

報告番号	種別	器形	分類	出土位置	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	備考
751	須恵器	甕	A 2	灰原Q3 12-Z層	(21.8)	—	—	N3/0 暗灰	
752	須恵器	甕	A 1	灰原Q3 12-Z層	(18.8)	—	—	N8/1 灰白	
753	須恵器	甕	A 1	灰原Q4 12-Z層	(24.0)	—	—	5Y6/2 灰オリーブ	
754	須恵器	甕	A 2	灰原Q4 12-Z層	(23.5)	—	—	2.5Y7/1 灰白	
755	須恵器	甕		灰原Q4 12-Z層	—	—	—	2.5GY6/1 オリーブ灰	
756	須恵器	甕	A 2	灰原Q7 12-Z層	(33.3)	—	—	5PB5/1 青灰	
757	須恵器	甕	A 1	灰原Q7 12-Z層	(26.5)	—	—	N6/0 灰	
758	須恵器	甕	B	灰原Q	(26.0)	—	—	N5/0 灰	
759	須恵器	甕	C	灰原S1 13-Z層	—	—	—	7.5Y7/1 灰白	
760	須恵器	壺	A	灰原Q2 12-Z層	(19.0)	—	—	2.5YR6/2 黄灰	
761	須恵器	壺	A	灰原Q4 12-Y層	(17.6)	—	—	7.5Y4/3 暗オリーブ灰	
762	須恵器	壺	A	灰原P4 12-Y層	(18.5)	—	—	7.5Y6/1 灰	
763	須恵器	壺	A	灰原P2 12-Z層	18.4	—	—	2.5YR6/2 黄灰	
764	須恵器	壺	A	灰原Q2 12-Z層	(18.0)	—	—	2.5Y4/2 暗灰黄	
765	須恵器	壺	A	灰原Q2 12-Z層	(18.0)	—	—	N7/0 灰白	
766	須恵器	壺	A	灰原Q2 12-Z層	(18.6)	—	—	2.5Y4/1 黄灰	
767	須恵器	壺	A	灰原P1 12-Z層	(16.2)	—	—	5Y4/1 灰	
768	須恵器	壺	A	灰原サブトレ9	(16.6)	—	—	2.5Y7/1 灰白	
769	須恵器	壺	A	灰原K8 10-Q層	(19.0)	—	—	N6/0 灰	
770	須恵器	壺	A	灰原K5 10-Q層	(17.6)	—	—	N5/0 灰	
771	須恵器	壺	A	灰原N8 11-V層	(16.6)	—	—	N6/0 灰	
772	須恵器	壺	A	灰原N6 11-X層	(17.0)	—	—	N6/0 灰	
773	須恵器	壺	A	灰原Q4 12-Y層	(17.5)	—	—	5Y5/1 灰	
774	須恵器	壺	A	灰原S5 13-Z層	(17.4)	—	—	2.5Y6/6 明黄灰	
775	須恵器	壺	A	灰原Q2 12-Z層	(24.9)	—	—	2.5GY1/3 暗オリーブ灰	
776	須恵器	壺	A	灰原Q3 12-Y層	—	—	—	2.5Y7/4 浅黄	
777	須恵器	壺	A	灰原Q3 12-Y層	—	—	—	5Y5/2 灰オリーブ	
778	須恵器	壺	A	灰原Q2 12-Z層	—	—	—	5Y6/3 オリーブ黄	
779	須恵器	壺	A	灰原サブトレ6	—	—	—	N7/0 灰白	
780	須恵器	壺	A	灰原Q2 12-Z層	—	—	10.0	5Y5/3 灰オリーブ	
781	須恵器	壺	A	灰原Q2 12-Z層	—	—	(10.4)	N6/0 灰	
782	須恵器	壺	A	灰原O	—	—	(8.8)	7.5Y7/1 灰白	
783	須恵器	壺	A	灰原Q3 12-Z層	—	—	(9.8)	2.5Y6/3 にぶい黄	
784	須恵器	壺	A	灰原Q7 12-Z層	—	—	(10.4)	5B6/1 青灰	
785	須恵器	壺	A	灰原Q3 12-Z層	—	—	(11.4)	5Y5/1 灰	
786	須恵器	壺	A	灰原Q2 12-Z層	—	—	(8.5)	5Y3/2 オリーブ黒	
787	須恵器	壺	A	灰原Q2 12-Z層	—	—	(12.0)	5Y4/4 オリーブ	
788	須恵器	壺	A	灰原K・M	—	—	14.2	7.5Y3/1 オリーブ黒	
789	須恵器	壺	B	灰原D5 5-A層	—	—	—	2.5Y6/1 黄灰	
790	須恵器	壺	B	灰原D5 5-A層	—	—	—	5PB6/1 青灰	
791	須恵器	壺	C	灰原J3 5-E層	(8.9)	—	—	N3/1 暗灰	
792	須恵器	壺	C	灰原H7 7-O層	(8.2)	—	—	5Y7/1 灰白	
793	須恵器	壺	C	灰原J8 8-O層	(8.9)	—	—	5PB6/1 青灰	
794	須恵器	壺	C	灰原B1 1-A層	(9.0)	—	—	2.5Y7/1 灰白	
795	須恵器	壺	C	灰原A 1-A層	(8.6)	—	—	5GY7/1 明オリーブ灰	
796	須恵器	壺	C	灰原J 8-J層	—	—	13.0	N7/1 灰白	
797	須恵器	壺	C	灰原J 8-J層	—	—	(7.2)	10Y8/1 灰白	刻字あり
798	須恵器	壺	C	灰原A7 1-B層	—	—	8.1	5Y7/1 灰白	
799	須恵器	壺	D	灰原D6 6-C層	(5.9)	(8.5)	(7.6)	N6/0 灰	
800	須恵器	経筒蓋	A	灰原Q4 12-Y層	(17.0)	4.1	—	10YR7/1 灰白	

報告番号	種別	器形	分類	出土位置	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	備考
801	須恵器	経筒蓋	B	灰原D5 5-E層	(18.4)	(6.5)	——	N6/0 灰	
802	須恵器	経筒蓋	B	灰原D5 5-E層	(17.8)	(3.8)	——	N4/0 灰	
803	須恵器	経筒蓋	B	灰原K・M	(20.0)	(6.1)	——	5BG6/1 青灰	木葉痕
804	須恵器	経筒身		灰原D6 5-C層	(19.6)	(7.8)	——	10YR4/1 褐灰	
805	須恵器	経筒身		灰原C5 5-E層	(17.2)	(12.5)	——	N6/0 灰	
806	須恵器	経筒身		灰原D6 5-E層	——	——	(16.6)	N6/0 灰	木葉痕
807	須恵器	経筒身		灰原D1 5-E層	——	——	(16.2)	N4/0 灰	木葉痕
808	須恵器	経筒身		灰原D7 5-H層	——	——	(18.1)	N5/0 灰	木葉痕
809	須恵器	経筒身		灰原サブトレ9	——	——	(3.1)	10YR4/1 灰褐	木葉痕
810	須恵器	硯		灰原L5 10-R層	——	——	——	5B2/1 青黒	
811	須恵器	硯		灰原P	——	——	——	N6/0 灰	
812	須恵器	硯		灰原E5 6-C層	——	——	——	N7/0 灰白	
813	須恵器	土錘		灰原C1 5-A層	7.5	3.4	——	2.5GY7/1 明オリーブ灰	
814	須恵器	土錘		灰原Q7 12-Z層	(9.4)	5.3	——	N6/0 灰	
815	須恵器	土錘		灰原サブトレ3	——	——	——	N7/0 灰白	
816	須恵器	坏		灰原K9 10-Q層	——	——	(9.2)	2.5Y8/4 灰白	
817	須恵器	坏		灰原サブトレ4	——	——	(8.8)	10Y8/1 灰白	
818	須恵器	鉢		灰原サブトレ10	——	——	——	N6/0 灰	重ね焼き
819	須恵器	碗		灰原K・M	——	——	——	N7/0 灰白	重ね焼き
820	須恵器	碗		灰原サブトレ10	——	——	——	N6/0 灰	重ね焼き
821	須恵器	碗		灰原E	——	——	——	N7/0 灰白	重ね焼き
822	須恵器	碗		灰原K・M	——	——	——	2.5Y6/1 黄灰	重ね焼き
824	須恵器	鉢		灰原Q2 12-Z層	——	——	——	N6/0 灰	線刻あり
825	須恵器	碗		灰原M・O	——	——	——	10G5/1 緑灰	見込みにヘラ記号
826	須恵器	甕		灰原Q3 12-Z層	——	——	——	7.5Y6/1 灰	底部に葉の圧痕
827	土師器	小皿		灰原A1 1-A層	(7.0)	(1.2)	4.2	7.5YR8/2 灰白	
828	土師器	小皿		灰原C1 5-A層	(7.9)	(1.2)	5.3	7.5YR8/4 浅黄橙	
829	土師器	小皿		灰原F2 6-G層	(7.9)	(1.3)	(6.5)	2.5Y5/2 暗灰黄	
830	土師器	小皿		灰原J3 8-O層	(7.4)	(1.2)	(5.1)	7.5YR7/6 橙	
831	土師器	小皿		灰原J 8-I層	(7.3)	1.1	(6.8)	7.5YR7/6 橙	
832	土師器	托		灰原A1 1-A層	——	——	6.8	10YR7/4 にぶい橙	底部に穿孔
833	土師器	托		灰原A1 1-A層	——	——	6.8	10YR7/2 にぶい黄橙	底部に穿孔
834	土師器	托		灰原A	——	——	(6.4)	10YR8/4 浅黄	底部に穿孔
835	土師器	托		灰原I2 8-P層	——	——	(6.6)	7.5YR8/6 浅黄橙	底部に穿孔
836	土師器	托		灰原J 8-I層	——	——	(6.8)	10YR8/1 灰白	底部に穿孔
937	土師器	羽釜		2号窯埋土	——	——	——	10YR8/3 浅黄橙	
838	土師器	鍋		灰原E	(17.2)	——	——	2.5Y5/6 黄褐	
839	土師器	鍋		灰原Q3 12-Y層	(26.8)	——	——	7.5YR7/6 橙	
840	土師器	鍋		灰原 サブトレ10	——	——	——	10YR4/2 灰黄褐	
841	土師器	三足鍋		灰原L2 10-Q層	——	——	——	7.5YR8/8 黄橙	
842	土師器	盤		灰原F3 6-C層	——	——	——	5Y8/3 淡黄	
843	土師器	盤		灰原F3 6-C層	——	——	——	2.5Y8/2 灰白	
844	青磁	碗		包含層	——	——	——	7.5Y6/2 灰オリーブ	龍泉窯系
845	石	砥石		灰原D1 5-E層	——	——	——	10YR6/4 にぶい黄橙	
846	石	砥石		灰原Q	——	——	——	10YR6/4 にぶい黄橙	

報告番号	器形	分類	出土位置	長	幅	厚	布目	色調	備考
847	軒丸瓦	1	灰原サブトレ2	—	—	—	—	N4/0 灰	復元径15.5
848	軒丸瓦	1	灰原C6 5-E層	—	—	—	—	5B6/0 青灰	復元径15.5
849	軒丸瓦	1	灰原M1 11-U層	—	—	—	—	2.5Y7/3 淡黄	
850	軒丸瓦	2	灰原J	—	—	—	—	N1.5/0 黒	
851	軒丸瓦	3	灰原サブトレ3	—	—	—	—	N6/0 灰	
852	軒丸瓦	4	灰原H1 7-L層	—	—	—	—	N5/0 灰	復元径14.4
853	軒丸瓦	5	灰原サブトレ1011	—	—	—	—	7.5Y7/1 灰白	
854	軒丸瓦	6	灰原MO	—	—	—	—	N5/0 灰	
855	軒丸瓦	7	灰原KM	—	—	—	7×9	N5/0 灰	瓦当径14.5
856	軒丸瓦	7	灰原N9 11-T層	—	—	—	—	N3/0 暗灰	瓦当径14.5
857	軒丸瓦	7	灰原O	—	—	—	—	2.5Y7/4 淡黄	
858	軒丸瓦	8	灰原K3 10-Q層	27.5	13.9	1.2	—	10YR6/1 褐灰	径13.9 丸瓦Ⅱ類
859	軒丸瓦	8	灰原Q2 12-Z層	—	—	—	—	2.5Y7/4 淡黄	
860	軒丸瓦	8	灰原Q3 12-Z層	—	—	—	—	N3/0 暗灰	
861	軒丸瓦	8	灰原Q4 12-Y層	—	—	—	—	N5/0 灰	
862	軒丸瓦	8	灰原Q5 12-Z層	—	—	—	—	7.5Y6/2 灰オリーブ	
863	軒丸瓦	8	灰原K2 10-Q層	—	—	—	—	10Y6/1 灰	
864	軒丸瓦	8	灰原サブトレ3	—	—	—	—	2.5Y8/3 淡黄	
865	軒丸瓦	8	灰原Q2 12-Z層	—	—	—	—	N5/0 灰	
866	軒丸瓦	8	灰原Q3	—	—	—	—	N2/0 灰	
867	軒丸瓦	8	灰原サブトレ8	—	—	—	—	5P7/1 明紫灰	
868	軒丸瓦	8	灰原NO	—	—	—	—	5B4/1 暗青灰	
869	軒丸瓦	9	灰原M1 11-U層	—	—	—	—	5BG4/1 青灰	瓦当径12.9
870	軒丸瓦	10	灰原Q2 12-Y層	—	15.7	2.2	7×7	N5/0 灰	瓦当径12.8
871	軒丸瓦	10	7号窯瓦敷	—	—	1.4	—	N4/0 灰	瓦当径11.0
872	軒丸瓦	10	灰原D1 5-A層	—	—	—	—	5Y7/0 灰白	
873	軒丸瓦	11	灰原M1 11-U層	—	—	—	—	N6/0 灰	瓦当径15.6
874	軒丸瓦	12	灰原C～F	32.7	14.5	1.7	12×9	N5/0 灰	瓦当径13.4
875	軒丸瓦	12	灰原J10 8-M層	—	—	1.5	—	N5/0 灰	瓦当径13.3
876	軒丸瓦	12	灰原Q3	—	—	1.6	8×?	10GY6/1 緑灰	
877	軒丸瓦	12	灰原Q7 12-Z層	—	—	—	—	10BG6/1 青灰	
878	軒丸瓦	13	7号窯瓦敷	—	—	—	—	N4/0 灰	瓦当径13.4
879	軒丸瓦	13	灰原C6 5-C層	—	—	1.4	7×5	N4/0 灰	
880	軒丸瓦	13	7号窯瓦敷	34.1	14.0	1.7	8×8	N4/0 灰	
881	軒丸瓦	13	灰原N4 11-V層	—	—	—	—	N5/0 灰	
882	軒丸瓦	14	灰原サブトレ3	—	—	—	—	2.5GY4/1 暗オリーブ灰	
883	軒丸瓦	15	灰原G	—	13.2	1.8	—	N4/0 灰	瓦当径13.1 丸瓦Ⅱ類
884	軒丸瓦	15	2号窯埋土	—	14.0	2.1	—	N4/0 灰	瓦当径13.3 丸瓦Ⅱ類
885	軒丸瓦	16	灰原サブトレ1011	—	—	0.9	10×8	N4/0 灰	瓦当径13.9
886	軒丸瓦	16	灰原G6 7-P層	—	—	—	—	N7/0 灰白	
887	軒丸瓦	17	灰原D 5-F層	—	12.6	1.0	—	N5/0 灰	瓦当径12.0 丸瓦Ⅱ類
888	軒丸瓦	17	灰原D5 5-F層	—	—	—	—	N7/0 灰白	
889	軒丸瓦	17	灰原F3 6-F層	—	—	—	—	N4/0 灰	
890	軒丸瓦	17	灰原A12 1-B層	—	—	—	—	2.5Y8/1 灰白	
891	軒丸瓦	17	灰原D10 5-F層	—	—	—	—	N6/0 灰	
892	軒丸瓦	17	灰原サブトレ6	—	—	—	—	10Y7/1 灰白	
893	軒丸瓦	18	灰原サブトレ9	—	12.2	1.8	6×7	2.5Y7/3 浅黄	瓦当径10.9
894	軒丸瓦	18	灰原A 1-A層	—	—	1.4	7×6	N5/0 灰	瓦当径10.1
895	軒丸瓦	18	灰原サブトレ2	—	—	1.6	7×7	5YR7/6 橙	
896	軒丸瓦	18	灰原MO	—	11.0	1.6	8×8	10YR8/3 浅黄橙	

報告番号	器形	分類	出土位置	長	幅	厚	布目	色調	備考
897	軒丸瓦	19	灰原D5　5-F層	—	—	—	—	N6/0　灰	瓦当径12.2
898	軒丸瓦	19	６号窯埋土	—	—	—	—	5Y6/1　灰	
899	軒平瓦	1	灰原B	—	—	—	—	N6/0　灰	瓦当幅4.9
900	軒平瓦	1	落ち込み	—	—	1.5	7×8	5Y6/1　灰	瓦当幅4.7
901	軒平瓦	2	灰原K7　10-T層	—	—	—	—	N6/0　灰	瓦当幅5.1
902	軒平瓦	3	灰原E3　6-C層	—	—	1.5	8×8	10Y4/1　灰	瓦当幅4.6
903	軒平瓦	4	灰原Q5　12-Z層	—	—	1.3	9×9	7.5Y5/1　灰	瓦当幅4.8
904	軒平瓦	5	６号窯壁面	35.8	22.6	1.8	—	5YR7/6　橙	瓦当幅5.6
905	軒平瓦	5	灰原	—	22.5	1.7	8×6	N5/0　灰	瓦当幅4.8
906	軒平瓦	5	灰原D5　5-A層	—	—	—	—	N6/0　灰	瓦当幅4.7
907	軒平瓦	5	６号窯埋土	—	22.5	1.5	7×8	N4/0　灰	瓦当幅4.4
908	軒平瓦	5	灰原D9　5-F層	—	—	1.5	10×8	N6/0　灰	瓦当幅4.6
909	軒平瓦	5	灰原J5　8-I層	—	—	1.4	8×6	7.5YR7/2 明褐灰	瓦当幅4.7
910	軒平瓦	5	灰原J5　8-I層	—	—	1.4	7×5	7.5YR7/4 にぶい橙	瓦当幅4.6
911	軒平瓦	5	灰原K3　10-Q層	—	23.0	1.5	8×7	N4/0　灰	瓦当幅4.3
912	軒平瓦	5	７号窯瓦敷	34.8	22.5	1.4	6×8	N7/0　灰白	瓦当幅4.7
913	軒平瓦	6	灰原J　8-J層	—	23.2	1.6	—	N6/0　灰	
914	軒平瓦	6	灰原サブトレ3	—	—	—	—	7.5YR2/1 黒	瓦当幅5.5
915	軒平瓦	6	灰原K	—	—	1.3	—	N7/0　灰白	瓦当幅5.6
916	軒平瓦	6	灰原4　サブトレ	—	—	1.5	—	N6/0　灰	瓦当幅4.8
917	軒平瓦	6	２号窯埋土	—	—	1.4	—	5Y6/1　灰	瓦当幅5.4
918	軒平瓦	7	灰原K	—	—	1.7	—	2.5Y8/2　灰白	
919	軒平瓦	7	灰原J　8-J層	—	—	—	—	10YR7/2　にぶい黄橙	瓦当幅5.4
920	軒平瓦	7	灰原J11　8-I層	—	—	—	—	N6/0　灰	瓦当幅4.8
921	軒平瓦	7	灰原J　8-J層	—	—	1.6	—	2.5Y6/1　黄灰	瓦当幅4.6
922	軒平瓦	8	灰原Q3	—	—	1.3	—	N6/0　灰	瓦当幅4.0
923	軒平瓦	8	灰原P2　12-Y層	—	—	1.8	7×9	N5/0　灰	瓦当幅4.4
924	軒平瓦	9	灰原Q1　12-Z層	—	—	—	—	N6/0　灰	
925	軒平瓦	9	灰原Q1　12-Y層	—	—	—	—	N7/0　灰白	瓦当幅5.6
926	軒平瓦	10	灰原C5　6-C層	—	—	—	—	N3/0　暗灰	瓦当幅4.6
927	軒平瓦	12	灰原F3　6-G層	—	—	1.4	—	N3/0　暗灰	瓦当幅4.4
928	軒平瓦	12	灰原F3　6-G層	—	—	—	—	N7/0　灰白	瓦当幅4.4
929	軒平瓦	11	灰原K5　10-Q層	—	23.1	1.6	—	5Y5/1　灰	瓦当幅4.8
930	軒平瓦	11	灰原M	—	—	1.5	—	5GY7/1　明オリーブ灰	瓦当幅4.3
931	軒平瓦	11	灰原サブトレ8	—	—	1.5	—	5Y8/3　淡黄	瓦当幅4.5
932	軒平瓦	11	灰原N6　11-X層	—	—	1.8	—	N6/0　灰	瓦当幅4.2
933	軒平瓦	11	灰原M6　11-U層	—	—	1.4	—	N6/0　灰	瓦当幅4.8
934	軒平瓦	13	灰原Q5　12-Z層	—	—	1.6	9×9	N5/0　灰	瓦当幅4.8
935	軒平瓦	13	灰原サブトレ1011	—	—	—	—	N6/0　灰	瓦当幅4.6
936	軒平瓦	13	灰原KM	—	—	1.7	9×8	10Y5/1　灰白	瓦当幅4.5
937	軒平瓦	13	灰原P6　12-Y層	—	—	1.9	8×10	N6/0　灰	瓦当幅4.2
938	軒平瓦	13	灰原R1　13-Z層	—	—	1.8	7×7	2.5Y7/3　浅黄	
939	軒平瓦	14	灰原Q3　12-Y層	—	—	—	—	7.5GY8/1 明緑灰	瓦当幅4.8
940	軒平瓦	14	灰原N10　14-X層	—	—	1.6	—	2.5Y8/1　灰白	瓦当幅5.0
942	軒平瓦	14	灰原サブトレ6	—	—	—	—	N6/0　灰	瓦当幅5.2
942	軒平瓦	15	灰原N9　11-S層	—	—	—	—	N4/0　灰	瓦当幅4.4
943	軒平瓦	16	灰原C3　5-A層	—	—	1.7	10×6	5P3/1　暗紫灰	
944	軒平瓦	17	灰原A1　1-A層	—	—	—	—	N3/0　暗灰	瓦当幅4.4
945	軒平瓦	18	灰原H4　7-K層	—	—	1.8	—	N5/0　灰	瓦当幅5.5
946	軒平瓦	19	灰原サブトレ5	—	—	1.6	—	N6/0　灰	瓦当幅5.0

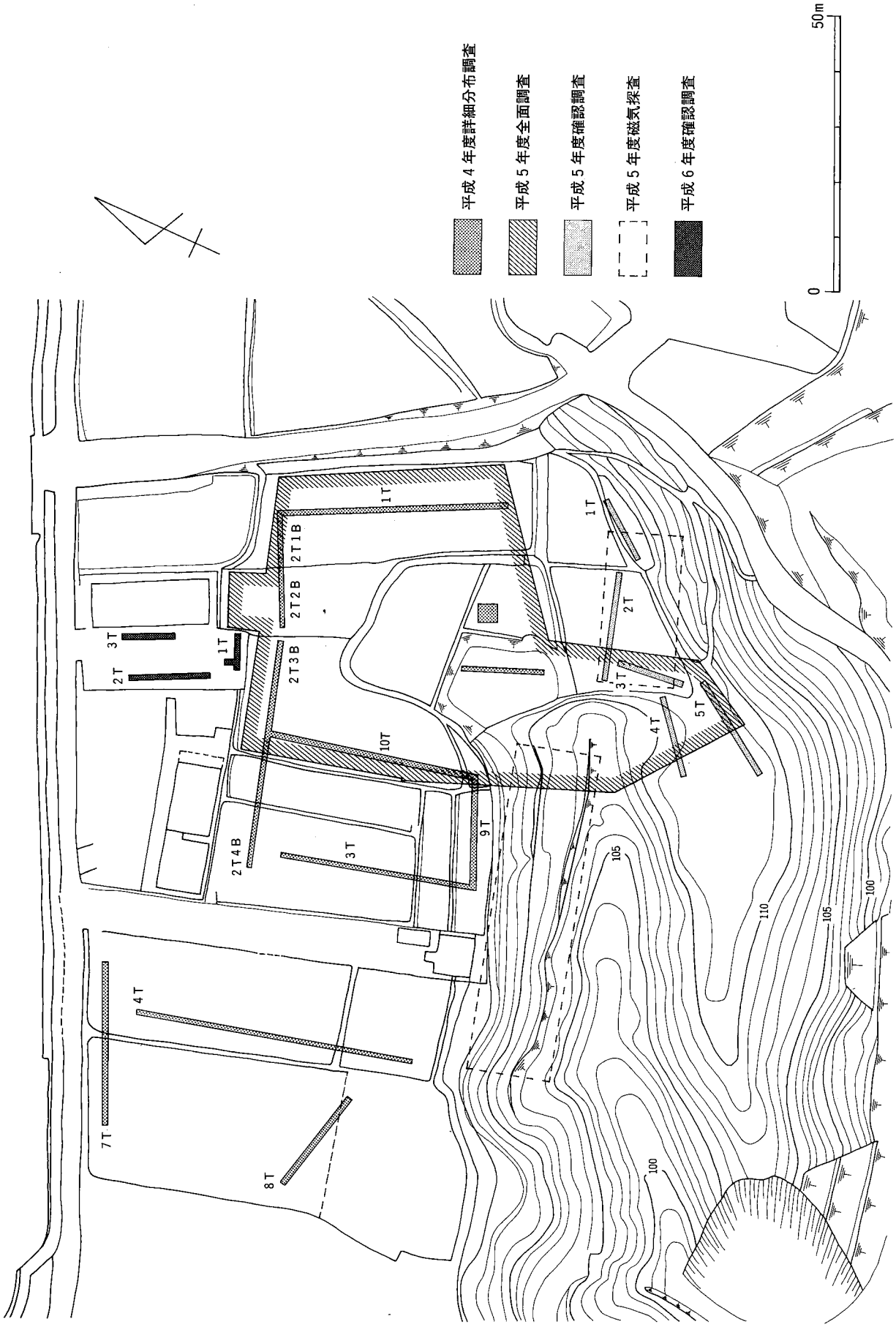
報告番号	器形	分類	出土位置	長	幅	厚	布目	色調	備考
947	軒平瓦	19	灰原O	——	——	1.7	——	2.5GY7/1 明オリーブ灰	瓦当幅5.0
948	軒平瓦	20	灰原N7　11-X層	——	——	1.3	——	2.5Y8/3 淡黄	瓦当幅4.2
949	軒平瓦	20	灰原C3　5-E層	——	——	1.5	——	N4/0 灰	瓦当幅4.1
950	軒平瓦	20	灰原O4　11-S層	——	——	1.3	——	10YR3/1 黒褐	瓦当幅3.8
951	軒平瓦	20	灰原サブトレ3	——	——	1.2	——	10Y6/0 灰	瓦当幅4.2
952	軒平瓦	20	灰原F2　6-F層	——	——	1.3	——	10YR3/1 黒褐	瓦当幅4.1
953	軒平瓦	21	灰原D1　5-E層	——	20.7	1.4	6×7	N7/0 灰白	瓦当幅4.0
954	軒平瓦	22	灰原H5　7-K層	——	——	1.1	6×9	2.5GY6/1 オリーブ灰	瓦当幅3.8
955	軒平瓦	23	灰原C～F	——	——	1.4	——	N5/0 灰	瓦当幅3.9
956	丸瓦	Ⅰ	1号窯埋土	32.3	15.7	2.2	8×10	10YR4/1 褐灰	平行タタキ
957	丸瓦	Ⅰ	1号窯床面	——	13.9	2.1	10×7	N5/0 灰	
958	丸瓦	Ⅰ	SX01	32.8	16.9	3.1	10×7	7.5Y7/1 灰白	平行タタキ
959	丸瓦	Ⅰ	SX01	32.5	16.3	2.4	10×9	N7/0 灰白	平行タタキ
960	丸瓦	Ⅰ	SX01	32.0	15.2	2.3	12×9	N7/0 灰白	平行タタキ
961	丸瓦	Ⅰ	SX01	31.9	15.7	1.9	9×9	N6/0 灰	平行タタキ
962	丸瓦	Ⅰ	SX01	32.2	15.8	2.8	12×9	7.5Y6/1 灰	平行タタキ
963	丸瓦	Ⅰ	SX01	31.4	15.4	2.4	12×8	7.5Y6/1 灰	平行タタキ
964	丸瓦	Ⅰ	6号窯壁面	37.4	15.0	1.7	10×11	N5/0 灰	平行タタキ
965	丸瓦	Ⅰ	6号窯壁面	35.2	14.2	1.4	11×11	N5/0 灰	平行タタキ
966	丸瓦	Ⅰ	7号窯瓦敷	41.3	18.3	1.8	10×8	N6/0 灰	
967	丸瓦	Ⅰ	7号窯瓦敷	39.9	16.5	1.6	11×8	N3/0 暗灰	
968	丸瓦	Ⅰ	7号窯瓦敷	37.7	15.0	1.8	9×10	N8/0 灰白	軒瓦丸瓦部
969	丸瓦	Ⅰ	7号窯瓦敷	38.6	14.6	2.3	12×10	N6/0 灰	平行タタキ
970	丸瓦	Ⅰ	7号窯瓦敷	37.8	16.5	1.6	9×9	N4/0 灰	平行タタキ
971	丸瓦	Ⅰ	7号窯瓦敷	35.0	13.3	1.5	10×9	N6/0 灰	平行タタキ
972	丸瓦	Ⅰ	7号窯瓦敷	38.4	19.4	1.3	8×13	N7/0 灰白	ひずみ大
973	丸瓦	Ⅰ	7号窯瓦敷	36.3	15.0	1.7	10×14	N6/0 灰	平行タタキ
974	丸瓦	Ⅰ	7号窯瓦敷	38.9	16.7	1.4	10×8	5Y8/3 浅黄	平行タタキ
975	丸瓦	Ⅰ	7号窯瓦敷	24.5	11.6	1.5	9×8	N7/0 灰白	平行タタキ
976	丸瓦	Ⅰ	7号窯瓦敷	24.4	12.3	1.5	7×7	N4/0 灰	平行タタキ
977	丸瓦	Ⅰ	7号窯瓦敷	24.9	11.8	1.6	11×8	N5/0 灰	平行タタキ
978	丸瓦	Ⅰ	7号窯瓦敷	25.0	10.7	1.6	9×7	N6/0 灰	平行タタキ
979	丸瓦	Ⅰ	7号窯瓦敷	25.2	10.8	1.5	10×10	N4/0 灰	平行タタキ
980	丸瓦	Ⅰ	7号窯瓦敷	23.4	11.0	1.4	12×7	5Y7/1 灰白	平行タタキ
981	丸瓦	Ⅰ	7号窯瓦敷	24.4	10.9	1.3	9×7	N4/0 灰	平行タタキ
982	丸瓦	Ⅰ	7号窯瓦敷	24.6	10.6	1.4	8×8	N5/0 灰	平行タタキ
983	丸瓦	Ⅰ	7号窯瓦敷	23.5	12.0	1.6	8×6	N5/0 灰	平行タタキ
984	丸瓦	Ⅰ	7号窯瓦敷	24.0	11.4	1.9	9×10	N5/0 灰	平行タタキ
985	丸瓦	Ⅰ	7号窯瓦敷	24.1	11.0	1.3	7×8	N5/0 灰	
986	丸瓦	Ⅰ	7号窯瓦敷	24.5	12.0	1.5	10×7	N4/0 灰	平行タタキ
987	丸瓦	Ⅰ	7号窯瓦敷	24.0	10.9	1.8	8×8	N4/0 灰	平行タタキ
988	丸瓦	Ⅰ	7号窯瓦敷	24.3	11.6	1.5	7×10	N6/0 灰	平行タタキ
989	丸瓦	Ⅰ	7号窯瓦敷	23.8	13.7	1.5	9×7	N6/0 灰	
990	丸瓦	Ⅰ	7号窯瓦敷	23.6	12.0	1.7	10×8	7.5Y8/1 灰白	平行タタキ
991	丸瓦	Ⅰ	7号窯瓦敷	23.4	13.0	1.4	9×7	N7/0 灰白	
992	丸瓦	Ⅰ	7号窯瓦敷	24.7	11.9	1.9	9×10	5Y8/1 灰白	平行タタキ
993	丸瓦	Ⅲ	灰原F4　6-G層	——	——	3.5	——	10Y6/1 灰	
994	丸瓦	Ⅱ	灰原K8　10-Q層	30.6	15.4	1.4	——	5Y6/3 オリーブ黄	
995	丸瓦	Ⅱ	灰原D6　5-H層	24.5	13.2	1.3	——	N6/1 灰	
996	丸瓦	Ⅱ	灰原D6　5-H層	24.4	12.7	1.4	——	2.5Y5/1 黄灰	

報告番号	器形	分類	出土位置	長	幅	厚	布目	色調	備考
997	平瓦	Ⅰ	1号窯埋土	33.0	22.9	1.9	8×9	N8/0 灰白	
998	平瓦	Ⅰ	SX01	——	27.2	2.0	9×7	N5/0 灰	
999	平瓦	Ⅰ	6号窯壁面	35.9	24.1	1.8	7×7	N6/0 灰	
1000	平瓦	Ⅰ	6号窯壁面	33.9	23.0	1.9	6×7	10YR8/3 浅黄橙	
1001	平瓦	Ⅰ	6号窯壁面	33.5	22.9	1.8	6×7	N6/0 灰	
1002	平瓦	Ⅰ	6号窯壁面	32.4	21.7	1.7	7×7	5YR8/4 淡橙	
1003	平瓦	Ⅰ	7号窯瓦敷	39.9	25.5	1.6	13×11	N5/0 灰	
1004	平瓦	Ⅰ	7号窯瓦敷	37.6	22.2	1.4	10×10	N7/0 灰白	
1005	平瓦	Ⅰ	7号窯瓦敷	37.6	22.4	1.6	11×10	N4/0 灰	×印タタキ　歪み大
1006	平瓦	Ⅰ	7号窯瓦敷	37.3	29.1	1.2	7×7	2.5GY8/1 灰白	×印タタキ
1007	平瓦	Ⅰ	7号窯瓦敷	38.3	24.5	1.3	9×13	N7/0 灰白	×印タタキ　歪み大
1008	平瓦	Ⅰ	7号窯瓦敷	35.0	22.2	1.2	7×7	N5/0 灰	
1009	平瓦	Ⅰ	7号窯瓦敷	35.5	21.8	1.3	6×6	N5/0 灰	
1010	平瓦	Ⅰ	7号窯瓦敷	34.5	22.1	1.8	6×6	N5/0 灰	
1011	平瓦	Ⅰ	7号窯瓦敷	35.1	22.4	1.4	7×7	N4/0 灰	
1012	平瓦	Ⅰ	7号窯瓦敷	35.0	22.0	2.1	5×5	N4/0 灰	×印タタキ
1013	平瓦	Ⅰ	7号窯瓦敷	35.0	21.0	1.5	10×12	10YR6/3 にぶい黄褐	×印タタキ
1014	平瓦	Ⅰ	落ち込み	35.1	22.8	2.0	7×7	10YR6/1 褐灰	
1015	平瓦	Ⅰ	落ち込み	33.8	22.4	2.4	7×7	7.5Y7/1 灰白	
1016	平瓦	Ⅰ	落ち込み	27.0	19.9	1.8	6×7	2.5Y7/1 灰白	軒瓦平瓦部
1017	平瓦	Ⅲ	2号窯埋土	43.6	22.3	3.1	——	7.5Y6/1 灰	
1018	平瓦	Ⅱ	灰原D11　5-F層	24.1	19.3	1.2	——	N4/0 灰	
1019	平瓦	Ⅱ	灰原D6　5-E層	26.3	18.4	1.5	——	N4/0 灰	
1020	平瓦	Ⅰ	1号窯埋土	——	——	2.7	7×8	7.5YR7/3 にぶい橙	斜格子タタキ
1021	平瓦	Ⅰ	灰原O5　11-S層	——	——	2.2	8×9	2.5Y8/2 灰白	斜格子タタキ
1022	平瓦	Ⅰ	灰原N8　11-T層	——	——	1.3	10×10	N6/0 灰	斜格子タタキ
1023	平瓦	Ⅰ	灰原S2　13-Z層	——	——	1.6	11×11	N5/0 灰	斜格子タタキ
1024	平瓦	Ⅰ	灰原サブトレ7	——	——	1.3	11×11	10YR4/1 褐灰	斜格子タタキ
1025	平瓦	Ⅰ	灰原Q3	——	——	2.3	7×5	N5/0 灰	斜格子タタキ
1026	平瓦	Ⅰ	灰原A　13-A層	——	——	1.7	11×10	N6/0 灰	斜格子タタキ
1027	平瓦	Ⅰ	7号窯瓦敷	——	——	1.5	6×7	7.5GY6/1 明緑灰	×印タタキ
1028	平瓦	Ⅰ	2号窯埋土	——	——	1.9	8×8	N4/0 灰	文様タタキ
1029	鬼瓦		灰原C6　5-C層	——	——	——	——	N5/0 灰	
1030	鬼瓦		灰原Q3	——	——	——	N3/0	暗灰	
1031	鬼瓦		灰原Q7　12-Y層	——	——	——	——	N4/0 灰	
1032	道具瓦		6号窯壁面	37.0	26.5	2.3	6×7	N6/0 灰	
1033	道具瓦		灰原J5　8-I層	——	24.5	2.8	9×8	10YR7/4 にぶい橙	

報告番号	種別	器形	分類	出土位置	口径	器高	底径	色調	備考
1034	須恵器	碗		苅屋谷池　灰原A	(16.5)	(3.8)	(7.0)	N6/0　灰	
1035	須恵器	碗		苅屋谷池　灰原A	(15.0)	——	——	N6/0　灰	
1036	須恵器	碗		苅屋谷池　灰原A	——	——	(6.2)	N7/0　灰	
1037	須恵器	鉢	B 2	苅屋谷池　灰原A	(32.8)	——	——	N6/0　灰	
1038	須恵器	鉢	B 2	苅屋谷池　灰原A	(31.0)	——	——	N7/0　灰白	
1039	須恵器	鉢	B 4	苅屋谷池　灰原A	(29.6)	——	——	N7/0　灰白	
1040	須恵器	鉢	B 2	苅屋谷池　灰原A	(29.0)	——	——	N6/0　灰	
1041	須恵器	鉢	B 2	苅屋谷池　灰原A	(26.5)	——	——	N6/0　灰	
1042	須恵器	鉢	B 2	苅屋谷池　灰原A	(25.5)	——	——	N4/0　灰	
1043	須恵器	鉢	B 2	苅屋谷池　灰原A	(28.8)	(11.0)	(12.4)	5Y3/1　オリーブ黒	
1044	須恵器	鉢	B 2	苅屋谷池　灰原A	——	——	(8.7)	N6/0　灰	
1045	須恵器	鉢	B 2	苅屋谷池　灰原A	——	——	——	N6/0　灰	
1046	須恵器	甕		苅屋谷池　灰原A	——	——	——	5Y4/1　灰	
1047	須恵器	碗		苅屋谷池　灰原B	(16.6)	3.0	(9.6)	10GY5/1　青灰	
1048	須恵器	碗		苅屋谷池　灰原B	(16.5)	3.0	(8.9)	N7/0　灰白	
1049	須恵器	碗		苅屋谷池　灰原B	(15.2)	3.2	(8.0)	N7/0　灰白	
1050	須恵器	碗		苅屋谷池　灰原B	(14.4)	3.0	6.9	10BG5/1　青灰	
1051	須恵器	碗		苅屋谷池　灰原B	(15.2)	(2.4)	——	7.5Y6/1　灰	体部下半にケズリ
1052	須恵器	鉢	B 2	苅屋谷池　灰原B	(29.5)	——	——	N6/0　灰	
1053	須恵器	碗		苅屋谷池　灰原C	(15.0)	3.7	(6.6)	N7/0　灰白	
1054	須恵器	碗		苅屋谷池　灰原C	(15.6)	3.7	(6.2)	5BG6/1　青灰	
1055	須恵器	小皿	C	苅屋谷池　灰原C	(8.8)	1.5	(6.4)	N6/0　灰	
1056	須恵器	鉢	B 2	苅屋谷池　灰原C	(30.6)	——	——	N6/0　灰	
1057	須恵器	鉢	B 2	苅屋谷池　灰原C	(29.8)	——	——	2.5GY6/1 オリーブ灰	
1058	須恵器	鉢	B 2	苅屋谷池　灰原C	(28.9)	——	——	2.5GY6/1 オリーブ灰	
1059	須恵器	鉢	B 2	苅屋谷池　灰原C	(29.6)	——	——	5B5/1　青灰	
1060	須恵器	鉢	B 4	苅屋谷池　灰原C	(26.6)	——	——	N4/0　灰	
1061	須恵器	鉢	B 2	苅屋谷池　灰原C	(29.6)	——	——	N5/0　灰	
1062	須恵器	鉢	B 2	苅屋谷池　灰原C	——	——	8.6	N6/0　灰	
1063	須恵器	碗		苅屋谷池	(15.0)	3.7	(6.6)	N7/0　灰白	
1064	須恵器	鉢	B 2	苅屋谷池	(27.9)	——	——	N4/0　灰	

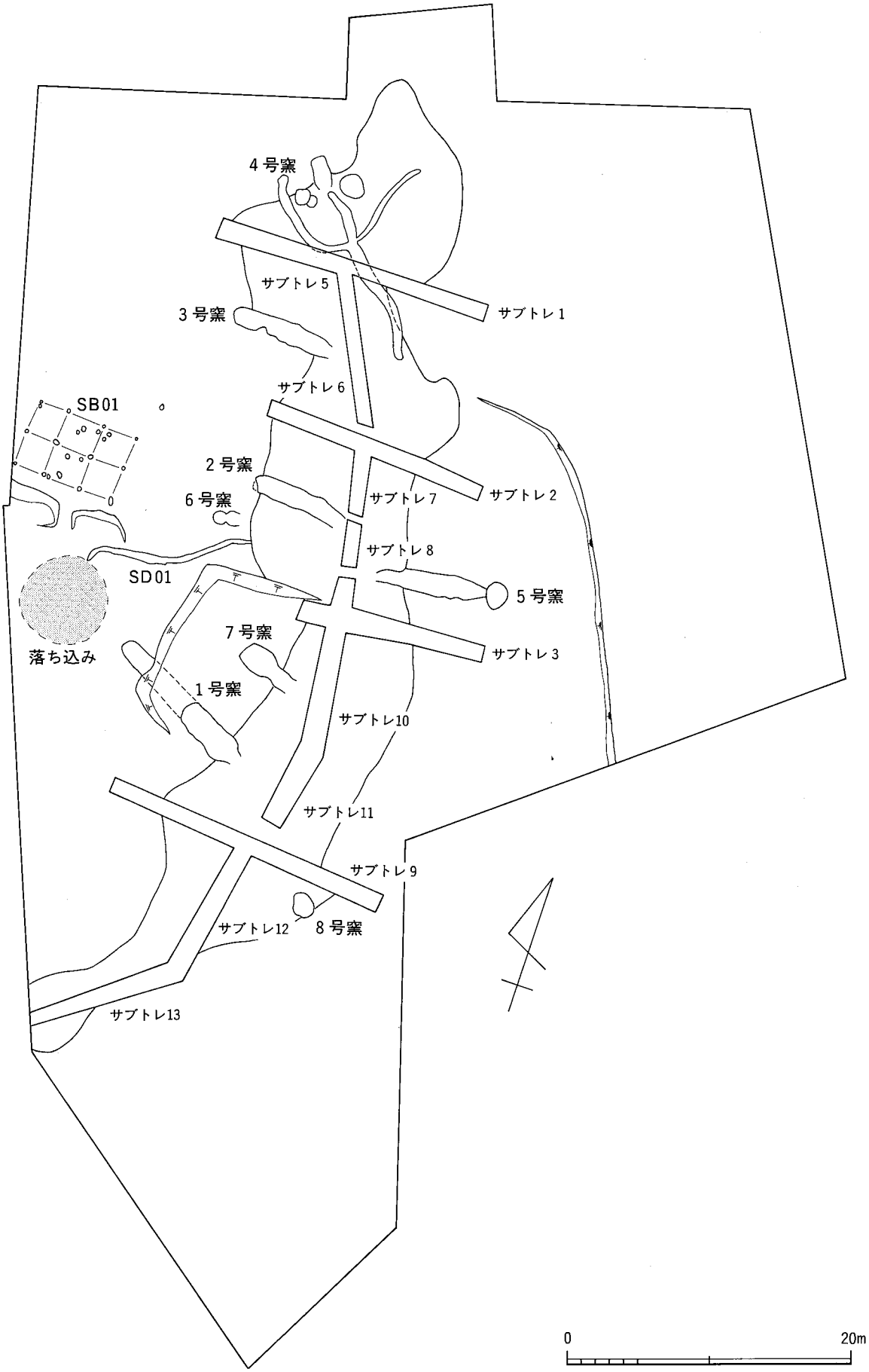
図版 1

調査区配置図


平成４年度詳細分布調査
平成５年度全面調査
平成５年度確認調査
平成５年度磁気探査
平成６年度確認調査
0
50m
1T
2T1B
2T2B
2T3B
2T4B
3T
2T
10T
9T
4T
5T
7T
8T
105
110
100

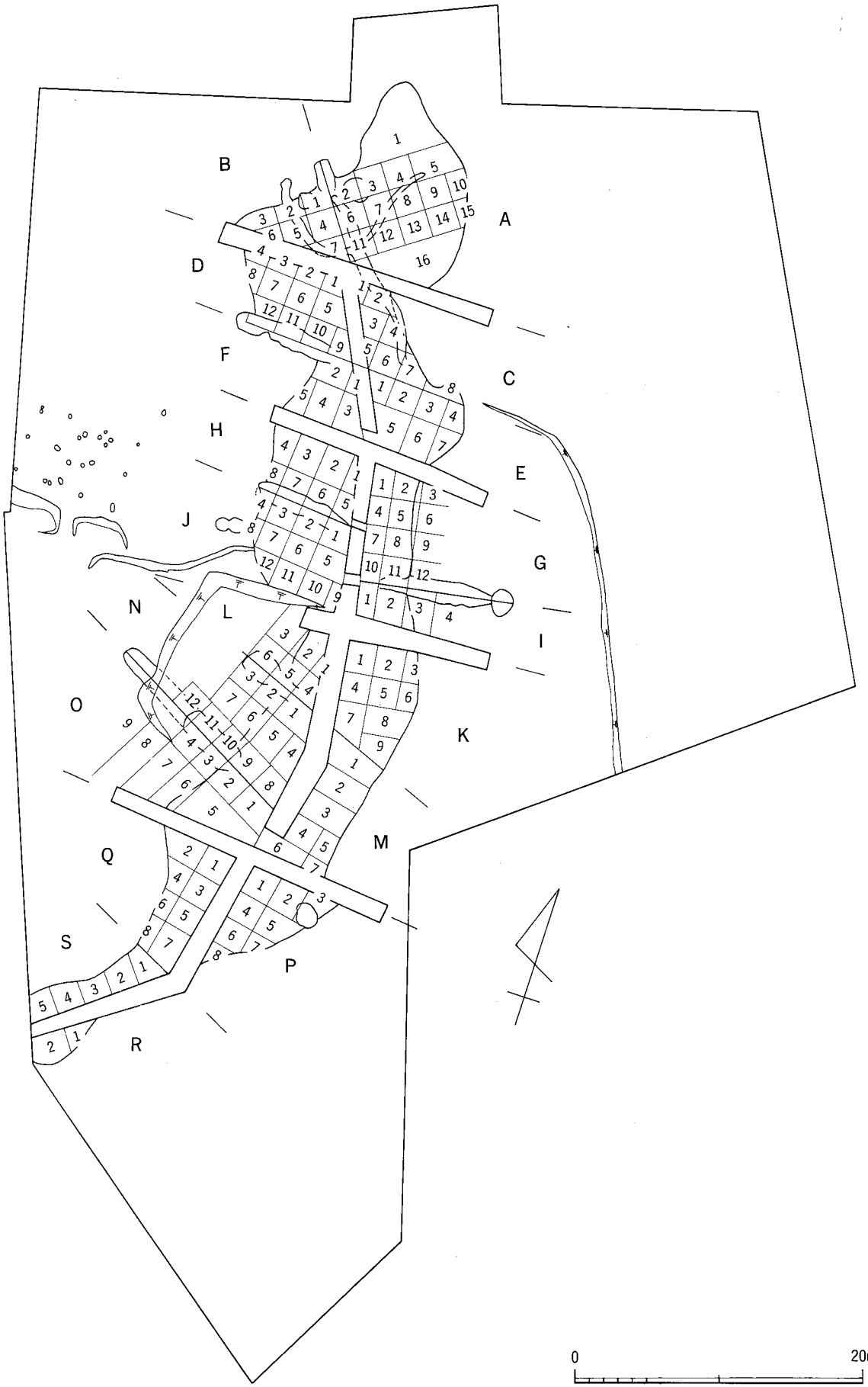
図版 2

遺構配置図


4 号窯
サブトレ 5
3 号窯
サブトレ 1
サブトレ 6
SB01
2 号窯
6 号窯
サブトレ 7
サブトレ 2
サブトレ 8
SD01
5 号窯
7 号窯
落ち込み
サブトレ 3
1 号窯
サブトレ10
サブトレ11
サブトレ 9
サブトレ12
8 号窯
サブトレ13
0
20m

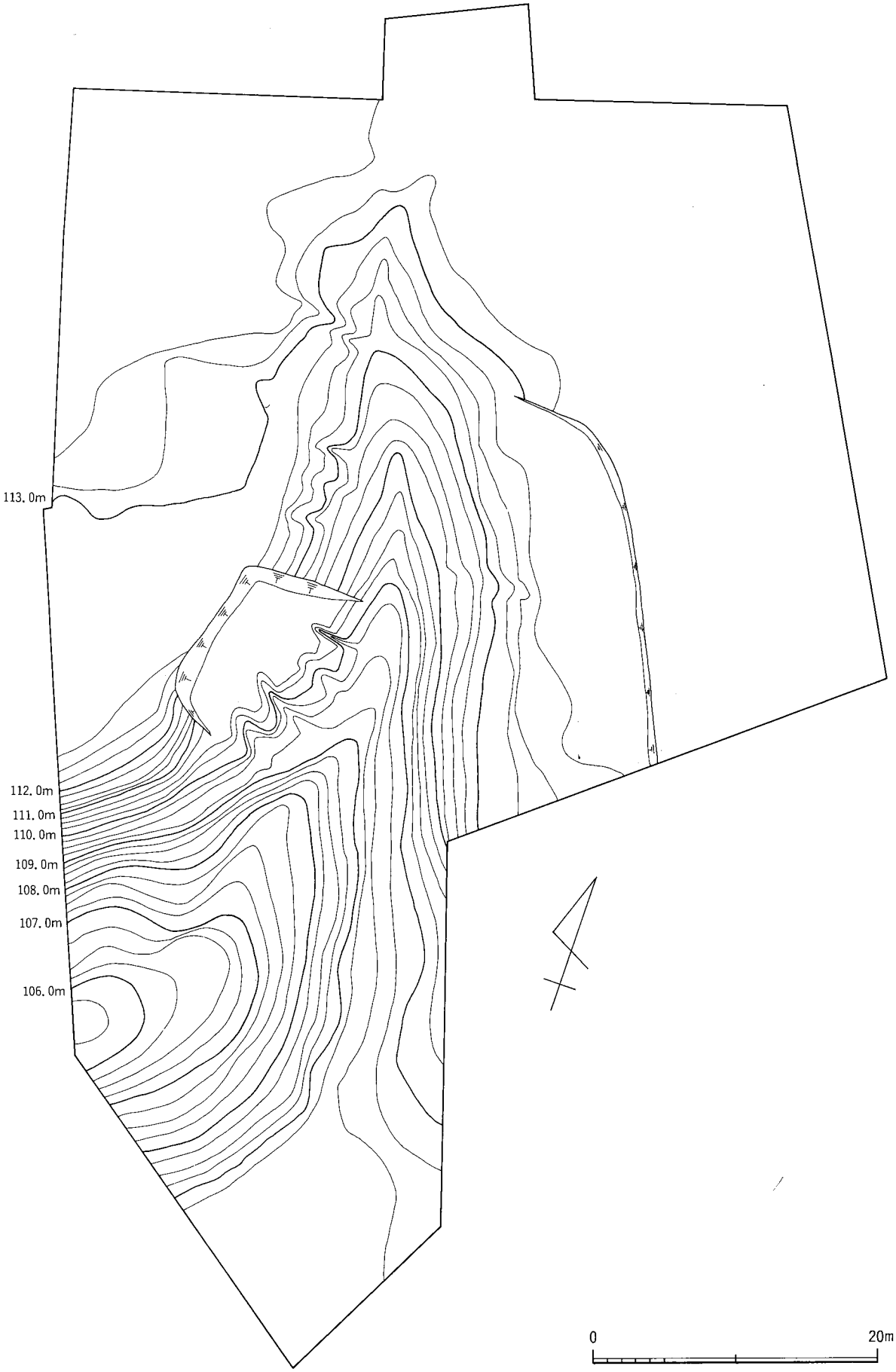
図版 3

灰原地区割図



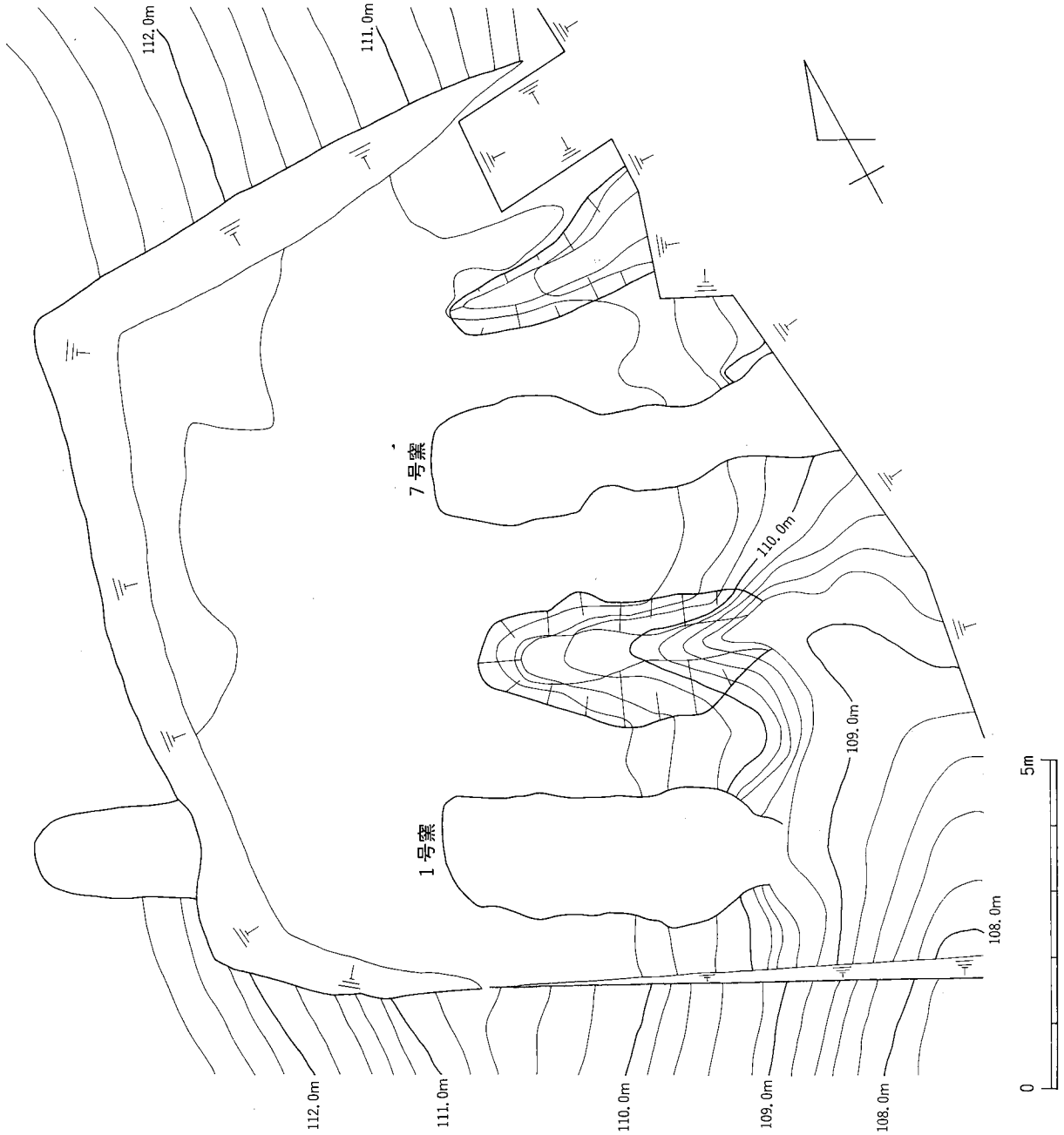
図版 4

調査後地形測量図



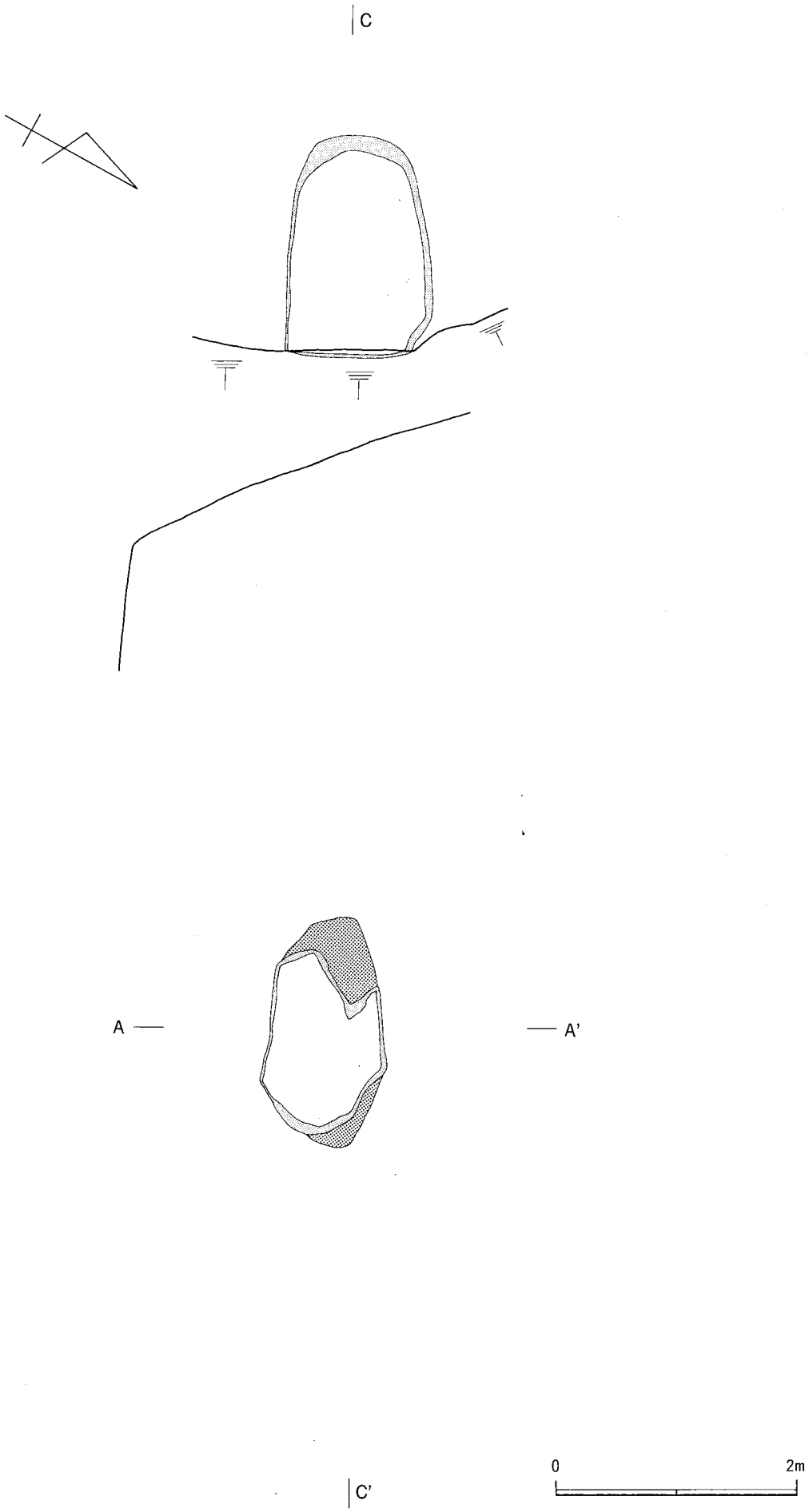
図版 5

1・7号窯地形測量図

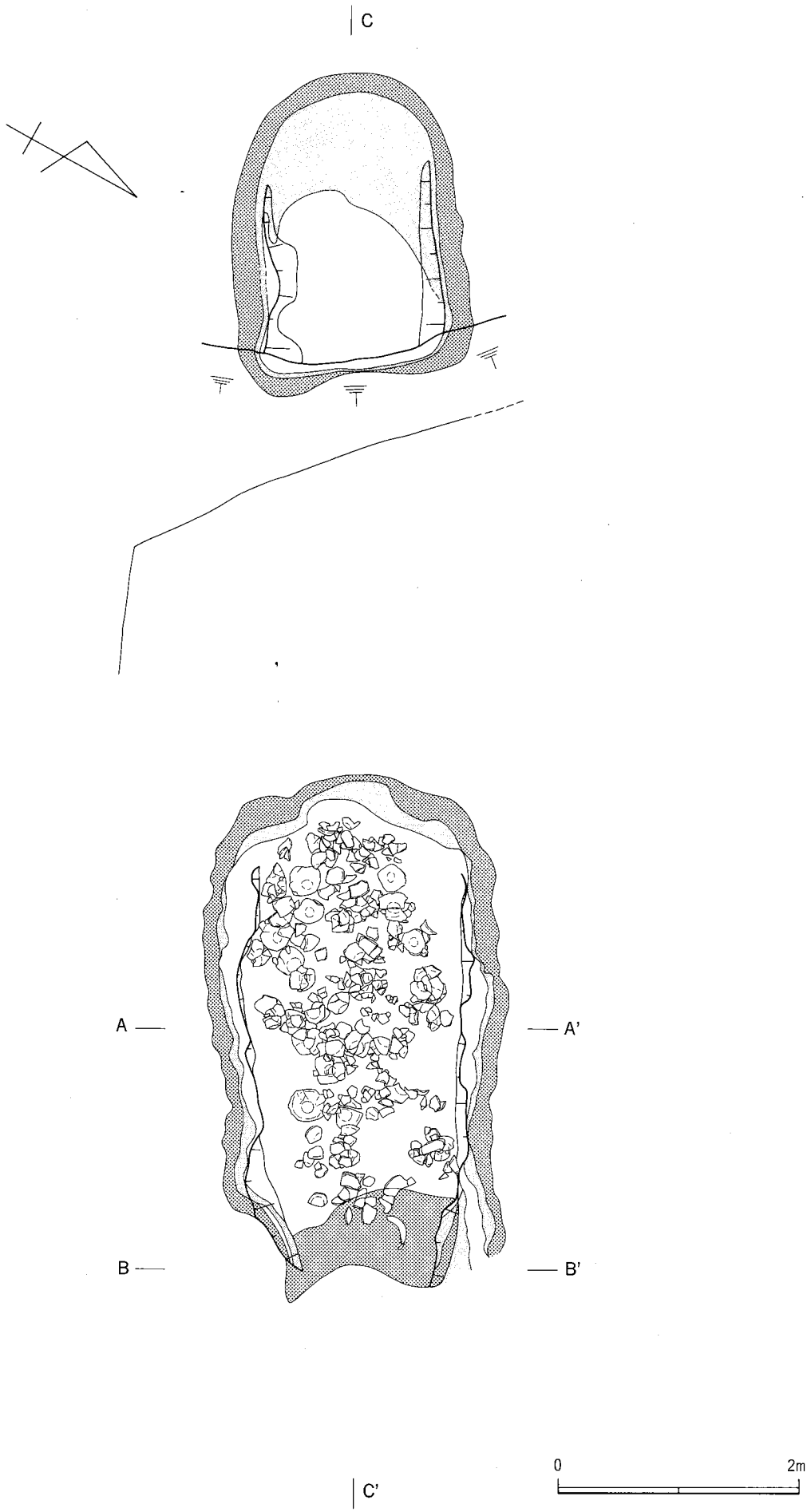


図版 6

1 号窯第 4 床面平面図

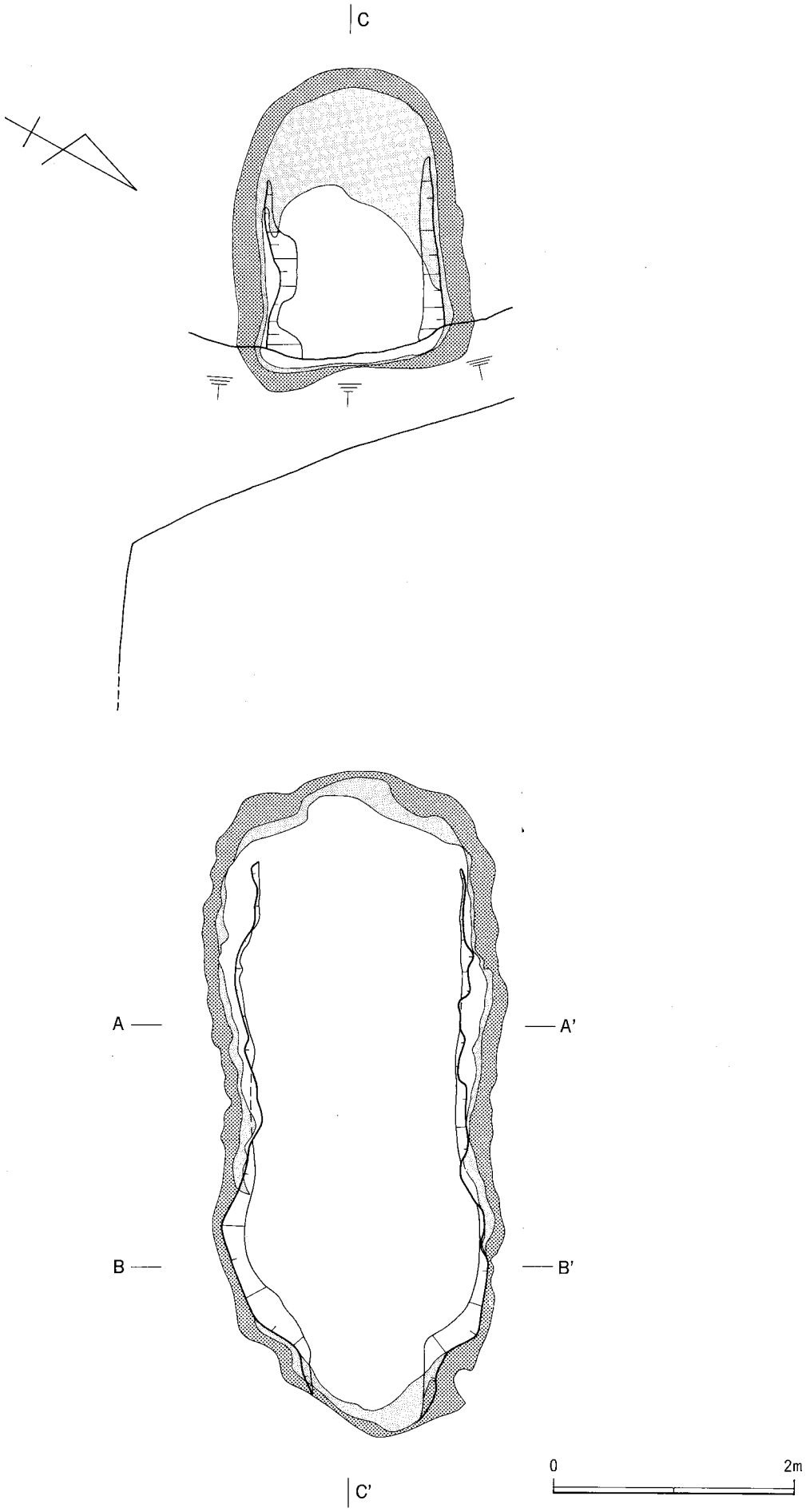


1 号窯第 2 床面遺物出土状況図



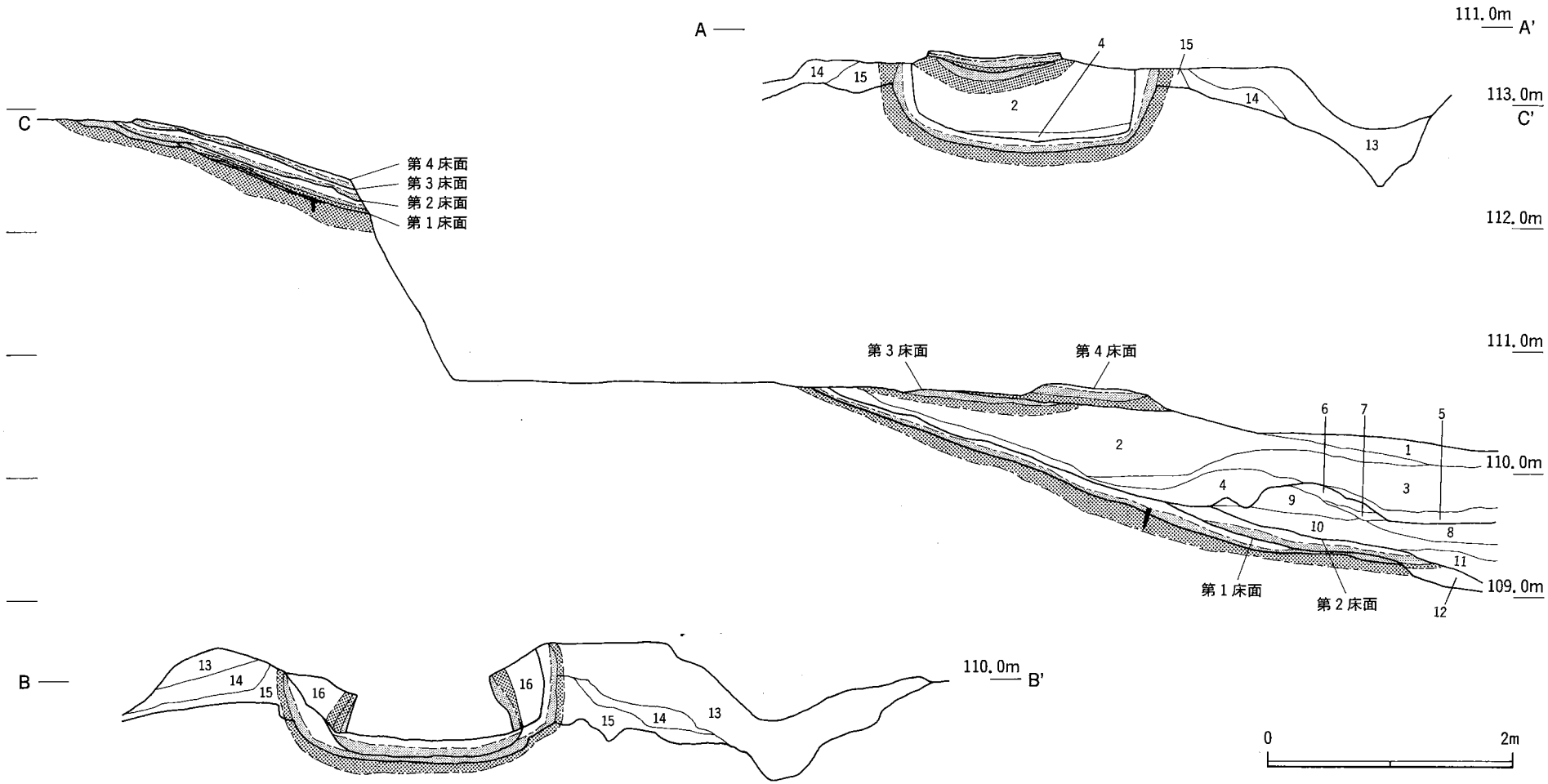
図版 8

1 号窯第 2 床面平面図



図版 9

1号窯断面図

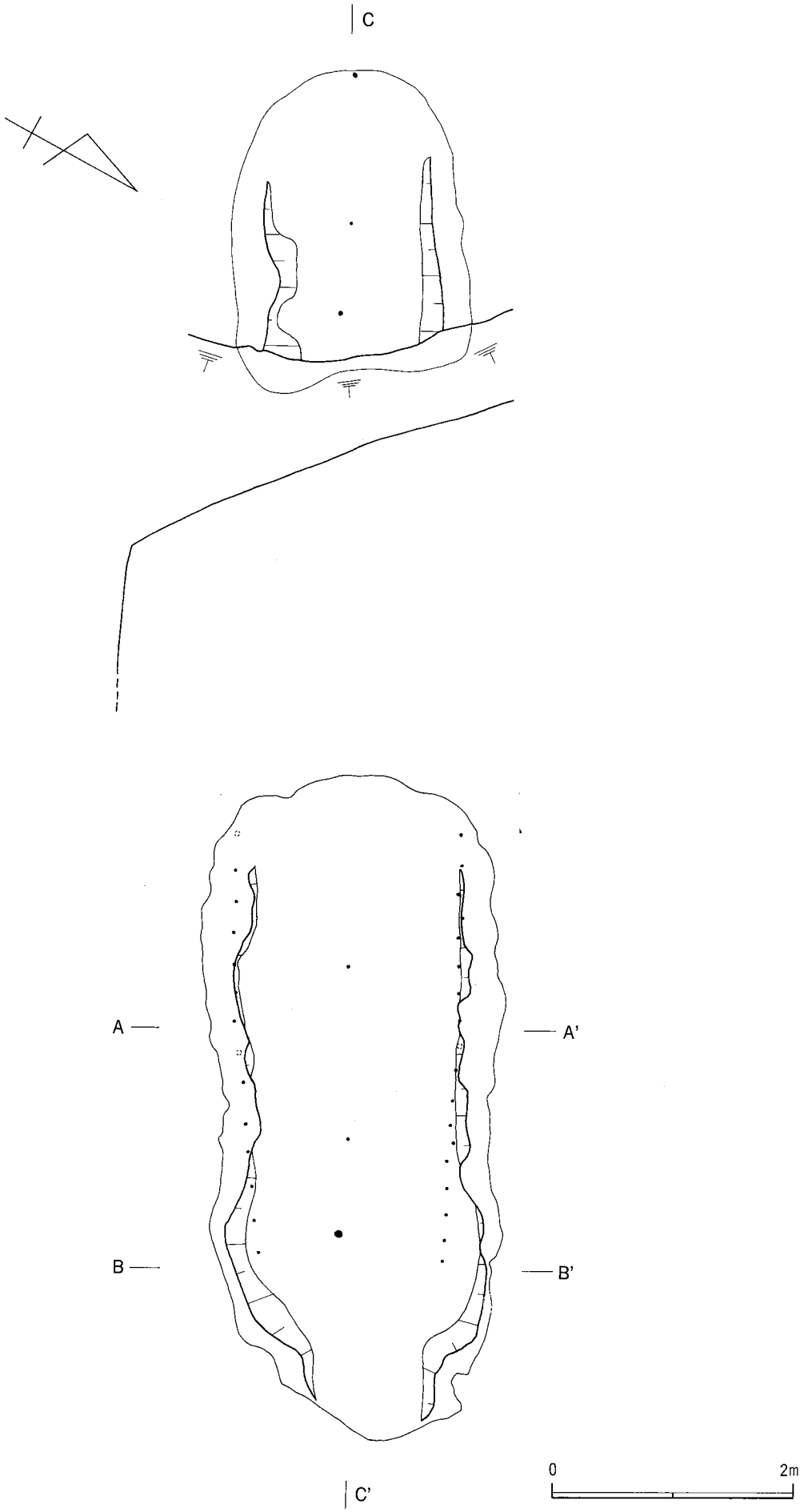


1号窯断面

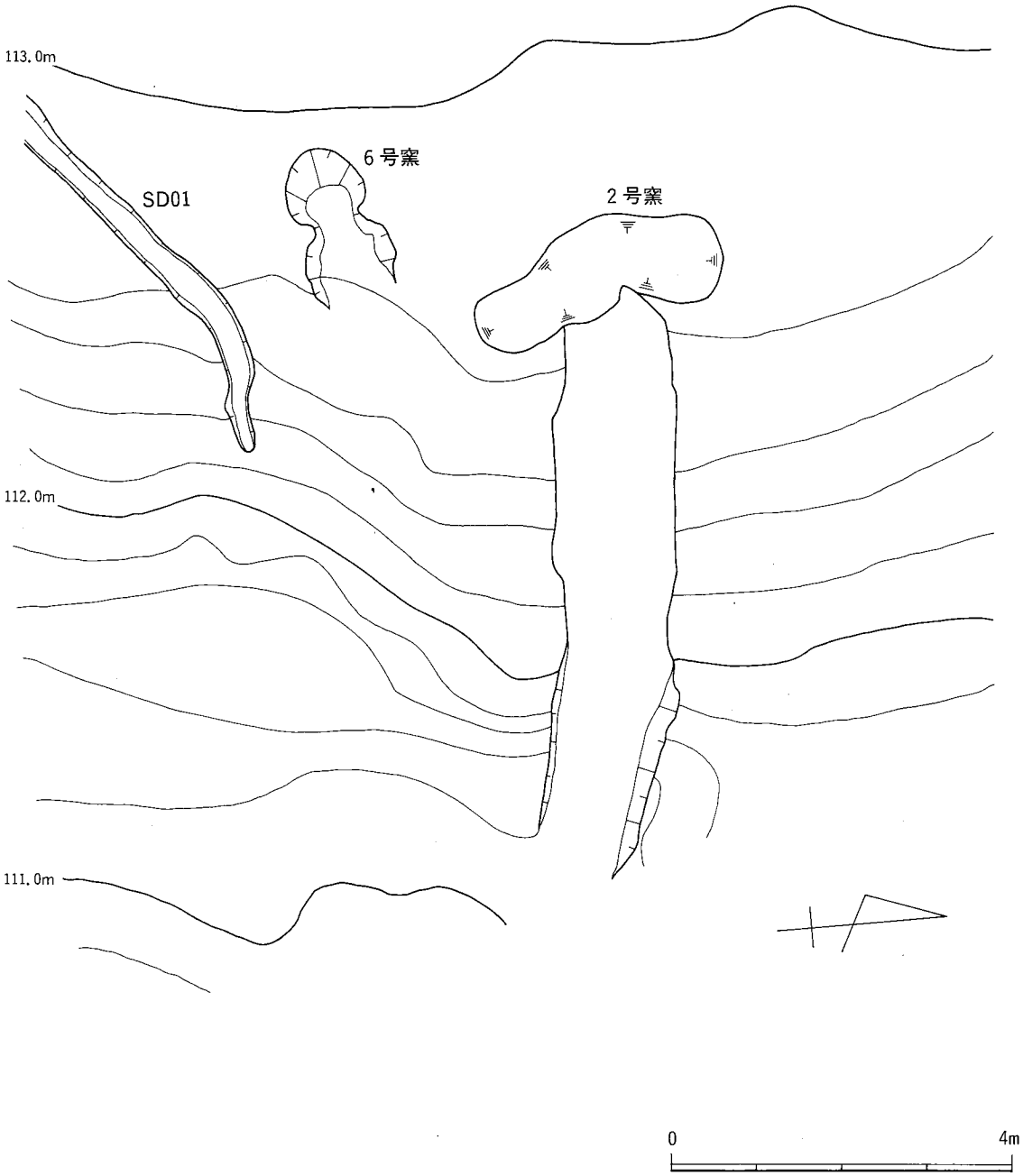
1　10YR 4／6　褐色細砂（須恵器を多く含む）
2　窯壁・焼土
3　10YR 3／3　暗褐色シルト質細砂（炭・焼土を多く含む）
4　10YR 4／6　褐色細砂（窯壁・須恵器を多く含む）
5　7.5YR 3／2　黒褐色シルト質極細砂（焼土塊・須恵器を多く含む）
6　2.5Y 7／4　浅黄色シルト質極細砂（窯体側は赤く焼ける）
7　焼土塊・須恵器
8　2.5Y 6／6　明黄褐色シルト質極細砂（焼土塊・須恵器を多く含む）
9　2.5Y 7／4　浅黄色シルト質極細砂（窯体側は赤く焼ける）
10　7.5YR 2／1　黒色シルト質極細砂（焼土・黄色土・炭を多く含む。部分的にラミナ状の堆積）
11　焼土・黄色土・炭のラミナ状堆積
12　7.5YR 4／4　褐色極細砂（焼土塊を多く含む）
13　2.5Y 7／6　明黄褐色シルト質極細砂（焼土・須恵器を多く含む）
14　砂礫
15　2.5Y 7／6　明黄褐色シルト質極細砂（小礫を含む）
16　2.5Y 7／6　明黄褐色シルト質極細砂

図版10

1号窯杭跡位置図

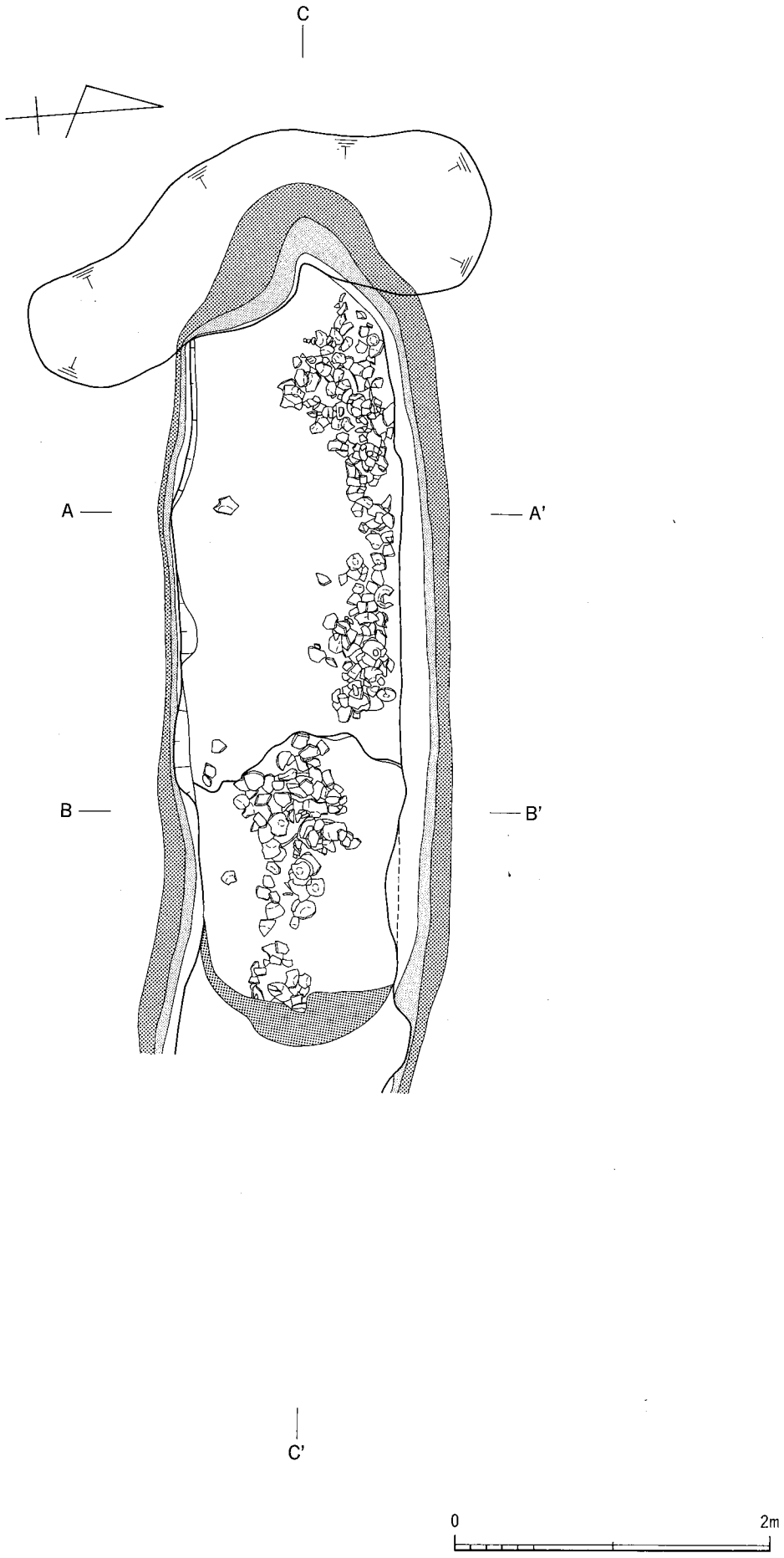


2・6号窯地形測量図

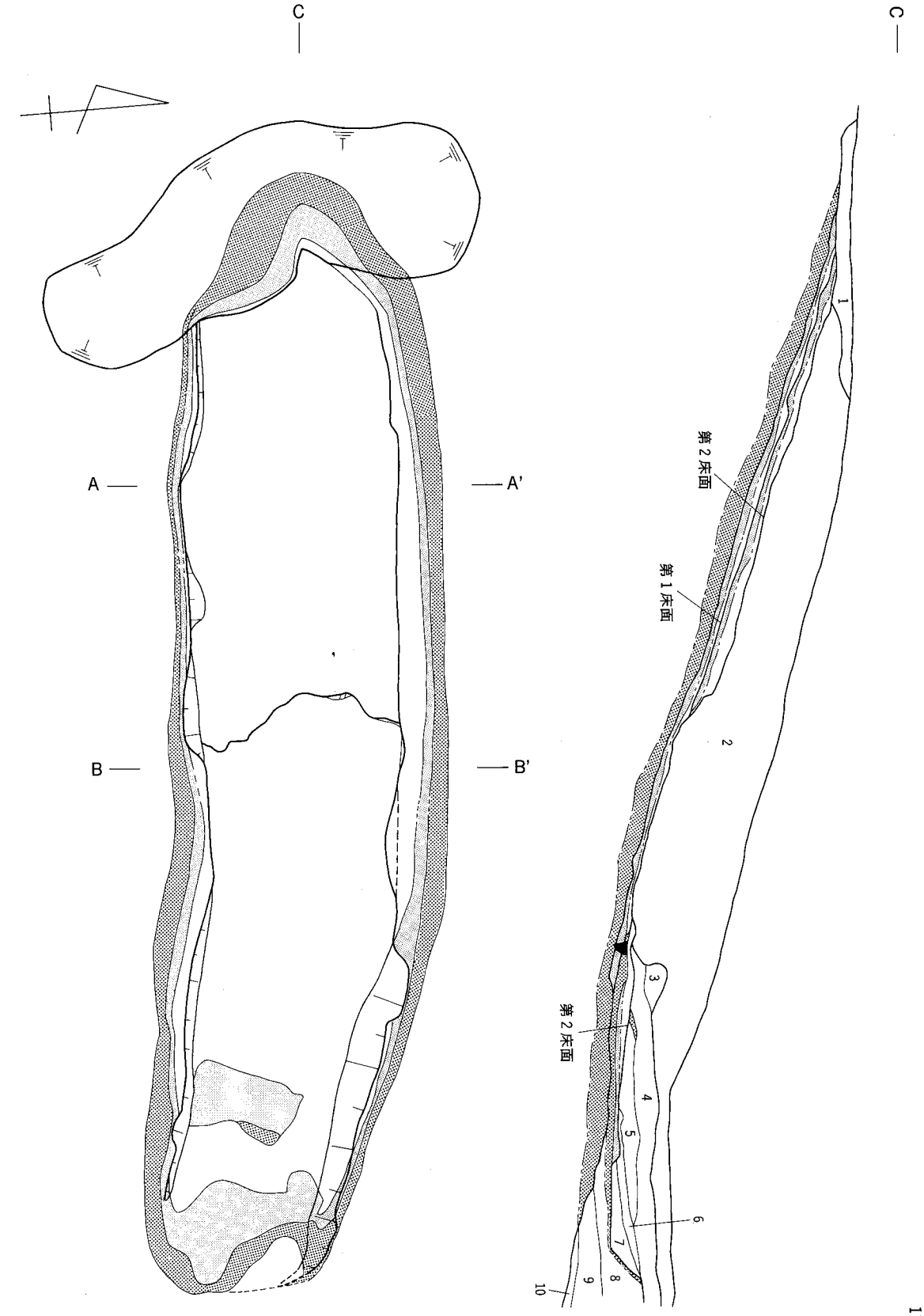


図版12

2号窯遺物出土状況図



2号窯平面図・縦断面図

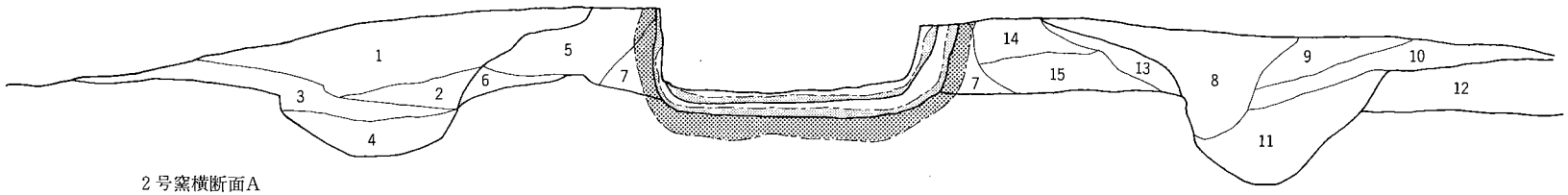


1 攪乱
2 窯壁・焼土
3 焼土

4 10YR5／2 灰黄褐色シルト質極細砂（炭・焼土・須恵器を多く含む）
5 2.5Y6／4 にぶい黄色シルト質極細砂（窯壁・炭・焼土・須恵器を多く含む）
6 10YR5／4 にぶい黄褐色シルト質極細砂
7 2.5Y6／4 にぶい黄色シルト質極細砂
8 10YR4／4 褐色極細砂
9 10YR5／3 にぶい黄褐色シルト質極細砂（須恵器を多く含む）
10 炭

0 2m

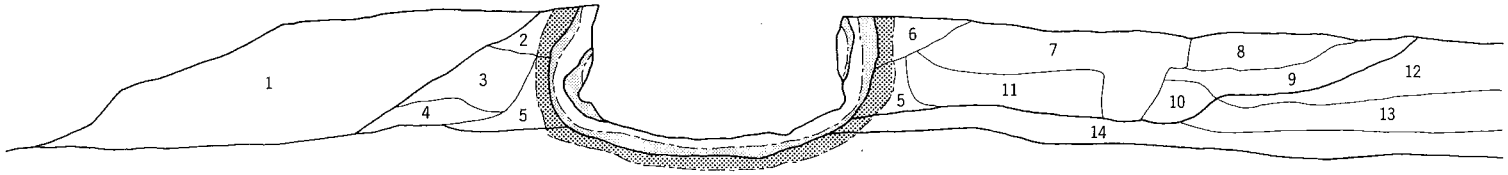
A ——　　113.0m A'



2号窯横断面A

1　10YR 5／4　にぶい黄褐色シルト質細砂（須恵器・焼土・小礫を多く含む）
2　5 YR 4／4　にぶい赤褐色シルト質細砂
3　10YR 3／3　暗褐色シルト質極細砂
4　10YR 4／4　褐色細砂（炭・焼土を多く含む）
5　10YR 5／6　黄褐色細砂
6　10YR 5／4　にぶい黄褐色細砂（炭・焼土を多く含む）
7　10YR 5／6　黄褐色シルト質極細砂
8　7.5YR 5／6　明褐色シルト質極細砂
9　10YR 4／3　にぶい黄褐色シルト質極細砂（須恵器を多く含む）
10　10YR 3／3　暗褐色シルト質極細砂（焼土を多く含む）
11　10YR 3／4　暗褐色シルト質極細砂（焼土・須恵器を多く含む）
12　10YR 3／3　暗褐色シルト質極細砂（焼土をを多く含む）
13　7.5YR 5／6　明褐色シルト質極細砂（焼土を多く含む）
14　10YR 6／6　明黄褐色細砂（小礫を多く含む）
15　10YR 4／2　灰黄褐色細砂（焼土・炭を多く含む）

B ——　　112.5m B'



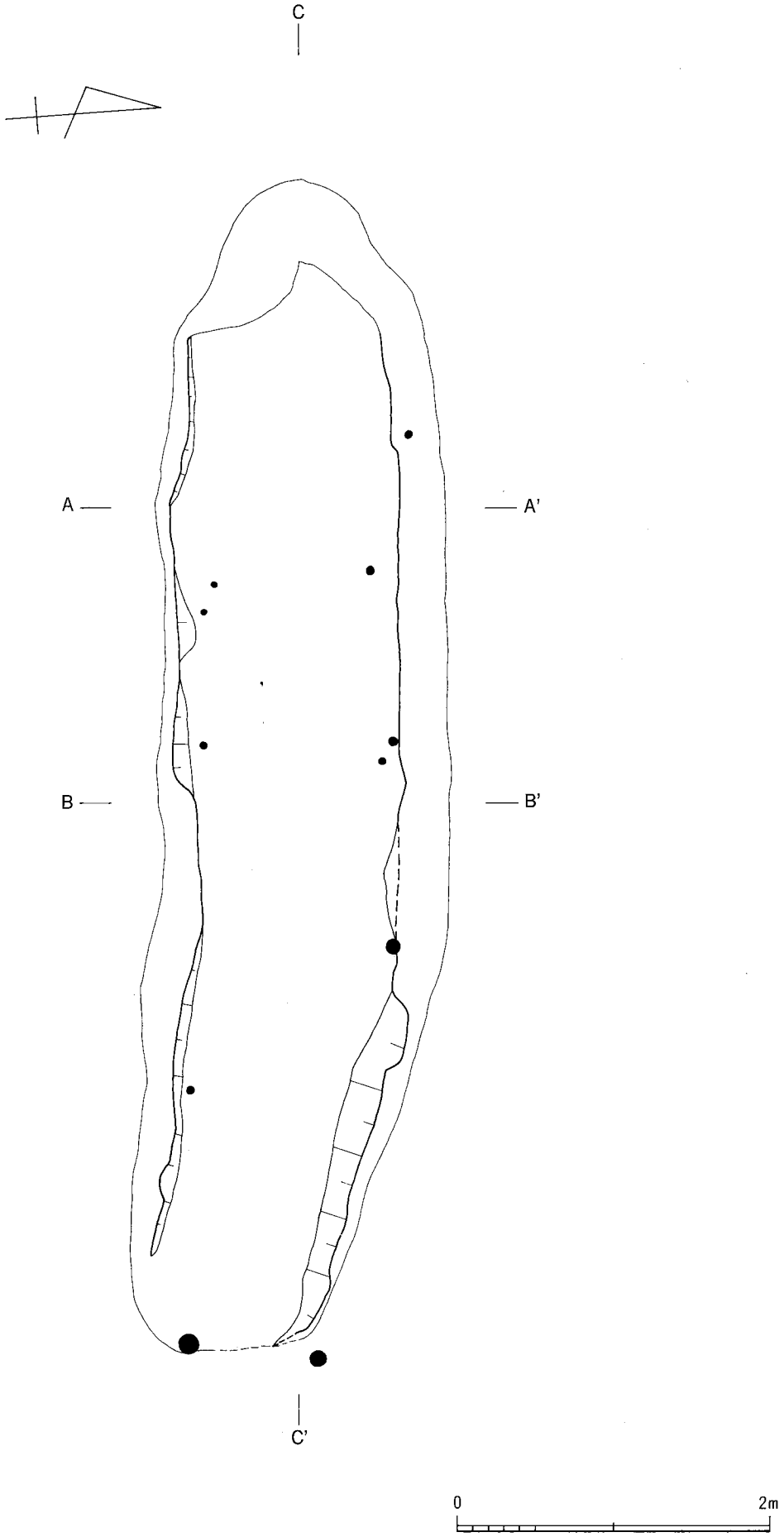
2号窯横断面B

1　10YR 5／4　にぶい黄褐色シルト質細砂（須恵器・焼土・小礫を多く含む）
2　10YR 5／8　黄褐色細砂
3　10YR 6／9　にぶい黄橙色細砂（小礫を多く含む）
4　10YR 4／4　褐色細砂（炭・焼土を多く含む）
5　10YR 5／4　にぶい黄褐色細砂
6　10YR 5／8　黄褐色細砂
7　10YR 6／6　明黄褐色細砂（小礫・須恵器を多く含む）
8　10YR 4／6　褐色細砂（炭・焼土・須恵器を多く含む）
9　10YR 4／4　褐色細砂（炭・焼土・須恵器を多く含む）
10　10YR 3／3　暗褐色シルト質極細砂（炭・焼土・須恵器を多く含む）
11　10YR 3／3　暗褐色細砂（炭・焼土・須恵器を多く含む）
12　10YR 4／2　灰黄褐色細砂（炭・焼土・須恵器をを多く含む）
13　10YR 2／1　黒色細砂（炭・焼土を多く含む）
14　10YR 3／3　暗褐色細砂（焼土・須恵器を多く含む）

0　2m

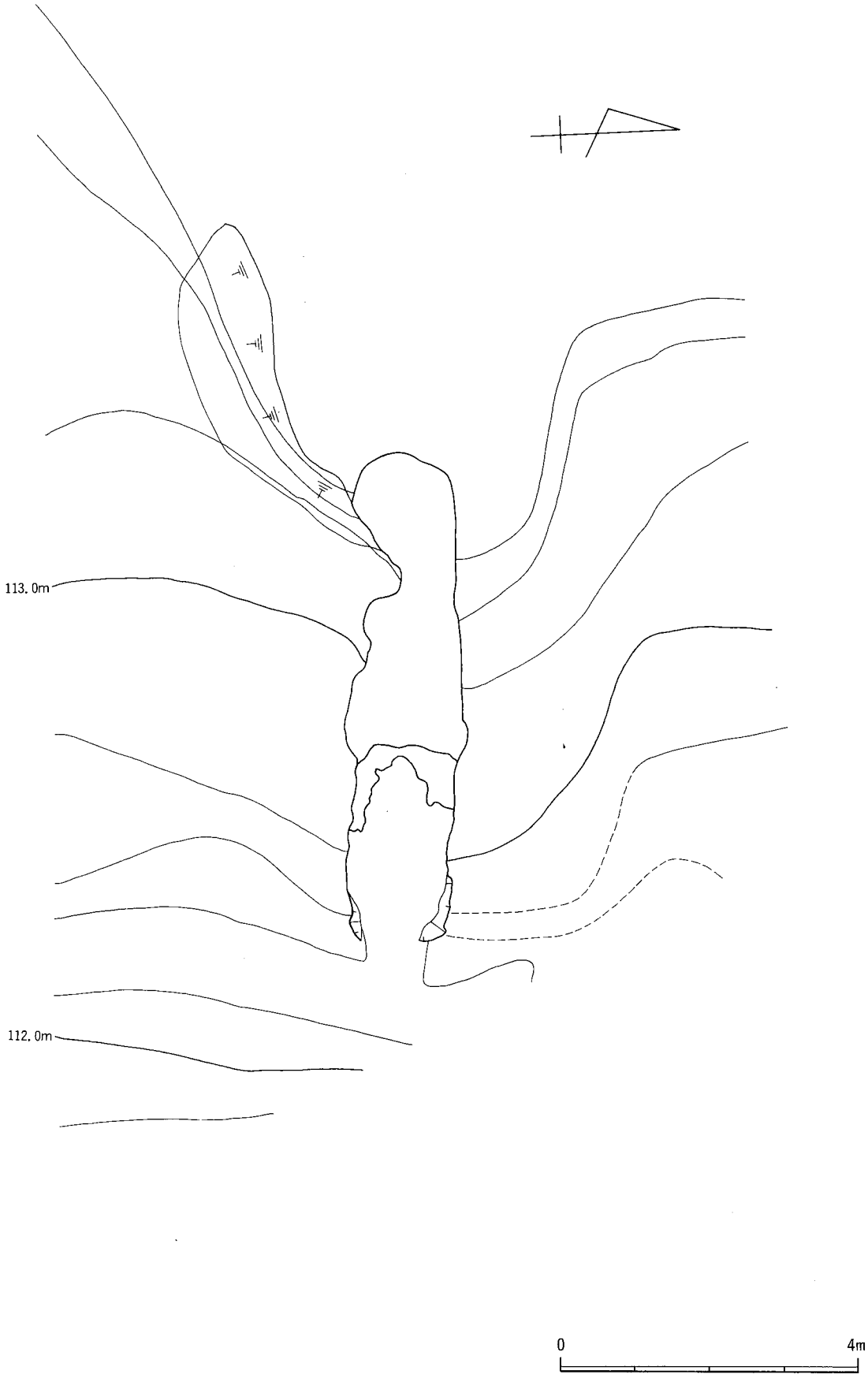
図版14
2号窯横断面図

2号窯杭跡位置図

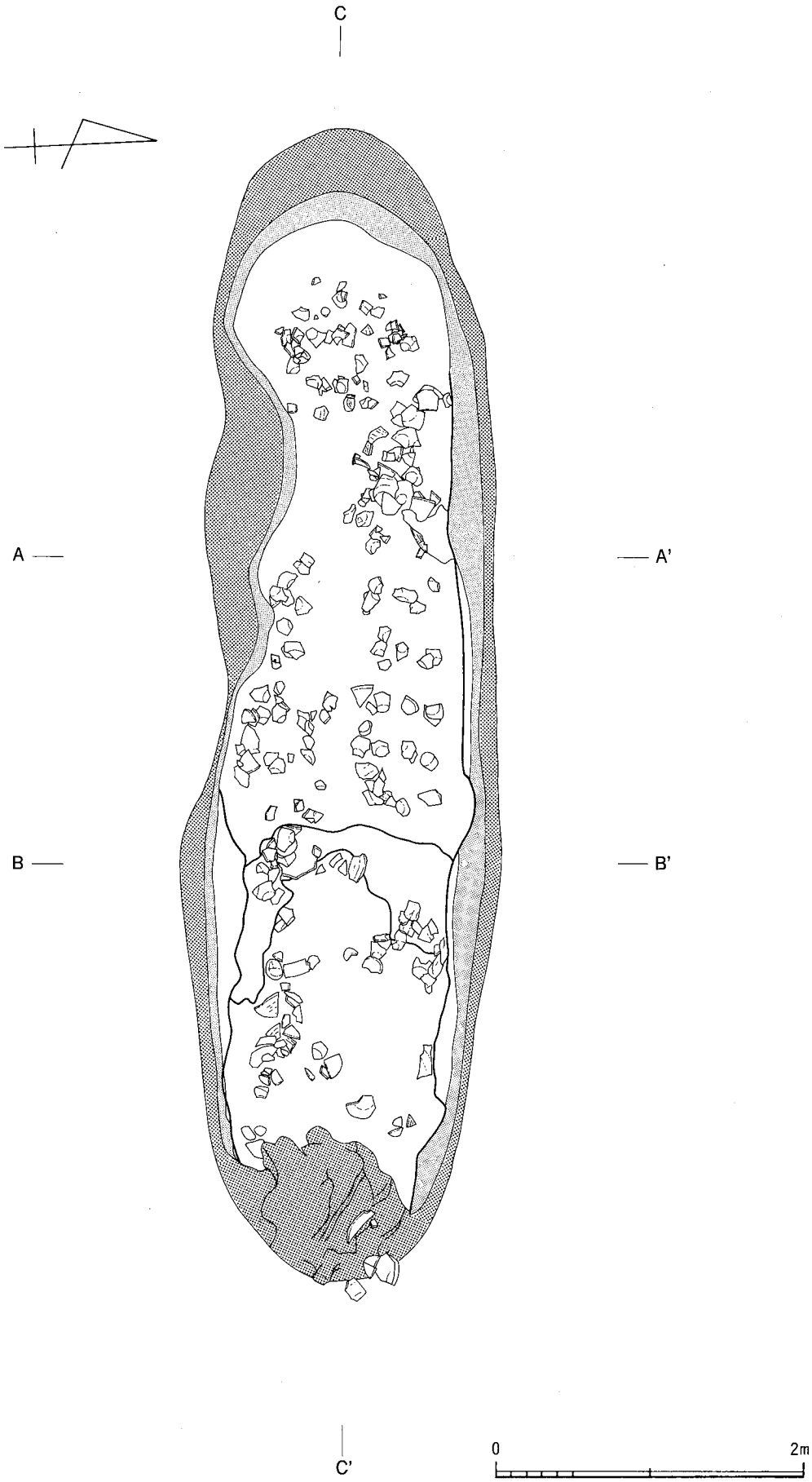


図版16

3 号窯地形測量図

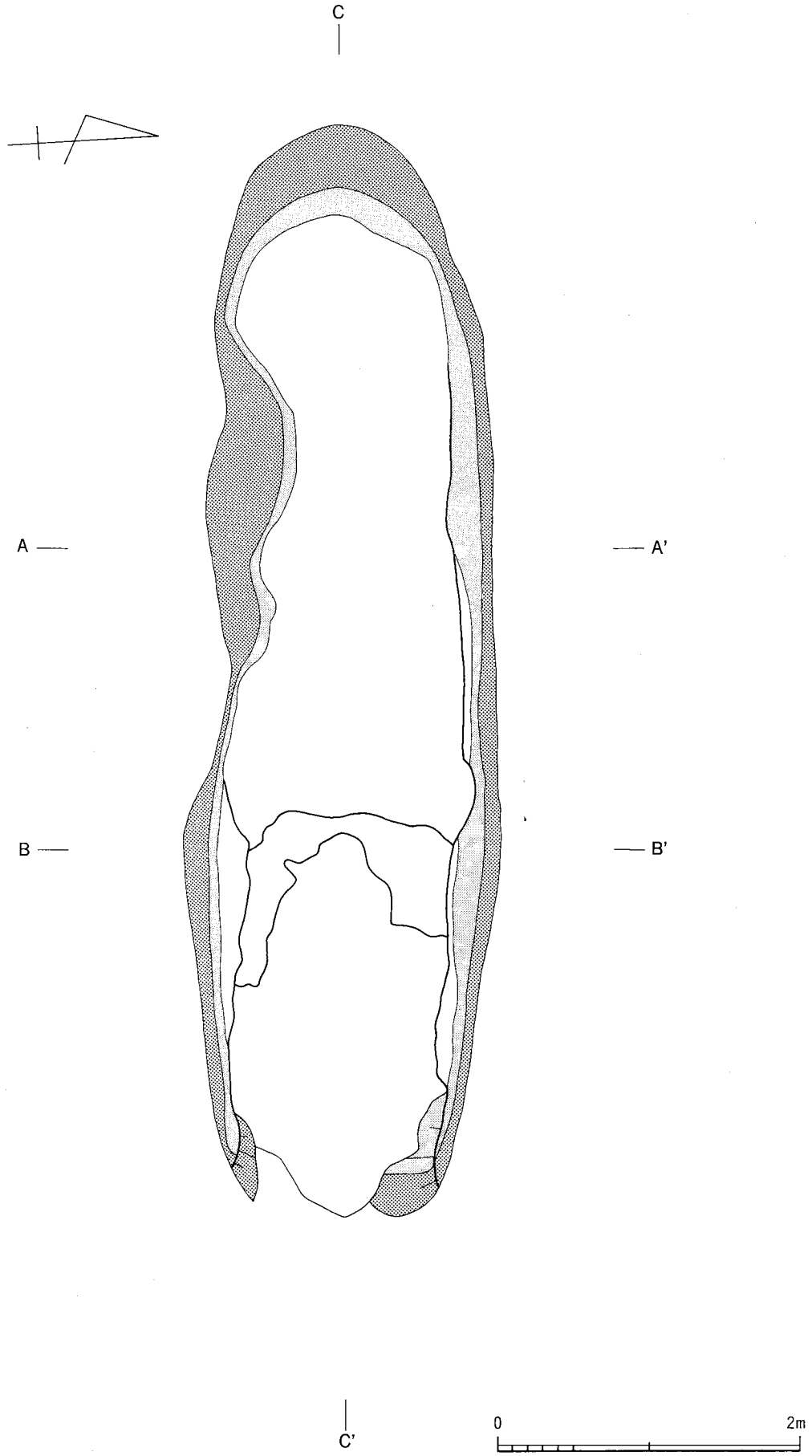


3 号窯遺物出土状況図



図版18

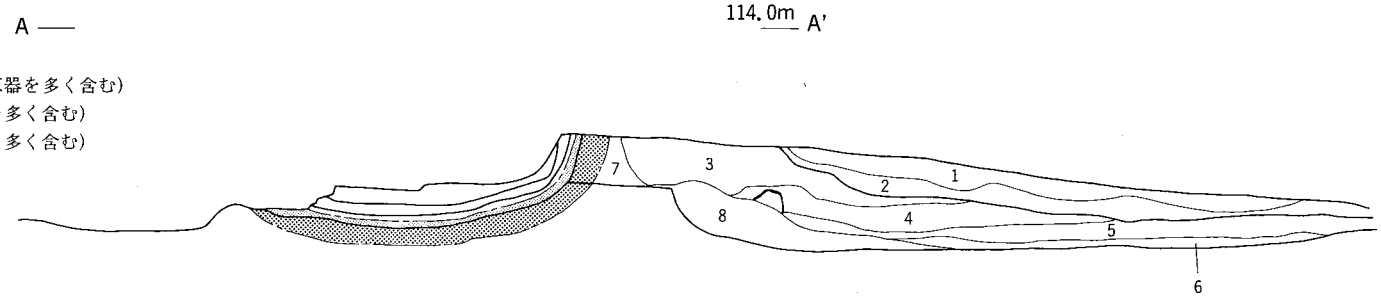
3 号窯平面図

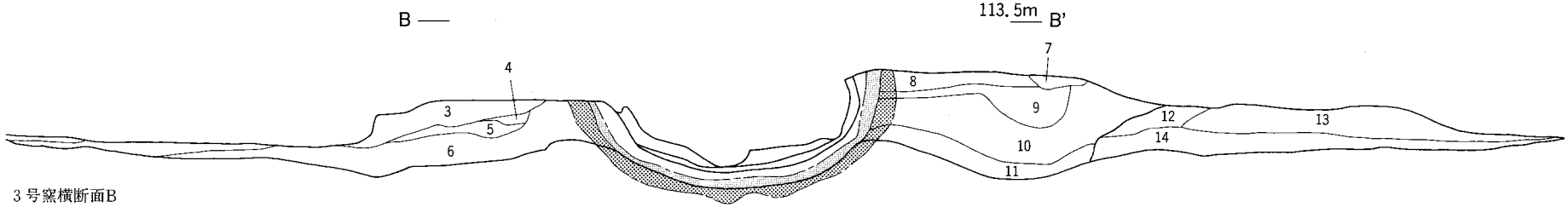


図版19
3号窯断面図

3号窯横断面A

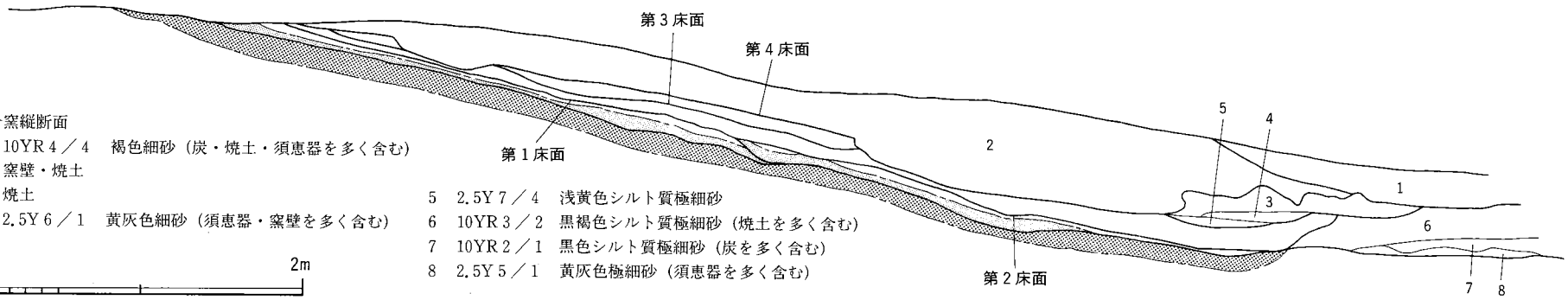
1　10YR 5／4　にぶい黄褐色細砂
2　10YR 4／2　灰黄褐色細砂（炭・焼土・須恵器を多く含む）
3　10YR 4／4　褐色細砂（炭・焼土・須恵器を多く含む）
4　10YR 4／6　褐色細砂（炭・焼土・須恵器を多く含む）
5　10YR 5／4　にぶい黄褐色細砂
6　10YR 6／6　明黄褐色シルト質極細砂
7　10YR 6／6　明黄褐色シルト質極細砂
8　10YR 5／4　にぶい黄褐色シルト質細砂





3号窯横断面B

1　10YR 6／3　にぶい黄橙色細砂
2　10YR 6／4　にぶい黄橙色細砂
3　10YR 6／6　明黄褐色細砂（小礫を多く含む）
4　10YR 5／4　にぶい黄褐色細砂
5　10YR 4／3　にぶい黄褐色細砂（小礫・炭・焼土・須恵器を多く含む）
6　10YR 3／2　黒褐色細砂（炭・焼土・須恵器を多く含む）
7　10YR 7／4　にぶい黄橙色細砂
8　10YR 6／4　にぶい黄橙色細砂（炭・焼土・須恵器を多く含む）
9　10YR 5／6　黄褐色シルト質極細砂（炭・焼土を多く含む）
10　10YR 3／3　暗褐色細砂（炭・焼土を多く含む）
11　10YR 3／4　暗褐色細砂（炭・焼土を多く含む）
12　7.5YR 5／4　にぶい褐色細砂
13　10YR 6／2　灰黄褐色細砂（須恵器土を多く含む）
14　10YR 4／6　褐色シルト質細砂（焼土・須恵器を多く含む）



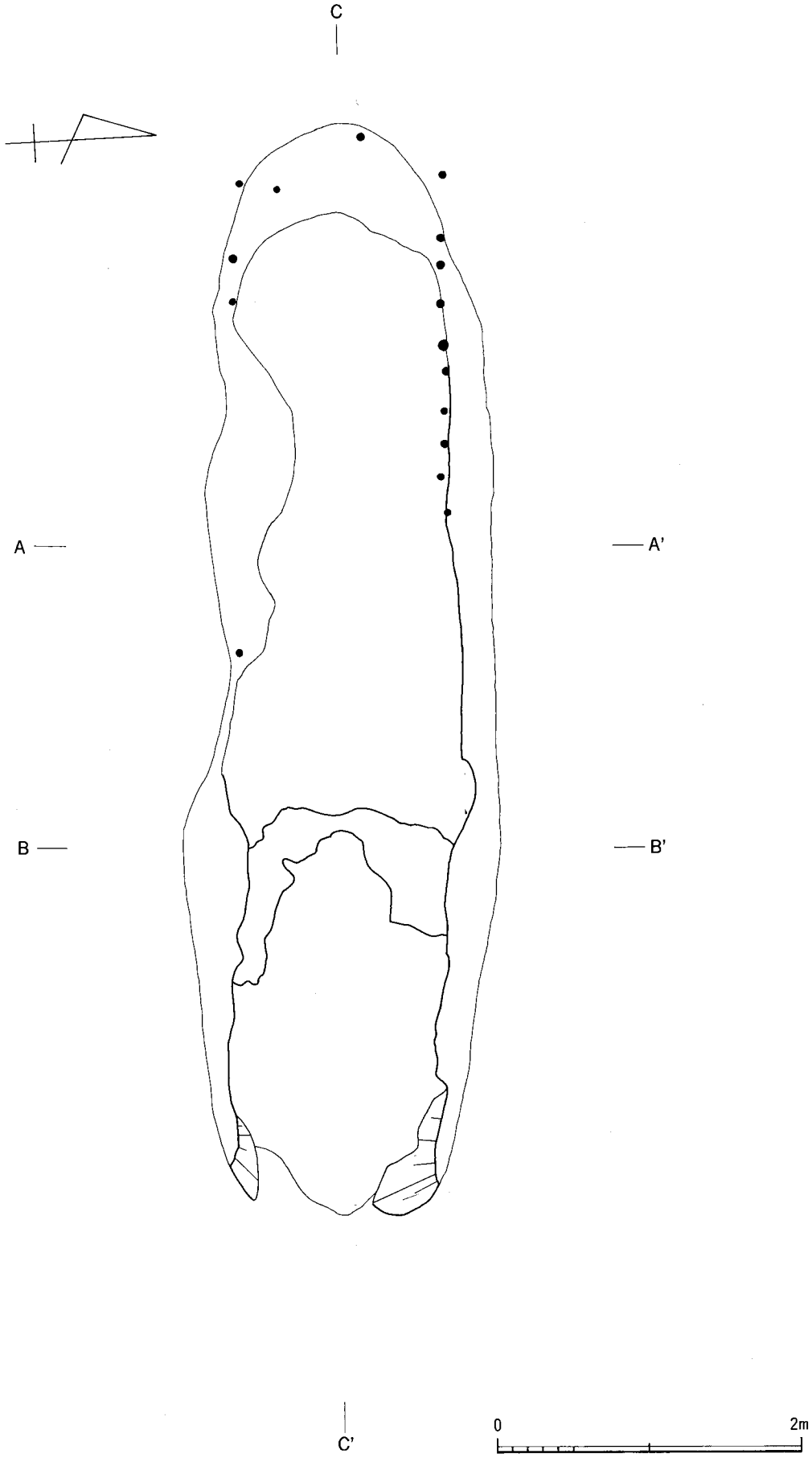
3号窯縦断面

1　10YR 4／4　褐色細砂（炭・焼土・須恵器を多く含む）
2　窯壁・焼土
3　焼土
4　2.5Y 6／1　黄灰色細砂（須恵器・窯壁を多く含む）
5　2.5Y 7／4　浅黄色シルト質極細砂
6　10YR 3／2　黒褐色シルト質極細砂（焼土を多く含む）
7　10YR 2／1　黒色シルト質極細砂（炭を多く含む）
8　2.5Y 5／1　黄灰色極細砂（須恵器を多く含む）

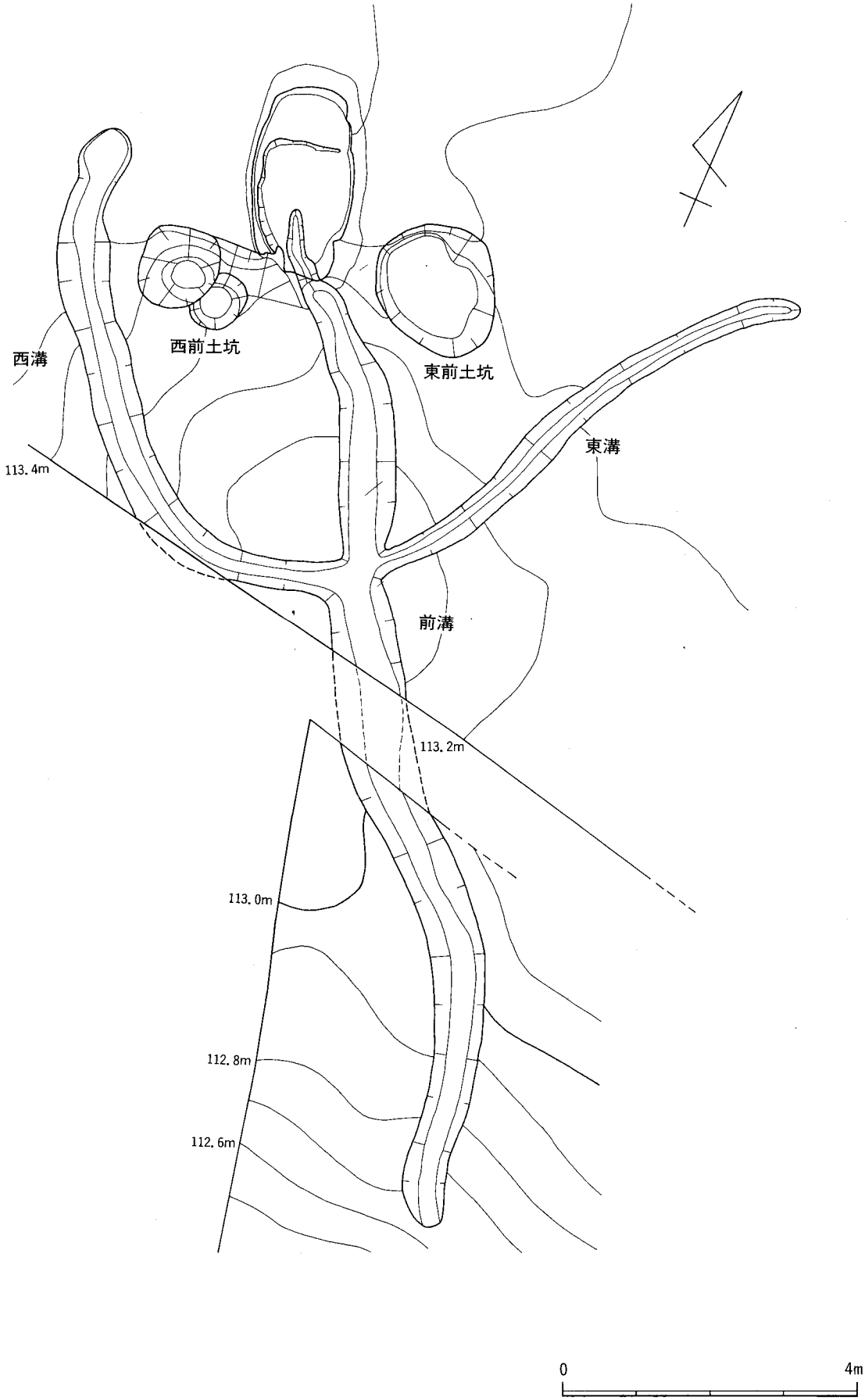
0　2m

図版20

3 号窯杭跡位置図

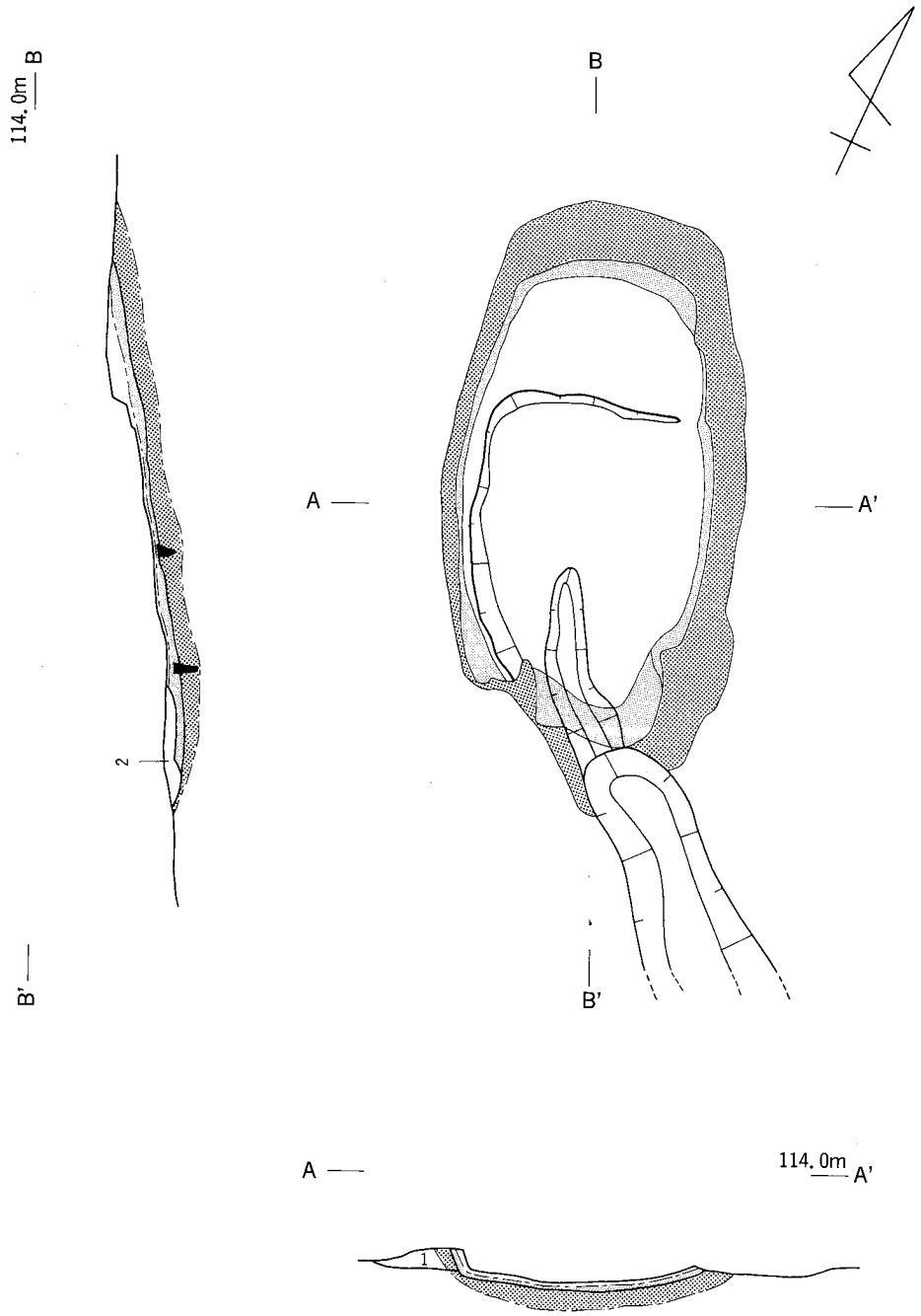


4号窯地形測量図



図版22

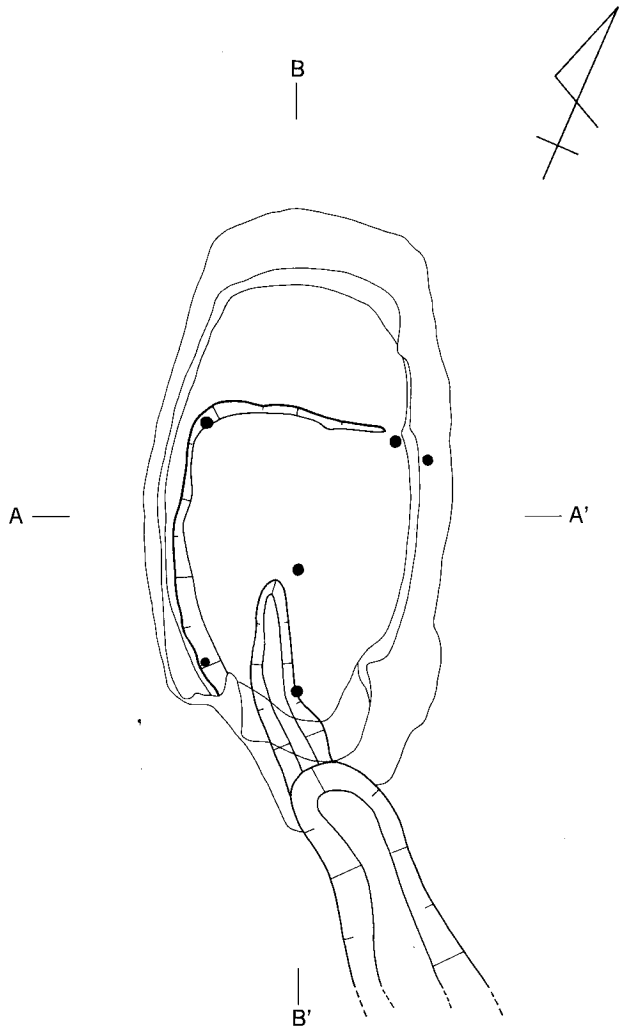
4号窯平面図、断面図



4号窯断面
1　10YR 5／4　にぶい黄褐色極細砂
2　2.5Y 3／1　黒褐色シルト質極細砂（炭・須恵器を多く含む）

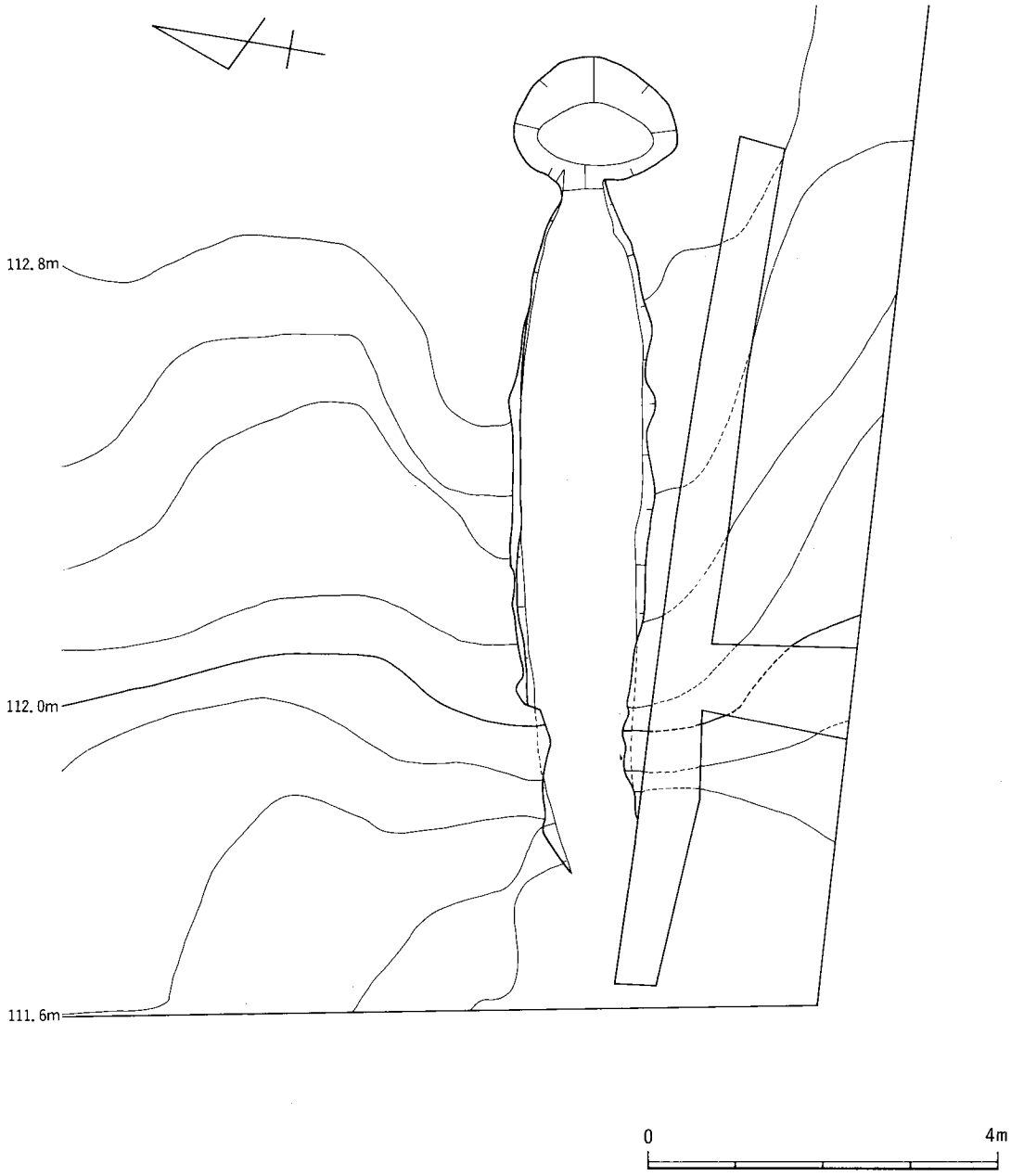
0　2m

4 号窯杭跡位置図

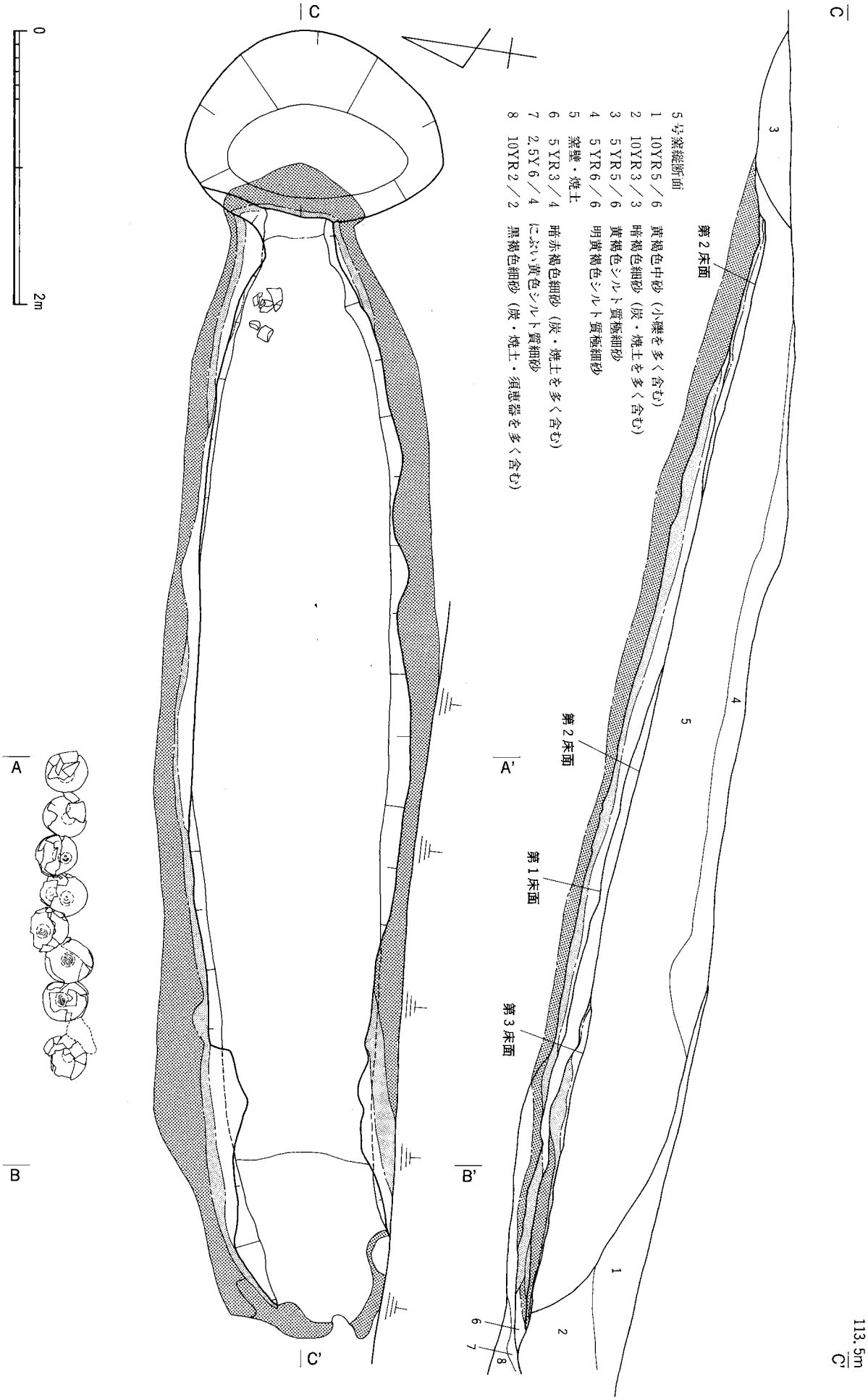


図版24

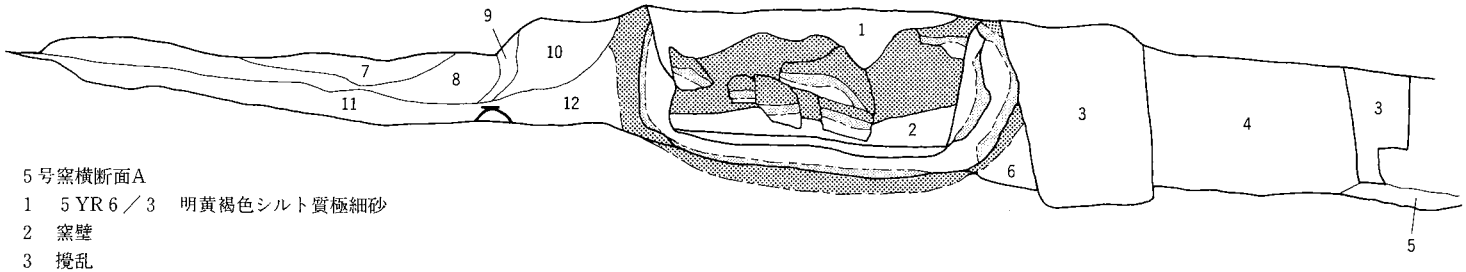
5 号窯地形測量図



5号窯平面図・縦断面図


5号窯縦断面
1 10YR5／6 黄褐色中砂（小礫を多く含む）
2 10YR3／3 暗褐色細砂（炭・焼土を多く含む）
3 5YR5／6 黄褐色シルト質極細砂
4 5YR6／6 明黄褐色シルト質極細砂
5 窯壁・焼土
6 5YR3／4 暗赤褐色細砂（炭・焼土を多く含む）
7 2.5Y6／4 にぶい黄色シルト質細砂
8 10YR2／2 黒褐色細砂（炭・焼土・須恵器を多く含む）
第2床面
第2床面
第1床面
第3床面
113.5m
C
C'
A
A'
B
B'
0
2m

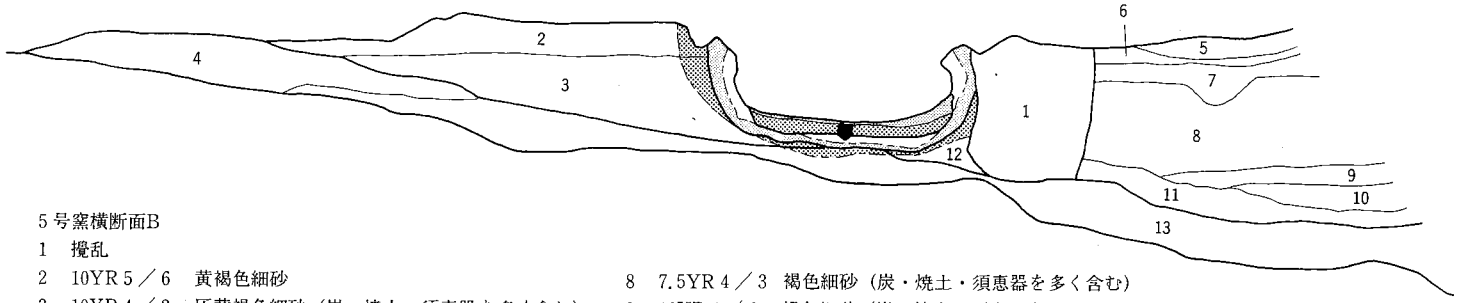
A —— 113.0m A'



5号窯横断面A

1　5YR6／3　明黄褐色シルト質極細砂
2　窯壁
3　攪乱
4　10YR5／6　黄褐色細砂（小礫・焼土・須恵器を多く含む）
5　10YR5／4　にぶい黄褐色細砂（小礫を多く含む）
6　10YR4／6　褐色シルト質細砂
7　5YR6／6　明黄褐色細砂（小礫を多く含む）
8　10YR5／8　黄褐色細砂（小礫を多く含む）
9　10YR4／6　褐色細砂
10　10YR5／6　黄褐色細砂
11　10YR5／3　にぶい黄褐色中砂
12　10YR4／6　褐色シルト質細砂

B —— 112.5m B'



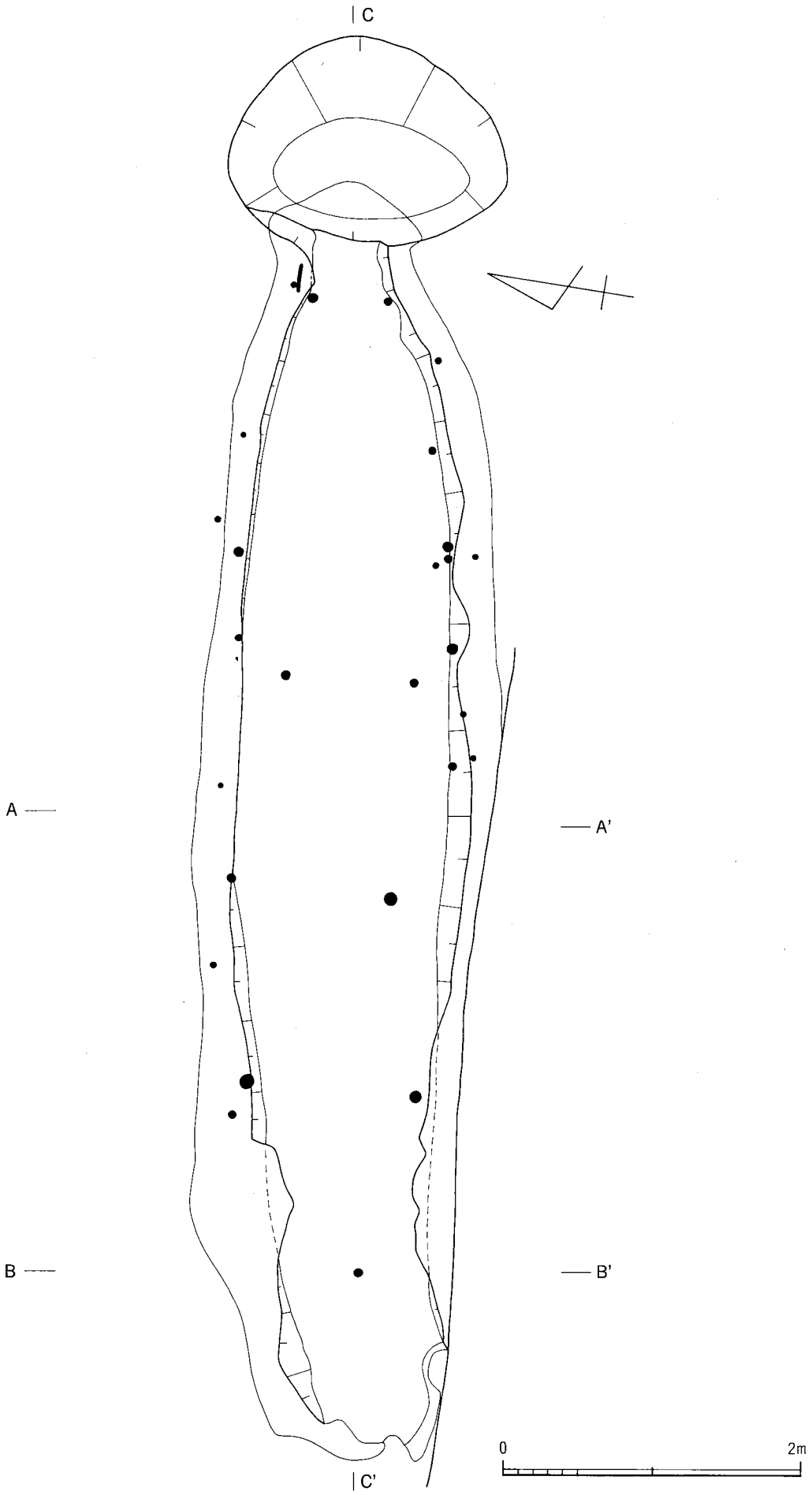
5号窯横断面B

1　攪乱
2　10YR5／6　黄褐色細砂
3　10YR4／2　灰黄褐色細砂（炭・焼土・須恵器を多く含む）
4　10YR5／4　にぶい黄褐色細砂（須恵器を多く含む）
5　10YR6／6　明黄褐色極細砂
6　10YR5／4　にぶい黄褐色細砂
7　7.5YR3／3　暗褐色細砂（炭・焼土・須恵器を多く含む）
8　7.5YR4／3　褐色細砂（炭・焼土・須恵器を多く含む）
9　10YR4／6　褐色細砂（炭・焼土・須恵器を多く含む）
10　10YR5／6　黄褐色細砂（炭・焼土・須恵器を多く含む）
11　10YR4／3　にぶい黄褐色細砂
12　10YR4／4　褐色細砂（須恵器を多く含む）
13　2.5Y6／4　にぶい黄色シルト質細砂

0　2m

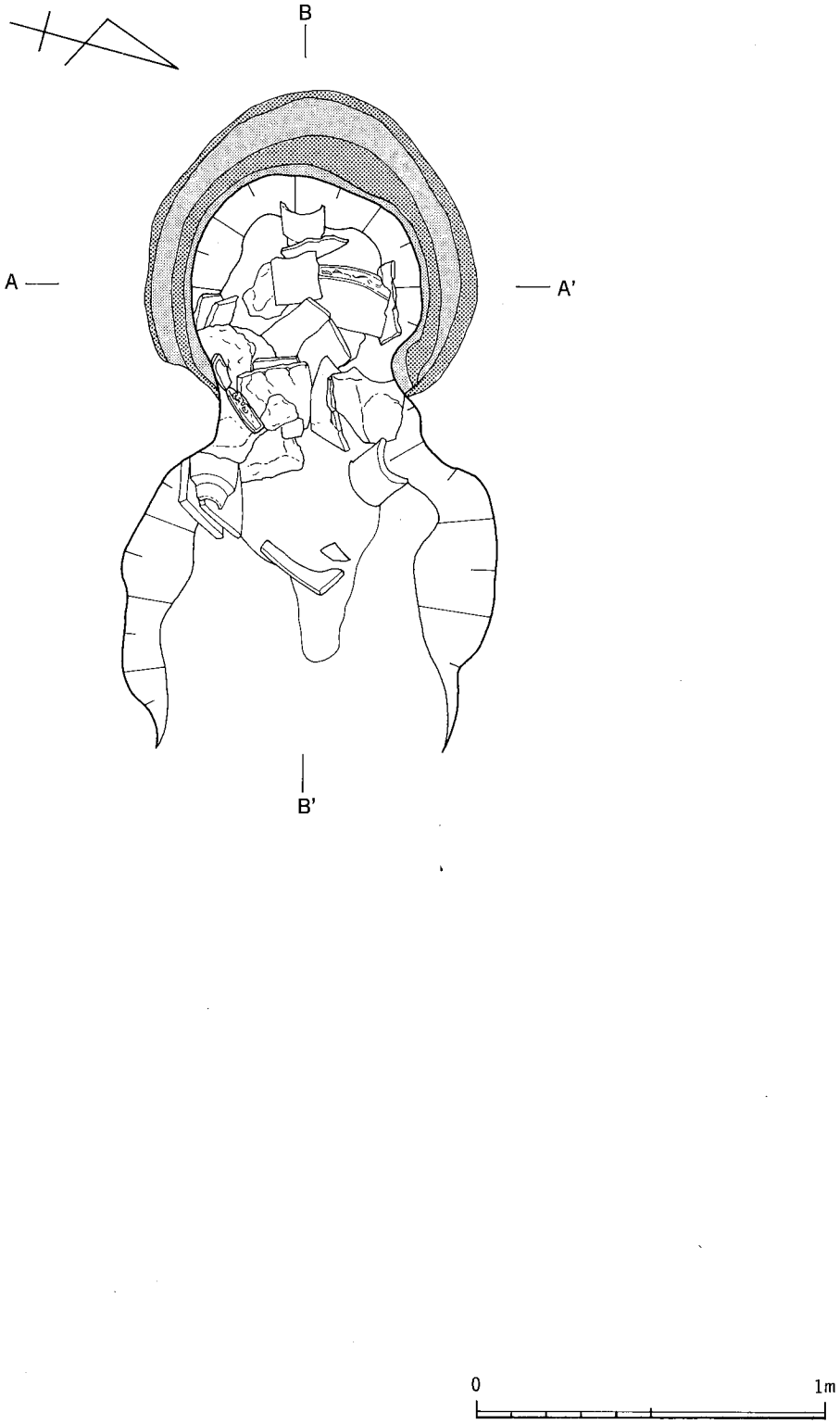
図版26
5号窯横断面図

5 号窯杭跡位置図

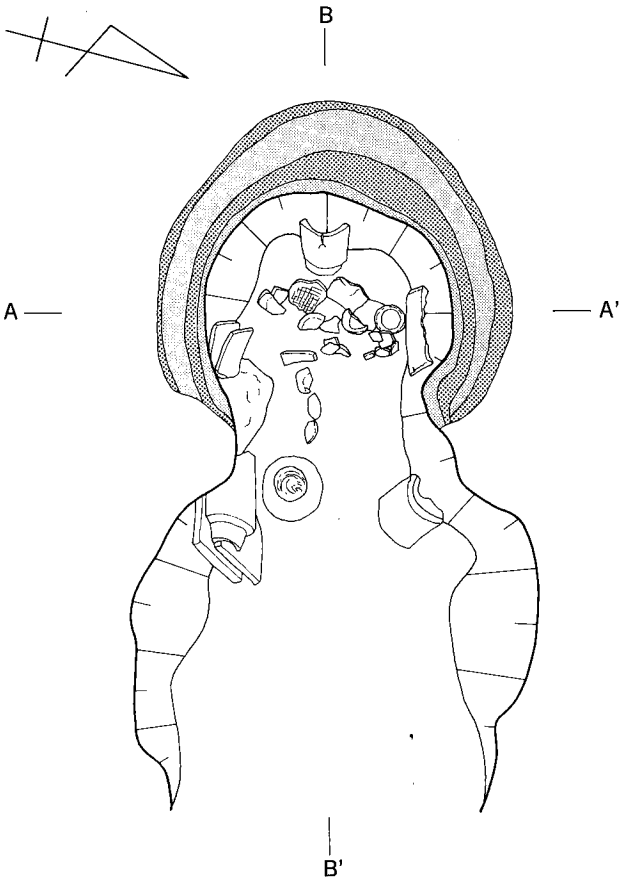


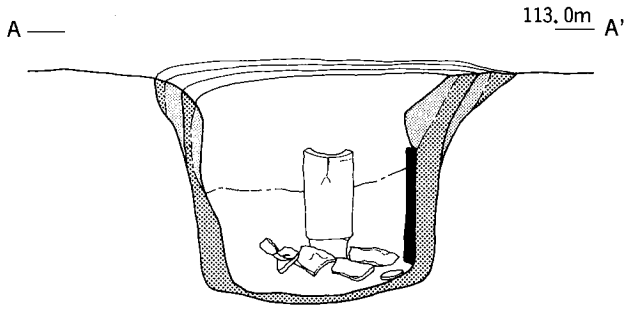
図版28

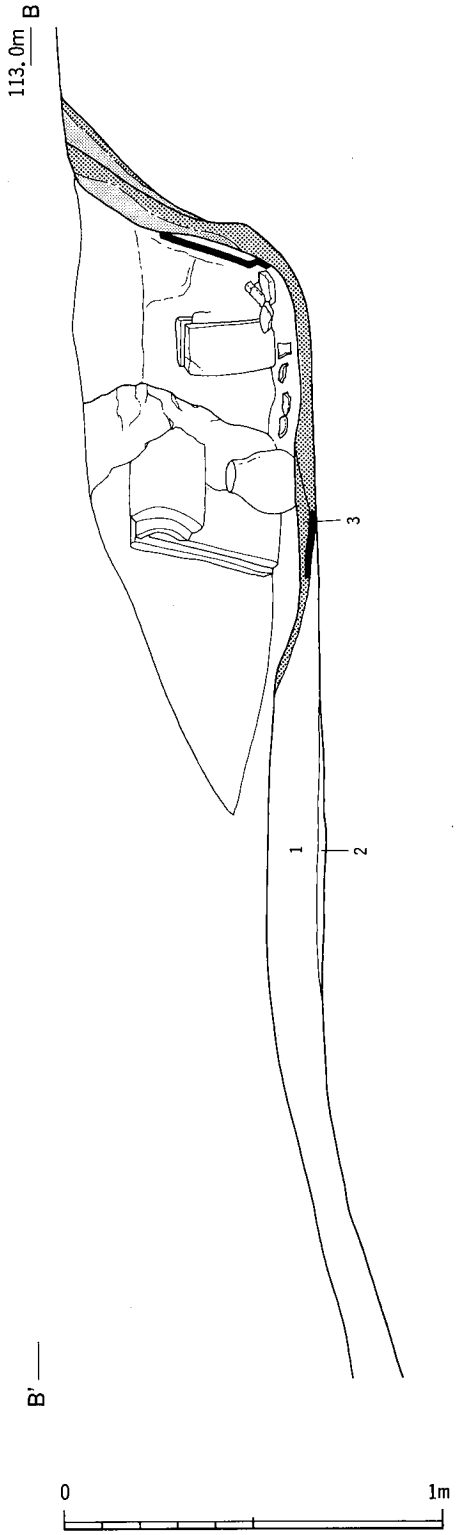
6号窯構築材出土状況図



6号窯床面遺物出土状況図・断面図







6号窯断面

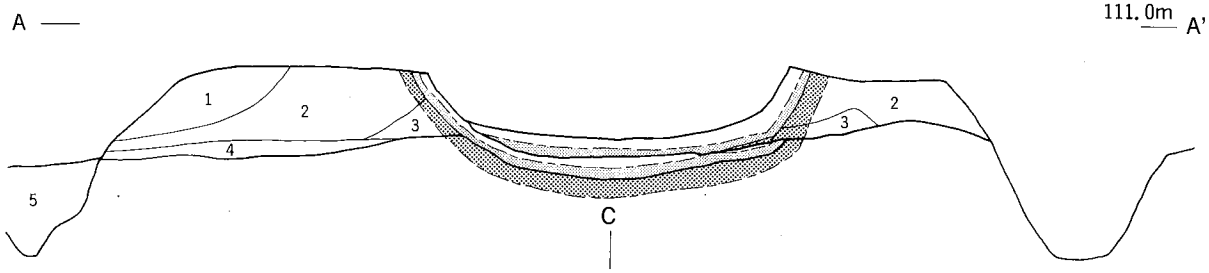
1　10YR 4／4　褐色細砂（焼土・炭を多く含む）

2　炭

3　5 YR 6／6　橙色細砂（焼土）

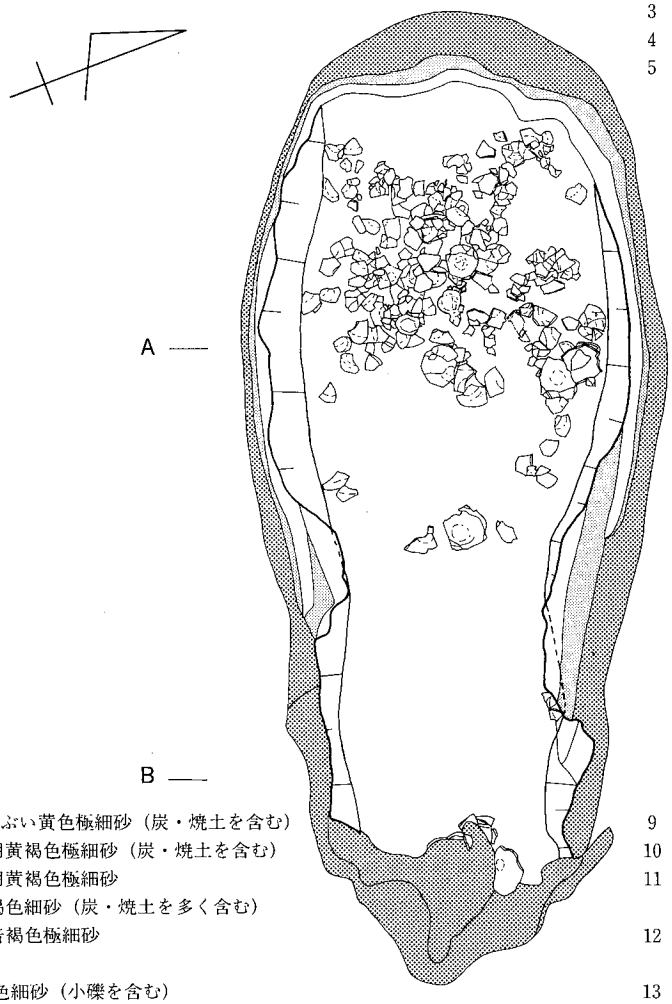
図版30

7号窯遺物出土状況図・横断面図



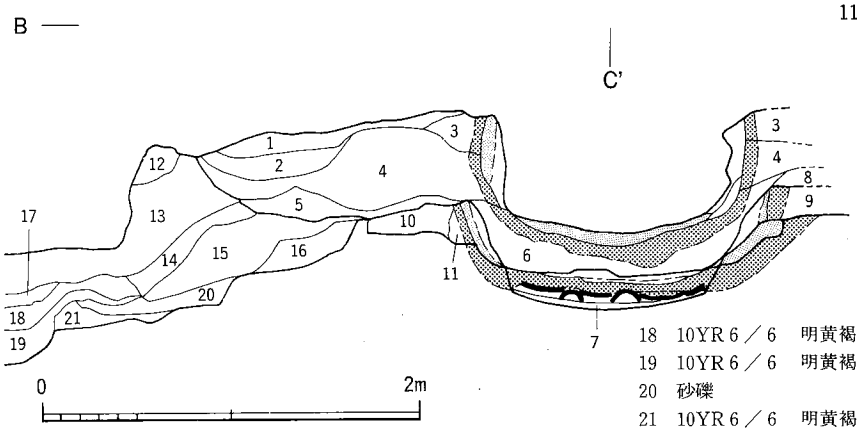
7号窯横断面A

1　2.5Y 6／6　明黄褐色シルト質極細砂
2　砂礫
3　10YR 6／6　明黄褐色極細砂
4　2.5Y 7／4　浅黄色極細砂（小礫を含む）
5　2.5Y 7／6　明黄褐色シルト質極細砂（須恵器を多く含む）



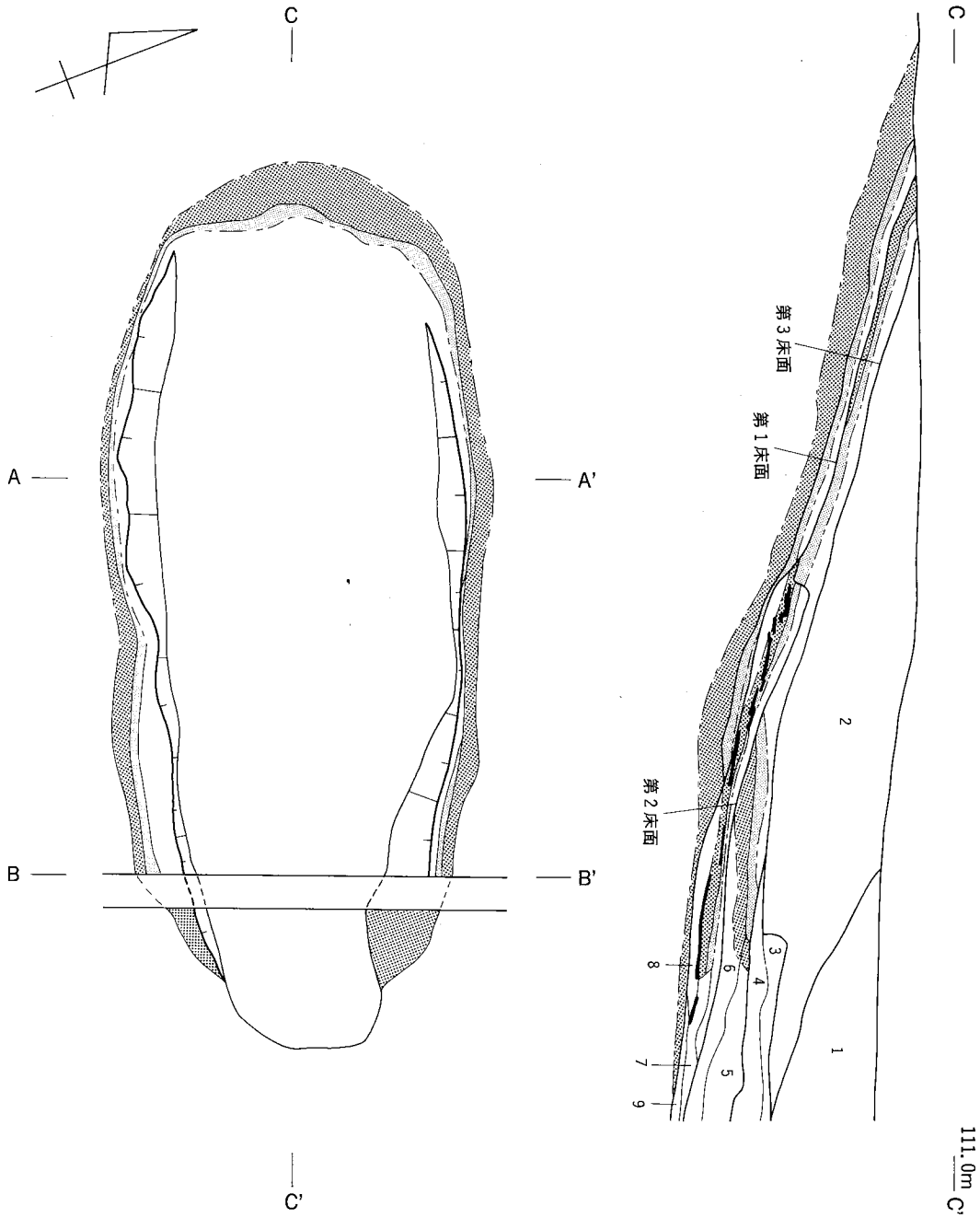
7号窯横断面B

1　2.5Y 6／4　にぶい黄色極細砂（炭・焼土を含む）
2　10YR 6／6　明黄褐色極細砂（炭・焼土を含む）
3　10YR 7／6　明黄褐色極細砂
4　10YR 4／4　褐色細砂（炭・焼土を多く含む）
5　10YR 3／3　暗褐色極細砂
6　窯壁・焼土
7　5Y 6／1　灰色細砂（小礫を含む）
8　5YR 4／6　赤褐色シルト質極細砂（炭を含む）
9　10YR 6／6　明黄褐色シルト質極細砂
10　10YR 6／6　明黄褐色極細砂
11　10YR 4／3　にぶい黄褐色シルト質極細砂（炭・焼土を多く含む）
12　10YR 7／4　にぶい黄橙色シルト質極細砂（焼土を多く含む）
13　10YR 5／4　にぶい黄褐色シルト質極細砂（炭・焼土を多く含む）



14　10YR 3／3　暗褐色シルト質極細砂（炭・焼土を多く含む）
15　砂礫
16　10YR 6／6　明黄褐色極細砂
17　10YR 6／6　明黄褐色シルト質極細砂
18　10YR 6／6　明黄褐色シルト質極細砂（炭・焼土を多く含む）
19　10YR 6／6　明黄褐色シルト質極細砂（炭を多く含む）
20　砂礫
21　10YR 6／6　明黄褐色シルト質極細砂（焼土を多く含む）

7号窯平面図・縦断面図



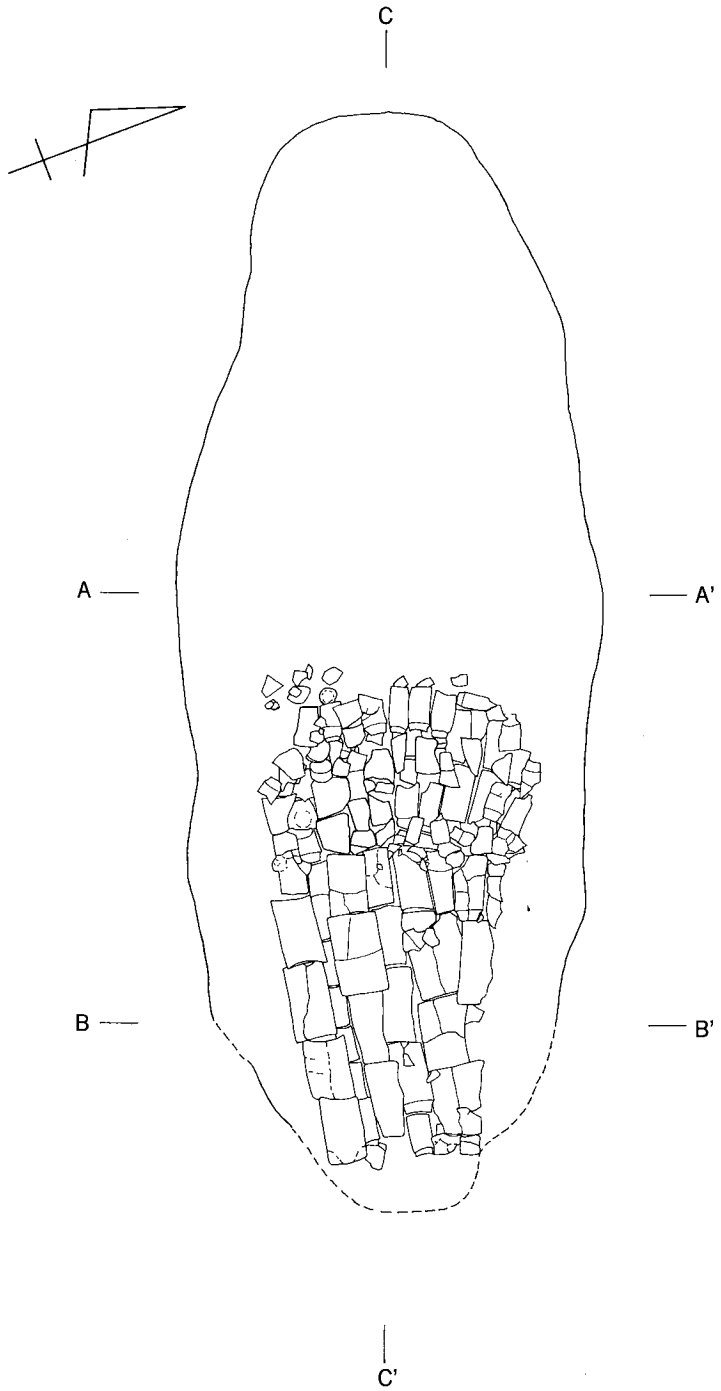
7号窯縦断面

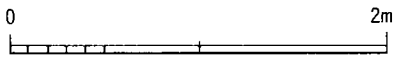
1　10YR 4／4　褐色細砂（炭・焼土・須恵器を多く含む。2号窯灰原）
2　窯壁・焼土
3　5YR 4／4　にぶい赤褐色細砂（窯体側が赤く焼ける）
4　10YR 3／2　黒褐色細砂（炭・焼土・須恵器を多く含む）
5　炭・焼土・須恵器のラミナ状の堆積
6　窯壁・焼土
7　2.5Y 5／3　黄褐色シルト質極細砂（焼土・窯壁を多く含む）
8　5Y 6／1　灰色細砂（小礫を含む）
9　炭

0　2m

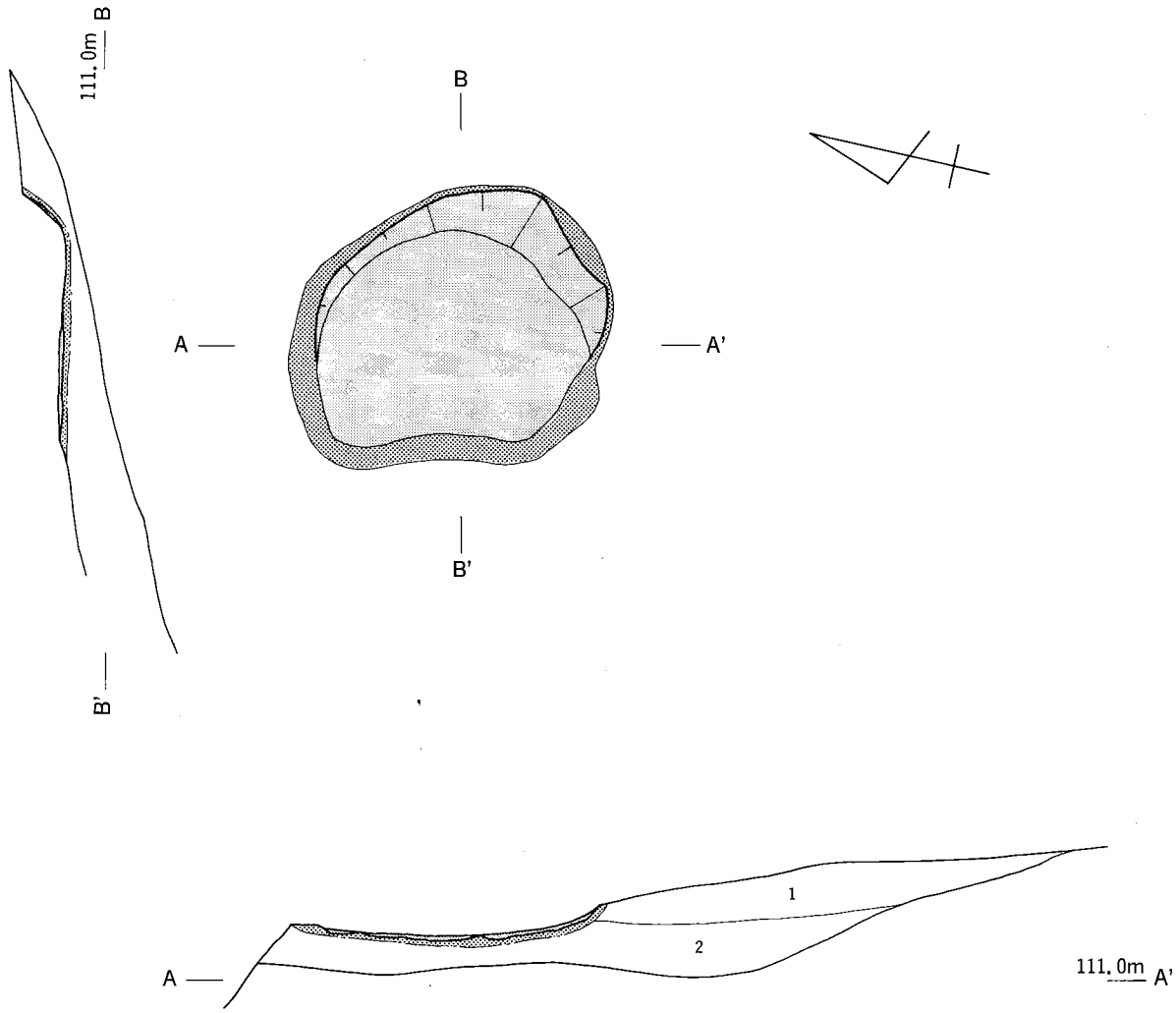
図版32

7号窯瓦敷出土状況図

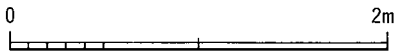




8号窯平面図・断面図

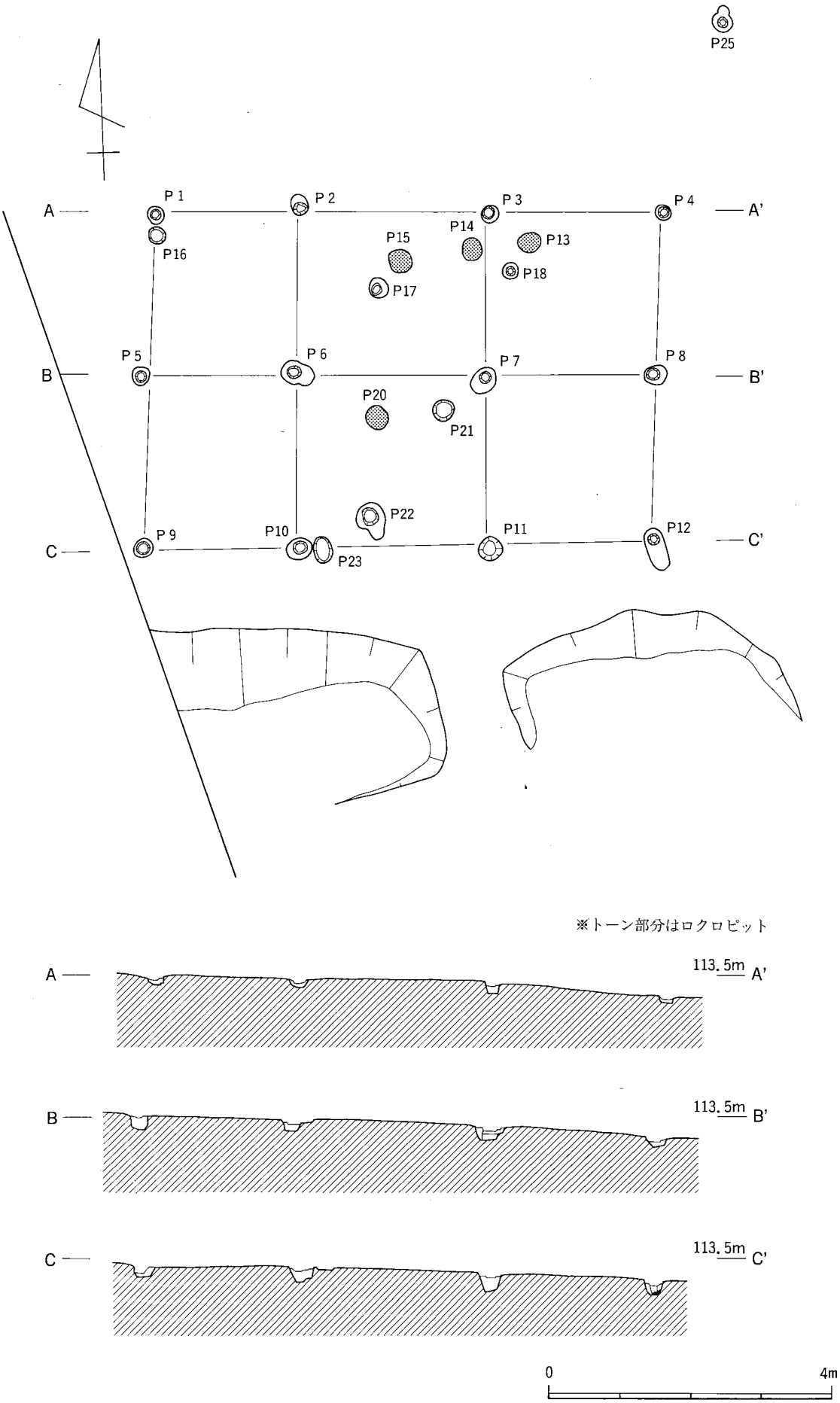


8号窯断面
1　10YR 5／4　にぶい黄褐色細砂
1　10YR 4／3　にぶい黄褐色細砂（須恵器を多く含む）

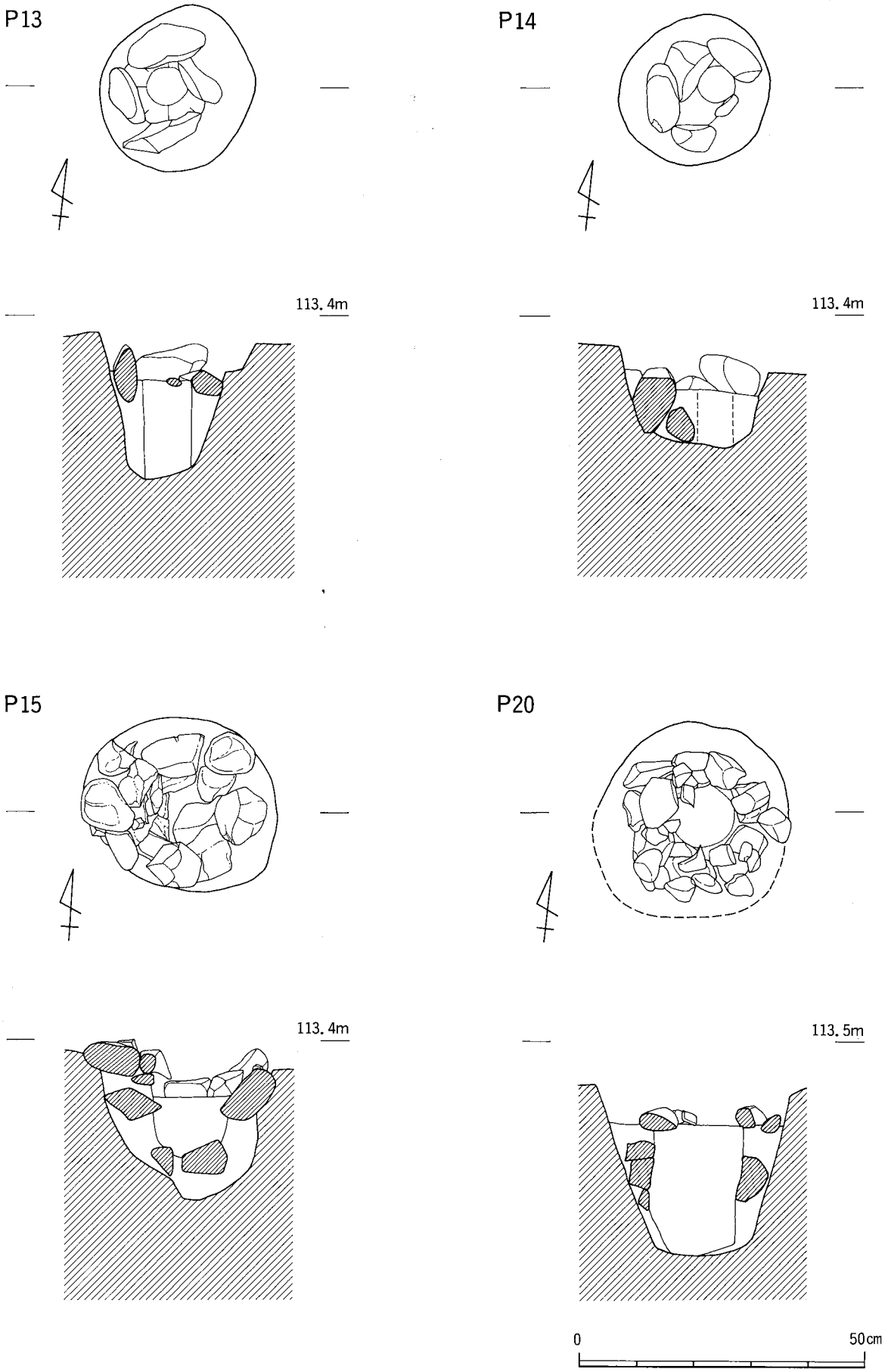


図版34

SB01平面図・断面図

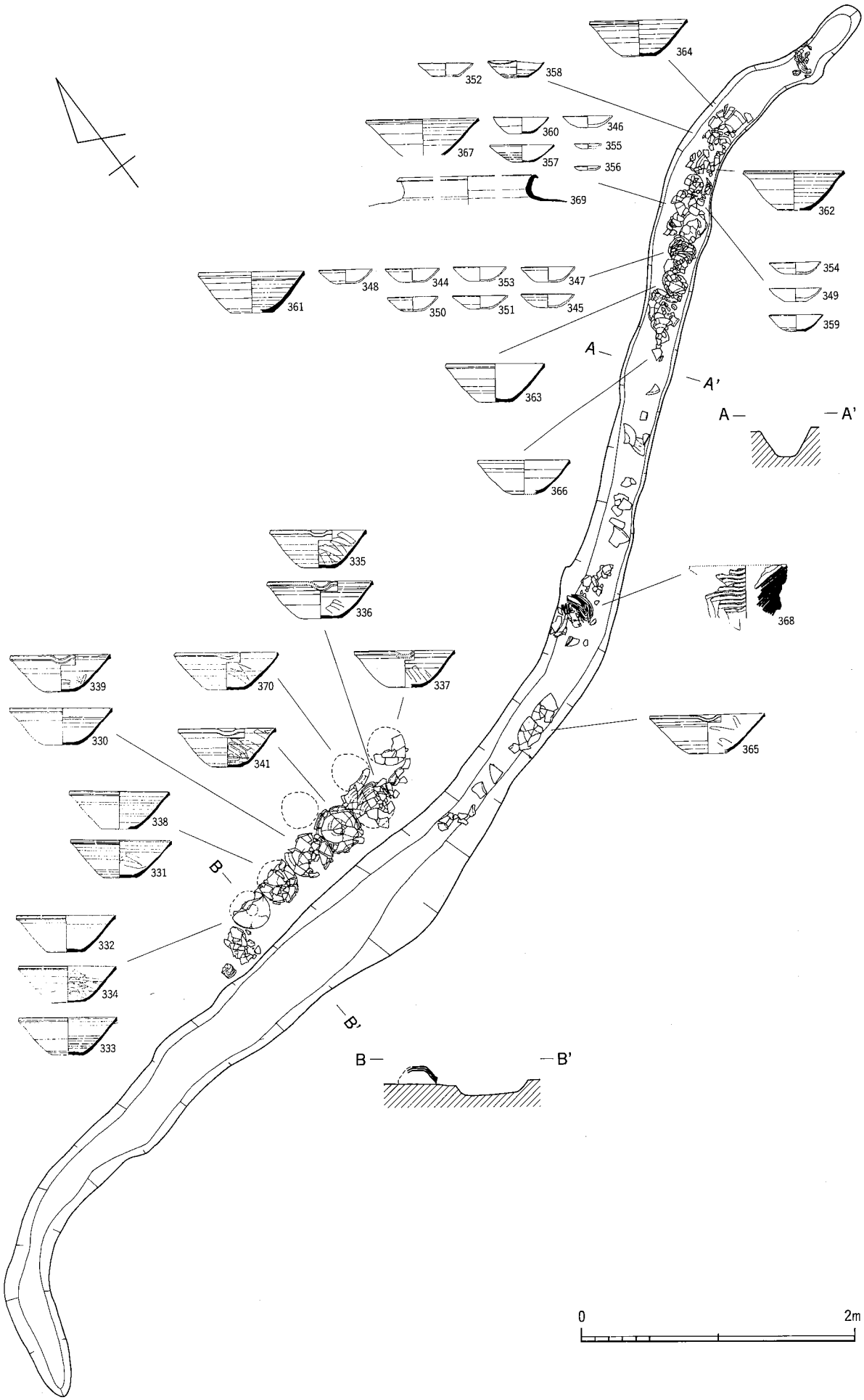


ロクロピット平面図・断面図



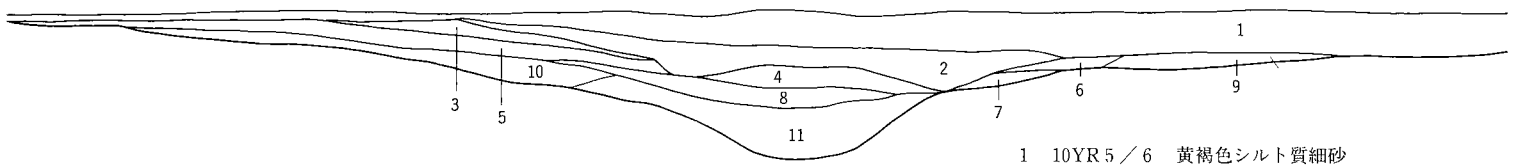
図版36

SD01・SD01北側土器群平面図・断面図



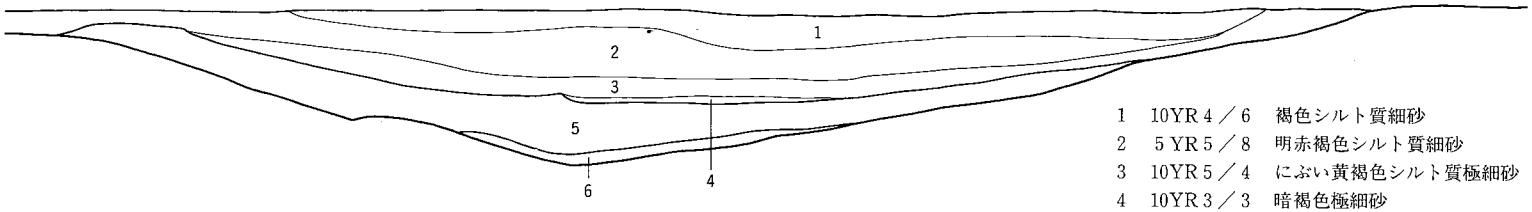
図版37 サブトレンチ1・2断面図

サブトレ1



1	10YR5／6	黄褐色シルト質細砂	
2	10YR3／2	黒褐色シルト質極細砂（炭を多く含む）	1－A
3	10YR3／2	黒褐色シルト質極細砂（炭を多く含む）	1－A
4	10YR4／4	褐色シルト質細砂	1－B
5	10YR4／4	褐色シルト質細砂（炭・須恵器を多く含む）	1－B
6	10YR3／3	褐色細砂	1－B
7	10YR3／2	黒褐色シルト質極細砂（炭を多く含む）	1－B
8	10YR3／2	黒褐色シルト質極細砂（炭を多く含む）	1－B
9	10YR4／4	褐色シルト質極細砂	
10	10YR5／6	黄褐色シルト質極細砂	
11	10YR5／8	黄褐色中砂	

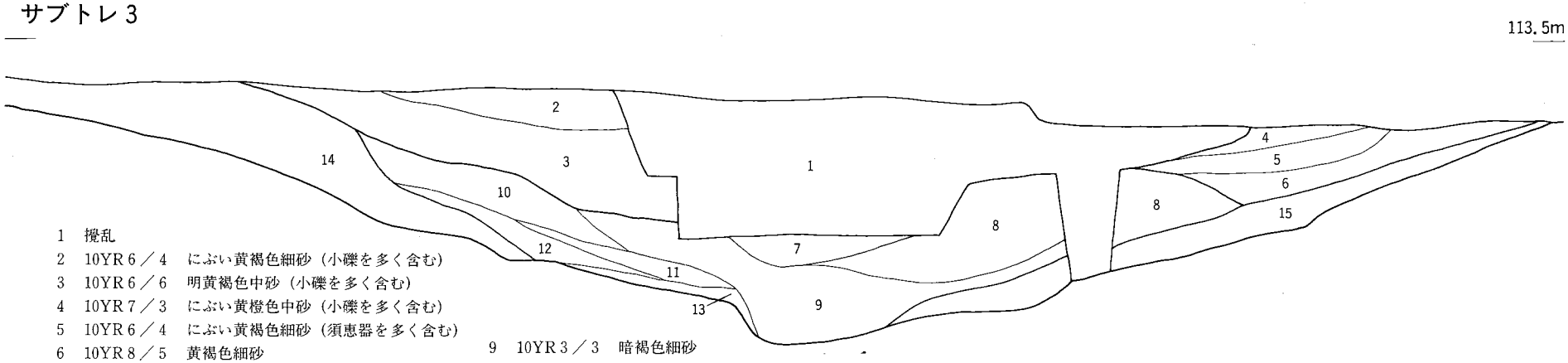
サブトレ2



1	10YR4／6	褐色シルト質細砂
2	5YR5／8	明赤褐色シルト質細砂
3	10YR5／4	にぶい黄褐色シルト質極細砂
4	10YR3／3	暗褐色極細砂
5	10YR3／2	黒褐色細砂（焼土・炭・須恵器を多く含む）
6	10YR4／3	にぶい黄褐色中砂

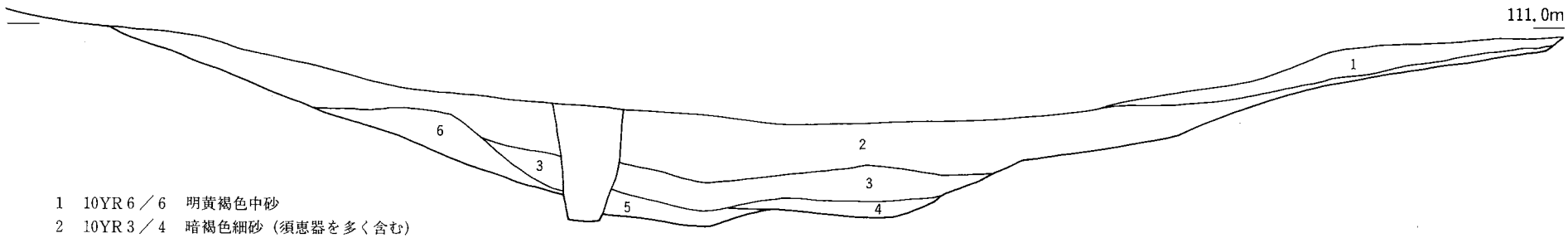
0　　4m

サブトレ３



1　攪乱
2　10YR６／４　にぶい黄褐色細砂（小礫を多く含む）
3　10YR６／６　明黄褐色中砂（小礫を多く含む）
4　10YR７／３　にぶい黄橙色中砂（小礫を多く含む）
5　10YR６／４　にぶい黄褐色細砂（須恵器を多く含む）
6　10YR８／５　黄褐色細砂
7　10YR３／２　黒褐色細砂
8　須恵器
9　10YR３／３　暗褐色細砂
10　10YR３／３　暗褐色細砂（須恵器を多く含む）
11　10YR８／５　黄褐色細砂
12　10YR３／３　暗褐色細砂
13　炭・焼土
14　10YR６／３　にぶい黄橙色細砂（小礫・須恵器を多く含む）
15　10YR４／４　褐色細砂（小礫を多く含む）

サブトレ９

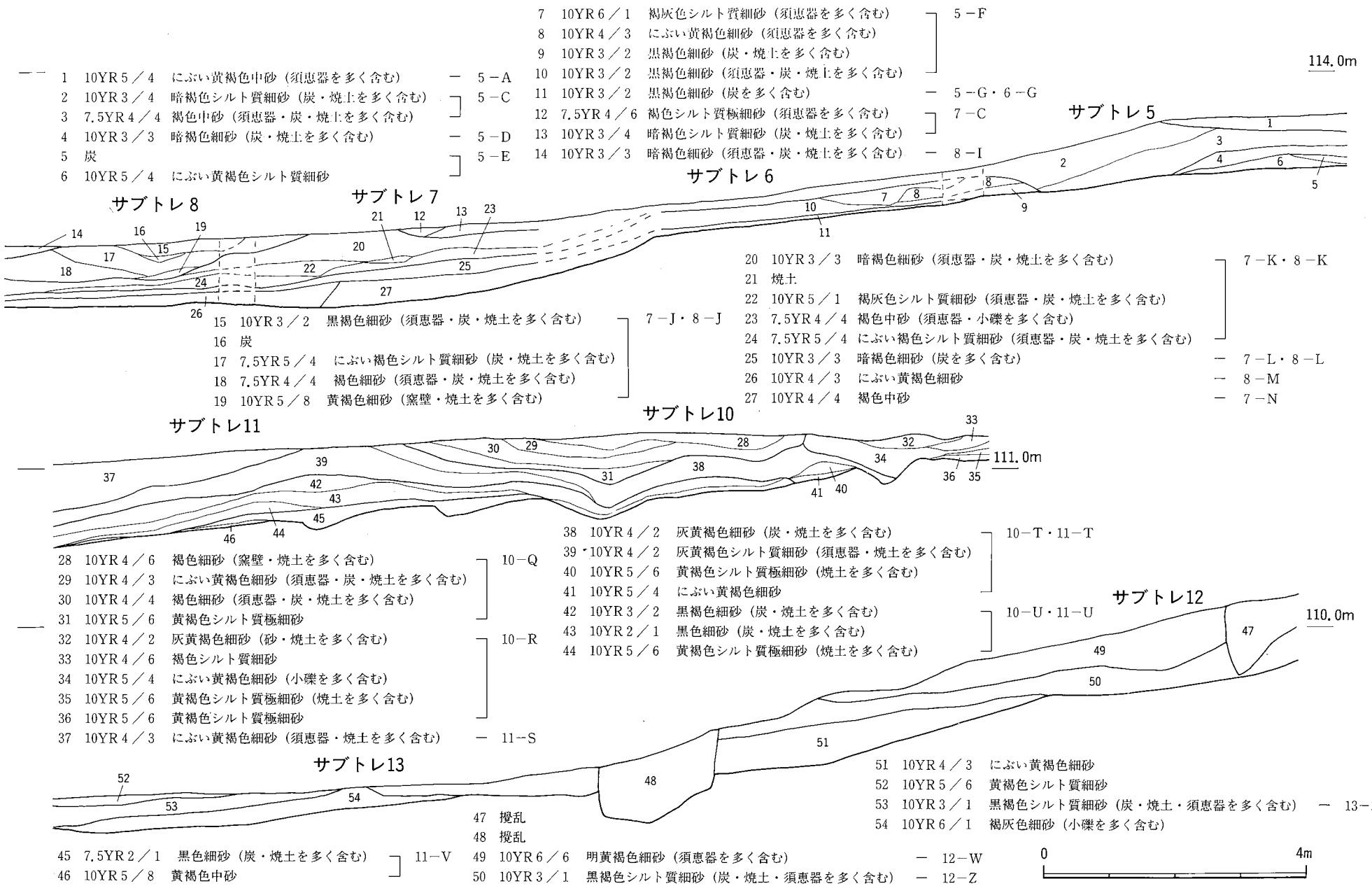


1　10YR６／６　明黄褐色中砂
2　10YR３／４　暗褐色細砂（須恵器を多く含む）
3　10YR３／３　暗褐色細砂（炭・焼土を多く含む）
4　7.5YR５／６　明褐色細砂（炭・焼土を多く含む）
5　7.5YR２／１　黒色細砂（炭・焼土を多く含む）
6　10YR３／３　暗褐色細砂（須恵器・炭・焼土を多く含む）

0　4m

図版38
サブトレンチ３・９断面図

図版39 サブトレンチ5～8・10～13断面図



1 10YR5／4 にぶい黄褐色中砂（須恵器を多く含む） ― 5－A
2 10YR3／4 暗褐色シルト質細砂（炭・焼土を多く含む）
3 7.5YR4／4 褐色中砂（須恵器・炭・焼土を多く含む） 5－C
4 10YR3／3 暗褐色細砂（炭・焼土を多く含む） ― 5－D
5 炭
6 10YR5／4 にぶい黄褐色シルト質細砂 5－E

7 10YR6／1 褐灰色シルト質細砂（須恵器を多く含む） 5－F
8 10YR4／3 にぶい黄褐色細砂（須恵器を多く含む）
9 10YR3／2 黒褐色細砂（炭・焼土を多く含む）
10 10YR3／2 黒褐色細砂（須恵器・炭・焼土を多く含む）
11 10YR3／2 黒褐色細砂（炭を多く含む） ― 5－G・6－G
12 7.5YR4／6 褐色シルト質極細砂（須恵器を多く含む） 7－C
13 10YR3／4 暗褐色シルト質細砂（炭・焼土を多く含む）
14 10YR3／3 暗褐色細砂（須恵器・炭・焼土を多く含む） ― 8－I

15 10YR3／2 黒褐色細砂（須恵器・炭・焼土を多く含む） 7－J・8－J
16 炭
17 7.5YR5／4 にぶい褐色シルト質細砂（炭・焼土を多く含む）
18 7.5YR4／4 褐色細砂（須恵器・炭・焼土を多く含む）
19 10YR5／8 黄褐色細砂（窯壁・焼土を多く含む）

20 10YR3／3 暗褐色細砂（須恵器・炭・焼土を多く含む） 7－K・8－K
21 焼土
22 10YR5／1 褐灰色シルト質細砂（須恵器・炭・焼土を多く含む）
23 7.5YR4／4 褐色中砂（須恵器・小礫を多く含む）
24 7.5YR5／4 にぶい褐色シルト質細砂（須恵器・炭・焼土を多く含む）
25 10YR3／3 暗褐色細砂（炭を多く含む） ― 7－L・8－L
26 10YR4／3 にぶい黄褐色細砂 ― 8－M
27 10YR4／4 褐色中砂 ― 7－N

28 10YR4／6 褐色細砂（窯壁・焼土を多く含む） 10－Q
29 10YR4／3 にぶい黄褐色細砂（須恵器・炭・焼土を多く含む）
30 10YR4／4 褐色細砂（須恵器・炭・焼土を多く含む）
31 10YR5／6 黄褐色シルト質極細砂
32 10YR4／2 灰黄褐色細砂（砂・焼土を多く含む） 10－R
33 10YR4／6 褐色シルト質細砂
34 10YR5／4 にぶい黄褐色細砂（小礫を多く含む）
35 10YR5／6 黄褐色シルト質極細砂（焼土を多く含む）
36 10YR5／6 黄褐色シルト質極細砂
37 10YR4／3 にぶい黄褐色細砂（須恵器・焼土を多く含む） ― 11－S

38 10YR4／2 灰黄褐色細砂（炭・焼土を多く含む） 10－T・11－T
39 10YR4／2 灰黄褐色シルト質細砂（須恵器・焼土を多く含む）
40 10YR5／6 黄褐色シルト質極細砂（焼土を多く含む）
41 10YR5／4 にぶい黄褐色細砂
42 10YR3／2 黒褐色細砂（炭・焼土を多く含む） 10－U・11－U
43 10YR2／1 黒色細砂（炭・焼土を多く含む）
44 10YR5／6 黄褐色シルト質極細砂（焼土を多く含む）

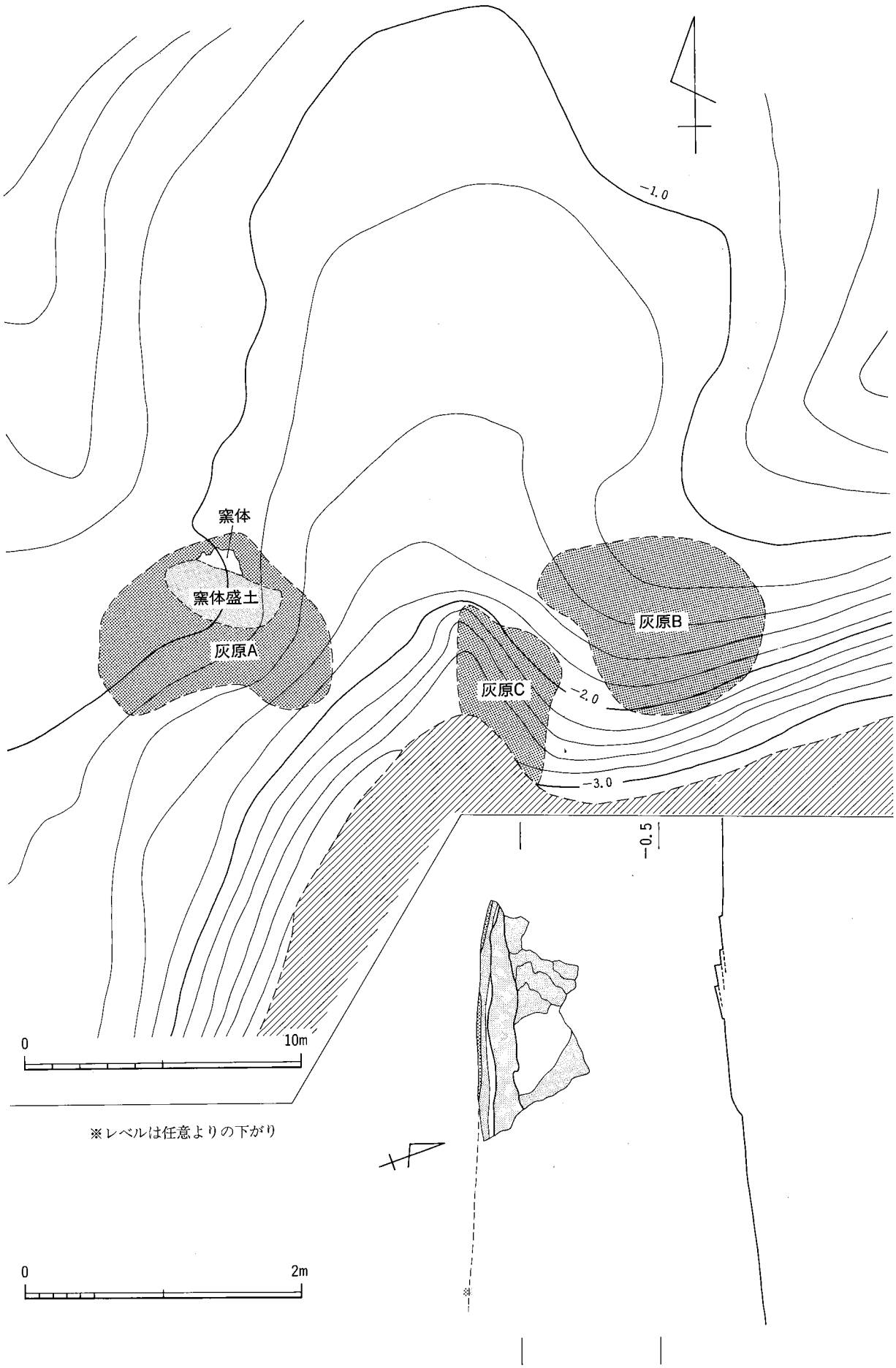
45 7.5YR2／1 黒色細砂（炭・焼土を多く含む） 11－V
46 10YR5／8 黄褐色中砂

47 撹乱
48 撹乱
49 10YR6／6 明黄褐色細砂（須恵器を多く含む） ― 12－W
50 10YR3／1 黒褐色シルト質細砂（炭・焼土・須恵器を多く含む） ― 12－Z

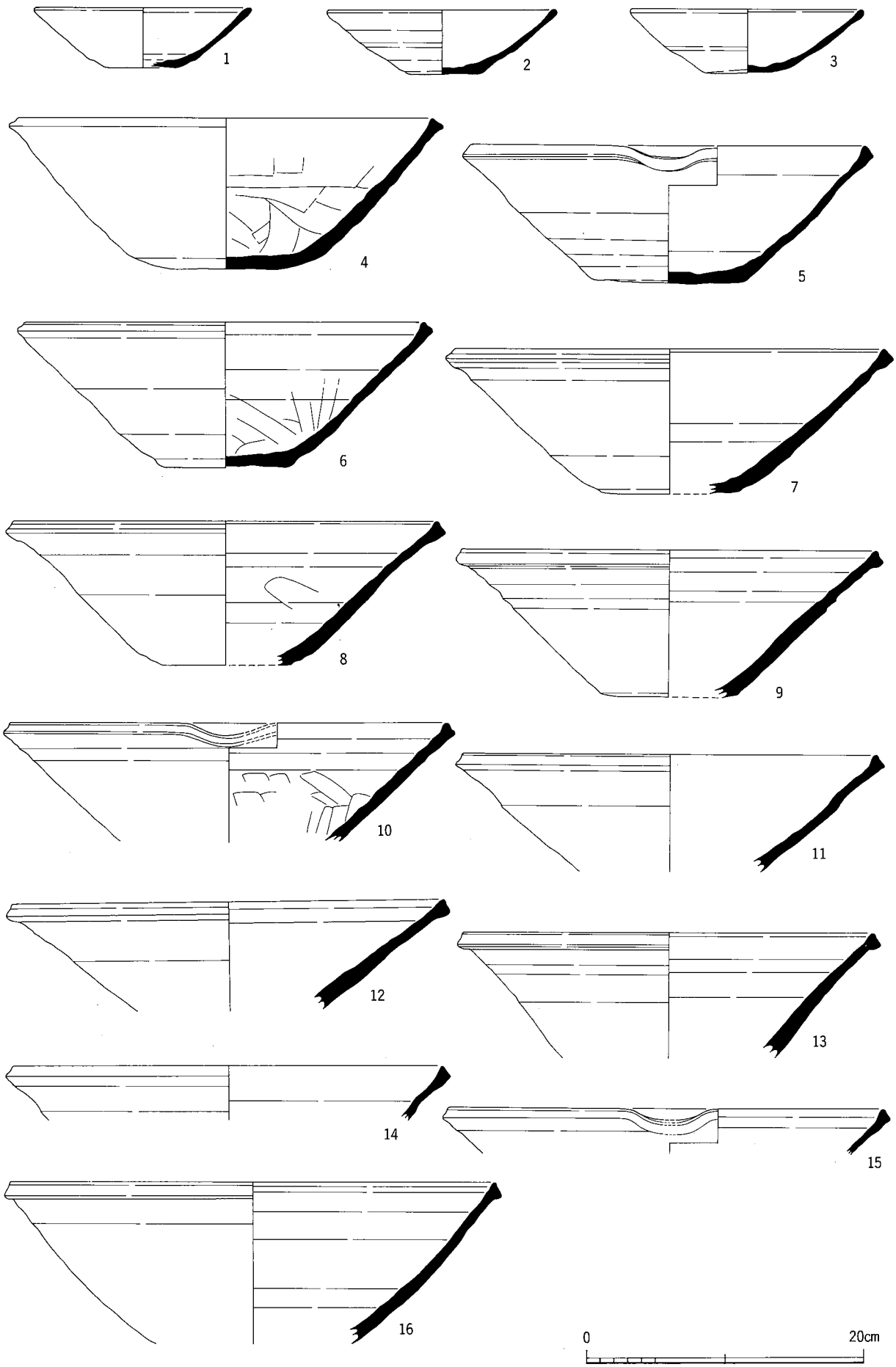
51 10YR4／3 にぶい黄褐色細砂
52 10YR5／6 黄褐色シルト質細砂
53 10YR3／1 黒褐色シルト質細砂（炭・焼土・須恵器を多く含む） ― 13－Z
54 10YR6／1 褐灰色細砂（小礫を多く含む）

図版40

苅屋谷池支群地形測量図・窯体平面図

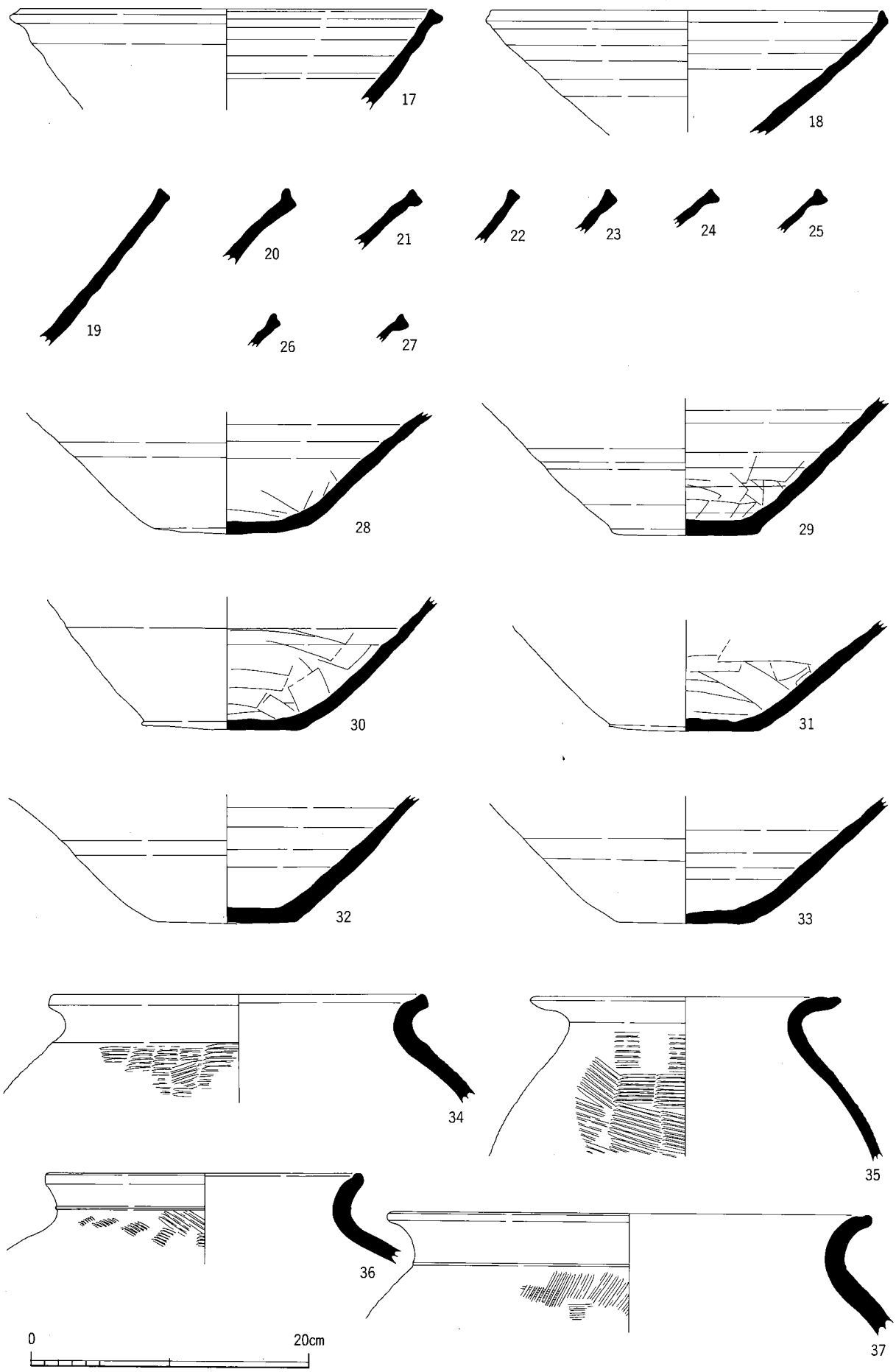


1号窯出土須恵器(1)

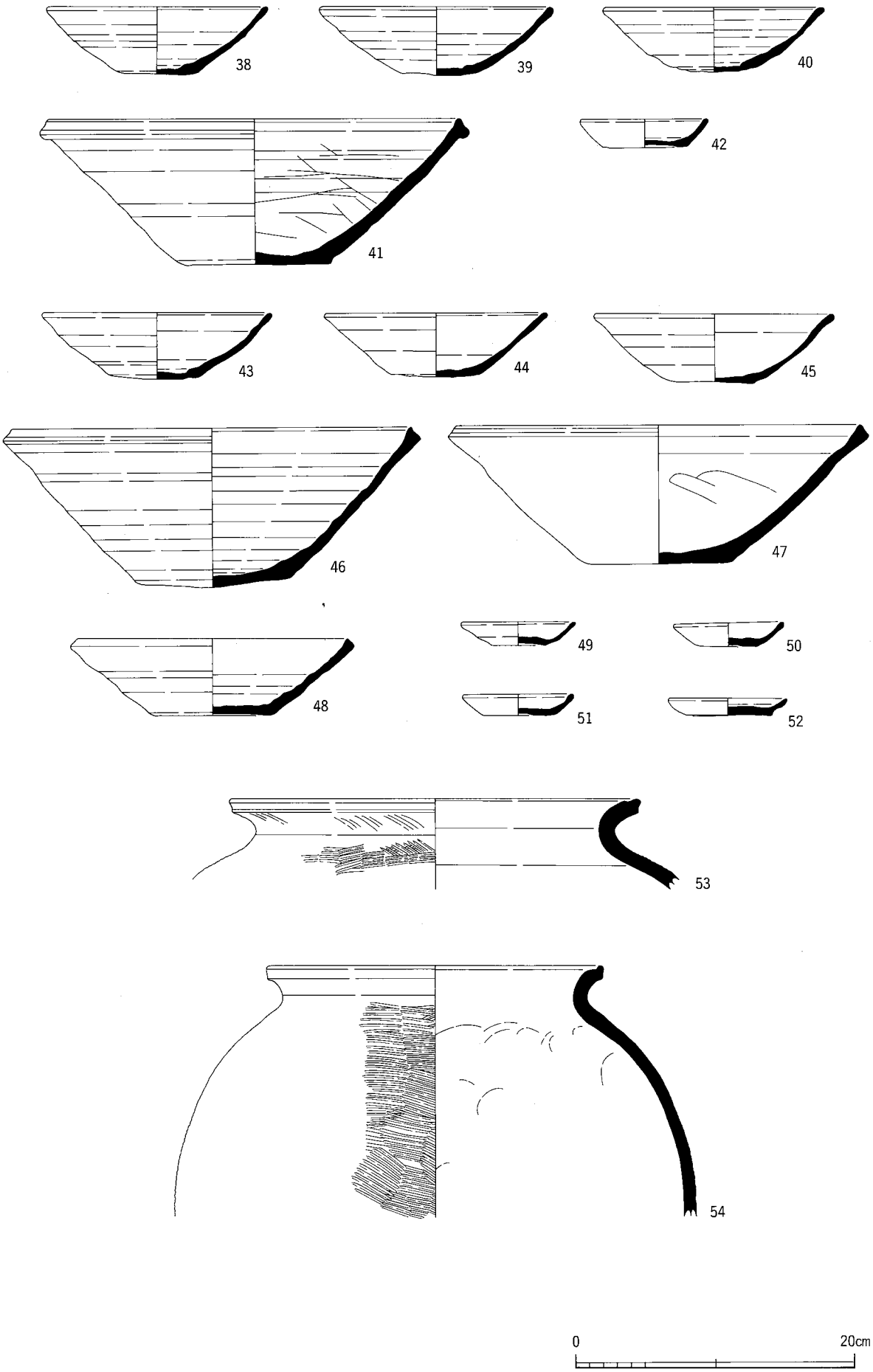


図版42

1号窯出土須恵器(2)

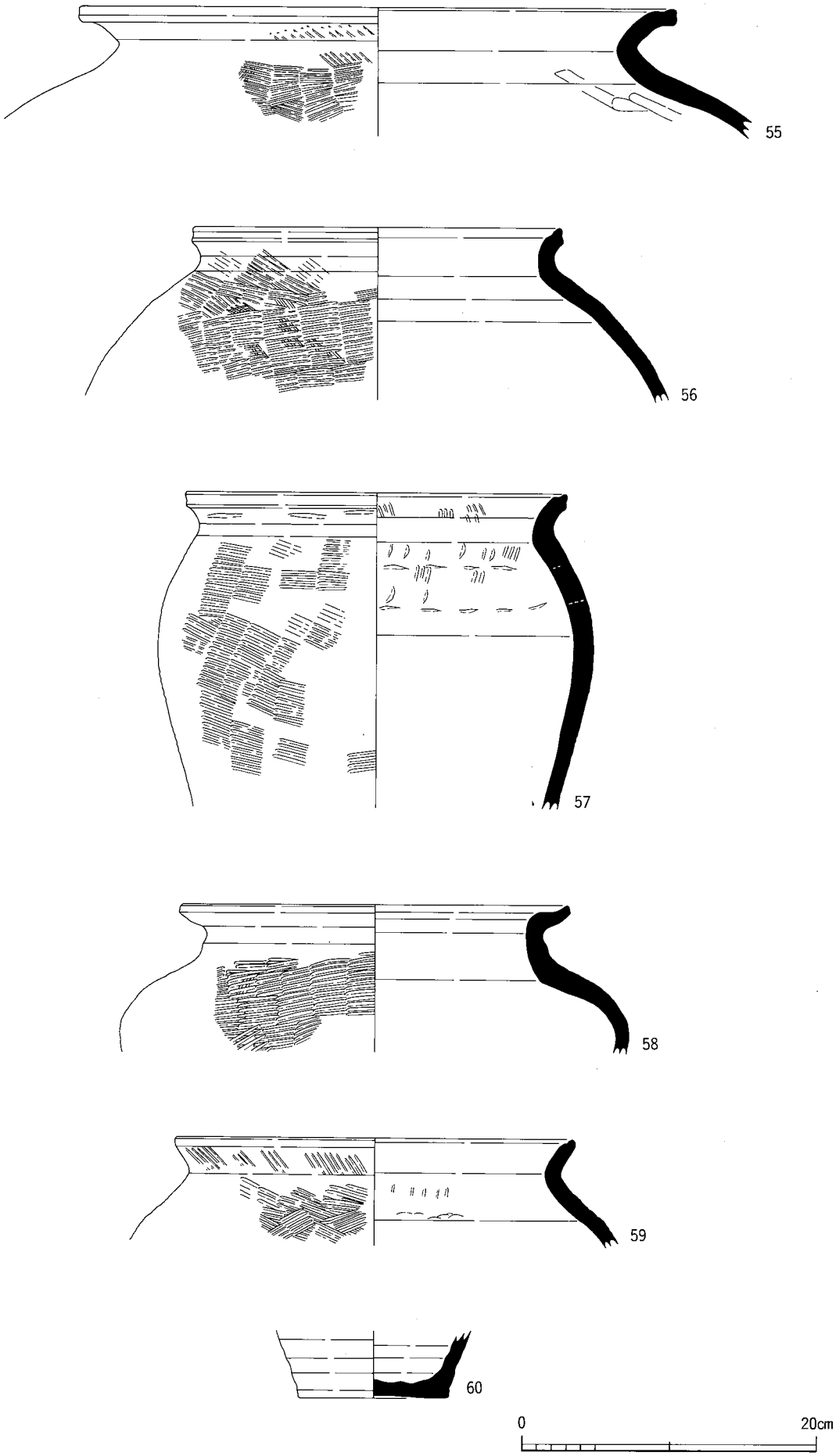


1号窯出土須恵器(3)

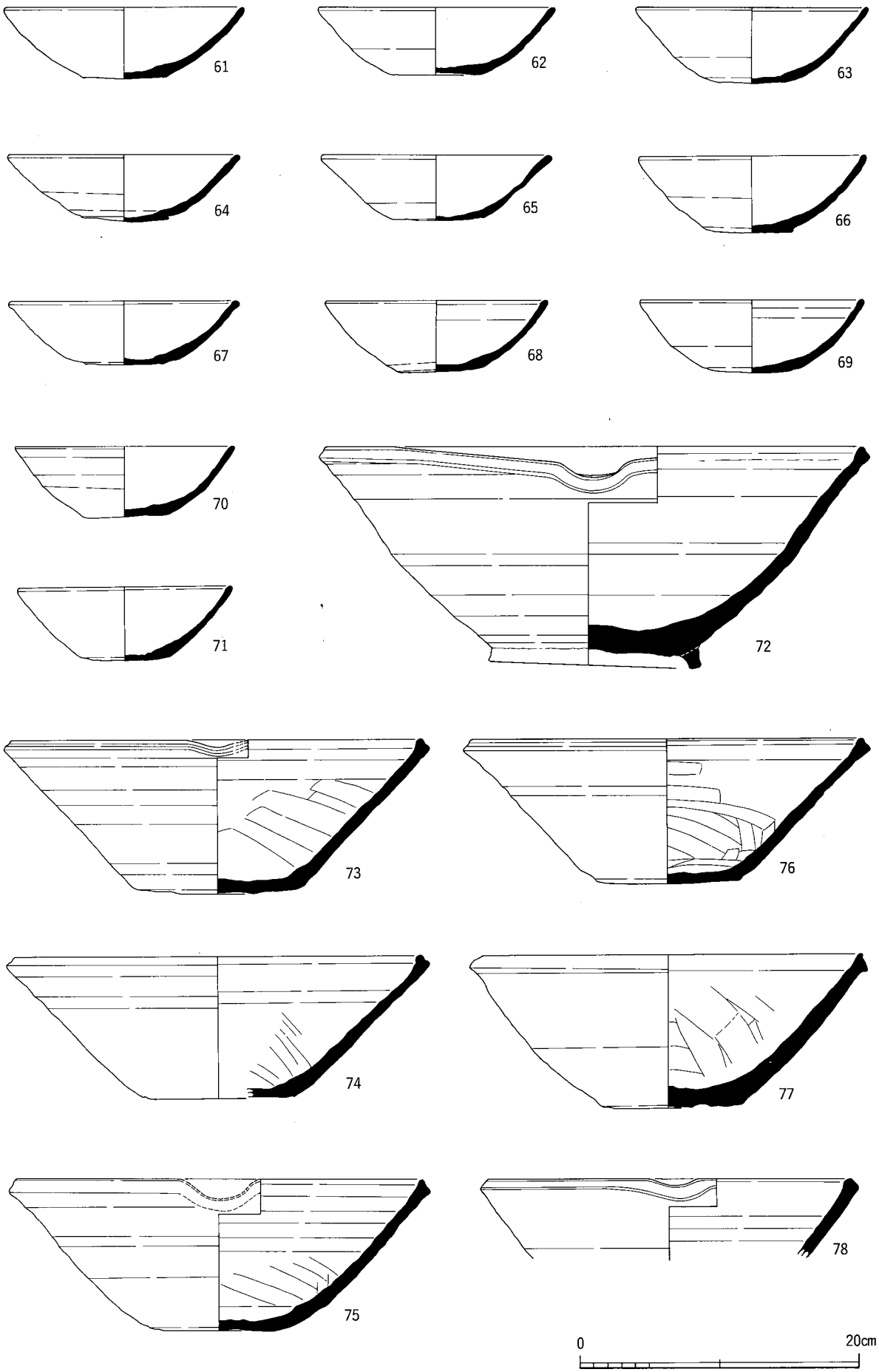


図版44

1号窯出土須恵器(4)

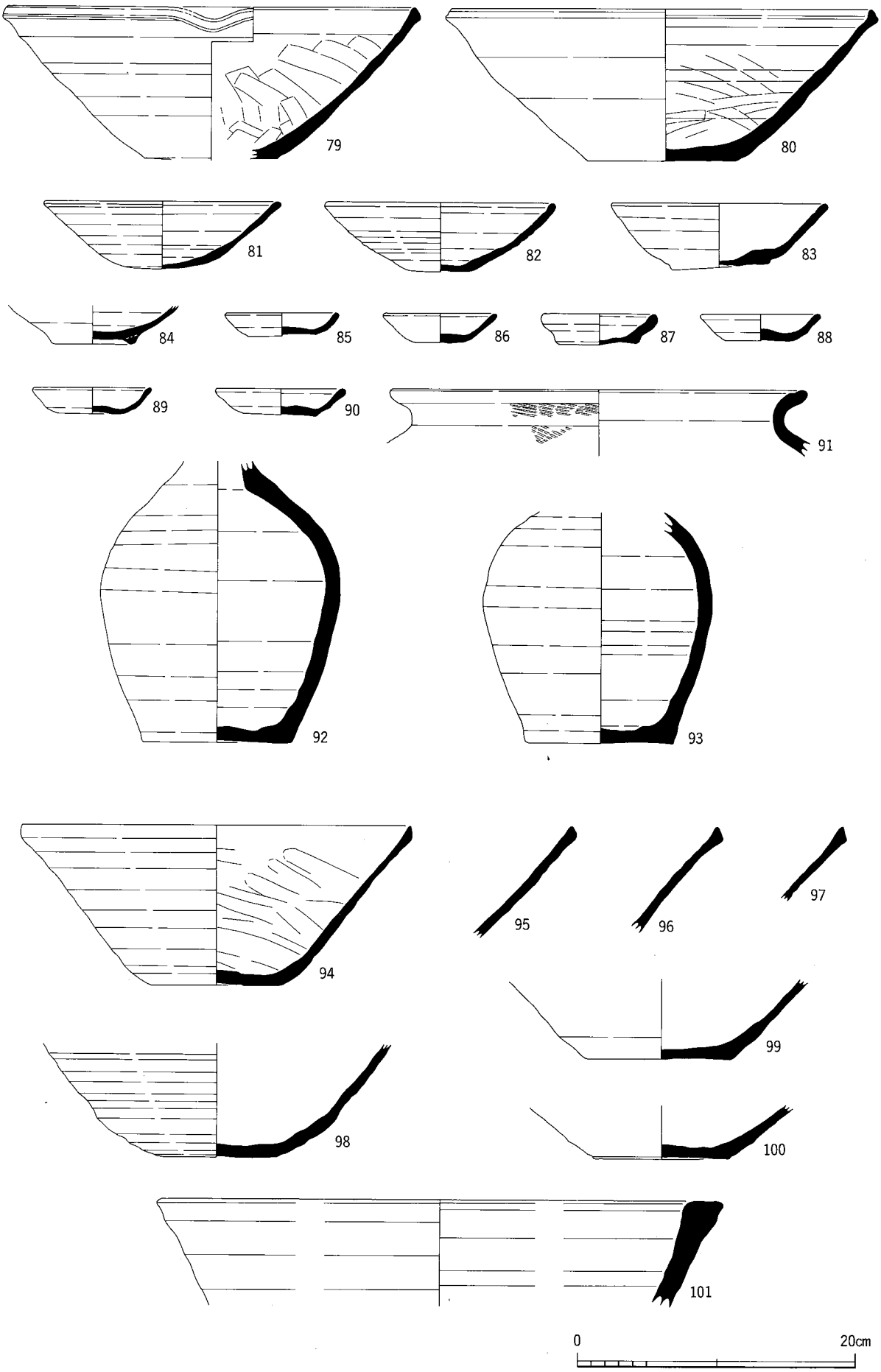


1号窯出土須恵器(5)

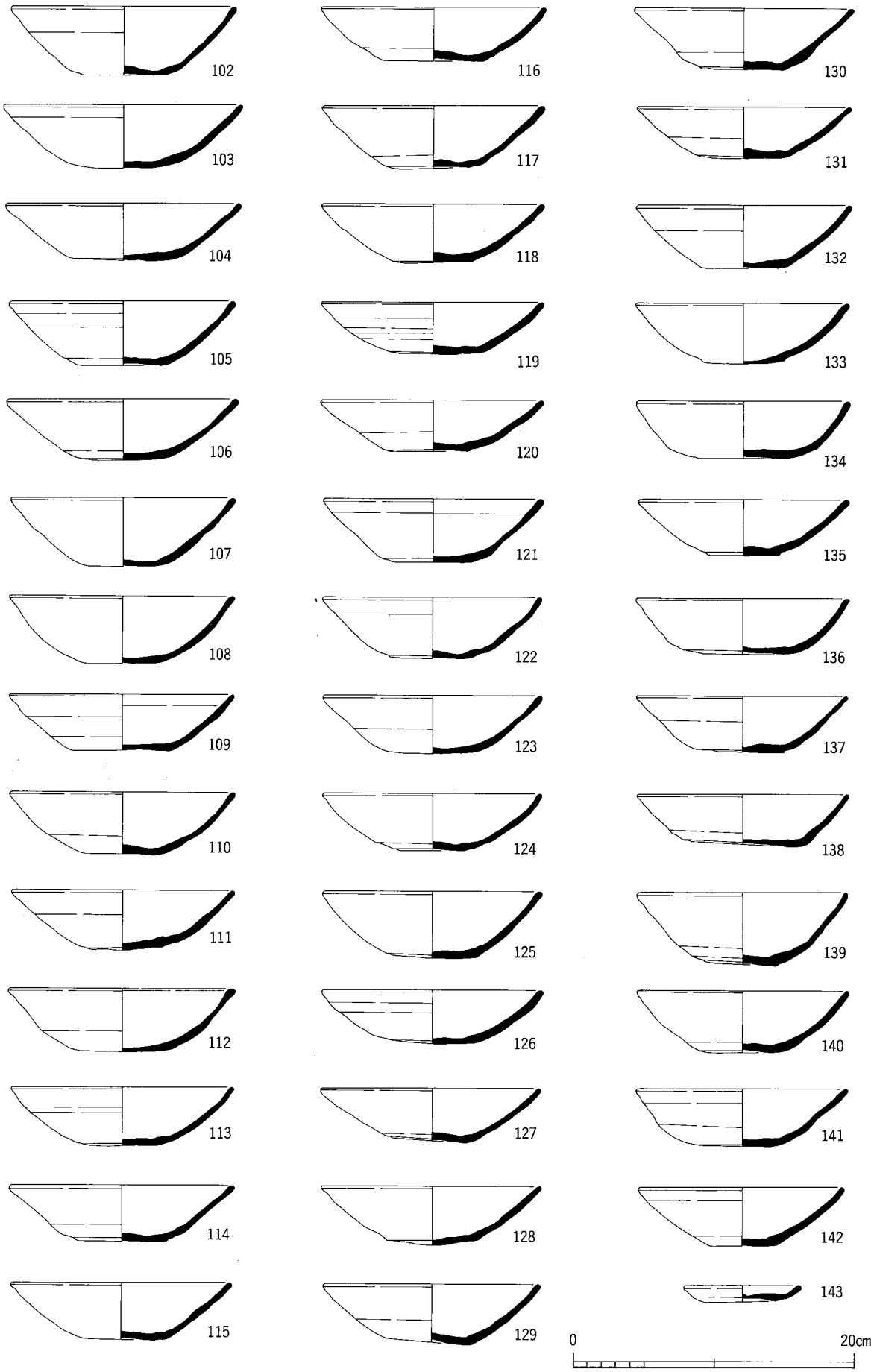


図版46

1 号窯出土須恵器(6)
2 号窯出土須恵器(1)

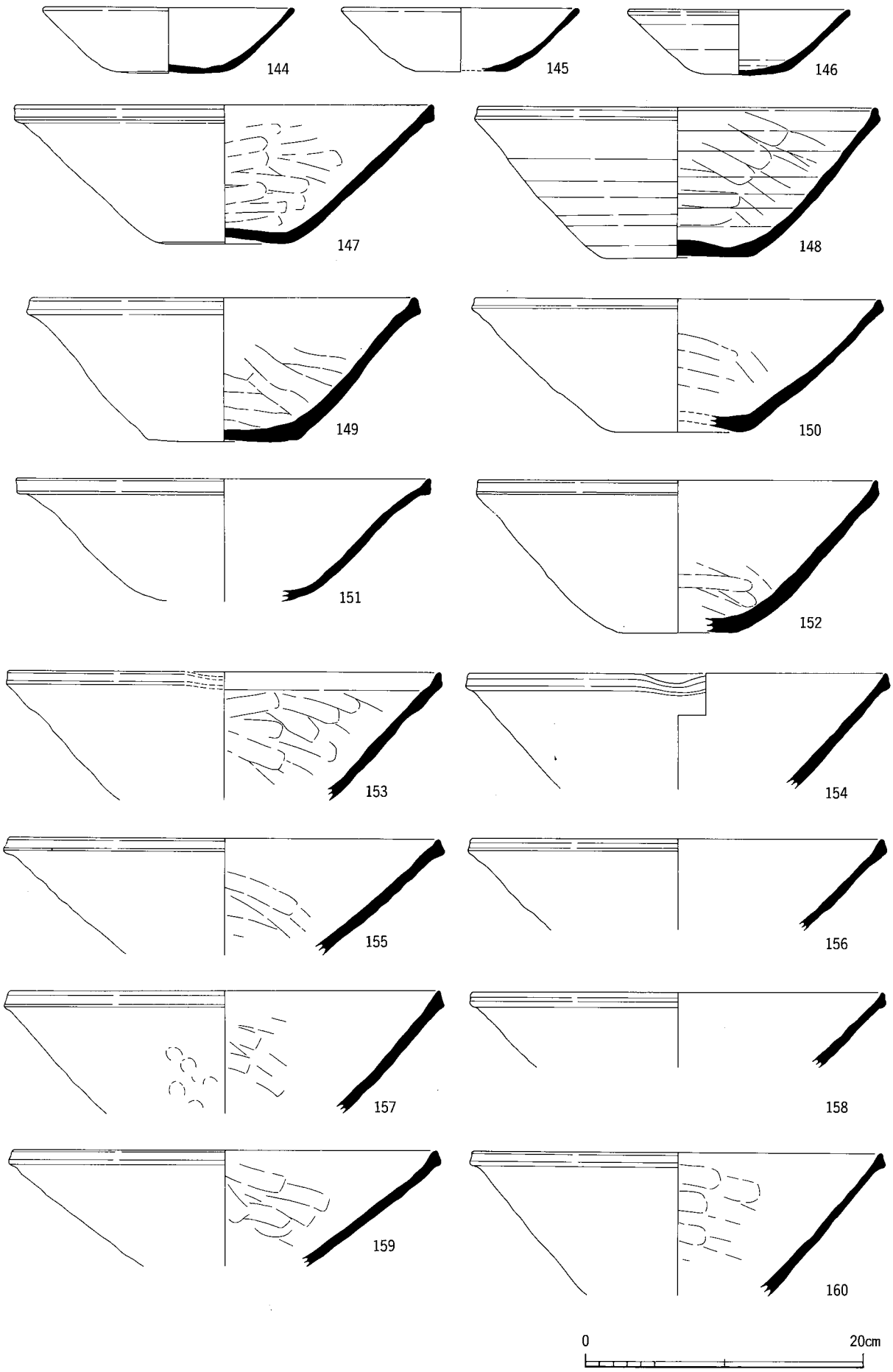


2 号窯出土須恵器(2)

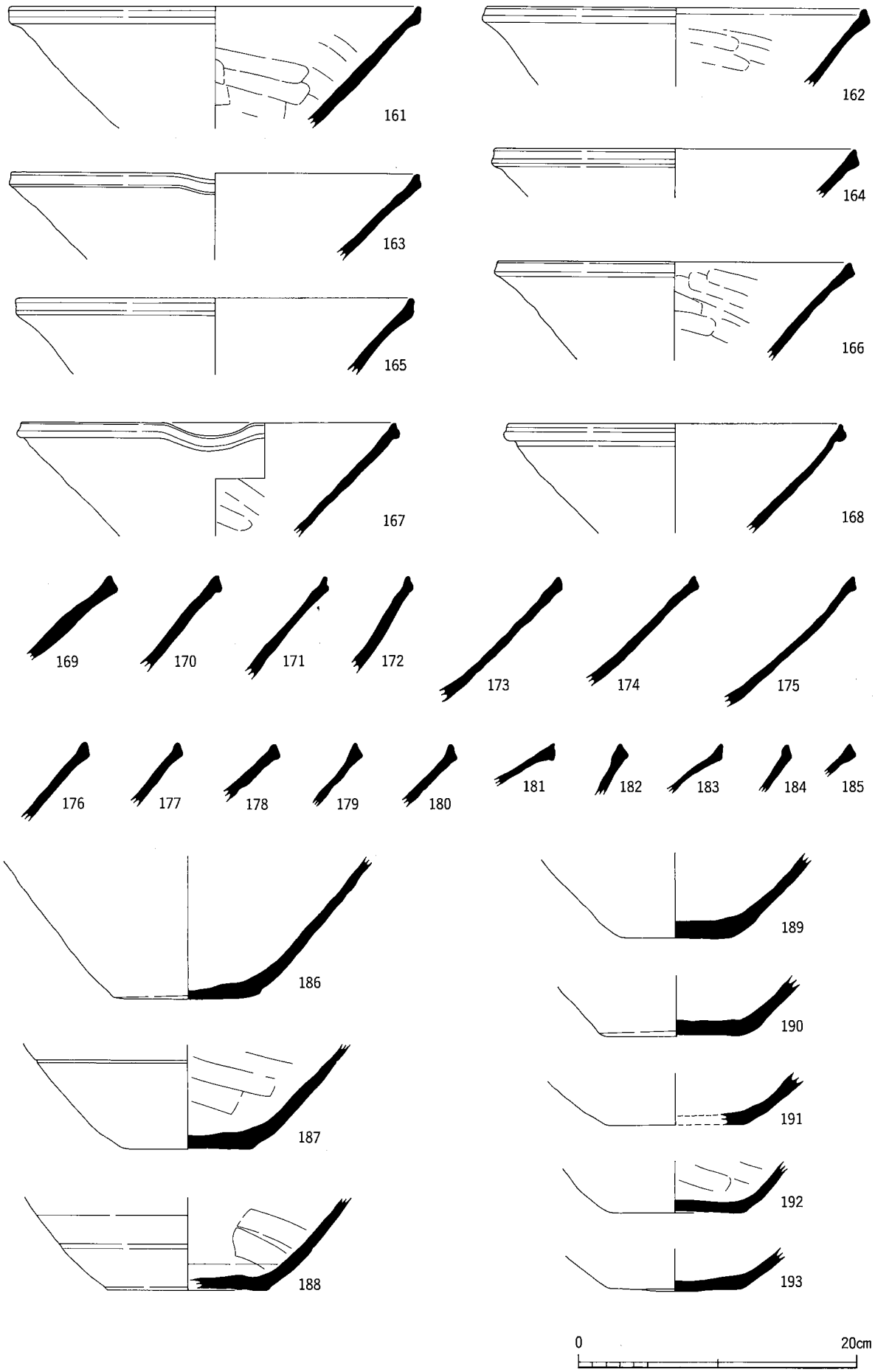

102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139
140
141
142
143
0
20cm

図版48

3 号窯出土須恵器(1)

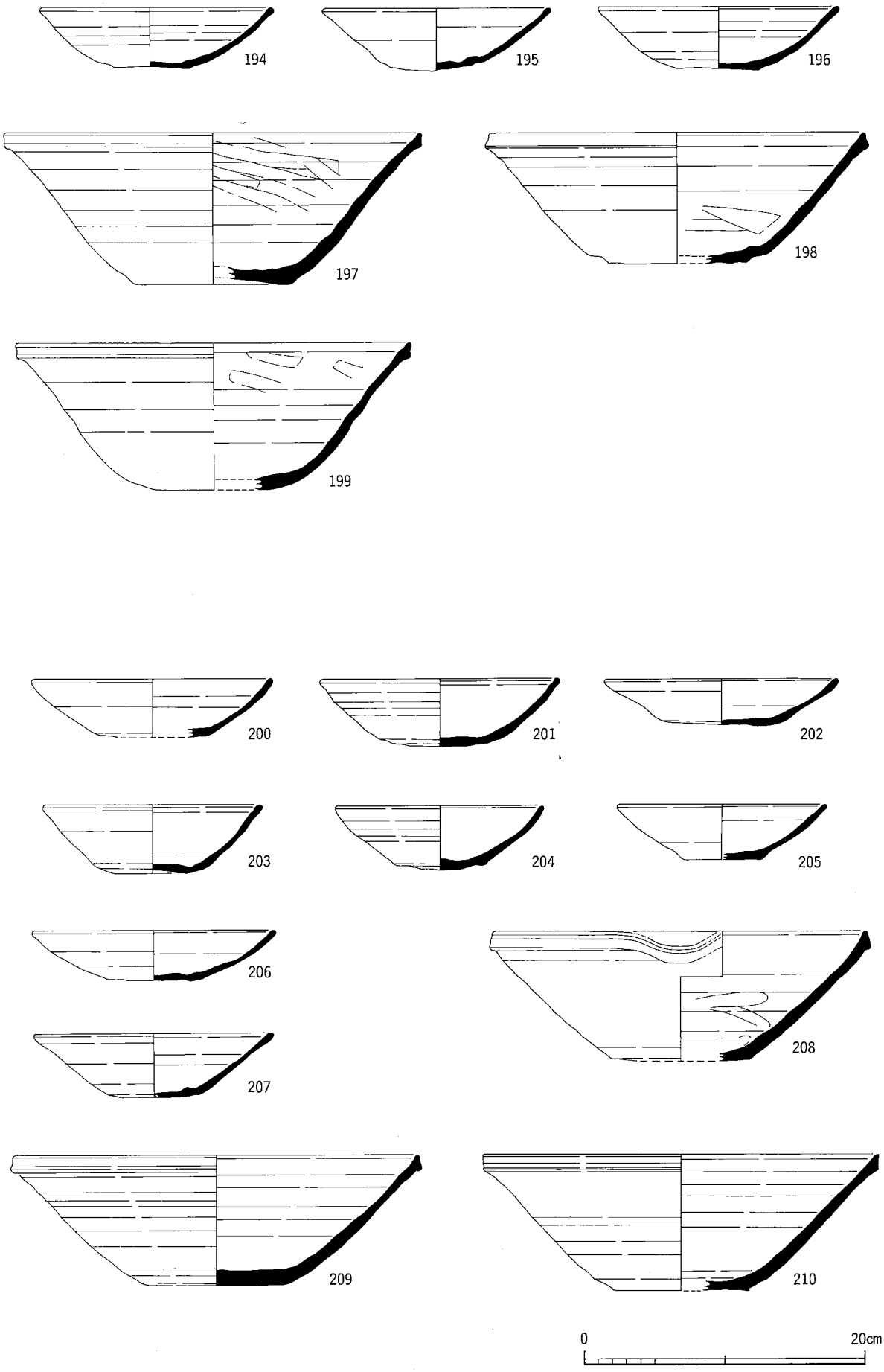


3 号窯出土須恵器(2)

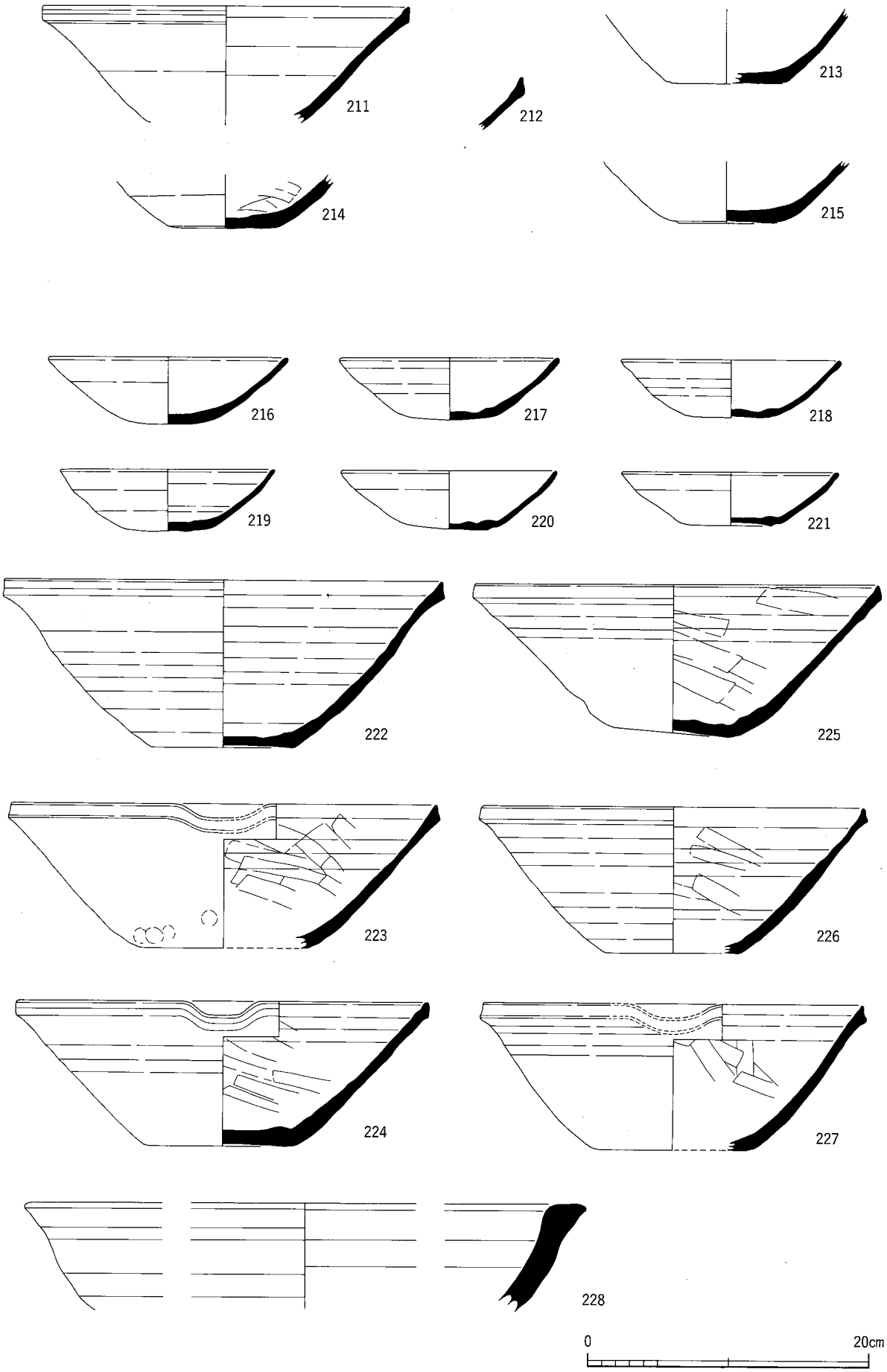

161
162
163
164
165
166
167
168
169
170
171
172
173
174
175
176
177
178
179
180
181
182
183
184
185
186
187
188
189
190
191
192
193
0
20cm

図版50

3 号窯出土須恵器(3)
4 号窯出土須恵器

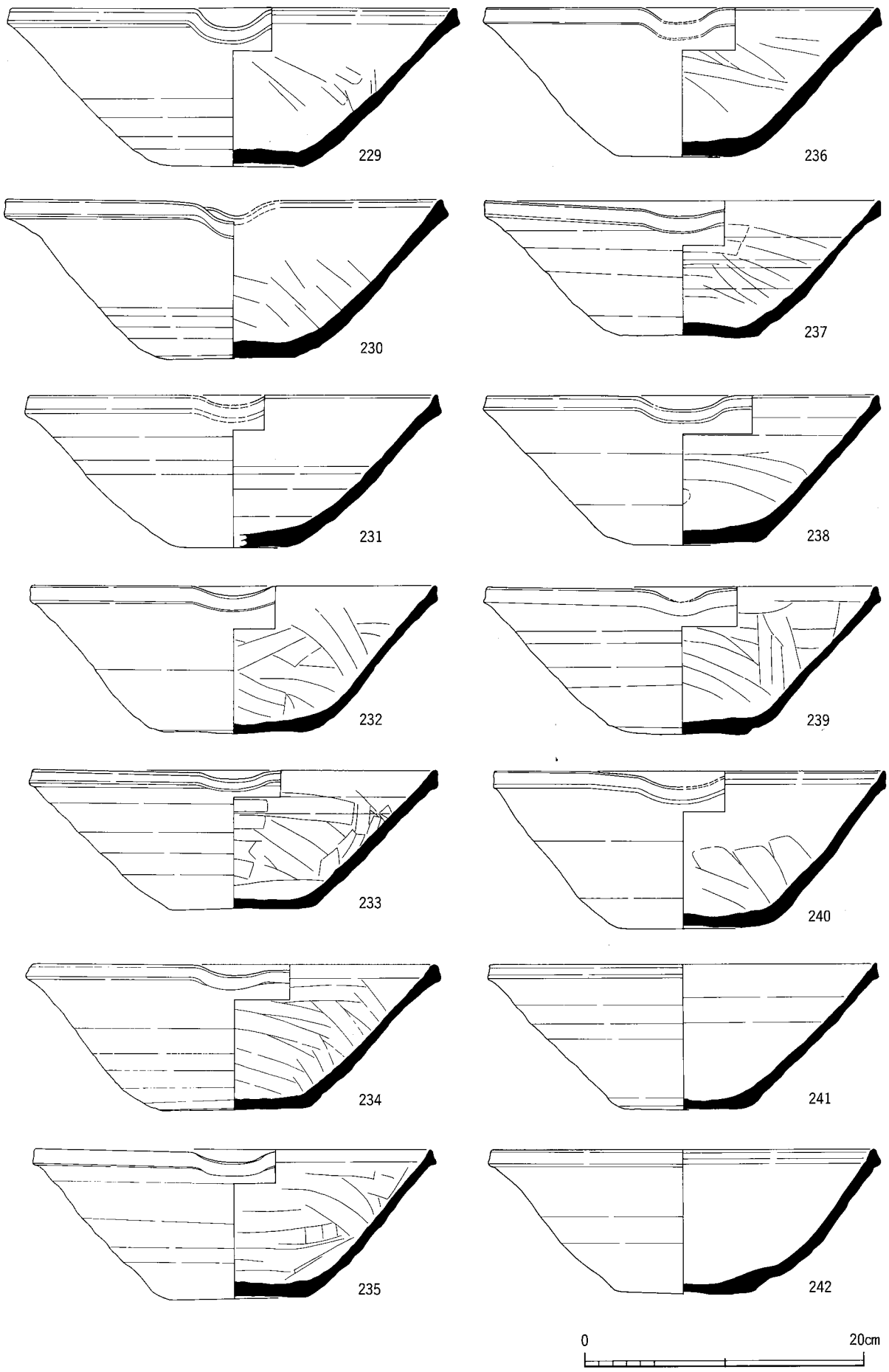


5号窯出土須恵器(1)

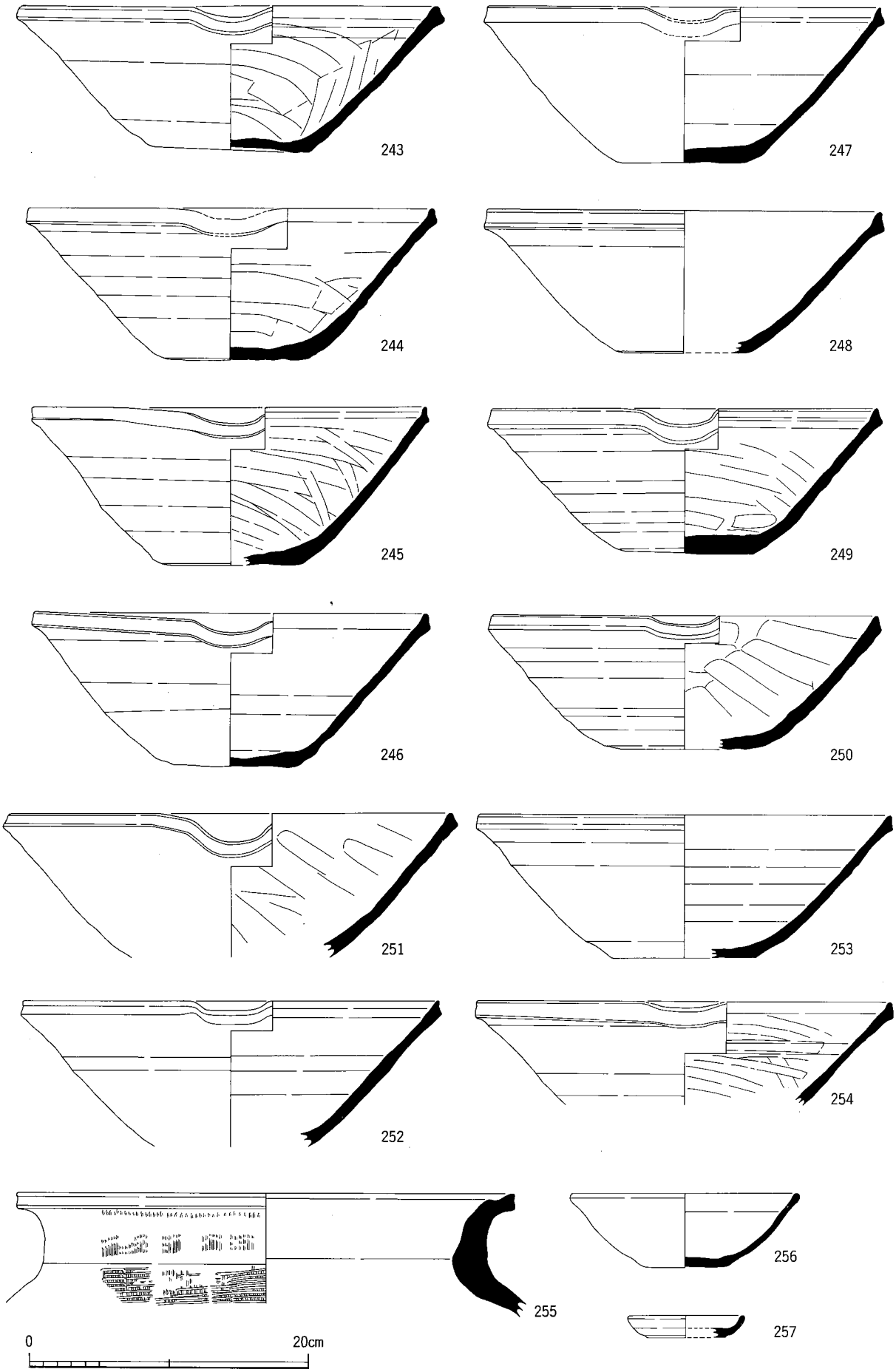

211
212
213
214
215
216
217
218
219
220
221
222
225
223
226
224
227
228
0
20cm

図版52

5 号窯出土須恵器(2)

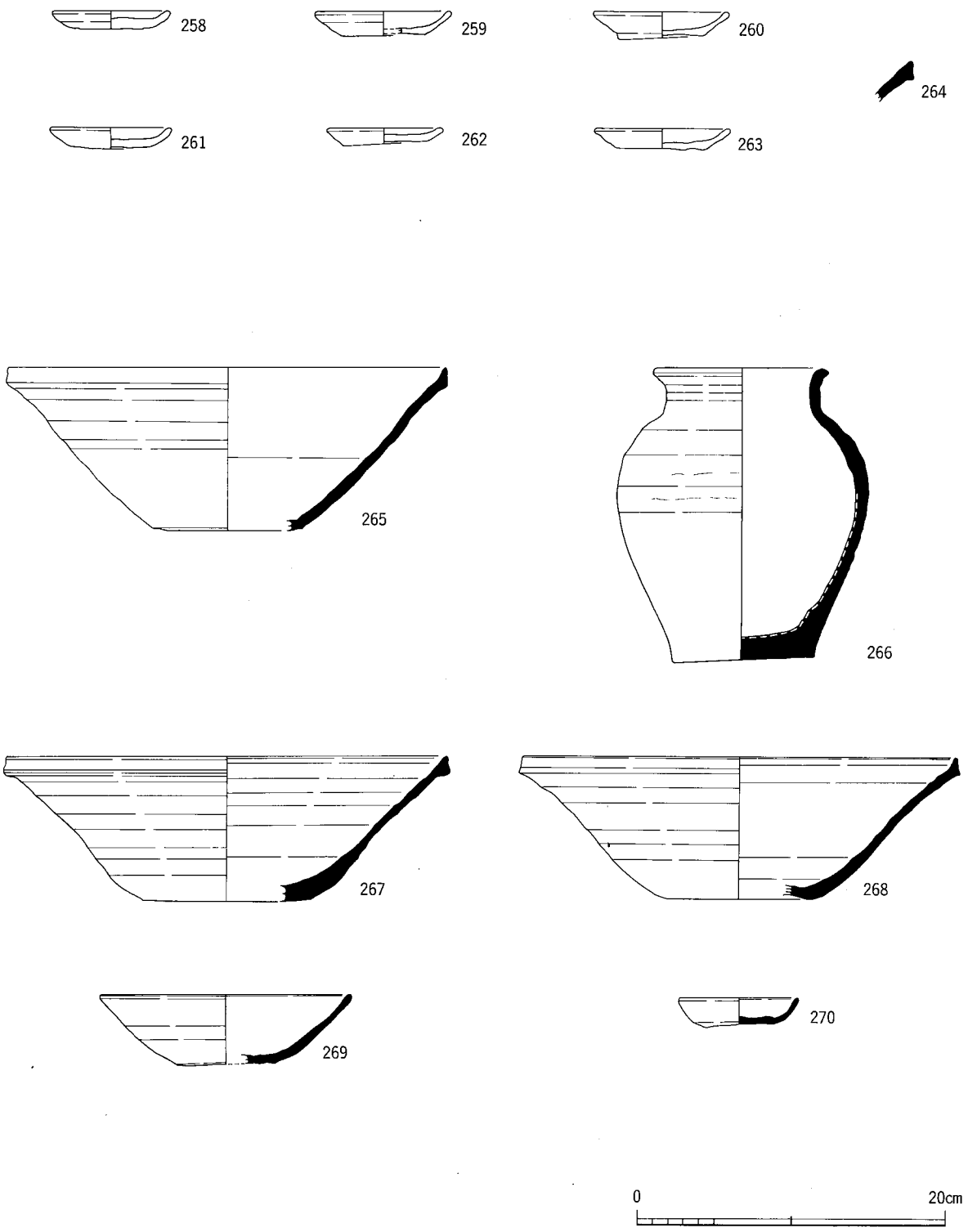


5号窯出土須恵器(3)

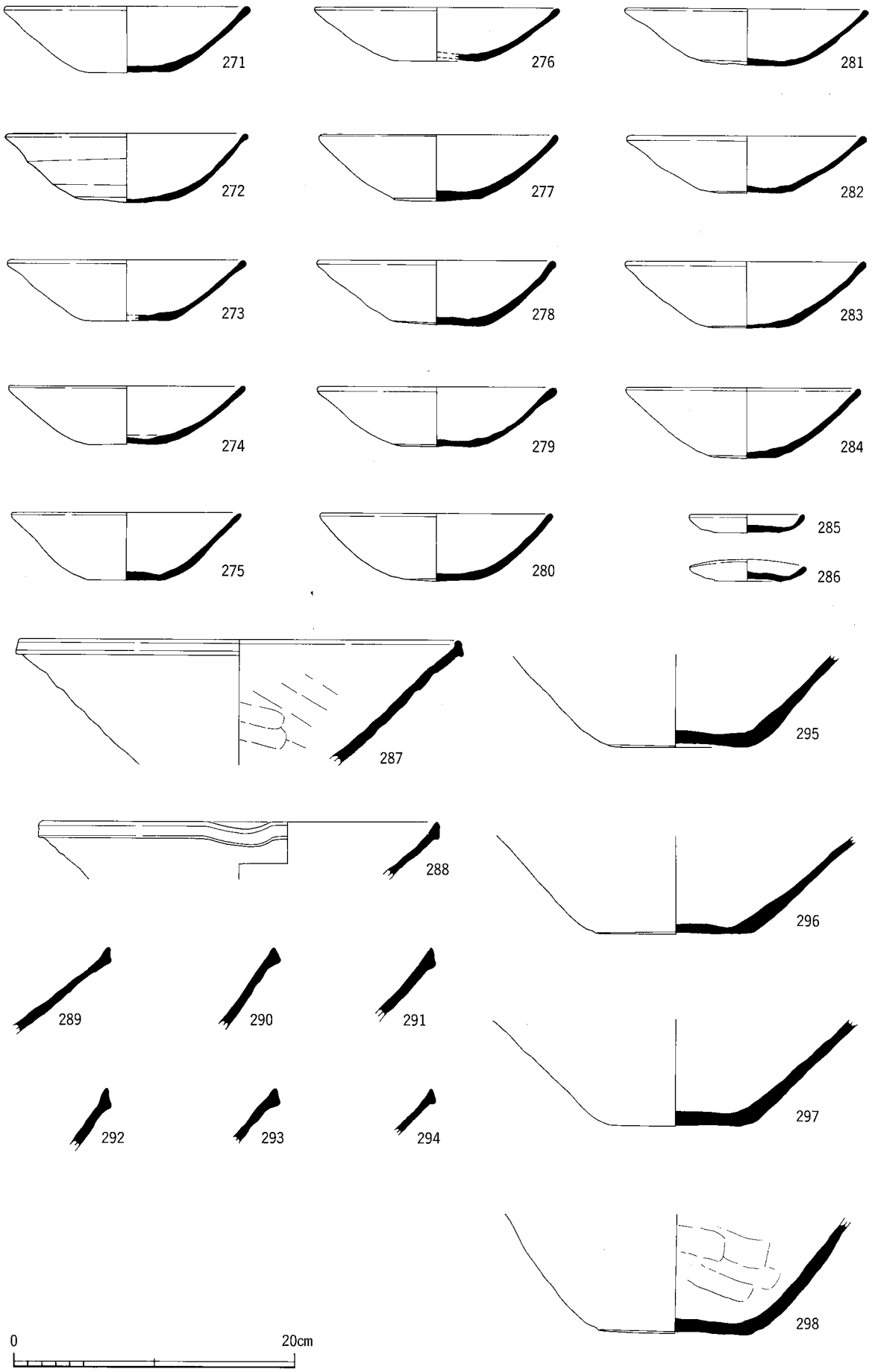

243
247
244
248
245
249
246
250
251
253
252
254
255
256
257
0
20cm

図版54

6号窯出土須恵器・土師器

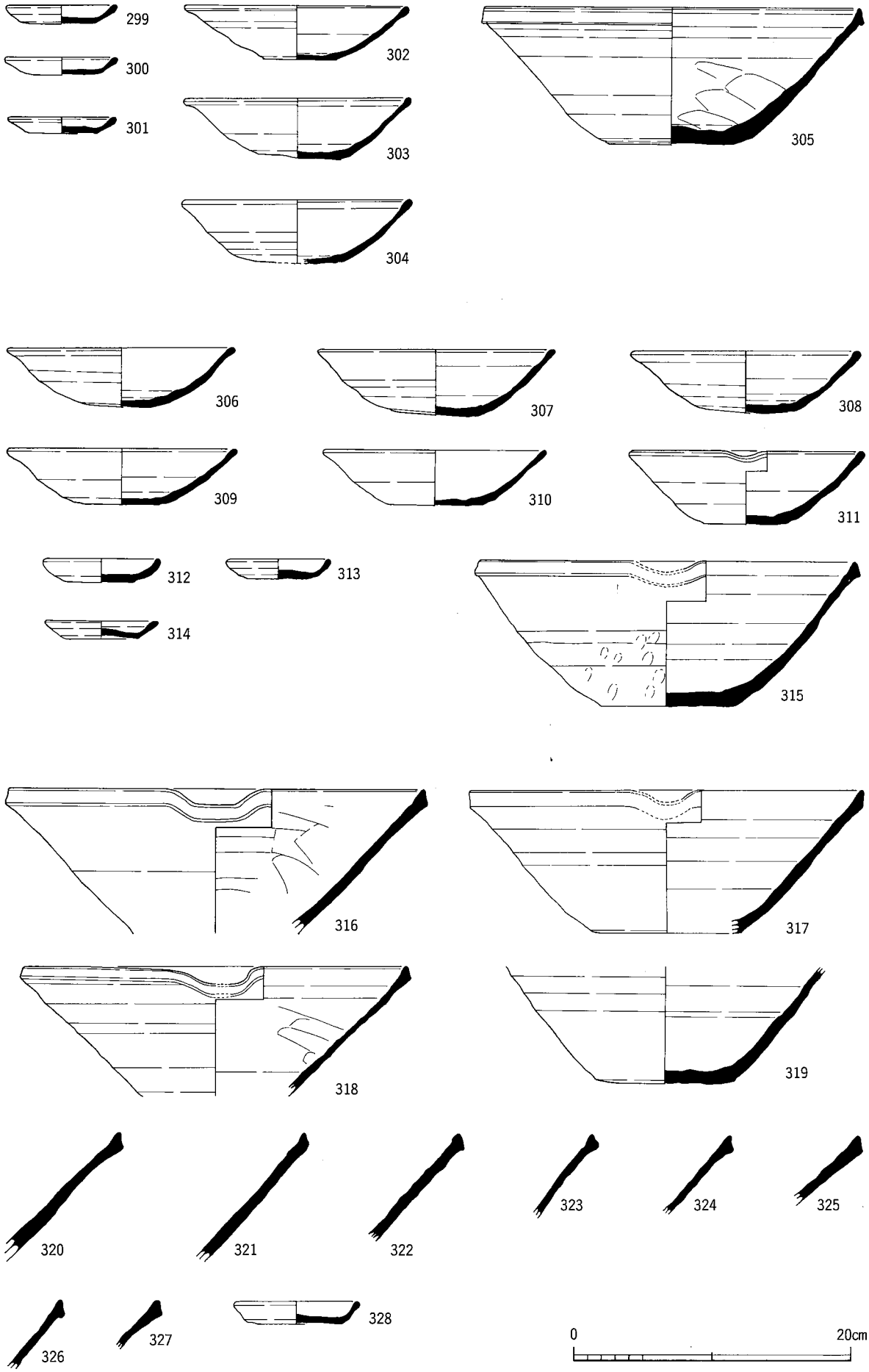


7号窯出土須恵器(1)

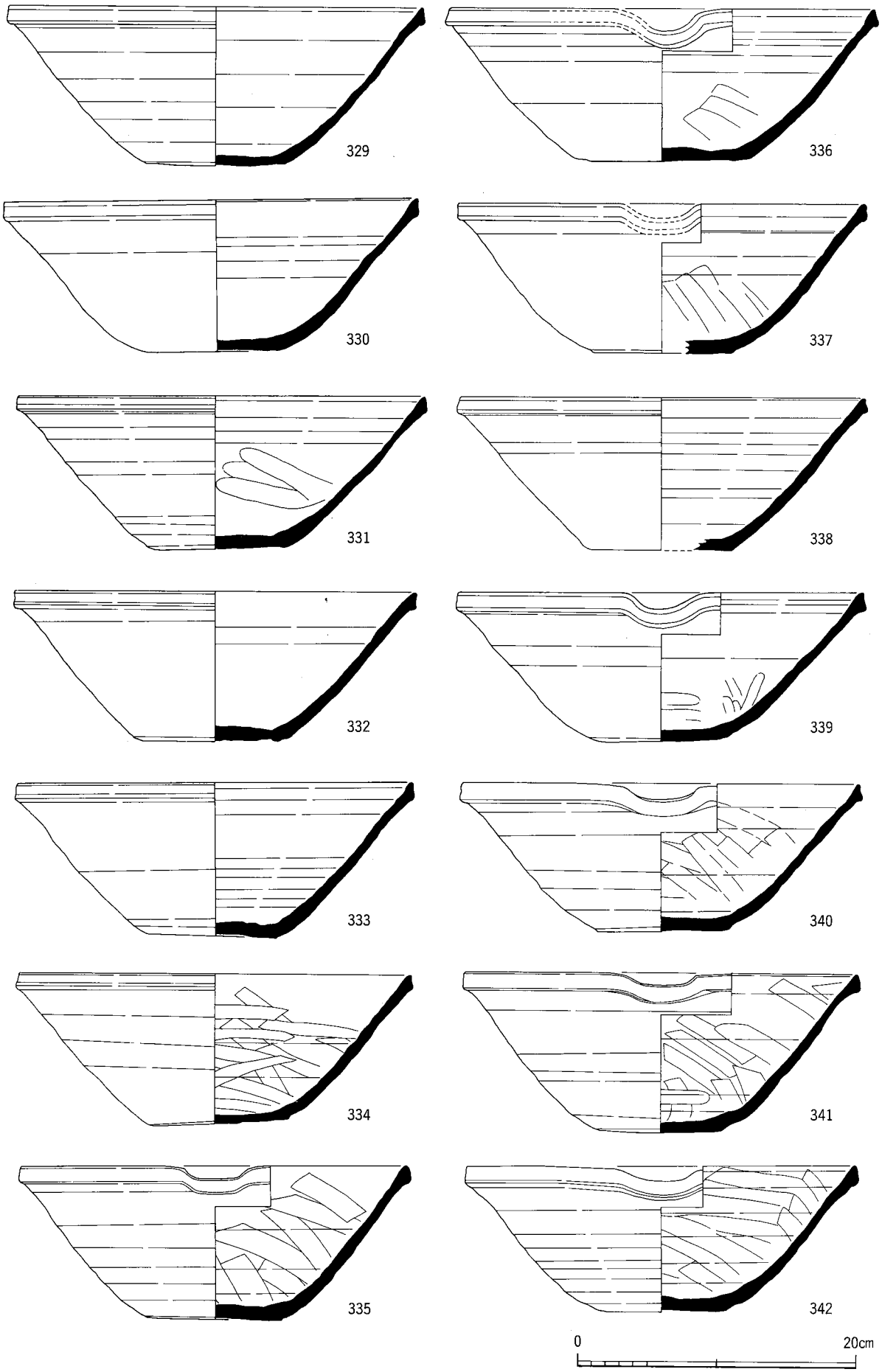

271
272
273
274
275
276
277
278
279
280
281
282
283
284
285
286
287
288
289
290
291
292
293
294
295
296
297
298
0
20cm

図版56

7号窯出土須恵器(2)

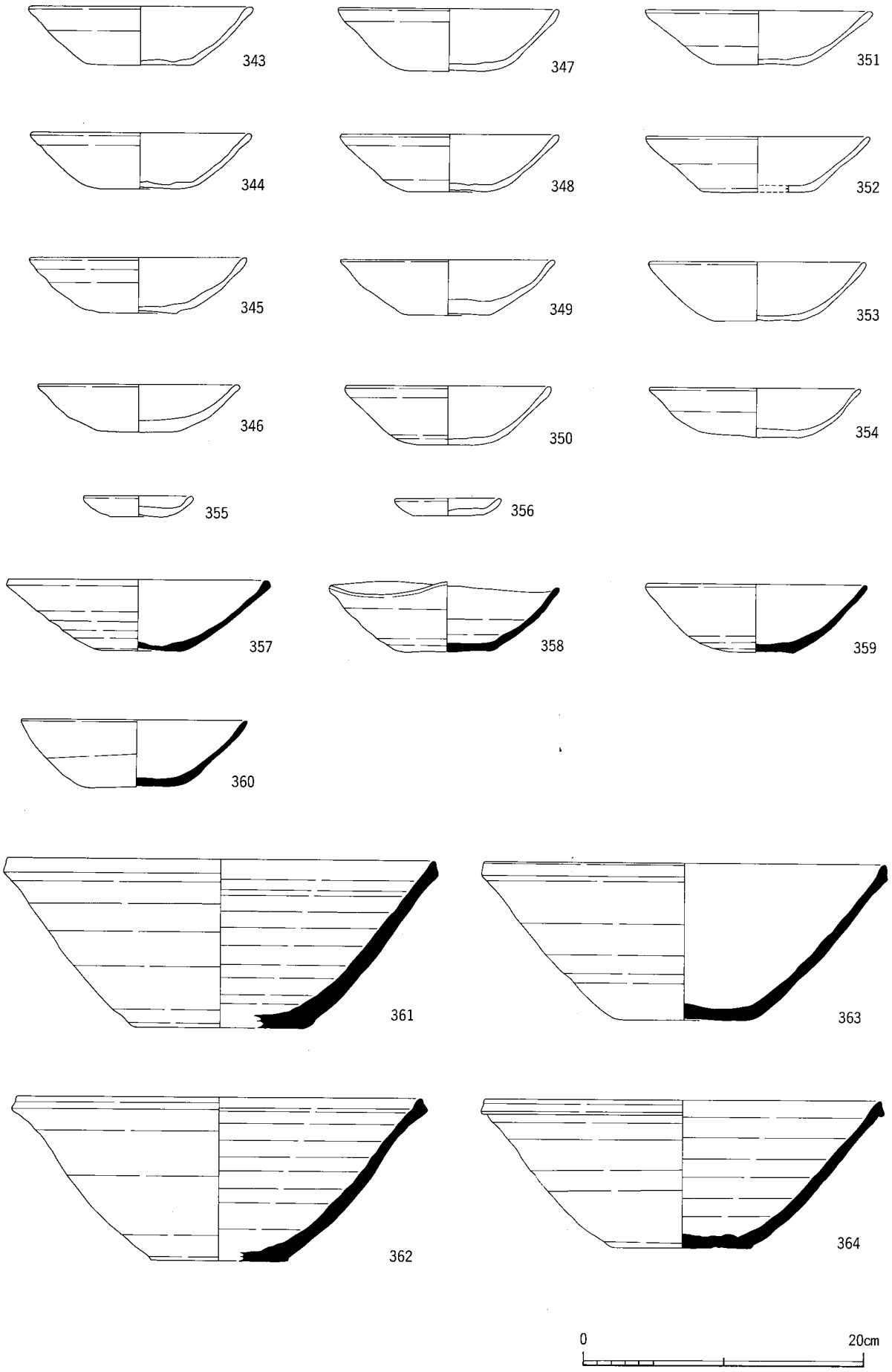


SD01出土須恵器・土師器(1)

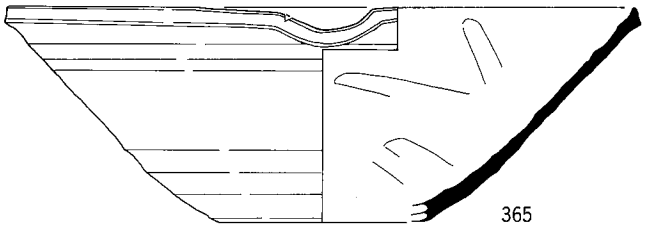


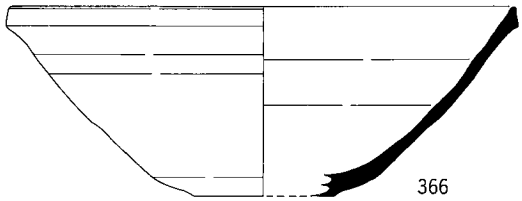
図版58

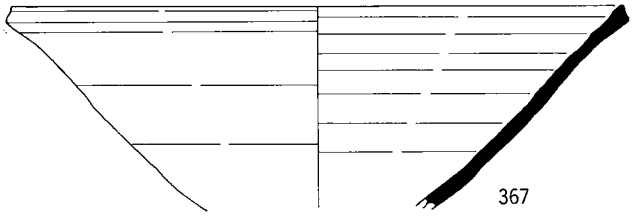
SD01出土須恵器・土師器(2)

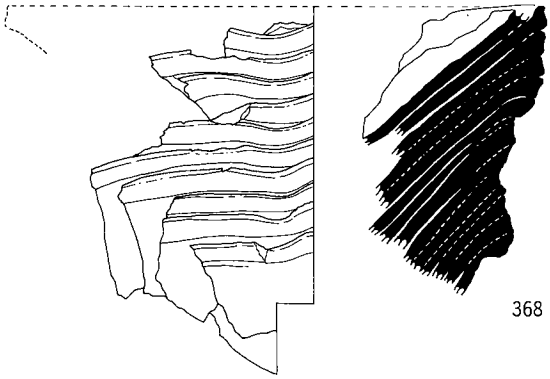


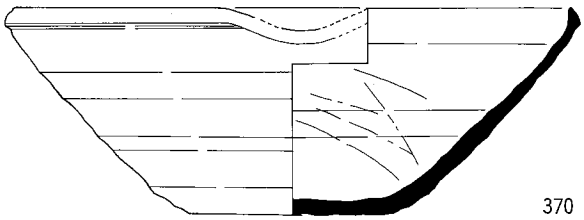
SD01出土須恵器・土師器(3)





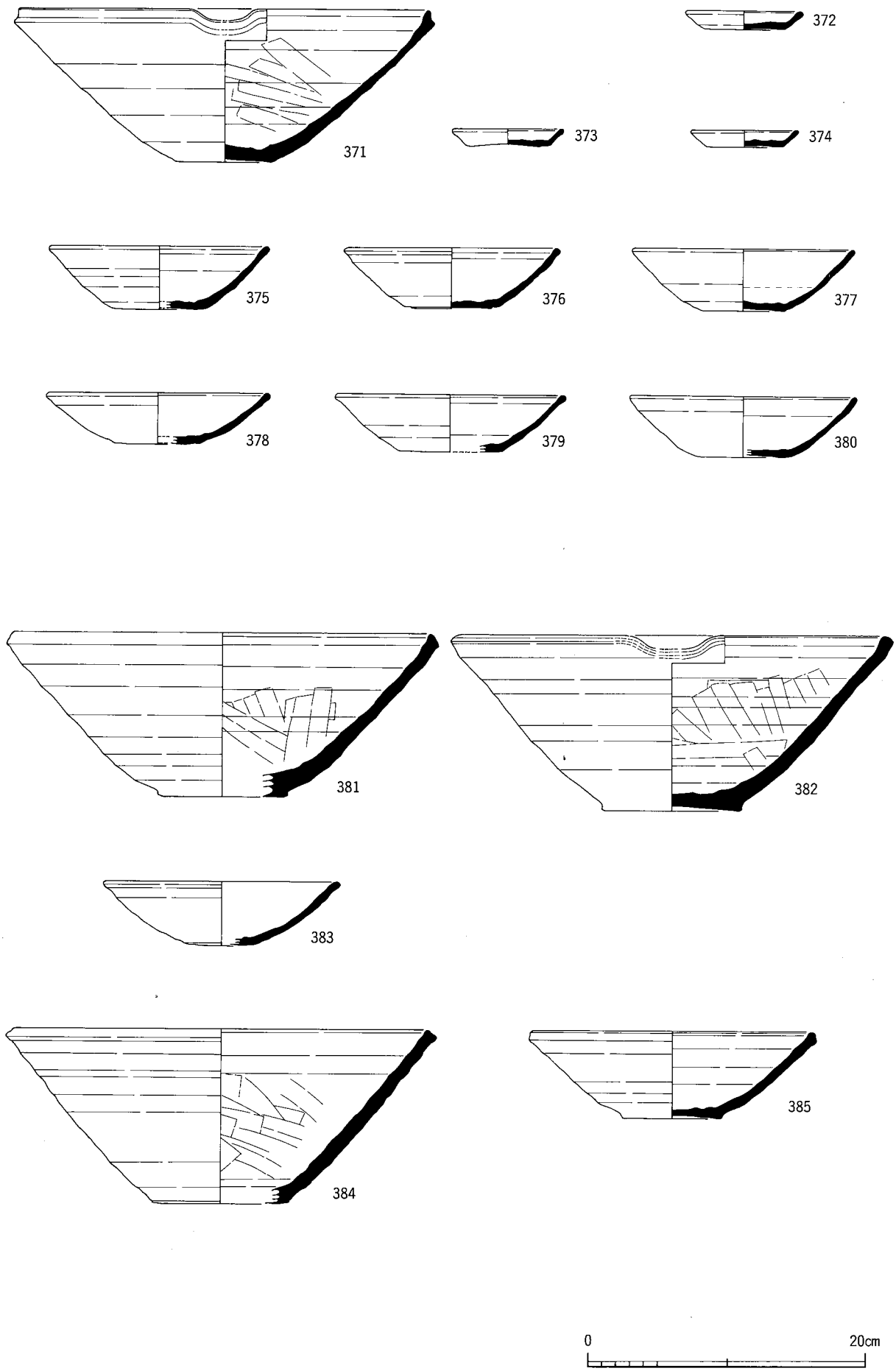




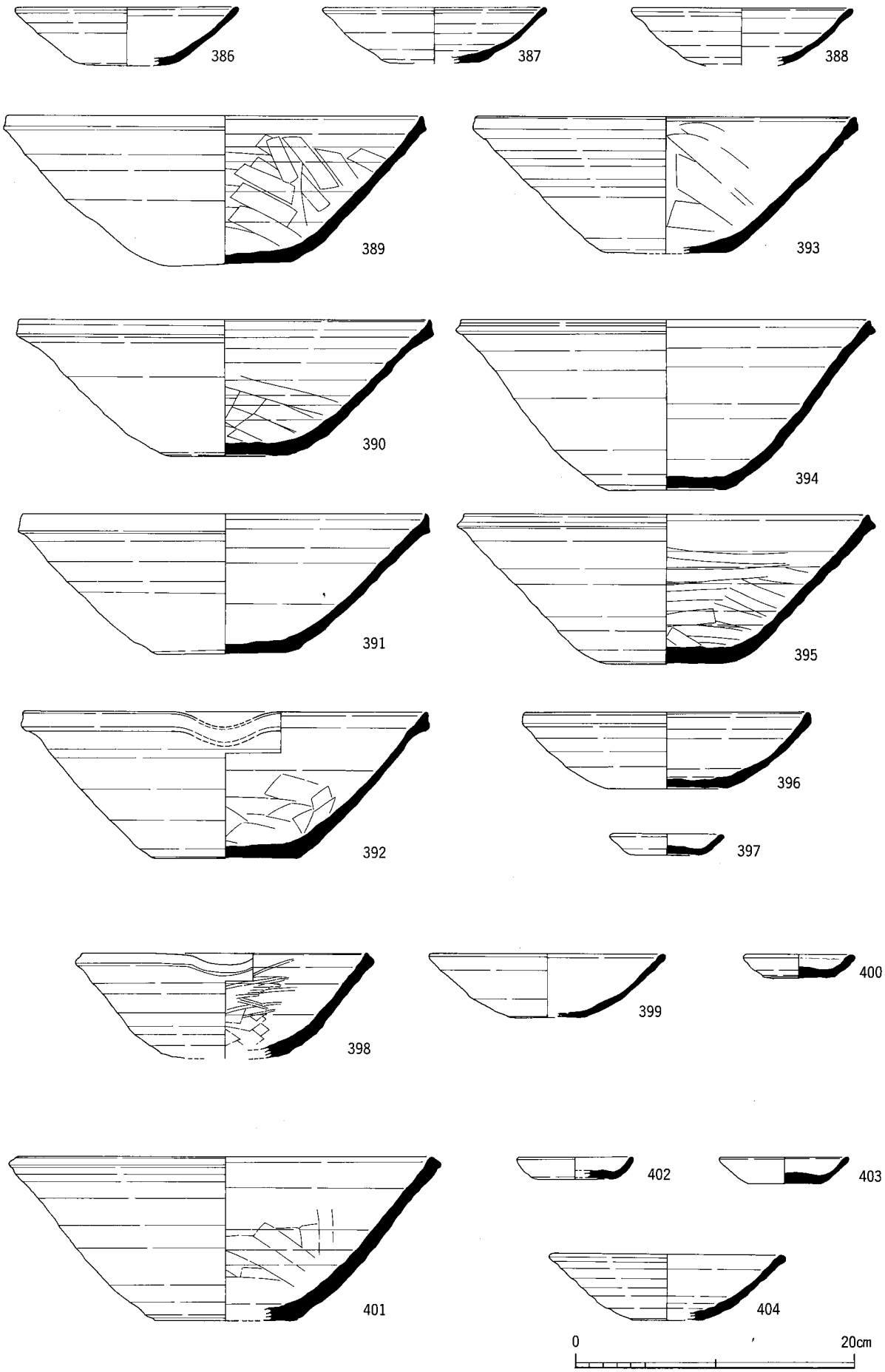


図版60

灰原A・B出土須恵器鉢・碗・小皿

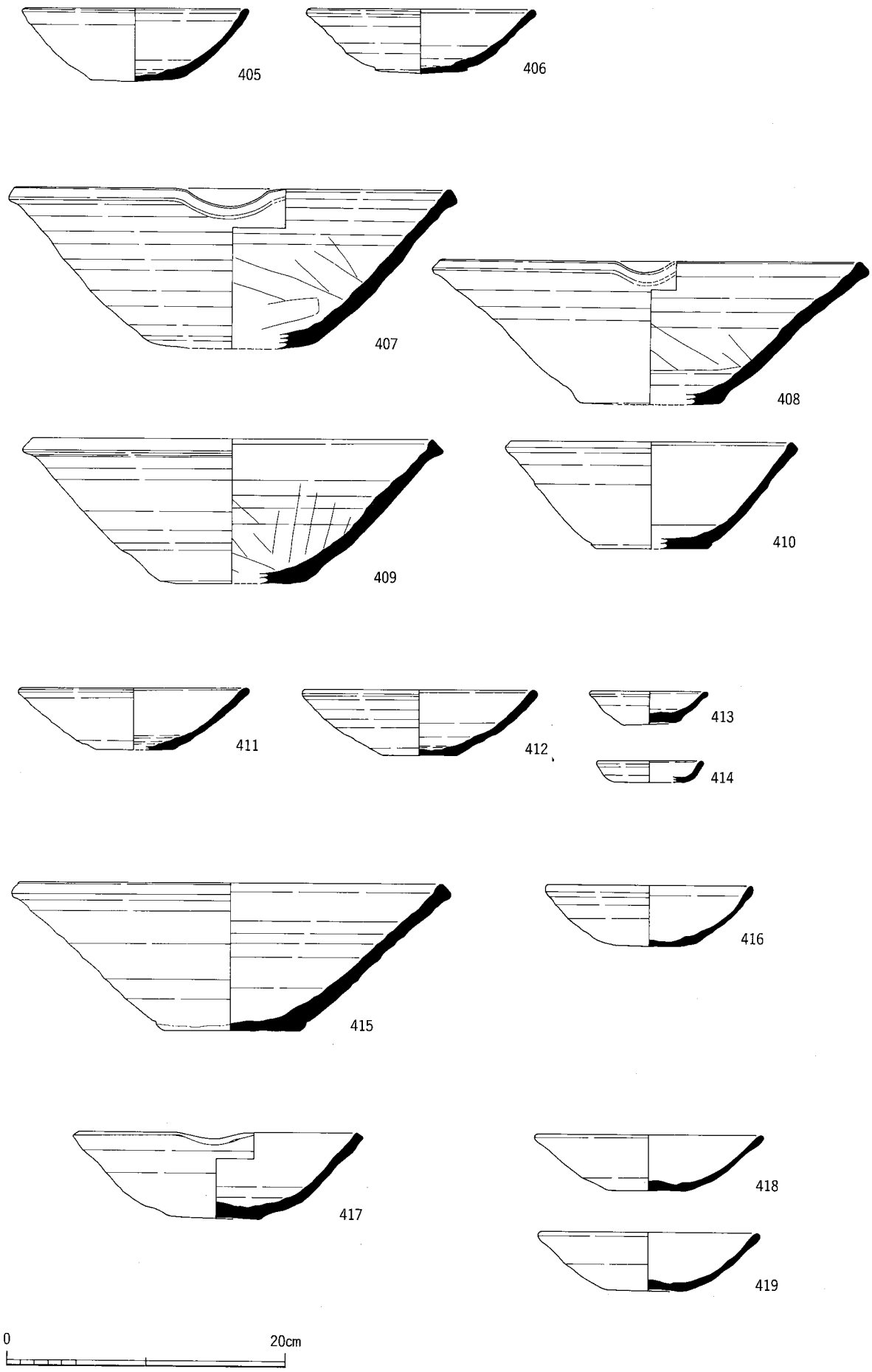


灰原C出土須恵器鉢・碗・小皿

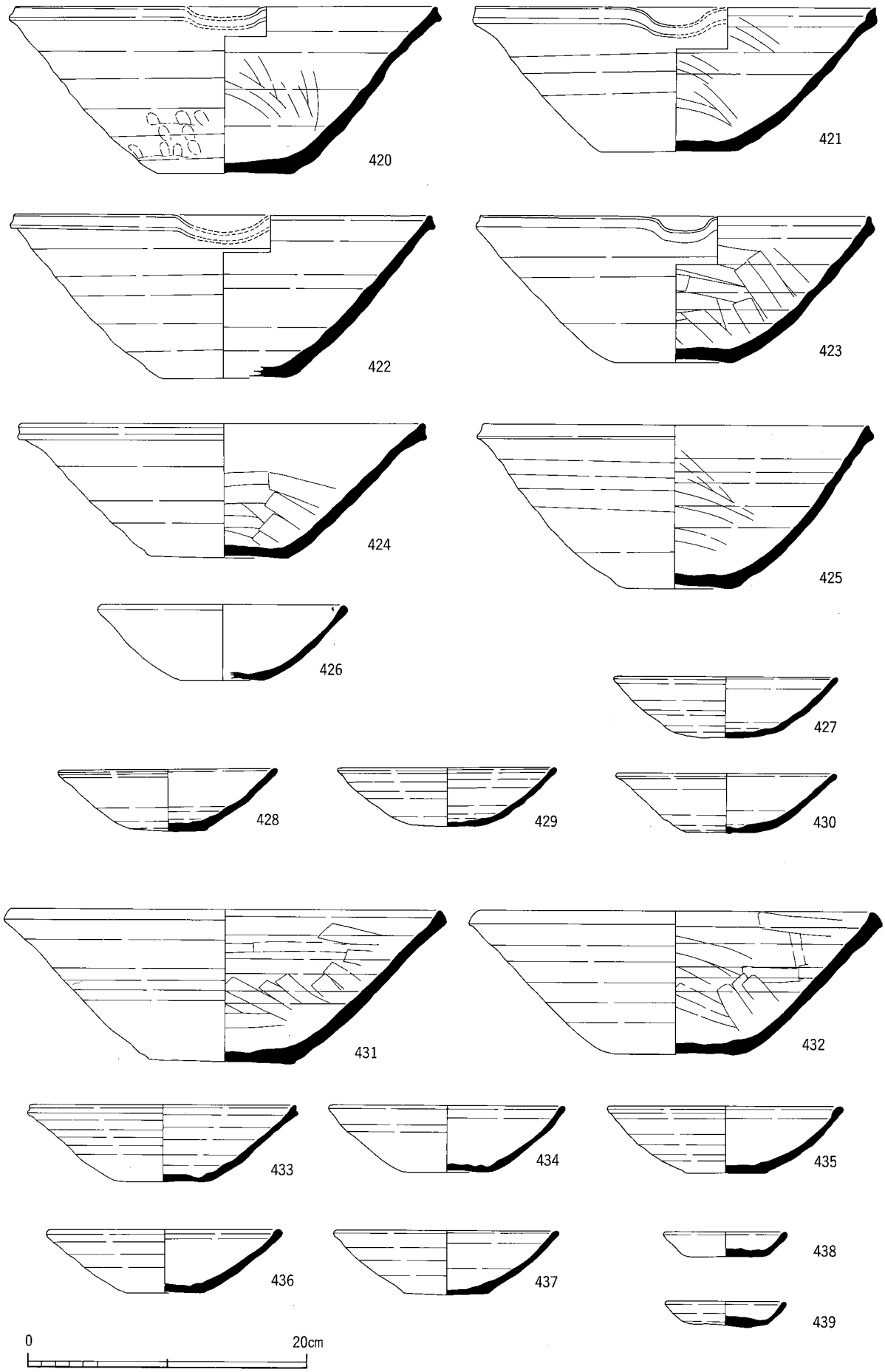


図版62

灰原E出土須恵器鉢・碗・小皿
灰原D出土須恵器鉢・碗・小皿(1)

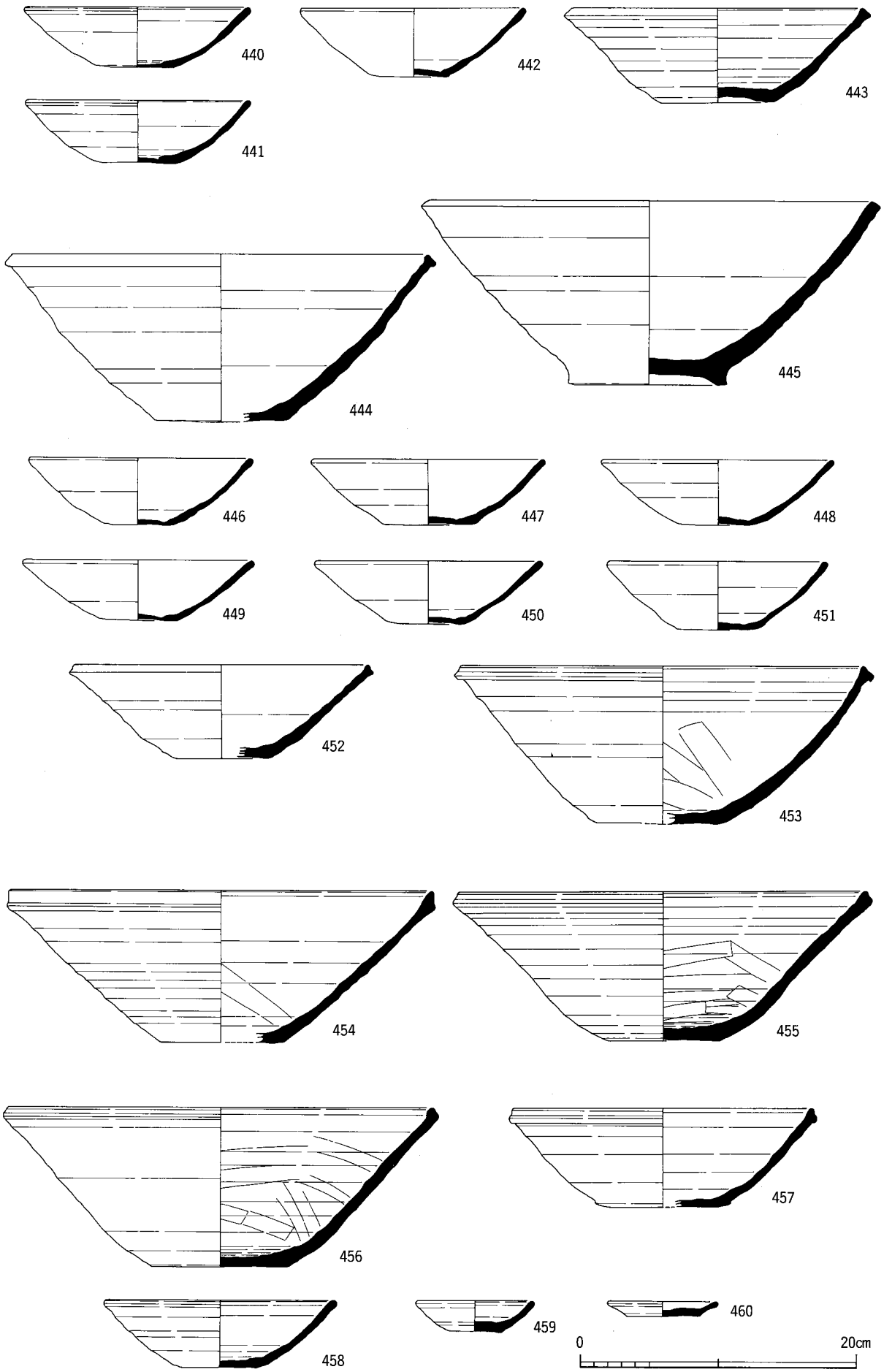


灰原D出土須恵器鉢・碗・小皿(2)

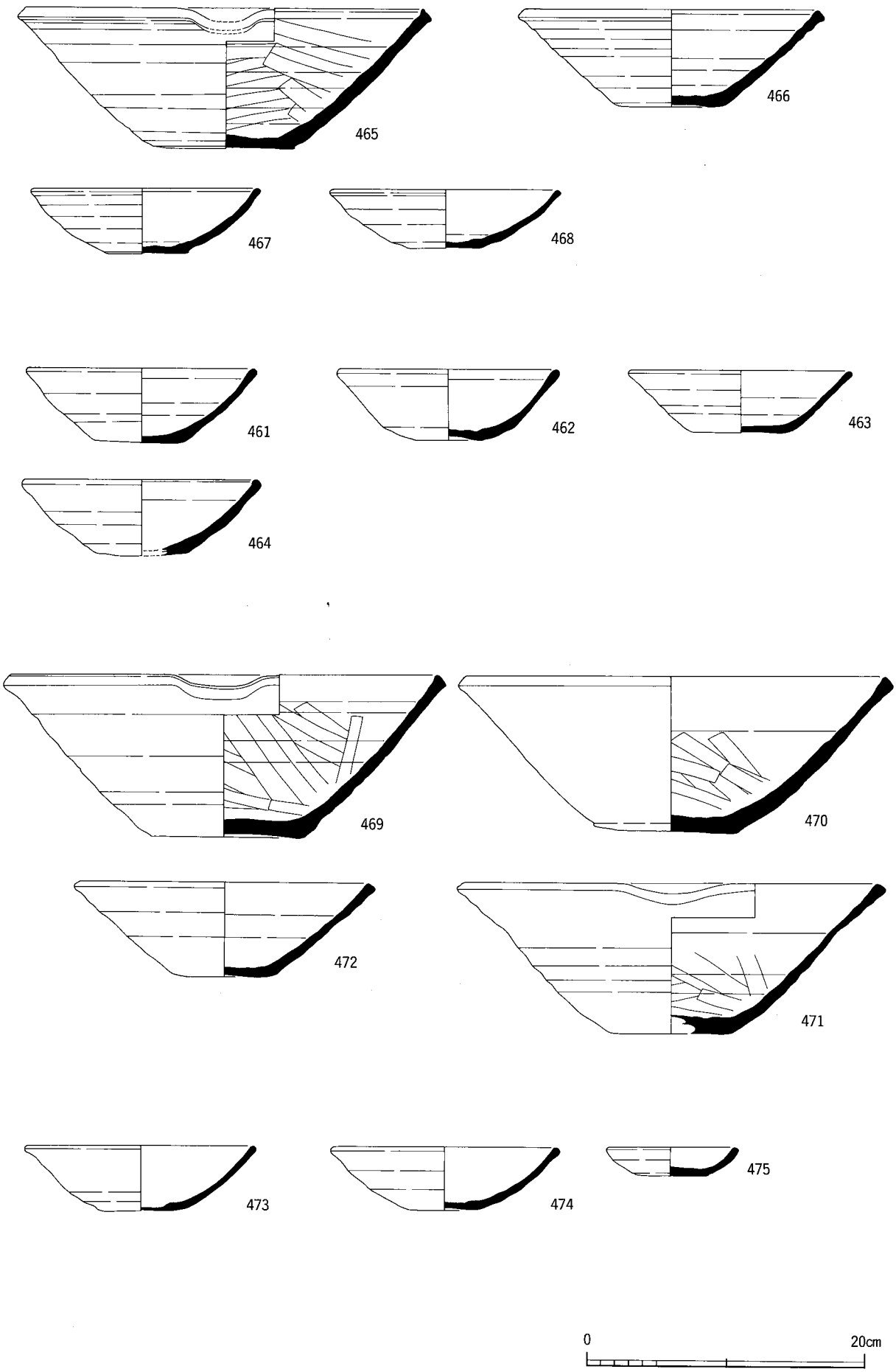


図版64

灰原D出土須恵器鉢・碗・小皿(3)

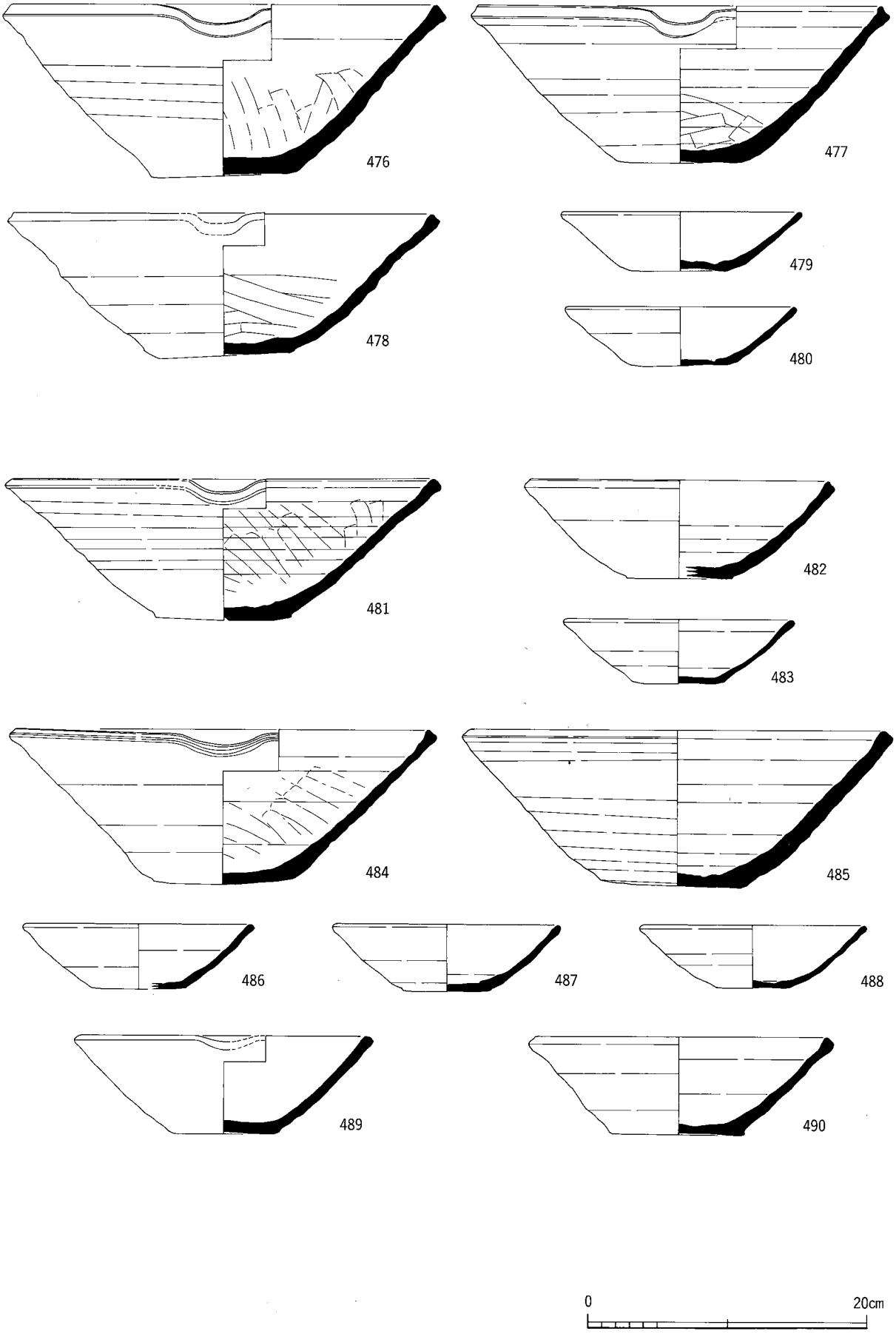


灰原D出土須恵器鉢・碗・小皿(4)

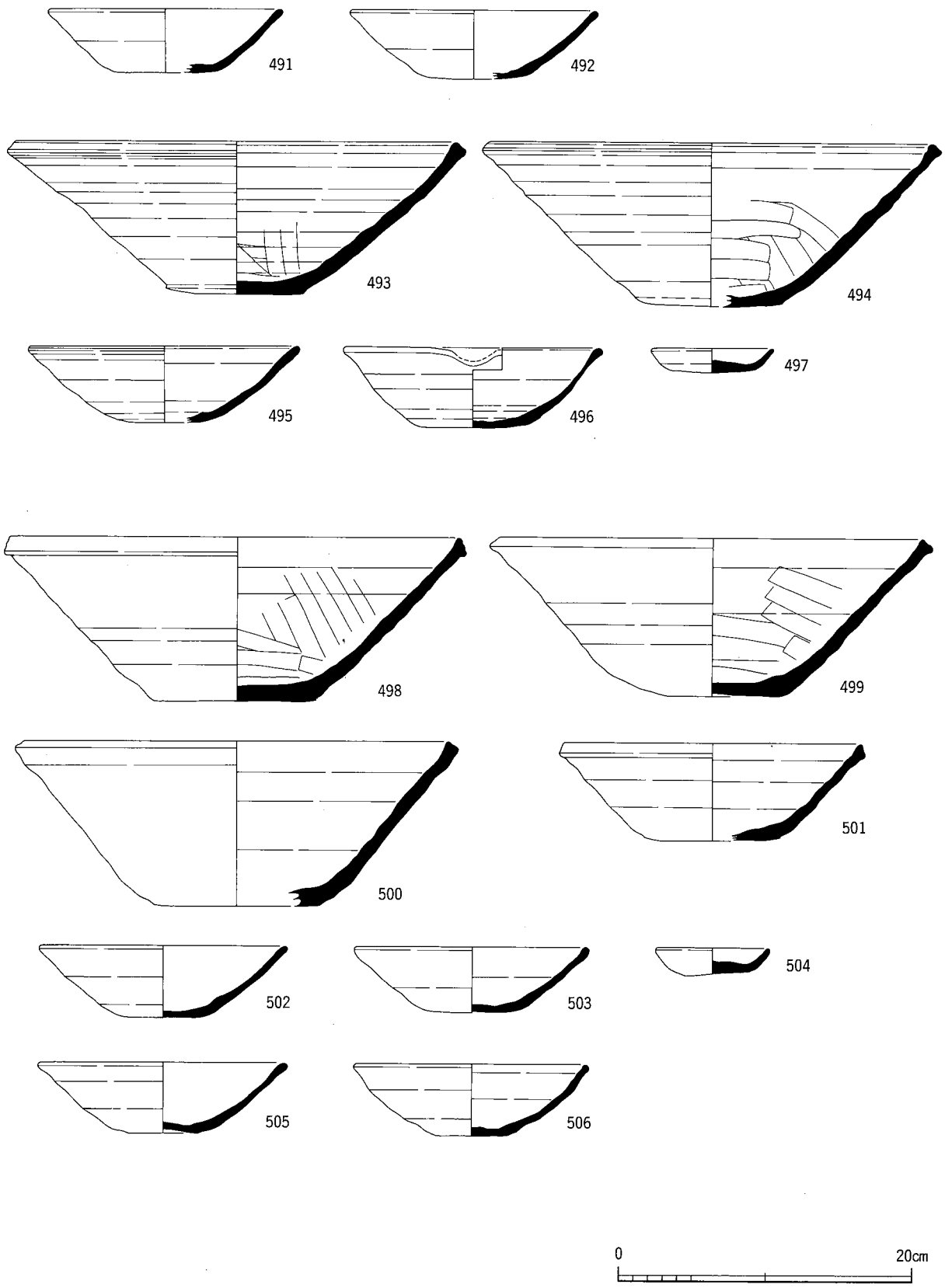


図版66

灰原D出土須恵器鉢・碗・小皿(4)

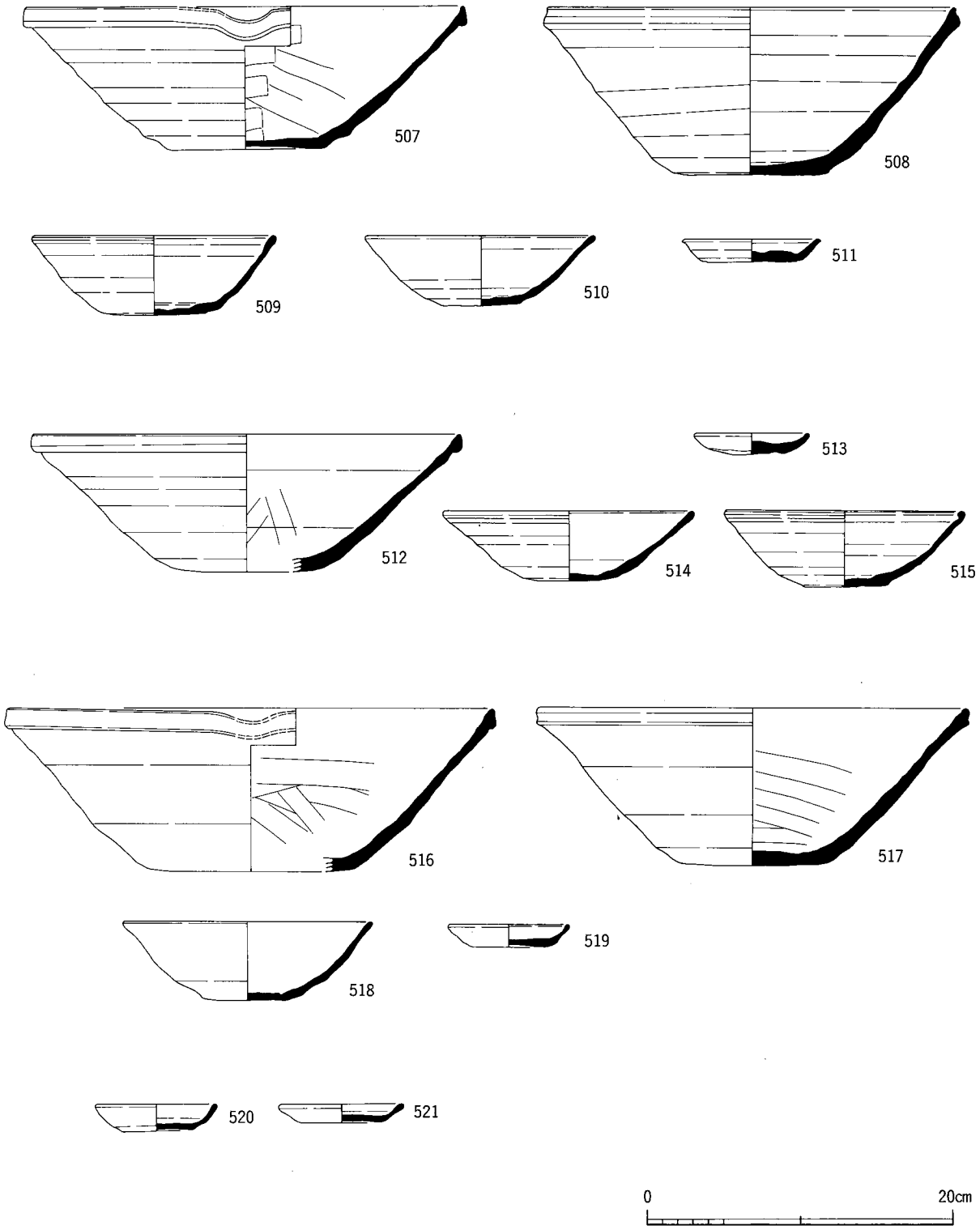


灰原F出土須恵器鉢・碗・小皿

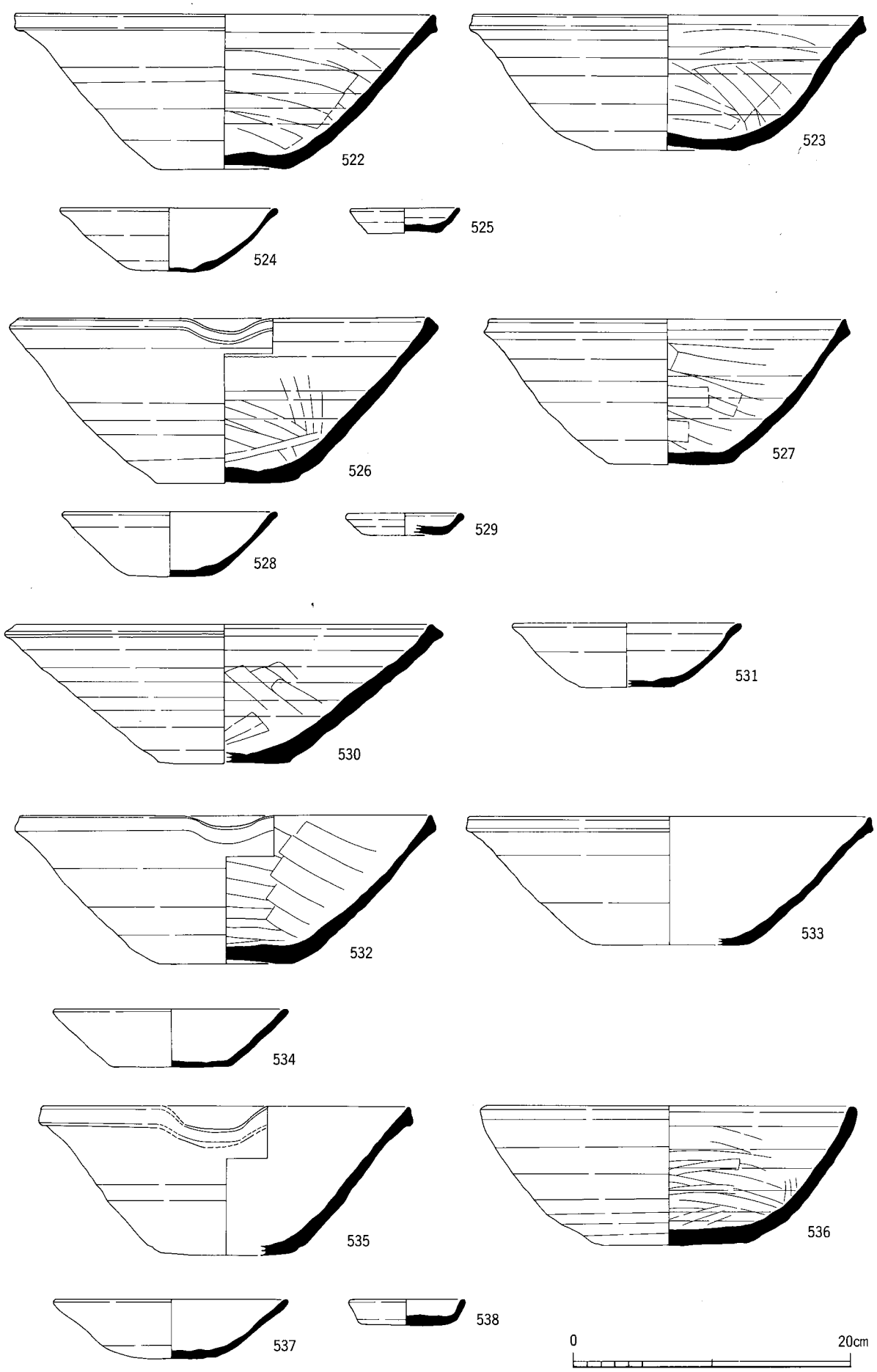


図版68

灰原G・I出土須恵器鉢・碗・小皿

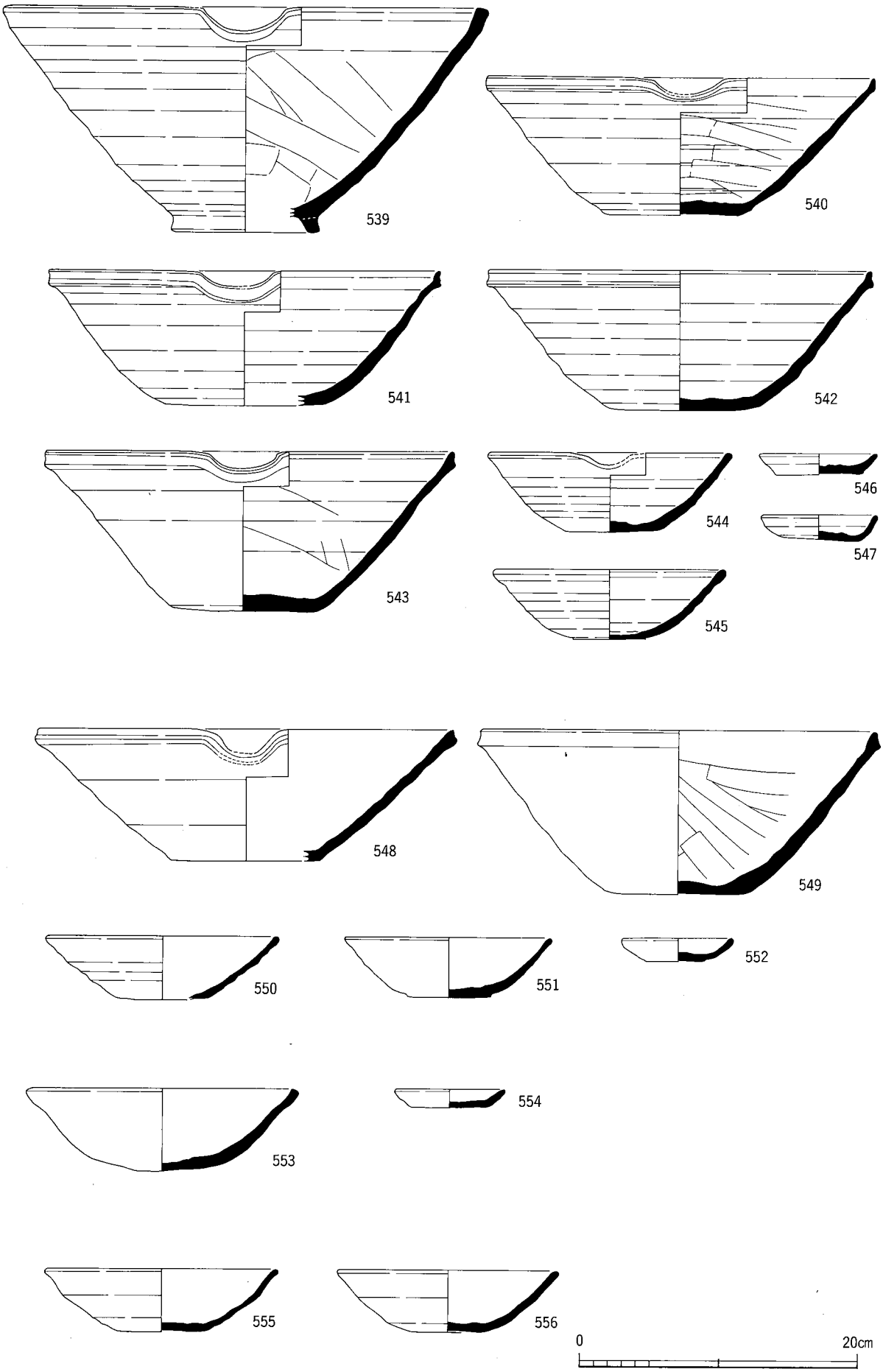


灰原H出土須恵器鉢・碗・小皿
灰原J出土須恵器鉢・碗・小皿(1)

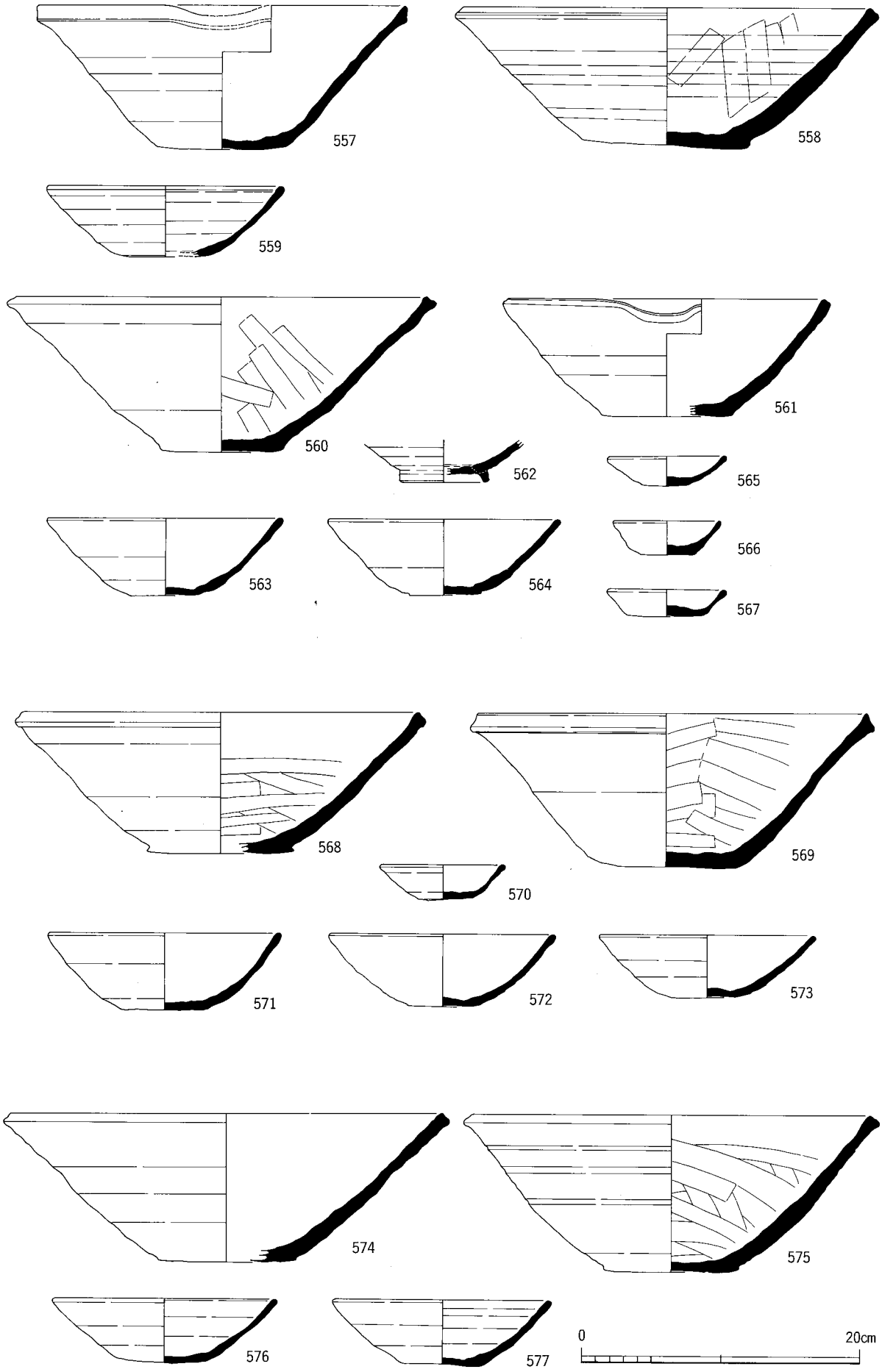


図版70

灰原J出土須恵器鉢・碗・小皿(2)

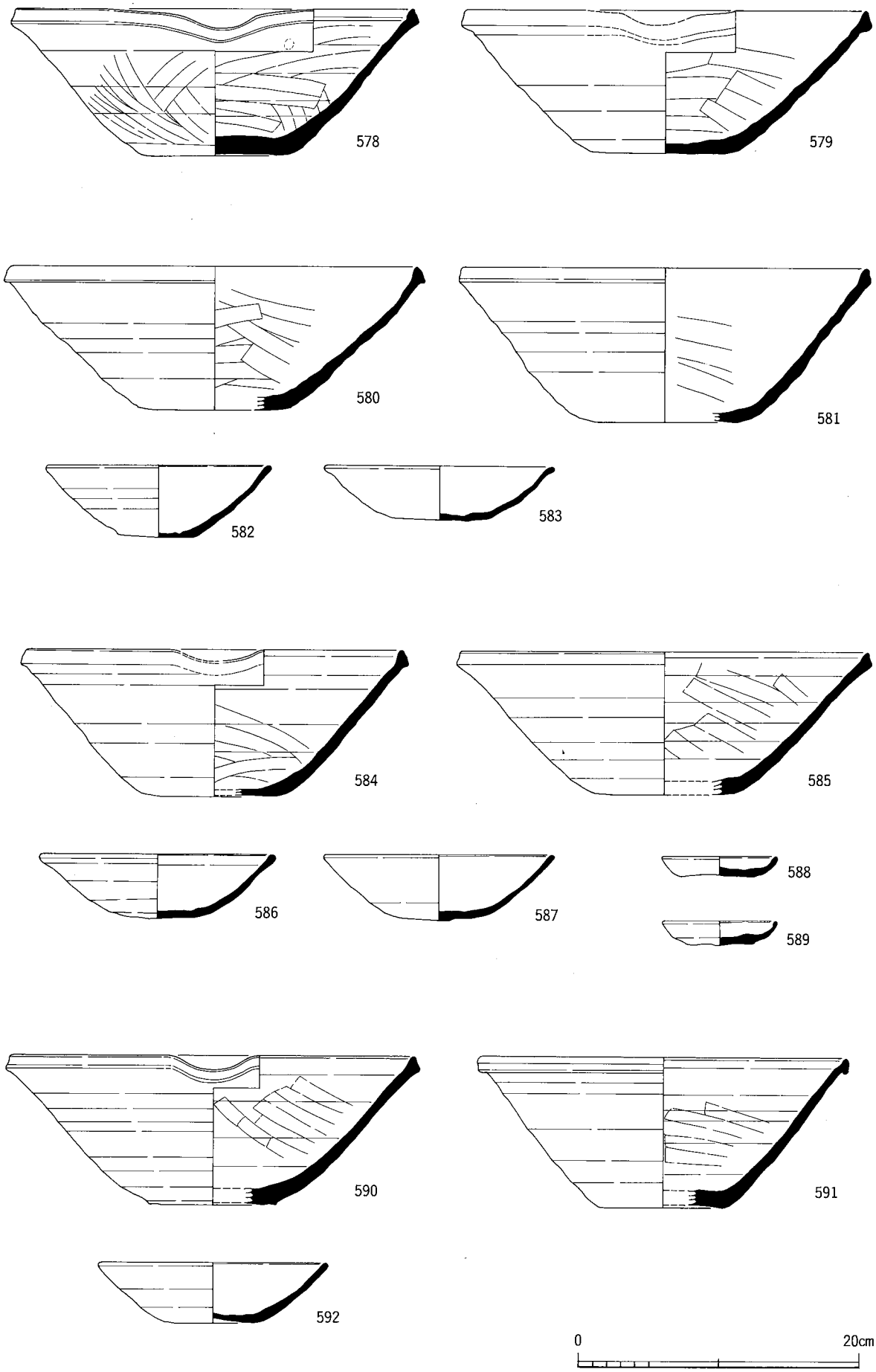


灰原K出土須恵器鉢・碗・小皿

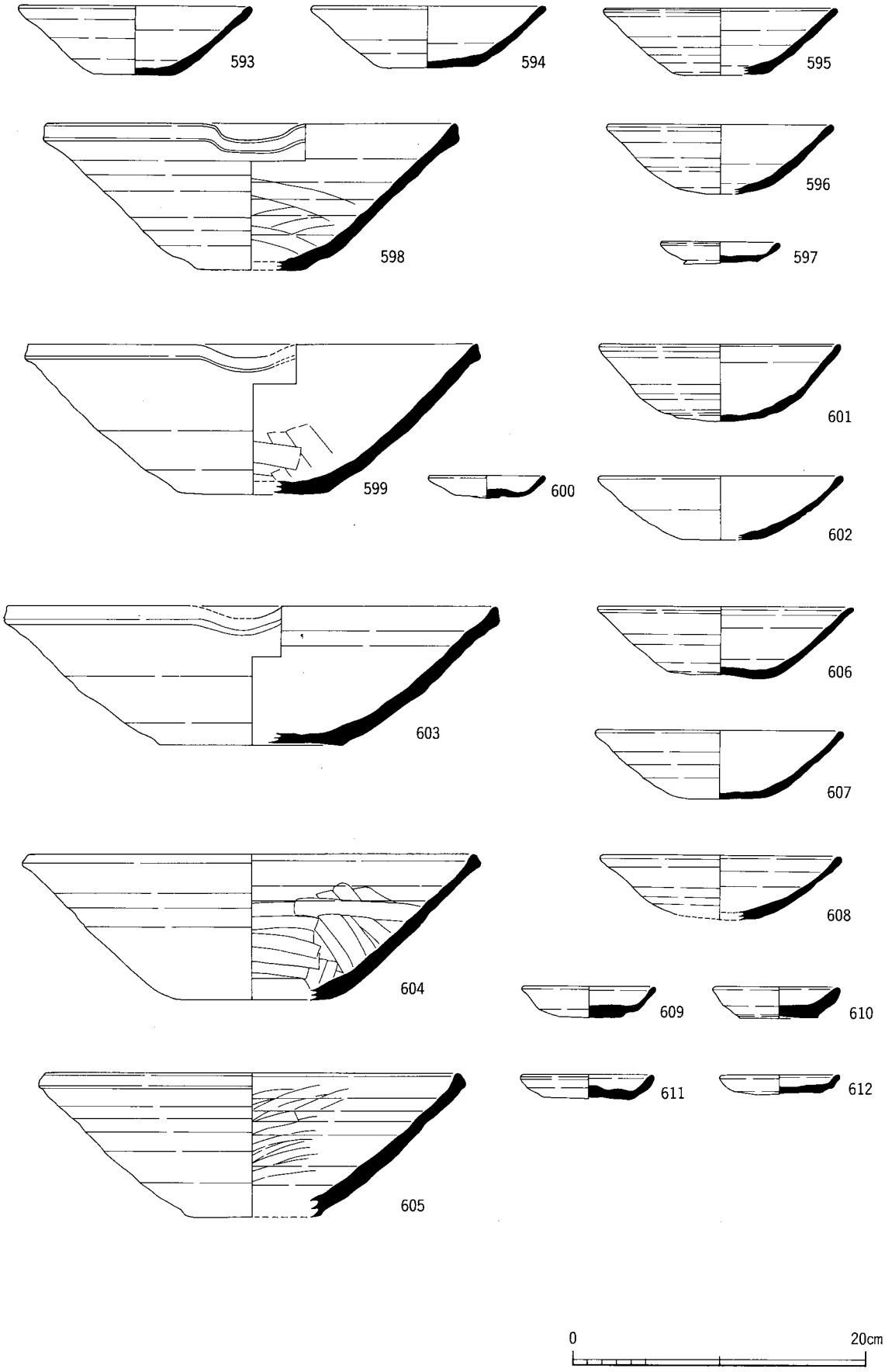


図版72

灰原M・L出土須恵器鉢・碗・小皿

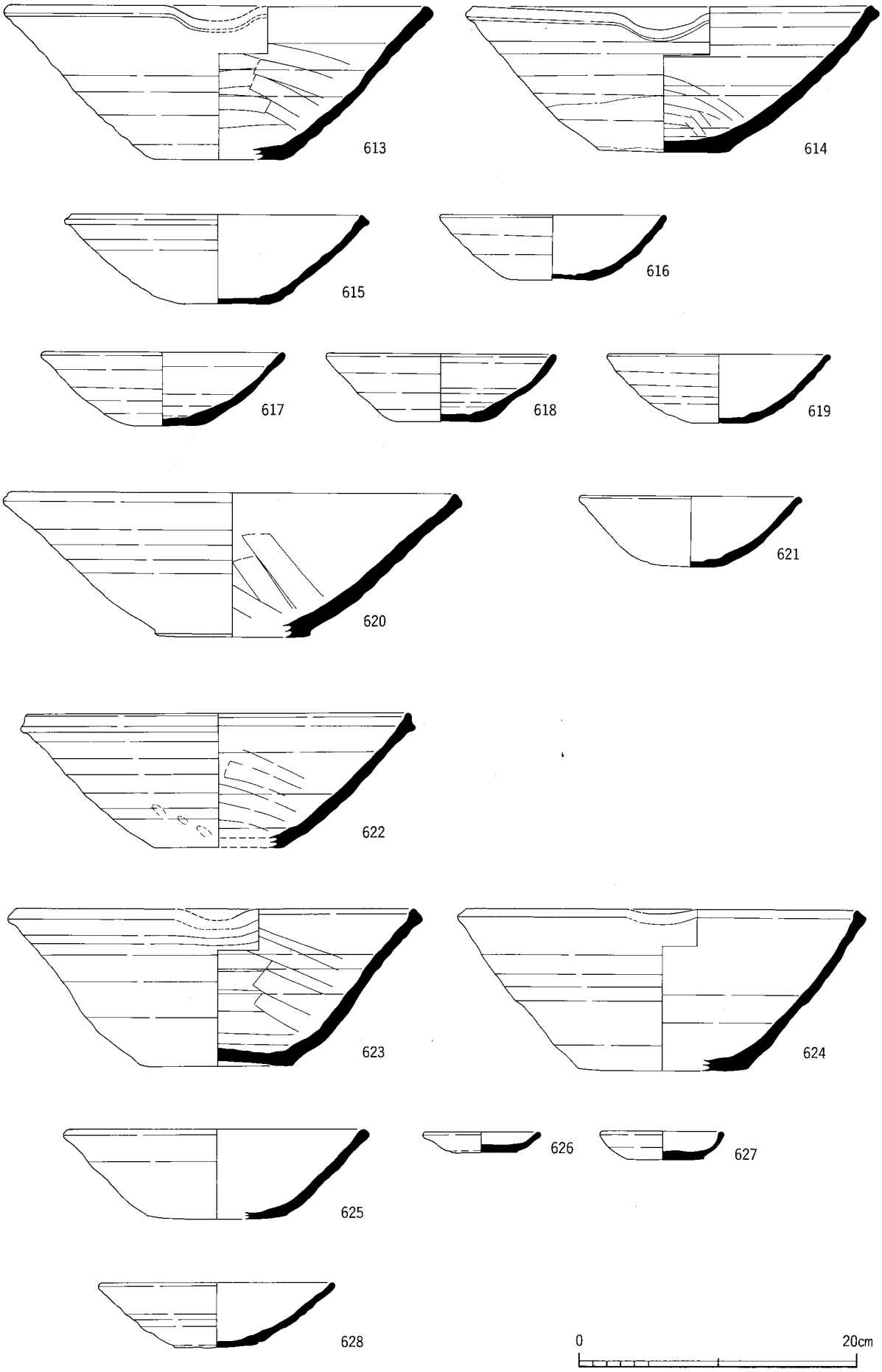


灰原N出土須恵器鉢・碗・小皿(1)

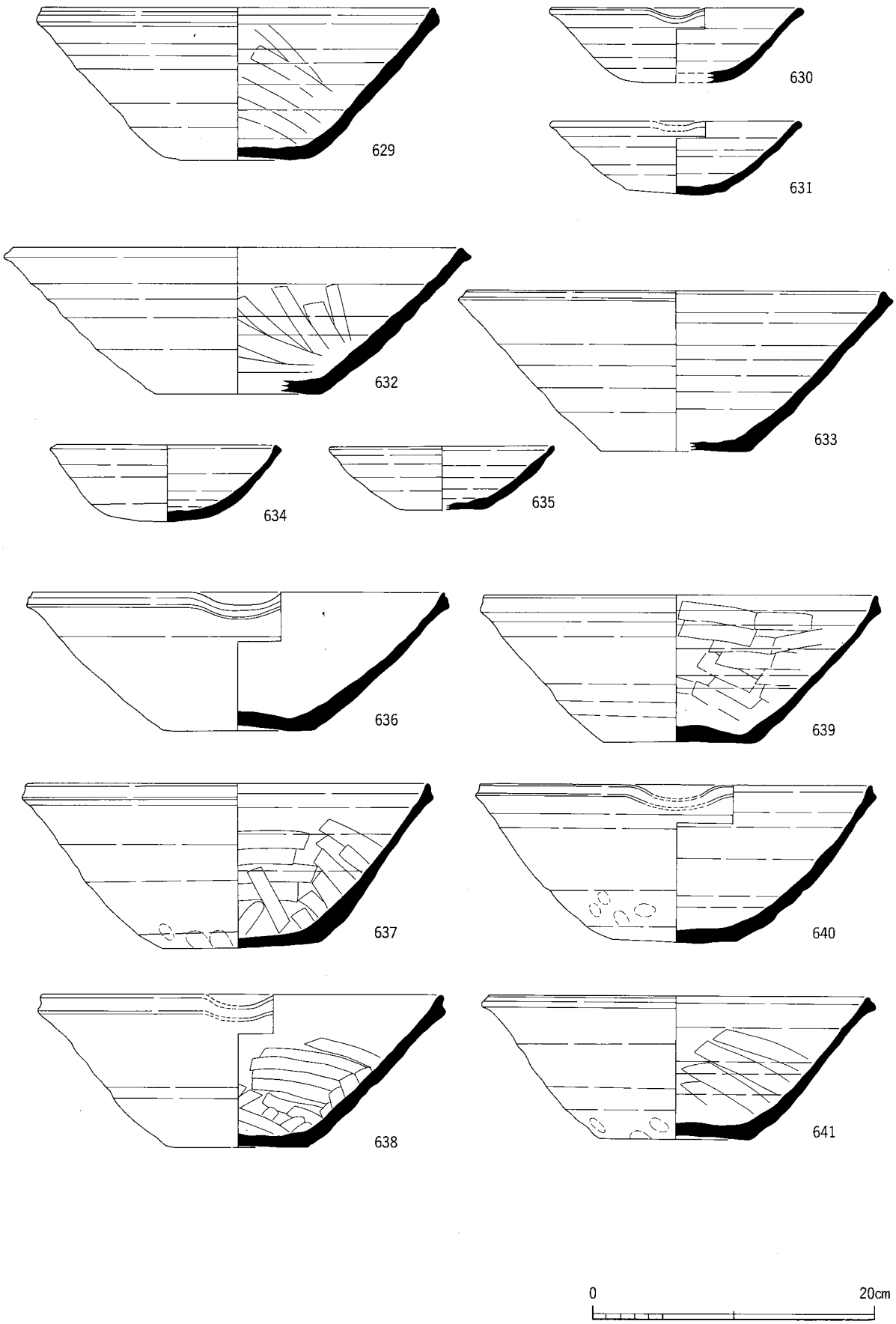


図版74

灰原N出土須恵器鉢・碗・小皿(2)
灰原O出土須恵器鉢・碗・小皿

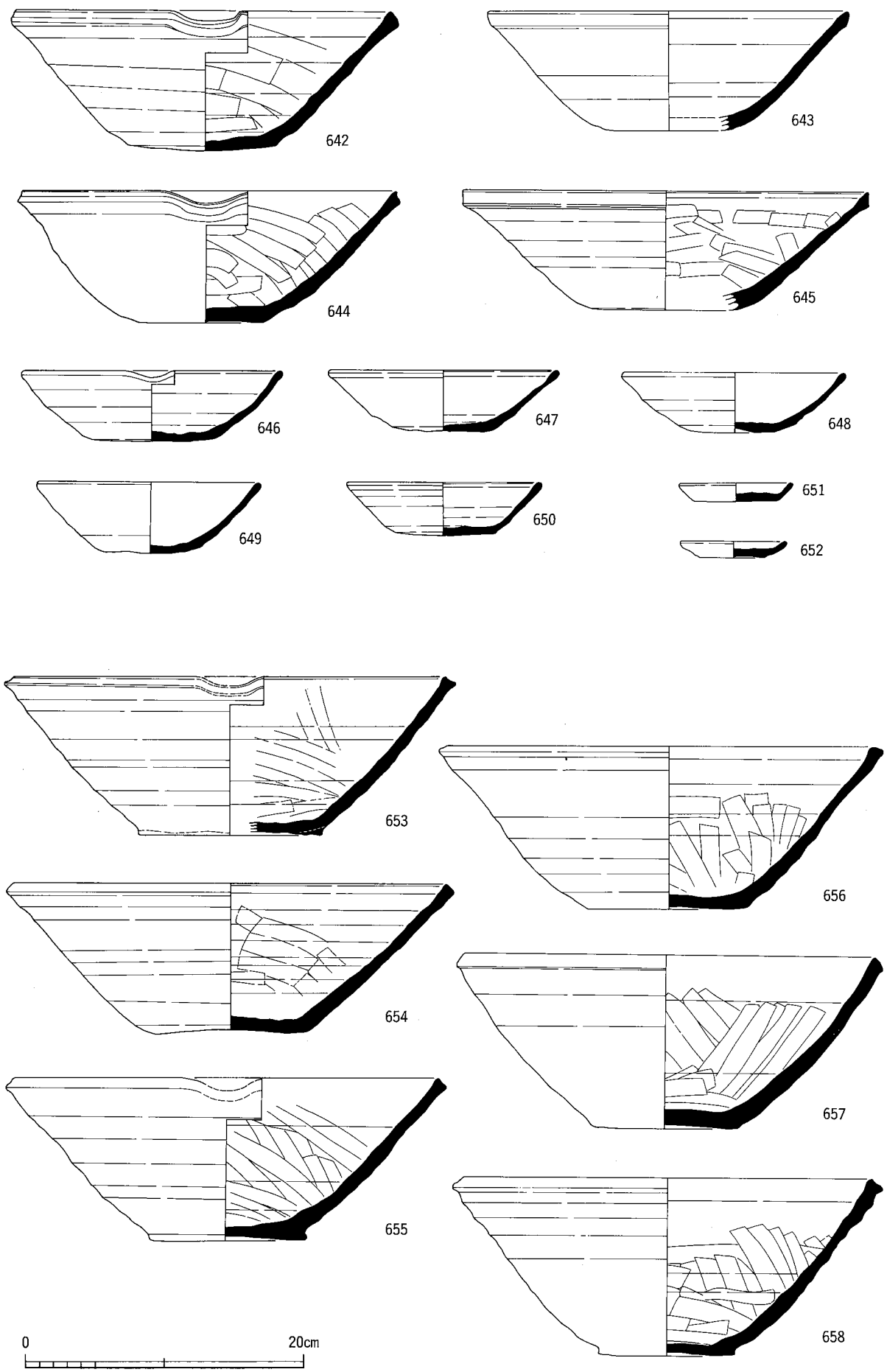


灰原P出土須恵器鉢・碗・小皿
灰原Q出土須恵器鉢・碗・小皿(1)

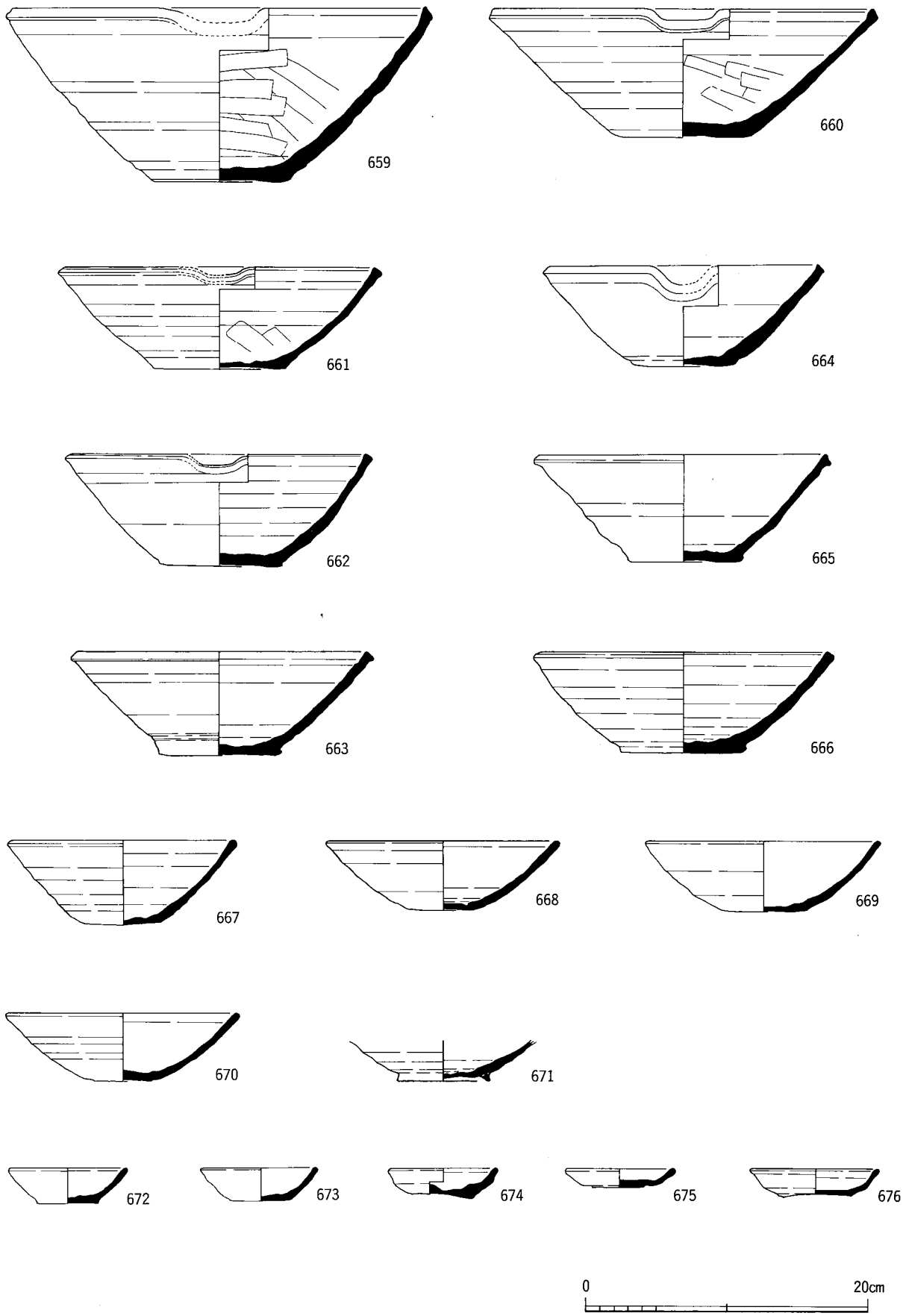


図版76

灰原Q出土須恵器鉢・碗・小皿(2)

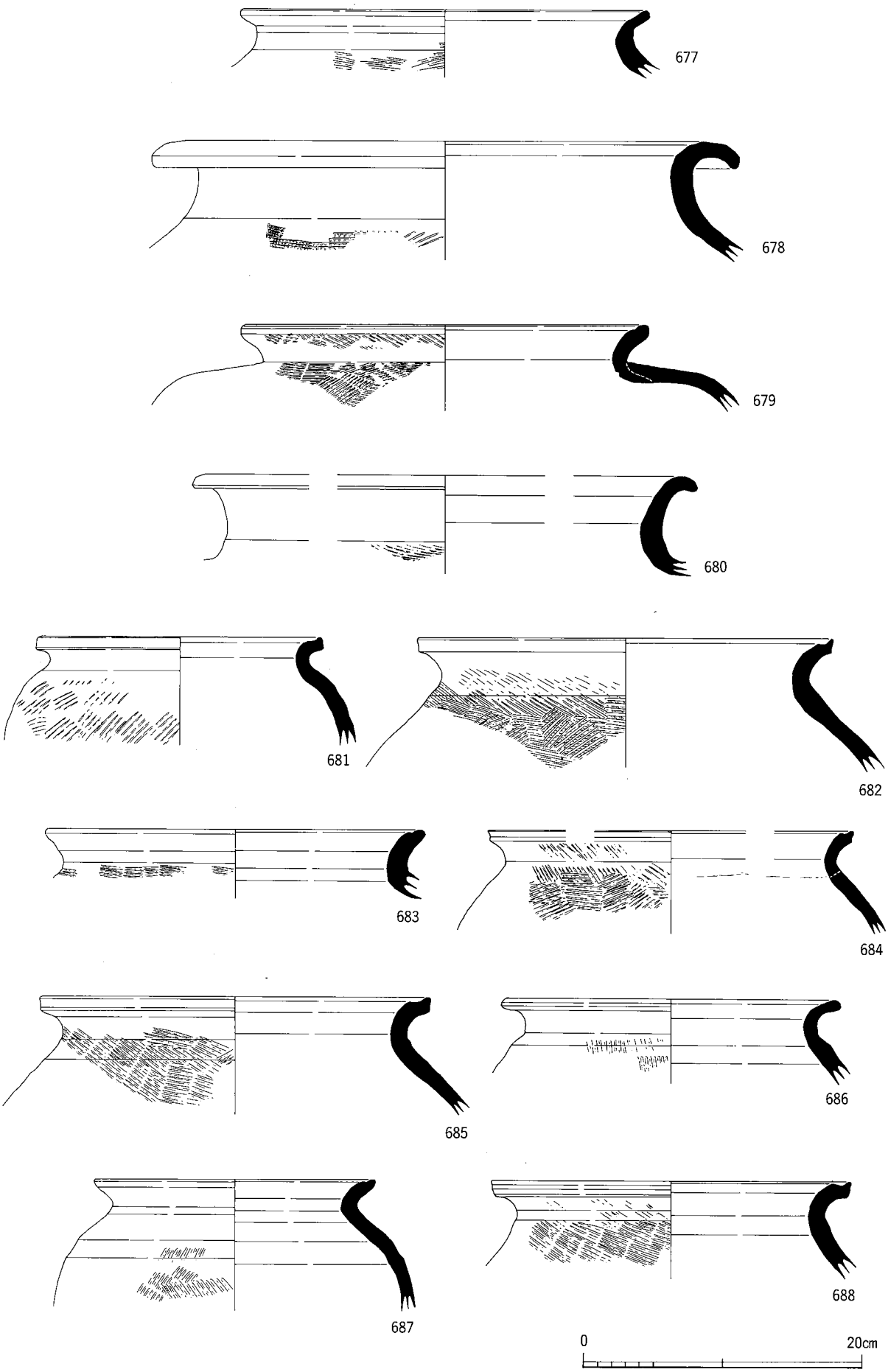


灰原Q出土須恵器鉢・碗・小皿(3)

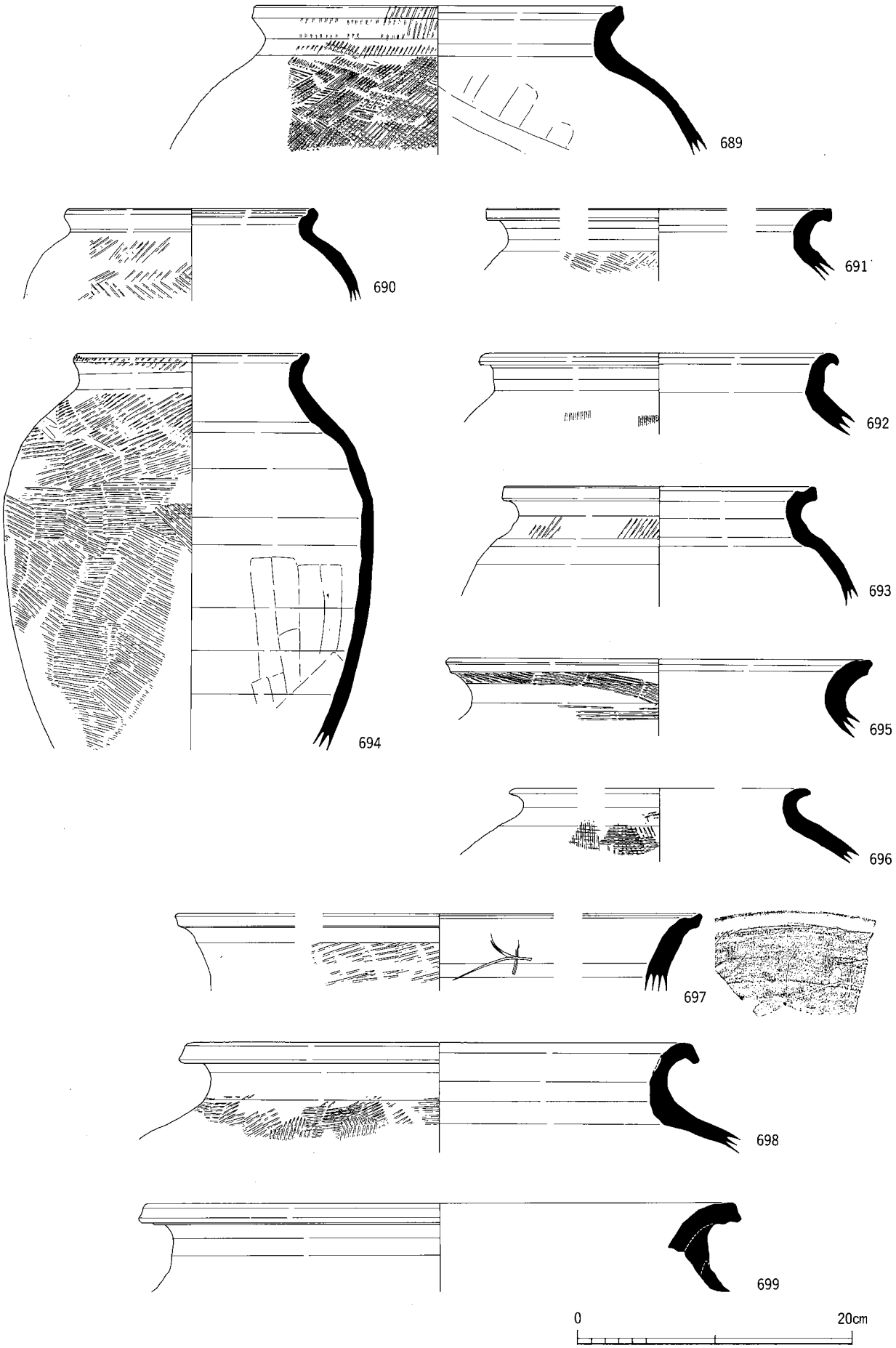


図版78

灰原A～F出土須恵器甕

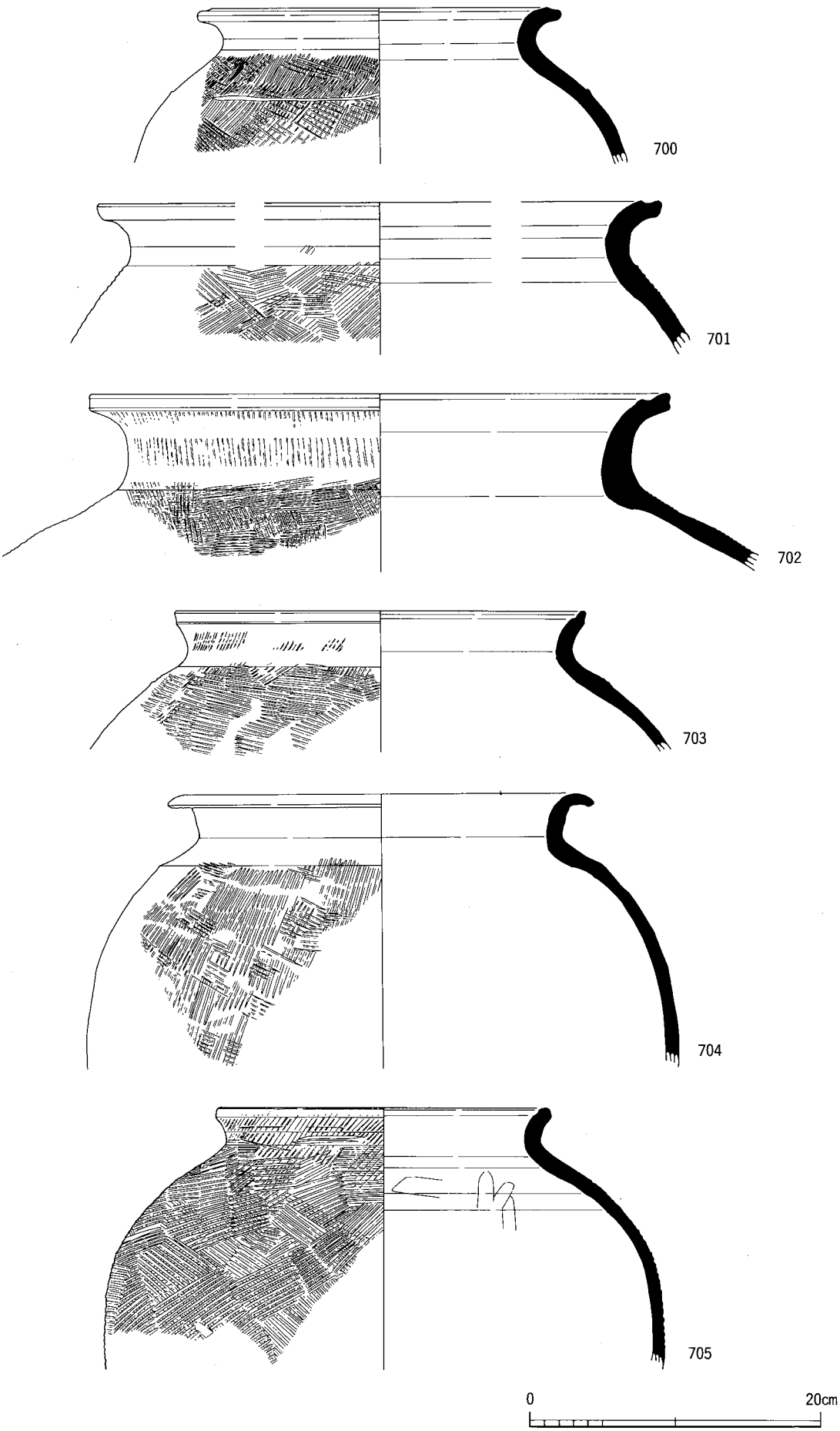


灰原G～I出土須恵器甕

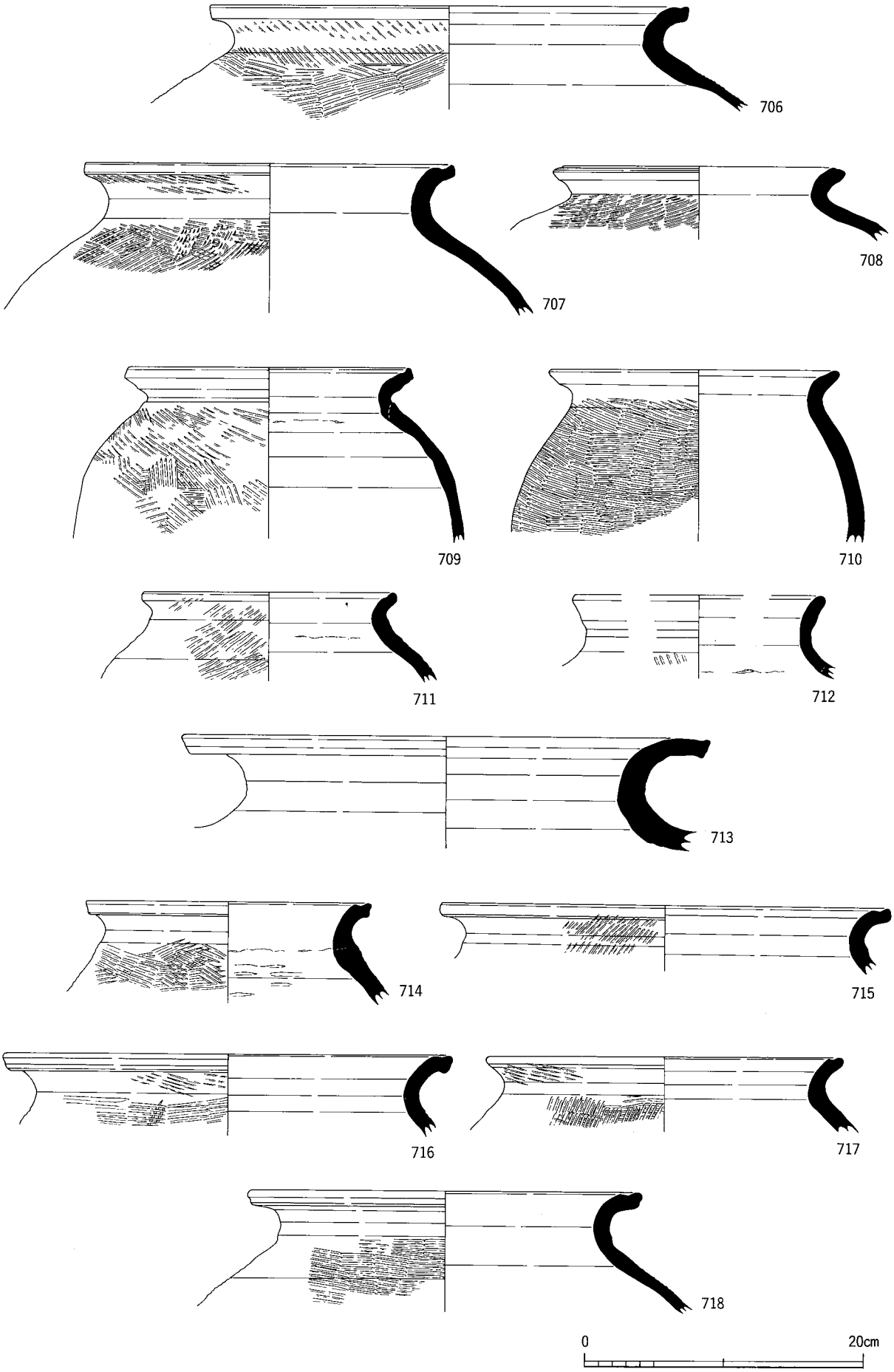


図版80

灰原J出土須恵器甕
灰原K出土須恵器甕(1)

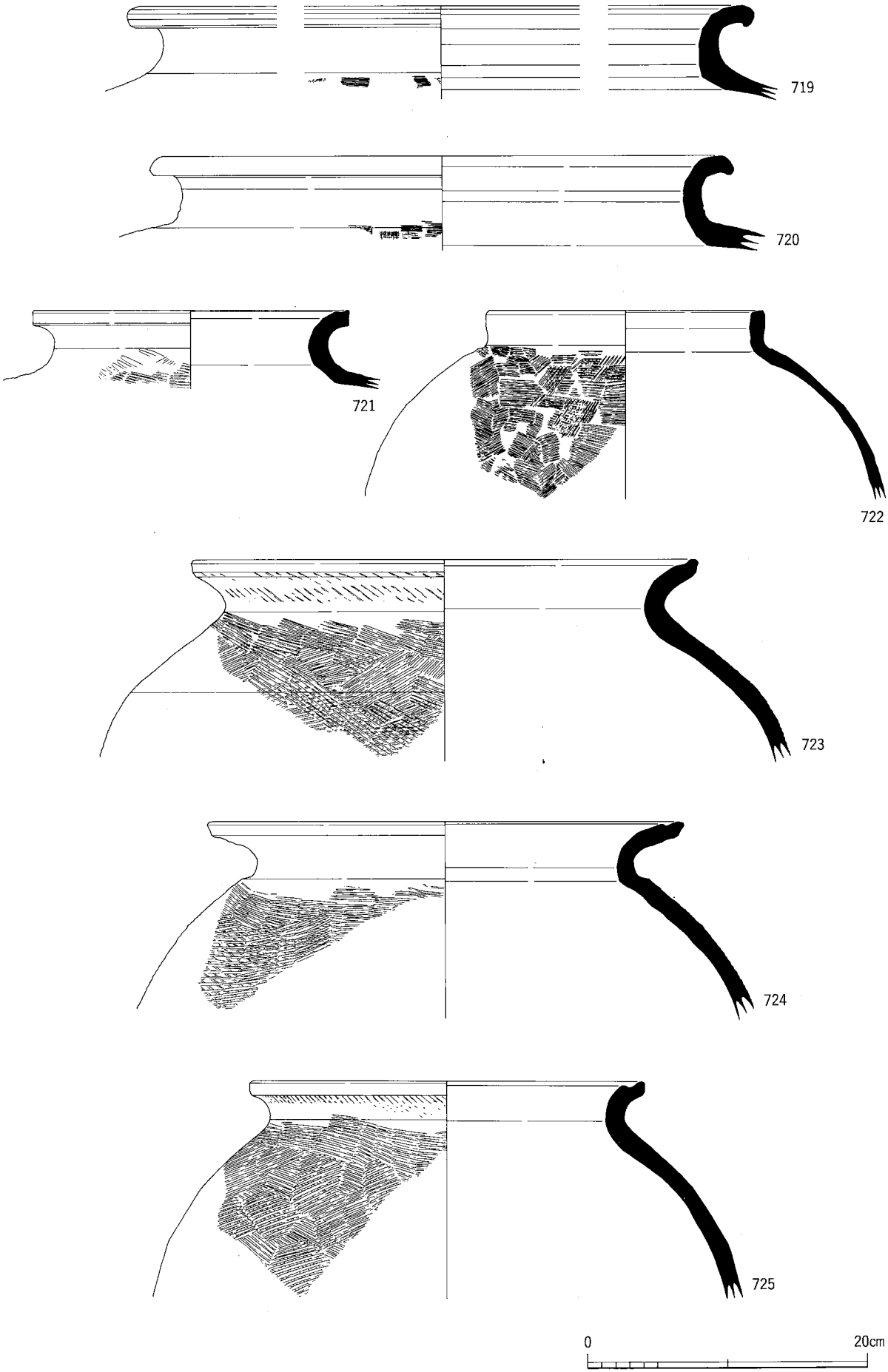


灰原K出土須恵器甕(2)
灰原M・N出土須恵器甕

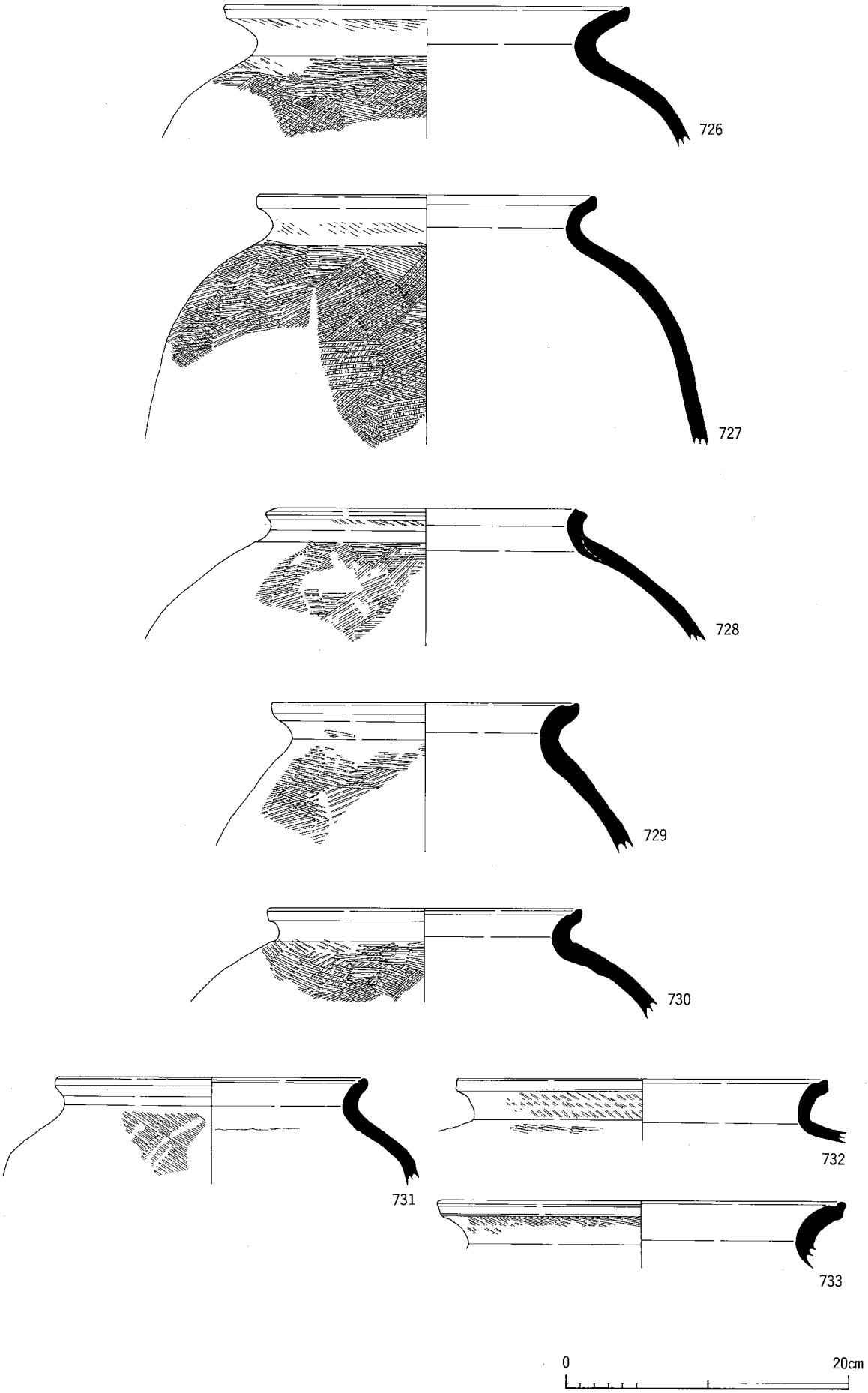


図版82

灰原O出土須恵器甕
灰原P出土須恵器甕(1)

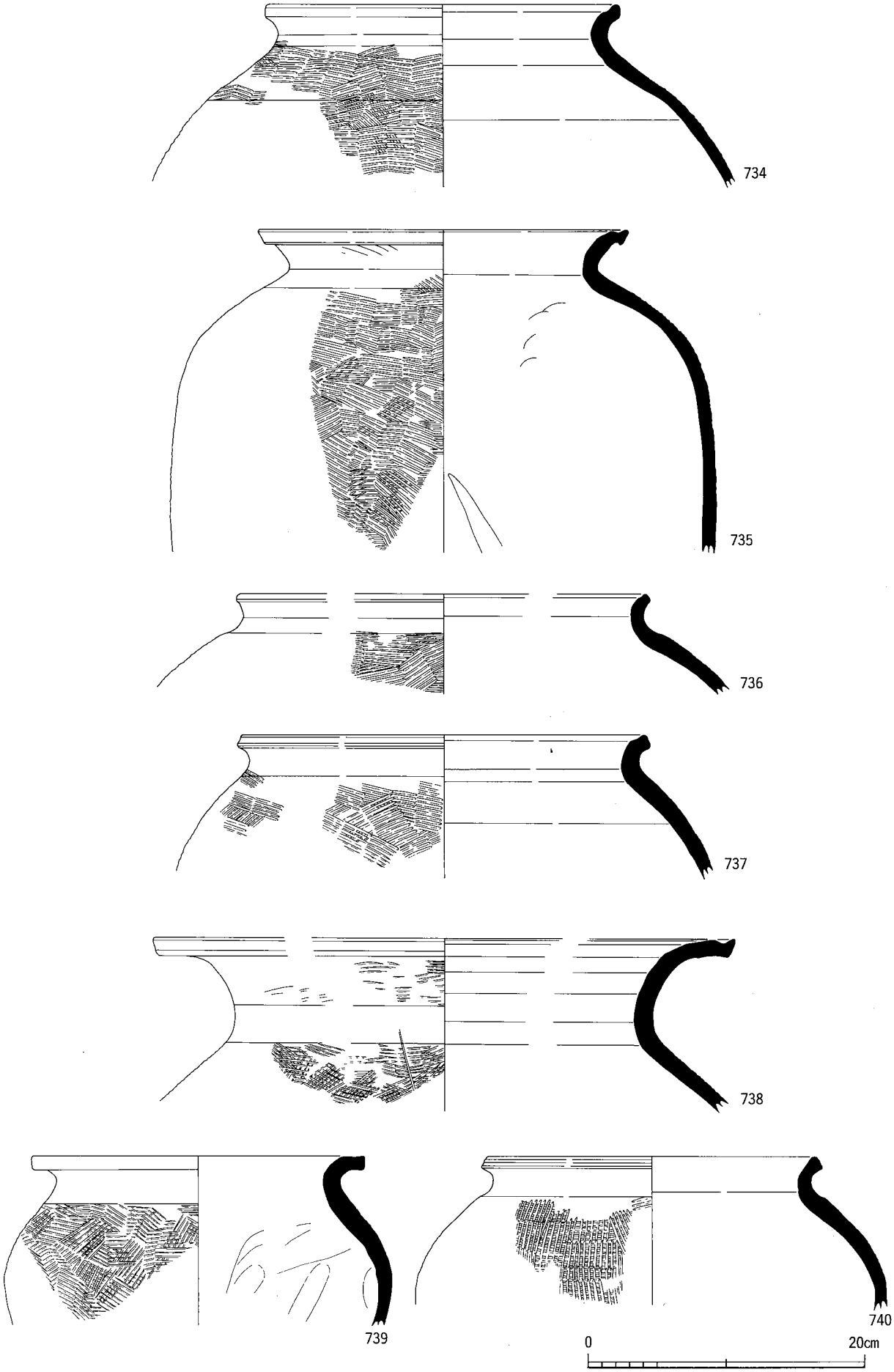


灰原P出土須恵器甕(2)

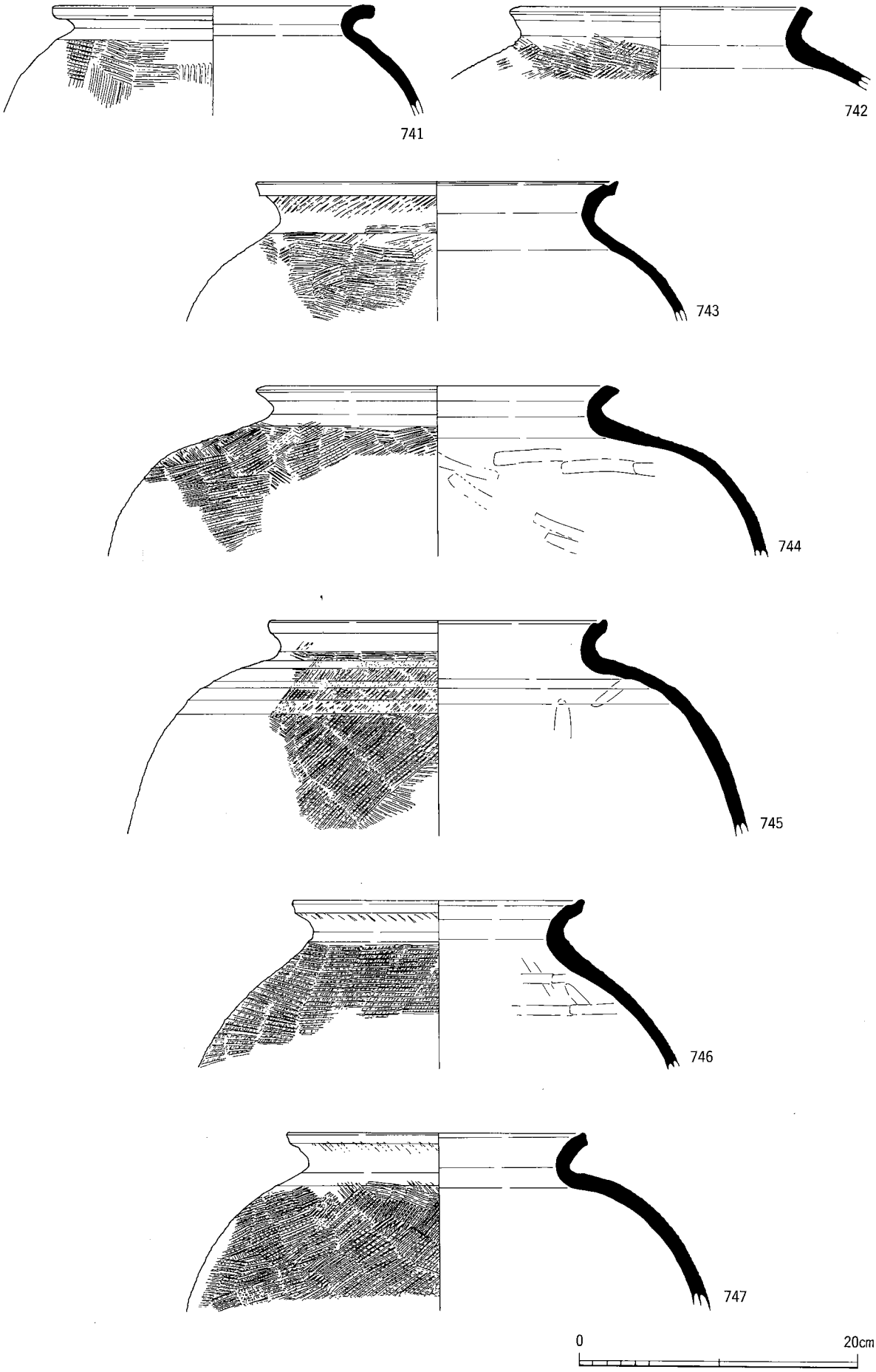


図版84

灰原P出土須恵器甕(3)
灰原Q出土須恵器甕(1)

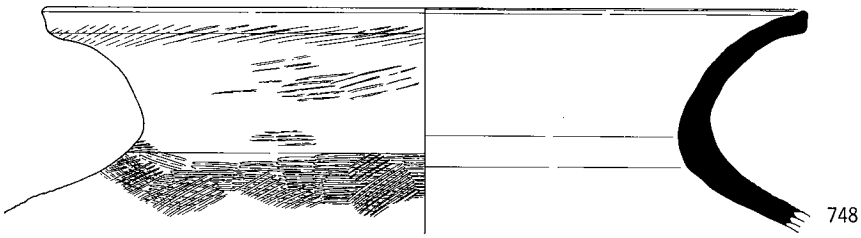


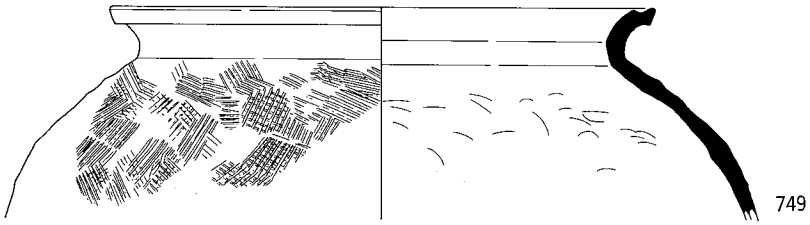
灰原Q出土須恵器甕(2)

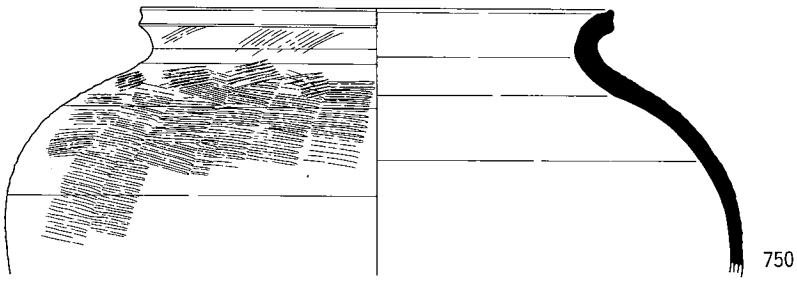


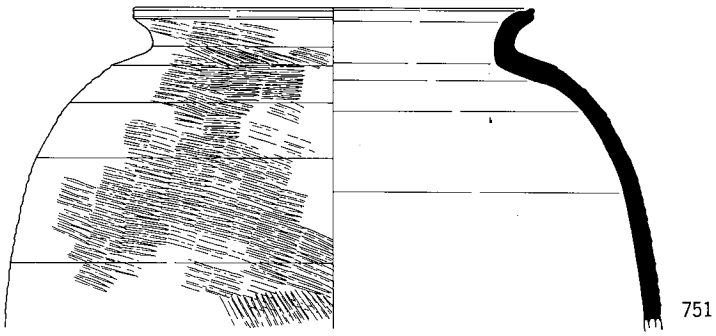
図版86

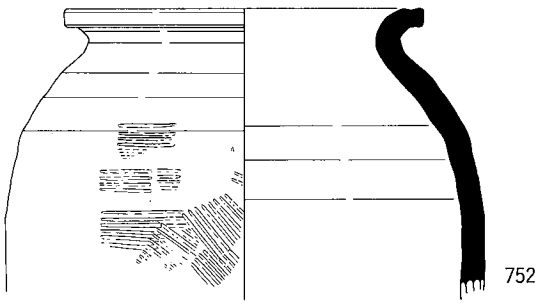
灰原Q出土須恵器甕(3)

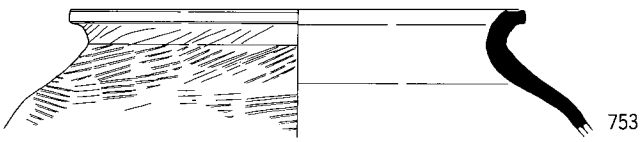


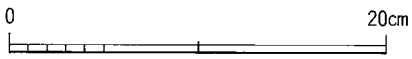




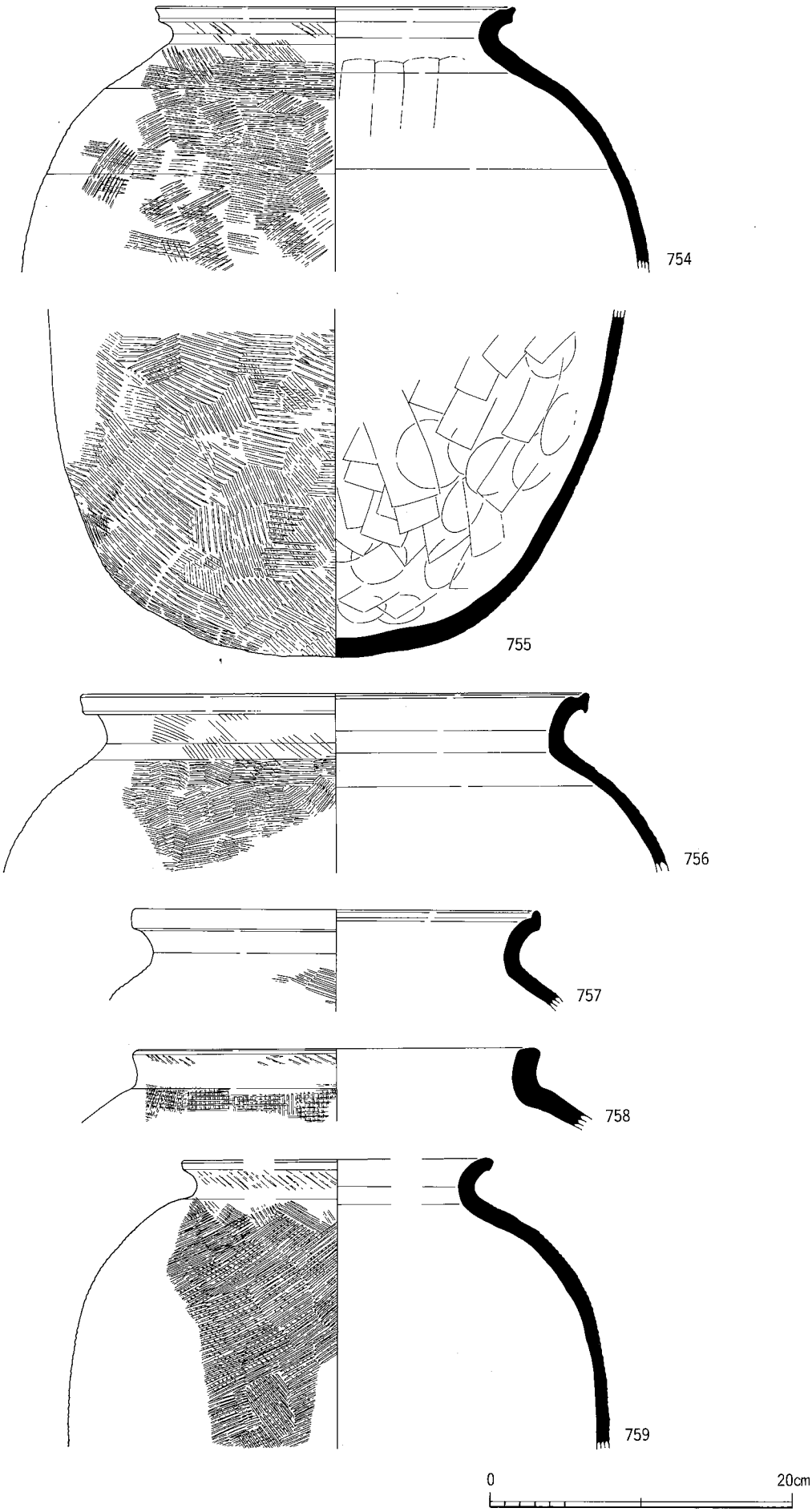






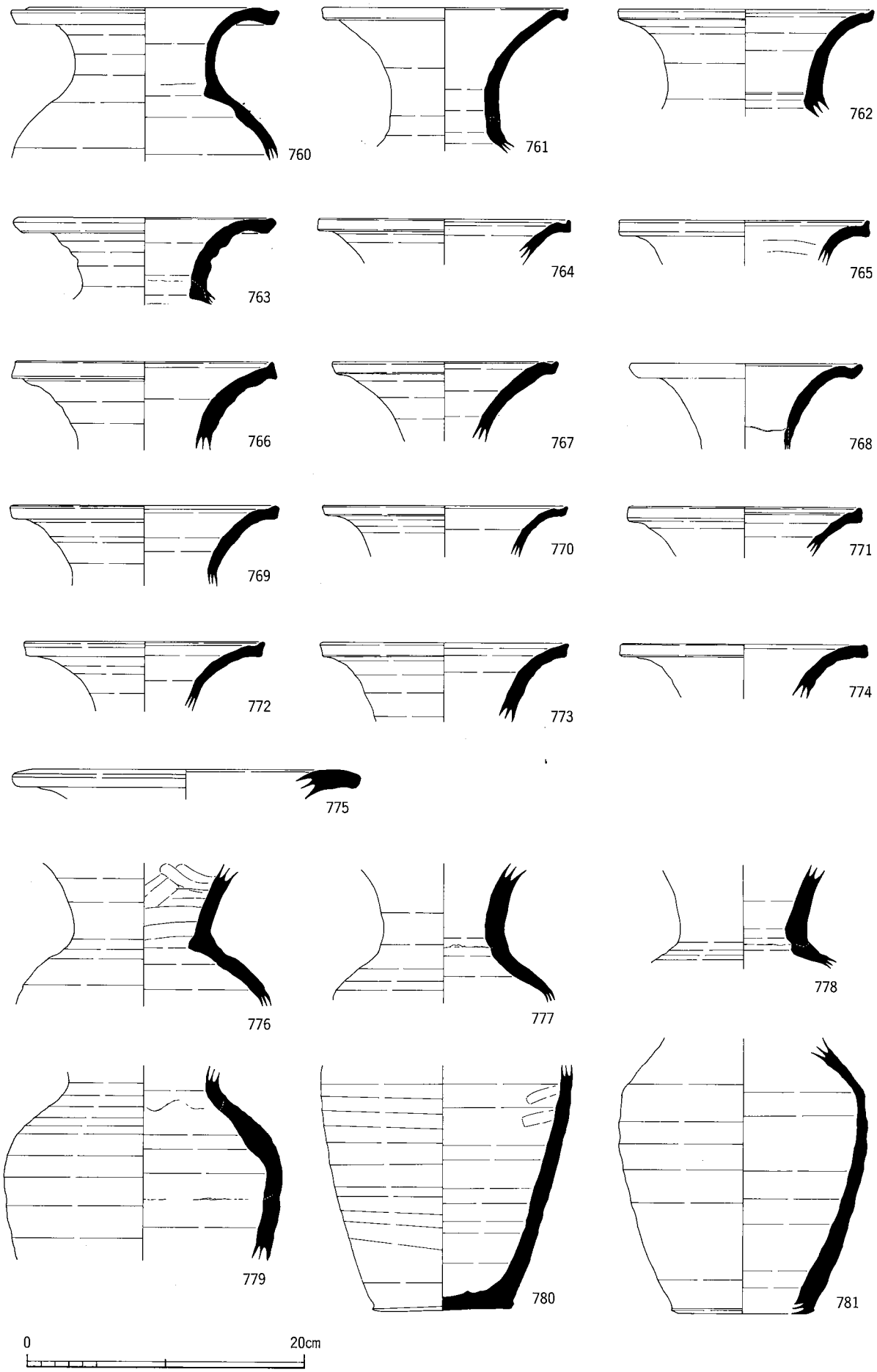


灰原Q出土須恵器甕(4)
灰原S出土須恵器甕

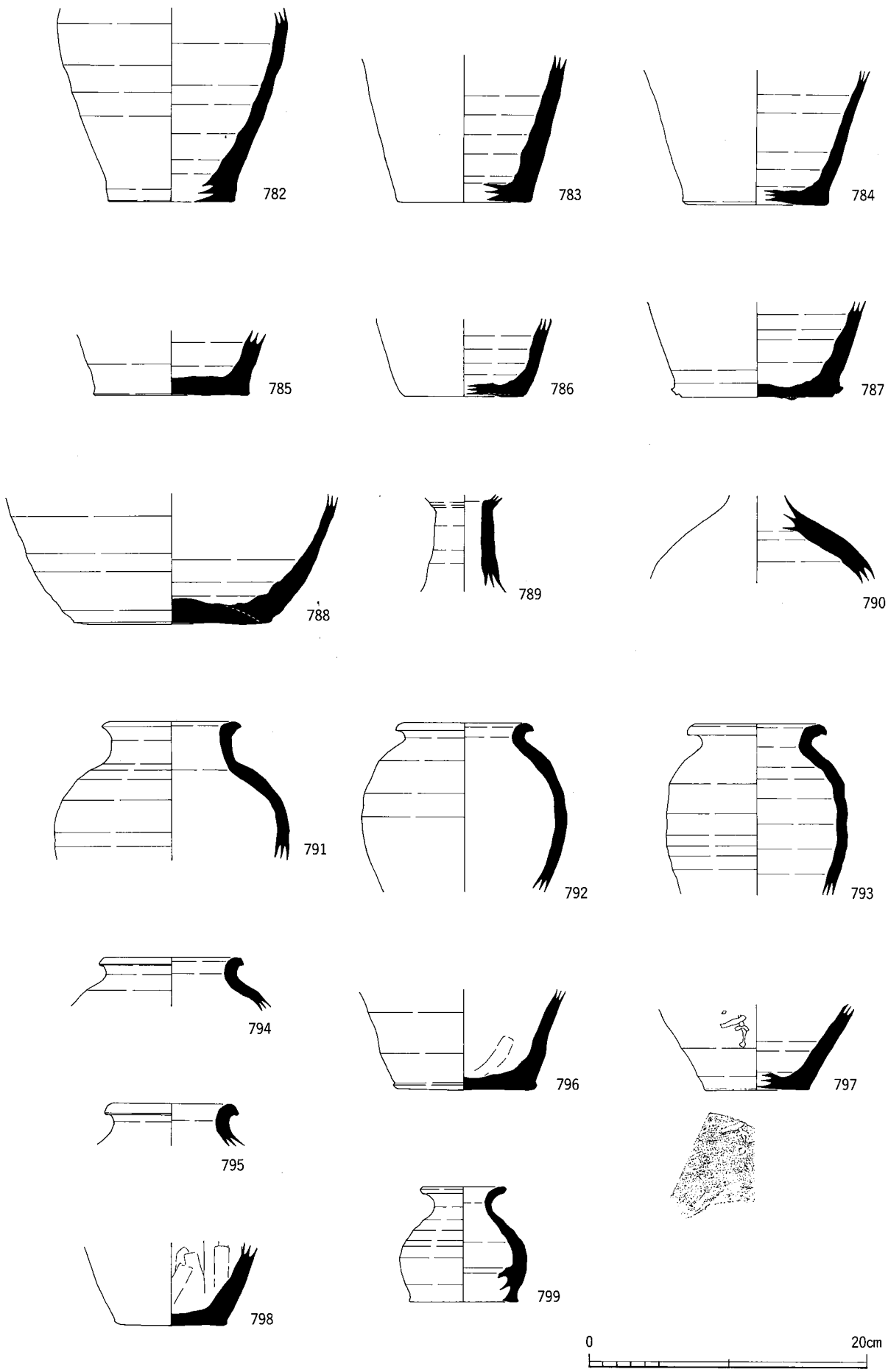


図版88

灰原出土須恵器壺(1)

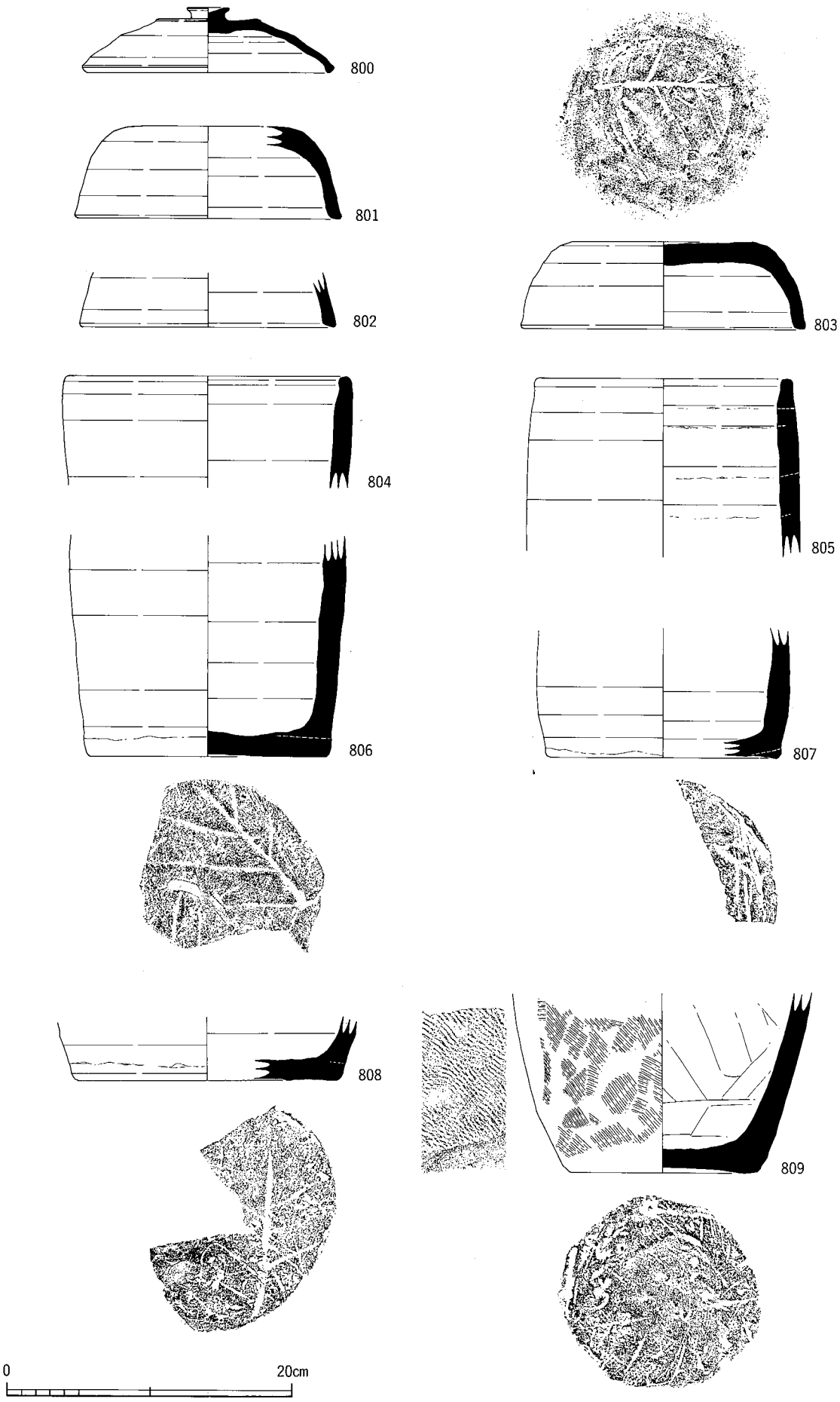


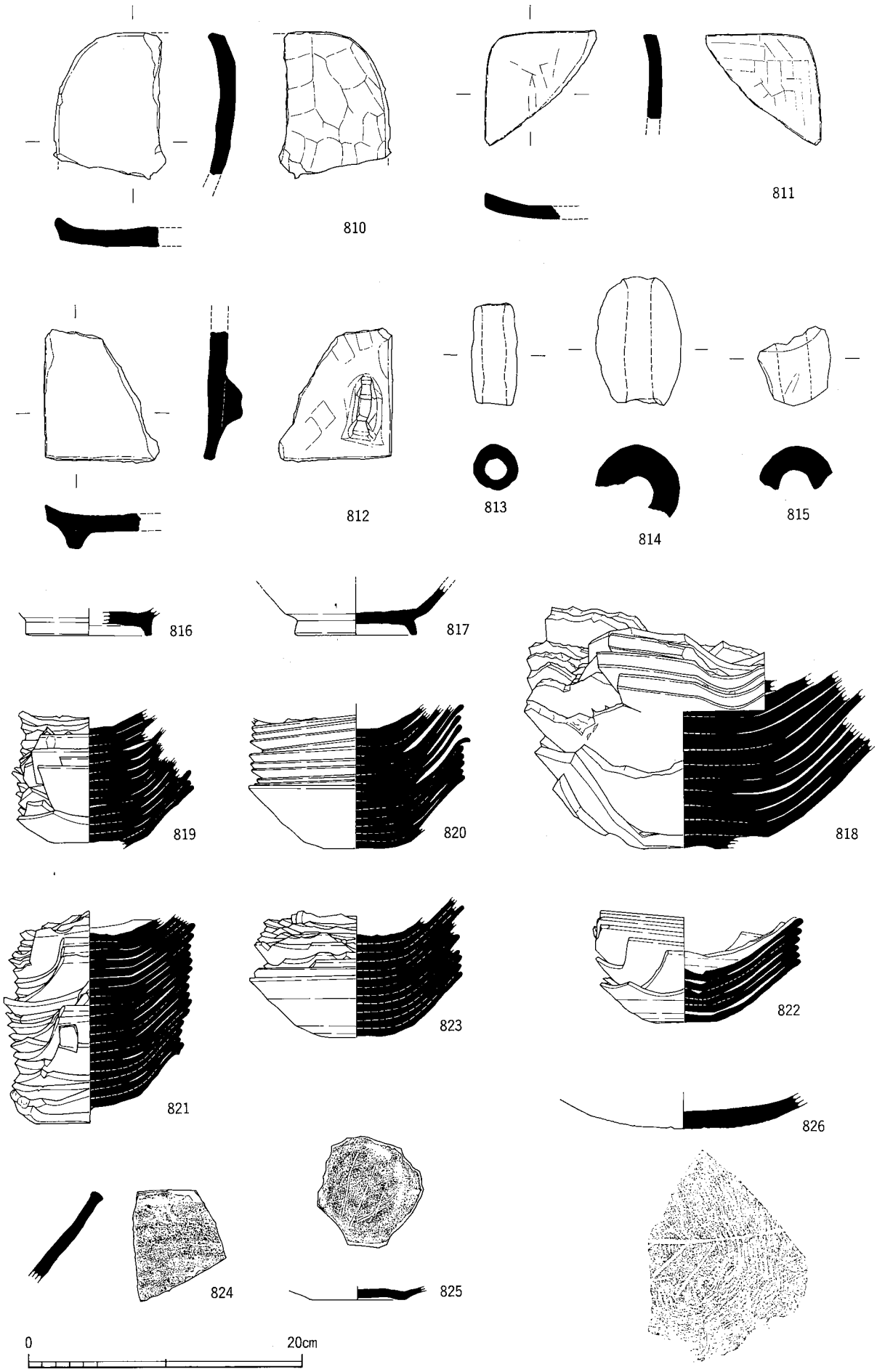
灰原出土須恵器壺(2)


782
783
784
785
786
787
788
789
790
791
792
793
794
795
796
797
798
799
0
20cm

図版90

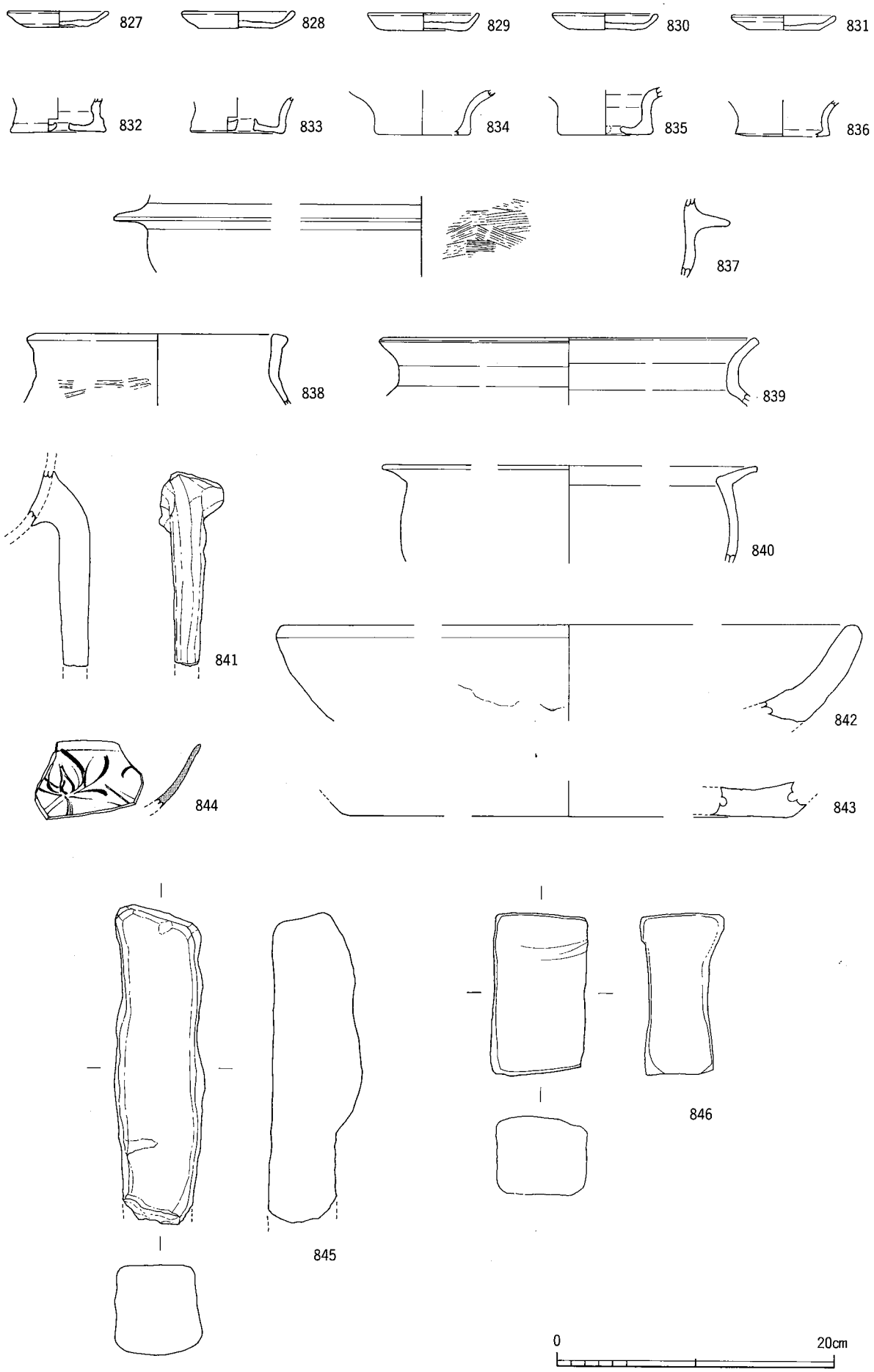
灰原出土須恵器経筒



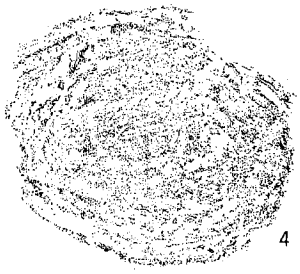

810
811
812
813
814
815
816
817
818
819
820
821
822
823
824
825
826
0
20cm

図版92

灰原出土土師器・陶磁器・石製品

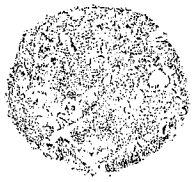


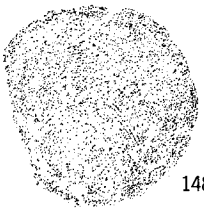
須恵器底部拓本(1)


4

5

72

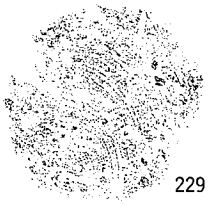

94

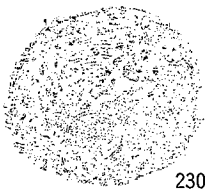

148

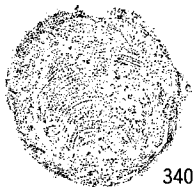
149

224

225

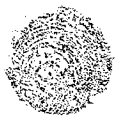

229

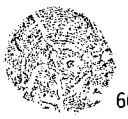

230


340

341

2


3


66

70

144

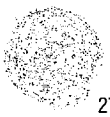
194

195

196

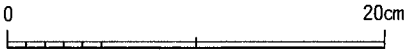
218

272


274

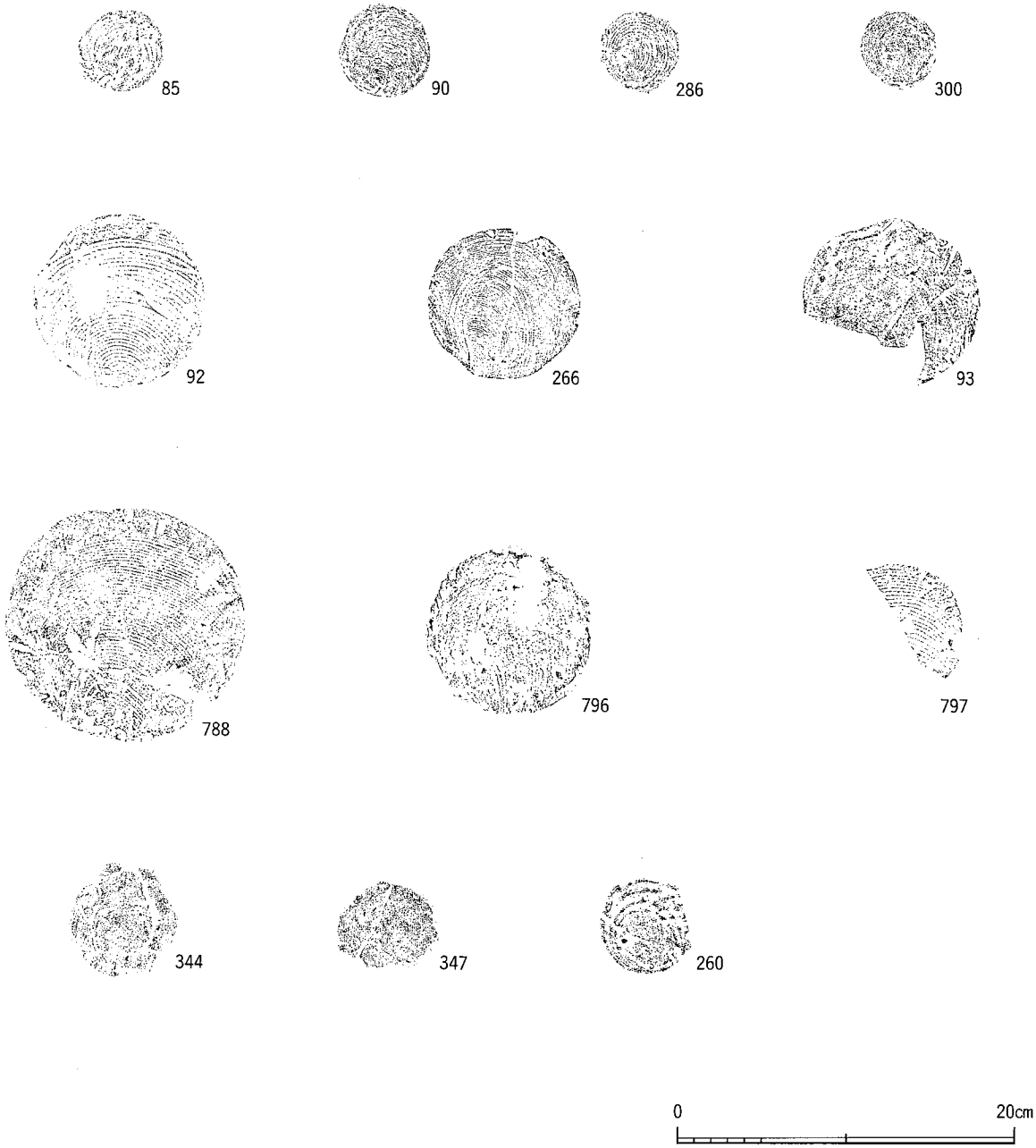
278

281

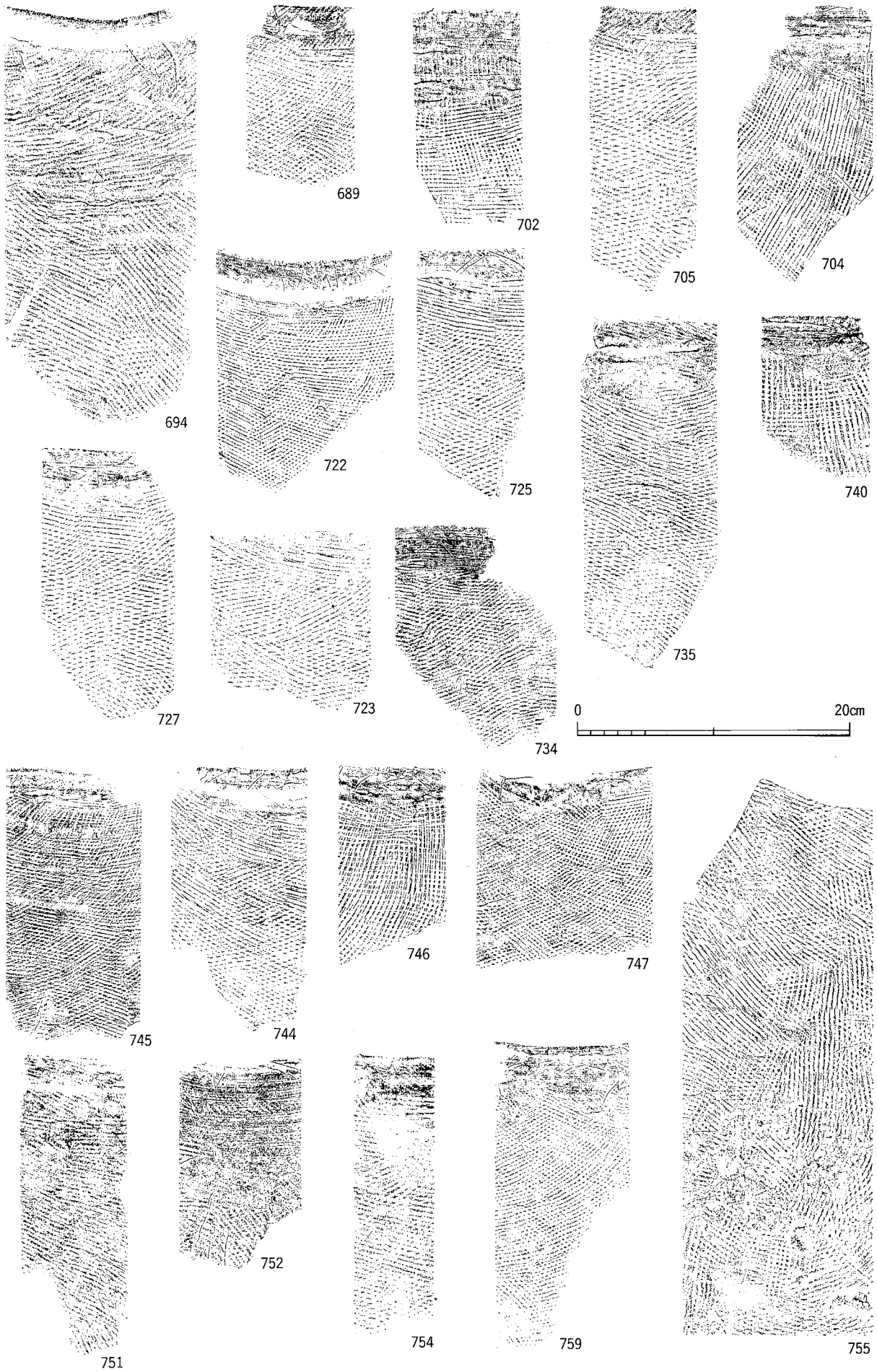


図版94

須恵器底部拓本(2)

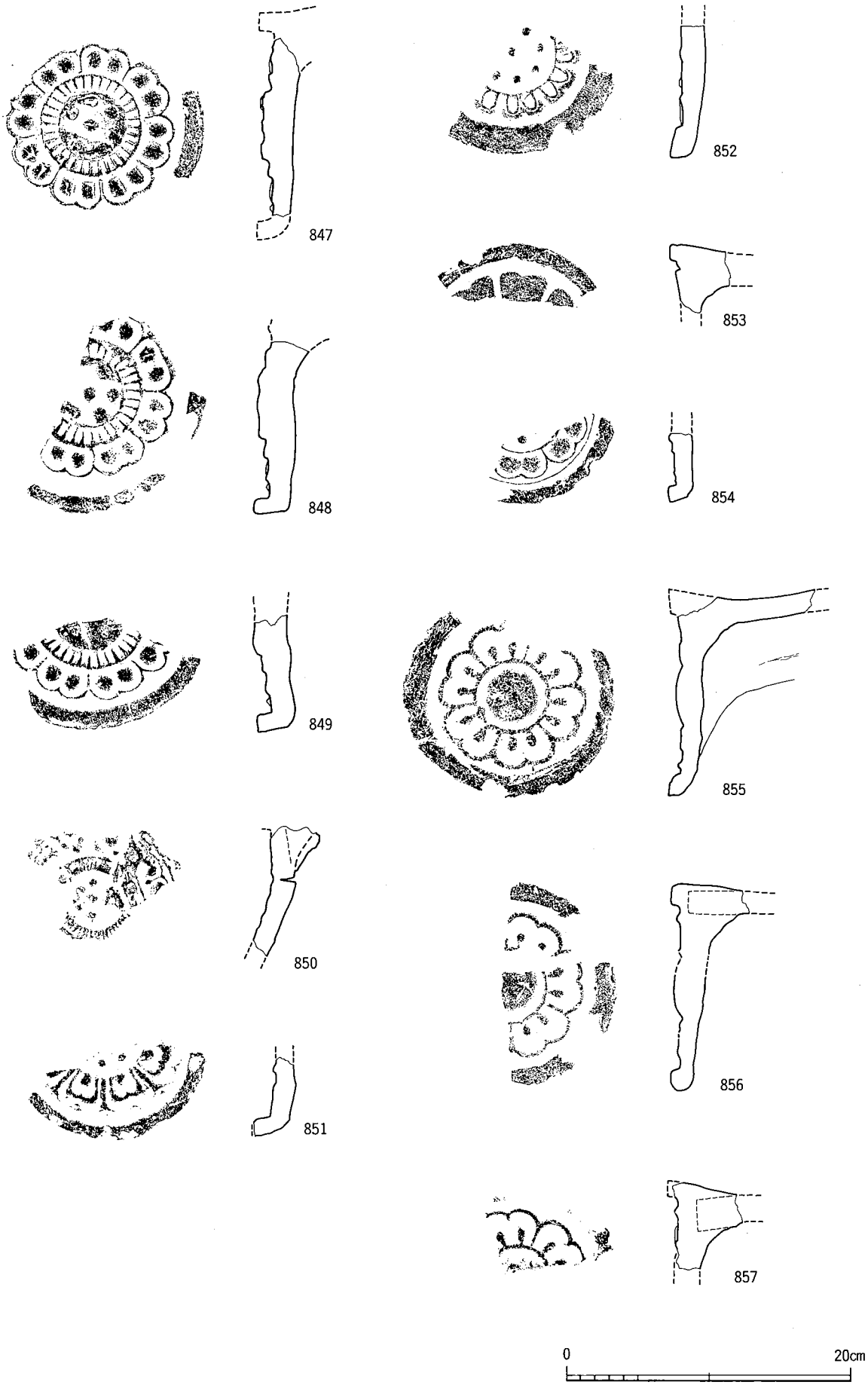


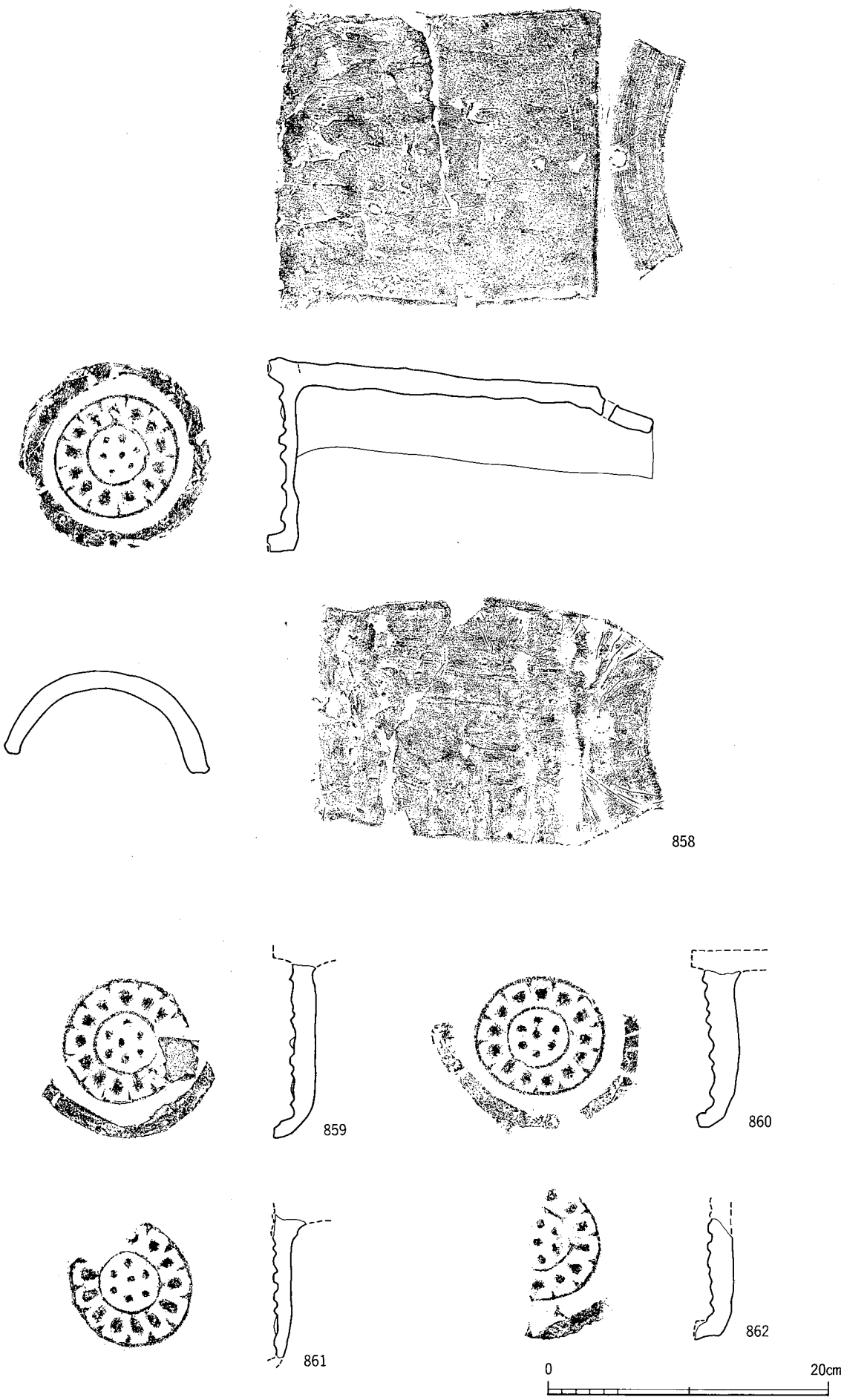
須恵器甕体部拓本


689
702
705
704
694
722
725
740
735
727
723
734
0
20cm
745
744
746
747
751
752
754
759
755

図版96

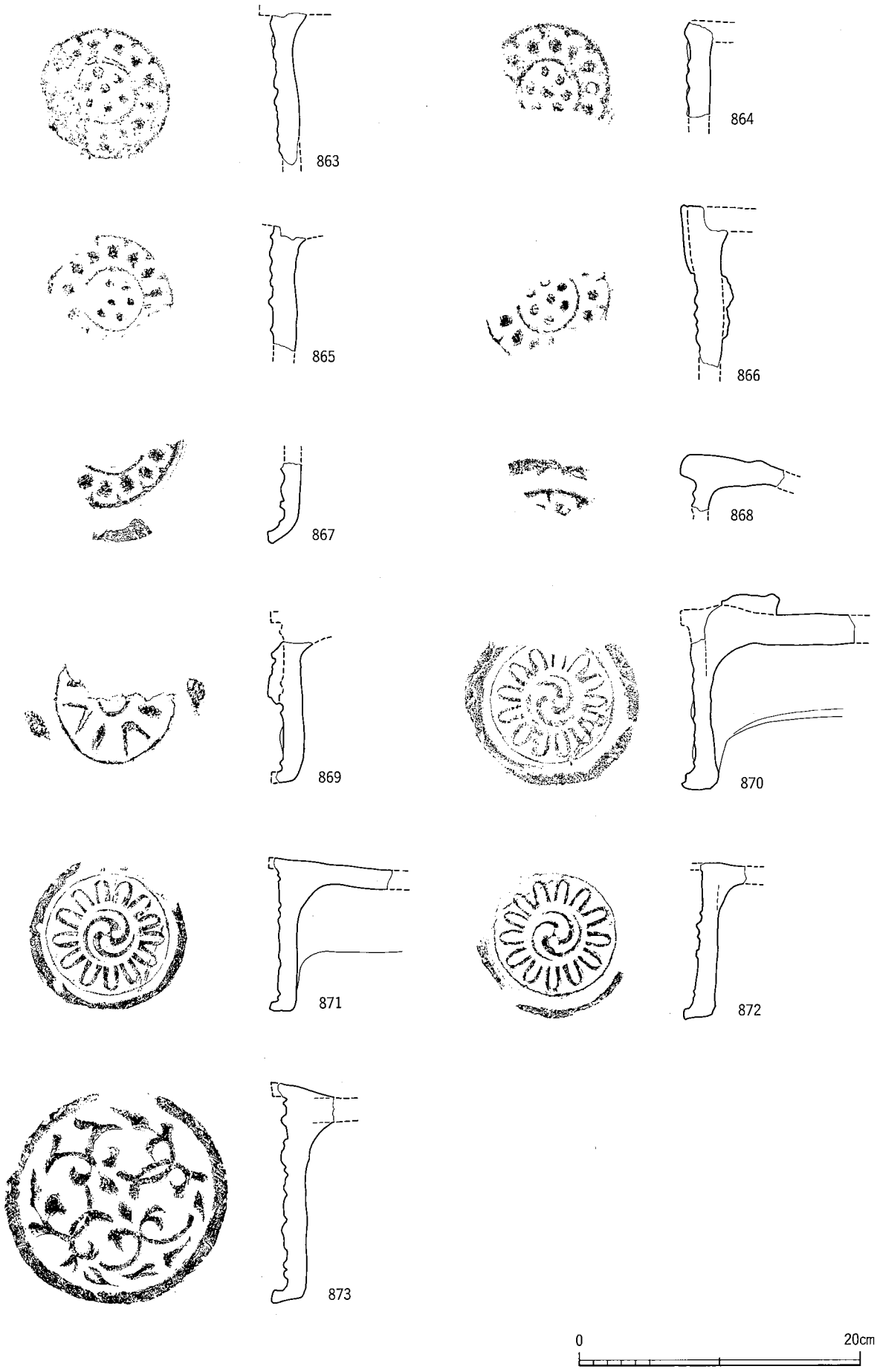
軒丸瓦(1)

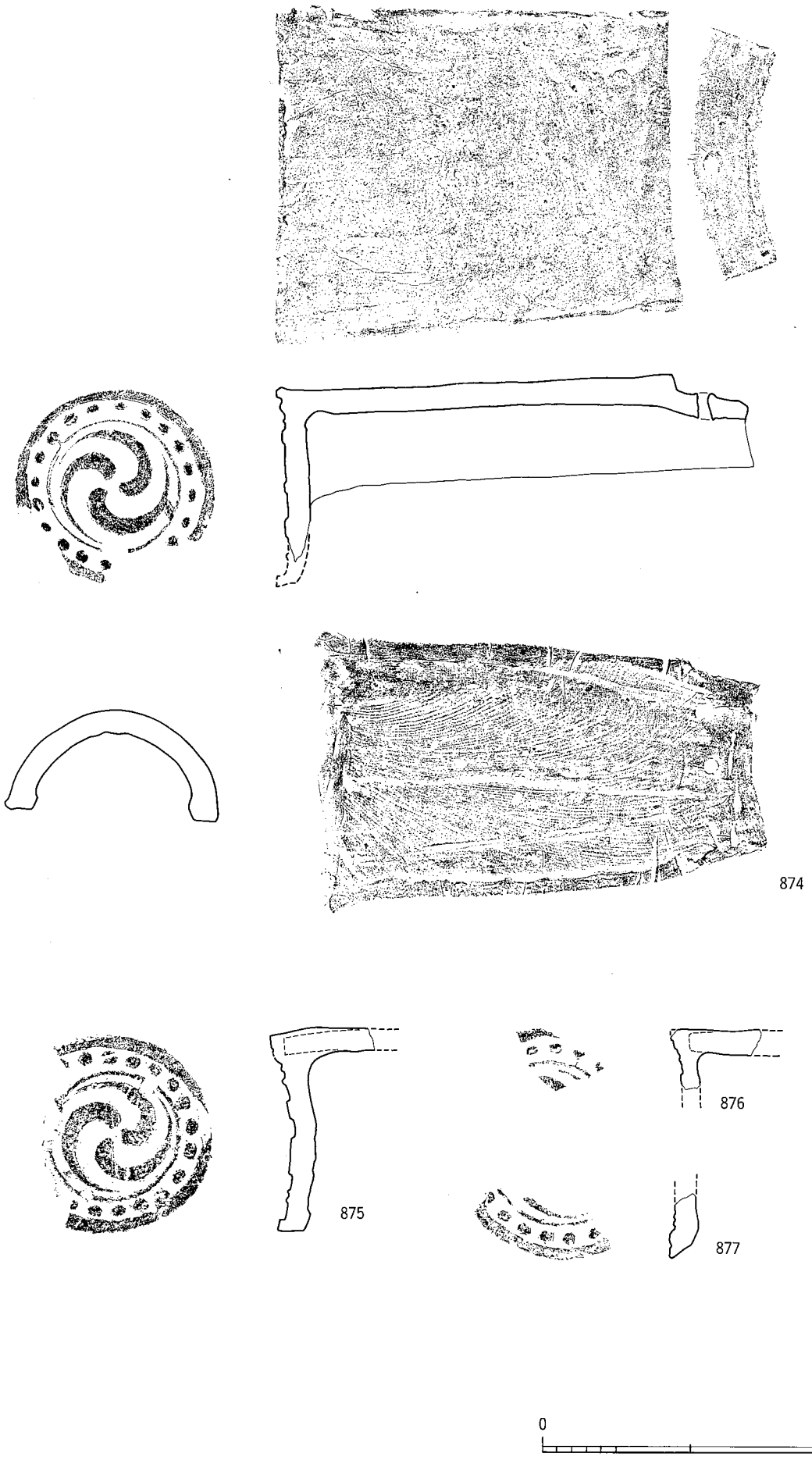



858
859
860
861
862
0
20cm

図版98

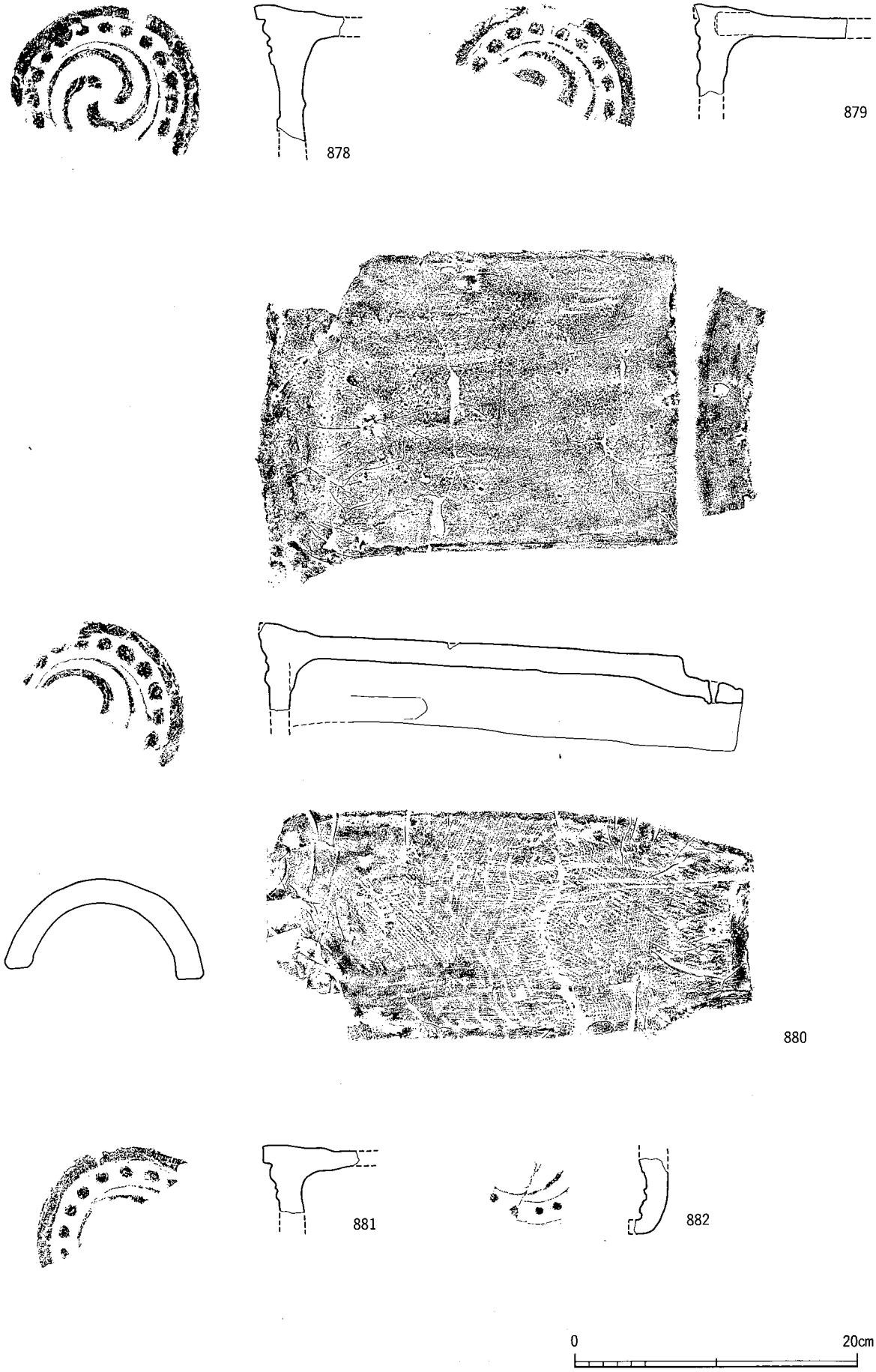
軒丸瓦(3)

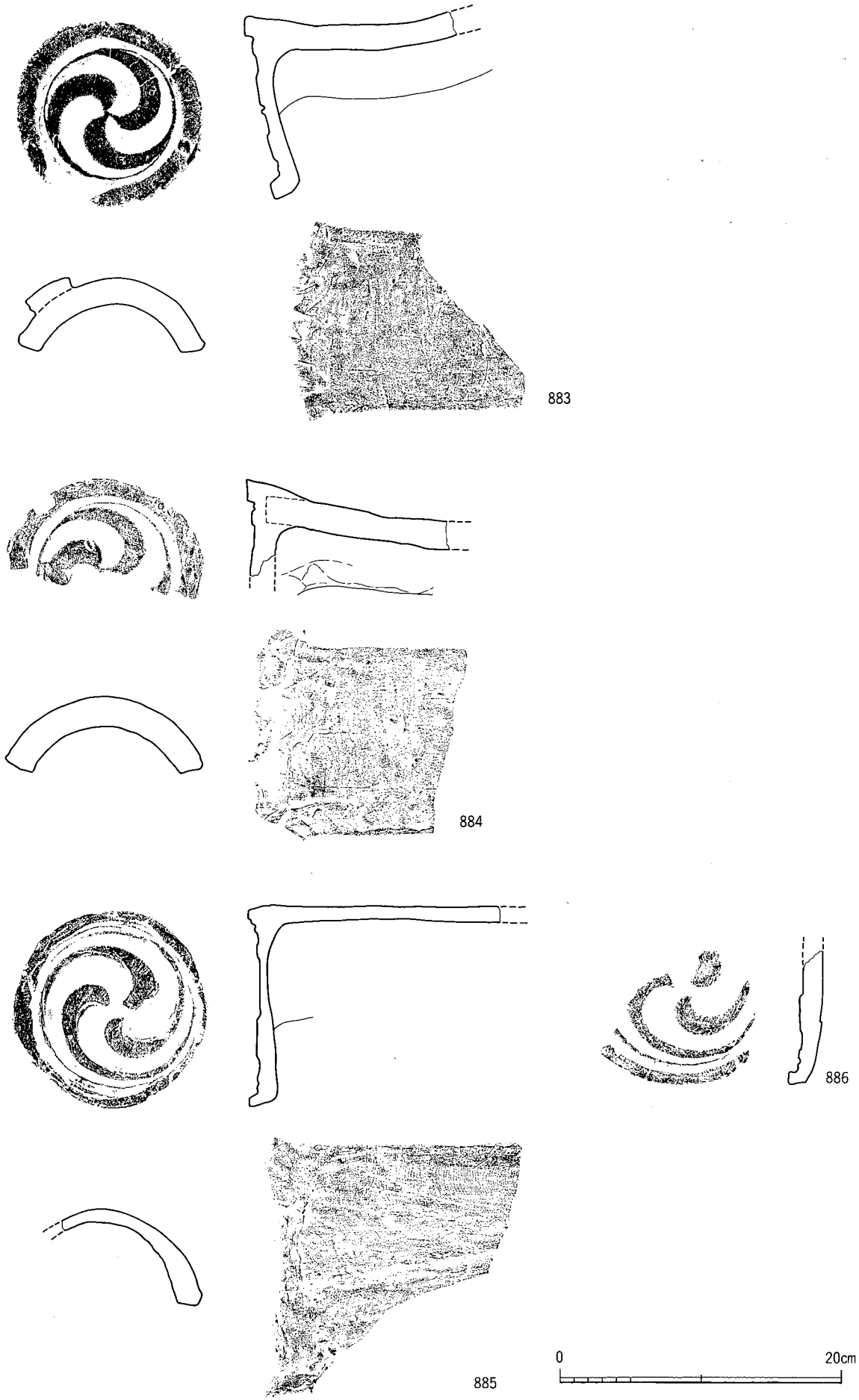



874
875
876
877
0
20cm

図版100

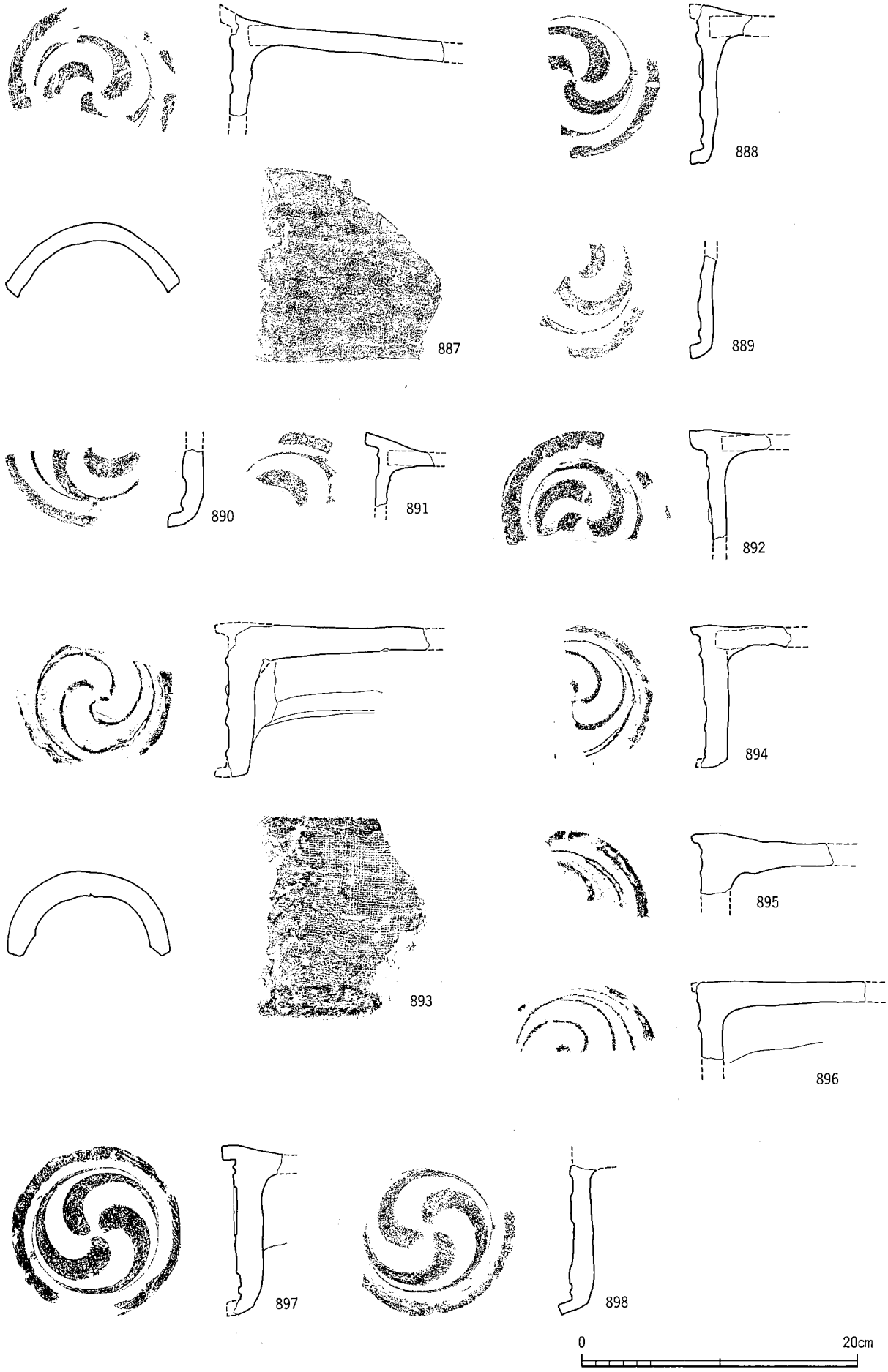
軒丸瓦(5)

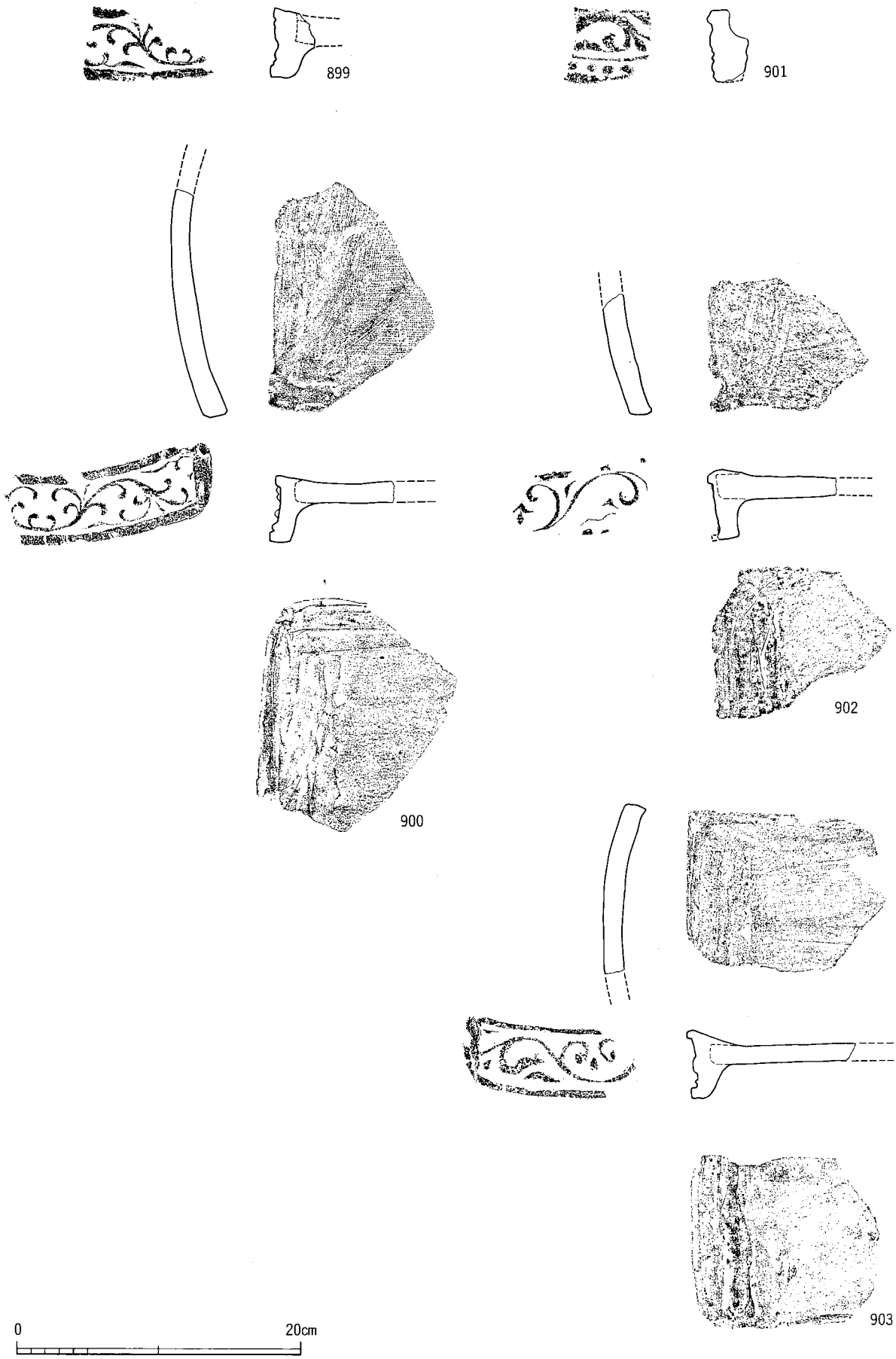



883
884
886
885
0
20cm

図版102

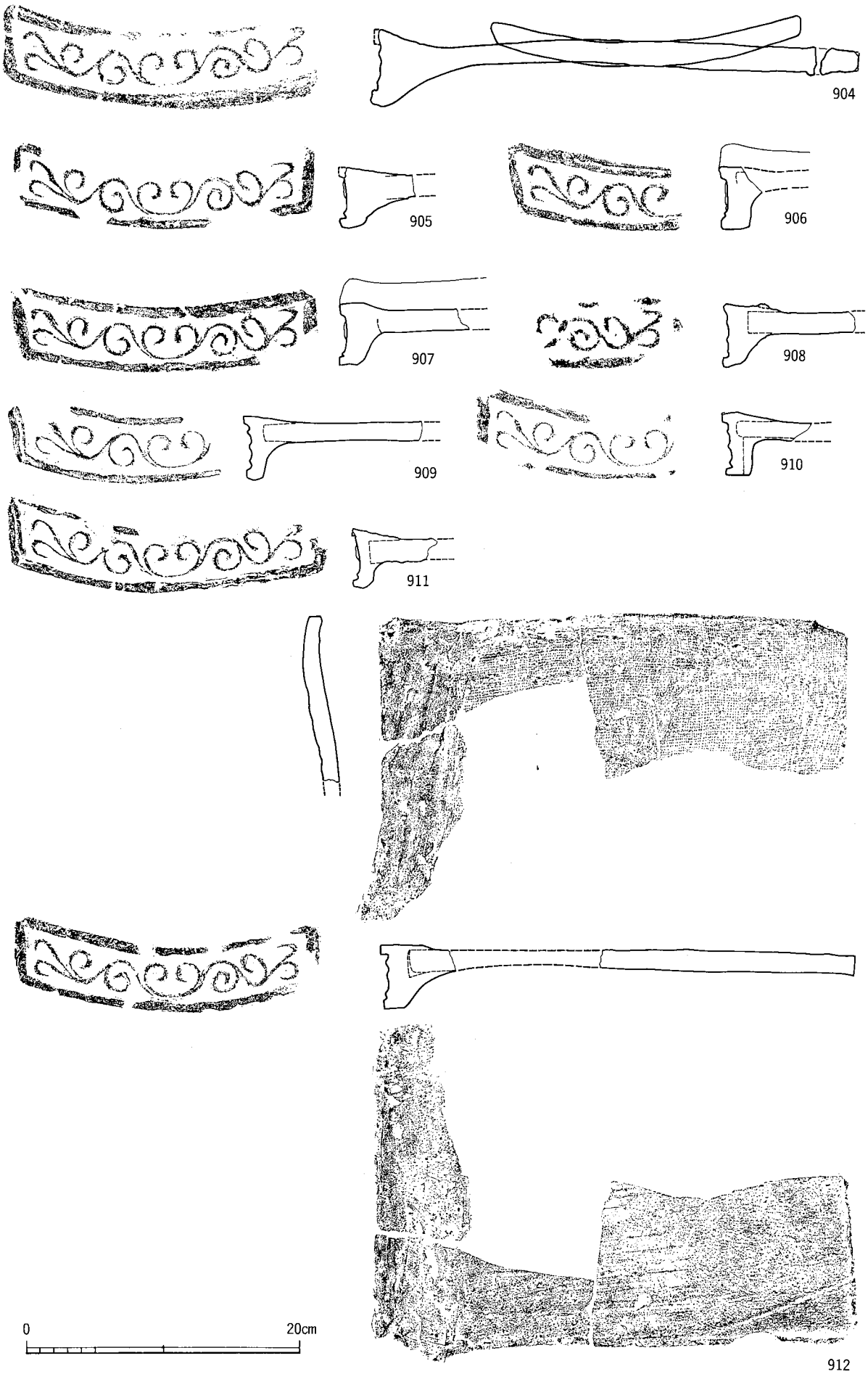
軒丸瓦(7)

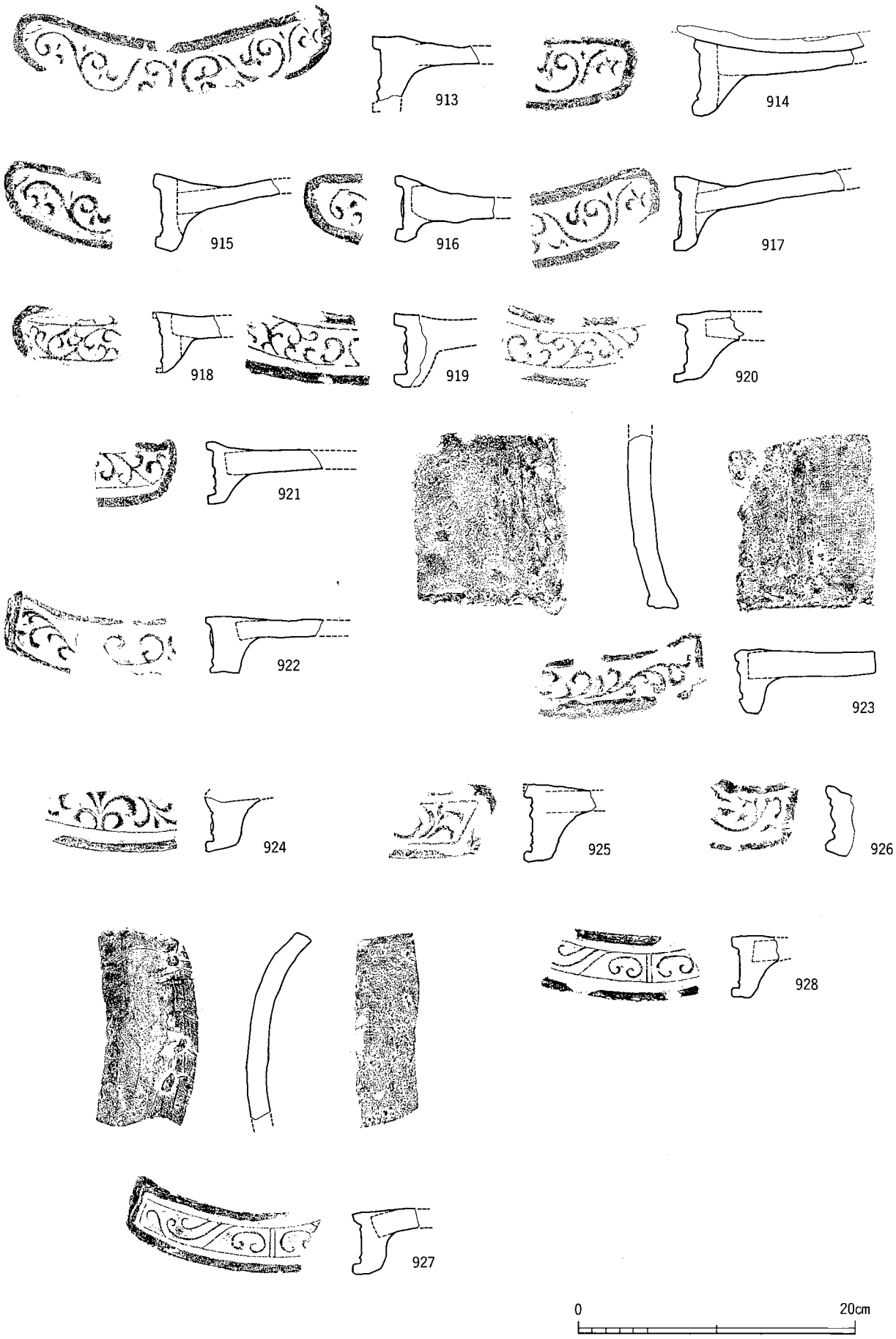



899
901
900
902
903
0
20cm

図版104

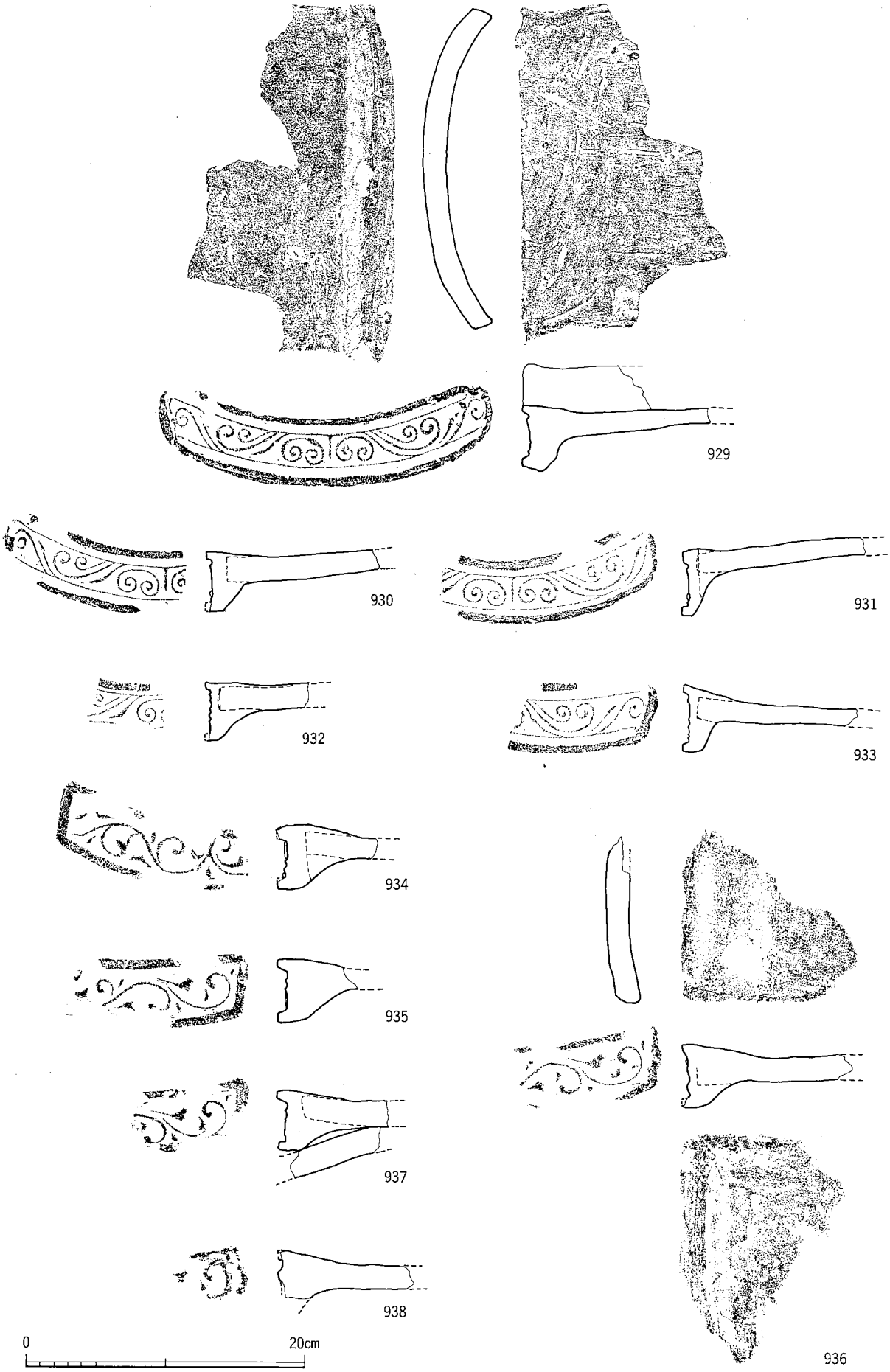
軒平瓦(2)



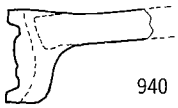

913
914
915
916
917
918
919
920
921
922
923
924
925
926
928
927
0
20cm

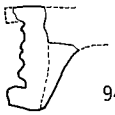
図版106

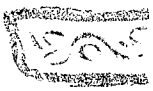
軒平瓦(4)



939

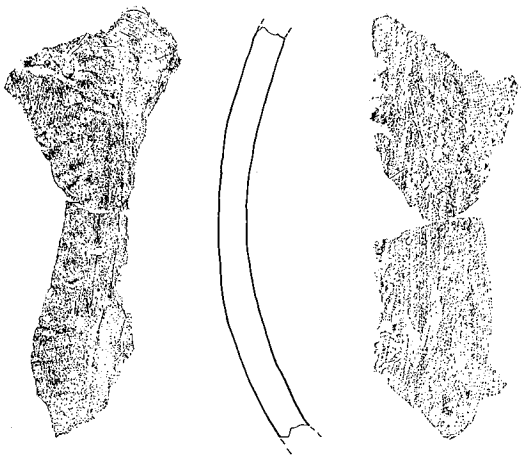

940

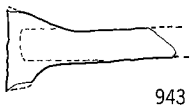

941

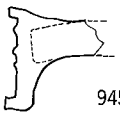


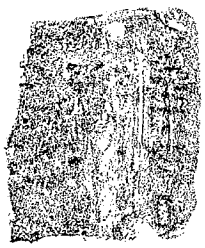
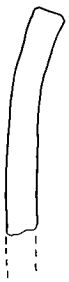
942

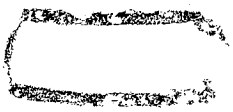
944



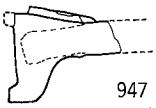

943


945



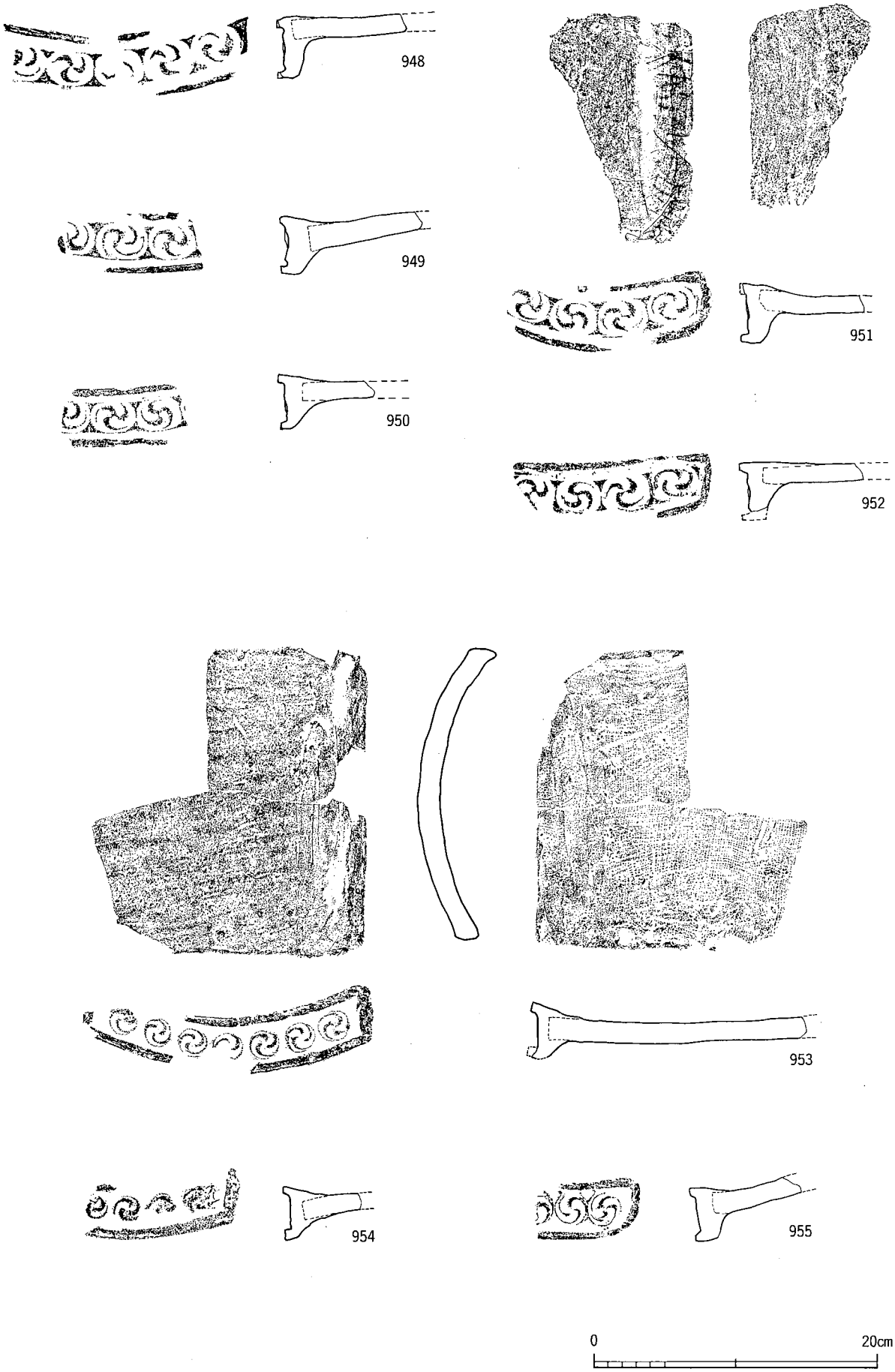
946

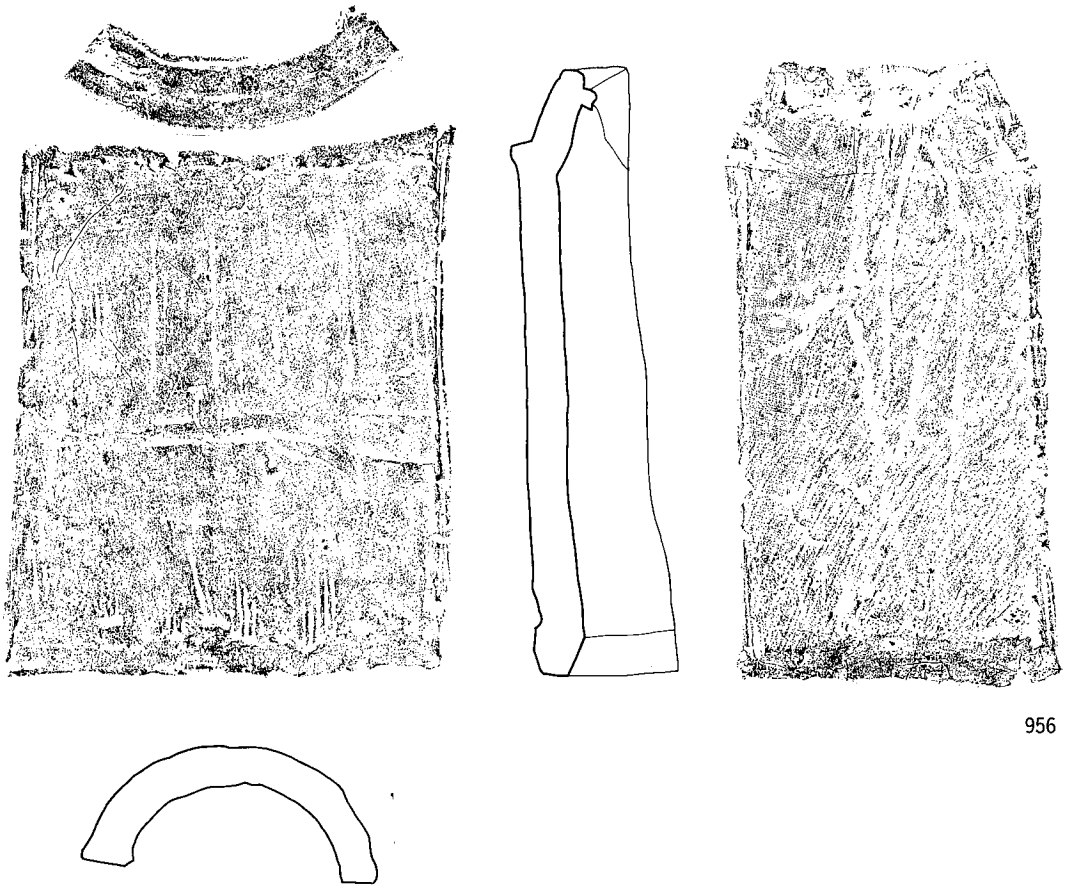

947

0 20cm

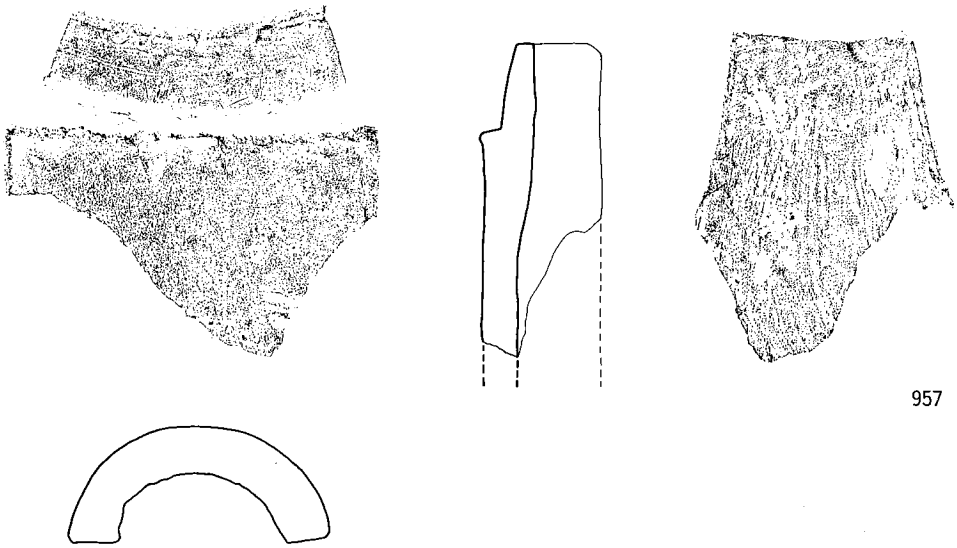
図版108

軒平瓦(6)





956

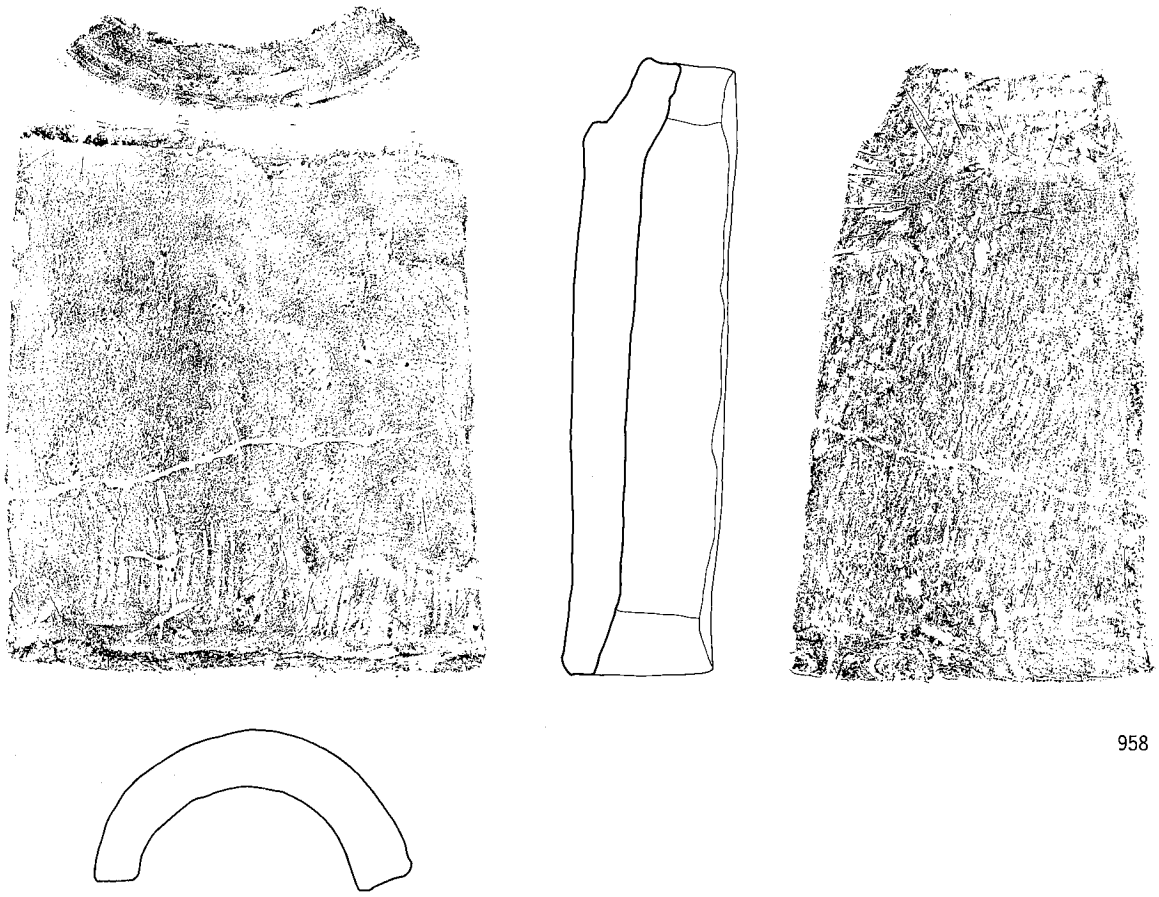


957

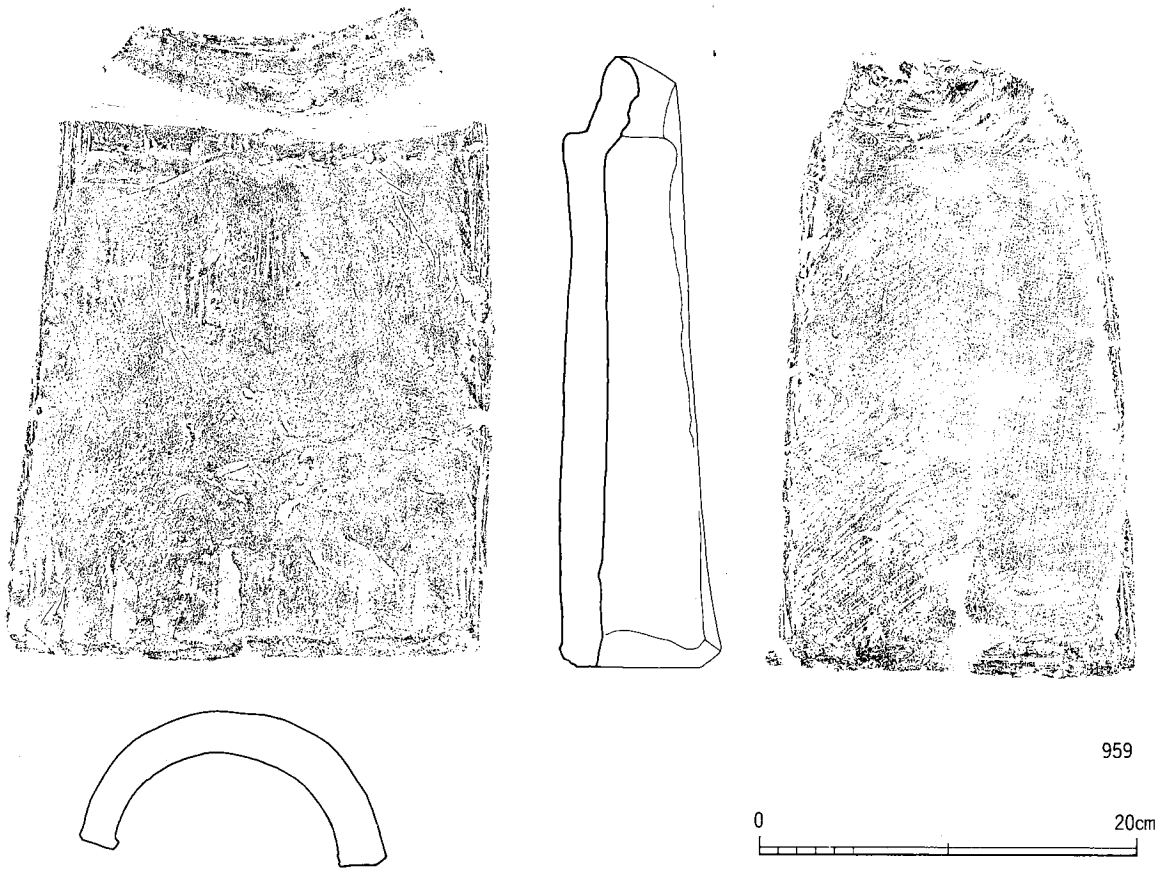
0 20cm

図版110

丸瓦(2)

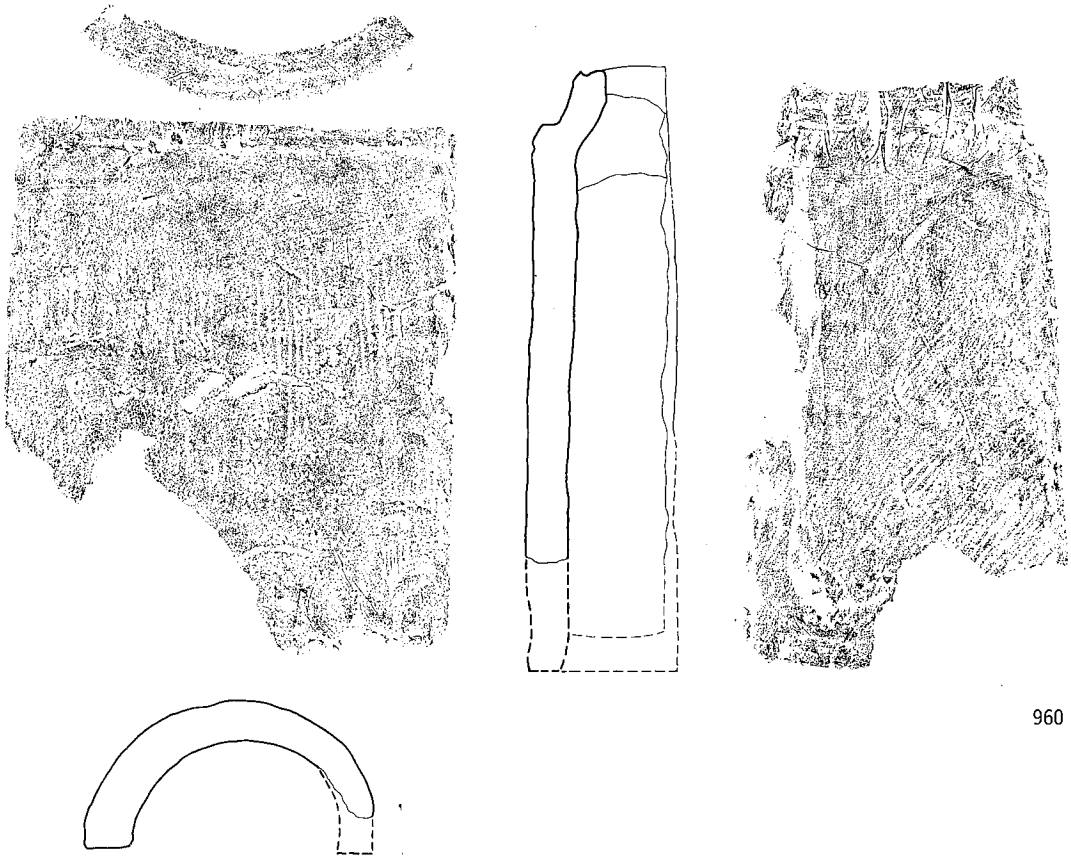


958

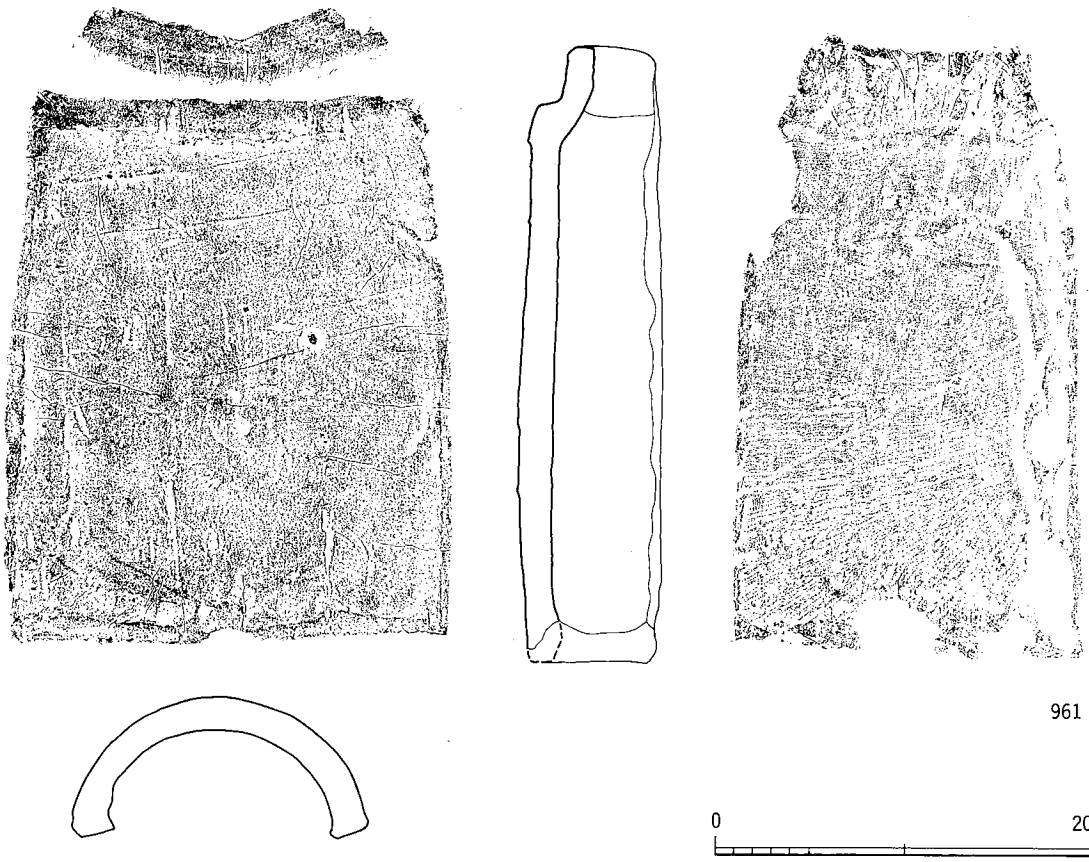


959

0 20cm



960

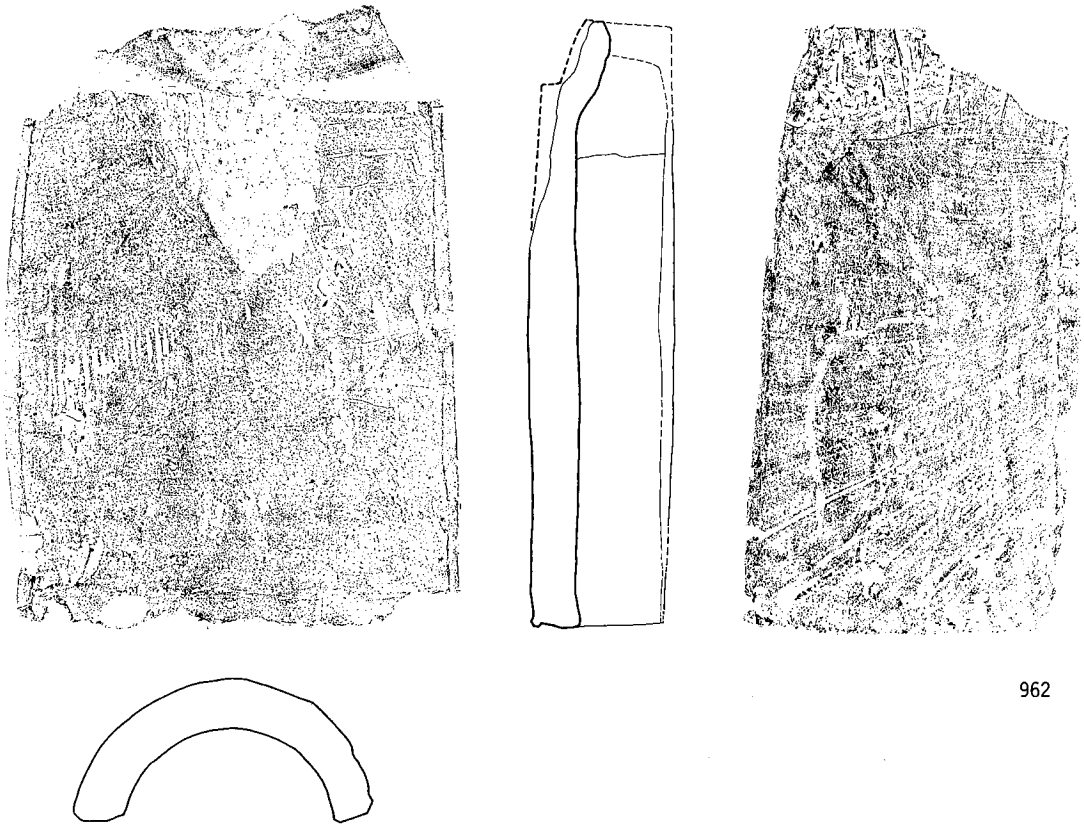


961

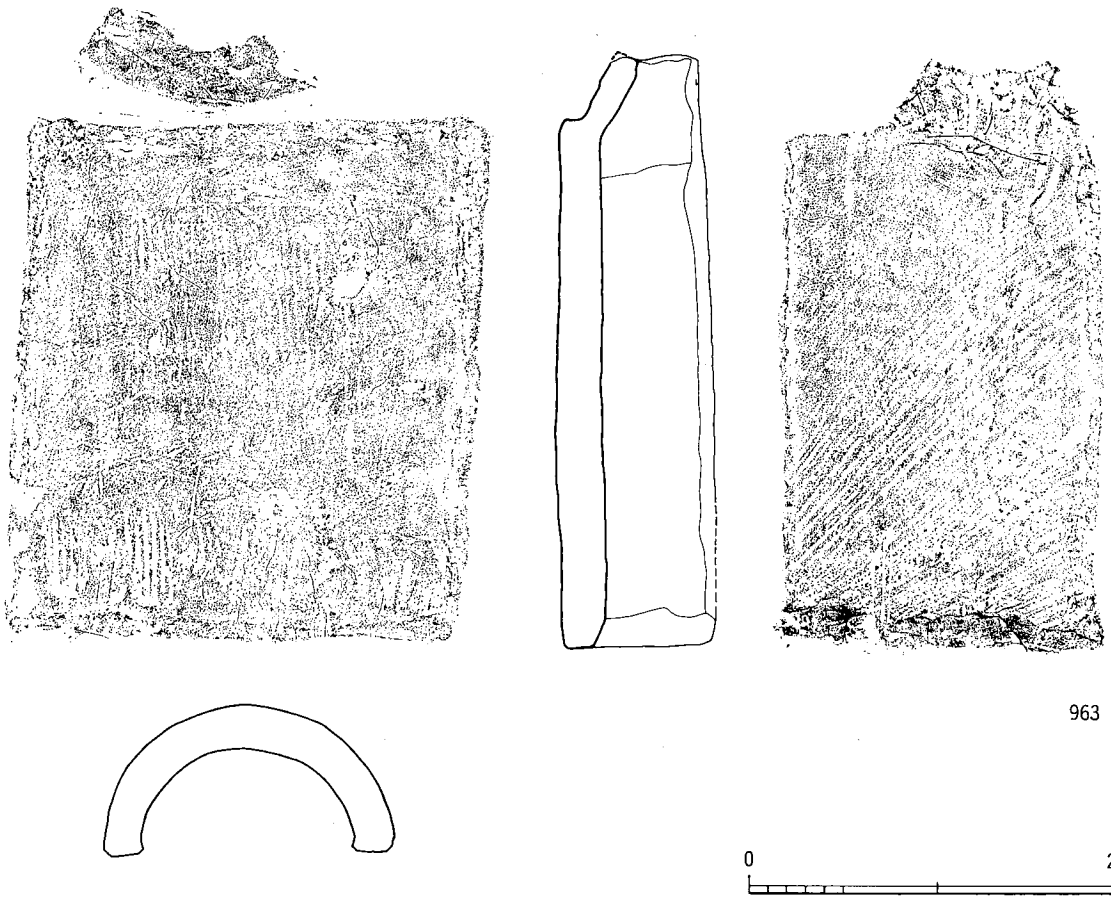
0 20cm

図版112

丸瓦(4)

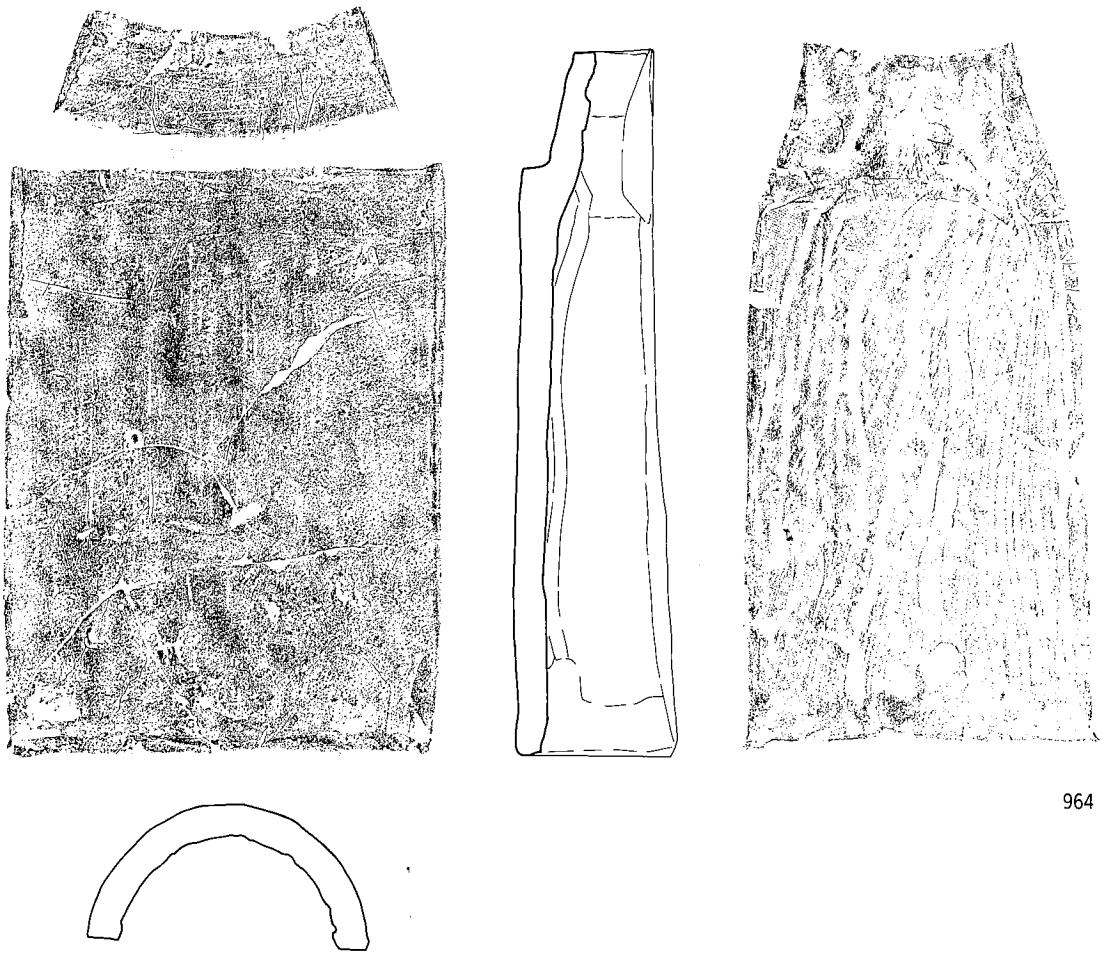


962

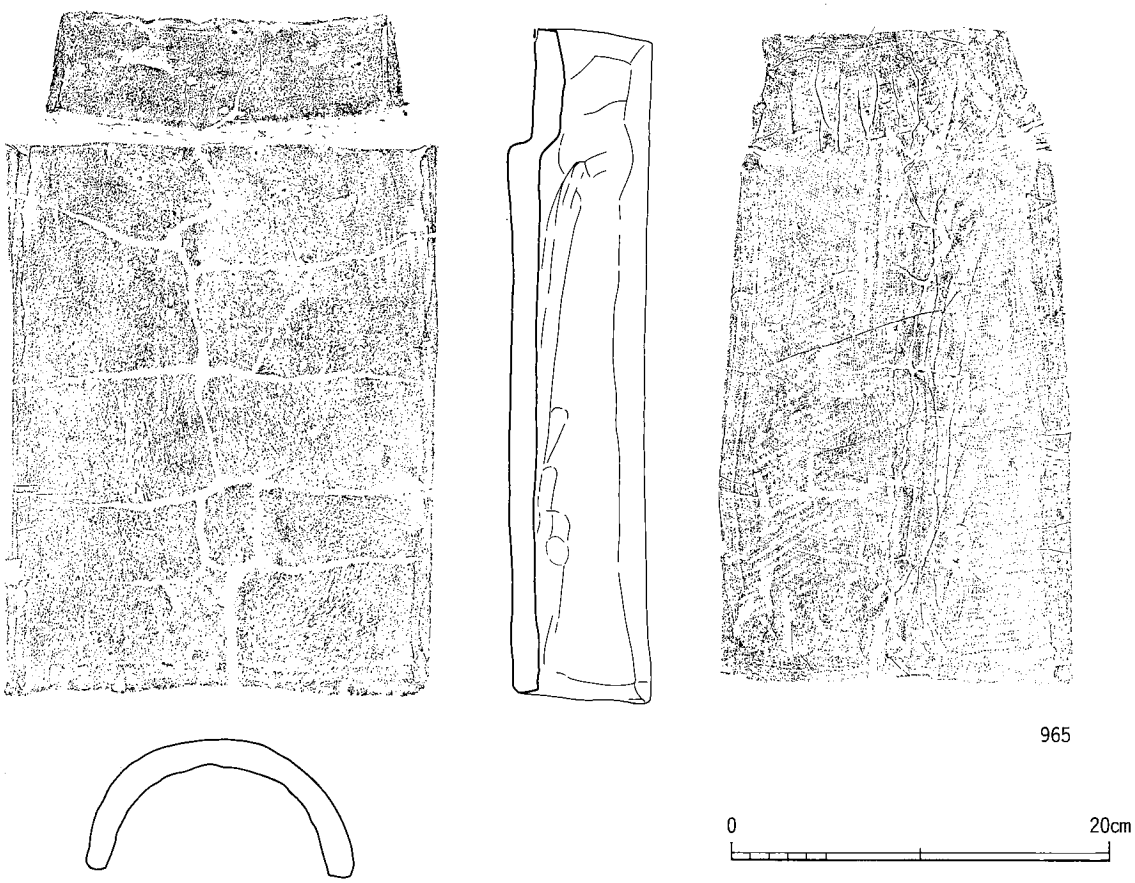


963

0 20cm



964

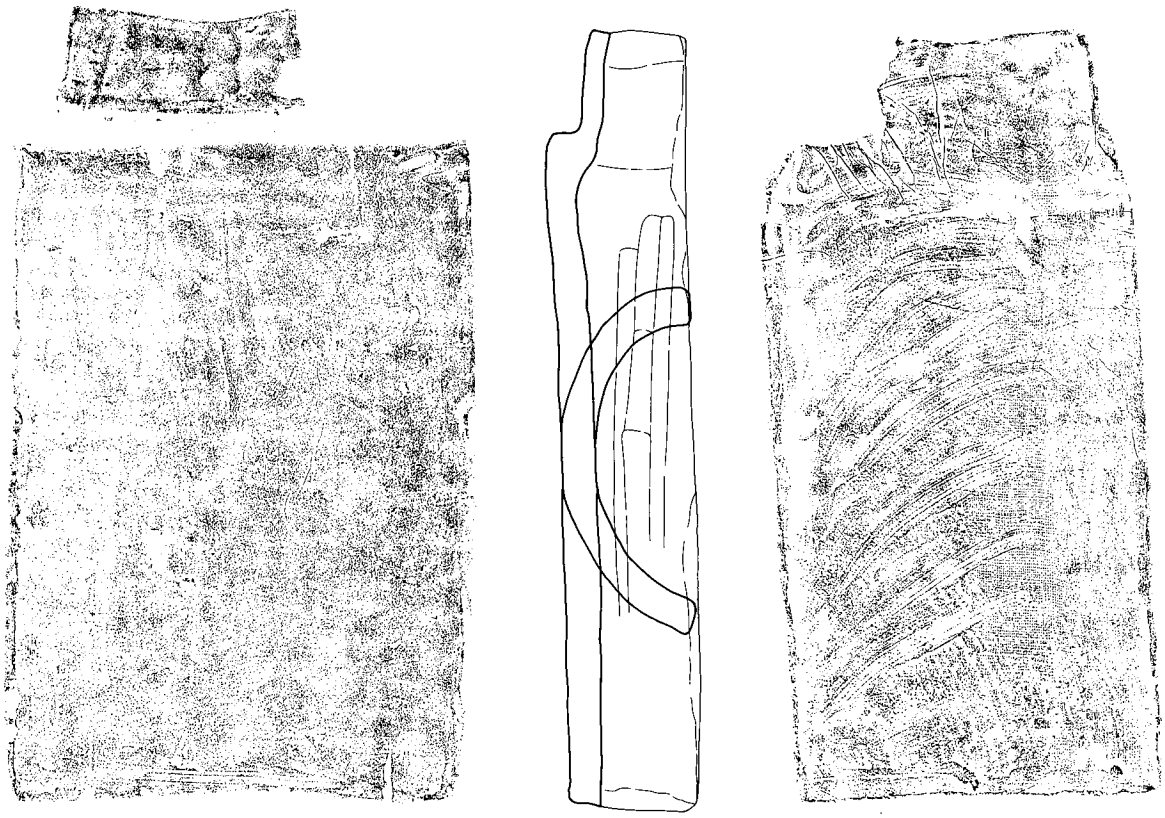


965

0 20cm

図版114

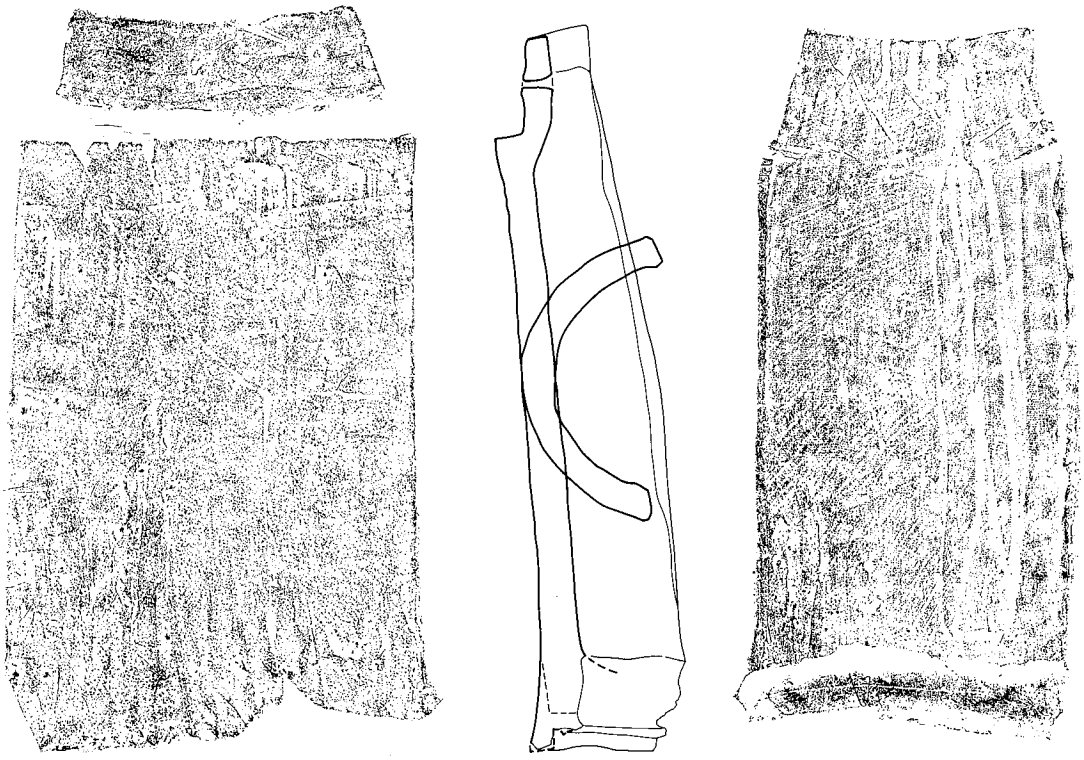
丸瓦(6)



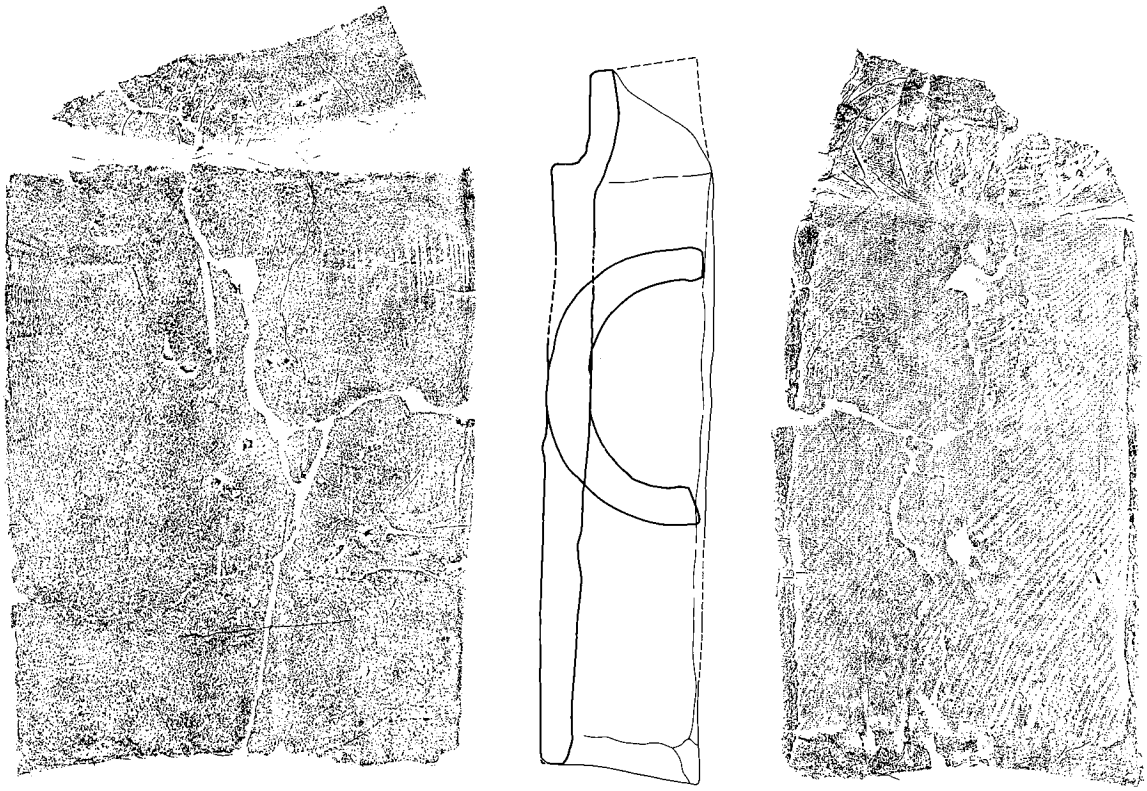
966

967

0 20cm



968



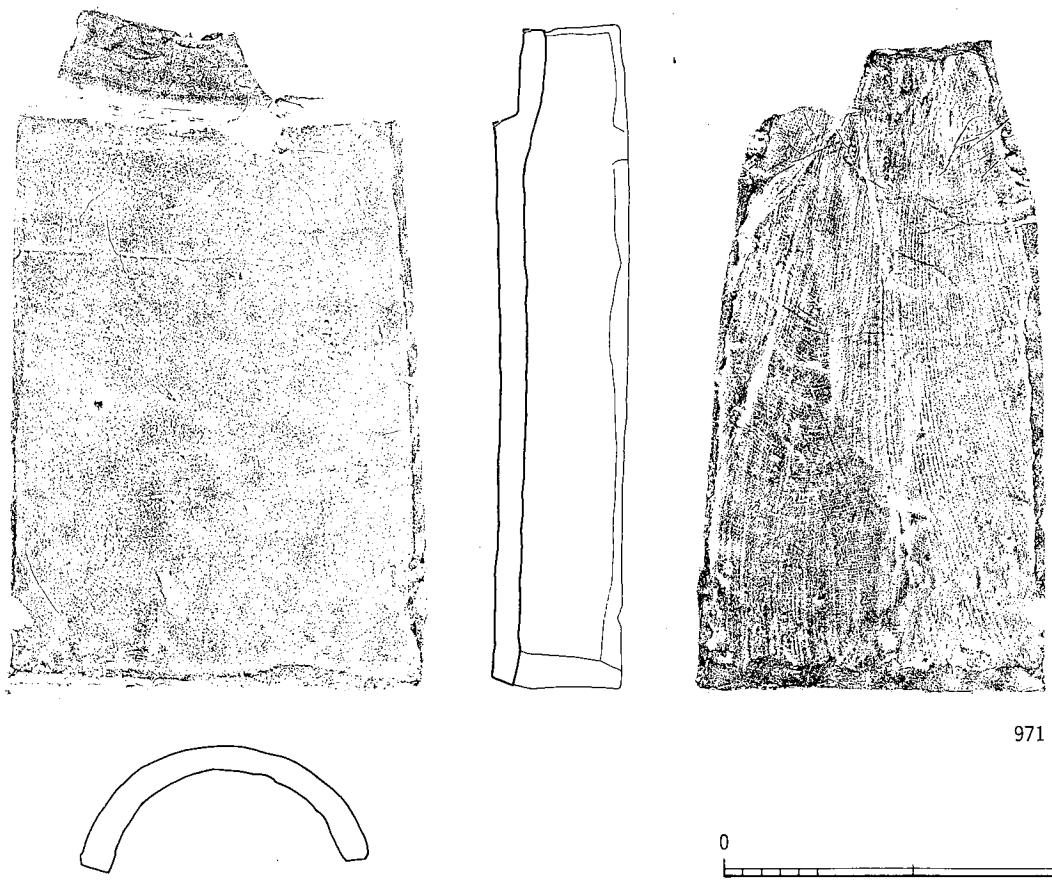
969

0 20cm

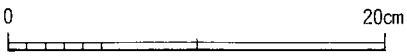
図版116

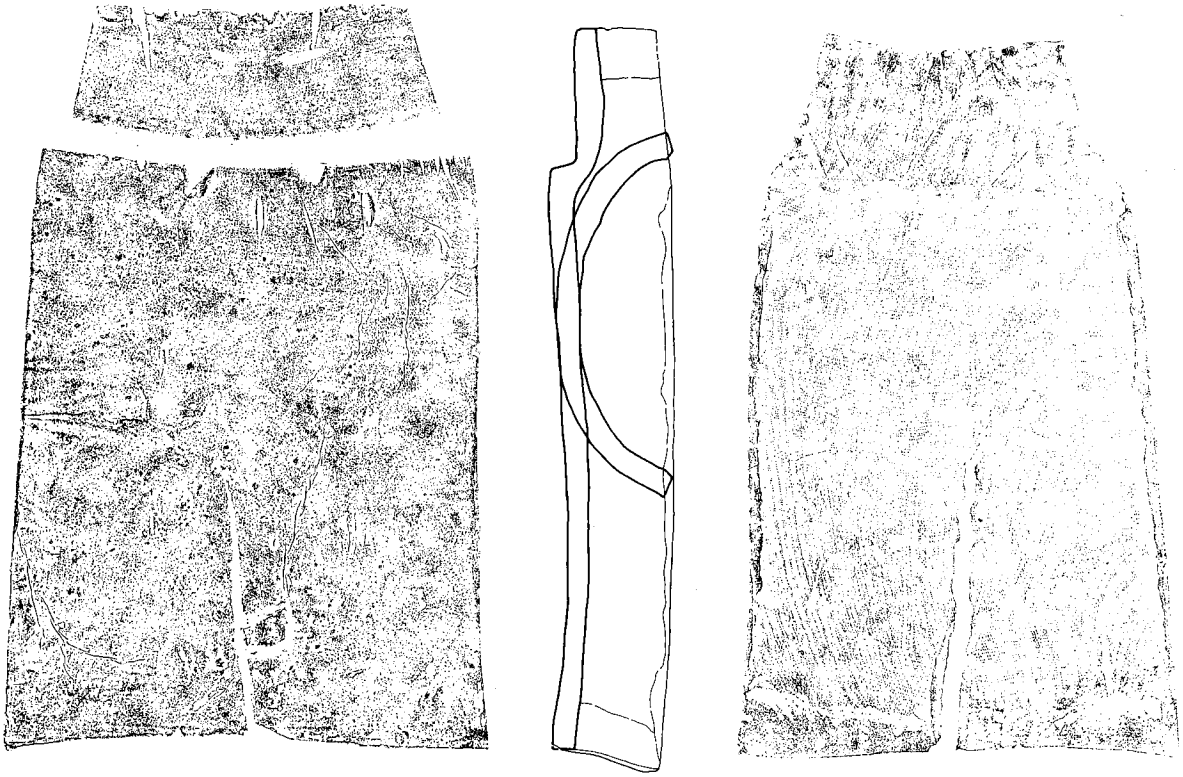
丸瓦(8)

970

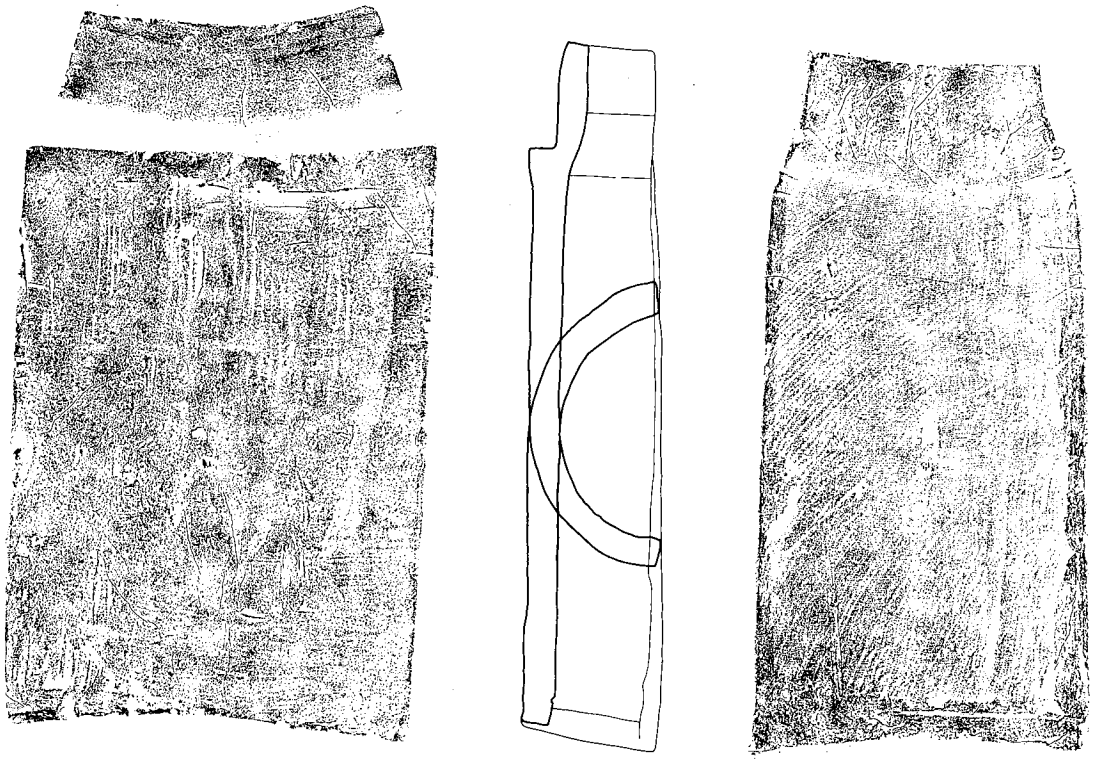


971





972

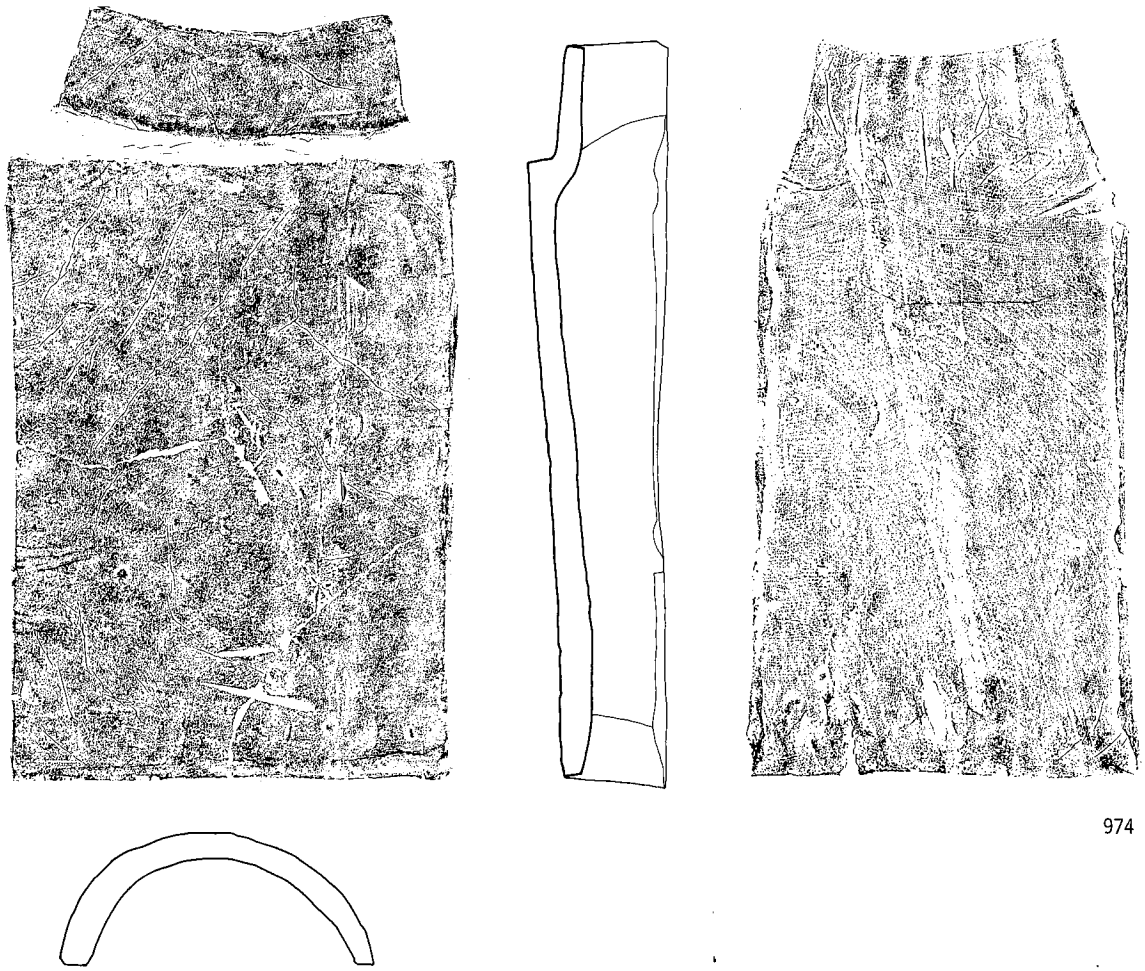


973

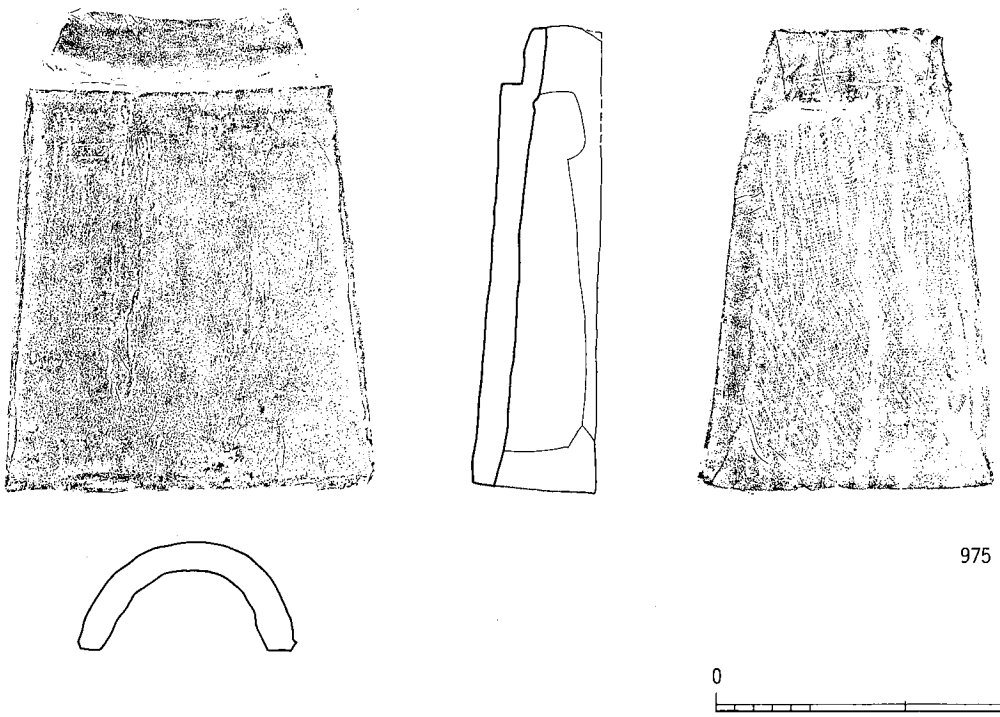
0 20cm

図版118

丸瓦(10)

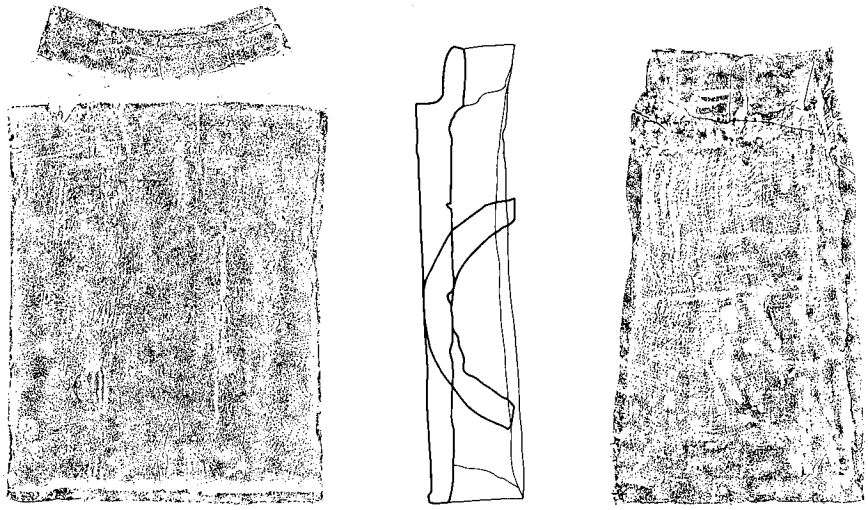


974

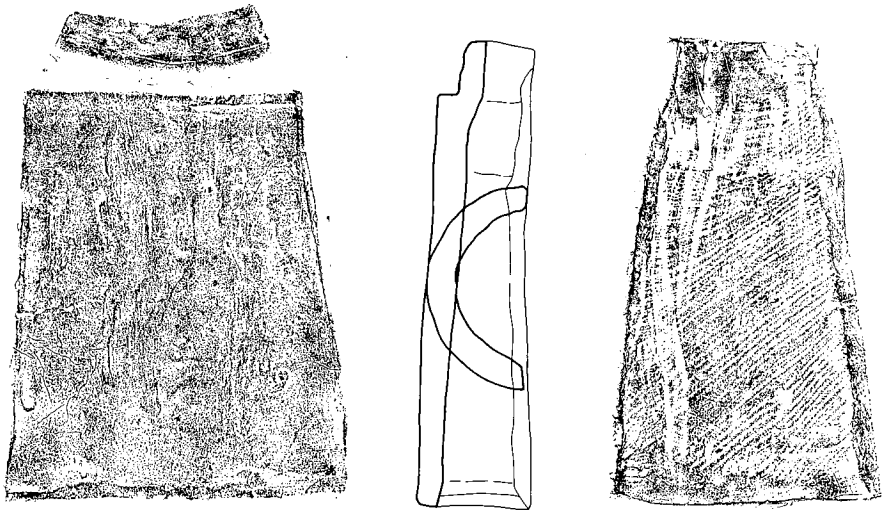


975

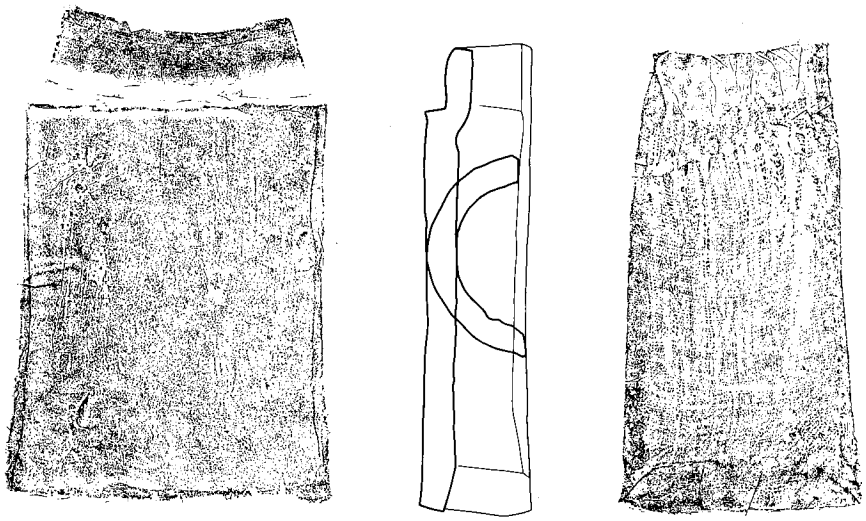
0 20cm



976



977

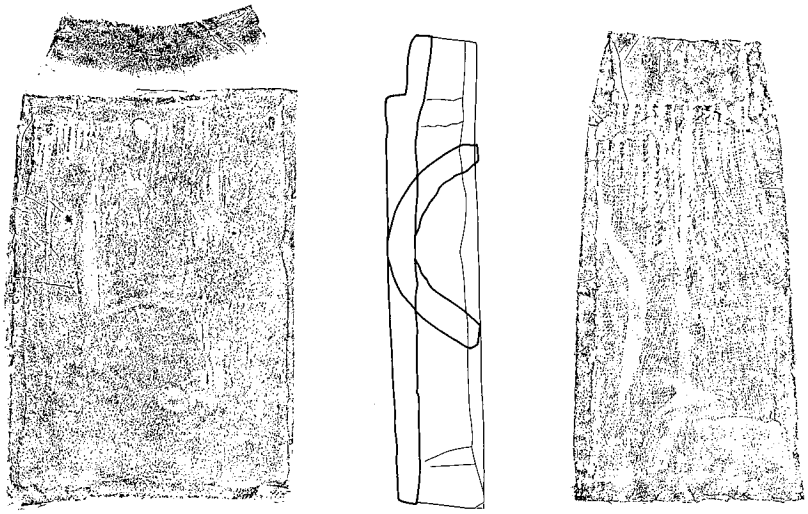


978

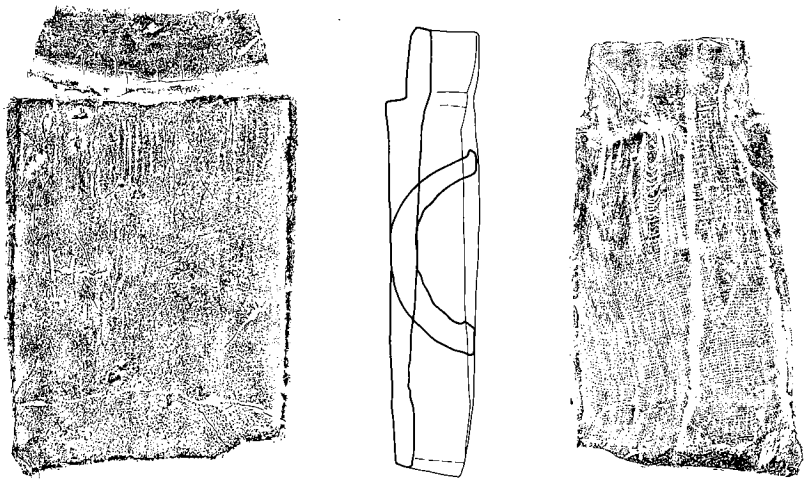
0 20cm

図版120

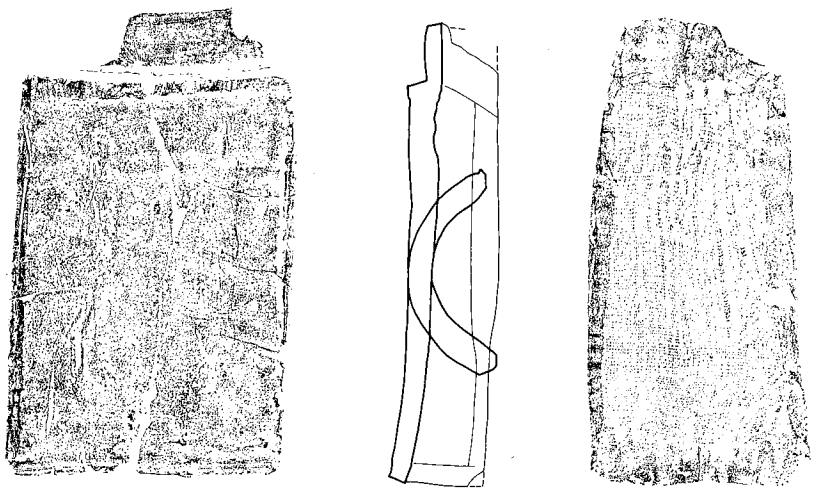
丸瓦(12)



979

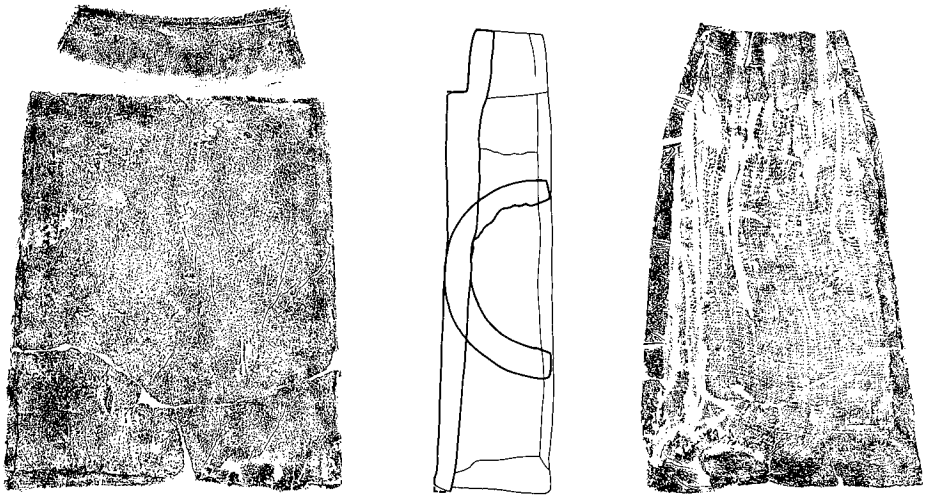


980

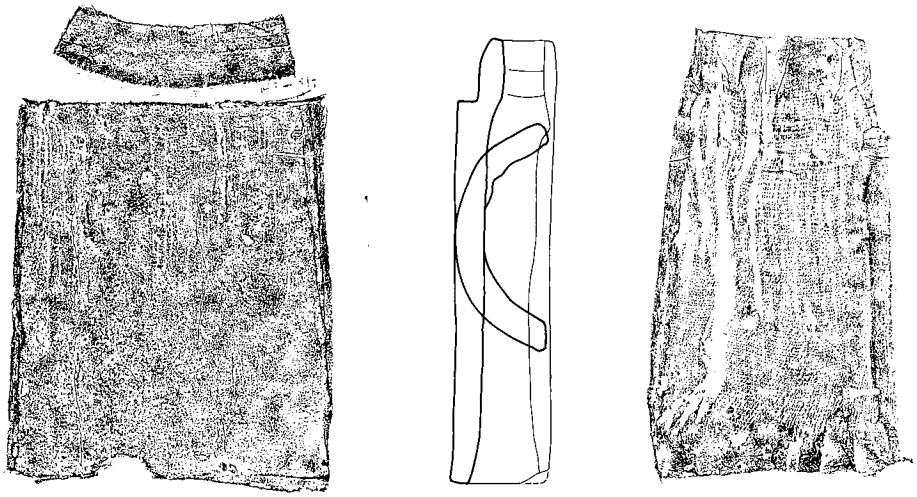


981

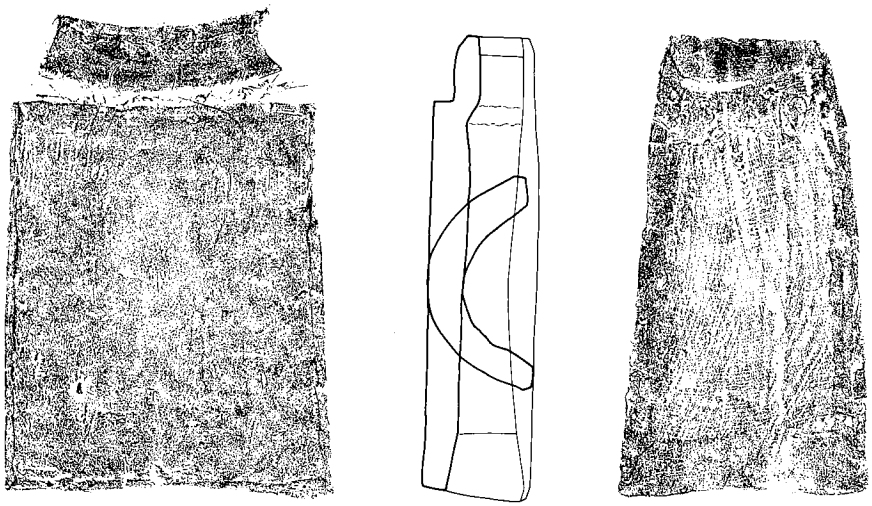
0 20cm



982



983

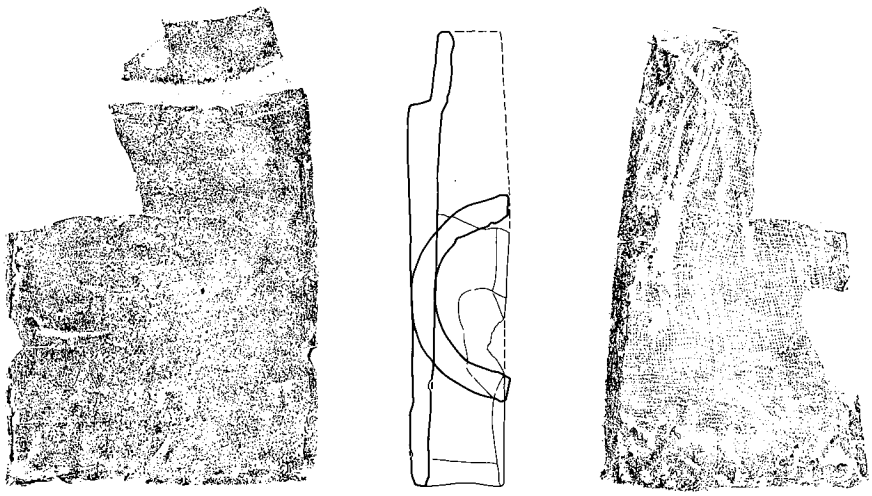


984

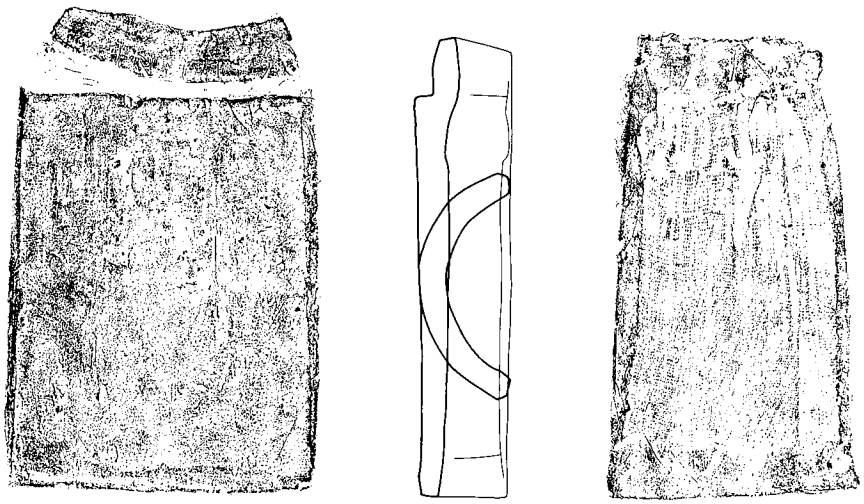
0 20cm

図版122

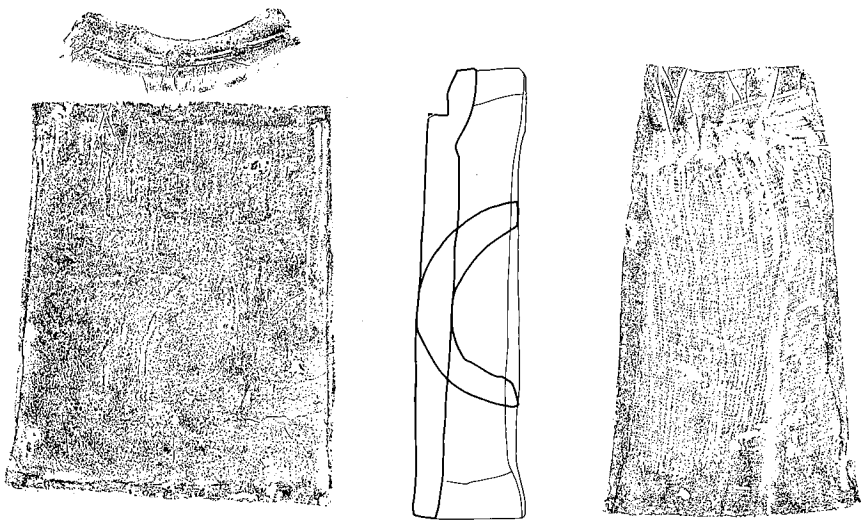
丸瓦(14)



985

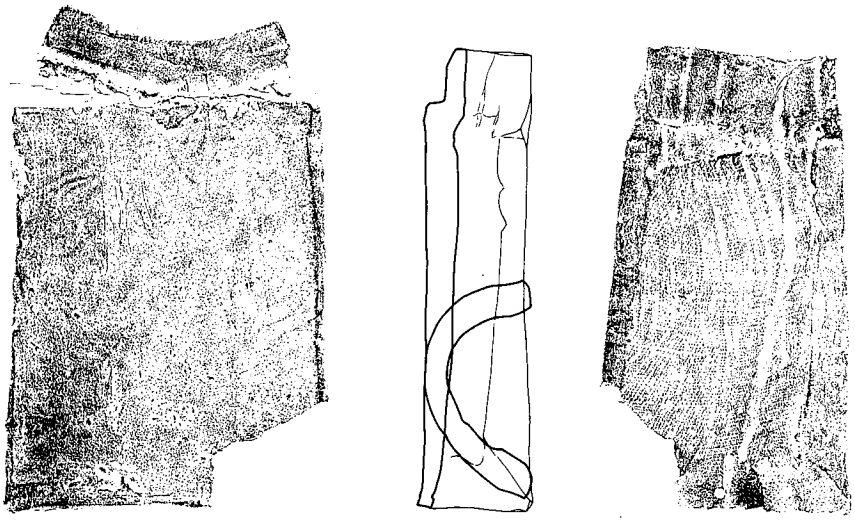


986

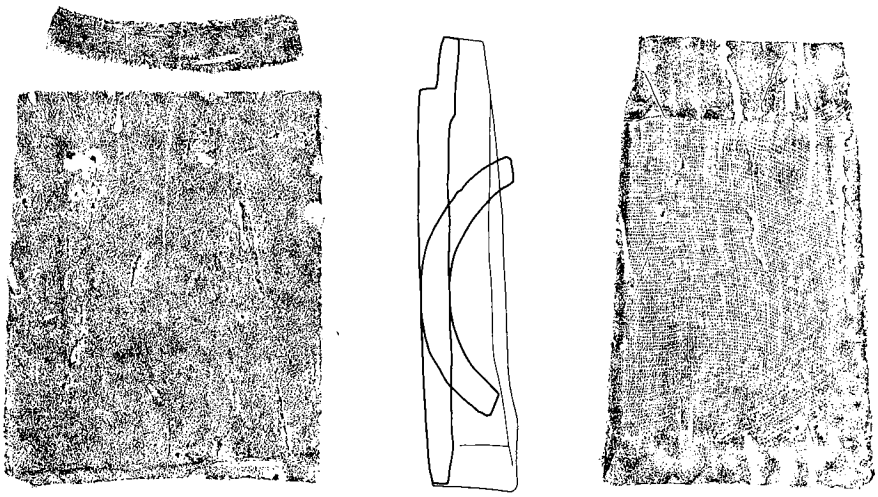


987

0 20cm



988



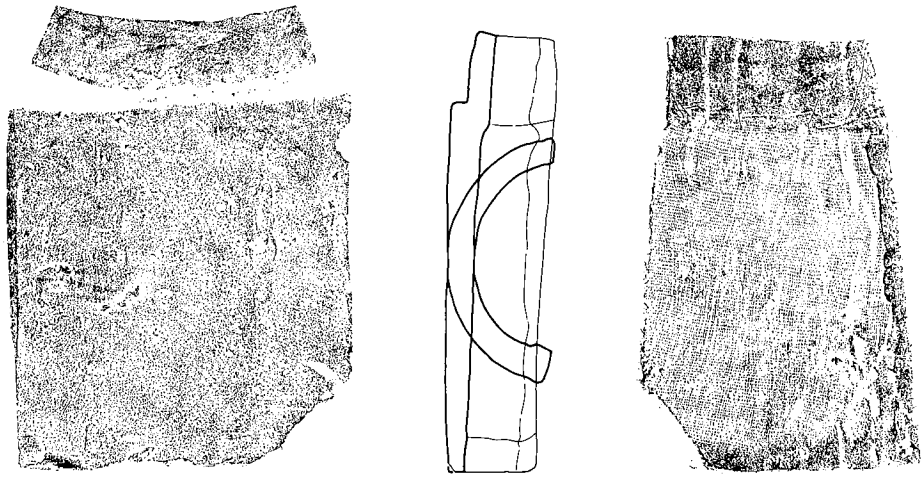
989

990

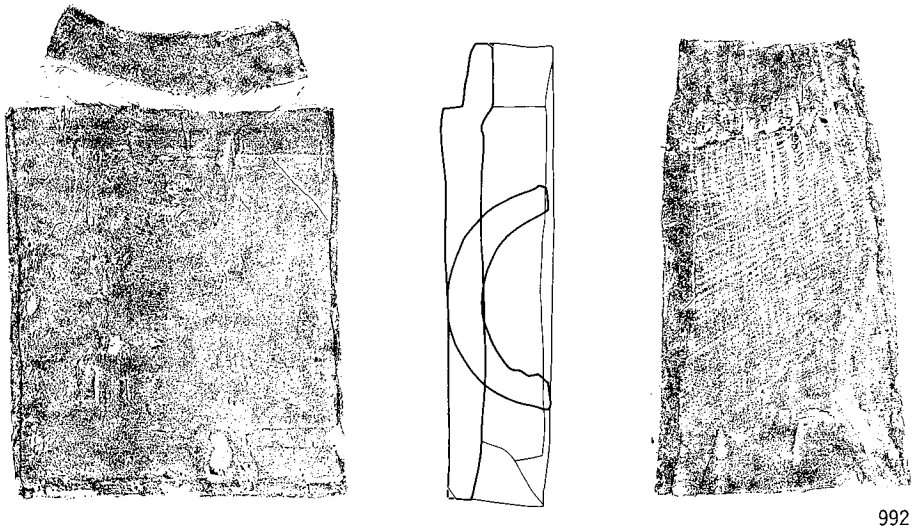
0 20cm

図版124

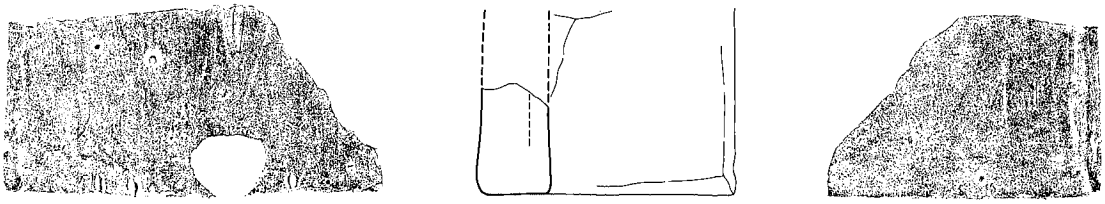
丸瓦(16)



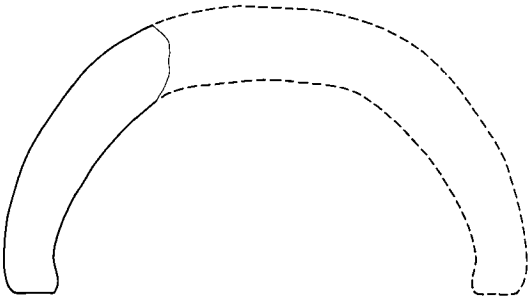
991

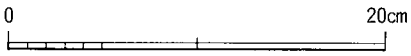


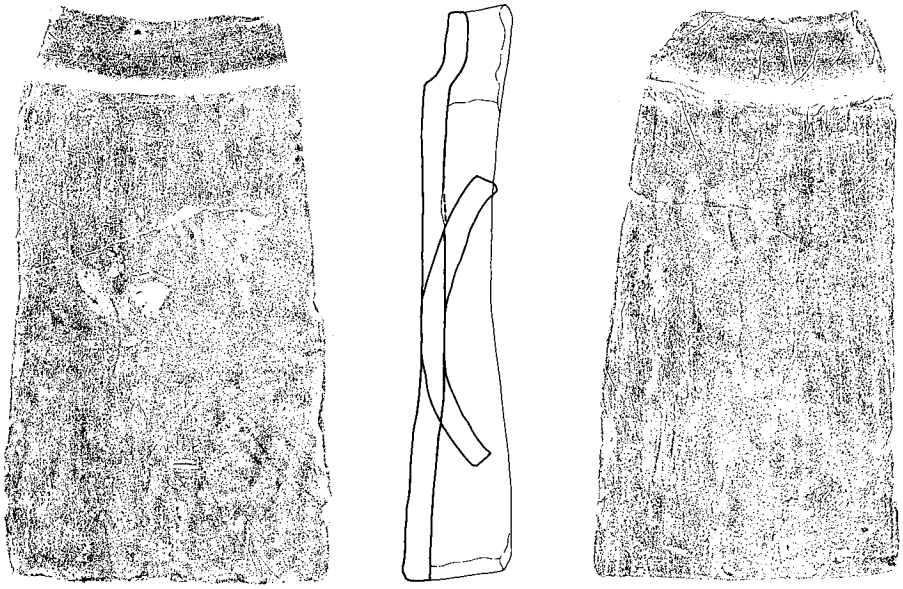
992



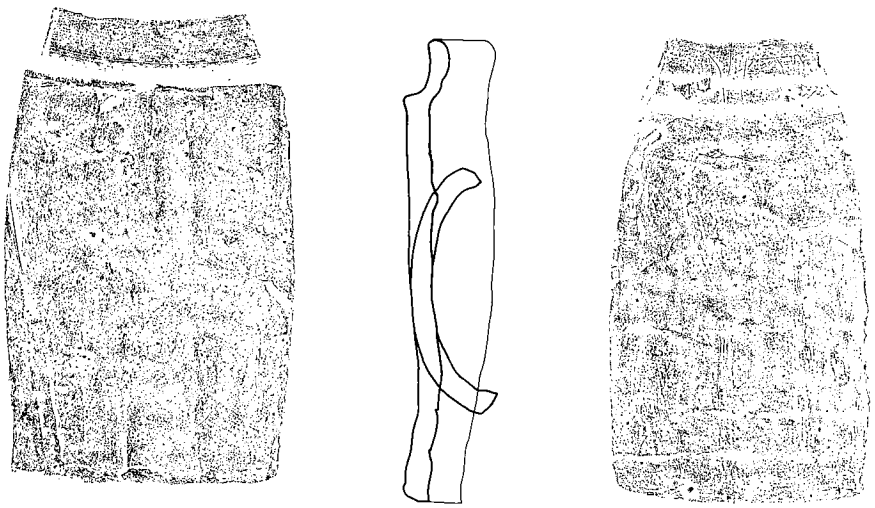
993



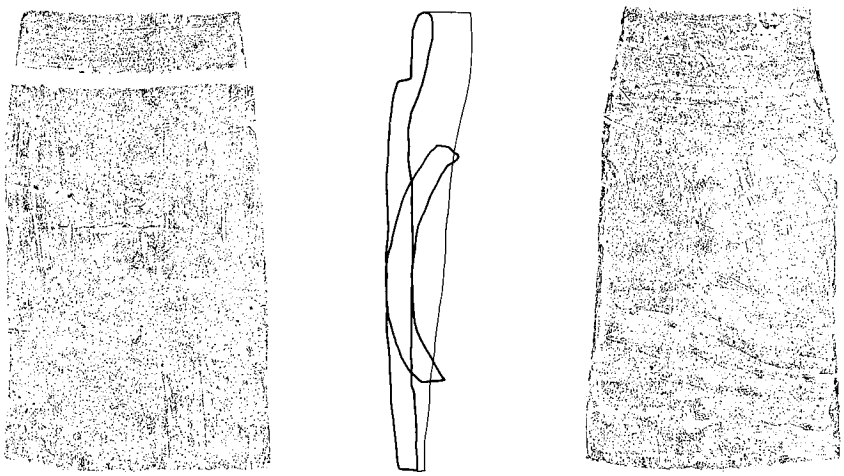




994



995

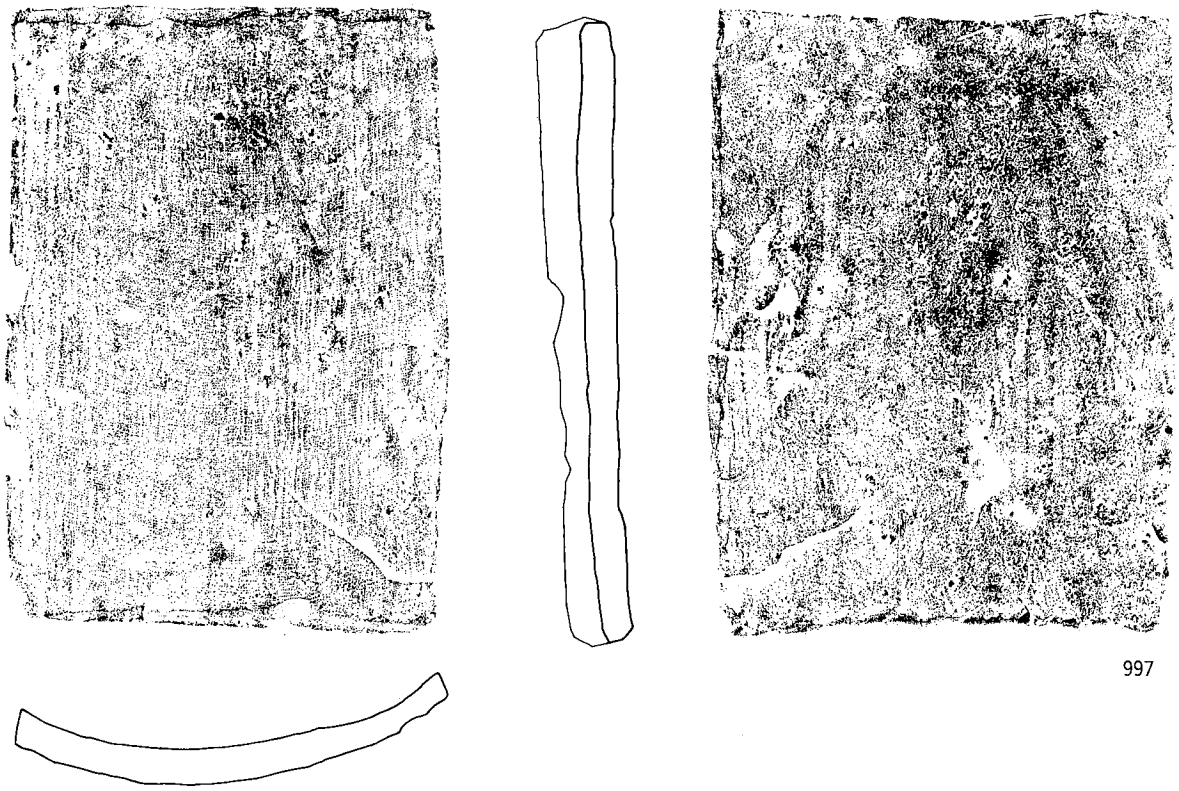


996

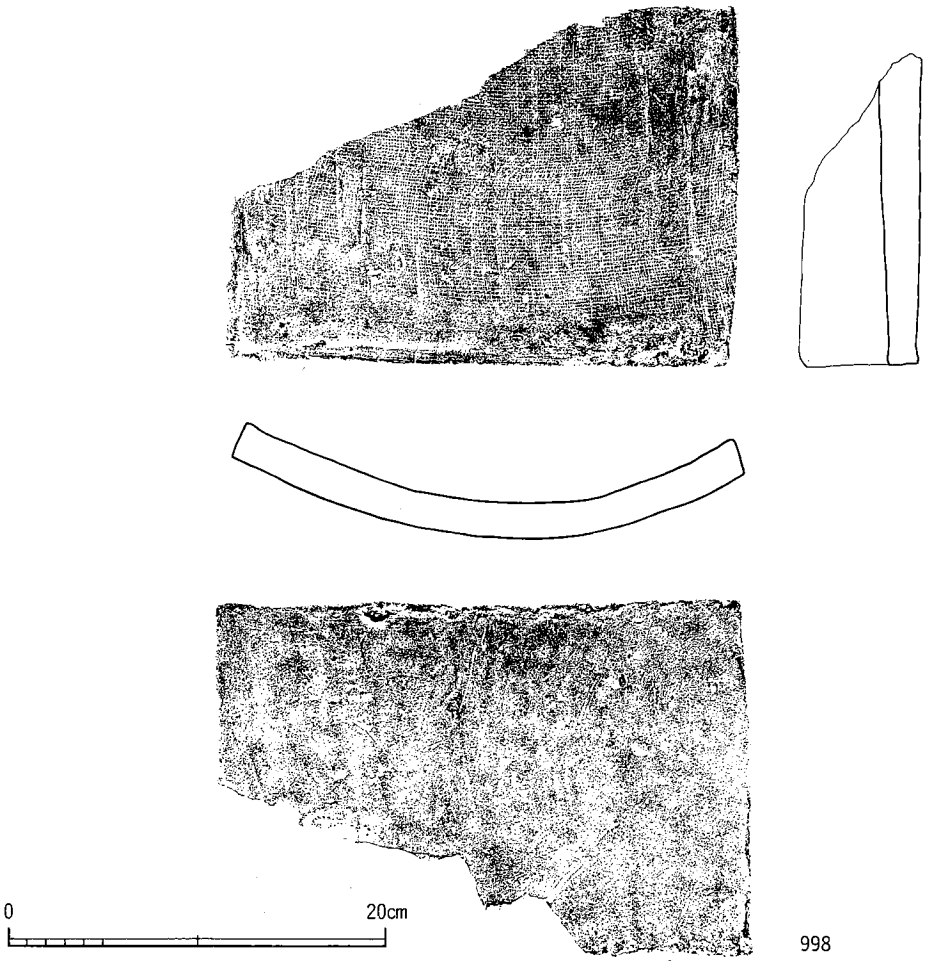
0 20cm

図版126

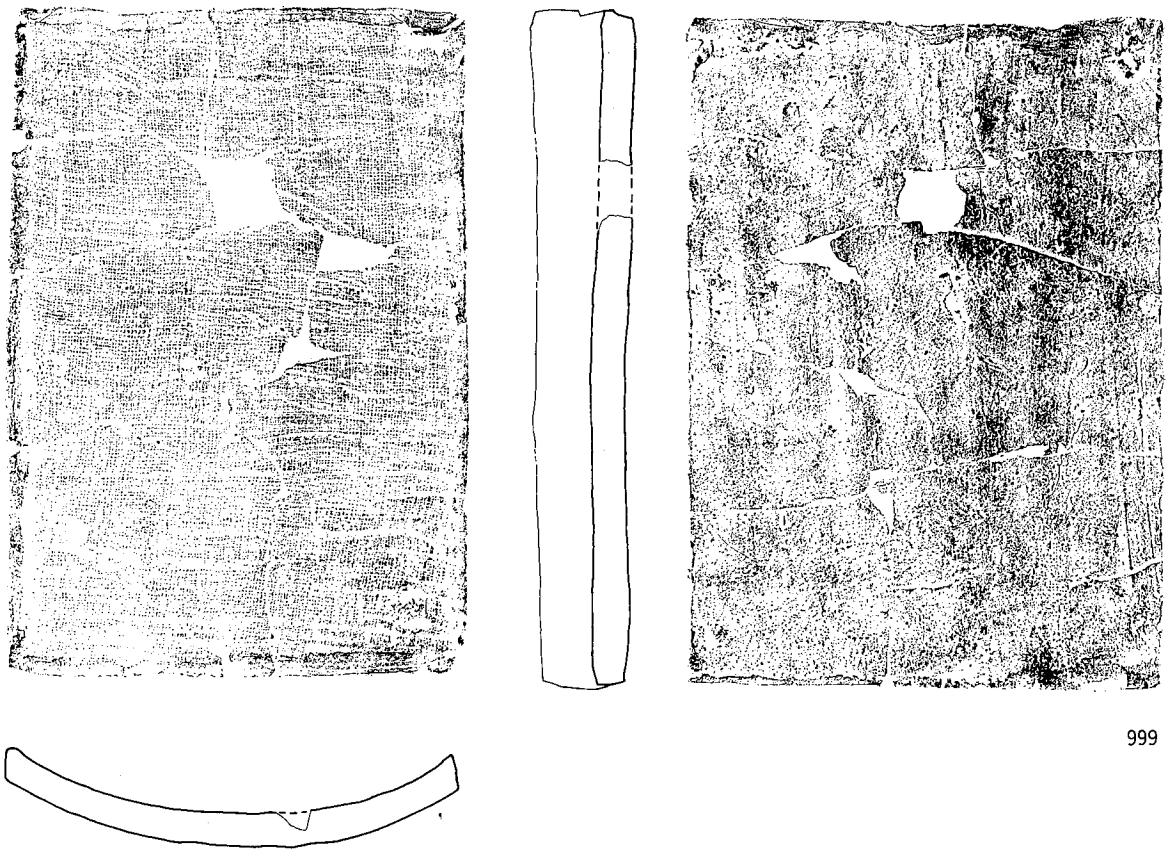
平瓦(1)



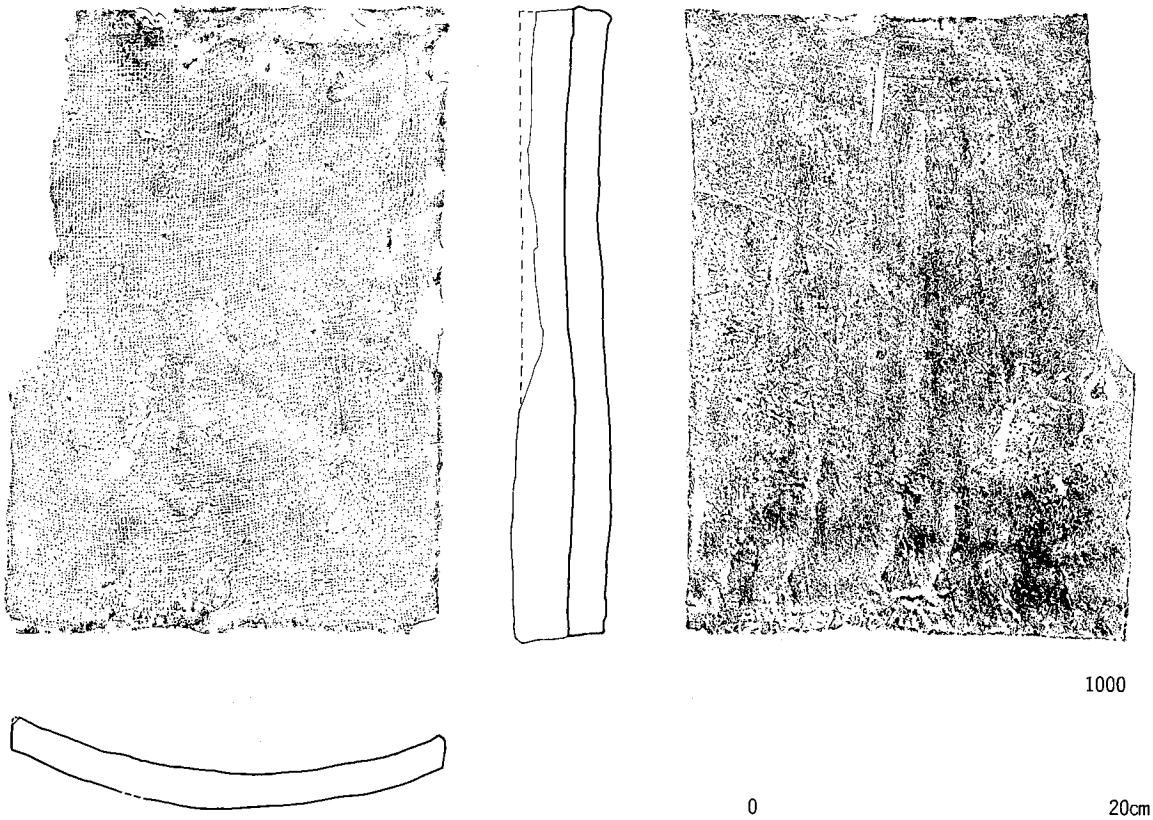
997



998



999

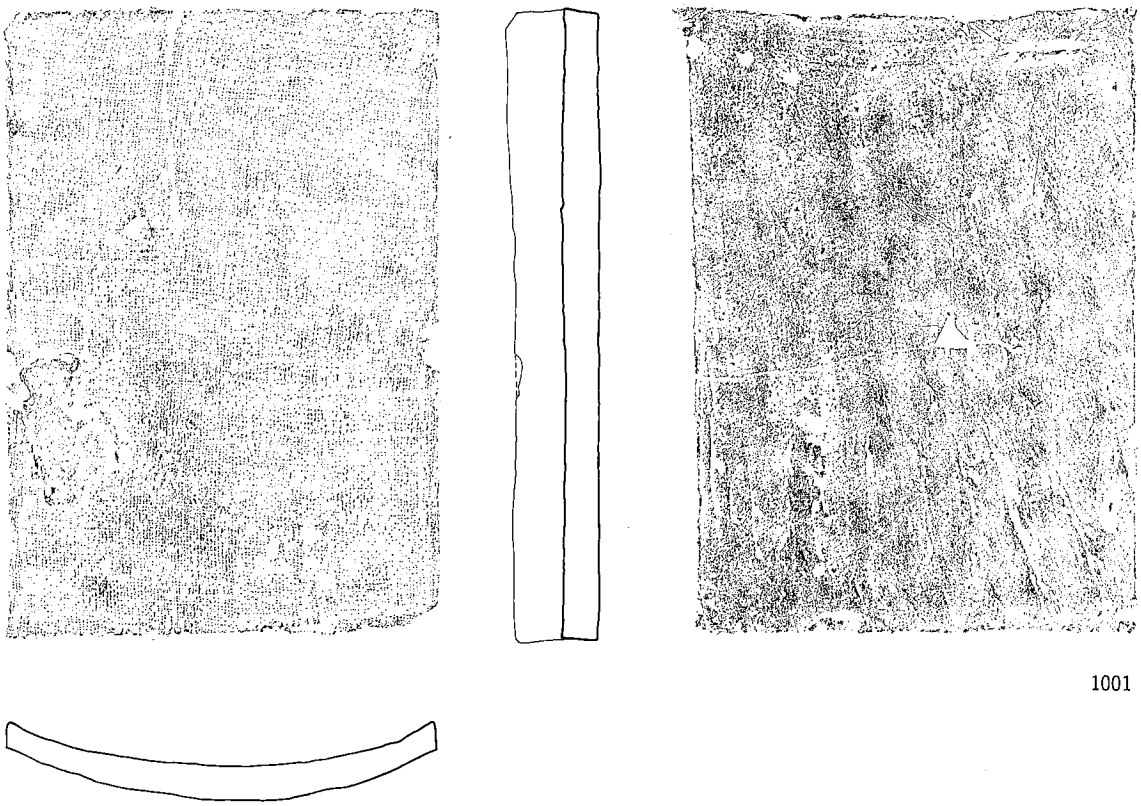


1000

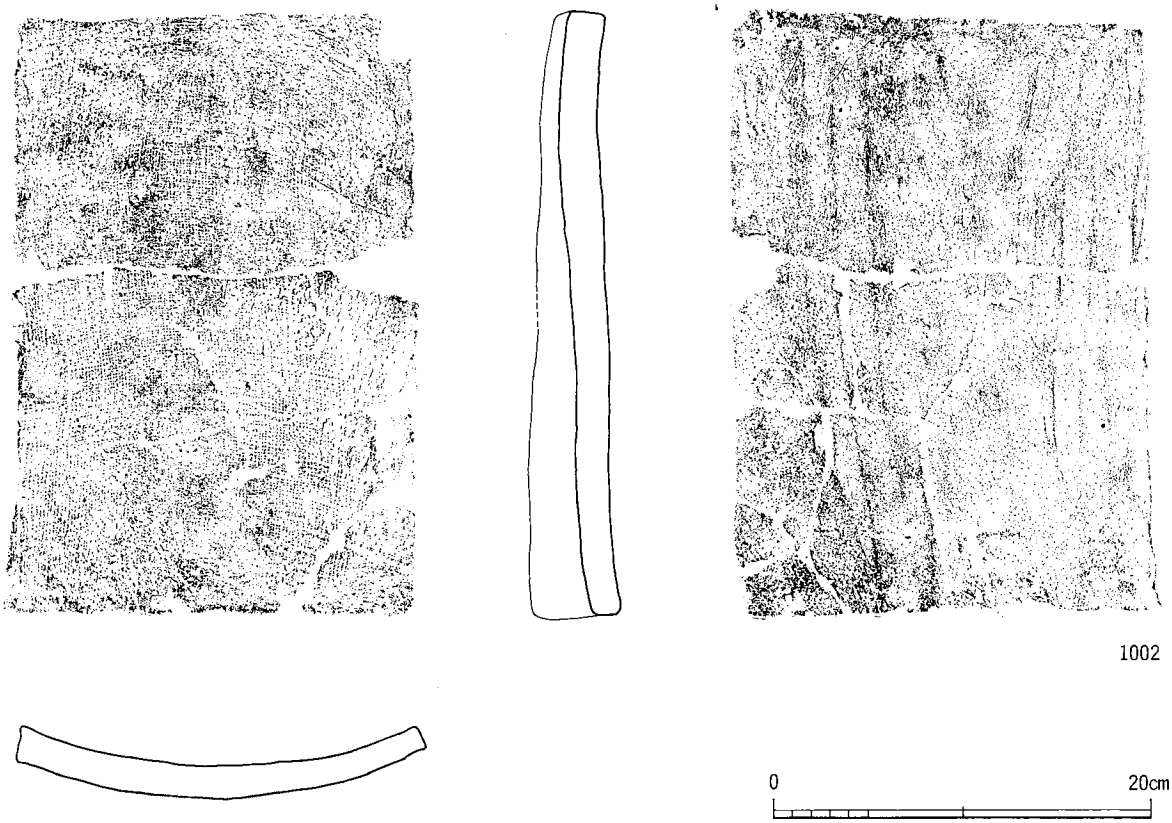
0 20cm

図版128

平瓦(3)

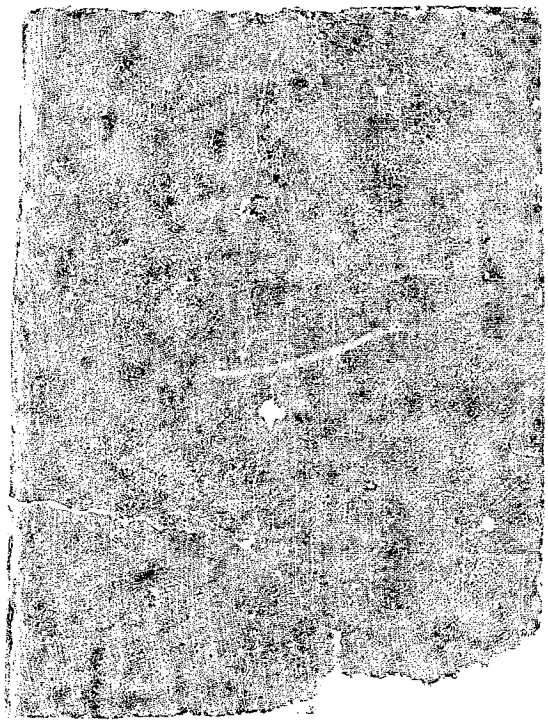


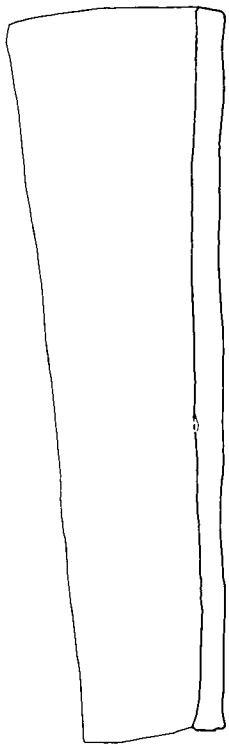
1001

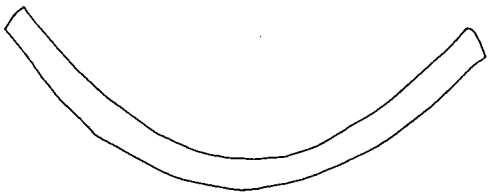


1002

0 20cm





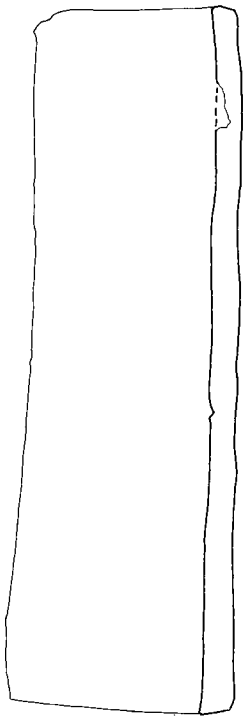


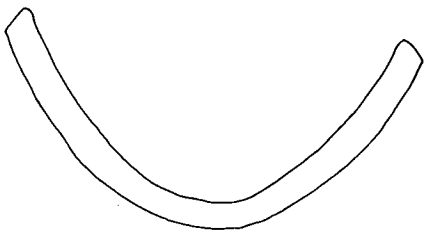
1003

0 20cm

図版130

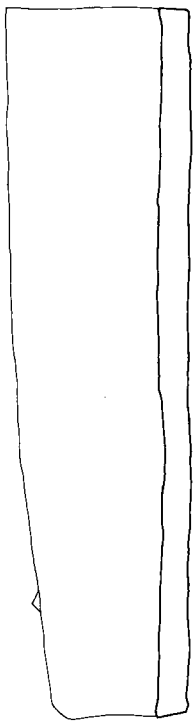
平瓦(5)

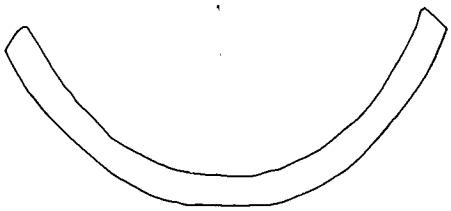


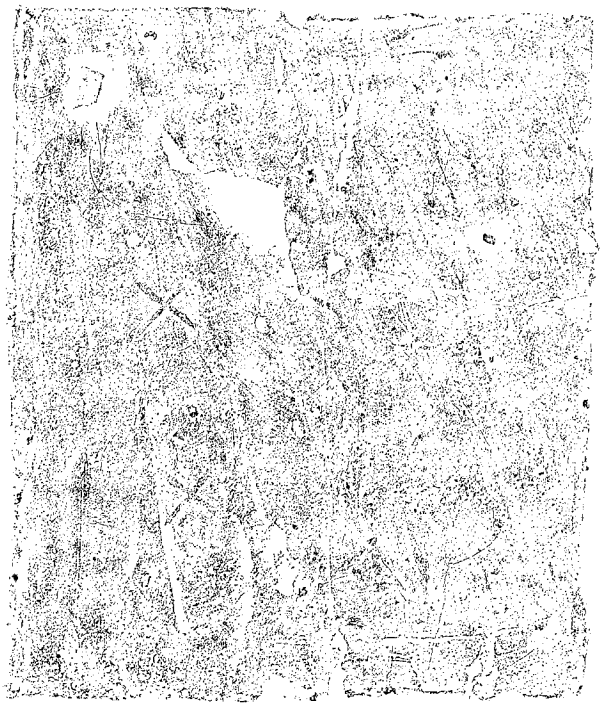


1004

0 20cm





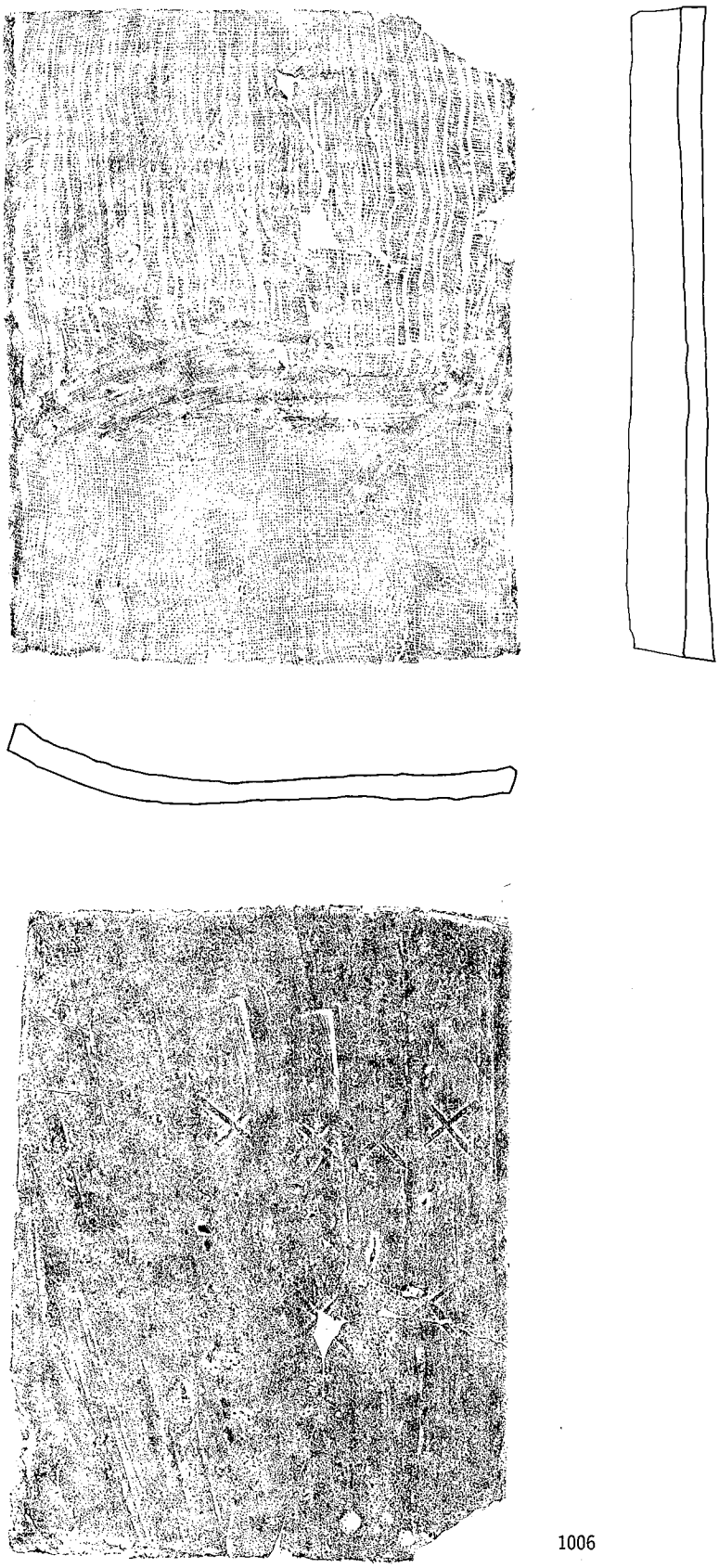


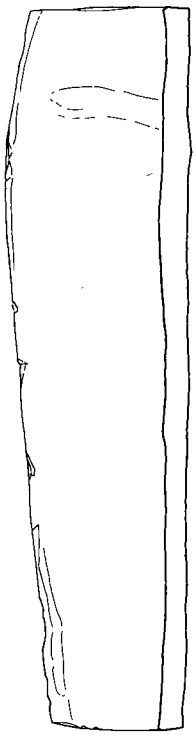
1005

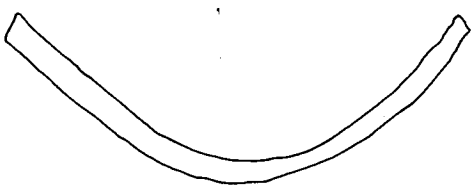
0 20cm

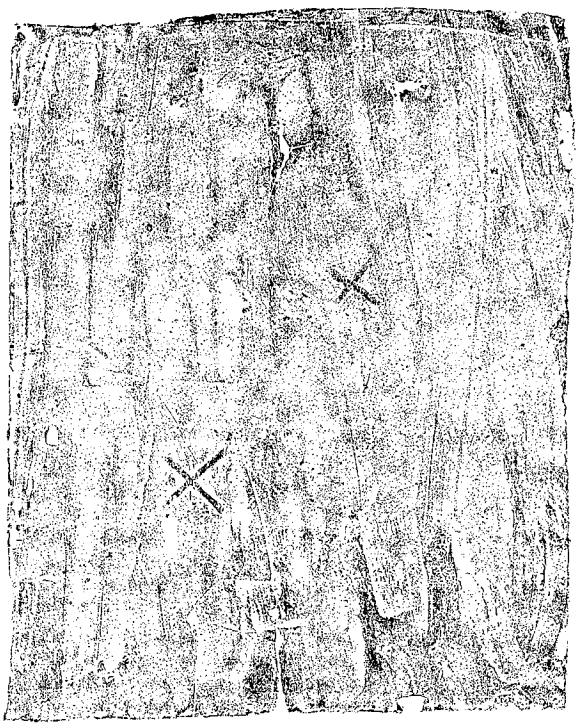
図版132

平瓦(7)







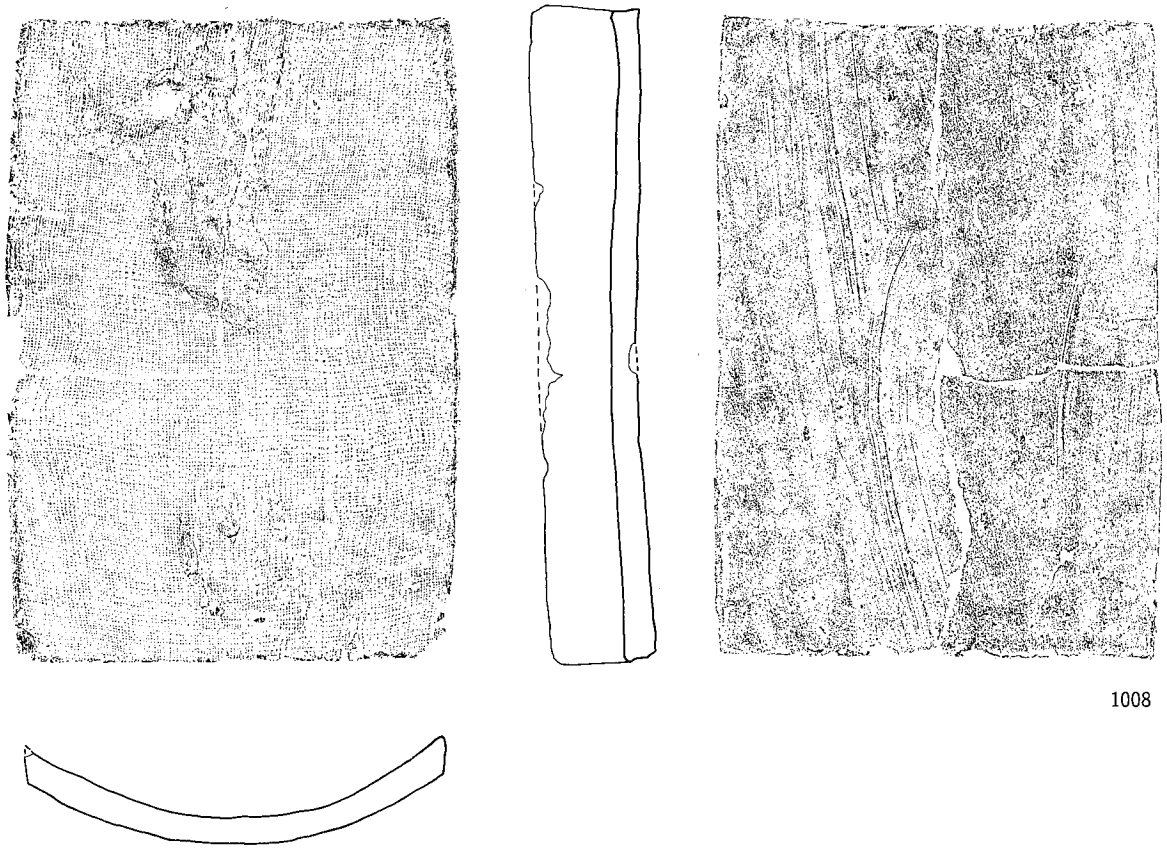


1007

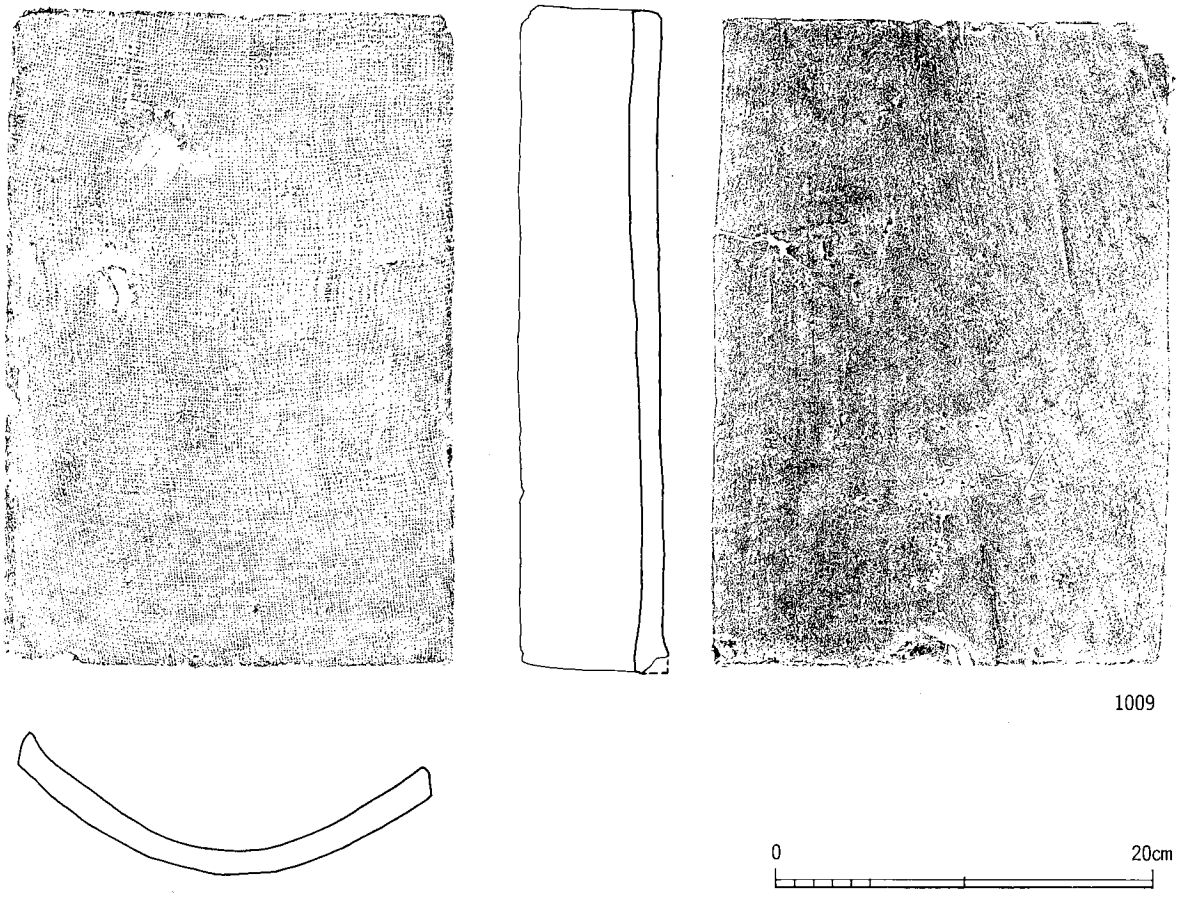
0 20cm

図版134

平瓦(9)

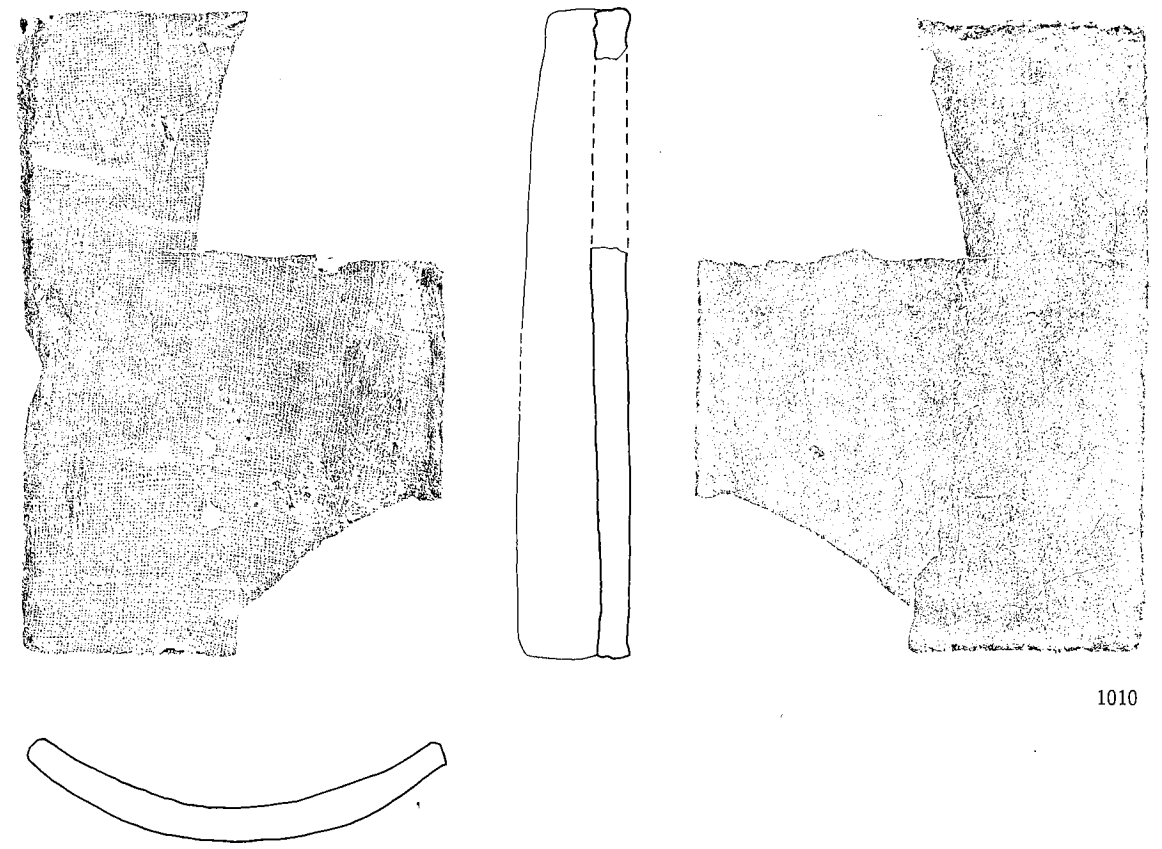


1008

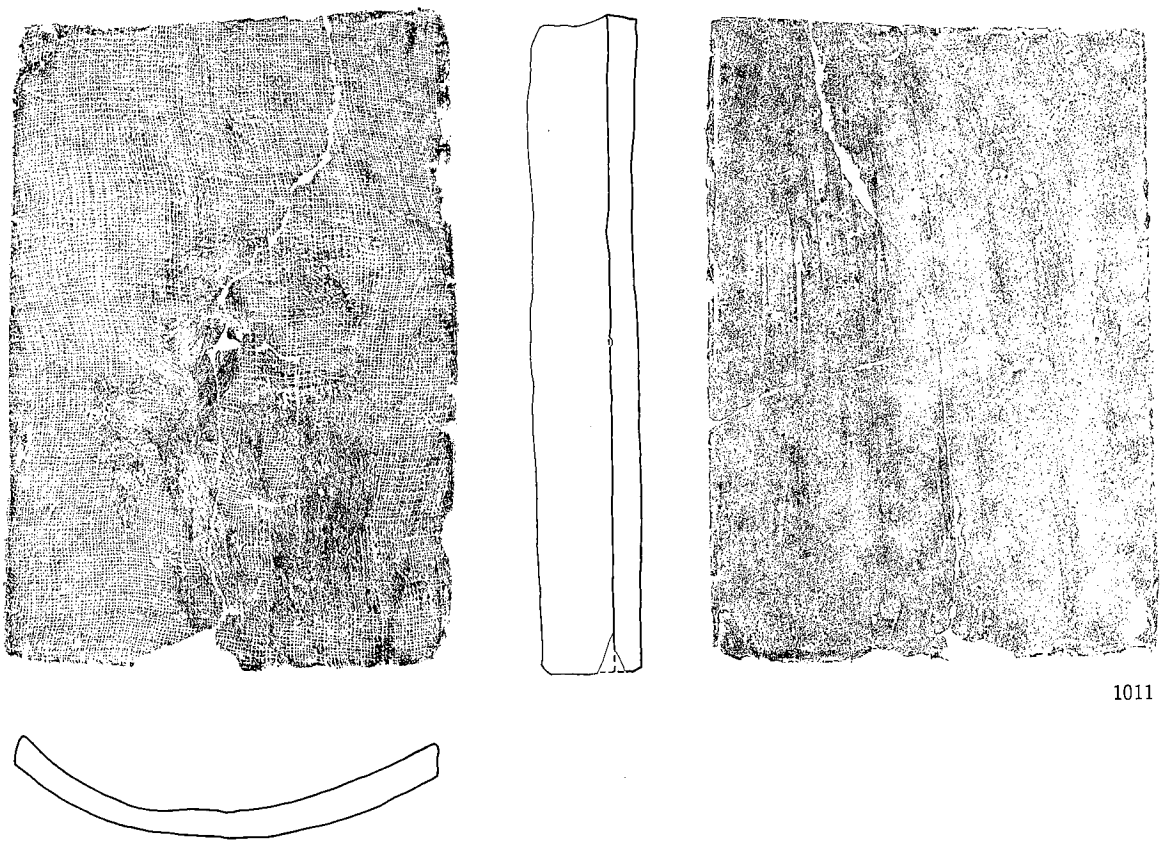


1009

0 20cm



1010

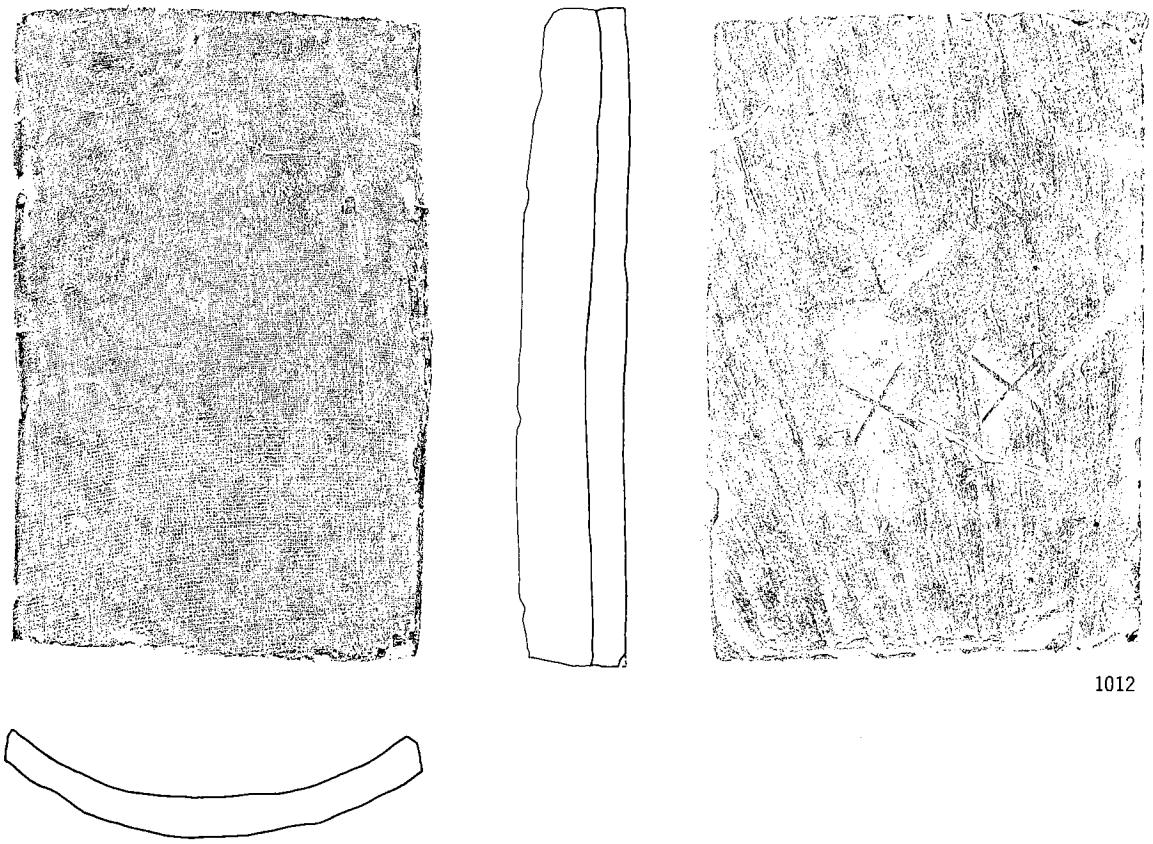


1011

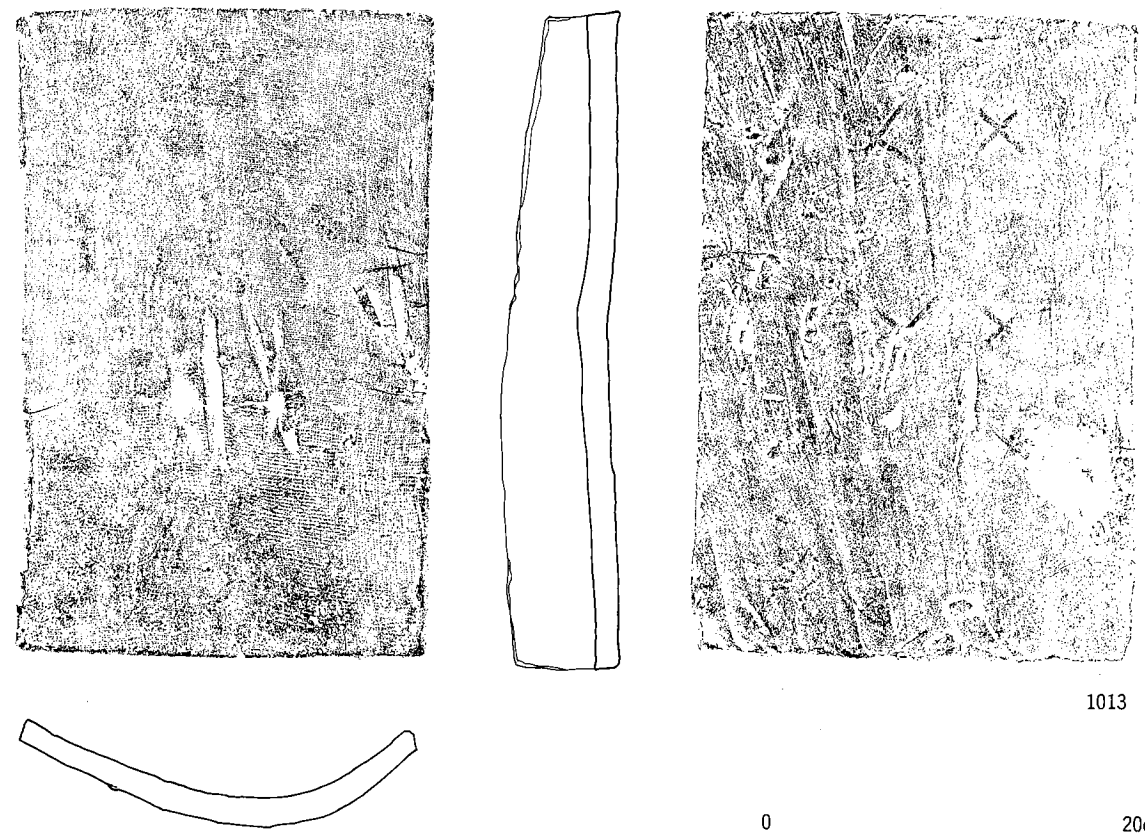
0 20cm

図版136

平瓦(11)

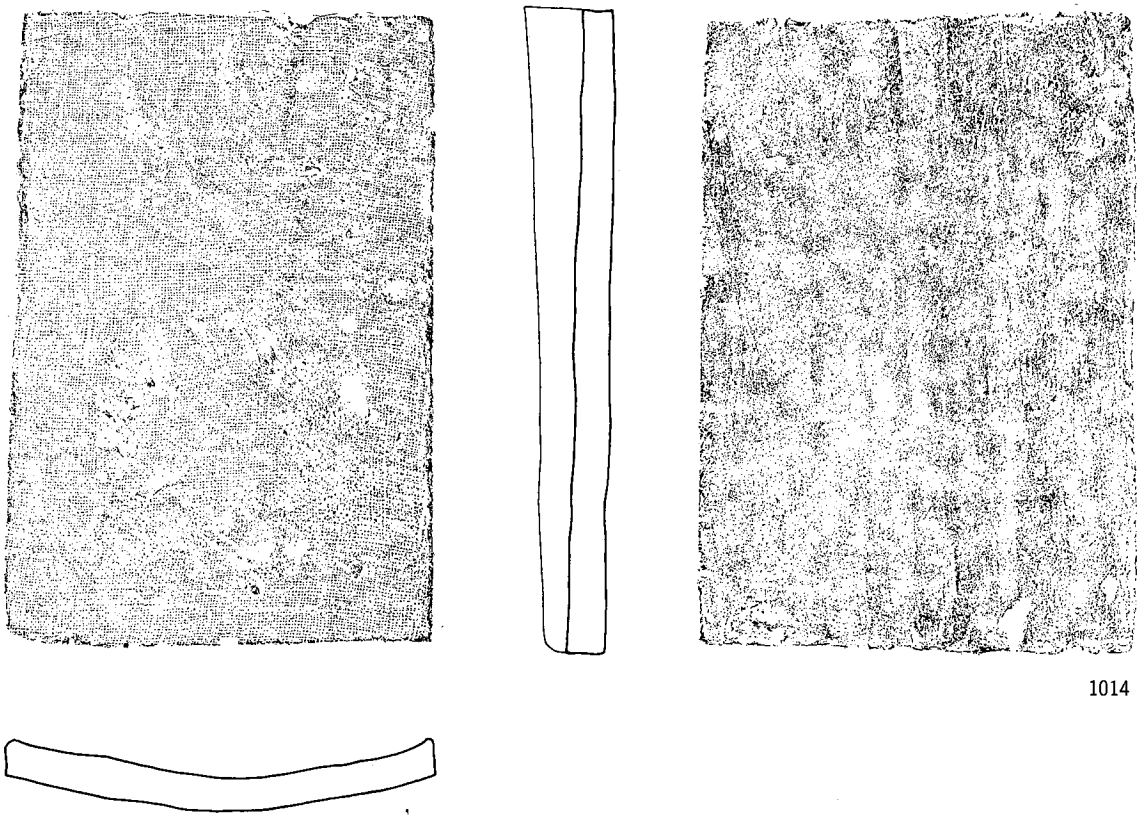


1012

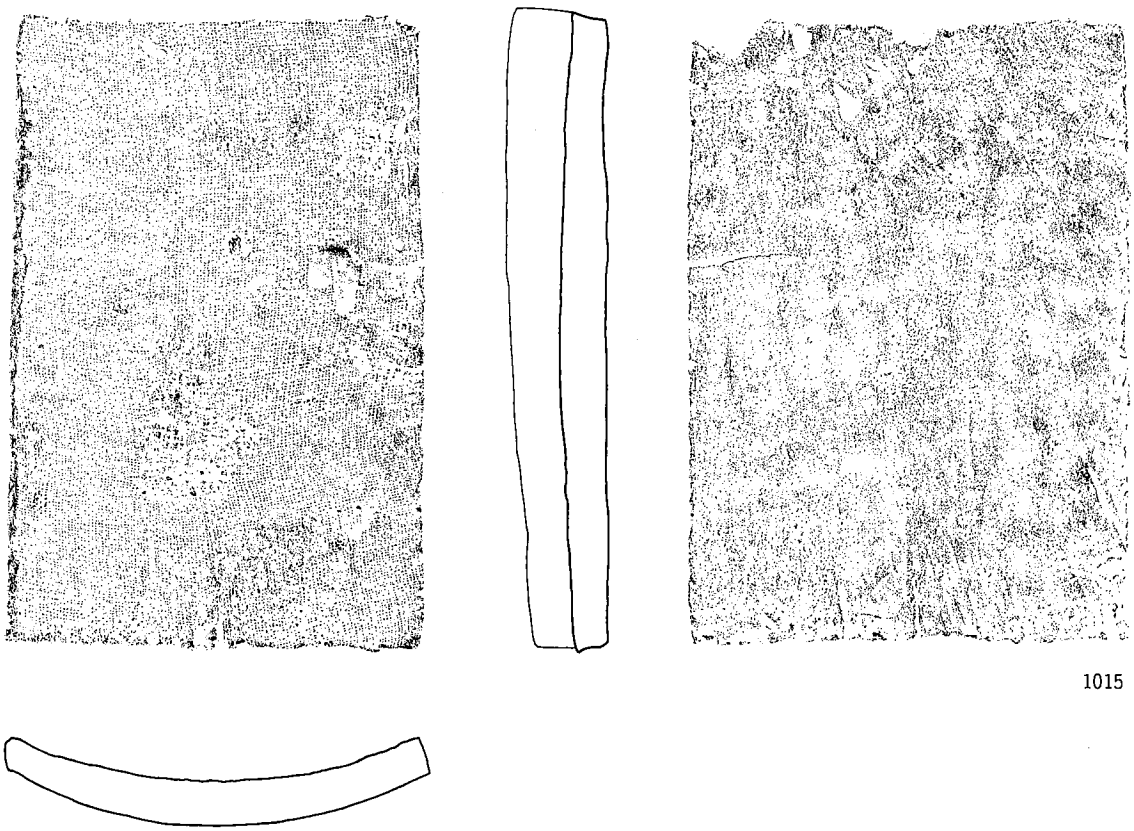


1013

0 20cm



1014

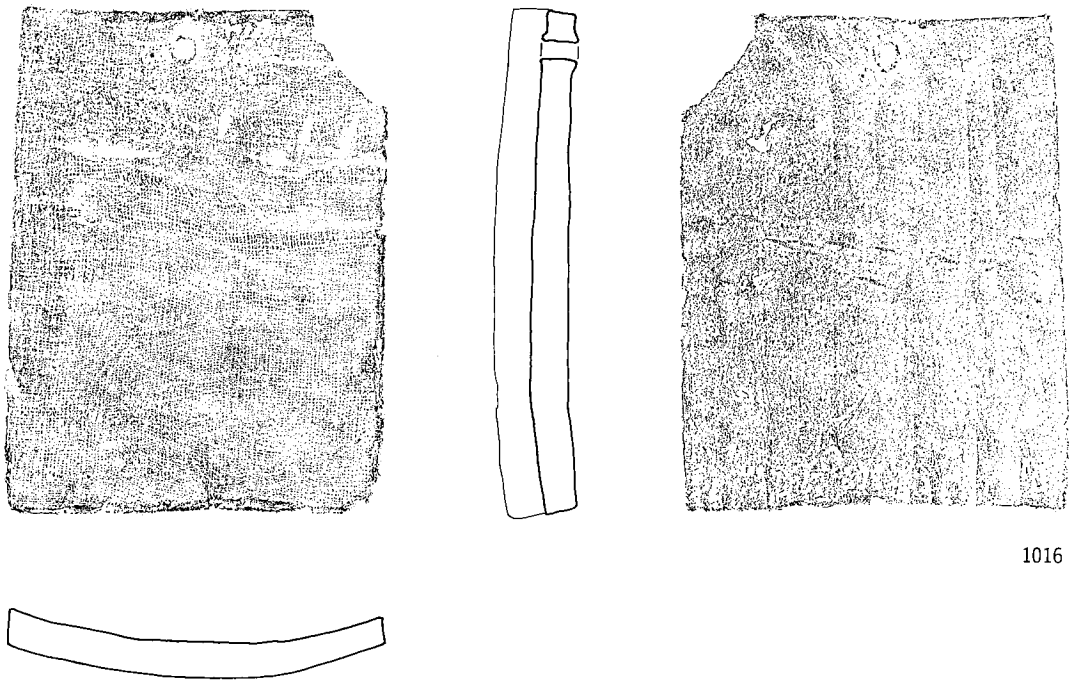


1015

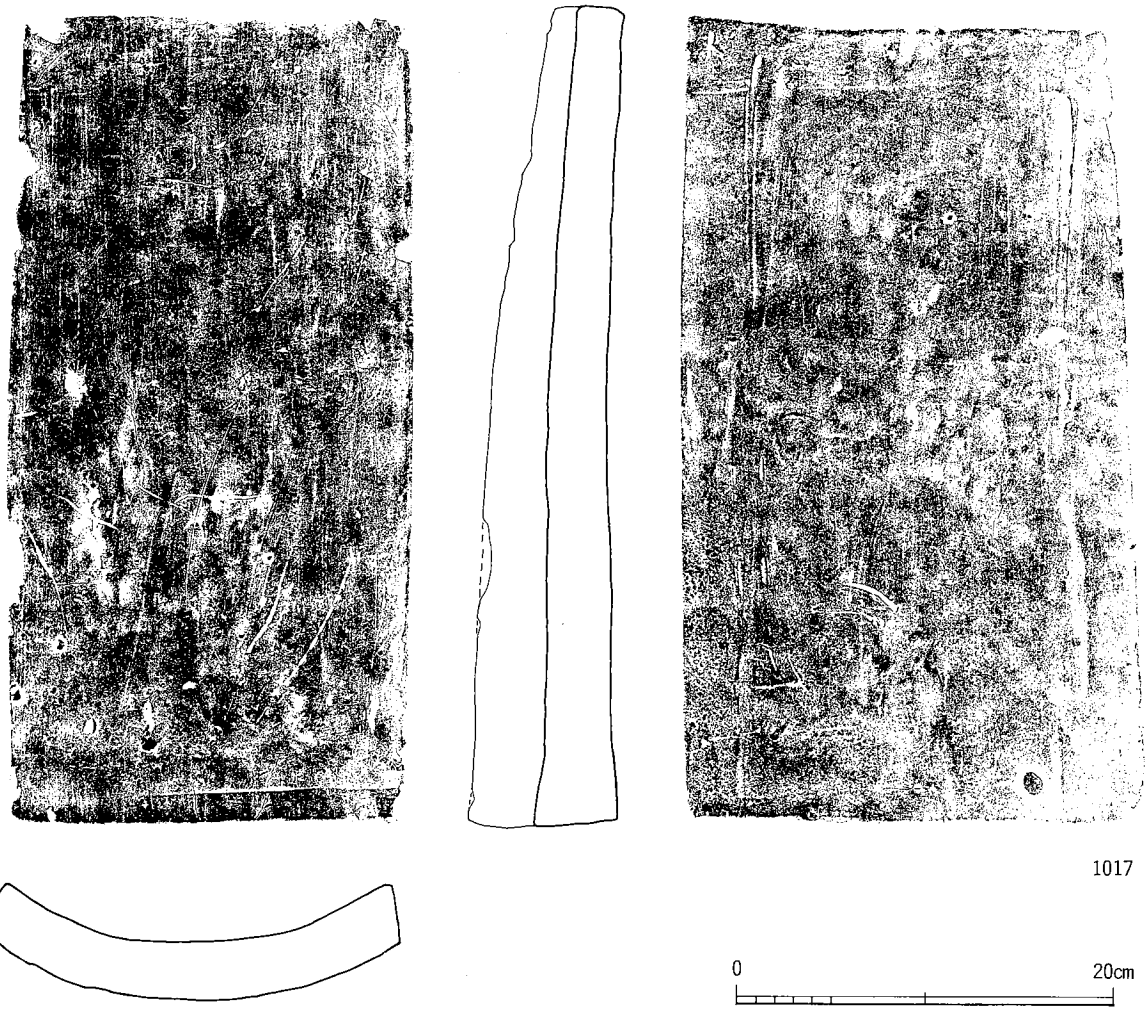
0 20cm

図版138

平瓦(13)

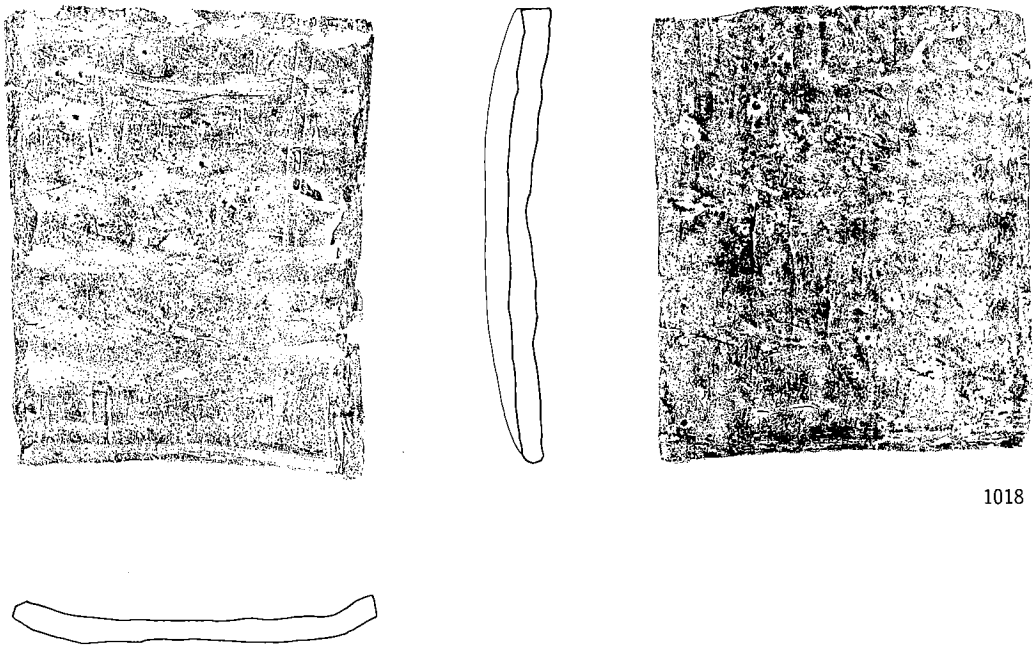


1016

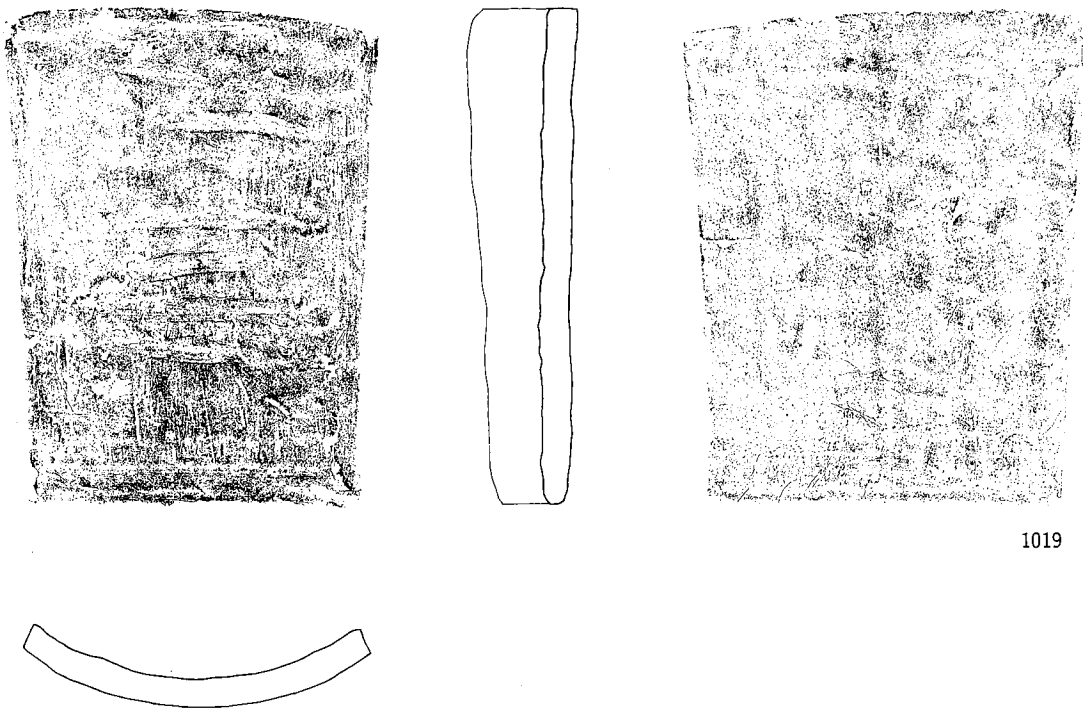


1017

0 20cm



1018

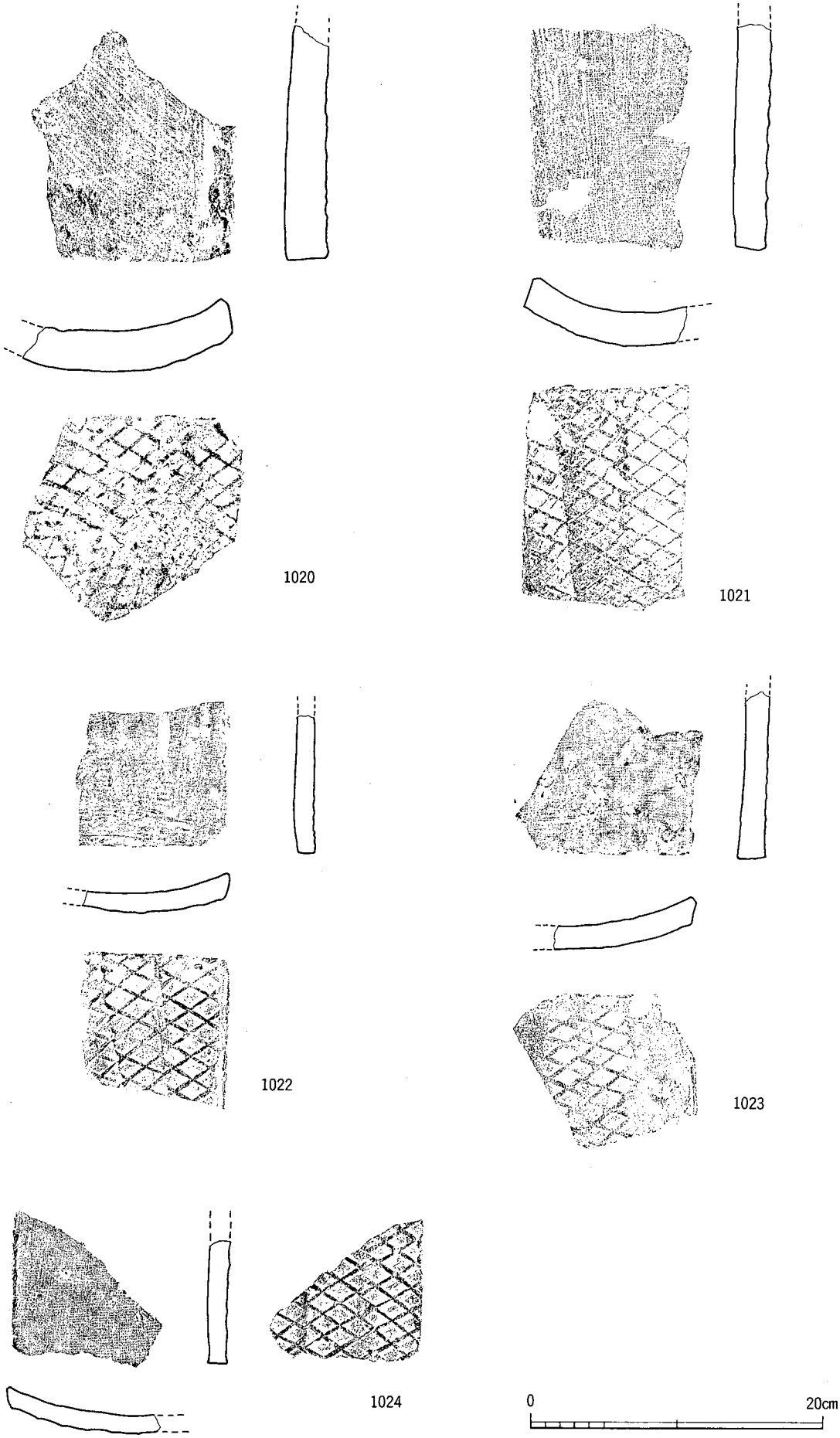


1019

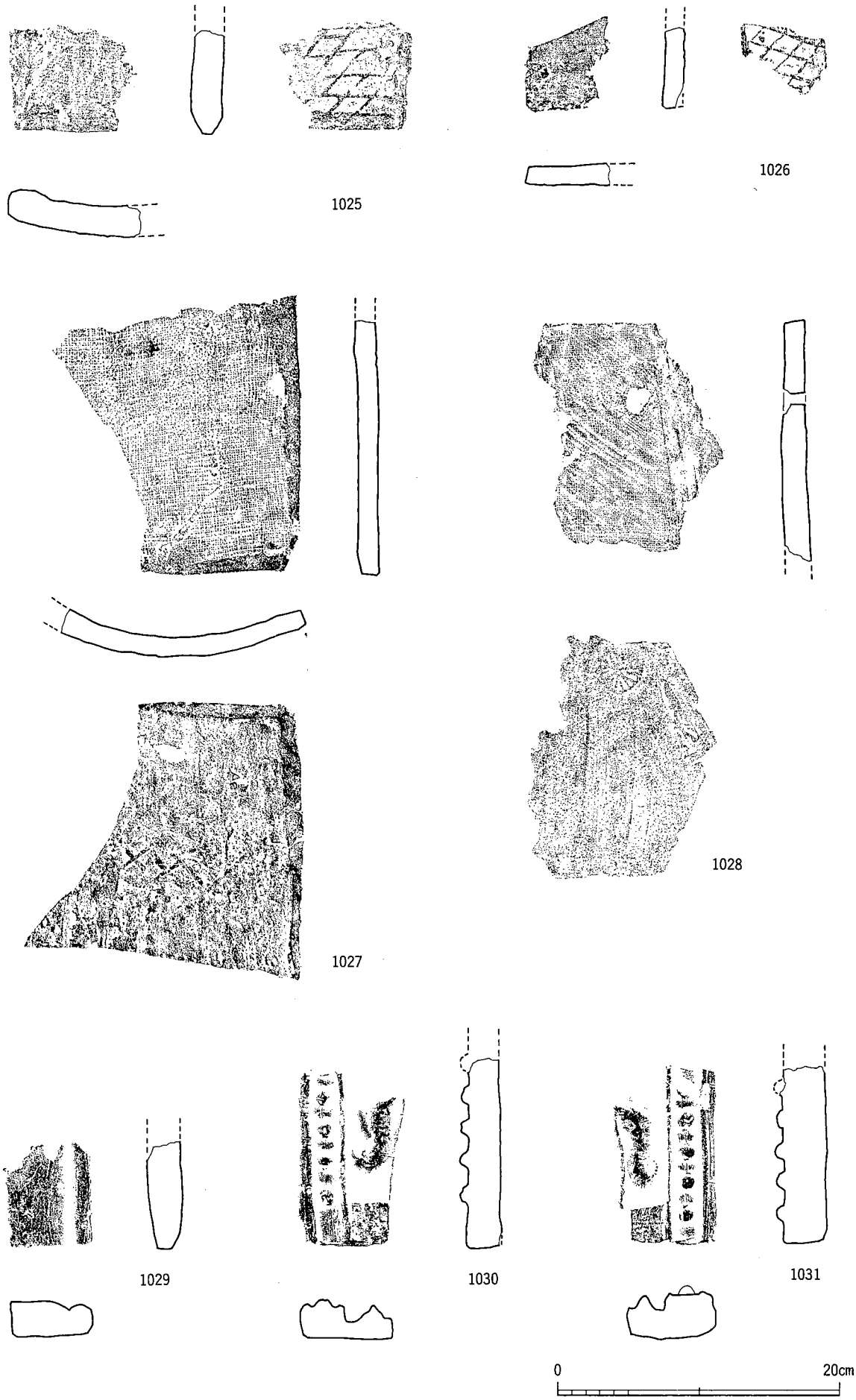
0 20cm

図版140

平瓦(15)

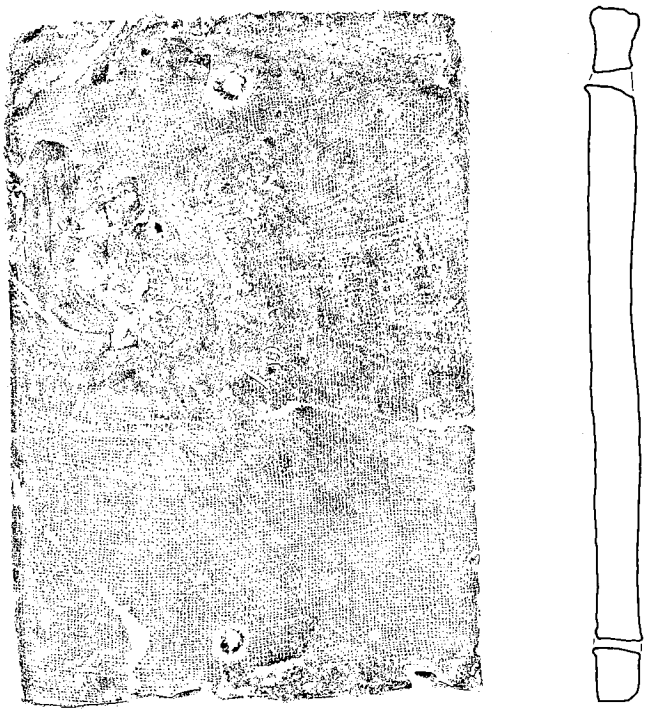


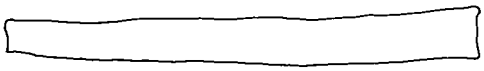
平瓦(16)、鬼瓦



図版142

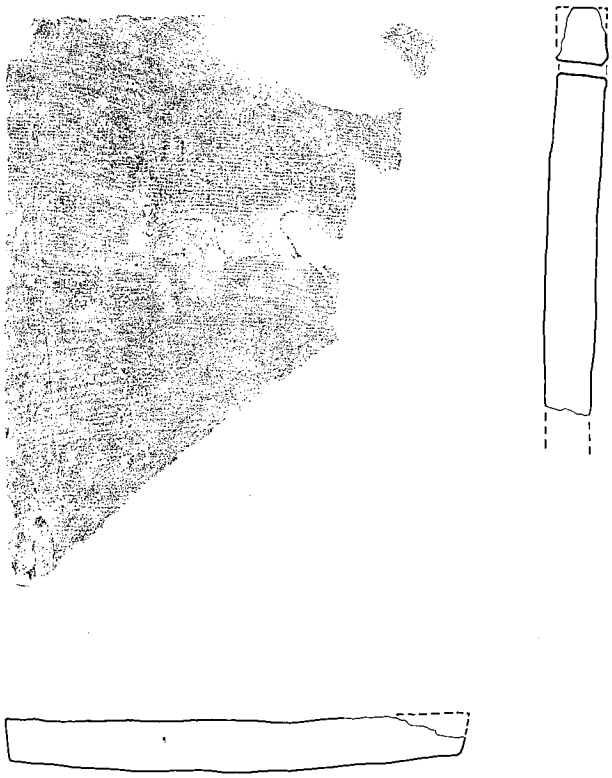
道具瓦(1)

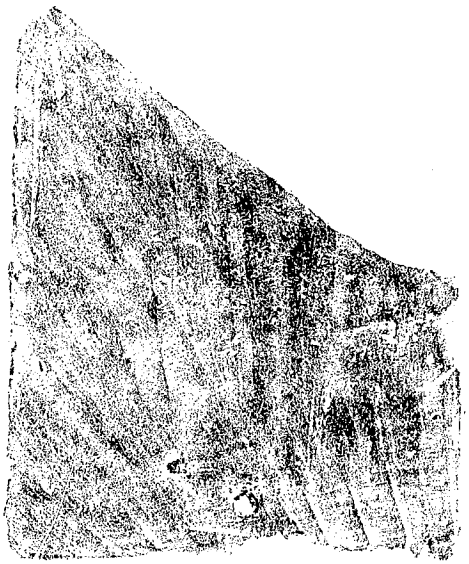




1032

0 20cm



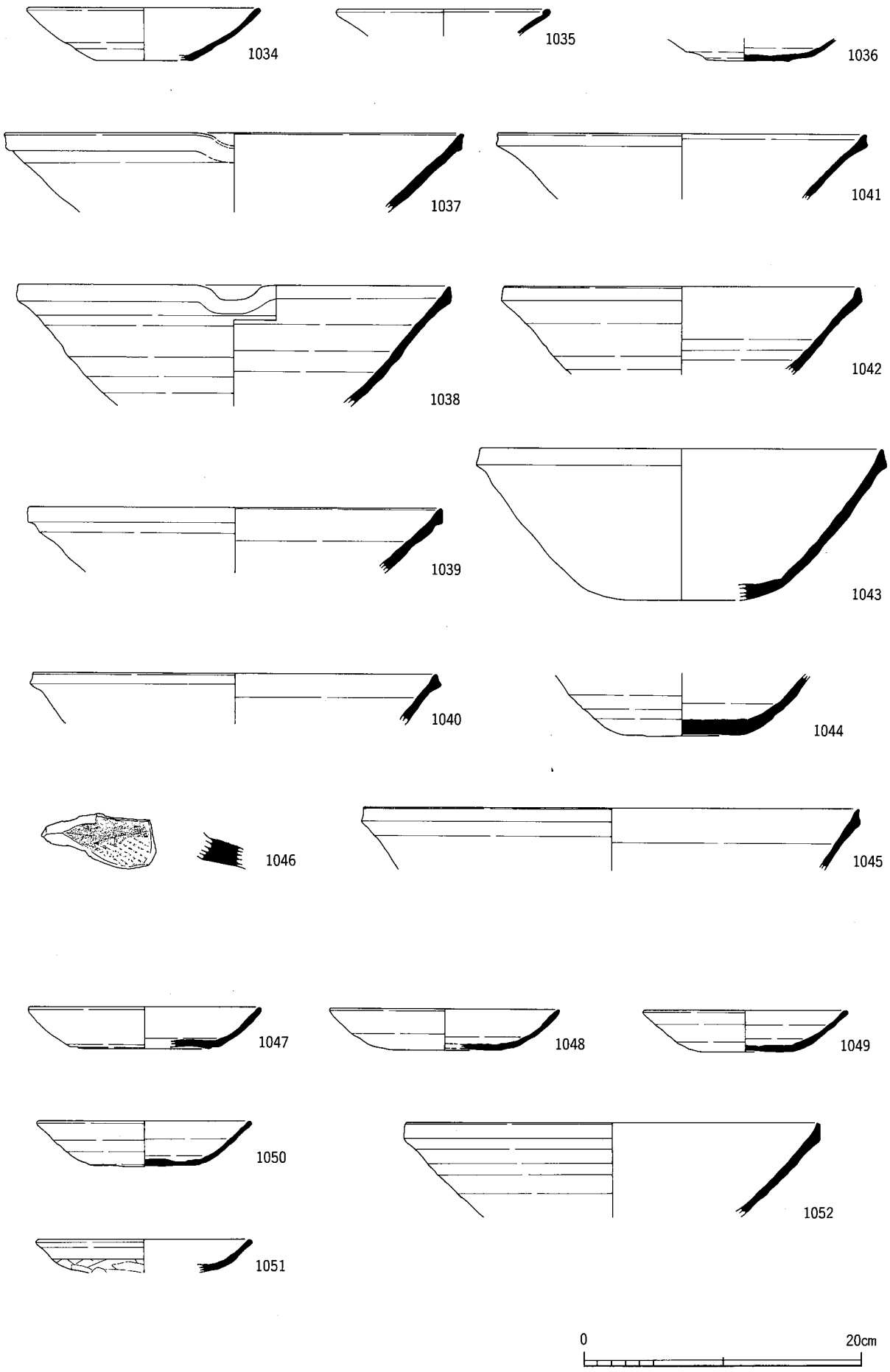


1033

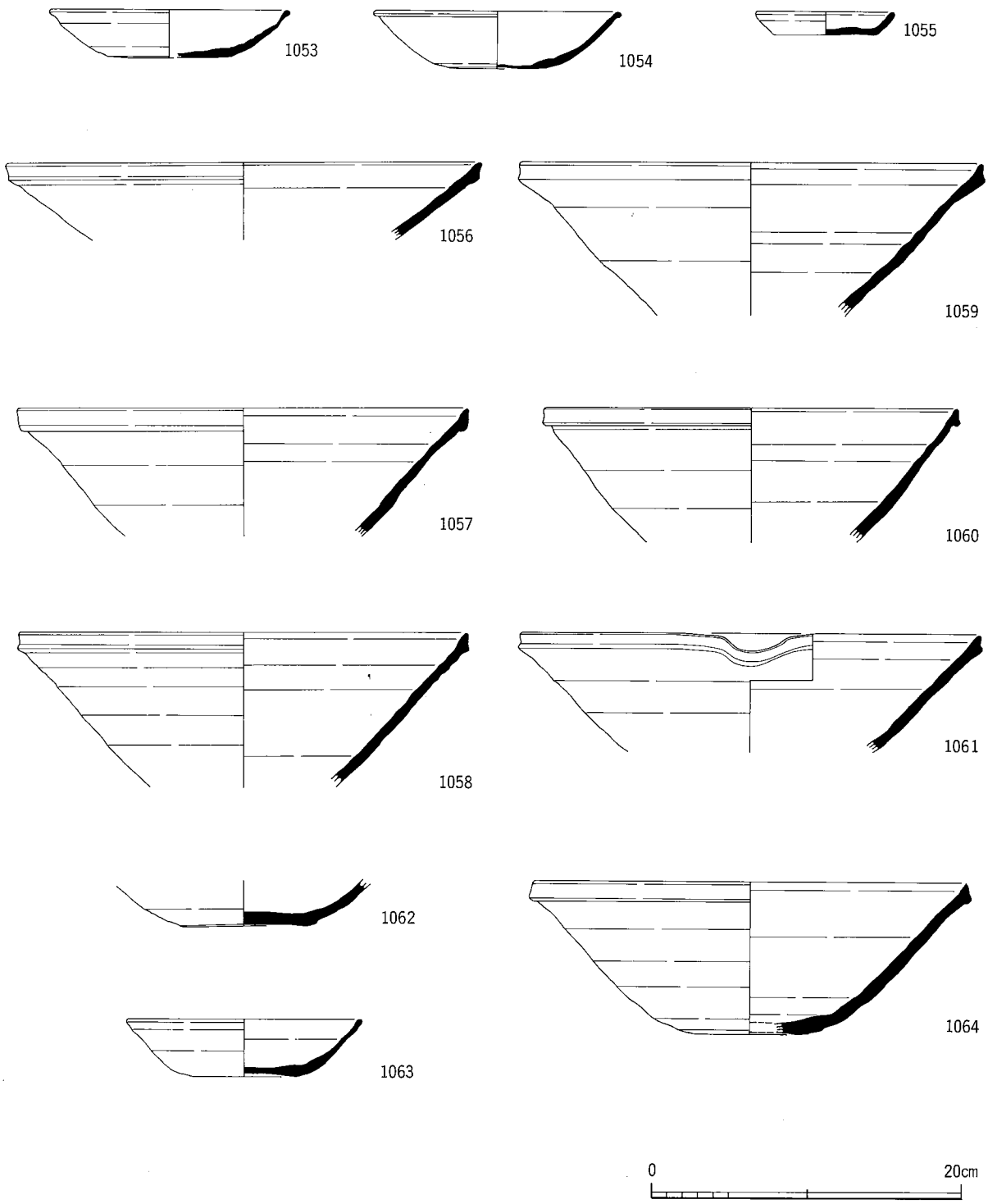
0 20cm

図版144

苅屋谷池小支群採集須恵器(1)



苅屋谷池小支群採集須恵器(2)



1．遠景
（南から、航空写真）

2．全景
（南から、航空写真）

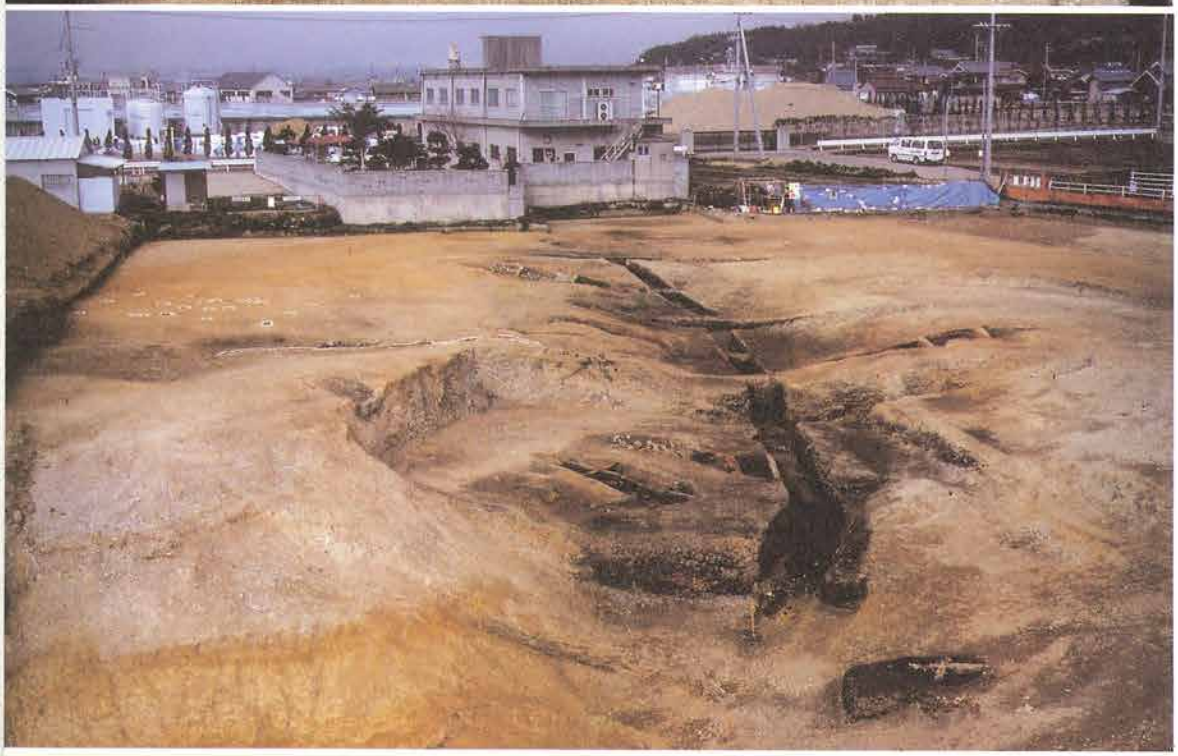
全景（航空写真）

1．調査前の状況
（西から）

2．調査前の状況
（南から）

3．灰原検出状況
（北から）

1．灰原検出状況
（南から）



2．灰原検出状況
（南から）

3．１・７号窯全景
（東から）

1．1号窯第4床面全景
（東から）

2．1号窯
第2床面埋土断面
（東から）

3．1号窯
第2床面遺物出土状況
（東から）

1．1号窯
第2床面遺物出土状況
（東から）

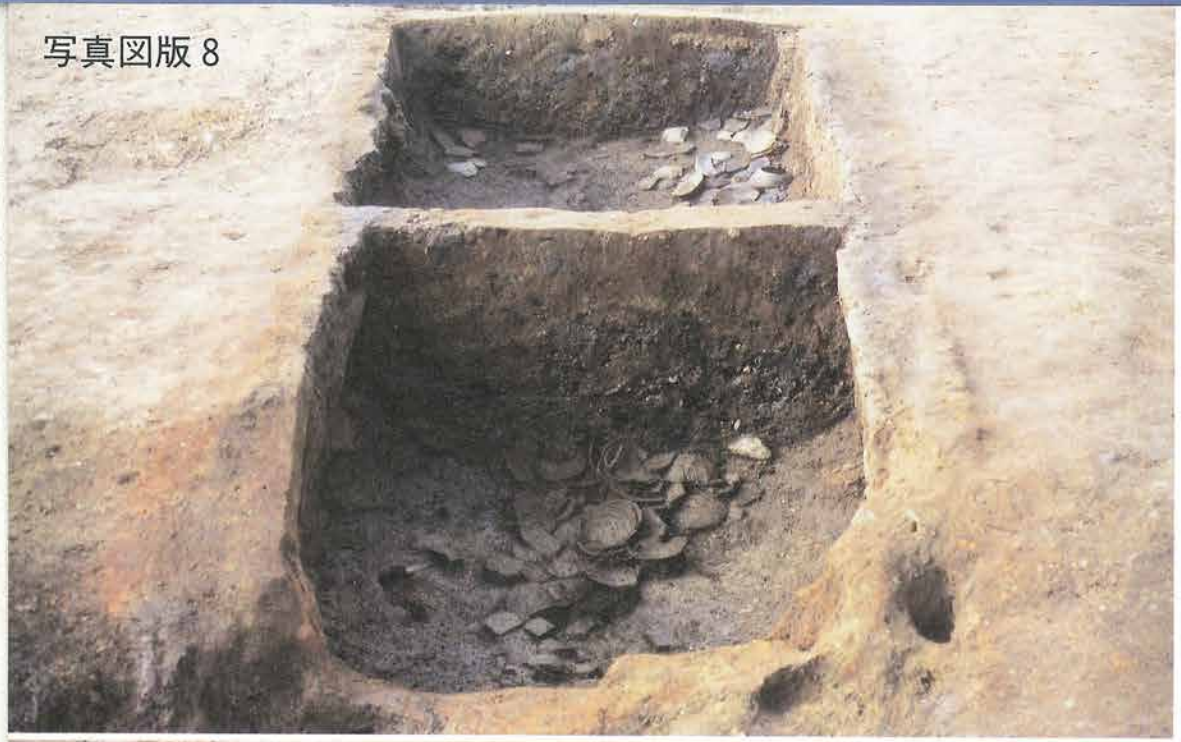
2．1号窯第2床面全景
（東から）

3．1号窯断面
（東から）

1．１号窯杭跡検出状況
（東から）

2．１号窯
北側溝検出状況
（東から）

3．１号窯北側溝遺物、
焼土塊出土



1．２号窯埋土断面
（東から）

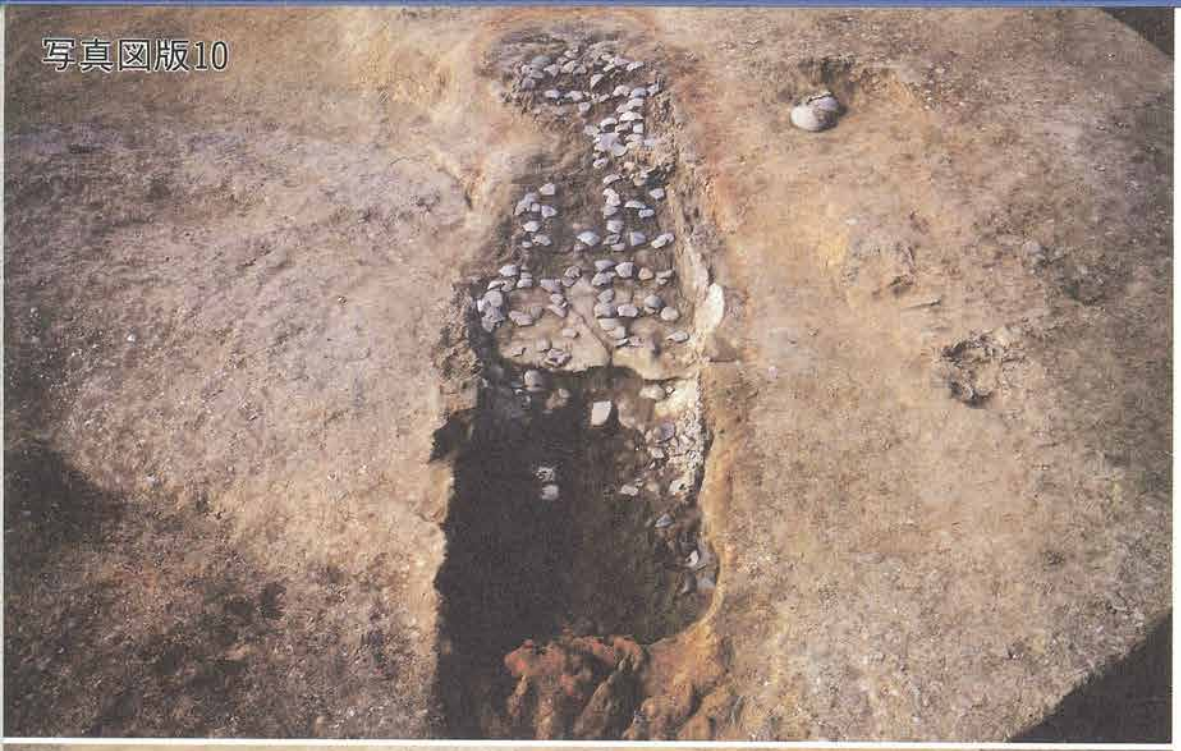
2．２号窯
床面遺物出土状況
（東から）

3．２号窯全景
（東から）

1．２号窯全景
（東から）

2．２号窯断面
（東から）

3．２号窯杭跡検出状況
（東から）



1．3号窯
床面遺物出土状況
（東から）

2．3号窯全景
（東から）

3．3号窯全景
（東から）

1．３号窯北側盛土内
須恵器出土状況
（北から）

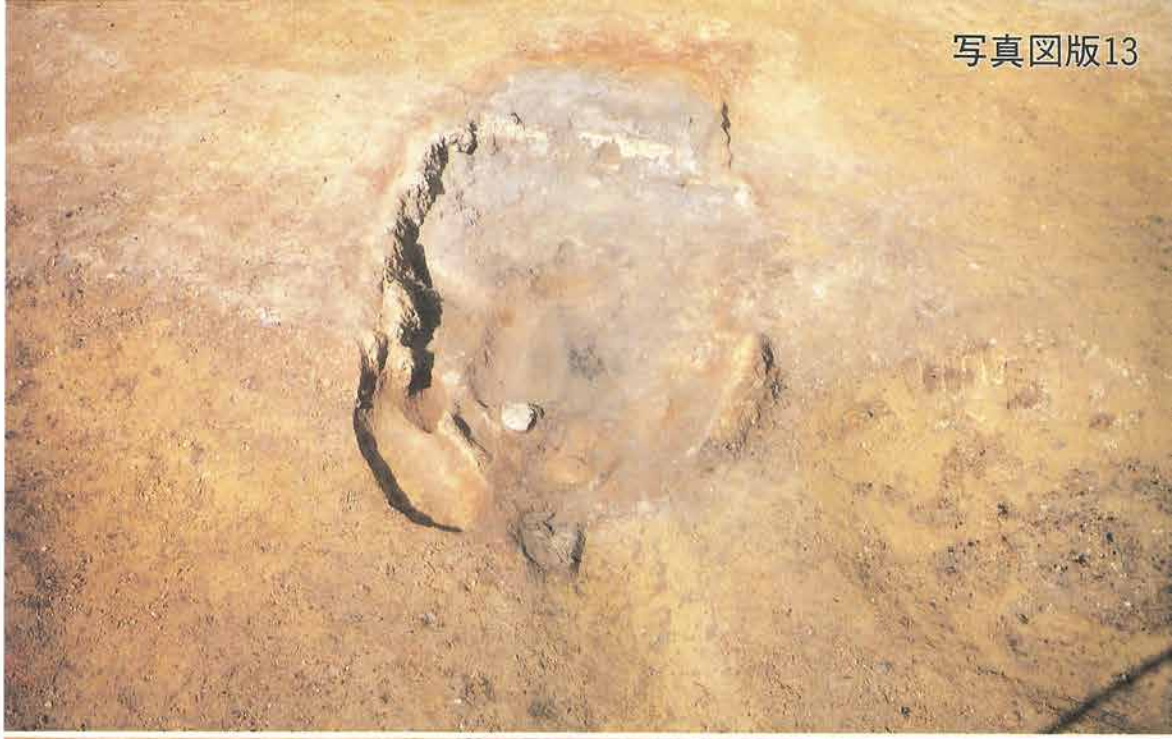
2．３号窯断面
（東から）

3．３号窯杭跡検出状況
（東から）

1．４号窯検出状況
（南から）

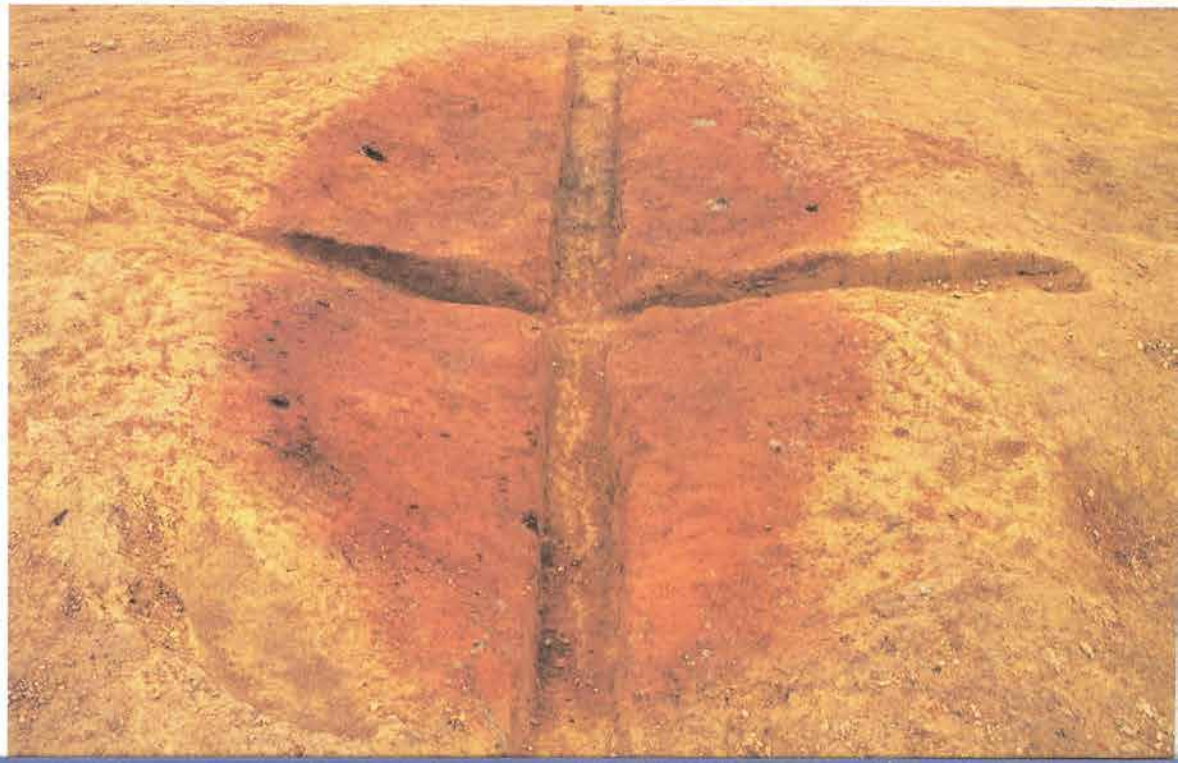
2．４号窯埋土断面
（東から）

3．４号窯全景
（南から）



1．４号窯窯体全景
（南から）

2．４号窯断面
（南から）



3．４号窯杭跡検出状況
（南から）

1．5号窯埋土断面
（西から）

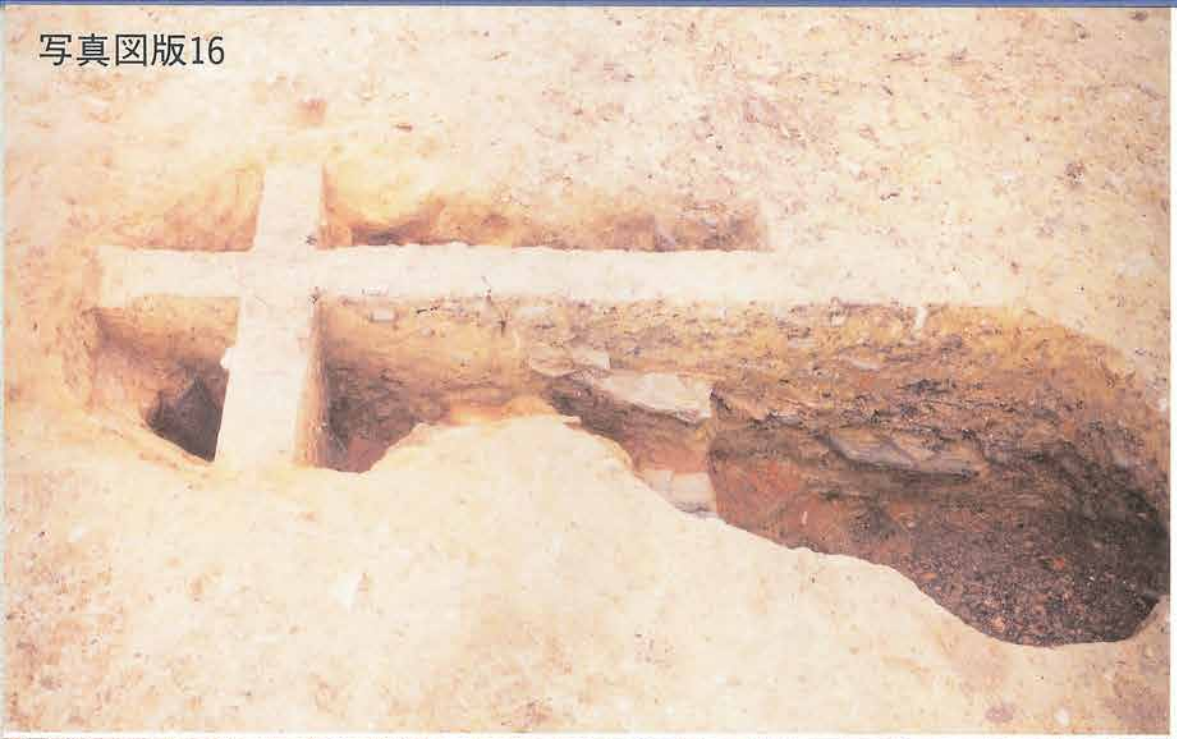
2．5号窯全景
（西から）

3．5号窯煙道部
（東から）

1．５号窯全景
（西から）

2．５号窯断面
（西から）

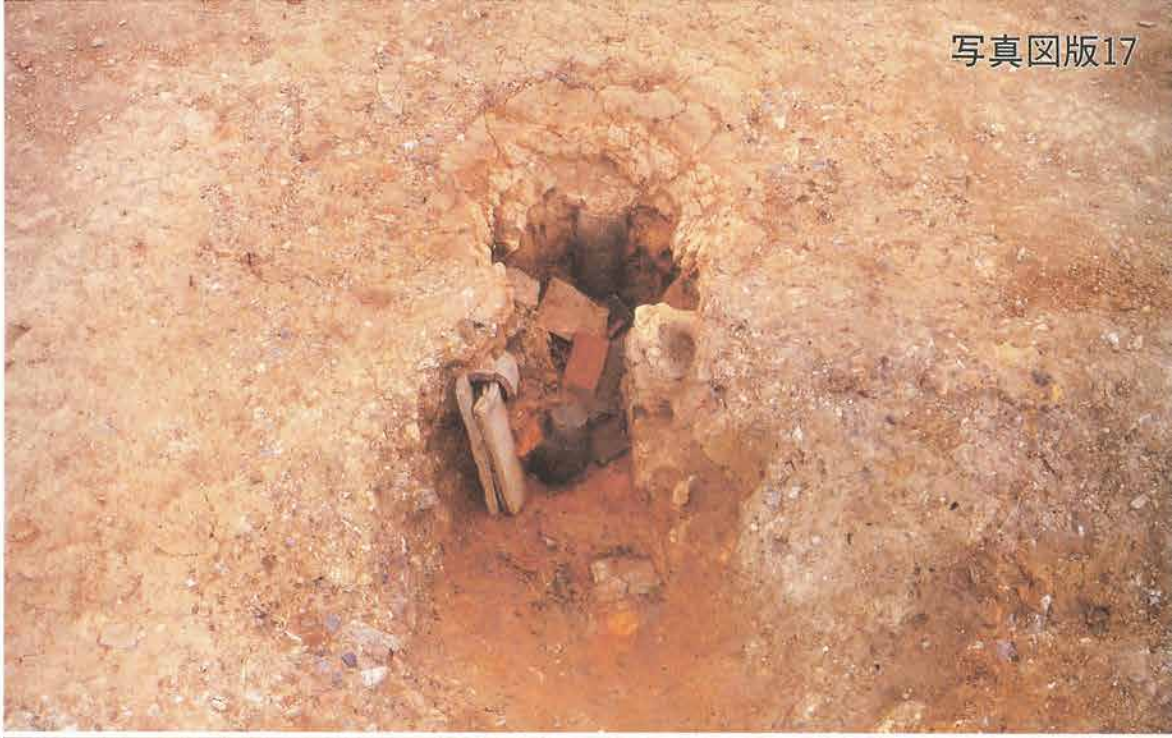
3．５号窯北側
盛土須恵器出土状況
（西から）



1．6号窯埋土断面
（南から）

2．6号窯窯体内
遺物出土状況
(1)（東から）

3．6号窯窯体内
遺物出土状況
(2)（東から）

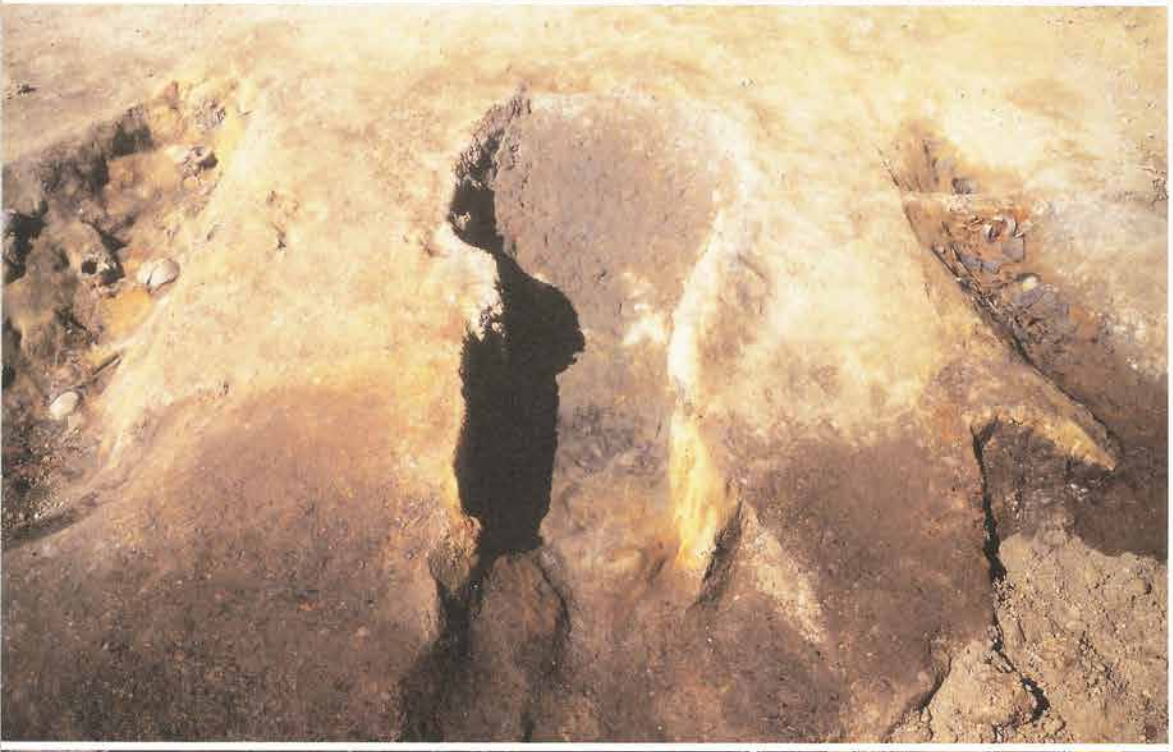


1．６号窯窯体内
遺物出土状況
⑶（東から）

2．６号窯窯体内
遺物出土状況
⑷（東から）

3．６号窯断面
（東から）

1．７号窯床面
遺物出土状況
（東から）



2．７号窯全景
（東から）

3．７号窯断面(1)
（東から）

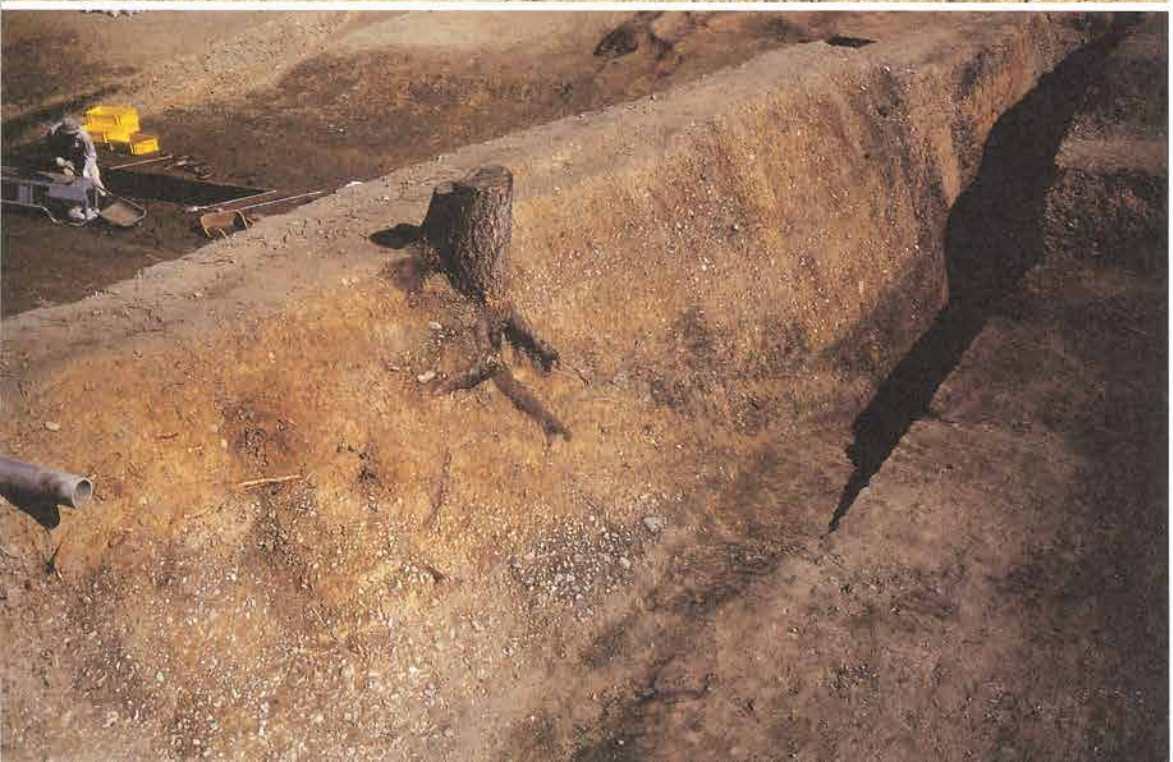
1．７号窯断面(2)
（東から）

2．７号窯瓦敷
（東から）

3．７号窯
瓦敷瓦出土状況
（西から）

1．8号窯全景
（南から）

2．サブトレンチ10・11
灰原断面（南から）



3．サブトレンチ3
灰原断面
（南東から）

1．SB01全景（西から）

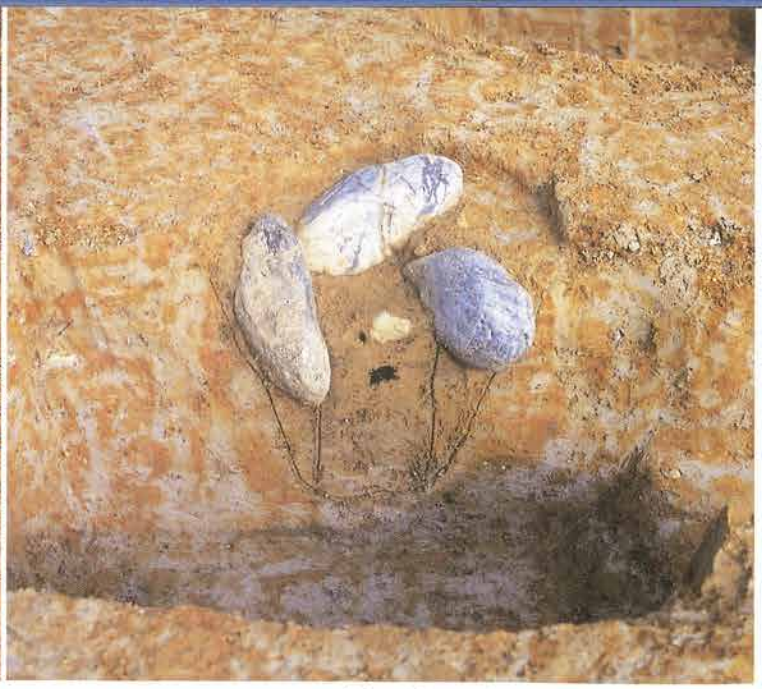
2．SB01全景（南から）

3．P13～15（南から）

4．P13（南から）

5．P13断面（南から）

1．P14（南から）



2．P14断面（南から）

3．P15（南から）

4．P15断面（南から）

5．P20（南から）

6．P20断面（南から）

1．SD01全景
（西から）

2．SD01
東端土器出土状況
（東から）

3．SD01
北側土器群
（南から）

1．出土の土器

2．出土の瓦

1号窯出土須恵器(1)

2

4

6

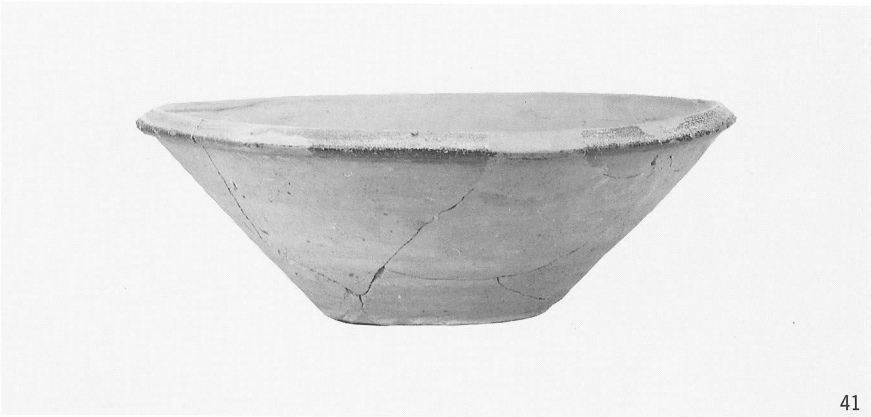
3

5

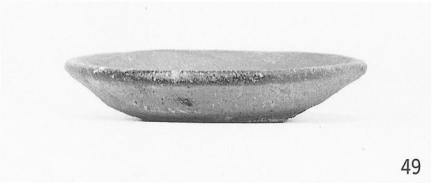
写真図版26

1号窯出土須恵器(2)

38


41

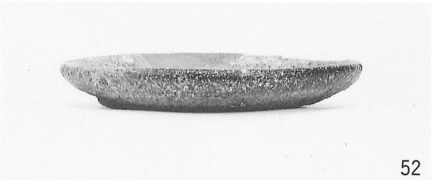
42


49

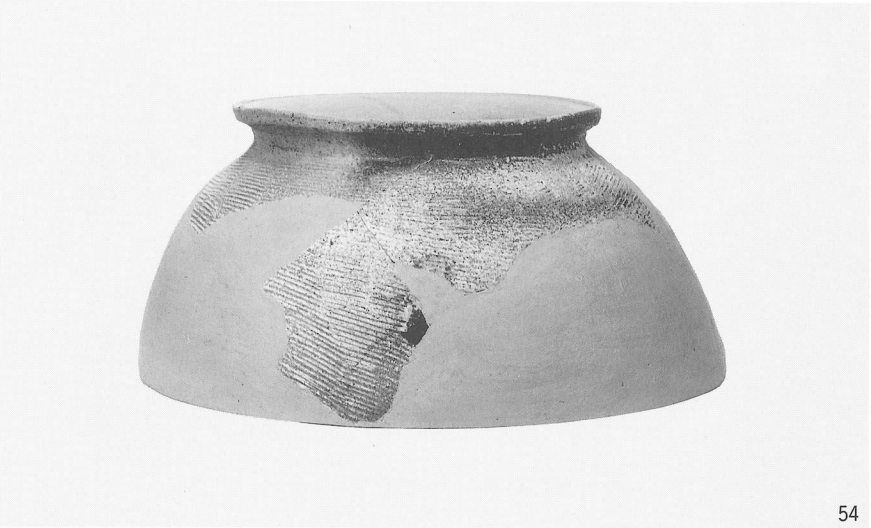
50

43

51


52

44


54

45

62

64

65

66

68

69

1号窯出土須恵器(3)

70

75

77

72

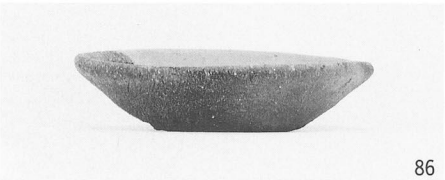
写真図版28

1号窯出土須恵器(4)

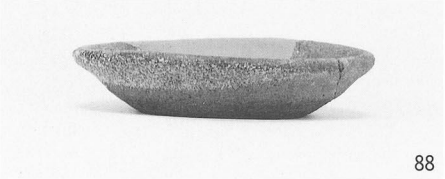
81

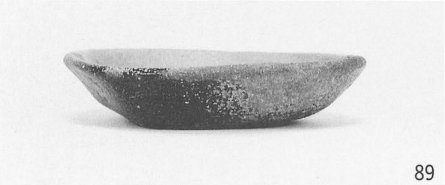
82

83


86

87


88


89

85

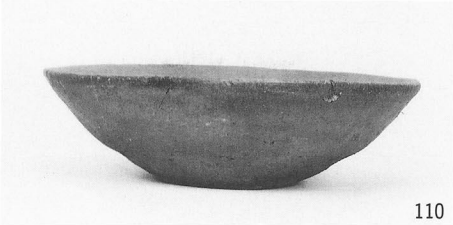
90

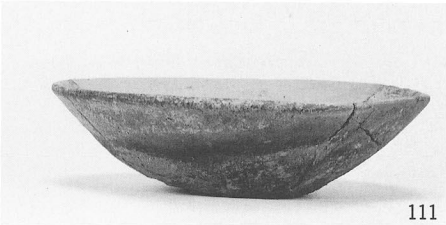
92

93

2号窯出土須恵器

102


110

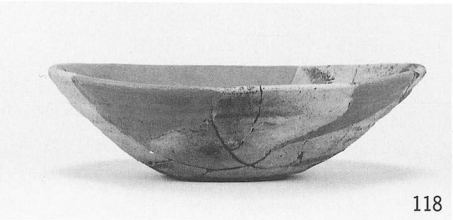

111

113

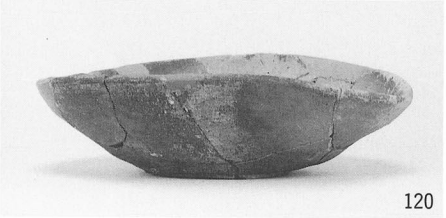
115

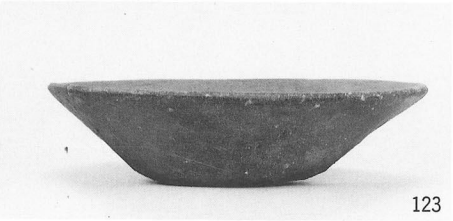
116

117


118

119

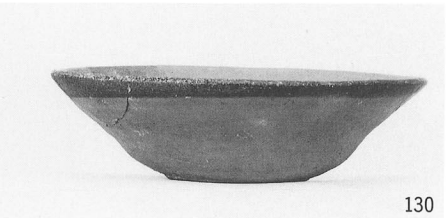

120


123

124

127

129


130

131

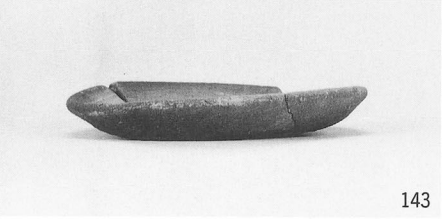
136

137

138

140

141


143

写真図版30

3号窯出土須恵器(1)

144

145

146

148

149

3 号窯出土須恵器(2)
4 号窯出土須恵器

194

195

196

197

199

202

203

205

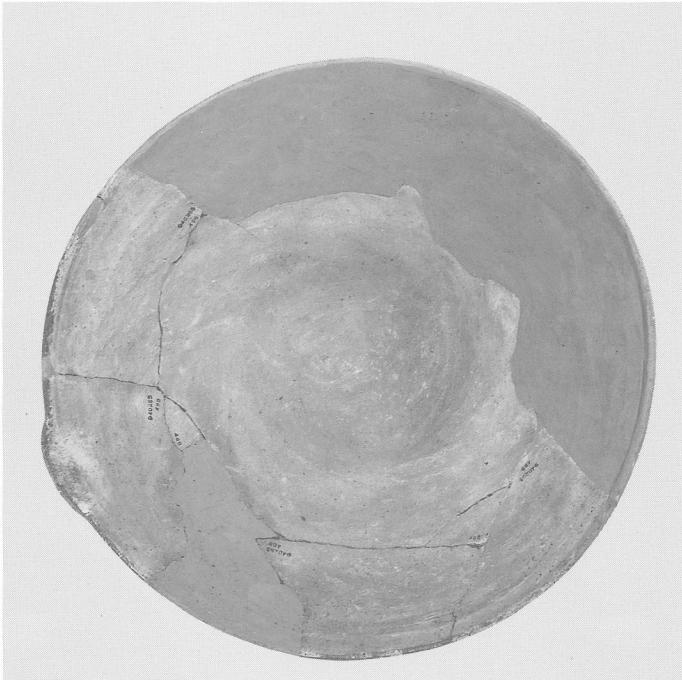
写真図版32

5号窯出土須恵器(1)

217

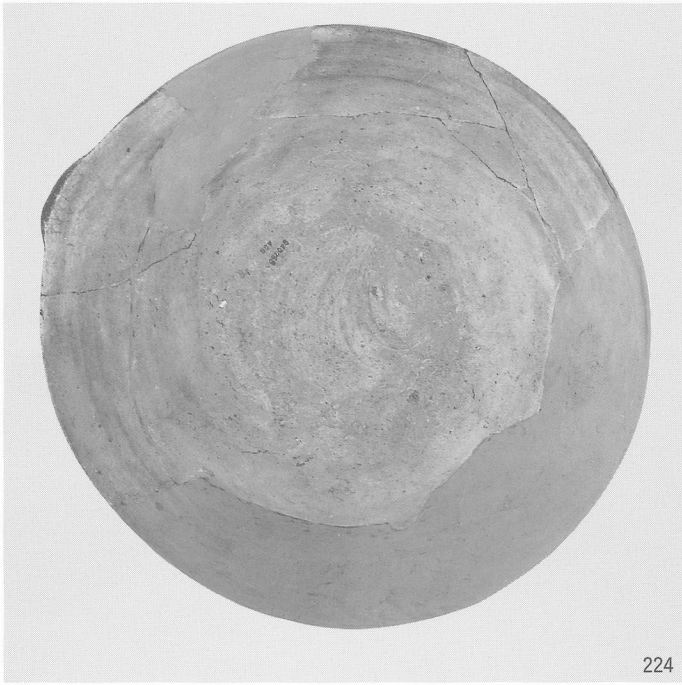
218

221



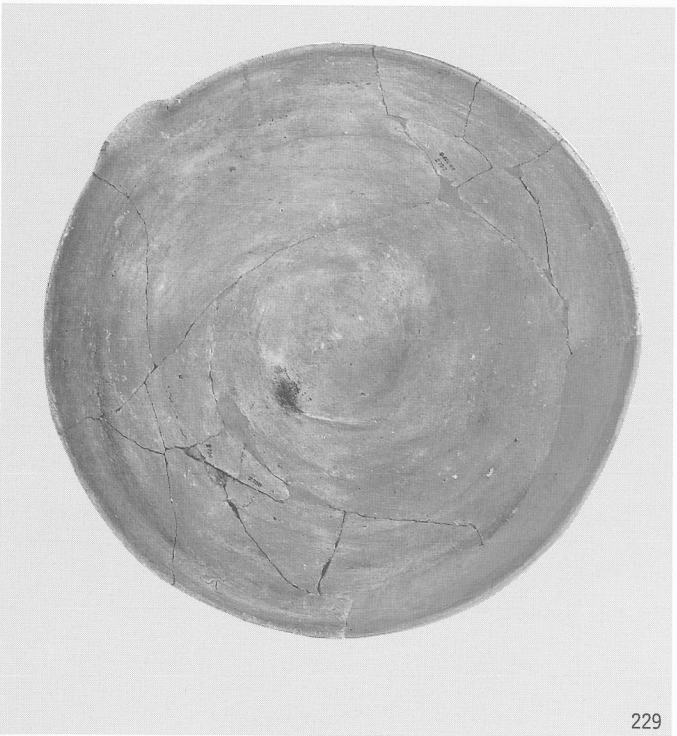
220

225



224

5号窯出土須恵器(2)



229

230

写真図版34

5号窯出土須恵器(3)

233

234

237

238

239

243

244

246

247

249

6号窯出土須恵器・土師器
7号窯出土須恵器(1)

260

262

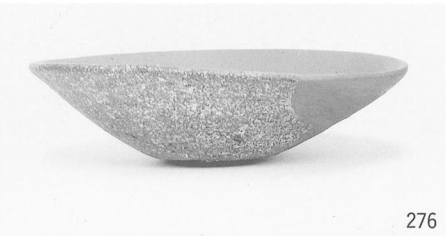
266

272

269

270

273


276

277

278

写真図版36

7号窯出土須恵器(2)

279

281

282

283

285

286

299

300

302

305

303

306

307

308

309

311

312

313

314

328

SD01北側土器群出土須恵器

329

332

335

336

339

342

340

写真図版38

SD01出土須恵器・土師器

344

347

348

349

350

352

353

355

356

357

359

360

363

364

灰原出土須恵器鉢

382

389

391

423

469

481

637

639

640

656

写真図版40

灰原出土須恵器小鉢
灰原出土須恵器碗(1)

385

396

417

433

466

489

661

665

429

434

437

442

446

461

463

464

496

515

534

544

灰原出土須恵器碗(2)
灰原出土須恵器小皿

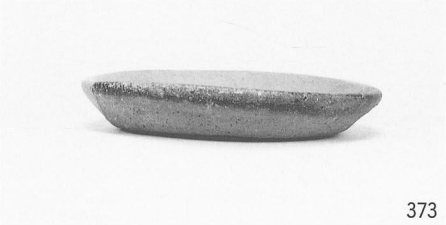
551

630

646

667

650


373

400

403

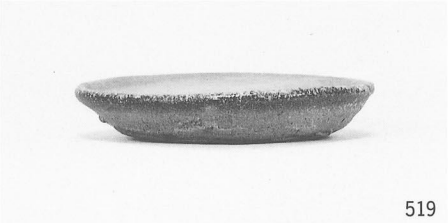
413

439

459

511

513

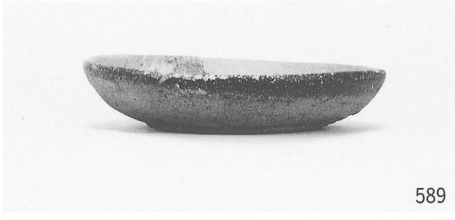

519

554

566

567

570


589

609

612

672

610

写真図版42

灰原出土須恵器甕(1)

694

697

710

722

734

742

743

746

747

灰原出土須恵器甕(2)
灰原出土須恵器壺(1)

748

749

750

755

759

760

763

766

写真図版44

灰原出土須恵器壺(2)

776

777

778

779

781

789

788

796

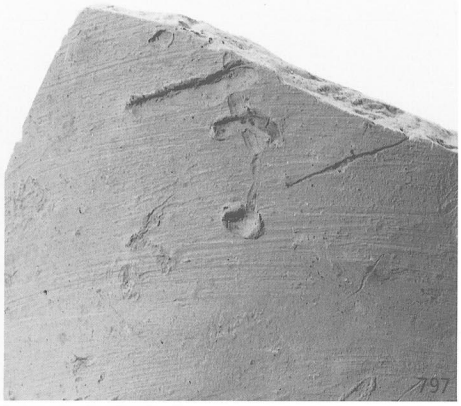
灰原出土須恵器壺(3)
灰原出土須恵器経筒(1)

791

792

793

797


797

799

800

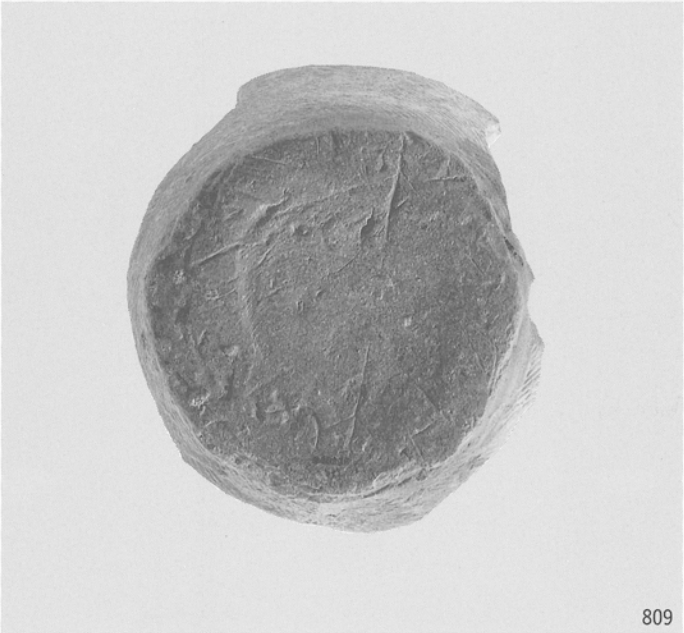
803

写真図版46

灰原出土須恵器経筒(2)

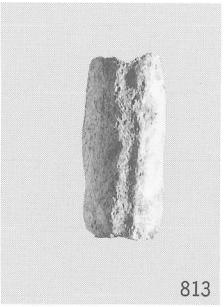
805

806

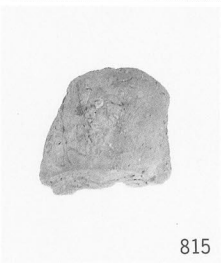


809

811


813

814


815

812

820

822

821

823

818

824

825

写真図版48

灰原出土土師器・陶磁器
苅屋谷池小支群採集須恵器

833

832

835

841

842

844

1049

1050

1051

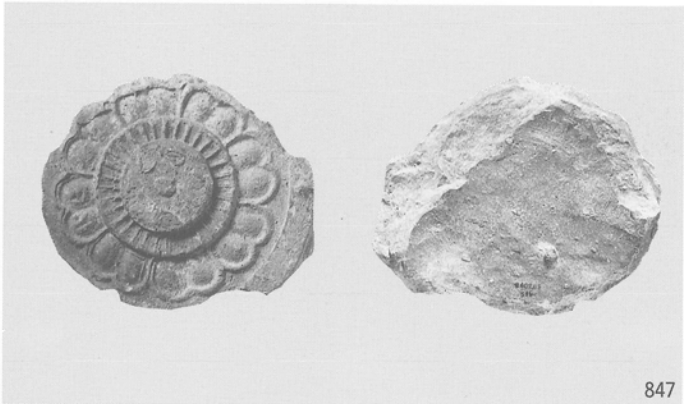
1053

1054

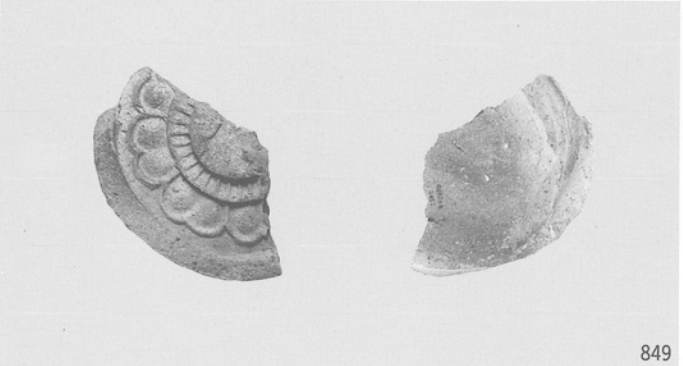
1055

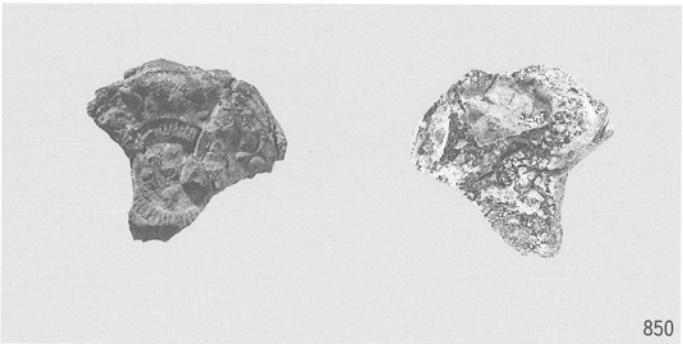
1063

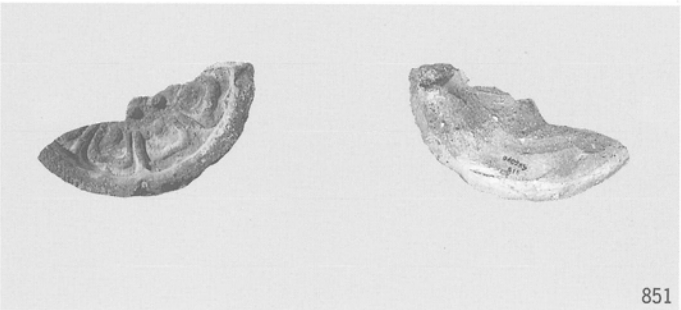
1064

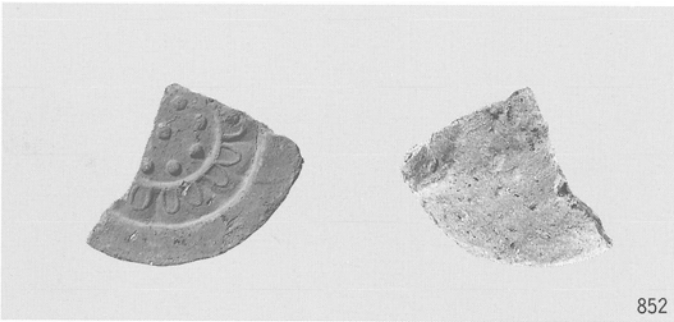

847

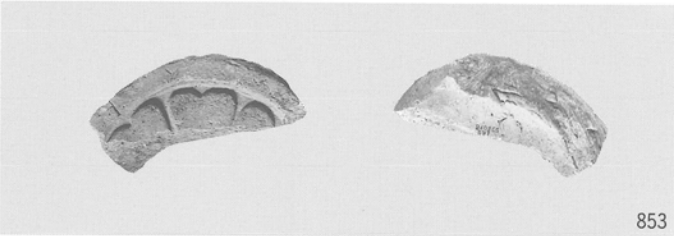
848

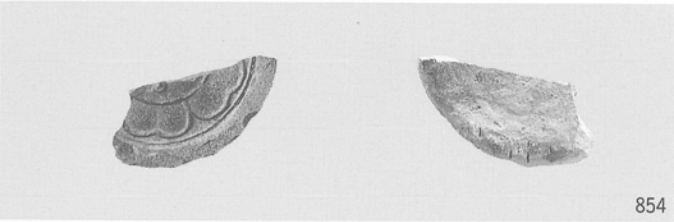

849

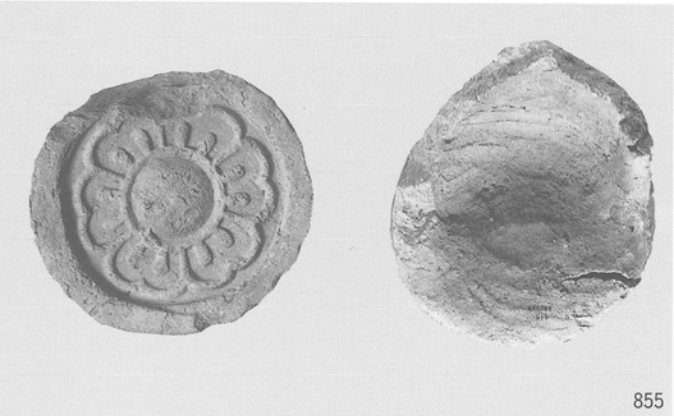

850

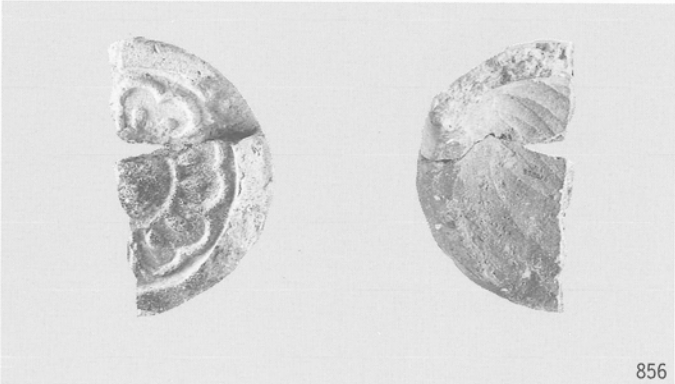

851

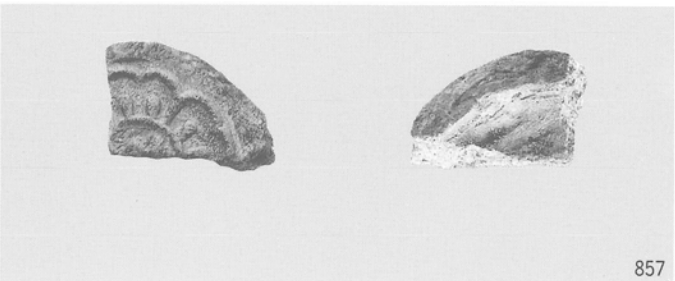

852


853


854


855

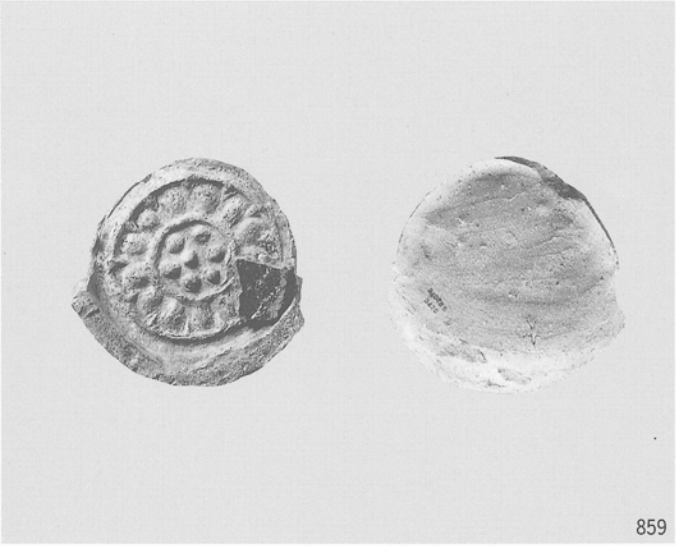

856

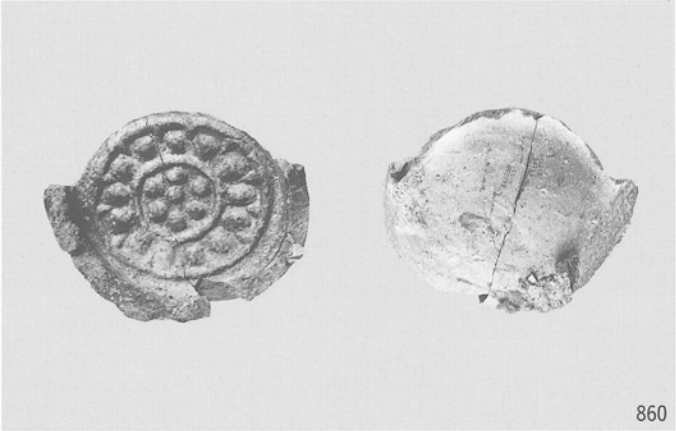

857

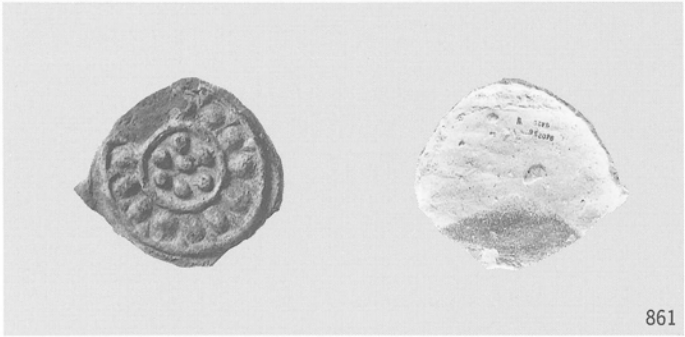
写真図版50

軒丸瓦(2)

858

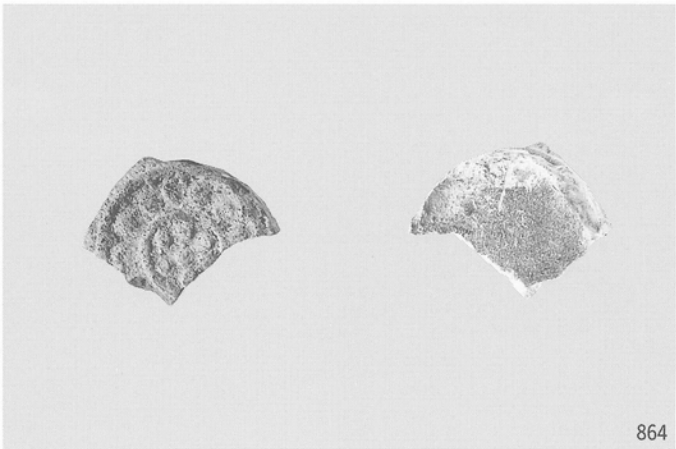

859

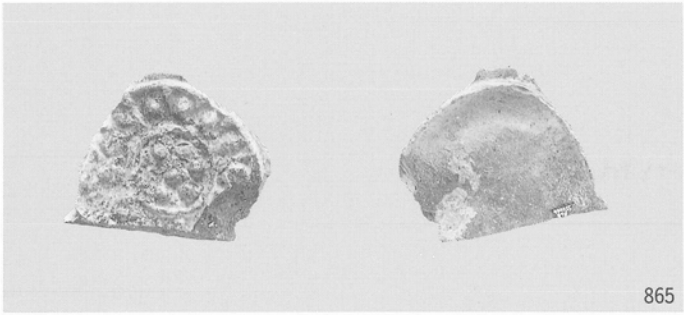

860

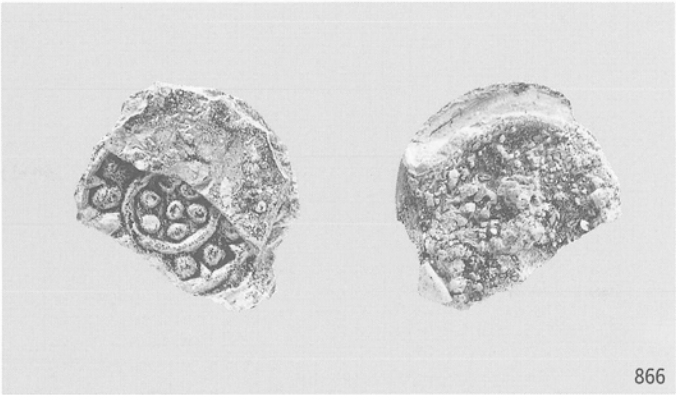

861

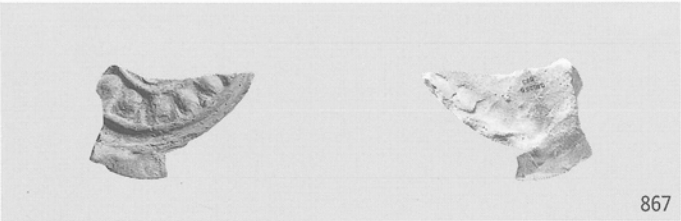
862

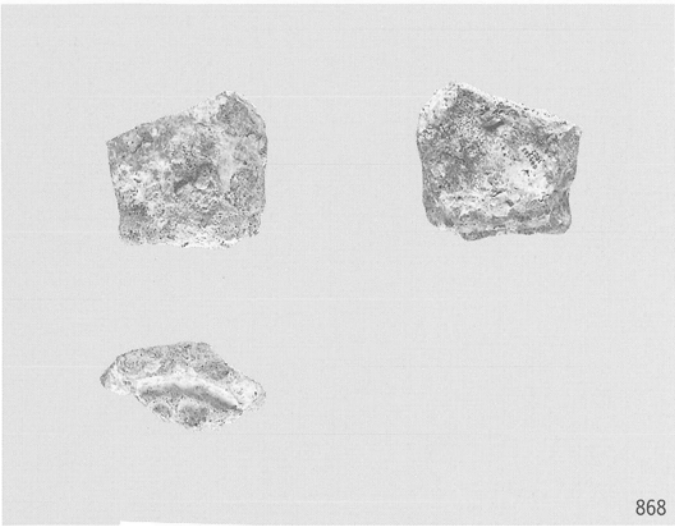
863

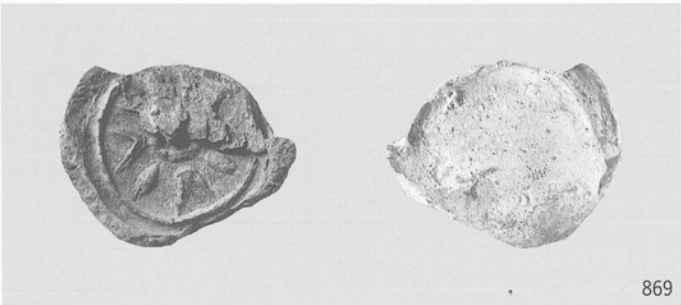

864


865

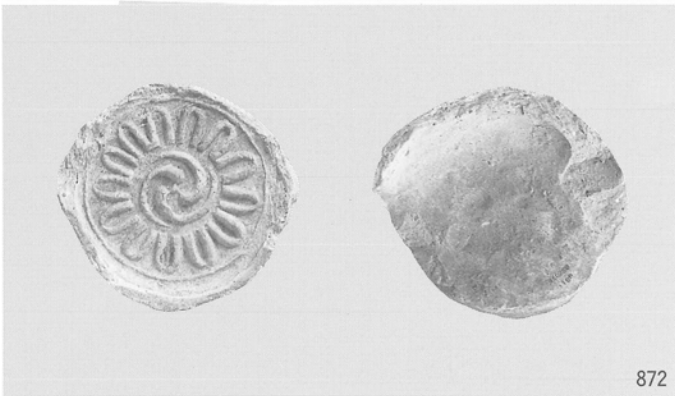

866


867

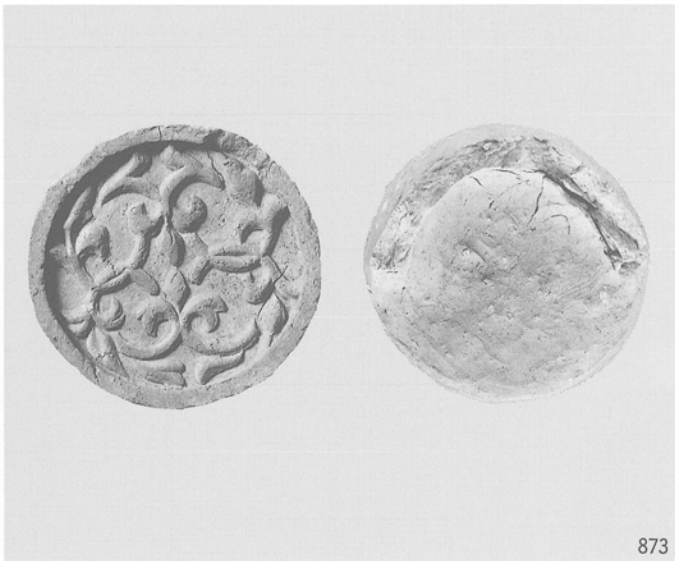

868


869

870


872

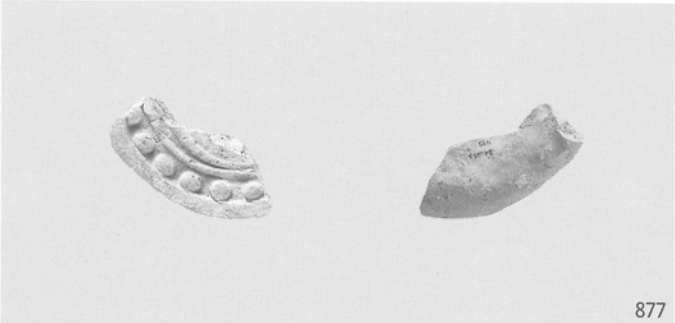
871


873

写真図版52

軒丸瓦(4)

874

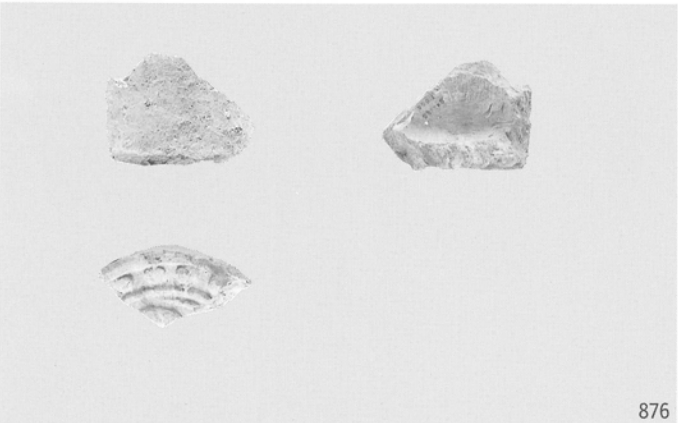


877

878

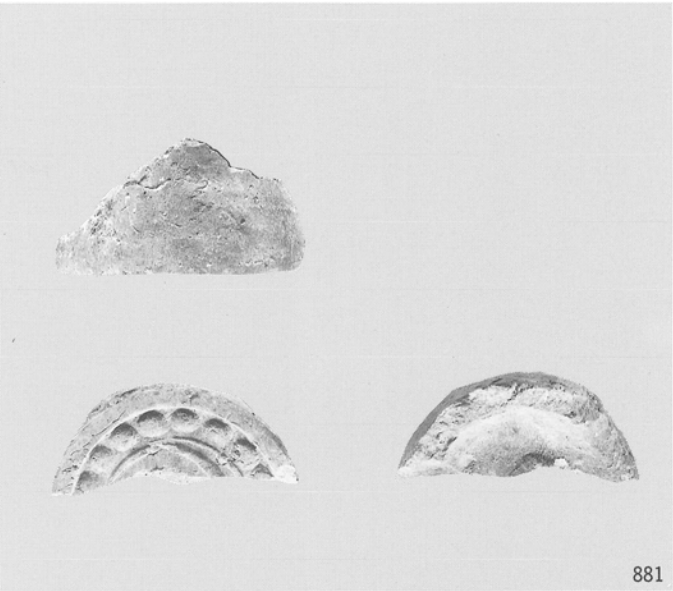
875

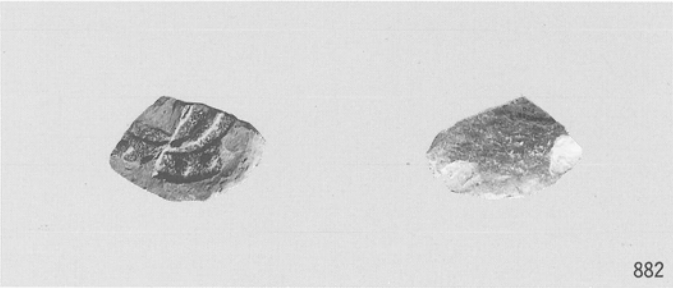
879

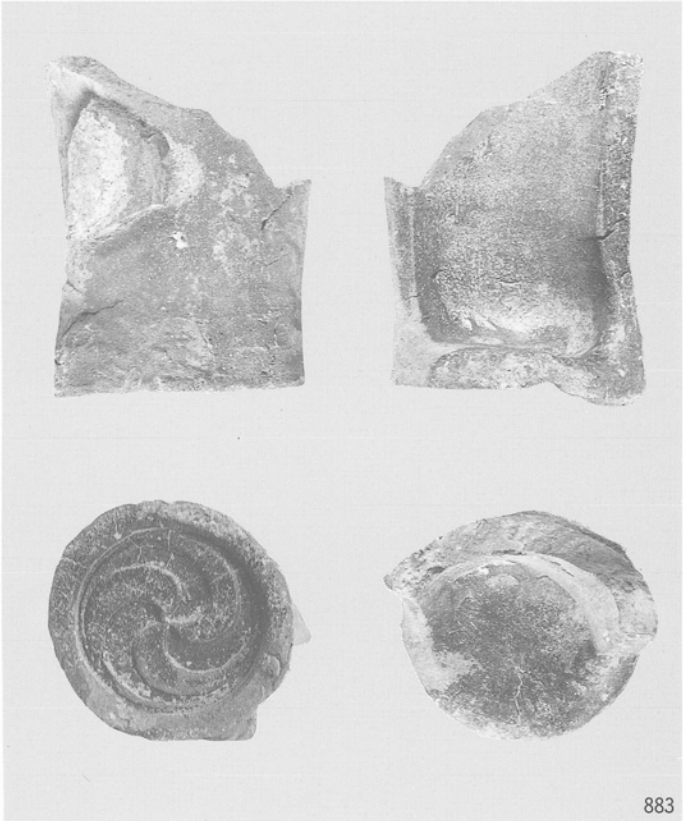


876

880


881

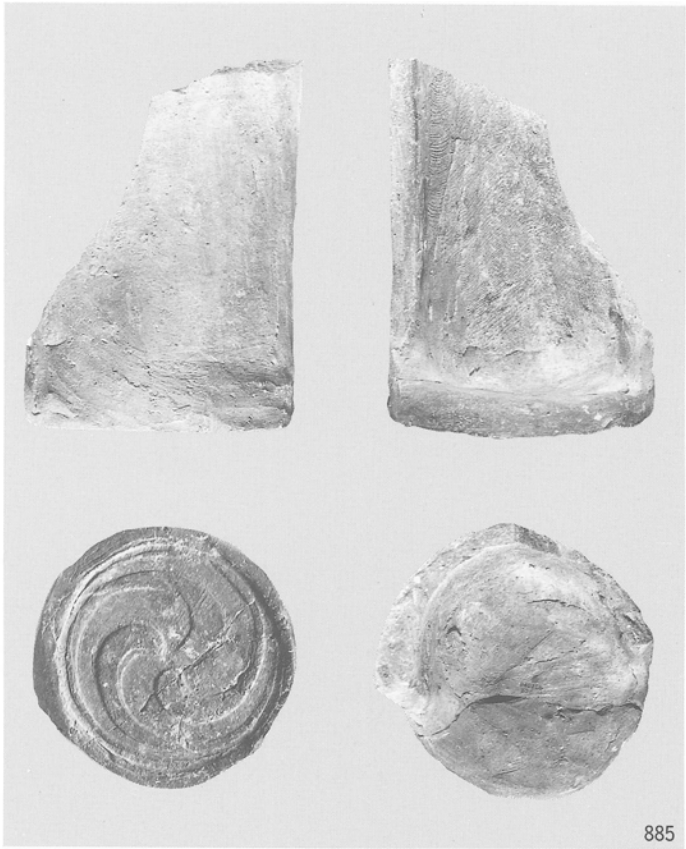

882


883

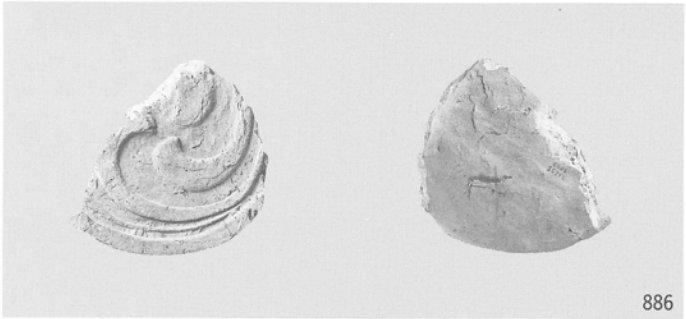
884

写真図版54

軒丸瓦(6)



885

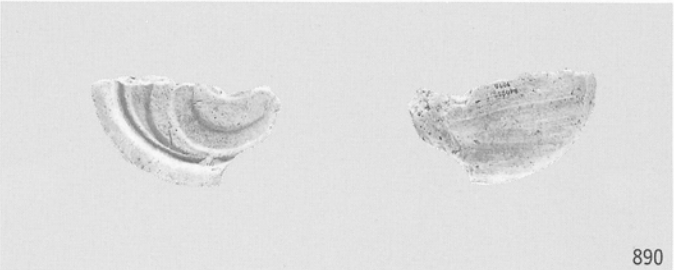


886

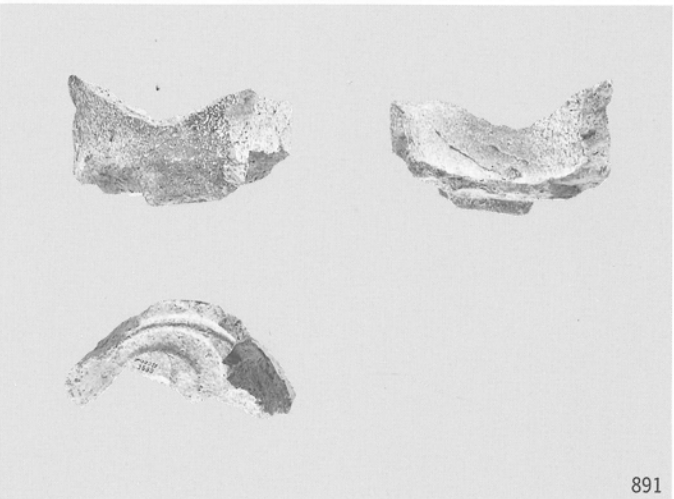
887

888

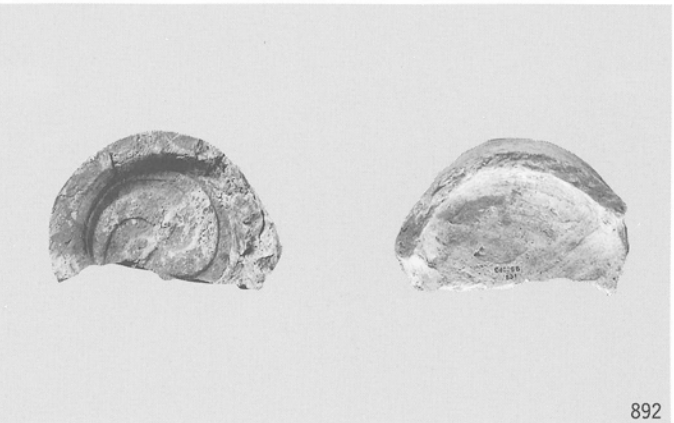
889



890

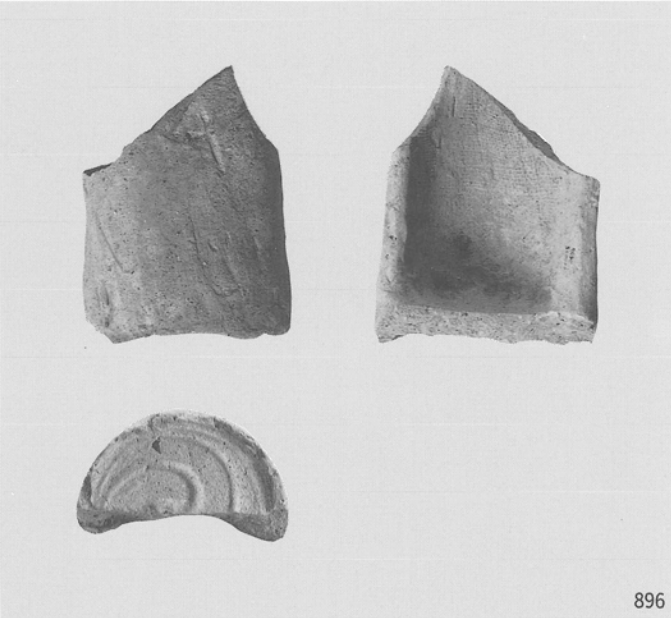


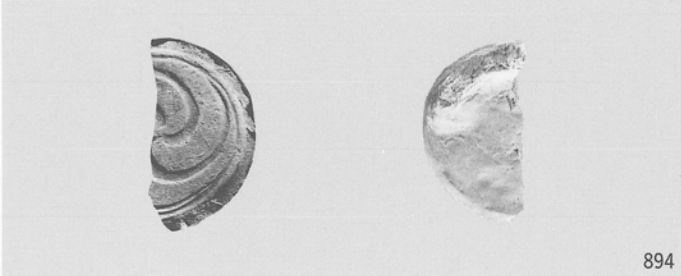
891



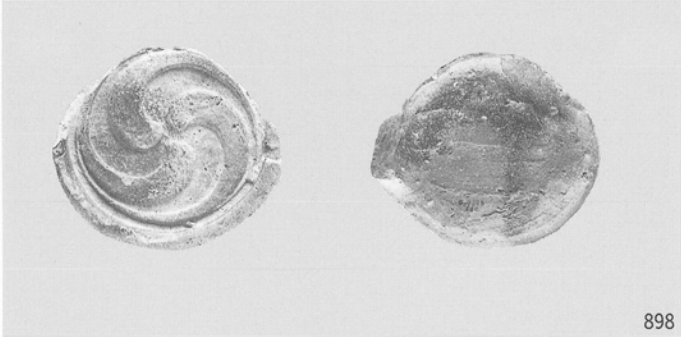
892

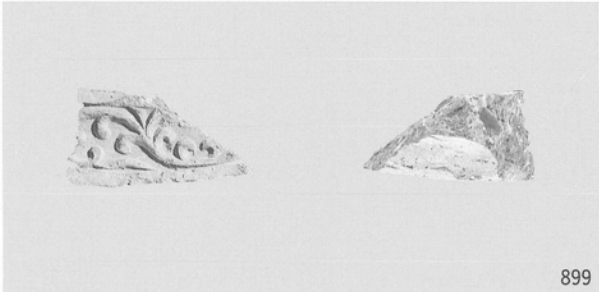
893

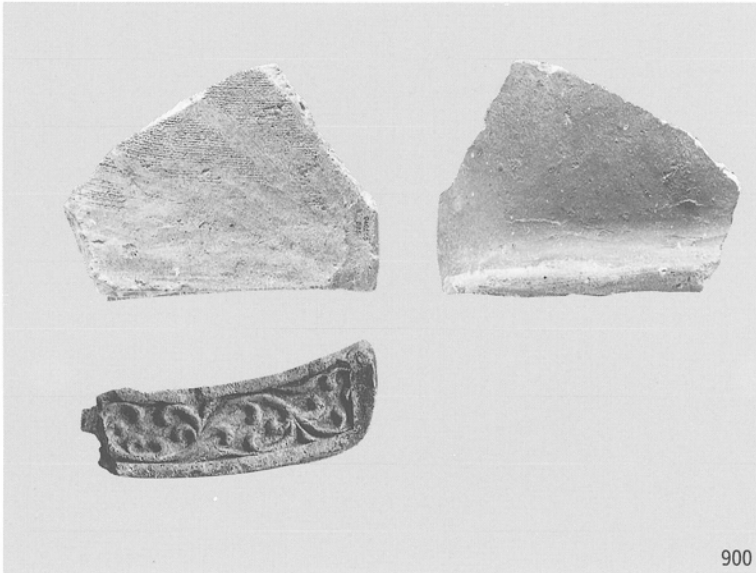

896

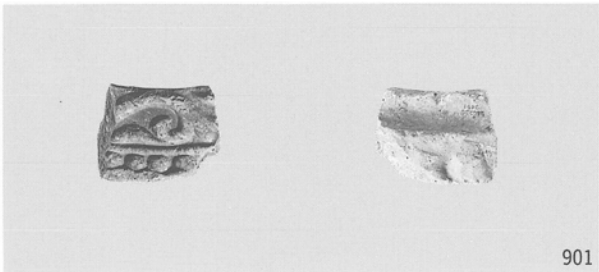

894

897


898

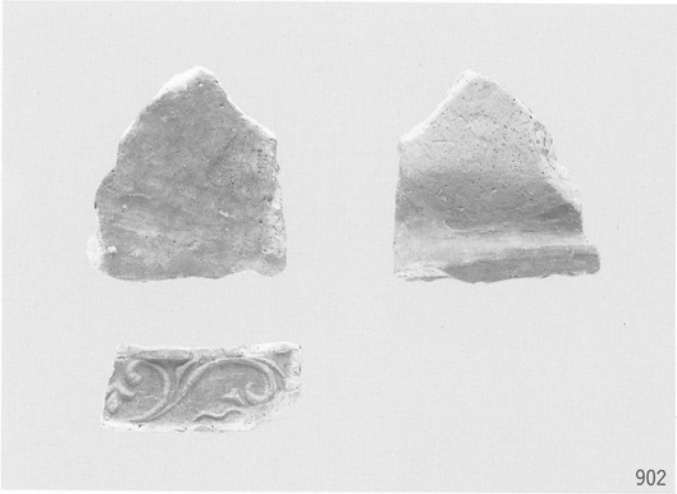

899


900

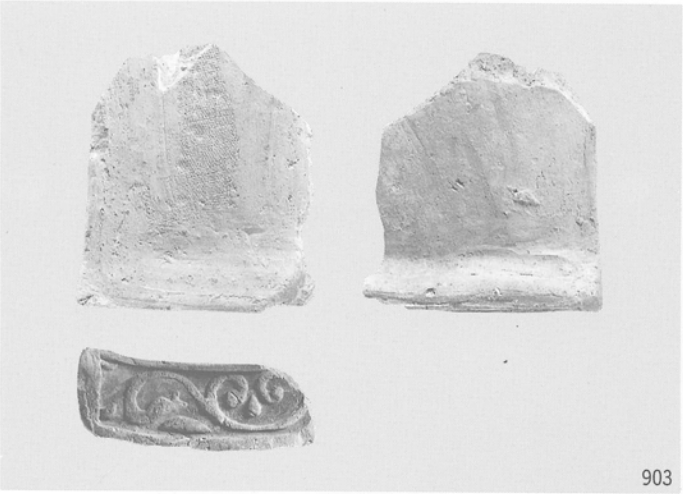

901

写真図版56

軒平瓦(1)

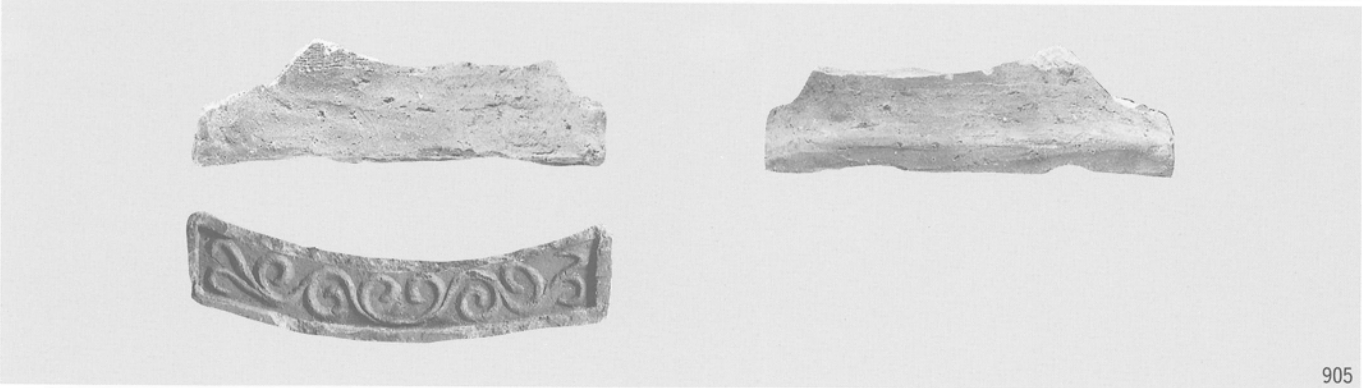


902



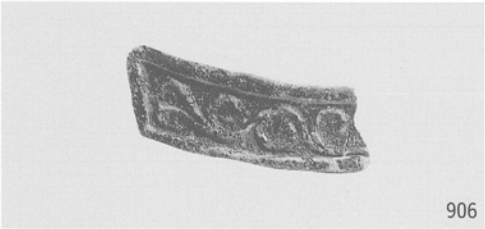
903

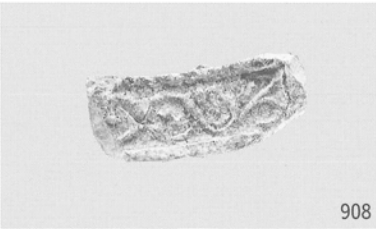
904



905

909


906


908

907

910

911

912

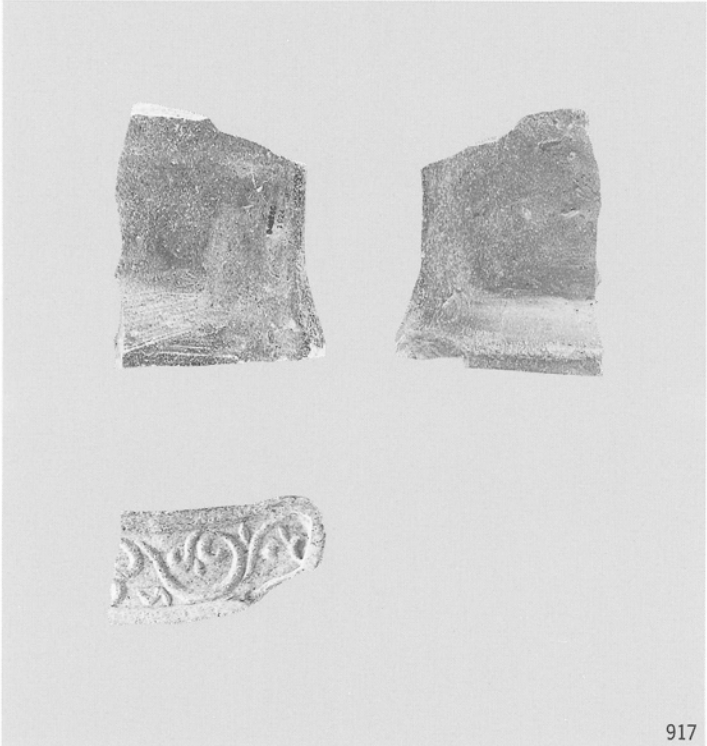
写真図版58

軒平瓦(3)

913

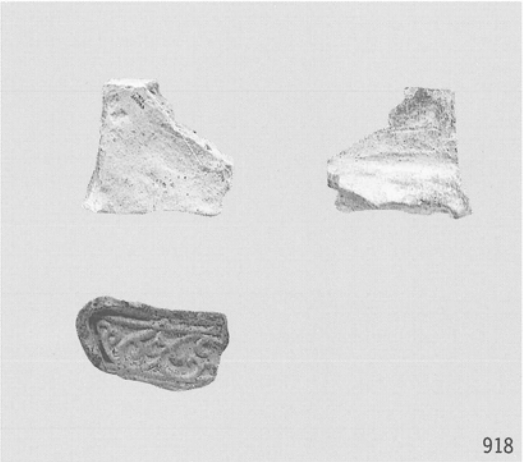
914

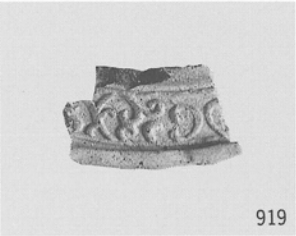
915

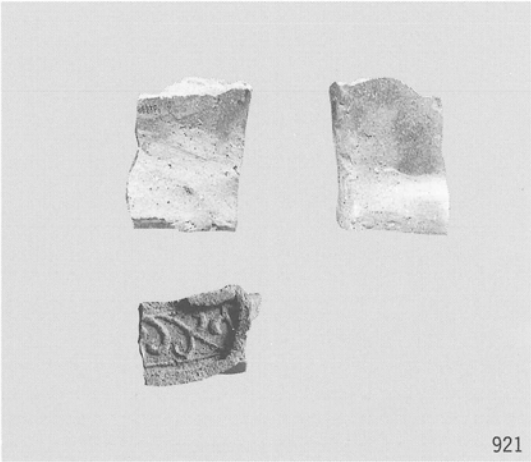


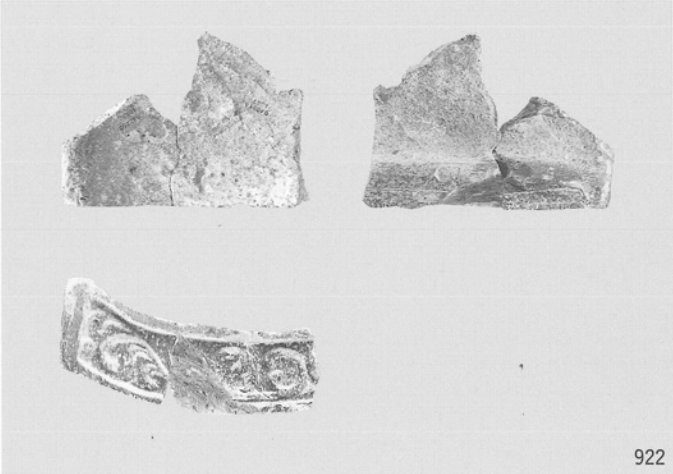
917

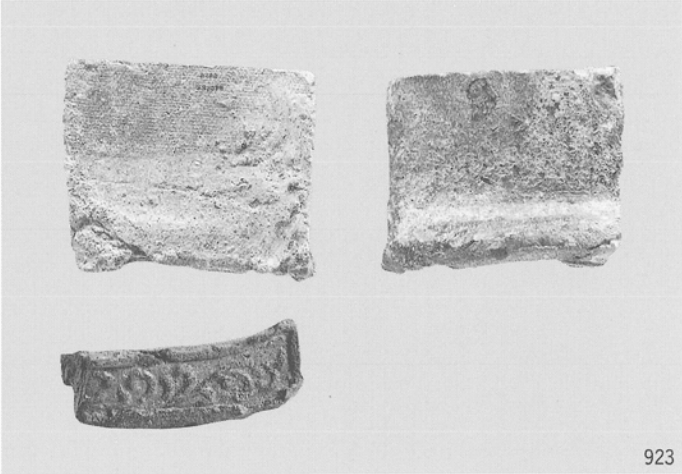
916

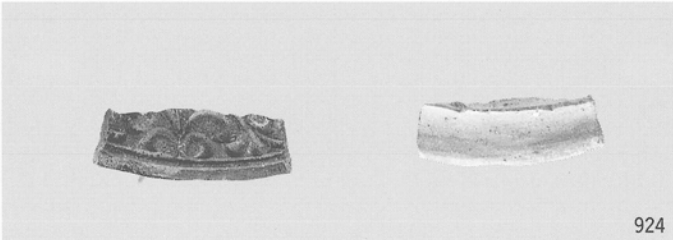

918

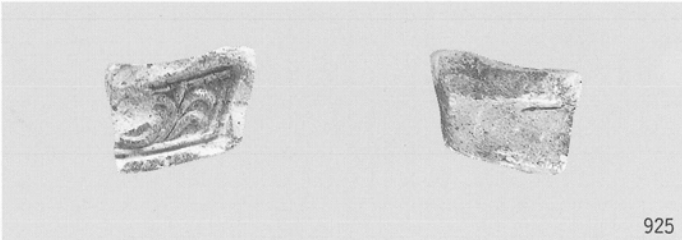

919

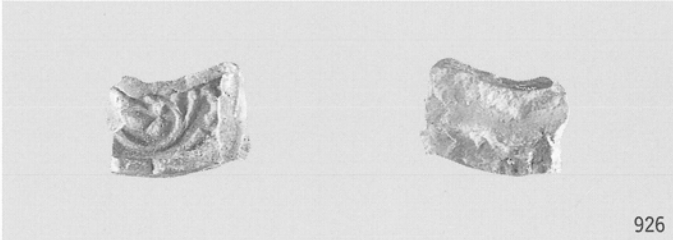

921


922


923


924


925


926

928

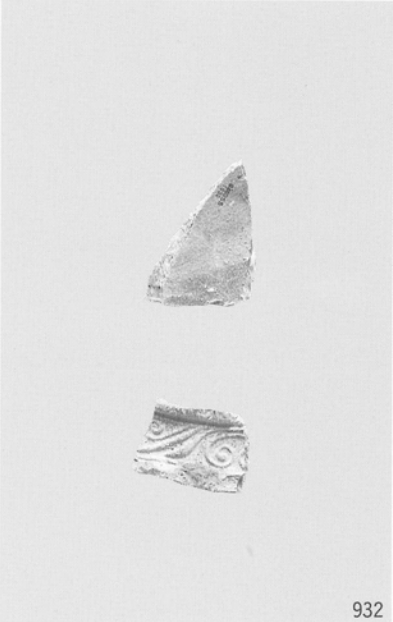
927

写真図版60

軒平瓦(5)

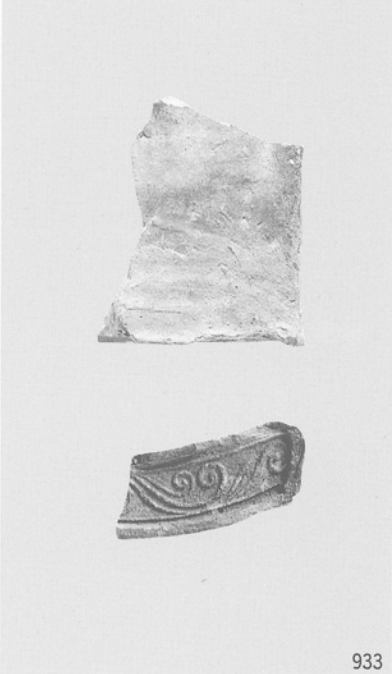
929

930

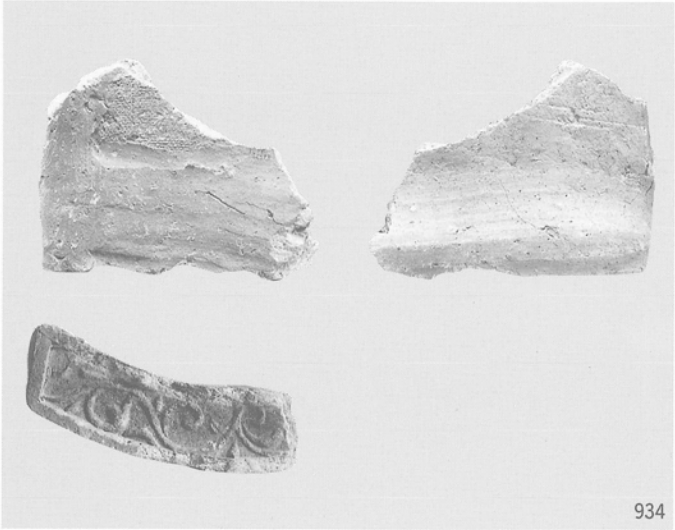


932

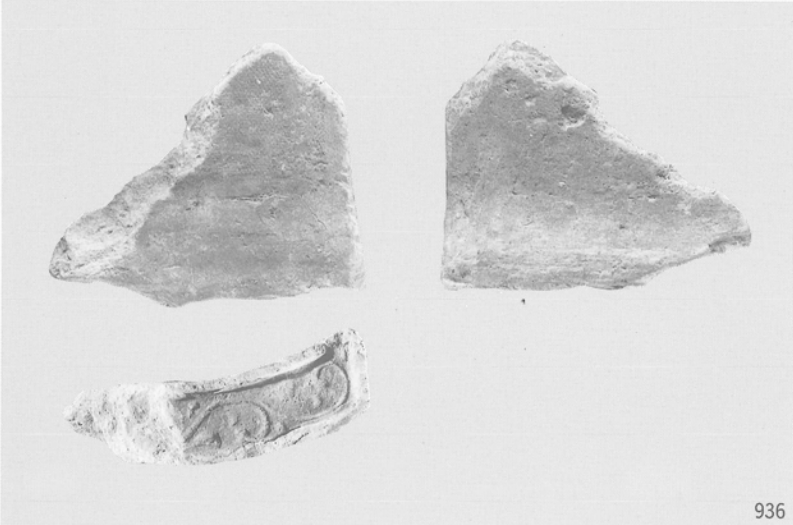
931



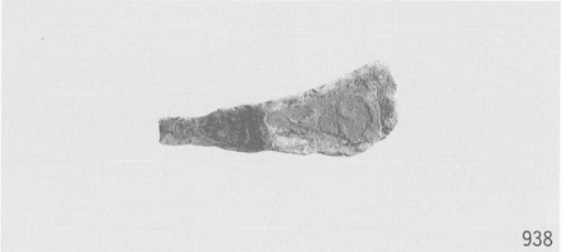
933

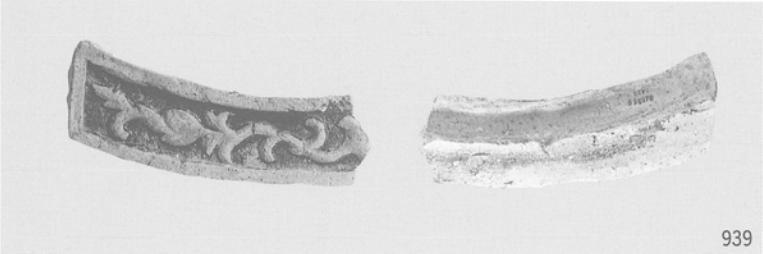

934

935

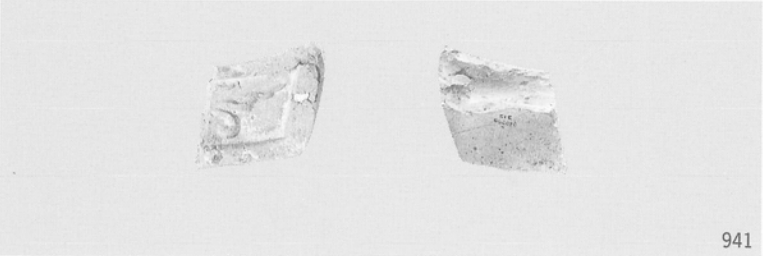

936

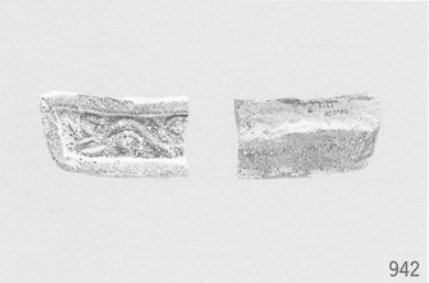
937

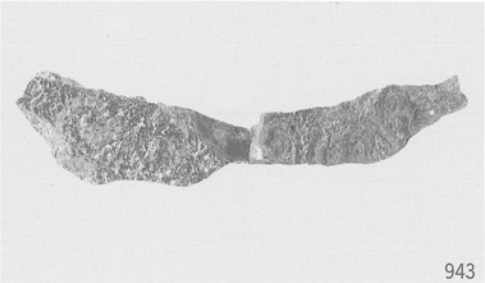

938


939

940


941


942

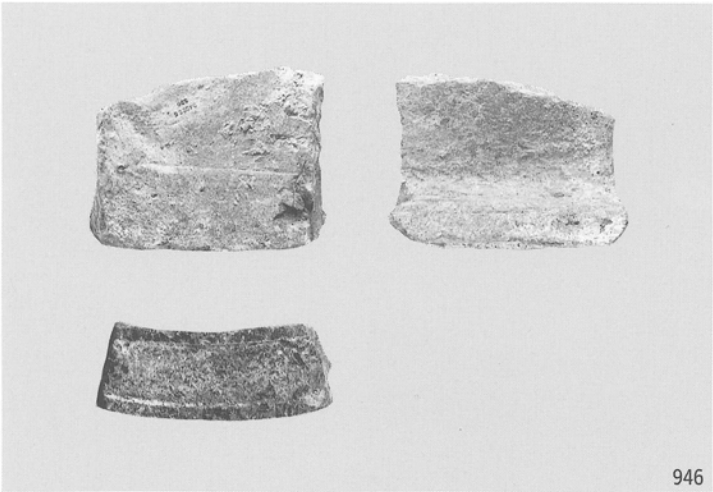

943

945

944

写真図版62

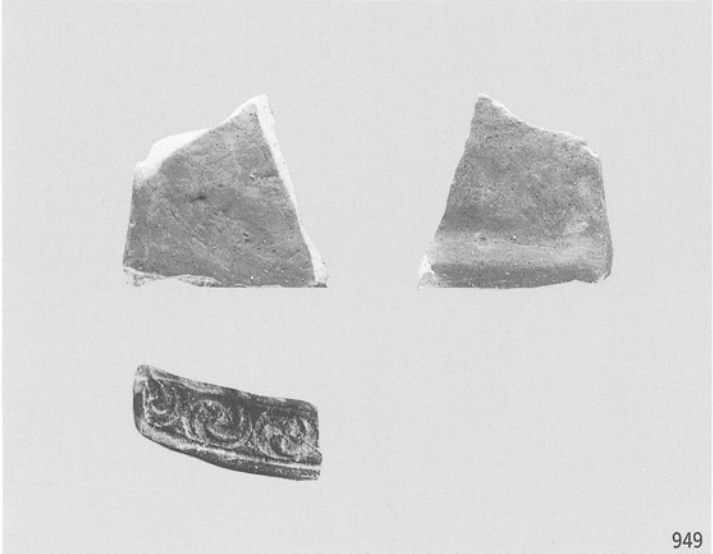
軒平瓦(7)



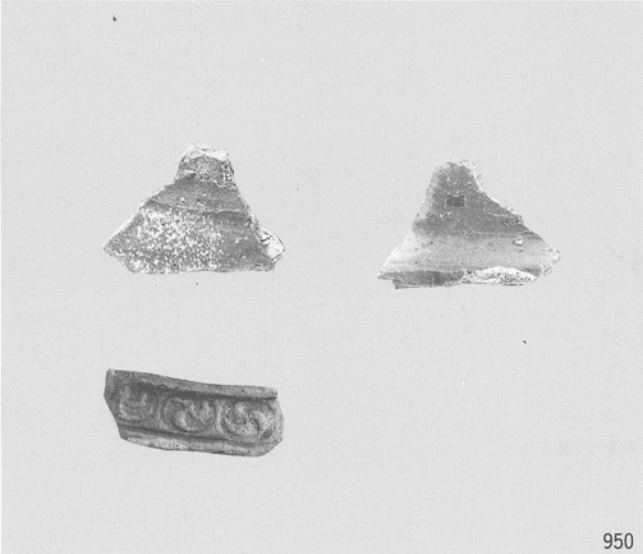
946

947

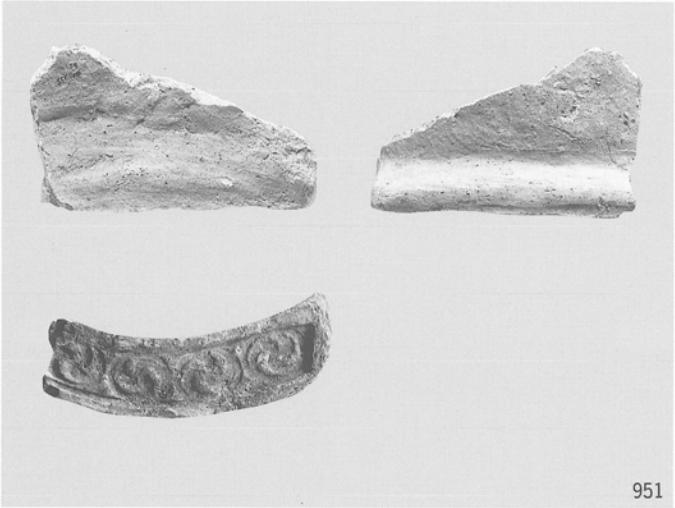
948

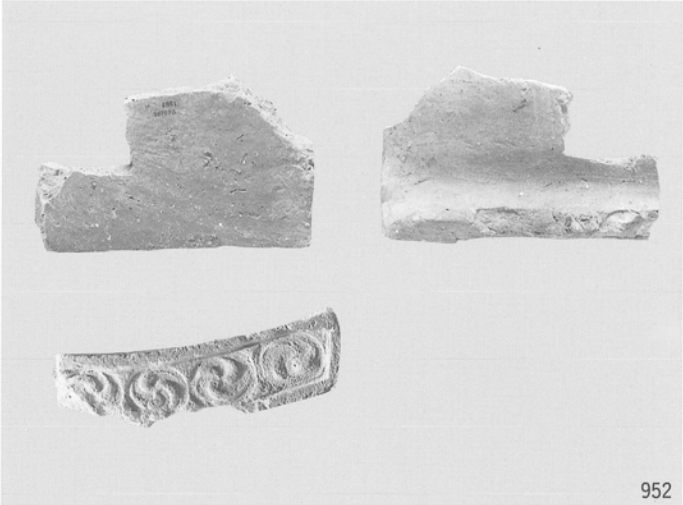


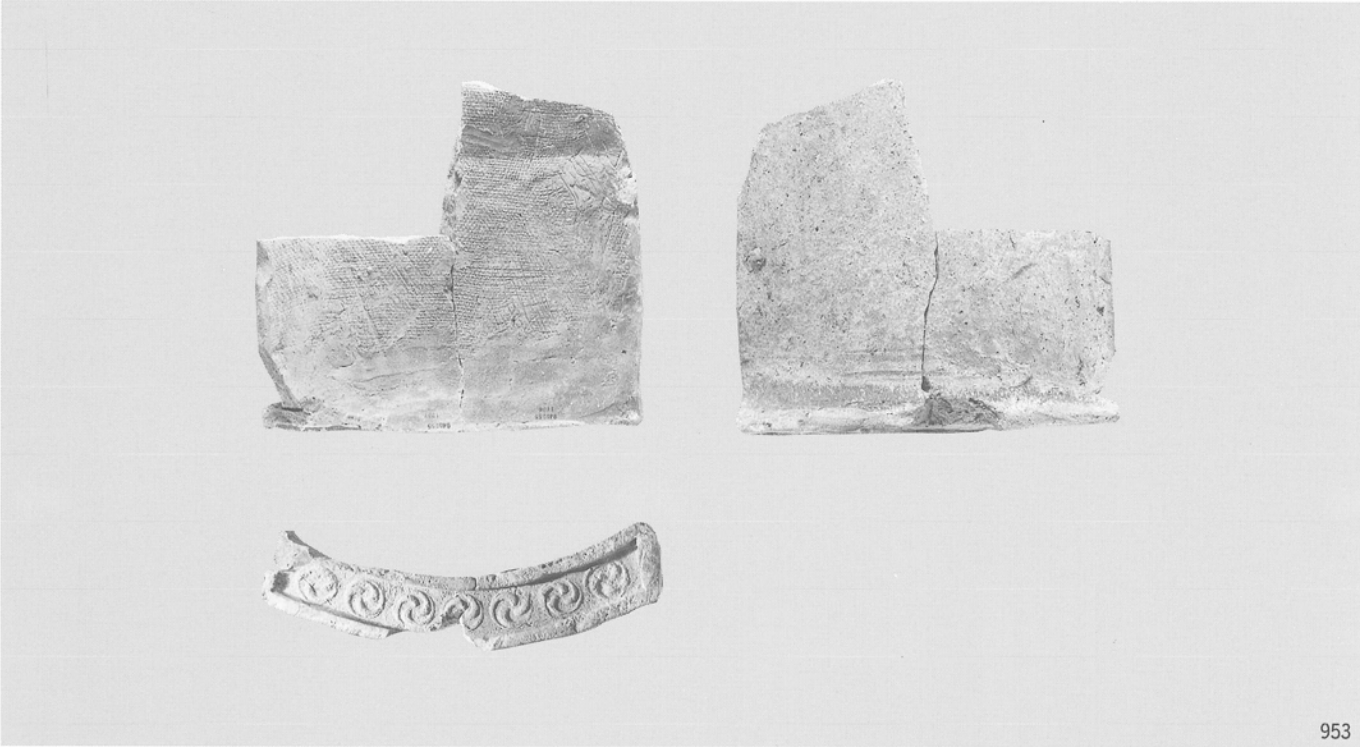
949

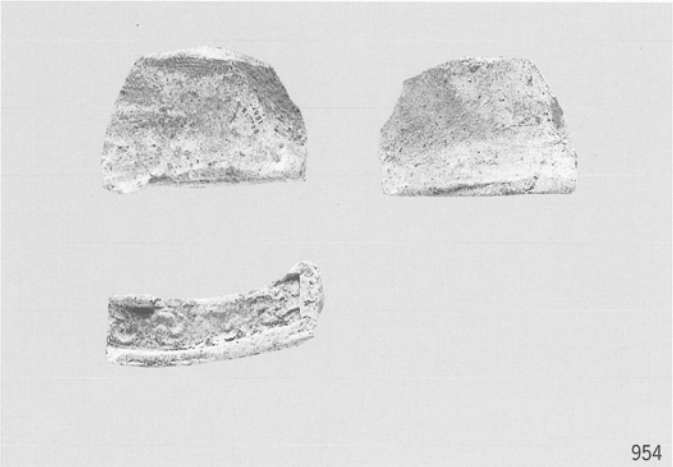


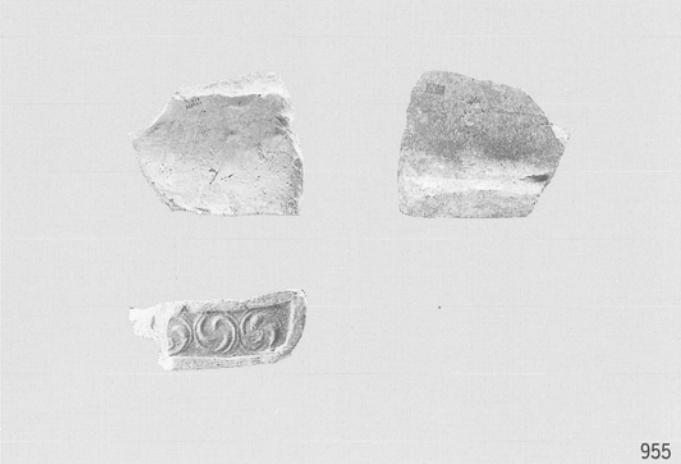
950


951


952


953


954


955

写真図版64

丸瓦(1)

956

958

959

961

962

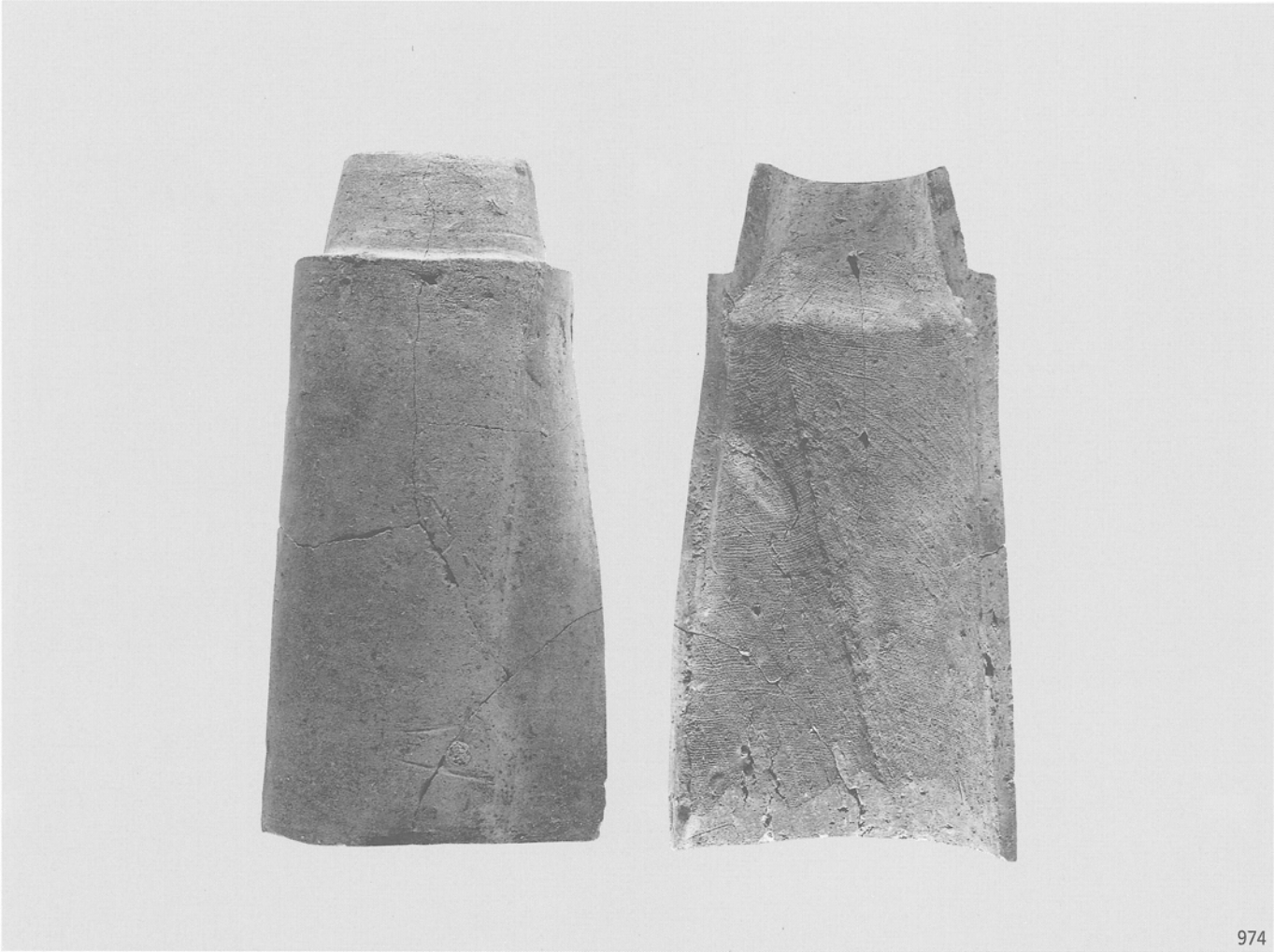
963

964

973

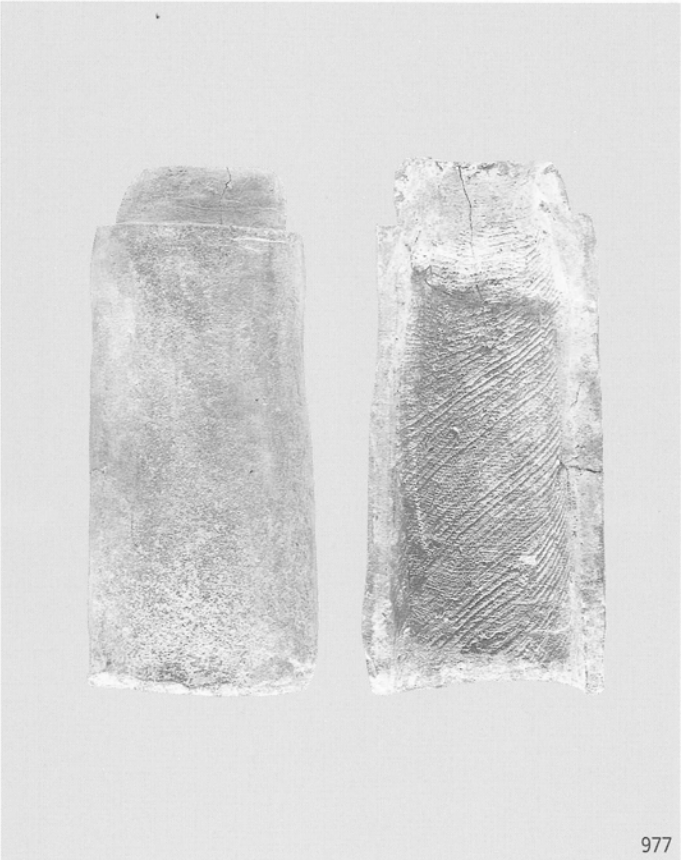
写真図版66

丸瓦(3)

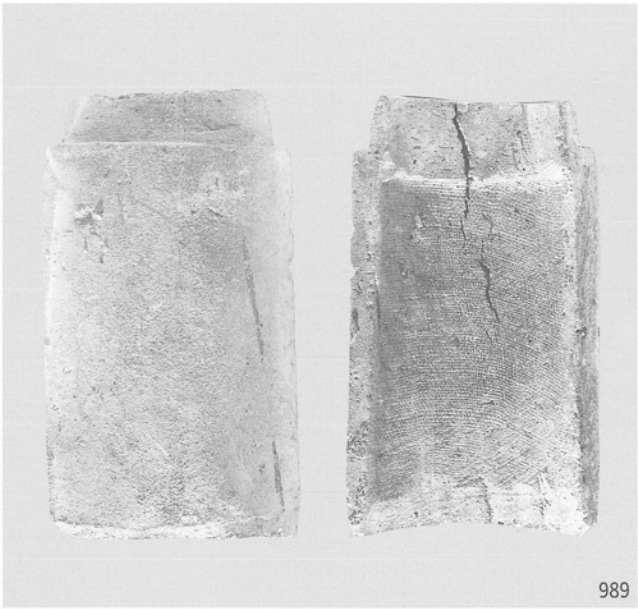


974

975



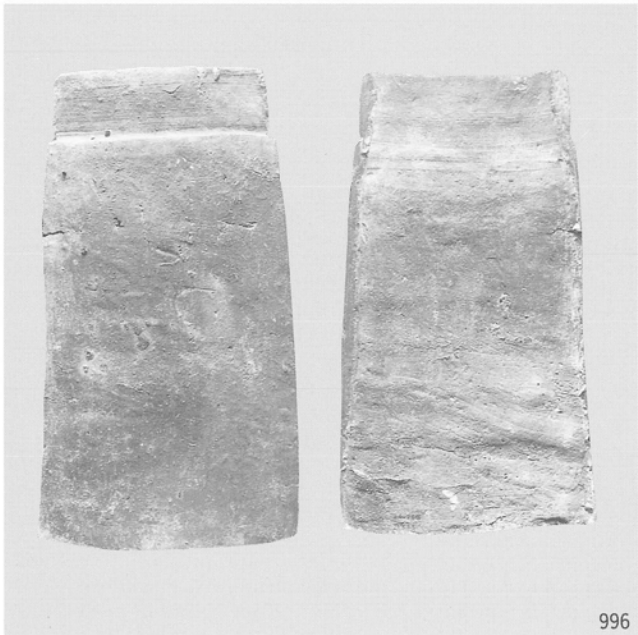
977


989

993

995

994


996

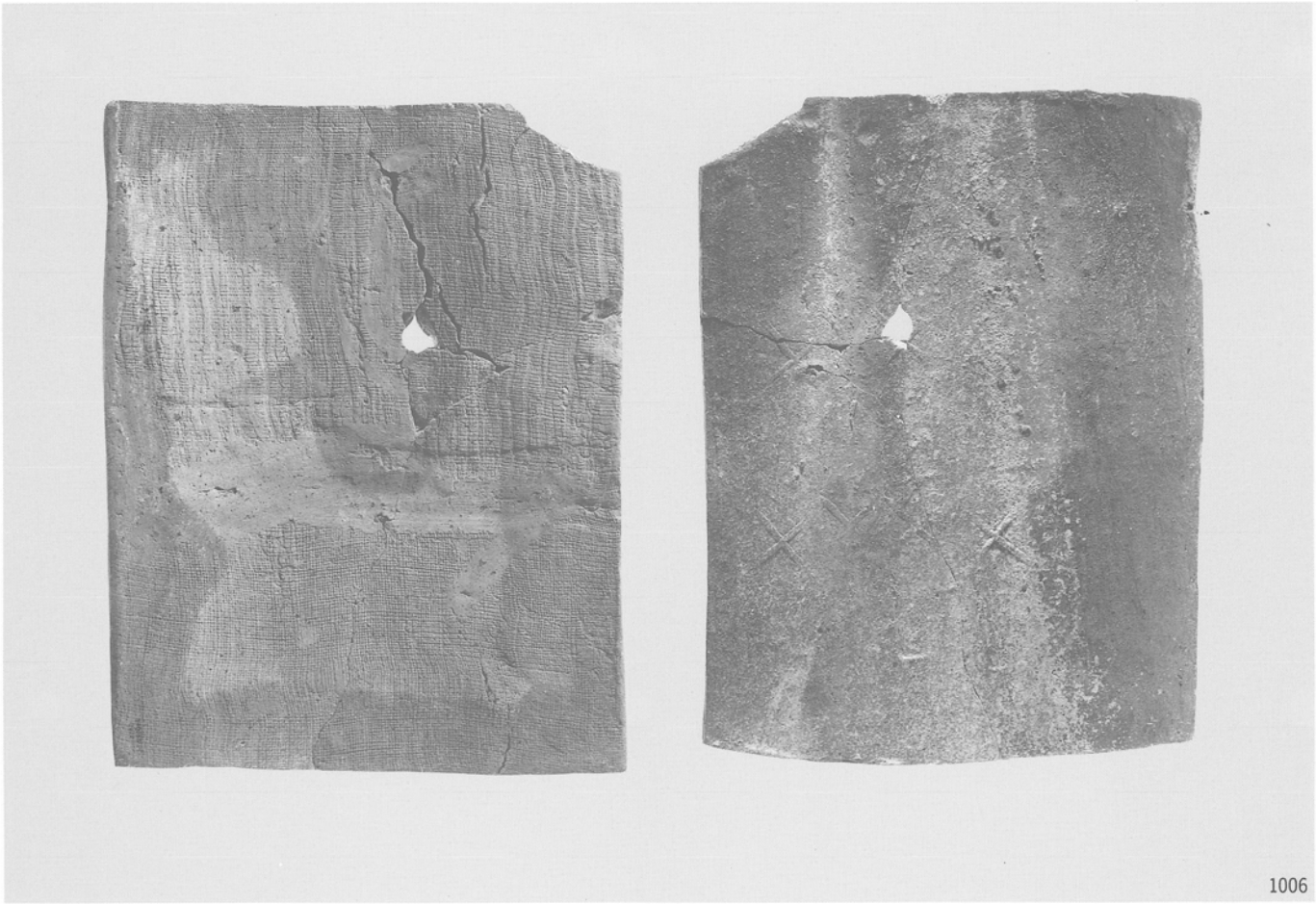
写真図版68

平瓦(1)

997

1002

1003

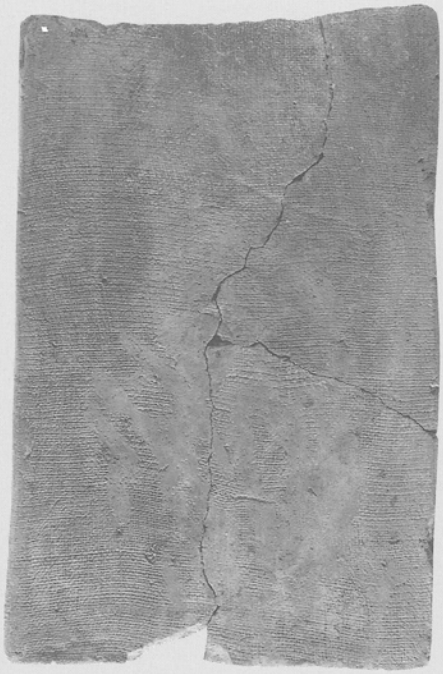


1006

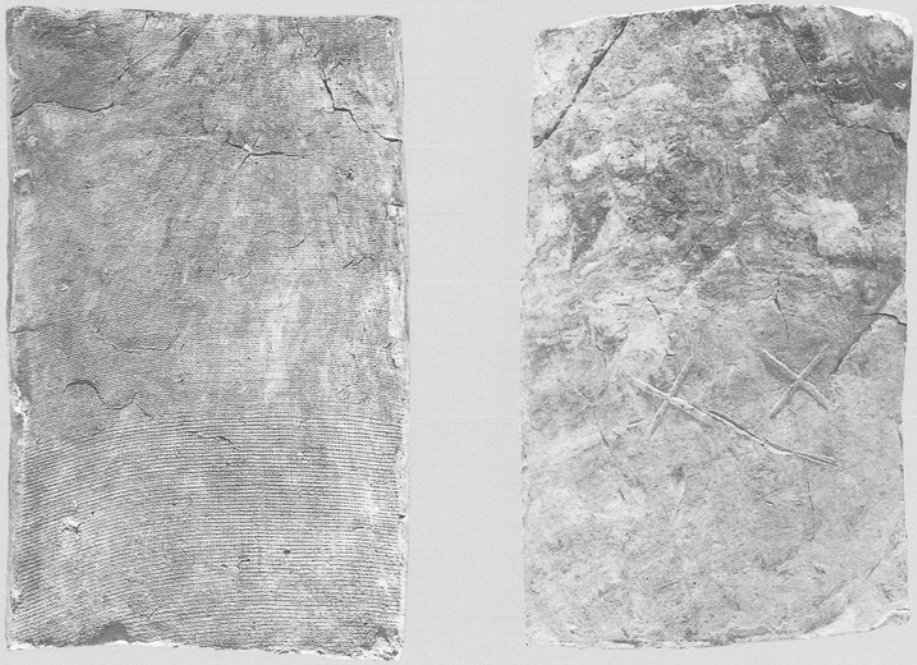
写真図版70

平瓦(3)

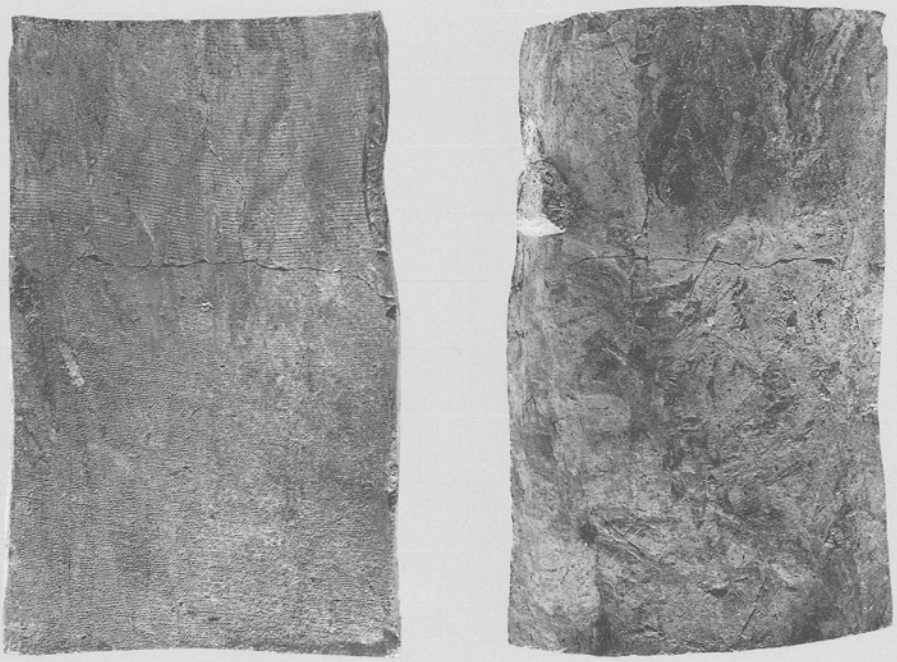
1009



1011



1012

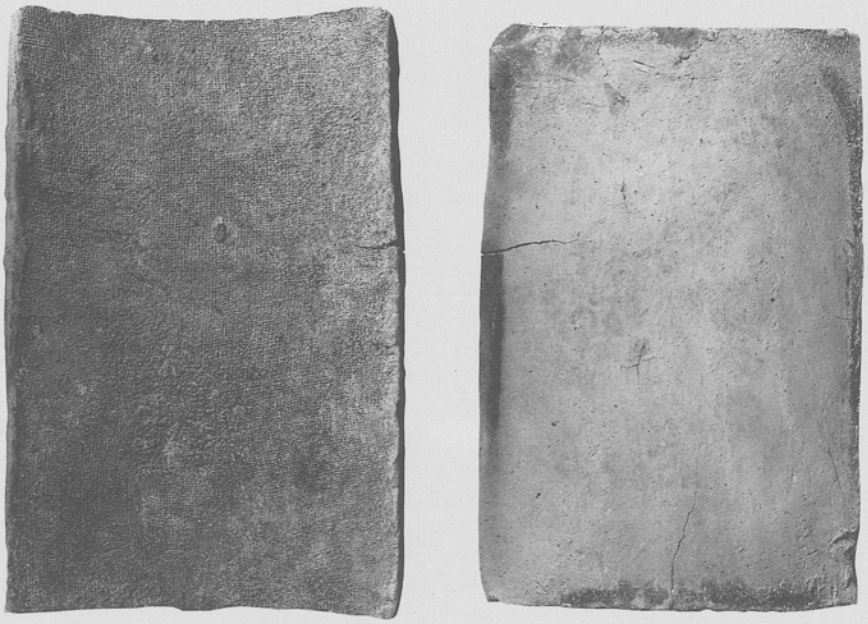


1013

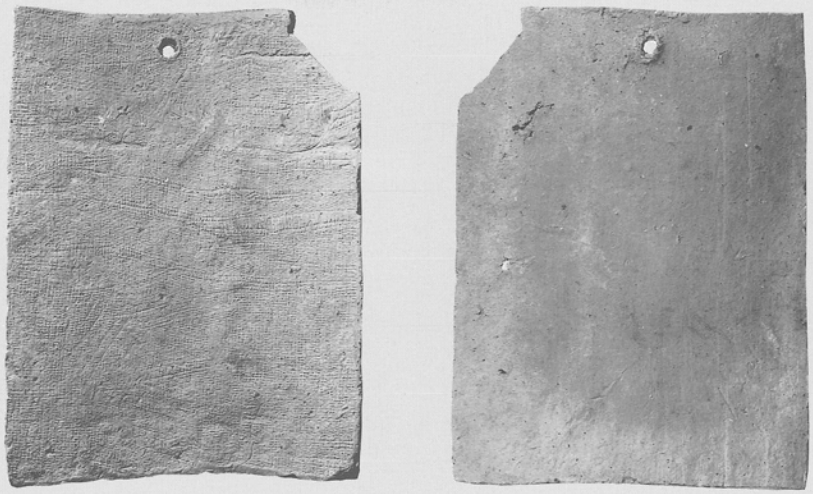
写真図版72

平瓦(5)

1014



1015



1016

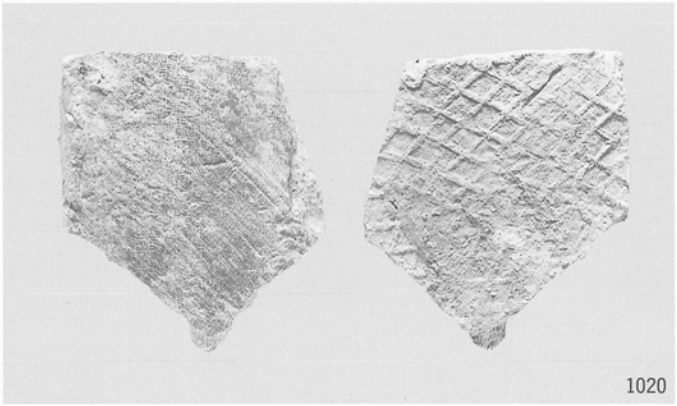
1017

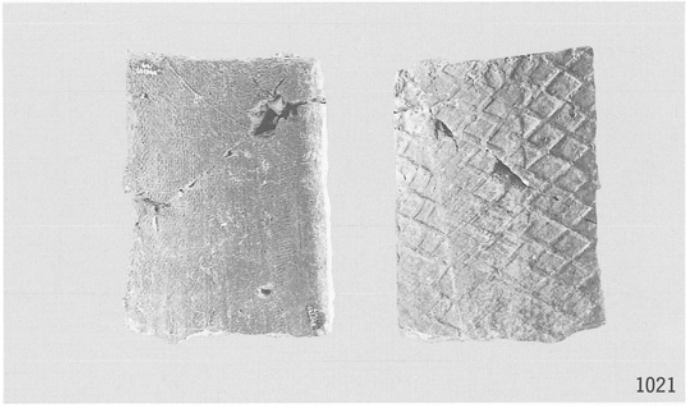
写真図版74

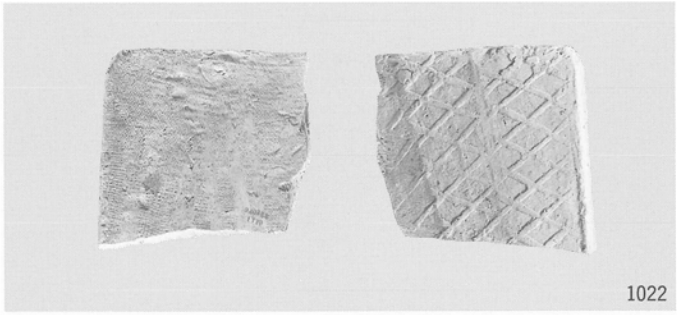
平瓦(7)

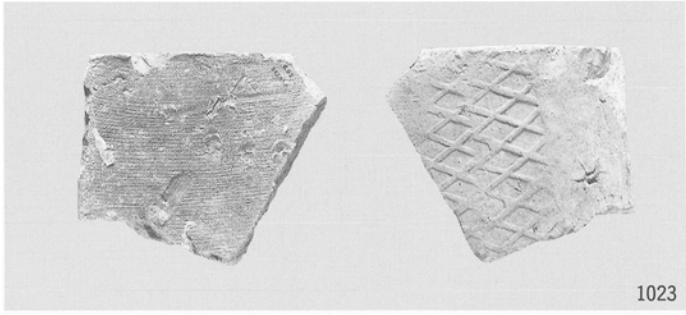
1018

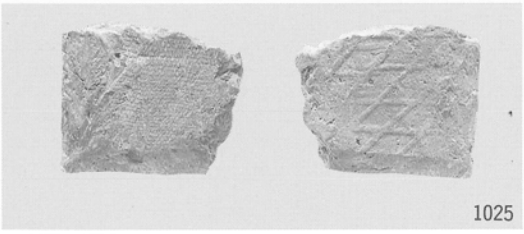
1019

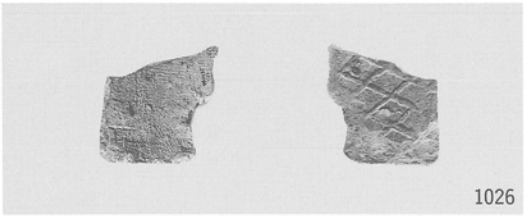

1020


1021

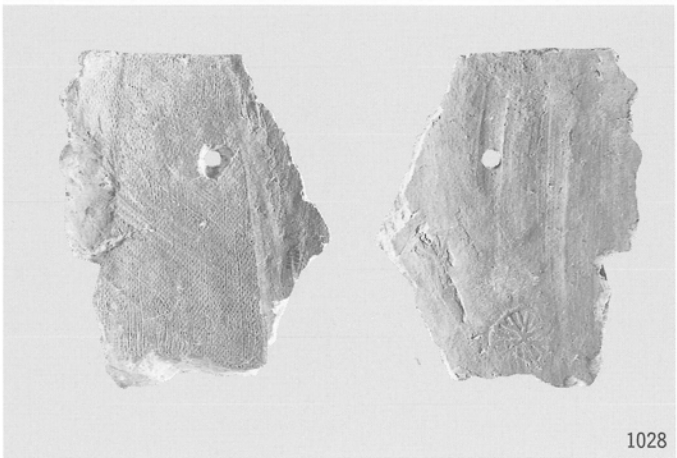

1022


1023


1025


1026

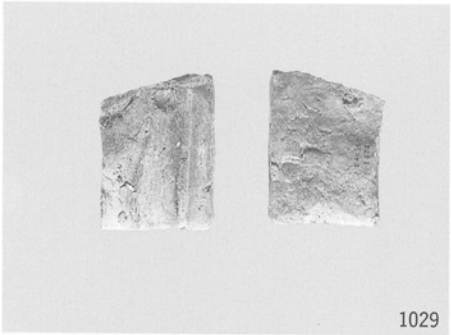
1027


1028

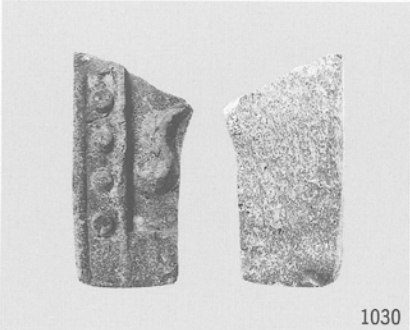
1028

写真図版76

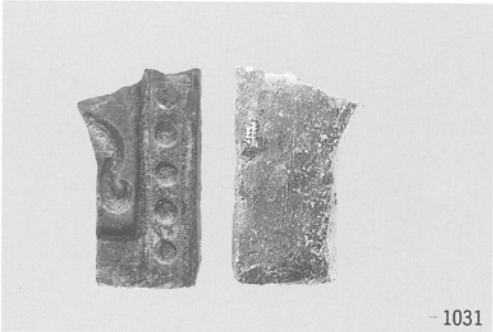
鬼瓦、道具瓦



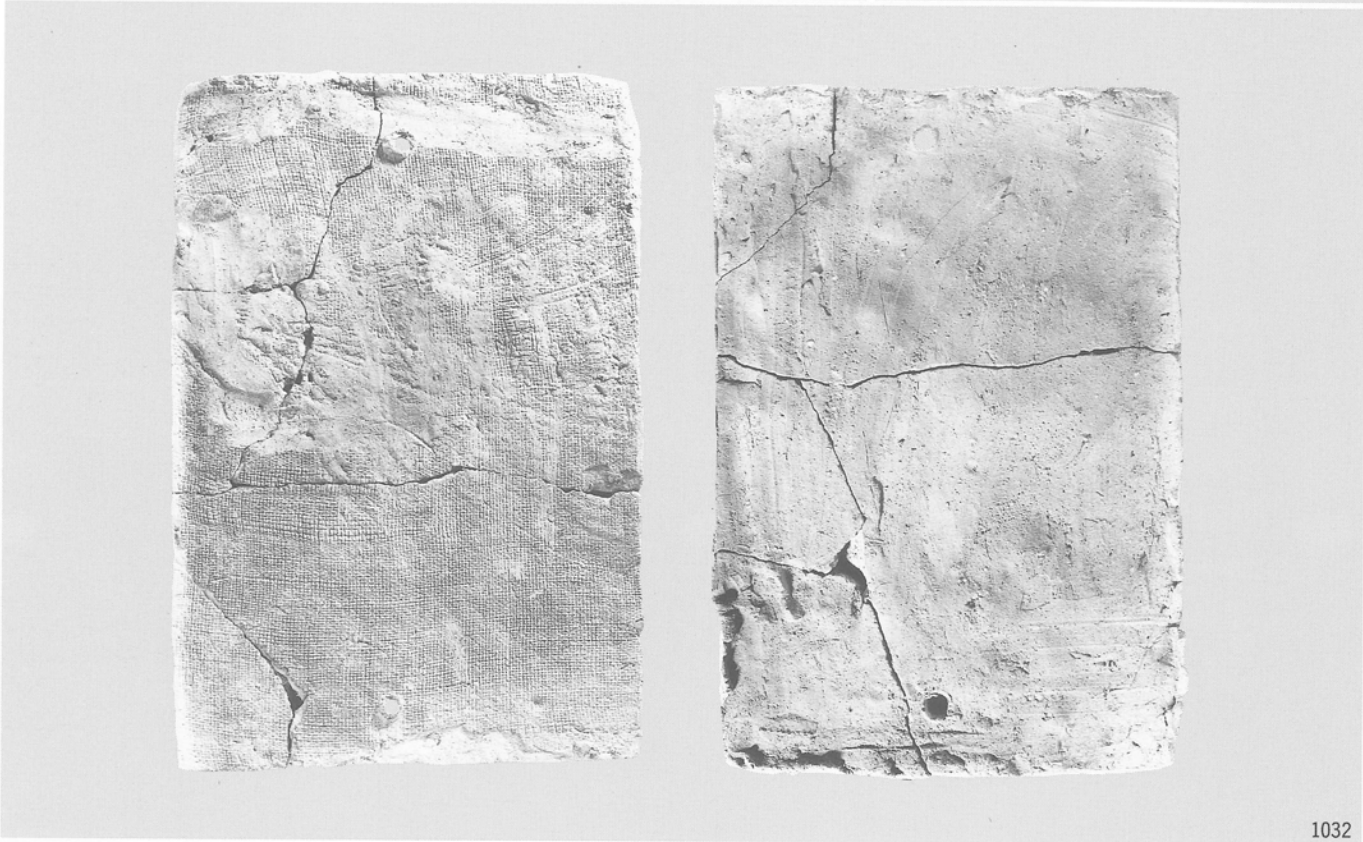
1029



1030



1031



1032

1033

ふ り が な	かんでかまあとぐん
書　　名	神出窯跡群
副 書 名	神出浄水場拡張工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻　　次	
シリーズ名	兵庫県文化財調査報告　第171冊
シリーズ番号	
編 著 者 名	池田征弘・久保弘幸・岡本一秀
編 集 機 関	兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所
所　在　地	〒652-0032　神戸市兵庫区荒田町２丁目１番５号　℡078-531-7011
発行年月日	西暦1998（平成10）年３月３１日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	調査番号					
かんでかまあとぐん 神出窯跡群	ひょうごけんこうべし 兵庫県神戸市 にしくかんでちょうみなみ 西区神出町南	28109	930204	34 44 24	134 59 40	19930322 19930323	576㎡	神出浄水場拡張工事に伴う
			940255			19941003 19950324	3517㎡	
			940286			19941101 19941128	66㎡	
			950007			19950419	34㎡	

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
神出窯跡群	窯跡	平安時代	窖窯６基 煙管状窯１基 掘立柱建物跡 溝	須恵器・土師器・瓦	東播系須恵器の代表的な生産地

兵庫県文化財調査報告　第171冊

神戸市西区

神出窯跡群

—神出浄水場拡張工事に伴う埋蔵文化財調査報告書—

平成10年３月31日　発行

編集　兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所

〒652-0032　神戸市兵庫区荒田町２丁目１－５

発行　兵庫県教育委員会

〒650-8567　神戸市中央区下山手通５丁目10－１

印刷　株式会社　関西廣済堂　神戸支店

〒657-0834　神戸市灘区泉通６丁目２－15